Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1 - (1)　収蔵品

1-(1)ー①　収蔵品一覧表　　（単位:件）平成28年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	126,872	131	963	116,932	87	634	7,532	28	183	1,883	13	112	525	3	34
絵画	13,599	34	206	11,162	20	101	2,049	9	55	297	4	42	91	1	8
書跡	3,365	36	173	1,839	14	59	1,333	16	79	145	5	29	48	1	6
彫刻	1,420	1	45	1,107	0	22	145	0	1	146	1	16	22	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,083	3	55	16,415	1	17	490	2	25	163	0	11	15	0	2
刀剣	3,470	20	57	3,447	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁	4,141	0	18	2,952	0	12	1,071	0	2	81	0	0	37	0	4
漆工	4,552	6	30	3,796	4	20	496	0	2	102	2	5	158	0	3
染織	4,744	2	26	3,696	0	19	919	1	6	93	1	1	36	0	0
考古	30,123	4	76	28,649	4	55	690	0	11	734	0	8	50	0	2
民族資料	1,308	0	0	1,197	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料	6,450	0	7	6,115	0	4	290	0	1	0	0	0	45	0	2
和書	17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	685	4	31	685	4	31									
東洋 書跡	1,693	10	12	1,693	10	12									
東洋 彫刻	808	0	20	808	0	20									
東洋 金工	1,034	0	0	1,034	0	0									
東洋 陶磁	3,050	0	10	3,050	0	10									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	602	0	1	602	0	1									
東洋 考古	5,928	0	2	5,928	0	2									
東洋 民族	3,506	0	0	3,506	0	0									
法隆寺献納宝物	321	11	183	321	11	183									
黒田記念館収蔵品	816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　平成28年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森澄資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
平城宮跡内膳司推定地出土木簡（重要文化財）	483点
平城宮跡造酒司出土木簡（重要文化財）	568点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30,473
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35,003
平城宮・京出土瓦類	1,000,706
平城宮・京出土木簡	251,599
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
［都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)］	
軒丸瓦・軒平瓦	約35,949点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,843袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約38,805箱
土器　　整理箱	約16,359箱
土製品	約15,053点
木器・木製品	約34,051点
木簡	約35,156点
建築部材	約2,969点
金属製品	約19,844点
石器・石製品	約14,284点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鍔淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	8点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
［埋蔵文化センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-① (参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成28年3月31日現在

		平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	134,668	316	2,126	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162	138,928	333	2,380
	東京国立博物館	116,586	137	883	116,925	136	884	118,172	140	878	119,332	143	890	120,004	142	892
	京都国立博物館	12,634	110	787	12,622	112	789	12,613	114	801	13,110	113	803	13,644	119	1,003
	奈良国立博物館	3,776	66	425	3,785	66	431	3,856	66	432	3,861	66	435	3,870	67	439
	九州国立博物館	1,672	3	31	1,712	3	32	1,574	3	32	1,307	3	34	1,410	5	46
収蔵品	国立博物館 計	122,802	130	946	123,378	130	950	124,729	130	952	125,766	130	954	126,872	131	963
	東京国立博物館	113,897	87	631	114,362	87	631	115,653	87	633	116,268	87	634	116,932	87	634
	京都国立博物館	6,621	27	177	6,708	27	179	6,721	27	179	7,109	27	180	7,532	28	183
	奈良国立博物館	1,831	13	109	1,834	13	111	1,862	13	111	1,877	13	111	1,883	13	112
	九州国立博物館	453	3	29	474	3	29	493	3	29	512	3	29	525	3	34
寄託品	国立博物館 計	11,866	186	1,180	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208	12,056	202	1,417
	東京国立博物館	2,689	50	252	2,563	49	253	2,519	53	245	3,064	56	256	3,072	55	258
	京都国立博物館	6,013	83	610	5,914	85	610	5,892	87	622	6,001	86	623	6,112	91	820
	奈良国立博物館	1,945	53	316	1,951	53	320	1,994	53	321	1,984	53	324	1,987	54	327
	九州国立博物館	1,219	0	2	1,238	0	3	1,081	0	3	795	0	5	885	2	12

1-(1)-② 平成27年度新収品一覧表

（単位：件）　平成28年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,106			664			423			6			13		
計	43	563	500	16	148	500	18	405	0	4	2	0	5	8	0
絵画	14	10	0	5	3	0	4	6	0	3	0	0	2	1	0
書跡	5	29	0	1	27	0	3	0	0	0	0	0	1	2	0
彫刻	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	48	0	0	0	0	5	47	0	0	0	0	0	1	0
刀剣	0	11	0	0	11	0			0	0	0	0	0	0	0
陶磁	5	211	0	0	5	0	4	204	0	0	0	0	1	2	0
漆工	3	135	0	1	2	0	1	132	0	1	1	0	0	0	0
染織	2	4	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	1	0	0
考古	0	11	0	0	5	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	16	500	0	7	500	0	8	0	0	0	0	0	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0									
東洋 彫刻	0	9	0	0	9	0									
東洋 金工	1	0	0	1	0	0									
東洋 陶磁	0	5	0	0	5	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	8	2	0	8	2	0									
東洋 考古	0	48	0	0	48	0									
東洋 民族	0	22	0	0	22	0									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

（単位：件）

	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	701			576			1,351			1,037			1,106		
小計	34	176	491	26	153	397	23	513	815	47	484	506	43	563	500
絵画	11	23	1	9	10	0	6	11	28	13	52	0	14	10	0
書跡	7	33	0	3	36	0	2	12	1	3	28	0	5	29	0
彫刻	2	0	0	1	2	0	2	1	0	3	1	0	0	2	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	1	0	0	0	0	2	417	155	5	71	0	5	48	0
刀剣	0	0	0	0	0	0	0	2	38	0	0	0	0	11	0
陶磁	0	5	0	1	61	0	1	1	15	0	86	0	5	211	0
漆工	0	24	0	1	0	0	1	29	33	8	162	0	3	135	0
染織	5	7	0	1	1	0	3	5	65	4	7	0	2	4	0
考古	1	0	1	4	23	0	1	1	109	5	12	0	0	11	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0
歴史資料	7	0	489	6	1	397	3	1	334	2	0	506	0	16	500
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 書跡	0	44	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0
東洋 金工	0	0	0	0	16	0	0	29	1	0	1	0	1	0	0
東洋 陶磁	0	34	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	5	0
東洋 漆工	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0	8	2	0
東洋 考古	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	62	0	0	48	0
東洋 民族	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0	22	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成27年度新収品一覧

【東京国立博物館】(664件)

(1) 購入 (16件)

＜絵画＞ (5件)

1　○名　　称　住吉物語絵巻断簡（すみよしものがたりえまきだんかん）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦30.3cm 横80cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。平安時代に原型が成立したとされる『住吉物語』を描く絵巻の断簡。『住吉物語』は、継子いじめを受ける姫君と、彼女に想いを寄せる少将の恋物語。本図は物語の後半部、住吉の地に身を隠していた姫君を少将が見つけ出し、船に乗り、都へ連れ帰る場面を描く。
『住吉物語』を描く中世の作例に静嘉堂文庫美術館本（重要文化財）などがあるが、本図を含む住吉物語絵巻が現存最古の作例である。本図に連続する場面が現在メトロポリタン美術館（バーク財団寄贈）に所蔵されるほか、東京国立博物館蔵の巻子本（A-17、重要文化財）、および掛幅本（A-12092、重要美術品）も、もとは一連の作品である。

2　○名　　称　玄圃瑤華（げんぽようか）
　　○作 者 等　伊藤若冲（1716～1800）自画自刻
　　○時　　代　江戸時代・明和5年(1768)
　　○品　　質　紙本拓版
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　縦28.2cm 横17.8cm
　　○作品概要　画帖装（粘葉装）。「玄圃瑤華」の「玄圃」は仙人の居どころ、「瑤華」は玉のように美しい花の意。全48図、種々の草花と昆虫、蛙などを組み合せ変化させた画帖である。各図にある賛は、相国寺の梅荘顕常（大典）によるもので、図後に大典および公家の菅原世長の跋がある。若冲特有の拓版画であり、線条や面が強烈なコントラストをしめして白く浮き上がり、光を発しているかのように輝く。力強くシャープな造形、漆黒の墨の美しさをしめす逸品として注目されている。奥付「斗米庵（若冲の号）鐫蔵」から若冲自身が版を彫り版木を管理していたことが知られる。53歳時の作。なお本作は、江戸後期の酒井抱一、さらに19世紀末パリのジャポネズリーに影響を与えたことが指摘されている。

3　○名　　称　四季遊楽図画稿（しきゆうらくずがこう）
　　○作 者 等　円山応挙（1733～95）筆
　　○時　　代　江戸時代・18世紀
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　縦28.2cm 横523.7cm
　　○作品概要　巻子装。木軸。徳川美術館所蔵の円山応挙筆「華洛四季遊戯図巻」の稿本で、春の嵐山舟遊図、夏の四条河原納涼図、秋の盆踊り図、冬の歳末街頭図の4図を墨だけで描き、各図に菅茶山が賛詩を付して1巻としたもの。巻末に頼春水が寛政12年（1800）に江戸霞ヶ関で跋文を記している。

4　○名　　称　倣董源山水図（ほうとうげんさんすいず）
　　○作 者 等　山本梅逸（1783～1856）筆
　　○時　　代　江戸時代・弘化元年(1844)
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦179cm 横95.5cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。共箱。橋上の侍童が水を運ぶ先に樹々に囲まれた家屋があり、高士ふたりの対座する姿がみえる。そうした文人の営みを大自然が包み込む。山間に三段階に落ちる瀑布が光り、左手前の川に流れ込む。前後に重なる山々の描写は、圧倒的な存在感をしめす。これら流水と重なる山々によって、奥から手前へと厚みのある空間が形成されている。迫力満点の力作で、画面の大きさ、運筆の力強さ、渇筆と潤筆で表した山の量感表現、充実の筆技はすばらしく、見事な山水景観を生み出している。筆者自身による箱書きから、中国・南唐（10世紀）の巨匠、董源の画法にならって描いたことが知られる。梅逸の充実期である京都時代の作。

5　○名　　称　桃源仙境図屏風（とうげんせんきょうず）
　　○作 者 等　福田半香（1804～1864）筆
　　○時　　代　江戸時代・安政2年(1855)
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　6曲1双
　　○寸 法 等　本紙 各 縦157.3cm 横347.6cm
　　○作品概要　屏風装。桃の花の咲く仙境に漁夫が迷い込み、帰るのを忘れたという武陵桃源の故事を描く。桃源郷は、俗界を離れた他界・仙境で、出所は陶淵明『桃花源記』。江戸後期の文人画家たちが好んで絵画化した。画は右から左に展開。右隻右端に、桃源郷に迷い込んだ漁師が乗り捨てた舟と、桃源郷への洞窟の小口が描かれ、左方へ奇岩と嶂々たる山並み、瑞雲が、繊細な筆致で画面を覆いつくすかのようにびっしりと描きこまれる。左隻に入ると、一転して視界が開け、広々とした桃源郷の景となる。第3扇下方に主人公の漁師と歓迎する里人の姿がみえ、華やかな桃の林はいうまでもなく、桃花源記に記される「良田」の畦道を行く牧童と牛、「美池」で釣りをする人、「鶏や犬」の姿など、平和な光景が映し出されている。清初の文人画風を取り入れ、充実した描写をみせる大作・力作であり、江戸後期の文人たちに好まれた桃源郷を大画面に絵画化した優品として注目される。

＜書跡＞ (1件)

6　○名　　称　和漢朗詠集巻下断簡(戊辰切)（わかんろうえいしゅうまきげだんかん　ぼしんぎれ）
　　○作 者 等　藤原定信（1088～1154～?）筆
　　○時　　代　平安時代・12世紀
　　○品　　質　彩箋墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦28.7cm 横37.7cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。もとは『和漢朗詠集』上下2巻を完存。昭和3年(1928)に一橋徳川家より売りに出され、売却後すぐに分割された。昭和3年の干支により「戊辰切」と呼ばれる。上巻を藤原伊行(～1149～68～)が、下巻をその父・定信が書写している。本作は、『和漢朗詠集』下巻より「恋」の部分。和歌のさいごの一首のみ欠けているが、17行もあるのは珍しい。藤原定信の特徴である右肩上がりの書風がはっきりと現れており、片仮名による傍訓等は後のものと考えられている。『古筆学大成』第15巻（小松茂美著)に図版が紹介されている。

＜漆工＞ (1件)

7　○名　　称　吉野宮蒔絵書棚（よしののみやまきえしょだな）

○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 基
○寸 法 等　幅 90.0cm　奥行 37.5cm　高 75.5cm
○作品概要　天板に筆返しをつけ、二段目と三段目を違棚とした書棚。下段の右側に観音開きの扉をつけ、物入れとする。 表面は全体を梨子地として、天板や棚板の上面、扉の表には金高蒔絵に付描、金銀切金を主体にして、珊瑚象嵌や据文、極込や極付など様々な技法を交え、桜が満開の山水や舎殿、庭園を表わしている。画中には金銀平文で表わした歌文字を散らしており、『万葉集』巻一の持統天皇が吉野へ行幸した際に柿本人麻呂が詠んだ歌、「やすみしし　わご大君の　聞し食す　天の下に　国はしも　多にあれども　山川の　清き河内と　御心を　吉野の国の　花散らふ　秋津の野邊に　宮柱　太敷きませば　百礒城の　大宮人は　舟並めて　朝川渡り　舟競ひ　夕河渡る　この川の　絶ゆることなく　この山のいや高知らす　水激つ　瀧の都は　見れど飽かぬかも」を表現したものであることが分かる。 天板・棚板の四角や脚先等の要所には、梅枝を象り七宝で彩った金具を打っている。扉には、竹を象り七宝で彩りを添えた蝶番と、松の折枝を象った掛金具をつける。

＜東洋金工＞（1 件）

8　○名　　称　七宝箸・粧刀・眼鏡入（しっぽうかんざし・しょうとう・めがねいれ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　白銅、七宝
○員　　数　3 個
○寸 法 等　箸：長 40.0cm　粧刀：長 18.0cm　眼鏡入：長 17.0cm　幅 6.3cm
○作品概要　箸：銀製の箸（韓国ではピニョという）。楕円形の飾り部分には前・背の両面に鶴が羽を広げ、雲や竹葉の文様をあらわし、上には向かい合う 2 羽の鳥（鳳凰か）と中央に梅花がならぶ。竹葉には「寿」「福」字が刻まれている。本体の刺す部分には前・背面それぞれに 12 枚ずつ一列に葉文を刻む。
粧刀：銀製のごく小さな刀（韓国ではチャンドという）。正面の柄の部分には木に戯れる鳥、鞘には花と樹下の鹿の図があらわされる。柄と鞘を止めるのは 2 本の箸のような部品で、蝶の形をした留め具があしらわれている。鞘の上部に鐶が付く。
眼鏡入：楕円の形をした容器。蓋には鴛鴦と蓮花が、身に竹と亀があらわされる。蓋の天部に 2 つ紐通し用の孔があく。
3 点いずれも銀胎七宝で青を基本とし、黄、橙、紫などで彩色する。

＜東洋染織＞（8 件）

9　○名　　称　刺繍花鳥図屏風（ししゅうかちょうずびょうぶ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　屏風装、絹糸による刺繍
○員　　数　8 曲 1 隻
○寸 法 等　高 152.0cm 幅 296.0cm
○作品概要　朝鮮時代には、正月を初めとする年中行事や、婚礼・出産・還暦などの吉事において、吉祥文様を表わした屏風が飾られる。その中には、本品のように刺繍で文様を表わした八曲屏風もしばしば用いられた。赤地花文様緞子の地に、梅、桜、牡丹、蓮、睡蓮、菖蒲、菊など四季折々の花と蝶を一部は唐草風にアレンジしながら刺繍で表わす。八扇目は薔薇の花、および柳の木の元で春草を摘む 2 人の女性を刺繍で表わし「寿福康寧　富貴多男」の 8 文字をやはり、紺の刺繍糸で表わす。刺繍は、白・緑・紫・ピンク・黄・淡紫の釜糸で、平繍、纏い繍が中心である。以上の主題より、婚礼用、あるいは出産時にあつらえられたものと考えられる。

10　○名　　称　ウォンサム（円衫）　花唐草文様紋紗（えんさん　はなからくさもんようもんしゃ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　紋紗、印金
○員　　数　1 着
○寸 法 等　身丈 111.0cm
○作品概要　朝鮮時代の女性が婚礼の際に着用する上衣である。表地は胴部分に淡緑地花唐草文様紋紗を用い、双龍丸文の印金を施す。また、裾の部分にも印金で装飾を施す。袖部分には、赤紫・淡黄・ピンク・淡緑・紺とさまざまな配色の紋紗を縫い合わせる。それらの紋紗の織文様は胴部分と同様である。袖端には白地小石畳花文様紋紗を縫い合わせる。襟部分には同模様の赤地紋紗をめぐらし、菊花文と「福」字文の印金を施す。さらに、花文を空摺りにした厚手の白い紙で襟を覆う。裏地は赤地小石畳文双鳳双龍丸文様紋紗である。胸前に、赤地紋紗の紐が 2 本付く。

11　○名　　称　テンギ　紅地襷福字梅花文様浮紋織印金（てんぎ　べにじたすきふくじばいかもんようううきもんおりいんきん）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹、印金
○員　　数　1 組
○寸 法 等　テンギ 長さ 94.5cm 幅 23.5cm ； 帯 長さ 94.0cm 幅 6.0cm
○作品概要　婚礼の際に、女性の頭を飾るテンギである。頭部を三角形に折ったものは頭の後ろに垂らし、細長いリボン状の帯は簪にかける。いずれも、赤平地福字菱梅花襷文様浮紋織を袷仕立てとし、印金によって「福寿」「康寧」「喜」「富」といった文字や鳳凰、石榴といった吉祥文様の装飾を施す。頭部の三角形の頂上には紫・紺・黄の釜糸が付く。円衫（案件 No.10）の襟裏につけられた裂がこのテンギと共裂であることから、円衫（No.10）とは一揃いの婚礼衣装であったと考えられる。

12　○名　　称　チョガッポ　古銭文様縫い合わせ（ちょがっぽ　こせんもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 42.0cm 横 42.0cm
○作品概要　日本の掛袱紗や風呂敷のような用途で用いられるポジャギであるが、中でも小裂を縫い合わせて 1 枚の布に仕立てたものをチョガッポと称する。裏地を折り返した縁は、白地五越絽である。内部にあたる鏡の部分には、輪を重ねて繋ぎ合わせたような古銭文様がパッチワークで表わされる。パッチワークの裂には緑・青緑・白・葡萄色の紗、紺・赤の繻子、赤繻子地鶴蝶文様浮紋織、赤地花文様緞子、桃色地花文様緞子、淡紫地花文様緞子などを用い、ピンクの絹撚糸で縫い合わせる。古銭文の中央部には、黄・赤・朱・黄緑・淡緑・淡桃・紫・白などの平絹でできた飾りを施す。中央部には濃いピンクの紋紗の帯でつまみをつけ、白・紫・淡緑の平絹でできた飾りを施す。

13　○名　　称　チョガッポ　三角形繋ぎ文様縫い合わせ（ちょがっぽ　さんかっけいつなぎもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 44.0cm 横 45.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁には白地襷花文様浮紋紗を用いる。内部の鏡の部分には淡緑・黄緑・黄の瓢箪唐草文様紋紗、紺無地紗、淡ピンク地花文様紋紗、紫地菊花文様紋紗、赤無地紗、赤地花文様紋紗を三角形に切りそろえた小裂を、紫の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、淡緑地石畳文様紋紗でできた帯状の取っ手をつけ、紫平絹で作った飾りを留めつける。

14　○名　　称　チョガッポ　三角繋ぎ文様縫い合わせ（ちょがっぽ　さんかくつなぎもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製

○員　　数　1枚
○寸 法 等　径 50.5cm
○作品概要　通常は正方形や長方形に仕立てられることが多いが、本品は八角形である。裏を表に返した縁には白平絹を用いる。内部の鏡の部分には紫平絹、淡水色平絹、ピンク平絹、赤平絹、淡紅地平地小石畳文様浮紋織、鼠色平絹、淡紅地卍字形花文様浮紋織を三角形に切りそろえた小裂を、淡紫の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、葡萄色緞子でできた帯状の取っ手をつけ、ピンクと淡緑で作った飾りを留めつける。

15 ○名　　称　チョガッポ　石畳文様縫い合わせ（ちょがっぽ　いしだたみもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦 66.0cm 横 58.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁は額仕立とし、白平絹を用いる。内部の鏡の部分には淡緑平地喜字円文唐草文様浮紋織、赤平絹、淡浅葱地花唐草文様浮紋織、淡緑平地蝙蝠文様浮紋織、臙脂色地瓢箪唐草文様浮紋織、白平地卍字形文様浮紋織、淡黄地小石畳喜字円文浮紋織を縦 5cm、横 3.5cm の長方形に切りそろえた小裂を、赤の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、紫地浮紋織でできた帯状の取っ手をつけ、淡黄平絹で作った飾りを留めつける。

16 ○名　　称　チョガッポ　石畳文様縫い合わせ（ちょがっぽ　いしだたみもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1枚
○寸 法 等　縦 93.0cm 横 78.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁には白地襷花文様浮紋紗を用いる。内部の鏡の部分にはピンク・淡緑・赤・淡紫・淡ピンク・紫・白の平絹を縦 8cm、横 4cm の長方形に切りそろえた小裂を、赤の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、淡緑地石畳文様紋紗でできた帯状の取っ手をつけ、紫平絹で作った飾りを留めつける。

(2) 寄贈（148 件）
＜絵画＞(3 件)

1 ○名　　称　猿図（さるず）
○作 者 等　森狙仙（1747～1821）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 92 cm 横 36.2cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。親子と思しい檜の木に登る 3 匹の猿。親猿は手で捕獲した蜂を見つめている。「蜂」と「封」、猿猴の「猴」と「侯」の音通から、封侯すなわち諸侯に封ずる、出世するという寓意をこめた画題である。顔にわずかに淡い朱を用いる以外は水墨で描かれている。見事な毛描きによってふわりとした体部が表わされ、顔の精緻な描写によって生気のある画面を実現している。優れた出来と右下の落款により、森狙仙（1747～1821）の筆とみなせる。

2 ○名　　称　双龍図（そうりゅうず）
○作 者 等　狩野山雪（1590～1651）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀前半
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　2幅
○寸 法 等　各 縦 115.1 cm 横 51.2 cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。昇り龍と降り龍とが対峙する図様。細かな龍の鱗の描写は巧緻をきわめ、引き締まった顔の描写が強い緊張感を生んでいる。暗雲を表わす墨のグラデーションは絶妙で、渦巻状に旋回する風や滞留する雲など、大気の変化が見事に映し出されている。白黒のコントラストは強烈で、場面をいっそう劇的なものにしながら、迫力を生み出している。 両幅に狩野山雪の基準印が捺され、龍をかたどる描線や繊細な墨のグラデーションは、これまで知られていた山雪の龍図とまったく同じものとみなせる。

3 ○名　　称　鳥獣人物戯画（模本）（ちょうじゅうじんぶつぎが（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1巻
○寸 法 等　縦 26.8 cm 横 554.5cm
○作品概要　巻子装。木軸。「鳥獣人物戯画」の模本。現在、4 巻から成る「鳥獣人物戯画」のうちの、甲巻から分かれた別本の写しである。「鳥獣人物戯画」別本は現在、掛幅の断簡となり国内外に分蔵されているが、伝来の過程で失われた場面も多い。この模本は、分断以前の様相を写す貴重なものである。なお、同様の場面を写すものに住吉家伝来模本（梅澤記念館蔵）がある。

＜書跡＞（27 件）

4 ○名　　称　和歌詠草「八千年の」（わかえいそう　やちとせの）
○作 者 等　徳川斉昭（1800～60）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 128.0cm 横 25.8cm
○作品概要　掛幅装。和歌「八千年の限りしあれは身を棄て朽ぬ名を社（こそ）世々に傳へよ」を草書で大書する。

5 ○名　　称　和歌詠草「ありなれの」（わかえいそう　ありなれの）
○作 者 等　山県有朋（1838～1922）筆
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 115.4 cm 横 40.3cm
○作品概要　掛幅装、牙軸。 日清戦争従軍時の詠草「暁かた鴨緑江をわたり戦ひけるとき　有朋　ありなれの川橋わたるものゝふのかげにともなふゆみはりの月」を書く。山県の家集『椿山集』（1922）にも収める。 「ありなれの川」は『神功皇后紀』に「阿利那礼河」とあるのに基づく鴨緑江の和名。『公爵山県有朋伝』によれば、山県の率いる第一軍は鴨緑江に橋を架け、明治 27 年（1894）10 月 25 日午前 3 時半に渡河を開始、清軍の守る九連城を攻撃した。この日の月齢は 25.9 で「ゆみはりの月」は明け方の空に見えた実景である。

6 ○名　　称　自画賛（じがさん）
○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀

○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 80.2 cm 横 22.2cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。縦長の料紙の下部に僧体の人物像を墨画で描き、上部に七言四句の賛文を書く。賛の内容から自画像と考えられる。

7　○名　　称　高松賦（こうしょうふ）
○作 者 等　小島宗真（1580～1655?）筆
○時　　代　江戸時代・正保 4 年(1647)
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙 縦 30.7 cm 横 374.2cm
○作品概要　巻子装。牙軸。淡彩で花卉類をまばらにあしらった料絹に、唐の徐偃作「高松賦」の全文を光悦風の大胆な配字で書く。

8　○名　　称　色紙「我恋は」（しきし わがこいは）
○作 者 等　本阿弥光悦（1558～1637）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 19.9 cm 横 16.7cm
○作品概要　掛幅装。木軸。雲母で六弁花文様を摺り出した装飾料紙に藤原家隆（1158～1237）の家集『壬二集』収載の一首「我恋はまだすへ出ぬあらかたのよるさへやすくいやはねらるる」を散らし書きで書く。本来は新三十六歌仙帖などの一枚かと推測される。

9　○名　　称　色紙「山川の」（しきし やまかわの）
○作 者 等　尾形宗謙（1621～87）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 21.4 cm 横 19.4cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。花卉と流水を金泥で描いた料紙に藤原興風（生没年未詳）の和歌「山川の菊の下水いかなればながれて人の老をせくらむ」（新古今和歌集）を散らし書きで書く。

10　○名　　称　書状（しょじょう）
○作 者 等　佐久間象山（1811～64）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　第 1 通 縦 16.3cm 横 60.8cm ； 第 2 通 縦 14.9cm 横 55.9cm ； 第 3 通 縦 17.5cm 横 19.0cm
○作品概要　巻子装。木軸。佐久間象山書状 3 通を貼り継ぐ。

11　○名　　称　法華経　薬王菩薩本事品第二十三（ほけきょう　やくおうぼさつほんじぼんだいにじゅうさん）
○時　　代　鎌倉時代・12 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 27.0cm 横 23.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。白く透過性が高く、裏面に銀箔を蒔いた料紙に「法華経」薬王菩薩本事品第二十三を書写した経典の断簡。本文の書風は、一般に「目無経」として知られている写経と筆意に相通じる点があり、制作もほぼ同じ頃の鎌倉時代（12 世紀）と考えられる。

12　○名　　称　紫紙金字大方広仏華厳経　巻第八（ししきんじだいほうこうぶつけごんきょう　まきだいはち）
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　鎌倉時代・13 世紀
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 27.0 cm 横 9.0cm
○作品概要　掛幅装。木軸。紫紙に金字で『華厳経』巻第八を書写した断簡。本経は力強く雄渾な筆致で書写されているが、奈良時代のものと比べて柔和で、紫紙の色調も異なっている。なお料紙に施された銀界には、当館の所蔵する平安時代前期の紫紙金字法華経と類似する点がうかがえる。

13　○名　　称　装飾法華経（そうしょくほけきょう）
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 29.4 cm 横 10.1cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。料紙に金界を引き、界の上下欄外には金銀切箔を散らし、『法華経』見宝塔品第十一を端正な楷書にて書写したもの。

14　○名　　称　新古今和歌集切（しんこきんわかしゅうきれ）
○作 者 等　伝飛鳥井雅経（1170～1221 ）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 15.8 cm 横 14.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『新古今和歌集』巻第六冬の部分。もとは升型の冊子本。『新古今和歌集』は元久２年(1205）に中書本が奏上されており、本作はその時期からそれほど隔たらないものと推測される。

15　○名　　称　一字蓮台法華経（いちじれんだいほけきょう）
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1枚
○寸 法 等　本紙 縦 33.4cm 横 4.2cm
○作品概要　掛幅装。木軸。経文の一字ずつを蓮台にのせた一字蓮台法華経である。料紙に銀界を引き、さらに各行ごとに金泥にて天蓋 1 つと蓮台 20 を置き、その蓮台の上に奔放な書風で経文を一字ずつ墨書する。

16　○名　　称　古今和歌集切（こきんわかしゅうきれ）
○作 者 等　伝後京極良経（1169～1206）筆

○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 23.7cm 横 11.0cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『古今和歌集』巻第十七雑歌上の部分。もとは冊子本。後京極良経（1169～1206）の真跡（「書状」B-2368）と比較して異筆だが、後京極流の書風である。

17 ○名　　称　大井川行幸歌会序断簡（おおいがわぎょうこううたかいじょだんかん）
○作 者 等　伝後京極良経（1169～1206）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.6cm 横 8.0cm
○作品概要　掛幅装。木軸。承保 3 年（1076）10 月に催された白河天皇の鷹狩の大井川行幸の序（源師房作）の部分。金小切箔、銀砂子が雲状に散らされた料紙に、後京極流の書風。

18 ○名　　称　千五百番歌合断簡（せんごひゃくばんうたあわせだんかん）
○作 者 等　伝慈円（1155～1225）筆
○時　　代　鎌倉時代・14 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 13.6 横 13.9cm
○作品概要　掛幅装。木軸。『千五百番歌合』（全 20 巻）より、1338 番の判詞部分。もとは升型の冊子本。

19 ○名　　称　明月記断簡（めいげつきだんかん）
○作 者 等　藤原定家（1162～1241）筆
○時　　代　鎌倉時代・建暦元年(1211)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 29.7cm 横 9.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『明月記』とは、藤原定家(1162～1241)がつけていた日記で、治承４年(1180)（定家 19 歳）から嘉禎元年(1235)(定家 74 歳）の分まで現在確認されている。「明月記」は後世の呼称。

20 ○名　　称　和漢朗詠集切（わかんろうえいしゅうきれ）
○作 者 等　伝世尊寺行能（1179～1251?）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.5 cm 横 24.4cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『和漢朗詠集』巻上秋の部分。淡墨の界線を引き、漢詩は一行に一列、和歌は一行に二列書写するのは、よく見られる形式。墨と朱により訓点が付けられている。

21 ○名　　称　古筆手鑑（こひつてかがみ）
○時　　代　平安～江戸時代・8～19 世紀
○員　　数　1 帖
○寸 法 等　縦 40.4 cm 横 29.5cm
○作品概要　帖仕立。表・裏各 35 面の古筆手鑑。古筆切が表面に 48 葉、裏面に 61 葉が貼付されており、はがれている切が 12 葉ある。また、同時に寄贈となる伝世尊寺行能筆「和漢朗詠集切」のつれと思われる「和漢朗詠集切」も含まれている。

22 ○名　　称　[重要美術品]梅図自画賛（うめずじがさん）
○作 者 等　後陽成天皇（1571～1617）筆
○時　　代　安土桃山～江戸時代・16～17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.9 cm 横 63.3cm
○作品概要　掛幅装。画面の左半から速筆の墨画で花をつけた梅樹を描き、右端から散らし書きで和歌一首を書く。「たつねくる　はかなきねにも　にほふらむ　軒はのむめの　花のはつ蝶」（藤原家隆『壬二集』）

23 ○名　　称　[重要美術品]番衆歴名（ばんしゅうれきみょう）
○作 者 等　豊臣秀吉（1537～98）筆
○時　　代　平安～鎌倉時代・12～13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.3cm 横 45.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。竪紙に一部漢字を交えた仮名で墨書する。

24 ○名　　称　家康公遺訓（いえやすこういくん）
○作 者 等　小野鵞堂（1862～1922）筆
○時　　代　明治～大正時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 129.7cm 横 32.2cm
○作品概要　掛幅装。木軸。徳川家康の著名な遺訓を書写したもの。漢字仮名交じりで、ところどころ連綿も表現した小野鵞堂のもっとも脂ののった筆致と言える。

25 ○名　　称　女大学一節（おんなだいがくいっせつ）
○作 者 等　小野鵞堂（1862～1922）筆
○時　　代　明治～大正時代・19～20 世紀
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 129.7cm 横 32.2cm

○作品概要　掛軸装。木軸。「女大学」と呼ばれる貝原益軒著『和俗童子訓』巻之五「教女子法」（宝永 7 年[1710]4 月撰）より 18 条（最終条）を書写している。

26 ○名　　称　風濤騒ぐ（ふうとうさわぐ）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　昭和 54 年(1979)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 202.9cm 横 69.1cm
○作品概要　額装。「風濤騒」の三文字を大字で表現したもの。薄墨を使ってにじみを利用しながら、成瀬映山初期の力強さをも感じさせる巧みな筆致をしめす。

27 ○名　　称　唐詩三首（とうしさんしゅ）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　昭和 58 年(1983)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　4 幅
○寸 法 等　本紙　各 縦 227.4 cm 横 39.4cm
○作品概要　掛幅装。木軸。李白、陳子昂、杜甫の詩・３首を、４幅に書写したもの。３首とも景色を詠んで懐かしいなどの感情を重ねる内容の詩となっている。

28 ○名　　称　李商隠詩（りしょういんのし）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　平成 16 年(2004)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙　各 縦 39.0cm 横 231.0cm
○作品概要　額装。中国・唐時代の李商隠の詩「柳」を横長 2 枚の料紙に書写したもの。成瀬映山の特徴である飄々とした筆致もそのままに、丸みを帯びた柔らかい筆遣いとなっている。

29 ○名　　称　夢窓疎石墨跡杜甫詩（むそうそせきぼくせきとほし）
○作 者 等　夢窓疎石（1275～1351）筆
○時　　代　鎌倉時代・文保 2 年（1318）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 22.3cm（最小値） 横 121.5cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。一行ごとに縦に折り目と思われる線が入っており、界線として使用したと推測される。

30 ○名　　称　戴仁抱渾（じんをいただき、えんをいだく）
○作 者 等　九鬼隆一（1852～1931）筆
○時　　代　明治 17 年(1884)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 27.5cm 横 52.8cm
○作品概要　額装。明治 17 年(1884)1 月、33 歳の九鬼隆一が、「戴仁、抱渾」（仁を戴き、渾を抱く）と書いている。明治 12 年以降、教育令に関して、天皇とその側近の意向を知り、その影響を受けた九鬼の心情を伝える内容である。

＜彫刻＞（2 件）

31 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　木造、漆箔・彩色・截金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 37.1cm 総高 46.5cm
○作品概要　髻を結い、元結紐一条で括り、髪束を五束あらわす。天冠台は上から列弁と紐一条からなる。地髪および後頭部は平滑にあらわすが、天冠台下では髪束を八束あらわし、疎ら彫りとする。耳朶は環状だが不貫とする。白毫相は認められない。三道相をあらわす。条帛、天衣、裙をつける。条帛は左肩から右脇腹をとおり、正面では左胸辺にて内から外にかけて先端は左腰下方に垂下する。背面では先端が左腰辺に至る。天衣は両肩からかけ、両腕内側に垂らし、先端は欠失する。裙は正面中央にて右前に打ち合わせ、上端を一段折り返し、前後左右に舌状に垂れる。左手は屈臂して五指を握り、右手は垂下して掌をやや内側に向け、第三・四指を軽く捻じる。構造については、頭体幹部を一材から彫出し、内刳りは施さない。両肩先、両足先、別材。天冠台上、正面および左右に小孔を穿ち、針金を挿す。元結紐は朱彩とする。肉身部に漆箔、着衣部に彩色と截金を施す。着衣部には、朱地のうえ墨線により界線を菱形に区切り、内区に截金による四菱文をあらわす。また墨線で団花文をあらわす。台座（後補）は六重蓮華座で、蓮華、敷茄子、返花、受座、六方入隅の上框、同じく隅足つき下框とする。

32 ○名　　称　三宝荒神立像（伝金剛夜叉明王）（さんぽうこうじんりゅうぞう（でんこんごうやしゃみょうおう））
○作 者 等　高村光雲作
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木造
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 15.6cm
○作品概要　中央の面の左右にやや小ぶりの脇面を表す。三面とも額にも目がある。中央面のみわずかに口を開き歯列を表す。炎髪で、頭飾をつける。三道相を表す。腕は六臂で、本手は左に五鈷鈴、右に五鈷杵、脇手は左上に橛、右上に剣、左中に弓、右中に弓を執る。各腕に臂釧、腕釧をつける。条帛、天衣、裙を着ける。足釧をつける。台座は岩座、框座。光背は岩座に支柱を立てる輪宝形の頭光で、上方と左右に火炎を表す。
本体は上中段の脇手を除き、まだ香りの残る白檀の一材より彫出する。持物、岩座、光背は別材製。框座は白檀製ではない。箱書きに金剛夜叉明王とあるが、光雲作の長野・善光寺仁王門の三宝荒神像雛形に近似するので三宝荒神と考えられる。

＜刀剣＞（11 件）

33 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　近江大掾忠広作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 76.2cm　反 1.3cm

○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅やや広く、重ね厚く、元先の幅に差があり、中鋒。
地鉄　小板目よく約み、地沸つき地景細かく入る。
刃文　のたれ調に互の目、小丁子交じって足入り、小沸よくつき、細かに砂流かかり、物打に金筋長くかかる。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
彫物　指裏（太刀表）　鎬を中心にして腰元に真の倶利伽羅龍、指表（太刀裏）　同腰元に梵字（カーン）、護摩箸に爪。
茎　生ぶ、先剣形、鑢目勝手上り、目釘孔 1、指裏（太刀表）に「肥前国住近江大掾藤原忠広」と銘がある。

34 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　肥前国忠宗作
○時　　代　江戸時代・元禄 15 年（1702）
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 69.5cm　反 1.6cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、反り浅く、中鋒。
地鉄　小板目よく約み、地沸つく。
刃文　中直刃、上方二重刃風となり、小足、葉処々に入り、小沸つき、匂口しまりごころ。
帽子　表裏、直ぐに小丸、先掃きかける。
彫物　表裏　棒樋、区にて丸止。
茎　生ぶ、先剣形、鑢目切、目釘孔 2、指裏（太刀表）に「肥前国相摸大掾忠宗作　甲割」、指表（太刀裏）に「元禄十五年八月吉日」と銘がある。

35 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　肥前国正広（河内大掾）作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 66.4cm　反 1.8cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、3 寸程磨上げて反り浅くなり、中鋒。
地鉄　板目約み、地沸よくつき、地景入る。
刃文　小のたれに大互の目、大丁子交じり、一部逆がかり、足・葉しきりに入り、沸、荒沸厚くつき、砂流全体にかかり、匂口深い。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
彫物　表裏、棒樋茎にて掻流し。
茎　磨上、先切、鑢目筋違（元）・切（新）、目釘孔 3 中 2 埋、指裏（太刀表）に「肥前国佐賀住正広」と銘がある。

36 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　武蔵大掾忠広作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.0cm　反 0.8cm
○作品概要　形状　平造、庵棟、身幅やや広く、重ねあって先反つく。
地鉄　小板目よく約み、地沸つき、地景入り、鉄明るい。
刃文　中直刃、指表物打二重刃がかり、小沸つき、匂口深い。
帽子　表裏、直ぐに小丸、先掃きかける。
茎　生ぶ、先入山形、鑢目切、目釘孔 1、指表に「武蔵大掾藤原忠広」と銘がある。

37 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　土佐守忠吉作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.4cm　反 0.9cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、反り浅くつき、中鋒。
地鉄　小板目肌立ちごころに地沸つき、地景入る。
刃文　のたれ調に小互の目、小丁子交じって連れ、足入り、小沸よくつき、処々に砂流かかる。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
茎　生ぶ、先栗尻、鑢目切、目釘孔 2、指裏に「肥前国住人土佐守藤原忠吉」と銘がある。

38 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　大和守安定作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.0cm　反 0.7cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅広く、反り浅く、大鋒。
地鉄　小板目肌立ち、鎬地柾目、地沸厚くつき地景入り、鉄冴える。
刃文　小のたれに互の目、大互の目、角ばる刃交り、足太く入り、小沸よくつき砂流かかり、匂口深く明るく冴える。
帽子　表裏、のたれ込み、先小丸。
茎　生ぶ、先刃上りの栗尻、鑢目大筋違、目釘孔 1、指表に「大和守安定」と銘がある。

39 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　山城守国清作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 53.0cm　反 1.2cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、やや細身で元先の幅差少しあって、反り浅くつく。
地鉄　小板目に杢目交って肌立ちごころ、地沸つき地景入ってザングリとする。
刃文　直刃調に浅くのたれ、互の目、尖りごころの刃交り、足よく入り、小沸よくつき、砂流かかり、匂口やや深く沈みごころ。
帽子　表裏、直ぐに小丸、焼き深い。
彫物　指表　腰元鎬寄りに草の倶利伽羅龍、指裏　腰元鎬寄りに梅樹。

茎　生ぶ、先栗尻、目釘孔 2、鑢目筋違、指裏に菊紋と「山城守藤原国清」、指表に「鍛南蛮鉄剣之」と銘がある。

40　○名　　称　薙刀（なぎなた）
　　○作 者 等　森岡朝国作
　　○時　　代　江戸時代・文久 3 年(1863)
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　刃長 74.2cm　反 10.3cm
　　○作品概要　形状　薙刀造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、先反極端について半月形となる。
　　地鉄　小板目に小杢目交り、流れるところあって地沸つく。
　　刃文　下半焼出風ののたれ刃、上半角ばった互の目連れ、小沸つき、全体に砂流かかる。
　　帽子　表裏、のたれ込み、先火焔風に小丸。
　　彫物　指表、鎬地に腰樋。
　　茎　生ぶ、先切、鑢目勝手下り、目釘孔 2 中 1 忍、佩表に「土佐住森岡兵庫朝国作之」、佩裏に「文久三年癸亥六月選之」と銘がある。

41　○名　　称　薙刀（なぎなた）
　　○作 者 等　越前下坂作
　　○時　　代　安土桃山～江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　刃長 52.4cm　反 2.3cm
　　○作品概要　形状　薙刀造（佩表は平造、佩裏は切刃造）、庵棟、先あまり張らず、反り浅い。
　　地鉄　板目に大杢目交り、地沸つき地景入り、地鉄黒ずむ。
　　刃文　小のたれに互の目交り、物打に大模様の互の目、尖り刃、逆がかる刃あり、足入り、小沸つき、匂口しまりごころに明るい。
　　帽子　表裏、乱れ込み、先突き上げて小丸、深く返る。
　　彫物　佩表　平地に梵字、草の倶利伽羅龍、佩裏　平地に刀樋、薙刀樋に添樋、薙刀樋と添樋は区上にて角止、薙刀樋の中に素剣を浮彫であらわす。
　　茎　生ぶ、先剣形風の栗尻、鑢目桧垣、目釘孔 1、佩表に「越前国下坂」と銘がある。

42　○名　　称　笹穂槍（ささほやり）
　　○作 者 等　関兼貞作
　　○時　　代　室町～安土桃山時代・16 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 本
　　○寸 法 等　刃長 32.5cm
　　○作品概要　形状　平三角造、身幅に比して寸が伸び、先張る。
　　地鉄　小板目、刃寄りにて流れ、地沸つく。
　　刃文　小のたれ調に互の目、平面に尖り刃目立ち、小沸つき、匂口しまりごころ。
　　帽子　表裏、直ぐに小丸。
　　彫物　平面に太樋。
　　茎　生ぶ、先切、鑢目不詳、目釘孔 2、茎に「兼貞」と銘がある。

43　○名　　称　飾鏃（かざりやじり）
　　○作 者 等　埋忠吉信作
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 本
　　○寸 法 等　刃長 20.5cm
　　○作品概要　形状　両鎬造、身幅広く、ふくら詰まり平根形。
　　地鉄　小板目約み、処々流れる。
　　刃文　小のたれに小互の目交り、小沸つき、砂流かかる。
　　帽子　表裏、直ぐに小丸。
　　彫物　表裏、真の倶利伽羅龍を欄間透かしとし、けら首上に鎬を中心として「埋忠」、「吉信」と毛彫がある。
　　茎　生ぶ、先丸、鑢目筋違。

＜陶磁＞（5 件）

44　○名　　称　染付梅文猪口（そめつけうめもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 5.7cm　口径 8.0cm　底径 4.3cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。開きは他の 3 点よりも大きく、底部畳付きはごく細く削り出す。釉は青みが強い。畳付きはオレンジ色の焼け色を呈する。コバルトで裾に圏線を巡らせ、胴部に梅樹を細い筆致で描く。

45　○名　　称　染付水仙文猪口（そめつけすいせんもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 6.0cm　口径 7.1cm　底径 5.2cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。全体に青灰色を呈する。直線的に開く杯。胎はやや厚みがある。底はごく細く畳付きを削り出し、一部目跡のような痕跡が残る。灰色がかったコバルトで裾に圏線を巡らせ、胴部に水仙と思われる文様を描く。焼け痕が内外に広がっている。

46　○名　　称　染付秋草文猪口（そめつけあきくさもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 5.6cm　口径 7.5cm　底径 5.8cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。底は蛇の目。コバルトで口縁内側に 2 本の圏線を巡らせ、胴部には女郎花のような秋草の文様をごく細い筆致で描く。花や葉は輪郭をとり、やや淡い発色の濃みをさす方法であらわされ、他の 3 点とは異なり、精緻な絵付けである。また、見込みには圏線と中央に宝文を配する。

47　○名　　称　染付雪持笹文猪口（そめつけゆきもちざさもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 6.3cm　口径 7.4cm　底径 5.2cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。底部畳付きを細く削り出す。青みがかった透明釉で細かな貫入が入る。灰色を帯びたコバルトで裾に圏線を巡らせ、松と雪輪のような文様を胴部正面、背面と 2 面に配する。

48　○名　　称　片口鉢（かたくちはち）
　　○作 者 等　丹波
　　○時　　代　安土桃山～江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　陶製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 7.8cm～11.0cm　口径 15.8cm×23.6cm　底径 11.3cm
　　○作品概要　灰色硬質の胎。夾雑物が混じる。全体に黒茶色に焼き締まり、内外のところどころに自然釉が降り掛かり、景色を作る。底は平底。口縁を楕円に大きく歪ませた鉢で、口は稜線を描くように高低をつけ、一方に注ぎ口を作る。見込みには放射状に刻みを入れ、内底中央に＊印を刻んで擂鉢としている。

＜漆工＞（2 件）

49　○名　　称　朱漆硯台（しゅうるしすずりだい）
　　○時　　代　室町～安土桃山時代・16 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 基
　　○寸 法 等　方 28.0cm　高 5.5cm
　　○作品概要　方形の甲板に低い立ち上がりと刳形の四脚をつけた硯台。見込みから立ち上がり内面にかけて朱漆塗、その他を黒漆塗とする。四脚は輪郭を朱漆で括り、木口を朱漆塗としている。甲板の側面は四角に角金具をつけ、四辺中央付近に三個の飾り鋲を並べ打っている。

50　○名　　称　竹雉子蒔絵料紙硯箱（たけにきじまきえりょうしすずりばこ）
　　○作 者 等　塩見政誠（生没年不詳）作
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 具
　　○寸 法 等　（硯箱）縦 24.6cm 横 21.6cm 高 4.2cm、（料紙箱）縦 41.2cm 横 32.4cm 高 13.7cm
　　○作品概要　同じ主題の文様、技法で統一された料紙箱と硯箱のセット。硯箱は長方形、被蓋造の箱で、蓋の肩を几帳面として口縁に玉縁を作り出す。身の内は硯の上下に下水板を渡して筆架とし、他に水滴 1 個、筆 1 本、錐 1 本を納める。硯箱の表面は全体を黒漆塗として、面取部や蓋と身の口縁を金地とする。外側には金銀研出蒔絵に朱漆描を交え、竹林に雉子の図柄を描いている。蓋裏から見込みにかけては平目地として青金・銀の薄肉高蒔絵で千鳥の群れを表わす。料紙箱は長方形、印籠蓋造の箱で、蓋の肩を几帳面として、蓋の口縁と身の置口に玉縁を作り出す。漆塗りと文様・技法は硯箱と同仕様としている。

＜考古＞（5 件）

51　○名　　称　緑釉棺台残片（ませいせきふりょくゆうかんだいざんへん）
　　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　　○時　　代　古墳時代・7 世紀
　　○品　　質　陶製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　残存長 11.5cm 同幅 4.5cm 厚 2.7～2.8cm
　　○作品概要　やや開く立上がりをもち、下面には脚台の痕跡が残る隅丸長方形の外容器の一部。全体はナデ整形仕上げされるが、各所にハケメ・ヘラケズり痕が残る。内面の全面および外面の壁体部外面に淡青灰色の緑釉を施す。胎土は明灰褐色。

52　○名　　称　須恵器 子持台付有蓋長頸壺（すえき こもちだいつきゆうがいちょうけいこ）
　　○時　　代　古墳時代・6 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全高 47.0cm 台部径 24.5cm 脚径 23.5cm 脚部高 21.8cm 蓋部径 6.5cm 蓋部高 6.3cm つまみ径 3.2cm 壺部口径 17.5cm 壺銅部径 21.5cm 子壺部径 3.5～4.0cm 子壺部高 4.5～4.8cm
　　○作品概要　古墳時代後期の子持台付有蓋長頸壺。蓋部は比較的高く、頂部に扁平なつまみが付く。口縁部はなだらかに下がり、端部を丸く納めるがわずかに外側につまみ出し、天井部との境界は下端に沈線を廻らせた明瞭な段をもつ。

53　○名　　称　須恵器 革袋形提瓶（すえき かわぶくろがたていへい）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全高 13.8cm 全幅 20.7cm 口径 6.9cm 胴部厚 8.4cm
　　○作品概要　古墳時代後期の革袋をモデルとした提瓶。細い基部の口頸部から、外端面をもつ口縁部が大きく外反して開く。胴部は肩部が明確な稜をなす逆台形のタイプで、把手は省略される。

54　○名　　称　須恵器 鳥形瓶（すえき とりがたへい）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全長 19.5cm 全幅 9.3cm 全高 10.0cm 口径 4.3～5.5cm
　　○作品概要　鳥形を模した瓶。扁平な丸味の強い胴部の前後に、粘土を貼付して鳥の頭部と尾部を造り出す。背部中央に口頸部を貼付し、口頸部は基部から直線的に伸びて歪みが著しい。口縁部は薄く丸く仕上げる。

55　○名　　称　須恵器 脚付長頸壺（すえき きゃくつきちょうけいつぼ）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　口径 10.5cm 頸部径 4.5cm 全高 22.8cm 胴部径 14.5cm
　　○作品概要　古墳時代後期の脚付長頸壺。基部が細い口頸部は大きく外反して開き、口縁部には外端面をもつ。中位に２条一組の沈線が廻る。肩部がなだら

かな胴部は最大径を中位にもつ。

＜歴史資料＞（7 件）

56 ○名　　称　九鬼隆一関係資料（くきりゅういちかんけいしりょう）
○時　　代　明治～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　73 件
○作品概要　九鬼家伝来の書画類を中心とした資料である。東郷平八郎が隆一のために揮毫した書や隆一が出席した宴会の模様を川端玉章が描いた戯画、明治期の名刺類を貼り込んだアルバムなど、隆一の事跡を物語るものを含んでいる。

57 ○名　　称　書状（しょじょう）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治 8 年(1875)
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 16.5cm 横 37.8cm
○作品概要　掛幅装。世界地図の文様を摺り出した用箋に本文を書く。年紀を欠くが「当春は連月開館いたし度」とある。明治 8 年 2 月 2 日に博覧会事務局が、定例の博物館の公開日である 1・6 の日に日曜日を加え、連月開館とすることを太政官に上申する直前の 1 月 31 日、局長の町田久成が部下の蜷川式胤、岸光景、多田親愛の 3 名に相談をしようとしたが皆不参のため、実施を決断したときのものと考えられる。

58 ○名　　称　白衣観音像（びゃくえかんのんぞう）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆、自賛
○時　　代　明治 21 年（1888）
○品　　質　絹本金銀泥画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 81.0cm 横 25.7cm
○作品概要　掛幅装。金銀泥の線画で趺座する白衣観音を描き、自賛を加える。町田は出家後、白衣観音像数千点を描いたと伝えられる。

59 ○名　　称　竹筍図（ちくじゅんず）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 115.3cm 横 29.3cm
○作品概要　掛幅装。墨画で竹と筍を描く。この絵は指頭画といい、手のひらや指、爪などに墨や顔料をつけて描いたものである。

60 ○名　　称　七言絶句（しちごんぜっく）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治 24 年(1891)
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 18.9cm 横 13.2cm
○作品概要　掛幅装。やや光沢のある絹に墨書で七言絶句を記す。

61 ○名　　称　石谷上人（町田久成）像（せきこくしょうにん まちだひさなり ぞう）
○作 者 等　杉孫七郎（聴雨）等 4 名賛
○時　　代　明治 36 年(1903)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 94.4cm 横 41.3cm
○作品概要　掛幅装。石谷上人（町田久成）の僧形の坐像を写真画風に描き、上部に杉孫七郎（聴雨）、稲生真履、多田親愛、智満（園城寺僧か）の 4 名の賛を配する。明治 36 年（1903）の町田の七回忌に際して仕立てられたものである。

62 ○名　　称　町田久成関係資料（まちだひさなりかんけいしりょう）
○時　　代　明治～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　一括（161 点）
○作品概要　町田久成及び秀麿宛の書簡類が多くを占める他、久成の写真、東京帝室博物館に建立された記念碑に関する資料、久成の事跡をまとめた記録などから成る。

＜東洋彫刻＞（9 件）

63 ○名　　称　男性像頭部（だんせいぞうとうぶ）
○作 者 等　伝ハッダ、タパ・エ・ショトール出土
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　塑造彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　総高 38.5cm（台座含む） 像高 24.0cm
○作品概要　高浮彫。ターバン飾りをつけ、口髭をたくわえた男性像の頭部。ターバンは前頭部に結び目をつくり側頭部を覆う。頭頂部に六角柱型の装飾を付ける。左耳朶に耳飾を付ける。背面中央やや右耳寄りに小穴あり。小穴内部に焼損した物体が見える。首の断面より金属製の支柱で木製台座に固定する。

64 ○名　　称　如来頭部（にょらいとうぶ）
○作 者 等　ガンダーラ出土
○時　　代　3～5 世紀
○品　　質　ストゥッコ造彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　総高 38.0cm（台座含む） 像高 23.0cm
○作品概要　高浮彫。波状頭髪、白毫あり。髪際は額中央をやや尖らせ、額は広くあらわす。眼は半眼とする。目、唇、両耳に朱彩が残る。瞳は墨彩。現状で、背面は後頭部中央から首にかけて窪んでいる。背面の一部に藁が残る。首の断面より金属製の支柱で木製台座に固定する。

65 ○名　　称　如来坐像（にょらいざぞう）
○時　　代　五胡十六国時代・4 世紀
○品　　質　銅造鍍金

○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.8cm　座高 5.2cm
○作品概要　頭上に大きな肉髻を表わし、肉髻・地髪とも素文とする。袈裟を通肩に着け、腹前で両手の甲を外側にむけ、右手を手前にして重ねる。台座の正面左右には正面向きの獅子を表わす。後頭部にはホゾを切り落とした痕跡あり。底面を開口し、首下あたりまで中型のくりあげを設ける。

66 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 7.5cm 像高 5.6cm
○作品概要　如来の立像、肉髻を盛り上げ素髪とする。衣を通肩に着し、左手は垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。蓮華座は蓮肉と返花（６弁）、六角框座から構成され、底面を開口して中型のくりあげを設ける。

67 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 10.7cm
○作品概要　如来の立像、肉髻を高く盛り上げ素髪とする。胸前を大きくあけて衣を通肩に着し、左肩から右脇にかけて内衣を表わす。左手はわずかに屈臂のうえ垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。

68 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 6.2cm 像高 5.0cm
○作品概要　如来の立像。肉髻の盛り上がりは確認できず、髪際にわずかな段差を設ける。袈裟を通肩に着し、左手は垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。

69 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.2cm 像高 6.2cm
○作品概要　菩薩の立像。髻を結い、三面頭飾をつける。裙と天衣、胸飾（陰刻線で表わす）を着ける。天衣は両肩から垂下し、両体側部に垂れる。

70 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.0cm 像高 6.0cm
○作品概要　菩薩の立像。単髻を結い、三面頭飾・胸飾・瓔珞を表わす。天衣は腰下垂下部のみ確認できる。

71 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 9.6cm 像高 7.2cm
○作品概要　菩薩の立像。髻を結い、三面頭飾をつける。正面頭飾は化仏か宝瓶か不明。裙と天衣、胸飾を着ける。

＜東洋陶磁＞（5 件）

72 ○名　　称　呉器茶碗（ごきちゃわん）
○時　　代　朝鮮時代・16～17 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.5cm　口径 9.8～11.0cm　底径 6.6cm
○作品概要　灰色硬質の胎。素地には夾雑物が多く混じる。腰折れで丸みをもった胴に撥状に開いて立つ高台が付く。全体を白土で化粧し、腰に 1 周化粧を掻き落としてから透明釉を掛ける。

73 ○名　　称　粉引茶碗　銘高砂（こひきちゃわん　めいたかさご）
○時　　代　朝鮮時代・16～17 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.5cm　口径 13.7cm　底径 5.0cm
○作品概要　茶色硬質の胎。薄づくり、端反りの茶碗。底部畳付きまで白土で化粧をし、畳付きには目跡が残る。全体に雨漏風のしみが広がって景色をなす。

74 ○名　　称　白磁碗（はくじわん）
○時　　代　高麗時代・11 世紀
○品　　質　磁製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3cm　口径 14.1cm　底径 4.6cm
○作品概要　白色硬質磁胎。夾雑物が混じる。高火度釉の透明釉が総体に掛かる。釉はムラがあり、ところどころ青みを帯びる。直線的に開いて立つ碗で、底は蛇の目（玉璧）高台。

75 ○名　　称　中国陶磁片一括（ちゅうごくとうじへんいっかつ）
○時　　代　東晋～元時代・4～14 世紀
○員　　数　1 括
○作品概要　中国陶磁の陶片合計 80 片。うち 62 片は昭和初期に中国の杭州領事であった米内山庸夫によって杭州市内で採集された陶片である。その他 18 片は付属のメモより、繭山龍泉堂旧蔵の陶片であることが推測できる。官窯青磁や龍泉窯青磁など南宋～元時代に位置づけられる中国の青磁が中心で、ほかに白磁や磁州窯陶の破片が混じる。また、これらの多くに陶磁研究者小山冨士夫による生産窯を記した書付（シール）が貼られて

いる。

76 ○名　　称　青磁盤（せいじばん）
○時　　代　北宋時代・11～12 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 2.8cm　口径 17.1cm　底径 9.1cm
○作品概要　灰白色、硬質の胎。つやのある青緑色の青磁釉が総体に掛かる。釉の表層には細かいヒビが全体に走る。口縁がわずかに外反した盤で、底には撥状の高台が付く。高台内には針目跡（支釘痕）が 3 つ残る。

＜東洋染織＞（2 件）

77 ○名　　称　覆い布（プルカリ）茶木綿地幾何文様刺繍（おおいぬのちゃもめんじきかもんようししゅう）
○時　　代　木綿地に絹糸による刺繍
○品　　質　19 世紀末～20 世紀前半
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 234.0cm 横 146.0cm
○作品概要　インド・パンジャーブ（現パキスタン）で 19 世紀から 20 世紀にかけて制作された覆い布（プルカリ）である。手紡ぎ糸で織られた茶木綿地に、オレンジ・ピンク・淡緑・淡茶・紺・黒の釜糸で、平繍によって畳目状にさまざまな幾何文様を表わす。

78 ○名　　称　敷物菱幾何文様綴織（キリム）（しきものひしきかもんようつづれおり）
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　毛織物
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 291.0cm 横 166.0cm
○作品概要　キリムとは、西アジア一帯で暮らす遊牧民族が、家畜の毛で毛糸を紡ぎ、染色して綴織にした敷物の一種である。国や部族によって文様に特色が見られる。本品は、赤・茶・藍・緑・黄・白に染めた毛糸を用い、平組織による綴織で文様を織り出す。

＜東洋考古＞（48 件）

79 ○名　　称　オイノコエ（おいのこえ）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　器高 7.3cm 胴径 4.0cm 底径 2.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に淡黄色、水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

80 ○名　　称　アリュバロス（ありゅばろす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.3cm 口径 3.0cm 胴径 5.0cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に淡黄色、水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

81 ○名　　称　アンフォリスコス（あんふぉりすこす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.3cm 胴径 4.0cm 底径 2.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に黄色と水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

82 ○名　　称　アラバストロン（あらばすとろん）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.3cm 口径 2.4cm 胴径 2.8cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。黒色の本体に白色のガラスを巻きつけて縦に引き、フェストゥーン文としている。

83 ○名　　称　アラバストロン（あらばすとろん）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.5cm 口径 2.8cm 胴径 3.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。本体に白、黄色のガラスを巻きつけて縦に引き、フェストゥーン文としている。

84 ○名　　称　スキュフォス（すきゅふぉす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・2～3 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 4.8 cm 幅 11.2cm
○作品概要　碗形の酒杯。水色のガラスから宙吹き技法によって成形された。底部はくぼみ、その結果、内面に山形の突起をなしている。

85 ○名　　称　片手瓶（かたてへい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・3～4 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口

○寸 法 等　高 13.3cm 口径 4.7cm 胴径 12.5cm 底径 4.3cm
○作品概要　淡緑色ガラスを薄く宙吹き成形した壺。口縁部は一旦外側に張り出した後、内側に折り返す。頸部は円筒形で肩部が張り出す。

86 ○名　　称　突起装飾小瓶（とっきそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.3cm 口径 2.0cm 胴径 3.5cm
○作品概要　青色ガラスを型吹き技法で成形した厚手の小瓶。胴部にはこの時の縦畝が多数残る。口縁から頸上半部は円筒形、下部は瘤状の膨らみを経て括る。

87 ○名　　称　小瓶（しょうへい）
○作 者 等　地中海東部出土出土
○時　　代　3～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　3 口
○寸 法 等　1)高 9.0cm 口径 2.0cm 胴径 5.4cm 提携 3.5cm、2）高 7.3cm 口径 1.9cm 胴径 4.7cm 底径 2.7cm 、3）高 5.3cm　口径 2.2cm　胴径 3.4cm　底径 1.0cm
○作品概要　1）淡青色ガラスを宙吹き成形した器壁の薄い小瓶。2）淡青色ガラスを宙吹き成形した器壁の薄い小瓶。3）淡緑色ガラスを宙吹き成形した器壁のやや厚い小瓶。

88 ○名　　称　丸底鉢（まるぞこばち）
○作 者 等　地中海東部出土出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.0cm 径 14.0cm
○作品概要　鋳造技法によって成形された淡緑色ガラスの分厚い碗。内面口縁部直下に 2 条の平行線が刻まれている。

89 ○名　　称　長頸瓶（ちょうけいへい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.5cm 口径 2.1cm 胴径 7.0cm 底径 3.0cm
○作品概要　宙吹き技法によって成形された紫色ガラスの瓶。器壁はきわめて薄く、器面全体に白色ガラスの細線を螺旋状に巻きつけて装飾している。

90 ○名　　称　脚付杯（あしつきはい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・4 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.5cm 口径 7.0cm 底部径 3.0cm
○作品概要　無色ガラスから宙吹き技法によって成形された酒杯。碗形の本体に同色のガラスで別途作られた脚台を接合したもの。

91 ○名　　称　二連瓶（にれんへい）
○作 者 等　シリア出土
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.5cm 幅 3.7cm 奥 1.1cm
○作品概要　薬品容器。無色ガラスの管を中央部で折り返して作られた。表面全体に青色ガラスの細線を巻きつけて装飾し、最後に口縁部とその直下に 1 対の青色ガラスの小把手を付す。

92 ○名　　称　突起装飾碗（とっきそうしょくわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.0cm 径 10.0cm
○作品概要　突起装飾は、切子技法と並んで、サーサーン朝時代に大いに発達したガラス器の装飾技法である。本作品は欠損がほとんどない優品。

93 ○名　　称　切子装飾碗（きりこそうしょくわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・5～6 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.0cm 径 11.9cm
○作品概要　サーサーン朝時代に発達した切子の技法を駆使して器面を飾っている。

94 ○名　　称　円形切子碗（えんけいきりこわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・5～6 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.8cm 径 9.0cm
○作品概要　サーサーン朝時代の代表的な円形切子碗の優品である。類品がいわゆるシルクロードを経てわが国にも伝来していることは広く知られている。

95 ○名　　称　小瓶（しょうへい）
○作 者 等　シリア出土

○時　　代　イスラーム時代・7～8 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.3cm 径 4.8cm 底径 2.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代のガラス器制作技法がイスラーム時代に継承された作例である。

96 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン、グルガーン地方出土
○時　　代　イスラーム時代・8～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.3cm 口径 3.4cm 胴径 6.3cm 底径 2.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代に発達した切子の技法を駆使して器面を飾っている。

97 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.6cm 口径 3.4cm 底径 8.2cm
○作品概要　無色のガラスを分厚く宙吹き成形した容器。頸部はやや外に開いた円錐形で縦方向の６条の面取りが施される。

98 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.6cm 口径 3.5cm 底径 7.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代以来のガラス工芸の伝統を引き継ぐイスラーム時代の作品。完形品

99 ○名　　称　四足付角型小瓶（よんそくつきかくがたしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.7cm 口径 2.4cm 胴径 2.7cm
○作品概要　淡緑色ガラスを型吹きによって分厚い角瓶としたもの。頸部は逆円錐形で、口縁部にのみ青色ガラスを貼り付ける。

100 ○名　　称　瓶（へい）
○作 者 等　伝モンゴル出土
○時　　代　9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.7cm 口径 2.1cm 胴径 7.2cm 底径 5.0cm
○作品概要　型吹き技法によって成形された青色ガラスの瓶。球形の胴部に二重円文が 6 回繰り返される。

101 ○名　　称　広口瓶（ひろくちへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・10～11 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.4cm 口径 6.7cm 径 9.0cm 底径 4.5cm
○作品概要　無色のガラスをきわめて薄く（約 0.15 センチ）宙吹き成形した容器。頸部は外に開いた円錐形、以下は球形で、装飾はない。

102 ○名　　称　首飾（くびかざり）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 3～前 1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 連
○寸 法 等　全長 45.0cm ビーズの径は 0.35cm、長は 0.15～0.20cm、人頭の高 1.7cm
○作品概要　ペースト・ガラスの貼り付けによって作られた人頭 9 個と水色のビーズを綴って首飾としたもの。

103 ○名　　称　腕輪（うでわ）
○作 者 等　シリア又はエジプト出土
○時　　代　9～13 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　17 個
○作品概要　本体青色ガラスほか。イスラーム時代に一般的であったガラス加工技法をよく示す資料。

104 ○名　　称　楔形文字銘釘形土製品（くさびがたもじめいくぎがたどせいひん）
○作 者 等　イラク出土
○時　　代　ウル第三王朝時代・前 2100 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 15.4cm 頭部径 5.6cm
○作品概要　丸い頭部をもった釘状の土製品。円錐部に罫線を引き、シュメル楔形文字による 10 行の銘文が刻まれている。

105 ○名　　称　牛形スタンプ印章（うしがたすたんぷいんしょう）
○作 者 等　イラク南部出土
○時　　代　ジェムデッド・ナスル期・前 3200～前 2800 年頃

○品　　質　大理石
○員　　数　1 個
○寸 法 等　横 6.5cm 縦 3.5cm 高 2.1cm
○作品概要　うずくまる雄牛を象ったスタンプ印章。両目（及び鼻孔も？）は窪んでいるが、象嵌が抜け落ちた結果である。印面には７匹の動物（亀？）が表現される。

106 ○名　　称　円形スタンプ印章（えんけいすたんぷいんしょう）
○作 者 等　エジプト出土
○時　　代　前 400 年頃
○品　　質　大理石製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 6.3cm 厚 2.2cm
○作品概要　円形の印面をもつ大型のスタンプ印章。背面は丸く、上下に径約 0.6 センチの孔が貫通する。印面には 5 頭の動物の姿が彫り出される。

107 ○名　　称　女性土偶（じょせいどぐう）
○作 者 等　パキスタン、バローチスタン地方出土
○時　　代　前 2700～前 2500 年頃
○品　　質　粘土・焼成
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 12.3cm 幅 4.2cm 奥 4.4cm
○作品概要　インダス文明が成立する直前の時期、バローチスタンで作られた土偶。

108 ○名　　称　装身具（そうしんぐ）
○作 者 等　イラク又はシリア出土
○時　　代　シュメル初期王朝時代・前 26～前 24 世紀
○品　　質　石ほか
○員　　数　20 個
○作品概要　装身具の部品あるいは衣服に取り付けた一群の飾り。動物、人物の形をしたもの、円盤、管玉などが含まれる。

109 ○作 者 等　シリア出土
○時　　代　青銅器時代・前２千年紀
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 具
○寸 法 等　神像：高 14.6cm 幅 5.6cm 基部径 3.0cm、テーブル：高 6.5cm 径 6.6cm 基部径 3.5cm
○作品概要　二つの頭を持つ神の像と奉納物を載せる台。同形同大の頭は 5 つの突起をもつ冠を戴き、高い鷲鼻、大きく見開かれた目が特徴で、口の表現はない。

110 ○名　　称　飾板（かざりいた）
○作 者 等　トルコ東部出土
○時　　代　ウラルトゥ王国時代・前 9～前 8 世紀
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　現存長 21.0cm 幅 2.1cm 厚 1.2cm
○作品概要　前 9～前 6 世紀にトルコ東部、アルメニア、コーカサスにまたがる地域に存在したウラルトゥ王国の作品。打ち出しによって作られ、刻線で装飾を施したベルトの一部を、後に切り抜いたもの。

111 ○名　　称　刻文土器　細頸壺（こくもんどき　ほそくびつぼ）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　初期青銅器時代第Ⅱ期・前 2075～前 2000 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.3cm 口径 3.5cm 胴径 9.2cm
○作品概要　やや下膨れの球形胴部に円筒形の頸部、少し開いた口縁部が付く。

112 ○名　　称　犬の土偶（いぬのどぐう）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 7～前 6 世紀
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 7.1cm 幅 5.6cm 長 8.6cm
○作品概要　黄褐色の胎土で作られ、黒・赤の２色の顔料で、太線、列点などの大胆な文様が施されている。

113 ○名　　称　攪拌棒（かくはんぼう）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 2 世紀頃
○品　　質　動物骨製
○員　　数　1 本
○寸 法 等　現存長 21.0cm 幅 2.1cm 厚 1.2cm
○作品概要　環状の先端をもつ攪拌棒で、飲物を混ぜるために使用された。柄の頭部には胸元に赤子を抱く裸婦立像が表現されている。

114 ○名　　称　ピン（ぴん）
○作 者 等　イラン、ルリスタン地方出土
○時　　代　前 2 千年紀後半～前 1 千年紀初頭
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 本
○寸 法 等　長 21.3cm 径 0.8cm 幅 7.6cm
○作品概要　頭部に、翼をもったネコ科の動物２頭を両手で制圧する人物（神）が、透かし彫りで表現されている。

115 ○名　　称　容器を背負う動物の土偶（ようきをせおうどうぶつがのどぐう）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　前２千年紀末

○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 17.8cm 長 10.5cm 幅 5.4cm
○作品概要　硬質の灰色土器。四足動物の背に角瓶を乗せている。

116 ○名　　称　山羊形リュトン（やぎがたりゅとん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　鉄器時代・前 1 千年紀前半
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 21.2cm 口径 9.1cm 胴径 7.5cm 孔径 0.7cm
○作品概要　開いた口をもつ壺形の本体に山羊の前駆を取り付けた、黄褐色の酒杯。

117 ○名　　称　鷲の足（わしのあし）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　パルティア時代・前 150～後 228 年
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 12.5cm 幅 7.6cm
○作品概要　鷲の右足を象ったもの。上部がホゾになっていることから、別途作られた像本体に取り付けられていた部品であることがわかる。

118 ○名　　称　三足付皿（さんそくつきさら）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・10～11 世紀
○品　　質　粘土製・焼成・施釉
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　径 23.4cm 高 5.2cm 脚長 1.5cm
○作品概要　縁が水平に開いた皿本体を、円錐形の足 3 本で支えている。内面に白色釉を施し、黒・黄・緑色の釉で装飾紋様が描かれている。

119 ○名　　称　女性土偶（じょせいどぐう）
○作 者 等　イラク北部又はシリア北部出土
○時　　代　ハラフ期・前 5600～前 5000 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　5 躯
○寸 法 等　1）高 8.2cm 幅 4.8cm 奥 6.0cm、2）高 7.8cm 幅 4.6cm 奥 4.3cm、3）高 5.1cm 幅 3.2cm 奥 3.6cm、4）高 8.3cm 幅 4.2cm 奥 4.6cm、5）高 6.6cm 幅 3.5cm 奥 3.8cm

120 ○作品概要　地面に腰を下ろした裸婦の小像群。両手で乳房を持ち上げるものと、両手を膝上に置くものがある。頭部は小さく、後頭部が尖る。
○名　　称　動物形リュトン（どうぶつがたりゅとん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　鉄器時代・前 1 千年紀前半
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　全長 27.5cm、高 22.5cm、幅 14.5cm
○作品概要　丸みを帯びた動物の形をした酒器。黄褐色の土器で、器表全体に篦磨きが施されている。

121 ○名　　称　切子装飾小壺（きりこそうしょくこつぼ）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・7 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3cm、径 3.7cm
○作品概要　無色ガラスを厚く宙吹きし、切子装飾によって仕上げた小型の容器。頸部側面には 6 面の切子、本体には 8 面の切子が施されている。

122 ○名　　称　男子立像（だんしりゅうぞう）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　古拙Ⅱ期・前６世紀
○品　　質　石灰岩製・赤色顔料
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　本体高さ 36.0cm、 幅 9.0cm、奥行 4.0cm（台座　高 3.7cm、幅 11.4cm、奥行 9.0cm）
○作品概要　裸足の両足を揃えて直立する若い男性像。全体に細長く平たい体躯で、背面は平坦。踝を覆う長いキトンとヒマチオンを着ている。

123 ○名　　称　雲気文軒丸瓦（うんきもんのきまるがわら）
○時　　代　秦～前漢時代・前 3～前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 15.2cm　奥行 5.5cm（現存値）
○作品概要　円形。高い周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は 24 個の乳丁文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに雲文を配する。

124 ○名　　称　「高安萬世」軒丸瓦（「こうあんばんせい」のきまるがわら）
○時　　代　前漢時代・前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 15.3cm　奥行 4.7cm（現存値）
○作品概要　円形。幅広の周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は中心に突出した円文とその周囲に列点文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに篆書で「高安萬世」の四字を配する。

125 ○名　　称　雲気文軒丸瓦（うんきもんのきまるがわら）
○時　　代　前漢時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　土製

○員　　数　1個
○寸 法 等　径 15.5cm　奥行 4.7cm（現存値）
○作品概要　円形。高い周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は中心に突出した円文とその周囲に鋸歯文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに雲文、および雲文の合間に三角文を配する。

126 ○名　　称　蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）
○時　　代　北魏～北周時代・6 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　径 13.8cm　奥行 2.0cm（現存値）
○作品概要　円形。やや傾斜した幅広の周縁をもつ。正面は中心に七個の実をもつ蓮の花拓を、その周囲に十枚の蓮弁を配する。蓮弁は単弁で表現する。

＜東洋民族＞(22件)

127 ○名　　称　ワヤン・クリ　グヌンガン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 67.9cm 像高 46.0cm 最大幅 30.6cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。可動部はなく、操作棒1本で操作する。ワヤン・クリにおいて開演、場面転換、終演の時に登場する宇宙の山グヌンガンを表現している。表には樹木と建物と一つ目の霊獣、虎、水牛、蛇、猿、鳥、棍棒を持つ怪人、裏には巨大な獣面が描かれている。

128 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブトロ・グル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 75.5cm 像高 46.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。穿孔・操作棒組立の後に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。

129 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウモ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 52.0cm 像高 33.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

130 ○名　　称　ワヤン・クリ　ユディスティロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 38.1 像高 25.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

131 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウルクドロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 61.5cm 像高 40.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

132 ○名　　称　ワヤン・クリ　アルジュノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 70.5cm 像高 49.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

133 ○名　　称　ワヤン・クリ　アルジュノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 66.4 像高 45.8cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

134 ○名　　称　ワヤン・クリ　ノロヨノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 64.8 像高 43.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

135 ○名　　称　ワヤン・クリ　クレスノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 73.0 像高 51.6cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後、本体部分に彩色を施す。

136 ○名　　称　ワヤン・クリ　カルノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 68.5 像高 49.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

137 ○名　　称　ワヤン・クリ　スラティモントロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 92.5 像高 69.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品3つを組み立て、水牛の角の操作棒2本をつけている。肩の上端で、あごひげが見えるように腕の部品を切り欠いている。本体部分に彩色を施す。

138 ○名　　称　ワヤン・クリ　コンソ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 83.0 像高 59.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

139 ○名　　称　ワヤン・クリ　スムボドロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 54.0 像高 34.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

140 ○名　　称　ワヤン・クリ　スリカンディ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 52.3 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

141 ○名　　称　ワヤン・クリ　バヌワティ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 54.8 像高 37.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

142 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　像高 39.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜い部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけていたが操作棒は欠落。全身には彩色を施す。

143 ○名　　称　ワヤン・クリ　バユン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 34.8 像高 25.8cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品3つを組み立て、水牛の角の操作棒2本をつけている。本体部分に彩色を施す。

144 ○名　　称　ワヤン・クリ　スマル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、木、竹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 63.6 像高 39.3cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、木や竹の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

145 ○名　　称　ワヤン・クリ　ガレン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、竹、人毛、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 60.0 像高 41.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角や竹の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色。

146 ○名　　称　ワヤン・クリ　ペトル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、木、竹、人毛、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 79.2 像高 57.0cm

○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、木や竹の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色を施す。

147 ○名　　称　ワヤン・クリ　バゴン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、竹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 65.2 像高 42.1cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、竹製の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色を施す。

148 ○名　　称　ワヤン・クリ　アノマン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　牛の革、竹、プラスティック、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 59.2 像高 43.5cm
○作品概要　牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、竹製の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

(3) 編入（500 件）
＜歴史資料＞(500件)
1　○名　　称　歴史資料（れきししりょう）
○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
○員　　数　500 件
○作品概要　「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和13年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群を基礎としている。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分には、幕末明治期の画家菊池容斎旧蔵の資料、黒田清輝関係の資料、錦絵等が含まれている。

（参考）
既存列品への編入（33件）
＜法隆寺献納宝物＞
○名　　称　鳳凰文刺繍残欠（ほうおうもんししゅうざんけつ）ほか
○員　　数　33件
○作品概要　法隆寺献納宝物の一部とみられる上代裂を含む。平成 26 年度修理完了に伴い、法隆寺献納宝物の旧ガラス挟み上代裂の一括資料に追加するかたちで未整理品から列品に編入する。
※　法隆寺献納宝物の一部とみられる上代裂を含む関係上、旧ガラス挟み上代裂の一括資料として既存の列品に枝番号を追加する形で編入する。

【京都国立博物館】(計 423 件)
(1) 購入(18 件)
＜絵画＞(4 件)
1　○名　　称　池大雅像（いけのたいがぞう）
○作 者 等　福原五岳筆
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 88.0cm、横 29.1 ㎝
○作品概要　池大雅の肖像画は数本が現存しているが、大雅の弟子・福原五岳（1730～99）の筆になる本作はそれらの中でも最も優れた出来映えを示す一点として知られている。画面上部には大雅風の書で像主の略伝が記され、本作が遺像であることが分かる。片膝をついてその上に両手をのせ、やや前かがみの姿勢をとる表情は憂いを含み、病床の姿を写したものとも考えられている。精緻な面貌描写は、生前の像主の姿を彷彿とさせて見事である。

2　○名　　称　花見遊楽図屏風（はなみゆうらくずびょうぶ）
○作 者 等　狩野養信筆
○時　　代　江戸時代(19 世紀)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　2 曲 1 隻
○寸 法 等　縦 137.6cm、横 147.8 ㎝
○作品概要　江戸・御殿山付近から品川沖を俯瞰的にとらえた作品である。画面下部の近景には桜が咲き誇り、幔幕が張られたなかで人々が思い思いに花見を楽しんでいる。船が多数停泊する品川沖を中心に、これを囲むように東海道と思われる街道が伸び、漁の様子や活発な往来も細緻に描かれる。富士山は群青の塗り残しによってあらわされており、峰には金泥の霞がかかるといういかにも江戸好みの洗練された趣である。破綻のない見事な遠近表現には西洋絵画等からの影響も看取され、その中に名所絵・四季絵・風俗画といった諸要素を含む点でも注目すべき作品である。

3　○名　　称　四季山水図屏風（しきさんすいずびょうぶ）
○作 者 等　久隅守景筆
○時　　代　江戸時代(17 世紀)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各縦 149.9cm、横 345.8 ㎝
○作品概要　季節を示す景物は明瞭ではないが、雨中の柳や雪山の描写から四季山水図を構成していると考えられる。左右隻で視点を異にする点も含め、狩野探幽筆「山水図屏風」（東京国立博物館）との親近性が顕著である一方、景物の重層的な配置により空間に奥行きを与える表現は雪舟画にならうものである。探幽門下の有力弟子としてその大きな影響を受けつつ、さらにおそらくは直接的に雪舟画をも摂取して、自己の様式を確立していったことが見て取れる初期の大作としての価値は高い。

4　○名　　称　四季花鳥図屏風（しきかちょうずびょうぶ）
○作 者 等　源琦筆
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各縦 156.8cm×横 356.8 ㎝
○作品概要　右隻には梅・薔薇・山吹と雉・鷺、左隻には芙蓉・寒菊・椿と四十雀・鴛鴦といったモチーフが配され、一双を通じて四季を巡らせる四季花鳥図である。応挙譲りの緻密で華麗な鳥たちの描写と、控えめの優しい彩色による草花の描写が大きな見どころとなっている。梅樹の描写は寛政

7年（1795）作の大乗寺障壁画に類似し、近い制作時期を想定することも可能であろう。色感は吉村孝敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」（奈良県立美術館）にも通じ、応挙以降の円山派の流れを考えるうえでもこうした大作は注目される。

＜書跡＞(3件)

5　○名　　称　漢書楊雄伝第五十七（かんじょようゆうでんだいごじゅうなな）
　　○指　　定　国宝
　　○時　　代　中国・唐時代(7世紀)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　縦27.5cm、全長1385.4cm
　　○作品概要　尾題に「楊雄伝第五十七」とあること、および本文の内容から、後漢の班固が著し、唐の訓詁学者として著名な顔師古（581～645）が注をほどこした『漢書』楊雄伝の写本である。楊雄（字は子雲、前53～後18）は前漢の文学者・哲学者・言語学者で、王音に文才を認められ朝廷に仕えた。『四庫全書』所収の同本と比較すると、巻頭より2紙分、39行程度が欠けていると思われるものの、全体では26紙分が残存する。欧陽詢風の字高のたかく力強い線の字すがた、あるいは唐の高祖（李淵）や太宗（李世民）の「淵」や「民」に諱を避けるための欠筆が存在することから、書写年代は唐時代の7世紀にまでさかのぼるとみてよい。巻末の加点奥書が示すように、文中の随所には、数度にわたり訓点が付されている。

6　○名　　称　正親町天皇宸翰御消息 蘭奢待云々 九条稙通宛（おおぎまきてんのうしんかんおんしょうそく　らんじゃたいうんぬん　くじょうたねみちあて）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　桃山時代(16世紀)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦34.7cm、横99.9cm
　　○作品概要　ウハ書に据えられた花押は、「正親町天皇宸翰消息」（重要文化財、大雲院蔵）と比較しても同一であり、散らし書きの体裁をとる確実な正親町天皇の宸筆である。内容は天正２年（1574）３月、東大寺三倉に収められた名香「蘭奢待」の小片を下賜するにあたり、九条稙通（1507～94）にあてたもの。蘭奢待はベトナム付近を産出地とする沈香で、そのなかに「東大寺」の三文字を隠しもつ。三倉の開封には古来、厳重な儀式を必要としたが、『天正二年截香記』によれば、奏請から間もない３月28日、蘭奢待は織田信長の待ちうける多聞山城に運び出されたのち、二片が切りとられ、一片は信長が手許にとどめ、もう一片は正親町天皇に献上された。強引ともいえる信長の要請に応じざるを得なかった天皇の無念が滲む一方、決して揺らぐことのない字すがたは天皇の高い徳を示すものといえる。

7　○名　　称　寸松庵色紙（ちはやふる）（すんしょうあんしきし(ちはやふる)）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　平安時代(11世紀)
　　○品　　質　彩牋墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦12.7cm、横12.2cm
　　○作品概要　「寸松庵色紙」は、伝小野道風筆の「継色紙」と伝藤原行成筆の「升色紙」とともに、三色紙とよばれる古筆の名品で、紀貫之（872～945？）を伝称筆者とする。大徳寺龍光院の子院である寸松庵に住した茶人・佐久間真勝（あるいは直勝とも、1570～1642）が愛蔵したことから、その名がある。40枚程度が確認されるなかで、草花文様が鮮やかに残る唐紙に、『古今和歌集』巻第5・294番歌＝在原業平の有名な「ちはやふる…」一首を散らし書にする。自然でありながら品格あふれる筆跡は、優美な料紙とみごとに調和し、狭い紙面に上句と下句を巧みに配列することで、余白の広さを効果的に生み出すなど、もはや総合芸術といっても過言ではない。

＜金工＞(5件)

8　○名　　称　太刀　銘備中国住人左兵衛尉直次作／建武二年十一月　（たちめいびっちゅうのくにじゅうにんさひょうえのじょうなおつぐさく/けんむにねんじゅういちがつ）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　鎌倉時代(14世紀)
　　○品　　質　鉄鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等(cm)全長91.4、刃長70.7、茎長20.7、鋒長2.9、刀身反2.4、元幅3.2、先幅2.1、元重0.7、先重0.6
　　○作品概要　本品は使い勝手を良くするため、後年になってわずかに磨上げられてはいるものの、銘文は全文判読可能である。刀身部分の作行も非常に良好で、刃中の働きが極めて豊富かつ繊細なうえ、身幅広く、やや重が薄い点に南北朝時代につながる時代的な特徴を見て取ることができる。当館所蔵の青江鍛冶の作品は重要文化財「太刀　銘包次」１件のみであり、備中鍛冶の全体像を見渡すためにも、鎌倉時代最末期・建武二年の年紀がある本品は基準作として極めて重要である。

9　○名　　称　刀　銘越後守藤原国儔(かたな　めいえちごのかみふじわらのくにとし）
　　○時　　代　桃山時代(17世紀)
　　○品　　質　鉄、鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等　刃長65.7㎝　反り2.4㎝　目釘孔1個
　　○作品概要　桃山時代の京都で繁栄した刀工集団堀川派の名工・越後守藤原国儔の打刀。鍛錬の細やかな地鉄に、ゆったりとしたのたれに互の目を交えた刃を焼き、沸がよくつき、砂流しがかり、帽子は浅くのたれて小丸に長く返るなど、末関風の色彩を色濃くあらわしている。さらに注目すべきは、本品の刀姿である。寸つまりで、先反りのついた体配を示し、茎も片手打風に刀身に比して短く造り込んでいるなど、姿までも室町末期の打刀の形状を忠実に写している。

10　○名　　称　太刀　銘備州長舩家守／應永元年十月日(たち　めいびしゅうおさふねいえもり／おうえいがんねんじゅうがつじつ)
　　附　牡丹金襴包鞘花唐草文金具毛抜形太刀拵(つけたり　ぼたんきんらんつつみさやはなからくさもんかなぐけぬきがたたちごしらえ)
　　○時　　代　【刀身】室町時代(14世紀)、拵】江戸時代（19世紀）
　　○品　　質　【刀身】鉄、鍛造、【拵】木胎、金襴包、銀鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等　【刀身】刃長69.8㎝　反1.95㎝　目釘孔1個、【拵】全長98.3㎝　鞘長75.0㎝
　　○作品概要　太刀は身幅がやや研ぎ減っているものの、重が一段と厚く、先方にも反りが付いた堂々とした太刀姿を示しており、室町時代前期の特色を備えている。地鉄に見られるやや肌立った杢目交じりの板目肌は室町時代の備前刀に顕著なもので、淡い映の立つ小互の目・小丁子交じりの刃文とあわせて小反り派の典型作と言える。応永元年の年紀を有することからも基準作として申し分ない。
拵は、金具類の彫金技法も極めて洗練されており、みやこの工人の確かな技術が伺える名品と言える。この拵は文久三年に本阿弥家と並ぶ研師の名門、竹屋家が家守の太刀に合わせて製作したもので、製作に当たって関与した各分野の工人の名前を列記した仕様目録が付随する点が極めて重要である。

11　○名　　称　龍虎図二所物　小柄　銘天保九戌年首冬作後藤法橋一乗（花押）(りゅうこずふたところもの　こづか めいてんぽうきゅういぬどししゅとうさく ごとうほっきょういちじょう(かおう))
　　笄　銘後藤光代入道法橋一乗（花押）(こうがい めいごとうみつよにゅうどうほっきょういちじょう　(かおう))

○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　赤銅、鍛造、彫金
○員　　数　1 組
○寸 法 等　【小柄】長 9.7 ㎝　幅 1.45 ㎝、【笄】長 21.2 ㎝　幅 1.2 ㎝　75.0 ㎝
○作品概要　この二所物は、表面に極小の魚々子鏨で整然とした魚々子を敷き詰め、そこに虎と龍を描くことで二者をあわせて龍虎のモチーフとしている。黒一色の地に彫り込まれた龍虎の図は極めて細密で、後藤家伝統の図案を一乗が群像風にアレンジしたものである。龍の鱗の一枚、虎の毛並みの一筋に至るまで一切の破綻が無く、一乗の彫物師としての技量の高さがいかんなく発揮されている。さらに付属する桐箱は一乗自身の手による墨書がなされた共箱であり、天保 9 年（1838）の年紀もあることから資料性が極めて高い。

12 ○名　　称　乙女図小柄　銘後藤法橋一乗（花押）（おとめずこづか めいごとうほっきょういちじょう(かおう)
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　赤銅、鍛造、彫金
○員　　数　1 口
○寸 法 等　長 9.7 ㎝　幅 1.42 ㎝
○作品概要　赤銅を基材として、裏に金板を接合し、表面にオカメ顔の女性像を高肉に彫出す。着物や瓢に素銅や金・銀などの色彩豊かな金属を象嵌することでモチーフを引き立てる色絵技法がふんだんに盛り込まれた華やかな作品である。さらに付属する桐箱は一乗自身の手による墨書がなされた共箱であり、資料性が極めて高い。

＜陶磁＞(4 件)

13 ○名　　称　錆絵寒山拾得図角皿　（さびえかんざんじっとくずかくざら）
○指　　定　重要文化財（28 年度指定）
○作 者 等　尾形光琳・乾山合作
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　軟質陶胎
○員　　数　1 対
○寸 法 等(㎝)寒山図　高 3.2、幅 21.8×21.9、底径 21.2×20.9、
拾得図　高 3.1、幅 21.8×22.0、底径 21.0×21.1
○作品概要　型作り成形された正四方の一対の角皿である。縁は切立縁で、底部の周縁を面取りに仕上げている。総体に白泥による白化粧をし、マンガン質の鉄絵具で人物や賛を表して朱で印を捺し、その上に透明釉を施している。二枚ともに見込周縁を界線で囲んで、中ほどに人物図を描き、その左右に賛や銘文、落款を捺している。

14 ○名　　称　灰陶加彩辟邪形器座　（はいとうかさいへきぎゃがたきざ）
○時　　代　中国・漢代(紀元前 1～3 世紀)
○品　　質　土器
○員　　数　1 基
○寸 法 等　高 12.2cm、幅 20.3cm×12.1cm
○作品概要　本作は中国・漢代の俑である。顔先が短く、虎のような顔をした獅子形の俑で、とぐろを巻いてうずくまるような姿をしており、肩には羽根を閉じたような表現がなされていることから、辟邪を表現したものと思われる。胴部には、ヘラ彫り毛並みが表され、その上から朱色の彩色が施されている。底はなく、内部は中空となっており、中央に穴があけられている。旗を指すものとして用いられたり、四神のように四方に配して、構造物の台座の一部として用いられたりと、いくつかの用途が考えられる。

15 ○名　　称　色絵栄花物語冊子形硯箱　（いろええいがものがたりさっしがたすずりばこ）
○時　　代　江戸時代(18～19 世紀)
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.6cm、幅 22.5cm×15.4cm
○作品概要　『栄花物語』の和装本を積み上げた状態をかたどった硯箱である。冊子を七冊重ねた状態で、一冊づつの厚さも異なるなど、細部へのこだわりもみえる。白釉の地に「栄花物語　御賀」と錆絵で記し、紗綾文地を紺の絵具、菊花を赤、緑の絵具と金彩で描いている。一般に古清水と総称される色絵陶器の一群である。ただし、極端に色挿しをして盛り上げてはいない。また、蓋上の菊文の部分には透かし彫りがみられる。印や銘などはみられない。京都では江戸時代以降、いわゆる京焼という一大窯業地として、多くのやきものが作られてきており、本作もその流れを語る上でも欠かすことができないものである。

16 ○名　　称　色絵三番叟香炉　（いろえさんばそうこうろ）
○時　　代　江戸時代(19 世紀)
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 31.2cm
○作品概要　能の演目である「式三番」の後半に演じる舞である「三番叟」をあらわした色絵の香炉である。直面でおどけた表情をみせる。頭部と背中の香を入れる部分が外せることができ、口と鼻が煙出しとなっている。衣装は、亀甲文、青海波文の地紋に松竹と鶴、宝相華文が描かれている。青色、緑色の絵具を基調とし、縁取りに金彩を用い、上絵付は厚く塗られている。顔と手、底部については無釉で、眉や目、口、そして烏帽子紐には色付けがされている。

＜漆工＞(1 件)

17 ○名　　称　桐竹鳳凰菊桐紋蒔絵広蓋　（きりたけほうおうきくきりもんまきえひろふた）
○時　　代　桃山時代(16～17 世紀)
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、金銅製縁
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　54.0cm×56.9cm　　高 9.2cm
○作品概要　本品は、全体を梨地とし、見込みから内側面にかけて、金薄肉高蒔絵、金平蒔絵、金付描、金銀の金具、金銀の切金を組み合わせた本格的な蒔絵技法で、土坡に桐竹、岩、雲、下草類、そして鳳凰の番いを表した、きわめて豪華な品である。外側面と底裏には金平蒔絵、金銀金具、金付描で、菊桐紋を並べ置いている。底裏にも文様があるのは、そこが衣装箱の蓋表であったときの名残ととらえられ、この盆が広蓋の初期例であることを示唆している。さらにいえば、本来は王者のみに許される文様であった桐竹鳳凰という文様や、菊桐紋の組み合わせ、蒔絵の質の高さなどを考え合わせると、豊臣家周辺で作られた品であるとも想定できる。家紋を置く装飾法も含め、のちに定型化する婚礼調度としての広蓋の源流に位置づけられる品ということができよう。

＜染織＞(1 件)

18 ○名　　称　紅文綾地菱亀甲文様総鹿子絞繍小袖　（べにもんあやじひしきっこうもんようそうがのことしぼりぬいこそで）
○時　　代　江戸時代(17 世紀)
○品　　質　絹
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 147.0cm、裄 61.0 ㎝、袖丈 41.5 ㎝
○作品概要　粒状の鹿の子絞りを全体に連ね、絞り残した部分で小ぶりの亀甲と菱の輪郭線を表現した、総鹿の子絞りの小袖である。このように、地落ちで

文様を表現した総鹿の子絞り小袖は、一般的には、江戸時代後期に町方の女性が晴着として着用した作例が多いが、この1領は、それらよりも明らかに製作年代が遡る要素を含むことから、本小袖の製作年代は、17 世紀後半の寛文期周辺と考える。仕立て直しの痕跡は認められるものの、17 世紀半ば頃の欠失部分のない小袖が市場に出回ることは極めて稀である。

(2)寄贈(405 件)

＜絵画＞(6 件)

1 ○名　　称　棕櫚図（しゅろず）
○作 者 等　林閬苑筆
○時　　代　江戸時代
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦134.4cm、横49.5cm
○作品概要　画面一杯に棕櫚を描く大胆な筆墨が魅力的な作品である。閬苑は18世紀後半に大坂で活躍した画人で、緻密な着色画と同時にこのように粗放な水墨画も手がけた。

2 ○名　　称　筍図（たけのこず）
○作 者 等　伊藤若冲筆
○時　　代　江戸時代（18世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦110.0cm、横31.0cm
○作品概要　若冲の墨竹図は少なくないが、筍図は主題として珍しい。小品ながら筆墨は冴え、その濃淡のコントラスト等から明和～安永年間（1764～81）頃の制作が想定される。着賛年の「辛卯」が明和8年（1771）とすれば、画賛がほぼ同時期であった可能性も考えられる。

3 ○名　　称　船団図（せんだんず）
○作 者 等　狩野永信筆
○時　　代　江戸時代（19世紀）
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦99.7cm、横36.5cm
○作品概要　招福画題である宝船図にも見えるが、様々な紋があしらわれた帆をはためかせ進む船団を描くのは珍しく、当時廻船問屋であった旧蔵者の家業と関わる可能性も考えられる。永信の出自は不詳ながら、京狩野9代永岳の養子と伝わる。

4 ○名　　称　菊桔梗群鵐図（きくききょうぐんしゅんず）
○作 者 等　土佐光起筆
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦43.6cm、横95.0cm
○作品概要　今尾景年旧蔵の作品で、もとは風炉先屏風であったという。画面は中央付近で巧妙に継がれており、掛軸への改装の際に画面が横方向に縮められたものとみられる。鵐や菊花の描写はきわめて精細で、光起の優れた画技を示す優品である。景年の子、景祥の箱書きをともなう。

5 ○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　王昆筆
○時　　代　清時代（17世紀）
○品　　質　（各）金箋墨画
○員　　数　2幅
○寸 法 等　（落款あり）縦161.5cm、横47. 6cm　（落款なし）縦143.8cm、横47.2cm
○作品概要　明末清初に流行した金箋の長条幅の山水図。2幅のうち1幅に「甲午仲春写、王昆」の落款があるが、「王昆」は逸名の画家である。金陵（南京）派の龔賢の構図に、勢いのある筆致は常州の惲向に似ており、現在の江蘇省あたりの作を思わせる。「甲午」の年紀は清・順治11年（1654）であろうか。江戸時代に日本にもたらされ、越後（新潟県）の旧家に伝来した。

6 ○名　　称　梟図 淀藩稲葉家伝来品のうち（ふくろうず よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○作 者 等　徳川家光筆
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦50.1cm、横30.0cm
○作品概要　3代将軍家光の筆と伝わる作品である。絵そのものは素人芸の域を出ないが、やはり家光筆として伝わる「枯木梟図」（久能山東照宮）とは画題・様式ともにきわめて近く、伝来からしても家光の作として問題ないと思われる。将軍のたんなる手すさびというより、威信財としての積極的な意義を有したものであろう。

＜金工＞(47 件)

7～18 ○名　　称　槍　銘△長谷部国信(やり　めい△はせべくにのぶ)　1口　ほか
○時　　代　南北朝時代～江戸時代
○品　　質　刀剣及び刀装具類
○員　　数　12件
○作品概要　兵庫県の愛刀家蒐集の刀剣類及び刀装具のコレクション。刀装具は種類・産地・作者の幅が広く、今後の展示・研究に大いに活用が見込まれる。また、特筆すべきは南北朝時代の「槍　銘△長谷部国信」で、これまで知られていた鎌倉時代の「槍　銘来国次」に次ぐ槍の古作であり、武装の発生と進化を考える上で極めて重要な作例である。

19～53 ○名　　称　脇差　無銘(わきざし　むめい)　1口　ほか
○時　　代　鎌倉時代～近代
○品　　質　刀剣及び刀装具類
○員　　数　35件
○作品概要　京都府の居合道師範蒐集の刀剣類及び刀装具のコレクション。来派・長谷部派など京都由来の刀工の作品が多く、立命館大学で近代に製作された刀剣など時代・作者の幅も広い。刀装具や刀剣文化に関係する資料も充実しており、中でも室町時代前期にかかる「黒漆太刀拵」や、江戸時代の「試刀術」の大家・山田浅右衛門家の試斬絵図巻など、貴重な作品が含まれている。

＜陶磁＞(204 件)

54 ○名　　称　華南三彩印花双魚文盤(かなんさんさいいんかそうぎょもんばん)
○時　　代　江戸時代
○品　　質　陶器

○員　　数　1枚
○寸 法 等　口径30.1cm×30.2cm、高台径17.3cm×17.7cm、高5.1cm
○作品概要　川に泳ぐ二匹の魚と川海老、水草などを線刻と彩色によって表現した皿である。口縁部を輪花状に成形し、白色の素地の上に緑色を基調として、黄色と紫色の釉薬を掛けて彩色を施している。中国・明代に華南地域で焼かれた鉛釉陶器を日本国内において写して焼いた皿と思われるが、中国産の可能性を含め、産地や年代などについて今後検討を要する。

55　○名　　称　青白磁刻花文香合(せいはくじこっかもんこうごう)
○時　　代　清時代（19 世紀）以降
○品　　質　磁器
○員　　数　1合
○寸 法 等　口径5.7cm×6.0cm、胴径7.1cm、底径4.5cm、高5.3cm
○作品概要　甲の部分に枝梅、その周りに牡丹唐草文を型押し成形で表現した香合である。中国・宋代から元代にかけ、江西省の景徳鎮窯を中心に焼かれたやや青味を帯びた白磁を、清時代以降に景徳鎮窯周辺で写して焼いたものと思われる。詳細な年代等については、今後検討を要する。

56　○名　　称　亀香合　(かめこうごう)
○作 者 等　樂吉左衛門作
○時　　代　明治時代～昭和時代
○品　　質　陶器
○員　　数　1合
○寸 法 等　口径7.2cm×5.2cm、胴径7.1×9.2cm、底径5.7cm×3.8cm、高6.0cm
○作品概要　楽焼の亀形香合である。中国・華南地域で焼かれた交趾焼と呼ばれる三彩陶器の香合を楽焼で写して焼いたものである。型押し成形で作られており、蓋裏には丸枠印に「樂」と書かれた印が捺されている。樂家で焼かれたものと思われるが、詳細について今後検討を要する。

57～257　○名　　称　瀬戸一重口水指　銘谷陰(せとひとえぐちみずさし　めいたにかげ)ほか
○時　　代　明時代、清時代、朝鮮時代（17 世紀）、古墳時代、奈良時代、江戸時代～明治時代（17～19 世紀）
○品　　質　陶器、磁器、須恵器、玉器、ガラス
○員　　数　201件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「瀬戸一重口水指　銘谷陰」、「伊賀耳付花入」、「三島平茶碗」、「刷毛目茶碗」などの茶道具を中心に、「金彩交趾釉葉形鉢　高橋道八作」、「染付山水文徳利・染付菊梅図猪口 尾形周平作」、「染付祥瑞文盃台　貝塚焼 」などといった京焼や関西の諸窯の作品を含む陶磁器の品、そして、「青花百寿文字鉢 」「青花唐花唐草文福寿文字鉢 」をはじめとした清朝陶磁など 201 件。

＜漆工＞(132 件)

258～384　○名　　称　鳳凰蒔絵笙　（ほうおうまきえしょう）ほか
○時　　代　江戸～昭和時代（17～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵／螺鈿／漆絵／箔絵／沈金、あるいは竹製など
○員　　数　127件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、蒔絵の楽器や化粧箪笥のほか、永田友治や長野横笛らによる蒔絵の重箱、椀、盃、盃台、提重、数十人前の膳椀具一式など、幕末から明治にかけて活躍した関西圏の豪商の暮らしぶりを伝える漆工品および木竹工品。

385　○名　　称　蓮唐草蒔絵巾着形合子　(はすからくさまきえきんちゃくがたごうす)
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代～明治時代（19 世紀）
○品　　質　乾漆または紙胎、漆塗、蒔絵
○員　　数　1 合
○寸 法 等　幅7.35cm、奥行き7.48cm、高4.22cm
○作品概要　薄造りな乾漆または紙胎で巾着形を象った印籠蓋造の合子。表面に微細な蒔絵で巾着に根付けをぶら下げた様子を表す。蓋裏に近代フランスの美術商のシールが貼られており、一度、19 世紀パリへ売られていった品が里帰りしたとわかる。南蛮漆器同様、欧米で人気を博した小箱類は、浮世絵の場合と同じように日本にあまり残っていない。本品は、近代ヨーロッパにおける蒔絵の需要を物語る好例である。

386　○名　　称　楓蒔絵螺箱　(かえでまきえつづみばこ)
○作 者 等　不詳
○時　　代　明治～大正時代（19～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、内布張り
○員　　数　1 合
○寸 法 等　縦30.0cm、横25.2cm、高27.5cm
○作品概要　木製、長方形、唐戸面取を施した印籠蓋造の箱。黒地に金銀の研出蒔絵や朱金の技法で琳派風の楓を描く。明治時代末から大正時代ごろの琳派復興の流行に合わせて作られた品と思われる。内部に雲に麒麟文様の金襴を張っており、プロポーションからも鼓箱であろう。当時は能楽の復興期でもあり、豪商たちのあいだで能楽を嗜む者も増えていた。残念ながら鼓は入っていないが、時代の流行をよく反映した遺品である。

387　○名　　称　楼閣人物堆錦八角盆および唐子堆錦香合　(ろうかくじんぶつついきんはっかくぼんおよびからこついきんこうごう)
○作 者 等　不詳
○時　　代　明治～大正時代または清時代（20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、堆朱、堆黄、堆錦
○員　　数　1 括
○寸 法 等　盆：径28.7cm、高2.7cm
香合：径7.6cm、高2.4cm
○作品概要　八角形で外周を垂直とし、内周を緩やかに立ち上がる縁として、底裏に太い畳付きを巡らせた盆と、円形、甲盛、印籠蓋造の合子。はじめに黄漆を厚く塗って雲紋や波紋を彫り、その上に楼閣や八仙や唐子を彫った堆朱片を張ったような、特異な技法の品。近代日本の彫漆である可能性があり、今後の研究の好材料となるであろう品である。

388　○名　　称　裏白笹蒔絵香盆　淀藩稲葉家伝来品のうち　(うらじろささまきえこうぼん　よどはんいなばけでんらいひんのうち)
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（17～18 世紀）
○品　　質　木製、蒔絵
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦13.5cm、横21.0cm、高さ2.4cm
○作品概要　長方形で縁をつけ、四つ足をつけた小型の盆。木地に金銀の薄肉高蒔絵で、雲間の月や岩に裏白などの植物を表し、口縁を金地とする。香道具を乗せて用いる香盆である。淀藩稲葉家の子孫から家伝の品を寄贈されたものであり、大名家の奥向きの道具として素性のはっきりした品である。

389　○名　　称　道中箸盃　淀藩稲葉家伝来品のうち　(どうちゅうばしさかずき　よどはんいなばけでんらいひんのうち)
○作 者 等　不詳

○時　　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　　質　乾漆、漆箔、竹製、漆塗、象牙、絹
○員　　数　1 具
○寸 法 等　【盃】径5.2cm、高さ2.5cm【箸入れの筒】縦2.3cm、横1.8cm、長さ16.6cm
○作品概要　乾漆製の小型の椀の内を漆箔とした杯と、象牙製の蓋をつけた竹筒に納められた竹製で片面だけ黒漆を塗った箸三膳。煙管筒と煙草入れのように、箸筒に絹で編んだ網を繋いでそこに杯を納める携帯用の飲食器である。淀藩稲葉家の伝来品であり、単なる行楽用の品ということではなく、参勤交代の道中を楽しむための食器であったかもしれない。

＜染織＞(3件)

390 ○名　　称　衣裳類　淀藩稲葉家伝来品のうち　（いしょうるい　よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○時　　代　江戸時代　17～19 世紀
○品　　質　絹（染、刺繍など）、革
○員　　数　1 括
○作品概要　淀藩主稲葉家に伝来した女性の衣裳（小袖裂、打掛、振袖、帯）6 種と、男性の衣裳（陣羽織）1 種。小袖裂は稲葉家の出身である春日局着用との包紙を伴い、江戸時代前期の作例として極めて重要である。そのほかの女性の衣裳は着用者名までは判明していないが、江戸時代後期に用いた品が中心である。当館は当該時期の武家女性の服飾を相当数所蔵しているが、伝来が判明する作例は僅かであり、本衣裳類は基準となる作例である。

391 ○名　　称　髪飾り類　淀藩稲葉家伝来品のうち　（かみかざりるい　よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○作 者 等
○時　　代　江戸時代　19～20 世紀
○品　　質　鼈甲、銀など
○員　　数　1 括
○寸 法 等
○作品概要　淀藩主稲葉家に伝来した女性の髪飾り、37種。所用者は判明していないが、幕末に用いた儀礼用の大ぶりな鼈甲製のもの加え、明治時代に入って用いた普段使いの小ぶりな品を含む。使用階層がはっきりした髪飾り類として、基準となる作例である。

392 ○名　　称　鞋　花唐草文様刺繍　（あい　はなからくさもんようししゅう）
○時　　代　清時代　19～20 世紀
○品　　質　木綿（刺繍）
○員　　数　1 足
○寸 法 等　長14.5cm　幅5.0cm
○作品概要　中国・清時代の女性が着用した鞋（靴）。当時の中国では小さい足の女性を尊び、足を大きくさせない纏足の風習があった。そのため、この鞋は、たいへん小ぶりな寸法で製作されている。爪先を黒地の天鵞絨でくるみ、それ以外の部分は白木綿地に絹糸で花唐草の刺繍を施した生地で覆う。鮮やかな刺繍糸は化学染料の色調を呈しており、製作年代は近代であろう。裏地は革貼り。

＜考古＞(5件)

393 ○名　　称　金環（きんかん）
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 3.2 ㎝、横 3.5 ㎝
○作品概要　古墳時代後期に流行した C 字形の耳環。出土地は不明。鍍金が厚くて鮮やかである。

394○名　　称　金環（きんかん）
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 3.0 ㎝、横 3.3 ㎝
○作品概要　古墳時代後期に流行した C 字形の耳環。出土地は不明。鍍金は剥落。

395 ○名　　称　単鳳環頭大刀柄頭(たんぽうかんとうたちつかがしら)
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 7.5 ㎝、横 6.1 ㎝
○作品概要　古墳時代後期の装飾付大刀の柄頭。出土地不明。環内に一羽の鳳凰の頭部を表現するもの。鍍金の状態も良好で展示効果が高い遺物である。

396 ○名　　称　百万塔(ひゃくまんとう)
○時　　代　奈良時代(8 世紀)
○品　　質　木製
○員　　数　1 基
○寸 法 等　現高 13.3 ㎝、底径 10.5 ㎝
○作品概要　奈良時代に百万基作られたとされる木造百万塔。相輪と陀羅尼経が失われていることに加え三層目の笠部に欠損がある。表面の白土もほぼ剥落している。底面にはロクロの爪痕が残るが墨書などはない。研究用資料。

397 ○名　　称　陶質土器　高坏(とうしつどき　たかつき)
○時　　代　古新羅時代(6 世紀)
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.8 ㎝、径 9.8 ㎝
○作品概要　坏部下面に「慶州」の朱書きがある。韓国慶尚北道慶州で出土した古新羅時代の高坏とすることができる。同地の古墳からはーか所で数百から千個もの陶質土器が出土するのでこれもそのひとつ。日本の須恵器高坏と並列展示して違いを理解するに相応しい。

＜歴史資料＞(8件)

398 ○名　　称　引伸機　フォコマートⅠ型
○時　　代　1930 年代
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L515㎜×W400㎜×H670㎜(1000)　支柱：600㎜

○作品概要　・引伸機・・・ドイツ　エルンスト・ライツ社（現ライカ）。自動焦点引伸機。レンズなし。本体は黒塗金属製、白文字で「E.LEUTZ WETZLAR GERMANY」を表記。シリアルナンバーなし。台座は木製。台座にイーゼルマスク用の溝あり。35mm フィルム用
・イーゼルマスク・・・台座は木製。台面に印画紙の角当てが上・左側につく。マスクは金属製。縦側 3－22cm. 横側 4－27cm までの表記あり。MSAK STANDERI の表記あり
・イーゼルマスク固定金具・・・黒塗金属製。フォコマートⅠ型台座の溝部分に填め込みイーゼルマスクを固定する

399 ○名　称　引伸機　スターライコンⅡ型
○時　代　1900 年代中期
○員　数　1 台
○寸 法 等　L473mm×W392mm×H880mm(1220)　支柱：810mm
○作品概要　日本　上田写真機店（大阪心斎橋）。本体は黒塗金属製。赤バッジで「REGISTERED ☆ TRADE MARK　STAR-LEICON UNIVERSAL ENLARGER MOD.Ⅱ MADE IN JAPAN」表記。台座は木製。台座は将棋の駒型で、イーゼルマスク用の溝あり。ロールフィルムのブローニー判、及び、ガラス乾板の名刺判（60*84mm）用引伸機。表記には、会社名は書かれてないが、1937 年（昭和 12 年）に発行された「コンタックスの使い方」　著者：田頭良介　発行所：アルス　に、スターライコンⅠ型が大阪の上田写真機店より発売されている記載がある。

400 ○名　称　カメラ　No.3A オートグラフィック コダックスペシャル　モデル B
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 式
○寸 法 等　収納：L120mm×W48mm×H240mm　組立：L120mm×W210mm×H240mm
○作品概要　アメリカ　イーストマン・コダック社。フォールディングカメラ。黒革張。折り畳み式蛇腹。ファインダー付。蛇腹引出部にシリアル No.16112。サイド社名表基板にシリアル No.13662。1914-1937 年にかけて制作された。ガラス乾板、とロールフィルムの両方が撮影できる蛇腹折りたたみ式カメラ。写真のイメージ枠は、現在のブローニー判 120 フィルムよりも大きい、122 フィルムを使い、80*140mm の画像が撮れる。ガラス乾板は付属のガラス乾板フォルダを使用し、85*135mm 枠と、変換用枠を取り付けて、手札判（80*105mm）、名刺判（55*80mm）の撮影ができる。本来、レンズは交換式ではなく、固定されているはずだが、背面より確認すると、無理矢理外されたような痕跡があり、本来であれば、518 コッダクアナスティグマット　F6.3　170mm のレンズがついたのではないかと推測される。

401 ○名　称　カメラ　カーバイン
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 台
○寸 法 等　収納：L155mm×W55mm×H27mm　組立：L155mm×W252mm×H270mm
○作品概要　フォールディングカメラ。黒革張。折り畳み式蛇腹。Carbine の標記のみ。距離計、ファインダー付き。ロールフィルムの 127 フィルム、キャビネ判（115*158mm）の撮影ができる。制作会社の表記は見当たらないが、イギリス　ホートンブッチャー&サンズ社が、カーバインシリーズを出しており、このシリーズの一つと思われる。ガラス乾板と兼用と思われるが、フォルダは見つかっていない。レンズは本体固定と思われるが、欠失している。

402 ○名　称　引伸機
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 台
○寸 法 等　L490mm(最長 1000)×W260mm×H400mm
○作品概要　壁面投影式引伸機。本体は木製。幻灯部は黒塗り金属製。構造は幻灯部・蛇腹・コンデンサーレンズ・ネガキャリア・蛇腹・レンズ。幻灯部は赤窓あり。電球台は上下・前後移動可能。煙突部分は取り外し可能。幻灯部の中を覗ける。コンデンサレンズにヒビあり。ガラス乾板専用の引伸機、ネガキャリアは、手札判（80*105mm）、180 度回転が可能。これにより、画像の縦横を変更できる。製造所名、及び、名称は全く記載なし。壁面に貼り付けた印画紙に向けて投影し、画像を拡大する。制作年代は不明であるが、514・515 の引伸機より構造は古い。

403 ○名　称　レンズ
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 括
○作品概要　・ウォレンサック　ヴェリート F4　7　1/4　in・・・アメリカ　ウォレンサック社。バレルレンズ（シャッター、及び、ヘリコイドを持たない「鏡胴だけ」のレンズのこと）。絞り F4-F45。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル No.13024 であり、バレルレンズと呼ばれる。絞りは F4-F45 まである。焦点距離　7　4 分の 1　インチ（180mm レンズに相当）。ヴェリートとは、ウォレンサック社が作った、故意にレンズ収差を残し、ピントが合った像が軟かいものとなるように設計されている写真レンズ。ポートレートに使われるレンズである。517 の引伸機とレンズマウントのピッチが合う。鏡胴内にかびあり。
・カール ツアイス イエナ　テッサー F4.5 18cm・・・ドイツ　カールツアイス社。バレルレンズ。絞り F4.5-F50。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル No.：643948。シリアル No.より、1925 年制作と思われる。鏡胴内にかびあり。
・コッダク　アナスティグマット　F6.3　170mm・・・アメリカ　イーストマン・コダック社。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル NO.18512。シャッター、ILEX　ACME　B.2～1/30、シリアル No.16794。アナスティグマットは、レンズの収差を補正したレンズのこと。非点収差（縦線横線のピントのずれ）と像面湾曲（中心ではシャープな像が見えるのに対し、周辺ではぼけた像になる。）を補正したレンズ。鏡胴内にカビあり。シャッターの羽は動くがシャッターは切れないカメラ　No.3A オートグラフィック コダックスペシャルについていたものと推測される。
・ボシュロム　ラピッド　レクチリニアー・・・アメリカ　ボシュロム社のレンズ。バレルレンズ。ねじ穴 3 カ所あり。絞りはなく、完全に鏡胴のみのレンズ。ラピッド　レクチリニアーとは、球面収差(樽型・糸巻き型）を補正したレンズ。鏡胴内にかびあり。

404 ○名　称　竹製遠眼鏡　大　岩橋善兵衛作(たけせいえんがんきょう　だい　いわはしぜんべえさく）
○時　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　質　竹、銅、紙、漆、ガラス
○員　数　1 本
○寸 法 等　径 8.8cm、長 242.4cm
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、貝塚の魚屋に生まれた岩橋善兵衛（1756～1811）が製作した大型の望遠鏡。岸和田藩主から譲り受け、廻船問屋であった旧家で、船が帰ってくるのを見るのに使ったものという。6 つの節のある大型の竹筒の節を穿ち、両端にレンズを固定した曲げもの製の筒を填めるが、先端のレンズは欠失している。(別のレンズ一枚が附属する)。竹筒の先端には「岩橋」の焼印がある。舶来品を観察してレンズ磨きの技術を学んだ善兵衛の望遠鏡は評判となり、日本各地の大名や天文学者たちに用いられた。

405 ○名　称　竹製遠眼鏡　小　岩橋善兵衛作(たけせいえんがんきょう　しょう　いわはしぜんべえさく）
○時　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　質　竹、籐、紙、漆、ガラス
○員　数　1 本
○寸 法 等　径 5.6cm、長 82.7cm
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、貝塚の魚屋に生まれた岩橋善兵衛（1756～1811）が製作した携帯用の望遠鏡。2 つの節のある 2 尺ほどの竹筒の節を穿ち、両端に杉製の曲物の筒にレンズを填めた機構をとりつけたもの。両端に黒塗りの蓋が附属する。レンズは一枚のみが現存し、もう一枚は平滑なガラスが填まっているため、現状では対象が小さく見えてしまうが、江戸時代後期に一世を風靡した元祖和製望遠鏡の実例として貴重である。

【奈良国立博物館】（計６件）

(1)購入（４件）

＜絵画＞**(3 件)**

1　○名　　称　絹本著色春日社寺曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがしゃじまんだら）
　　○時　　代　鎌倉時代　14 世紀
　　○品　　質　絹本著色　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 78.8 ㎝　横 31.9 ㎝　　表具　縦 161.1 ㎝　横 46.5 ㎝
　　○作品概要　春日社の景観と興福寺の主要堂塔安置の諸尊を一図に配した春日社寺曼荼羅の新出作品。鎌倉時代後期の春日宮曼荼羅の定型を踏襲しつつも、春日社景中には例を見ない小社を一の鳥居の先に描くなど希有な特徴をもつ。興福寺諸尊は台座や光背まで精緻に描かれており、現存しない像の詳細まで知られる点でも貴重な作品である。

2　○名　　称　紙本墨画帝釈天図像（しほんぼくがたいしゃくてんずぞう）
　　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　○品　　質　紙本墨画　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 92.1 ㎝　横 49.3 ㎝
　　○作品概要　立像の帝釈天を描く白描図像。墨書により本品は醍醐寺三宝院に伝来した珍海（1091～1152）筆様の十二天図像の一つと分かる。また鎌倉時代の図像収集家として知られる玄証の集めた図像の一つとも判明する。本品は反町家旧蔵の帝釈天図像（重要文化財、東京国立博物館蔵）と祖本を同じくする作品とみられ、日本初現期の十二天図像の一部として密教絵画史上きわめて重要な作品に数えられる。

3　○名　　称　紙本著色十巻抄（経法）（しほんちゃくしょくじっかんしょう〔きょうほう〕）
　　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　○品　　質　紙本着色　巻子装
　　○員　　数　1 巻
　　○寸 法 等　本紙　縦 30.2 ㎝　長 815.5 ㎝　　表紙　縦 30.2 ㎝　横 22.4 ㎝　　軸付紙　縦 30.2 ㎝　長 16.5 ㎝
　　○作品概要　「十巻抄」は平安時代末期に編纂された日本最古の図像集で、原本は伝わらず鎌倉時代の写本が伝存する。本品はその写本の一つであり、東寺観智院に伝来したもの。全 10 巻のうち巻第２は既に当館の蔵品となっており、他に帝塚山大学博物館や米ハーバード大学美術館の所蔵巻も知られている。本品の図像は堅実な作風をみせ、由緒の明らかな鎌倉時代の写本として貴重な作品である。

＜漆工＞**(1 件)**

4　○名　　称　木製転法輪筒（もくせいてんぽうりんつつ）
　　○時　　代　平安～鎌倉時代（12 世紀）
　　○品　　質　木製　墨画　表面に淡彩
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　総高 23.6 ㎝　蓋径 5.8 ㎝　身底径 5.3 ㎝
　　○作品概要　転法輪法という修法に使われる木製の円筒。転法輪法は怨敵退散や国家安穏、安産などを祈願する仏教修法で、空海所伝、東密の秘法と伝えられてきた。本品は筒表に 16 体の尊像を墨線で表し、蓋表と底裏には輪宝を彫刻し 10 字の梵字を墨書している。先行研究によれば、本品は勧修寺で作られたものを明恵（1173～1232）が受領して高山寺に伝えた２合のうちの一つという。当時の秘法に関わる極めて貴重な遺品。

(1)寄贈(2 件)

＜染織＞**(1 件)**

5　○名　　称　錦幡　模造（きんばん　もぞう）
　　○時　　代　現代　平成 25～26 年（2013～14）
　　○品　　質　絹製　化学染料　金具は金銅
　　○員　　数　2 旒
　　○寸 法 等　(1)全長 91.5 ㎝　幡頭幅 38.0 ㎝　幡身幅 25.2 ㎝、　(2)全長 90.7 ㎝　幡頭幅 38.0 ㎝　幡身幅 24.8 ㎝
　　○作品概要　滋賀・兵主大社旧蔵の錦幡（当館所蔵）の復元模造品。宗教法人兵主神社が原品調査を行い、（公財）朝日新聞文化財団文化財保護助成を得て製作したもの。舌や幡手の省略や、金具文様の違いなど原品と異なる点があるものの、当初の原品の姿をうかがい知る上で貴重な資料になりうる品である。

＜漆工＞**(1 件)**

6　○名　　称　紅牙撥鏤尺　模造　附　撥鏤制作過程資料　村松親月　作
　　（こうげばちるのしゃく　もぞう　つけたり　ばちるせいさくかていしりょう　むらまつしんげつ　さく）
　　○時　　代　現代　平成 27 年（2015）
　　○品　　質　象牙製（アフリカ象）　染色（インド茜、臙脂）
　　○員　　数　1 枚、　資料 1 式
　　○寸 法 等　縦 29.8 ㎝　横 2.5 ㎝　厚 0.7 ㎝
　　○作品概要　正倉院北倉に伝わる紅牙撥鏤尺の模造品。その制作過程に関する染料類の資料が附属する。作者の村松親月氏（1934～）は正倉院の象牙作品を中心に多くの復元作品がある。氏は紅牙撥鏤尺の紅色を、茜と臙脂を重ねて染めたものと推定し、実験を重ねてきた。本品はその成果であり、撥鏤の制作過程の解明に資する資料として高い価値を有する。

【九州国立博物館】（計 13 件）

（1）購入（5 件）

＜絵画＞（2 件）

1　○名　　称　絹本著色阿弥陀三尊像（けんぽんちゃくしょくあみださんぞんぞう）
　　○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙：縦 90.0cm　横 52.6cm　表具：縦 195.0cm　横 74.2cm　軸長 80.3cm
　　○作品概要　阿弥陀如来とその脇侍である観音菩薩、勢至菩薩を描いた南宋時代の作例。画面中の銘文によって南宋時代の画家・張思恭筆と判明する京都・禅林寺および京都・蘆山寺の「阿弥陀三尊像」との画風の親近性が認められることから、本図も銘文等はないものの張思恭あるいはその工房で描かれた可能性がきわめて高い。なお、左手に水瓶をのせるという阿弥陀の印相はほかに類例がなく、際立った特徴といえる。
　　本図と直接的な関係を示す日本の作例は見いだせないが、典型的な南宋絵画の様式を示す本図は、鎌倉時代の絵画や彫刻に多大な影響を与えた

宋画の具体的な作例としてその価値はきわめて高い。また、日本において南宋画家として高く評価されてきた張思恭の様式を知る上でも大きな意義をもつ。

2　○名　　称　紙本著色伊勢物語図色紙　第七段　かへる波　俵屋宗達筆（しほんちゃくしょくいせものがたりずしきし　だいななだん　かえるなみ　たわらやそうたつひつ）
○作 者 等　俵屋宗達
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本著色・掛軸装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 24.8cm　横 21.0cm　表具：縦 141.8cm　横 43.7cm　軸長 48.5cm
○作品概要　『伊勢物語』第七段「かへる浪」を主題とする作品である。京に居づらくなった主人公の男が東へ旅立つが、伊勢と尾張の境の海辺に到ったところで、寄せては返す波を羨む和歌を詠んだという短編を画題とする。画中には狩衣姿の主人公が縁側に座って海を眺める姿を描き、画面右上の金地に和歌を書写する。群青・緑青等で彩色を施し、金銀泥の細い筆線で文様を表わすなど、非常に丁寧な描きぶりを特徴とする。俵屋宗達およびその工房による「伊勢物語図色紙」（現存59枚）のなかでも、特に描写の秀でた作例の一つに数えられる。なお、本色紙の旧肌裏紙には、表と同じ和歌と、段の数字（「七」）、詞書筆者（「高辻侍従殿」）を記した墨書が確認できる。

＜書跡＞（1 件）
3　○名　　称　紙本揚摸王羲之尺牘（妹至帖）（しほんとうもおうぎしせきとく（まいしじょう））
○時　　代　（揚摸）中国・唐時代・7～8 世紀　（原跡）中国・東晋時代・4 世紀
○品　　質　紙本揚摸・掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 25.3cm　横 5.3cm　表具：縦 136.0cm　横 34.9cm　軸長 39.0cm
○作品概要　4 世紀・中国東晋時代の貴族・王羲之は、漢字の各書体・各書法に兼ね通じた能書で、後世「書聖」と尊崇される。その書は、漢字文化圏における書法の王道とされ、毛筆学習の正統的手本として文化史的に価値が高い。こんにち、王羲之の肉筆は世界に 1 件も存在せず、臨書や拓本などの複製のみで伝わるが、なかでも本作品は、中国唐時代の双鉤填墨という方法による最高品質の歴史的複製である。この双鉤填墨による王羲之の書は、世界に 10 件程度と希少で、うち 4 件がわが国に伝存する。
王羲之の書は中国歴代王朝が収集につとめ、わが国には遣唐使によって精巧な複製が将来され、以後の日本書道史に多大な影響を及ぼした。本作品は、王羲之が病弱な妹のことを心配して主に草書で書いた手紙の一節で、散見される丸みのある字姿は、平安時代中期の和様書法の原風景としても意義深い。日中の書の架け橋を象徴する名品である。

＜陶磁＞（1 件）
4　○名　　称　色絵唐花福寿文反皿（いろえからはなふくじゅもんそりざら）
○作 者 等　伊万里（有田）・柿右衛門窯
○時　　代　江戸時代・元禄 12 年(1699)
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 2.4cm　口径 16.5cm　高台径 11.0cm
○作品概要　型打成形により、見込から口縁を高めに折り返し幅広の鐔縁状とし、さらに端部を平らとする。見込中央を白く残し、それを囲むように口縁部にかけて呉須で如意雲文形と唐花文形の窓枠を交互に三つずつ設ける。如意雲形の窓の内側には桃形の窓枠を配し、赤色の輪郭線と白抜きで「壽」字を表し、唐花形の窓枠の内側には木瓜形の窓枠を描き、赤線と金色の上絵具で「福」字を記す。肥前（現佐賀県）・有田の柿右衛門窯が製作した「元禄柿」と呼ばれる色絵磁器の皿。「元禄柿」には、元禄六年・八年・十二年銘の作品があり、本作品は高台に「元禄十二年　柿」銘がある。金襴手様式の成立を示す、伊万里焼の研究上重要な基準作品である。説田家旧蔵品。

＜染織＞（1 件）
5　○名　　称　茜地獅子唐草文更紗茶具敷（あかねじしからくさもんさらさちゃぐしき）
○作 者 等　布地：インド　仕立て：日本
○時　　代　布地：（表地：18 世紀/裏地：17～18 世紀前半）　仕立て：江戸～明治時代・19 世紀～20 世紀
○品　　質　[表]茜地獅子唐草文更紗、木綿単糸平織。　[裏]黄地縞織、経糸絹・緯糸木綿交織、平織。
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 177.0cm　横 125.4cm
○作品概要　茜地獅子唐草文の更紗を表に、裏には黄地縞織を添わせ絹糸で縁取り縫いした敷物。表地は「獅子手」と称されるインド更紗で、獅子、蓮華唐草文を布一面に手描きし、獅子文には紫と薄紅、蓮華文には浅葱と茜色を交互に染め、唐草文は蠟防染で白く染め貫く。裏地に添えられた縞織物は「かぴたん」と称される経絹、緯木綿の交織縞織物で 4 枚をはぎ合わせている。

（2）寄贈（8 件）
＜絵画＞（1 件）
1　○名　　称　紙本金地著色鞨鼓催花図　六曲屏風（しほんきんじちゃくしょくかっこさいかくず　ろっきょくびょうぶ）
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本金地著色・屏風装
○員　　数　1 隻
○寸 法 等　本紙：縦 136.0cm　横 280.4cm　折畳時：縦 136.0cm　幅 48.2cm　厚 11.0cm
○作品概要　本図は、晩唐・南卓の『羯鼓録』の冒頭―羯鼓の名手であった唐の玄宗が羯鼓を打ち鳴らすと、その妙音で諸花が一斉に花開いたという逸話―を主題とする中屏風である。画面右側の楼台に羯鼓を叩く玄宗を、画面左にその様子を対面の楼閣から眺める楊貴妃や女官たちを描く。
このような「羯鼓催花図」の典型的な構図や図様を踏まえながら、本図には、海棠、椿、柳、紅葉、雪山など四季の表現が混ざり、風俗的要素を強めた玄宗絵である。本図には落款・印章がないが、総じて表現は手堅く、描写も丁寧である。細く柔らかな枝振りの花木は長谷川派に似通うが、岩の皴や松の樹皮には独特の筆数の多さがみられ、筆者についてはなお検討を要する。

＜書跡＞（2 件）
2　○名　　称　紙本墨書朱舜水追悼文稿　安東省庵筆（しほんぼくしょしゅしゅんすいついとうぶんこう　あんどうせいあんひつ）
○作 者 等　安東省庵(1622～1701)筆
○時　　代　江戸時代・天和 2 年(1682)
○品　　質　紙本墨書・巻子装・軸首竹製
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙：縦 26.3cm　横 160.0cm（第 1 紙 90.0cm　第 2 紙 70.0cm）　表具：縦 26.3cm　横 187.4cm　軸長 28.4cm
○作品概要　朱舜水(1600-82)は中国・明朝末期の儒学者。万治 3 年(1660)日本に亡命し、長崎に滞在したのち水戸藩主・徳川光圀の招聘を受け、寛文 5 年(1665)江戸に向かった。同藩では光圀の賓師として厚遇され、礼法・学制・農法などを指導した。安東省庵は筑後柳川藩の儒学者。朱舜水を師と仰ぎ、その人格と学問を慕い深く交流した。舜水が江戸に赴いた後二人が再会することはなかったが、互いの交流は続いた。本作品は、天和 2 年 7 月に朱舜水の訃報に接した安東省庵による舜水追悼文の自筆草稿。省庵作の舜水追悼文は早くから刊行されるが、それらと校合すると全文の 8 割以上が遺存し、内容には省庵による推敲の跡を示す刊本との異同も一部に確認できる。

3　○名　　称　彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）　伝藤原行成筆（さいせんぼくしょこきんわかしゅうまきだいいちだんか（せきどぼん）　でんふじ

わらのゆきなりひつ）
○作 者 等　伝藤原行成(972～1027)筆
○時　　代　平安時代・11 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 20.9cm　横 17.3cm　表具：縦 139.0cm　横 40.8cm　軸長 45.4cm
○作品概要　「古今和歌集（関戸本）」は、加賀藩主前田家に伝わった『古今和歌集』の写本の 1 つ。平安中期、仮名の字姿や用筆がもっとも洗練された 11 世紀の筆になり、伝承筆者の藤原行成の没年よりも下る時代の成立とされる。「古今和歌集（関戸本）」は、何よりも緩急自在で流麗な筆づかいが特筆される仮名古筆の優品として知られる。線質の変化に富んだ 7～9 字に及ぶ長い連綿や、効果的な位置での墨継ぎ、それらがもたらす紙の奥行き感など、芸術性が高い。原装は、白・紫・藍・茶・黄・縹などの染紙を用いた綴葉装の冊子本で、昭和 27 年(1952)頃に分割された。本作品は、巻第一春歌上に所収される 2 首の和歌と詞書を、薄縹の染紙に 10 行にわたって書写した断簡で、戦後、掛幅装とされた。

＜金工＞（1 件）

4　○名　　称　柴垣群禽図肩衝釜（しばがきぐんきんずかたつきがま）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　鉄製鋳造
○員　　数　1 口
○寸 法 等　総高 14.8cm　口径 11.9cm　胴径 26.7cm
○作品概要　口が低い輪口の肩衝釜。釜鐶をつけるための鐶付は、小枝を括った大小の束柴を 3 つ重ね、なだらかに鼓面をなす肩には薄肉に鋳出した梅花を散らす。胴部には細枝を竪子とした柴垣を一面に巡らし、垣根の丈を短く揃えた釜の正面には、枯れ木が垣根の前から二股に分かれて幹を伸ばす。幹には大鳥を正面に留まらせ、更に大鳥を取り囲むようにして 3 羽の小鳥を配する。胴の下端から釜底にかけてはゆるやかに湾曲し、釜底中央には円形の湯口が残る。また、釜底内には鳴鉄が複数貼り付けられており、煮沸時に松籟の音を出す工夫ともなっている。なお、本品に附属する蓋は唐金製で、6 弁花形の座金にやや縦長の鞠形の摘みを設ける。

＜陶磁＞（2 件）

5　○名　　称　白磁玉縁皿（はくじたまぶちさら）
○作 者 等　邢州窯
○時　　代　中国・唐時代・8 世紀
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 4.4cm　口径 15.4cm　底径 6.7cm
○作品概要　ロクロ成形により、幅広の畳付から直線的に立ち上がり、玉縁状の口縁を成す。胎土は白色できめが細かく、畳付を除き全体に透明釉を施す。唐時代を代表する白磁窯として名高い、中国河北省南部臨城県の邢州窯の製品。蛇の目高台で口縁を玉縁とする白磁皿は、主に 8 世紀に生産され、日本国内でも大宰府、鴻臚館、平安京等の遺跡から出土している。8 世紀の末頃より、越州窯系青磁、長沙窯の黄釉陶器と共に出土しており、これらは同時代のエジプト・フスタート遺跡やインドネシア・ブリトゥン島沖沈没船の引き揚げ資料からも類品が発見されていることから、中国の本格的な陶磁器輸出の開始を示す製品である。

6　○名　　称　柿釉麒麟雲龍文大盤（餅花手）（かきゆうきりんうんりゅうもんたいばん（もちはなで））
○作 者 等　中国・福建省・漳州窯
○時　　代　明時代末期～清時代初期・16～17 世紀
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 10.6cm　口径 41.2cm　底径 20.2cm
○作品概要　ロクロ成形により、ゆったりと丸みを帯びながら立ち上がり、さらに角度を変えて外に折れて上方へと広がり、立ち上がりのある口縁となる。柿釉を全体に施し、底部のみ拭き取る。見込には白釉で麒麟、雲、太湖石、草花などの文様を表し、見込側面には龍文と雲文を描き、口縁部には花唐草文を廻らす。高台には砂目跡がつき、見込には砂状の降りものが見られる。明末清初期の中国・福建省の漳州窯で作られた柿釉の餅花手である。漳州窯の製品は、ほかに呉須染付や呉須赤絵が知られる。日本や東南アジアなど世界各国に輸出された当時の中国の代表的な貿易陶磁器である。国内では堺環濠都市遺跡や鹿児島県坊津から出土している。

＜考古＞（1 件）

7　○名　　称　草葉文鏡（そうようもんきょう）
○作 者 等　中国
○時　　代　中国・漢時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　青銅鋳造
○員　　数　1 面
○寸 法 等　径 14.0cm
○作品概要　草葉文鏡は前漢武帝期(在位前 141-前 87)から流行する鏡であり、前漢文化の指標となるものである。白銅質の青銅鏡で、欠損がなく、銘文を完備し、鏡背面の鋳上がりも良好である。鏡背面の中央に半球形の鈕と四葉座を配し、二重の方形区画で構成される内区には吉祥銘「見日之光長毋相忘」を時計回りに陽鋳する。外区には上下左右に乳を配し、それぞれの両側に草葉文をおく。草葉文はいわゆる稲穂形で、二段構えで上端にむけて内傾する。鏡縁は平縁で、16 連弧文とする。草葉文鏡としては中型品に属し、14.0cm という面径は前漢の標準尺度でいえば五寸（13.58cm）に相当する。

＜歴史資料＞（1 件）

8　○名　　称　朝鮮三国時代拓本（ちょうせんさんごくじだいたくほん）
○時　　代　中原高句麗碑拓本（原碑：三国時代（高句麗）・5 世紀　採拓：現代・20 世紀）
丹陽新羅赤城碑拓本（原碑：三国時代（新羅）・6 世紀　採拓：現代・20 世紀）
○品　　質　紙本墨拓
○員　　数　2 件
○寸 法 等　中原高句麗碑拓本（第 1 面：縦 156.8cm　横 66.1cm　第 2 面：縦 164.4cm　横 52.0cm　第 3 面：縦 162.1cm　横 66.1cm　第 4 面：縦 160.0cm　横 48.1cm）
丹陽新羅赤城碑拓本（本紙：縦 88.5cm　横 96.0cm　表具：縦 143.5cm　横 108.6cm）
○作品概要　中原高句麗碑拓本は、1979 年に立石集落の入口で地元住民により発見された高句麗碑の拓本である。高句麗の君主号を「太王」という美称でもってあらわし、新羅王を「寐錦」という新羅の固有語で示すとともに「東夷」を冠するなど、高句麗を主体かつ上位とし、新羅を下位においた記述方式をとる。
丹陽新羅赤城碑拓本は、1978 年に丹陽面の赤城とよばれる山城で見つかった新羅碑の拓本である。赤城あるいはその周辺で起こった事態に際し、功をあげた也尓次を讃え、その親族には恩典を施し、今後もしも国内で同様のことがあれば、その対処は本事案にならう旨を宣布する。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		12,056	201	1,417	3,072	55	258	6,112	91	820	1,987	54	327	885	2	12
絵画		3,429	58	440	478	13	66	2,202	30	264	590	15	107	159	0	3
書跡		1,672	66	330	395	10	30	902	41	260	317	14	37	58	1	3
彫刻		890	13	217	246	3	37	262	1	73	376	9	105	6	0	2
建築		5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工		998	13	129	133	5	18	535	2	79	237	7	31	93	0	1
刀剣		249	10	69	213	8	56				34	2	13	2	0	0
陶磁		1,200	1	7	136	0	3	776	1	3	11	0	0	277	0	1
漆工		707	13	71	98	6	15	468	4	32	108	3	23	33	0	1
染織		861	8	89	286	2	4	497	4	84	49	2	1	29	0	0
考古		922	15	38	172	4	13	427	8	15	228	2	9	95	1	1
民族資料		120	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	109	0	0
歴史資料		96	0	11	5	0	0	40	0	10	29	0	1	22	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
東洋	絵画	170	2	11	170	2	11									
	書跡	39	1	3	39	1	3									
	彫刻	31	0	0	31	0	0									
	金工	5	0	1	5	0	1									
	陶磁	129	1	0	129	1	0									
	漆工	33	0	1	33	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	486	0	0	486	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		11,844	367	155	12,056	3,064	31	23	3,072	6,001	232	121	6,112	1,984	7	4	1,987	795	97	7	885
絵画		3,330	149	50	3,429	476	8	6	478	2,108	135	41	2,202	591	0	1	590	155	6	2	159
書跡		1,672	36	36	1,672	396	7	8	395	905	25	28	902	316	1	0	317	55	3	0	58
彫刻		882	15	7	890	248	0	2	246	256	9	3	262	373	5	2	376	5	1	0	6
建築		4	2	1	5	0	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	2	0	2
金工		917	98	17	998	133	0	0	133	535	16	16	535	238	0	1	237	11	82	0	93
刀剣		249	1	1	249	213	1	1	213					34	0	0	34	2	0	0	2
陶磁		1,209	20	29	1,200	137	0	1	136	779	20	23	776	11	0	0	11	282	0	5	277
漆工		693	24	10	707	99	2	3	98	455	20	7	468	107	1	0	108	32	1	0	33
染織		861	0	0	861	286	0	0	286	497	0	0	497	49	0	0	49	29	0	0	29
考古		916	8	2	922	168	4	0	172	427	2	2	427	228	0	0	228	93	2	0	95
民族資料		120	0	0	120	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6	109	0	0	109
歴史資料		91	5	0	96	5	0	0	5	35	5	0	40	29	0	0	29	22	0	0	22
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
東洋	絵画	170	0	0	170	170	0	0	170												
	書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
	彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
	金工	5	0	0	5	5	0	0	5												
	陶磁	124	6	1	129	124	6	1	129												
	漆工	33	0	0	33	33	0	0	33												
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
	考古	487	0	1	486	487	0	1	486												
	民族	0	3	0	3	0	3	0	3												

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		26	0	1	24	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画		2	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　平成28年3月31日現在

合計		1,432		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		558	240	634
絵画		152	4	445
書跡		40	1	2
彫刻		26	0	4
建築		0	0	0
金工		43	0	4
刀剣		18	190	2
陶磁		45	2	3
漆工		20	0	9
染織		22	12	19
考古		60	20	5
歴史資料		18	0	3
民族資料		19	5	2
和書		13	2	8
東洋	絵画	24	1	32
	書跡	16	0	0
	彫刻	2	0	0
	金工	0	0	7
	陶磁	6	2	0
	漆工	2	1	36
	染織	0	0	2
	考古	0	0	0
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		28	0	26
その他（黒田含）		4	0	25

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	102	100	91
絵画	52	40	15
書跡	15	16	1
彫刻	0	14	0
建築	0	0	0
金工	7	6	0
刀剣		1	0
陶磁	7	0	2
漆工	3	7	0
染織	2	0	6
考古	16	16	1
民族資料	0	0	1
歴史資料	0	0	5
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	13～28℃	31～79%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～27℃	23～78%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	21～27℃	47～61%
	収蔵庫	09：30～17：00	20～26℃	46～60%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～30℃	28～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	10～28℃	42～70%
宝物館	展覧会場	24時間運転	18～25℃	50～71%
	収蔵庫	24時間運転	20～22℃	54～65%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館（特別展示館）	展覧会場	8：30～18：00	16～26℃	50～60%
	収蔵庫	8：30～17：30	16～26℃	50～60%
平成知新館（新平常展示館）	展覧会場	9：00～17：00	20～25℃	50～60%
	収蔵庫	9：00～17：00	18～24℃	50～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
文化財保存修理所		9：00～17：30	22～24℃	57～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:30～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成28年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		131	86 (10)	12	11	22
絵　画		25	9	3	4	9
書　跡		4	2	0	1	1
彫　刻		3	0	0	3	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		5	3	2	0	0
刀　剣		2	2	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		2	1	1	0	0
染　織		15	2	5	2	6
考　古		24	22 (10)	0	1	1
歴史資料		4	0	1	0	3
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		7	5	0	0	2
東洋	絵　画	3	3			
	書　跡	0	0			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	2	2			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	2	2			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		25	25			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		2	2			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-⑶-② 修理概況

【東京国立博物館】（86件）

〈絵画〉（9件）

1 ○列品番号 A-56
○名　称 牧馬図屏風(ぼくばずびょうぶ)
○指　定 重文
○指定年月 平成17年(2005)6月9日　絵第2014号
○時　代 安土桃山時代
○年代世紀 16c
○品　質 紙本着色
○員　数 6曲1双
○寸 法 等 156.6×342.5 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護する。 4. 旧裏打紙、補紙を除去する。5. 欠損部に補紙を、亀裂部分に補強紙をあてる。6. 補紙に補彩を行なう。 7. 新規裏打ちを行なう。 8. 屏風下地を新調し、下地に本紙、裂、裏貼紙を貼り込む。 9. 襲木や金具を新調する。（平成26年度は2の途中まで、平成27年度は7の途中まで）

2 ○列品番号 A-9972
○名　称 鷹見泉石像(たかみせんせきぞう)
○指　定 国宝
○指定年月 昭和26年(1951)6月9日
○時　代 江戸
○年代世紀 天保8年(1837)
○品　質 絹本着色
○員　数 1幅
○寸 法 等 本紙 縦115.0　横57.2 、表具 縦190.7　横69.2 ㎝
○施工会社 ㈱半田九清堂
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

3 ○列品番号 A-11180
○名　称 山水図(さんすいず)
○時　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　質 紙本墨画淡彩
○員　数 2幅
○寸 法 等 各119.2×55.0 ㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 欠失部に補修紙を施す。 5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。 6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。 7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。 8. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで）

4 ○列品番号 A-11182
○名　称 林和靖図(りんなせいず)
○時　代 江戸時代
○年代世紀 17c
○品　質 紙本墨画淡彩
○員　数 1幅
○寸 法 等 119.2×55.0 ㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー
○修理内容 1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 欠失部に補修紙を施す。 5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。 6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。 7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。 8. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで

5 ○列品番号 A-12087
○名　称 坪内老大人像画稿(つぼうちろうたいじんぞうがこう)
○時　代 江戸
○年代世紀 文政元年(1818)
○品　質 紙本墨画淡彩
○員　数 1幅
○寸 法 等 本紙 縦82.0　横74.4、表具 縦145.0　横82.5 ㎝
○施工会社 アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補紙を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 補紙に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

6 ○列品番号 A-12105
○名　称 釈迦三尊像(しゃかさんぞんぞう)
○時　代 南北朝～室町
○年代世紀 14～15c
○品　質 絹本着色
○員　数 1幅
○寸 法 等 135.7×60.4 ㎝
○施工会社 ㈱岡墨光堂
○修理内容 1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、料絹の欠損部に補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。 （平成25年度は2の途中まで、平成26年度は4の途中まで）

7 ○列品番号 A-12327
○名　称 山水図
○指　定 重文

○時　代　室町時代
○年代世紀　15c
○品　質　紙本墨画淡彩
○員　数　1幅
○寸 法 等　93.9 ×34.0cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度は2の途中まで、平成28年度は5の途中まで）

8　○列品番号　A-12435
○名　称　柿本人麻呂像(かきのもとのひとまろぞう)
○時　代　室町時代
○年代世紀　15c
○品　質　絹本着色
○員　数　1幅
○寸 法 等　75.4×38.3cm
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。描線のある旧補絹の除去については検討して進める。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補絹部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸は再使用して、掛幅装に仕立てる。7. 軸木、金具、紐、桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。極のみ新箱に戻す。（平成27年度は2の途中まで）

9　○列品番号　A-12439
○名　称　年中行事図屏風(ねんじゅうぎょうじずびょうぶ)
○時　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　質　紙本金地着色
○員　数　1幅
○寸 法 等　154.6 ×386cm
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容　1. 屏風装を解体する。2. 剥落止め、表打ちを施して、旧裏打紙と旧補紙を除去する。3. 補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行なう。4. 仮張りをし、補紙に補彩を施す。5. 下地を新調、本紙、裏張紙を張り込む。6. 縁裂、尾背、縁木を新調し、屏風装に仕立てる。7. 旧裏打紙、旧下地、旧金具などを保管する保存箱を作製する。（平成27年度は5の途中まで）

〈東洋絵画〉（3件）

10　○列品番号　TA-315
○名　称　四睡図(しすいず)
○指　定　重文
○指定年月　昭和57年（1982）6月5日　絵第1830号
○時　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙77.8 ×34.3cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度は2の途中まで、平成28年度は5の途中まで）

11　○列品番号　TA-618
○名　称　放犢図(ほうとくず)
○指　定　重文
○指定年月　昭和34年(1959)6月27日　絵第1455号
○時　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　質　絹本墨画
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙108.0×46.5 cm
○施工会社　㈱半田九清堂
○修理内容　1. 解体し、クリーニングする。2. 旧裏打紙除去、欠損部に補絹をして、新規裏打ち、折れ伏せを行ない、補絹に補彩する。3. 上下裂は新調、一文字・中廻し、軸首は再使用する。4. 太巻添軸、保存箱を新調する。（平成26年度は2の途中まで）

12　○列品番号　TA-642
○名　称　雪景山水図(せっけいさんすいず)
○指　定　国宝
○指定年月　平成19年（2007）6月8日
○時　代　南宋時代～元時代
○年代世紀　13～14c
○品　質　紙本墨画淡彩
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙110.3 ×49.7cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 裏打ちなど補強を施す。3. 表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。4. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。（平成25・26年度は2の途中まで）

〈書跡〉（2件）

13　○列品番号　B-2936
○名　称　拾遺抄切(しゅういしょうぎれ)
○時　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　質　彩牋墨書

○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦21.2　横12.7 ㎝
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する 2. 剥落止めを行なう。 3. クリーニングする。 4. 旧裏打紙を除去し、新規に裏打ちを行なう。 5. 表装裂などを新調し、軸首を再使用し、もとの形に仕立てる。6. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで）

14 ○列品番号　B-3178
○名　　称　医心方(いしんぽう)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和59年（1984）6月6日　書第2399号
○時　　代　平安時代～江戸時代
○年代世紀　12c～17c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　30巻、1冊
○寸 法 等
○施工会社　保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から平成28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）

〈金工〉（3件）

15 ○列品番号　E-15247
○名　　称　坏(つき)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　11～12c
○品　　質　陶製
○員　　数　2個
○寸 法 等　①口径10.1 高3.3　②口径9.6 高3.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失箇所を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

16 ○列品番号　E-15248
○名　　称　カワラケ(かわらけ)
○時　　代　平安時代～鎌倉時代
○年代世紀　11～14c
○品　　質　陶製
○員　　数　1括
○寸 法 等　高1.5～2.5　口径7.0～12.0　cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

17 ○列品番号　E-19840
○名　　称　梅花文印櫃(ばいかもんいんびつ)
○時　　代　昭和4年(1929)
○年代世紀
○品　　質　黒柿、銅製鍍金
○員　　数　1口
○寸 法 等　幅12.1 奥行16.5 高15.8
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 短側面の金銅板を黒柿板より取り外す。2. 黒柿板の内面を和李、形状を修正する。3. 取り外した金銅板の形状を修正する。4. 金銅鋲を復元し、欠失箇所に補填する。5. 必要に応じて金銅病の緩みを修正する。(平成27年度は3の途中まで)

〈刀剣〉（2件）

18 ○列品番号　F-15812
○名　　称　太刀　銘　恒遠(たち　めい　つねとう)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長78.0　反2.6 ㎝
○施工会社　小野博
○修理内容　1. 全身を研磨する（下地研ぎ）。 2. 白鞘を新規製作する。3. 全身を研磨する（仕上げ研ぎ）。（平成26年度は2まで）

19 ○列品番号　F-20203
○名　　称　刀
○指　　定　重文
○時　　代　（刀身）鎌倉時代・13世紀　（刀装）江戸～明治時代・19世紀
○年代世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長65.0 反り2.2 柄長22.8 鞘長70.2
○施工会社　高山一之
○修理内容　1. 白鞘を作製する。2. 原品と同様の鋼を新規作製する。3。継木(つなぎ)を作製する。(平成27年度は2の途中まで)

〈陶磁〉（2件）

20 ○列品番号　G-3966
○名　　称　色絵牡丹文小皿
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　2口

○寸 法 等　①高3.5　最大径12.5　②高3.5　最大径12.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は3の途中まで）

21 ○列品番号　G-4218
○名　　称　大燈籠(だいとうろう)
○時　　代　明治時代
○年代世紀　明治41年(1908)
○品　　質　陶製
○員　　数　1基
○寸 法 等　総高130.0　基礎高14.0　竿高53.0　火袋高66.0　傘高47.0　宝珠高67.0 ㎝
○施工会社　文化財修理工房明舎
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 亀裂を補強する。 3. 欠失部に補填、補彩を行なう。 4. 補強材を設置する。5. もとの位置にある土台部分をクリーニングする。 6. もとの位置でもとの形に組み立て直す。 （平成26年度は2まで、平成27年度は4まで）

〈東洋陶磁〉（2件）

22 ○列品番号　TG-346
○名　　称　緑釉温酒尊(りょくゆうおんしゅそん)
○時　　代　前漢～後漢時代
○年代世紀　前1～2世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高26.8　径22.2～22.6
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する(身のみ)。 2. クリーニングする（身・蓋）。 3. 接合する(身のみ)。 4. 欠失部分を補填、復元する（身・蓋）。 5. 補填箇所に補彩する（身・蓋）。 6. 保存箱を新調する。 （平成27年度は3の途中まで）

23 ○列品番号　TG-973
○名　　称　五彩獅子文有蓋壺(ごさいししもんゆうがいこ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　17～18c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高34.0 口径12.0 底径14.0（推定値）
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所に補彩する。 5. 保存箱（桐製、四方桟箱）を新調する。 （平成27年度は3の途中まで）

〈漆工〉（1件）

24 ○列品番号　H-3502
○名　　称　葵牡丹紋竹蒔絵女乗物(あおいぼたんもんたけまきえおんなのりもの)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　寛文4年（1664）
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1挺
○寸 法 等　駕籠　127.3×90.9×121.2　担ぎ棒　長454.5cm
○施工会社　㈱修護
○修理内容　1.（絵画）絵画面の付着物を除去し、必要に応じて表打ちなどの養生を絵画面に行なう。 2.（絵画・漆工）絵画面および金箔紙を乗物内部から取り外す。 3.（絵画）絵画面の汚れを除去し、剥落止めを行ない、旧裏打紙を除去する。また、類似した補修材を作製して欠失箇所に補填し、染色した楮紙を用いて肌裏打ちを行なう。 4.（絵画）増裏打ちを行なった後、補填箇所に補彩を施す。 5.（漆工）乗物の内外装、担ぎ棒の補修を行なう（必要に応じて金物、部材を取り外す）。 6.（絵画）乗物内部に3層程度の下貼をして下地を整え、補修を終えた絵画面および金箔紙を原状通りに貼り戻す。 7.（漆工）染織品の破損箇所を修繕し、金物および木部材を原状通りに取り付ける。 8.（絵画・漆工）木綿製のカバーを作製し、取り付ける。 （平成26年度は絵画が3の一部終了まで、漆工は5の途中まで）

〈東洋漆工〉（1件）

25 ○列品番号　TH-116
○名　　称　龍涛堆朱箪笥(りゅうとうついしゅたんす)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　幅39.1　奥行19.7　高30.3
○員　　数　1基
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 表面全体に付着した埃や汚れを落とす。 2. 堆朱層の亀裂や浮きに漆を含浸し、接着強化をはかる。 3. 剥落している堆朱片を、本来の位置に接着する。 4. 堆朱層の欠失部は復元を行なわず、錆下地による表面の強化と色合わせにとどめる。 （平成27年度は2の途中まで）

〈染織〉（27件）

26 ○列品番号　I-337-1
○名　　称　白地朝顔文描絵布襪残欠(しろじあさがおもんかきえぬのしとうずざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、描絵
○員　　数　1枚
○寸 法 等　29.2×34.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

27 ○列品番号　I-337-4
○名　　称　淡茶地目結文綟纐平絹(うすちゃじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹

○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.3×38.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

28 ○列品番号　I-337-8
○名　　称　緑地目結文綟纐平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×28.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-9と繋がる可能性あり)。

29 ○列品番号　I-337-9
○名　　称　緑地目結文綟纐平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×30.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-8と繋がる可能性あり)。

30 ○列品番号　I-337-13
○名　　称　赤地襷文綟纐平絹幡足残欠(あかじたすきもんこうけちへいけんばんそくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　34.3×15.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

31 ○列品番号　I-337-17
○名　　称　赤地七宝繋文綟纐平絹(あかじしっぽうつなぎもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.6×11.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

32 ○列品番号　I-337-18
○名　　称　青緑地花弁文纐纐平絹(あおみどりじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　27.2×17.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

33 ○列品番号　I-337-22
○名　　称　赤地目結文綟纐平絹(あかじめゆいもんこうけへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　7.2×16.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

34 ○列品番号　I-337-23
○名　　称　紫地目結文綟纐綾(むらさきじめゆいもんこうけちあや)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.2×18.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

35 ○列品番号　I-337-24
○名　　称　紺地目結文綟纐綾腰ヒ(衣へんに非)残欠(こんじめゆいもんこうけちあやようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c

○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.0×12.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

36 ○列品番号　I-337-25
○名　　称　暈繝纐纐綾(うんげんこうけちあや)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　2.5×24.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

37 ○列品番号　I-337-26
○名　　称　暈繝花菱文錦(うんげんはなびしもんにしき)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　2.2×19.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

38 ○列品番号　I-337-27
○名　　称　紫地目結文纐纐綾垂飾残欠(むらさきじめゆいもんこうけちあやすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　23.6×9.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

39 ○列品番号　I-337-28
○名　　称　紫地目結文纐纐綾垂飾残欠(むらさきじめゆいもんこうけちあやすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質
○員　　数　1枚
○寸 法 等　22.3×15.2
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

40 ○列品番号　I-337-29
○名　　称　白地花枝唐草文綾褥残欠(しろじはなえだからくさもんあやじょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　30.2×14.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

41 ○列品番号　I-337-32
○名　　称　赤地円弧文纐纈布(あかじえんこもんこうけちぬの)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、纐纈
○員　　数　1枚
○寸 法 等　39.7×30.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-33と繋がる可能性あり)。

42 ○列品番号　I-337-33
○名　　称　赤地円弧文纐纈布(あかじえんこもんこうけちぬの)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、纐纈
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×29.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-33と繋がる可能性あり)。

43 ○列品番号　I-337-36
○名　　称　赤地花弁文臈纈平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代

○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　33.1×28.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。3. 和紙で裏打ちを行なう。4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

44 ○列品番号　I-337-55
○名　　称　淡青地草花文蘭纈平絹腰ヒ(衣へんに非)残欠(うすあおじそうかもんろうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　39.2×13.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

45 ○列品番号　I-337-72
○名　　称　黄地花鳥雲文蘭纈羅(きじかちょううんもんろうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　30.8×40.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする(I-337-73と繋がる可能性あり)。

46 ○列品番号　I-337-73
○名　　称　黄地花鳥雲文蘭纈羅(きじかちょううんもんろうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　30.5×40.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする(I-337-72と繋がる可能性あり)。

47 ○列品番号　I-337-110
○名　　称　茶地花葉文夾纈羅(ちゃじかようもんきょうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　39.0×24.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

48 ○列品番号　I-337-112
○名　　称　淡茶地花葉文夾纈羅(うすちゃじかようもんきょうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　39.2×23.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

49 ○列品番号　I-337-132
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾幡足残欠(あかじぶどうからくさもんあやばんそくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　26.9×39.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

50 ○列品番号　I-337-133
○名　　称　紫地葡萄唐草文綾天蓋垂飾残欠(むらさきじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1枚
○寸 法 等　24.0×21.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

51 ○列品番号　I-2061
○名　　称　小忌衣 浅葱天鷲絨地菊水模様(おみごろも　あさぎびろーどじきくすいもよう)

○時　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　質　天鵞絨地に切付・刺繍
○員　数　1領
○寸 法 等　丈 156.5　裄 63.6
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. 引解（解体）にする。 2. 縫い付けによる裏打ちをする。 3. 刺繍の綴付、蛇腹状の襟の仕立て直しを行なう。 （平成27年度は1の途中まで、平成28年度は2の途中まで）

52 ○列品番号　I-4072
○名　称　小袖 白黒紅染分綸子地熨斗藤模様(こそで しろくろべにそめわけりんずじのしふじもよう)
○指　定　重文
○指定年月　昭和57年(1982)6月5日　工第2480号
○時　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　質　絹製　綸子地に刺繍・絞り・摺箔
○員　数　1領
○寸 法 等　丈 140.8 裄 64.0
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. もとの縫い目に留意しながら解体し、表裂と裏裂を分ける。 2. 糸印や穴をつまんだ部分など、後世の使用で追加された部分については、作品に支障がない範囲で除去する。 3. 白地の部分に当てる似寄りの綸子地を新調し、横切れの箇所に地模様を合わせながら裏から綸子をあてて縫い留める。 4. 肩山の切れなど、黒紅地の部分の横切れについては、似寄りの綸子地を黒紅地に染めた後、裏から当てて縫い留める。 5. 裏地を新調し、中綿を入れて、小袖の状態に戻す。(平成26年度は2の途中まで。平成27年度は4の途中まで)

〈東洋染織〉(1件)

53 ○列品番号　TI-418-3
○名　称　コート　金茶色繻子地花唐草文様刺繍(きんちゃいろしゅすじはなからくさもんようししゅう)
○年代世紀　19c
○品　質　絹、繻子地に絹糸と金銀モール糸で刺繍
○員　数　1着
○寸 法 等　丈 88.5　肩幅 34.5　袖長 49.5 cm
○施工会社　㈱染技連
○修理内容　1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて縫いとめる。 3. 可能な箇所についてシミ抜きをする。 4. 刺繍のほつれをとめる。 5. しわをのばす。 6. 保存箱、包裂(羽二重)、布団を新調する。 （平成25年度は1の途中まで、平成26年は2の途中まで）

〈考古〉(22件)

54 ○列品番号　J-3097
○名　称　須恵器 有蓋長頸壺(すえき ゆうがいちょうけいこ)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　陶製
○員　数　1合
○寸 法 等　法量:高 26 口径 9 最大径 14
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は3の途中まで）

55 ○列品番号　J-5683
○名　称　鉄鍬先(てつくわさき)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　質　鉄製
○員　数　1個
○寸 法 等　長 20 幅 25 厚さ 1.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は2の途中まで）

56 ○列品番号　J-10242
○名　称　鍔(つば)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1個
○寸 法 等　最大径 7.9 最小径 6.5 厚さ 0.3
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分を補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。

57 ○列品番号　J-10268
○名　称　鉄鏃残欠(てつぞくざんけつ)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1口
○寸 法 等　現存長 9.2 最大幅 1.3 厚さ 0.3
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分を補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。

58 ○列品番号　J-11977
○名　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　代　続縄文時代(前期)

○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高34.1 口径10.5 底径8
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は2の途中まで）

59 ○列品番号　J-22387
○名　　称　鉄刀(てっとう)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長106.2　最大幅4.3
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 折損部分を接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

60 ○列品番号　J-22388
○名　　称　鉄刀(てっとう)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長91 最大幅3.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 折損部分を接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

61 ○列品番号　J-34374
○名　　称　河童形土偶（かっぱがたどき）
○時　　代　縄文時代中期
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高30.0　幅19.1　厚8.7cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

62 ○列品番号　J-34947
○名　　称　人面付壺形土器(じんめんつきつぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前2～前1世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　現存高68.4 口径14.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

63 ○列品番号　J-34961
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前2～前1世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高19.7 底径8.2
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

64 ○列品番号　J-37240
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　蓋 口径4.2 高1.3 ； 身 口径4.2 高
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

65 ○列品番号　J-37538
○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○時　　代　縄文時代中期
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高25.5 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

66 ○列品番号　J-38857-1
○名　　称　土師器 小型鉢形土器(はじき こがたはちがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c

○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径8.5 高6.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

67 ○列品番号　J-38857-3
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径10.5 高9
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

68 ○列品番号　J-38857-4
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5 高5.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。　(平成27年度は2の途中まで)

69 ○列品番号　J-38857-7
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　復元口径9.5 高8
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

70 ○列品番号　J-38857-11
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径9 高9.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

71 ○列品番号　J-38857-12
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11 高11
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

72 ○列品番号　J-38857-15
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高8.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

73 ○列品番号　J-38861-2
○名　　称　土師器 鉢形土器(はじき はちがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径15 高9
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

74 ○列品番号　J-38971-1
○名　　称　土師器 甕形土器(はじき かめがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製

○員　　数　1個
○寸 法 等　口径15.5、高14.0、最大径20.0
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

75 ○列品番号　J-39374
○名　　称　漆塗籠棺残片(うるしぬりかごかんざんぺん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　籠製漆塗
○員　　数　1括
○寸 法 等　厚1、桟部約1.5
○施工会社　高妻洋成
○修理内容　1. 構造調査、成分分析を行なう。 2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。 3. 表面を強化する。 （平成26年度は1の途中まで、平成27年度は2の途中まで）

〈東洋考古〉(2件)

76 ○列品番号　TJ-997
○名　　称　鉄鉞戟(てつえつげき)
○時　　代　漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　　質　鉄鍛造
○員　　数　1本
○寸 法 等　長43.3　幅15.3 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

77 ○列品番号　TJ-998
○名　　称　鉄鉞戟(てつえつげき)
○時　　代　漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　　質　鉄鍛造
○員　　数　1本
○寸 法 等　長43.3　幅15.3 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

〈民族資料〉(5件)

78 ○列品番号　K-25947-2
○名　　称　茶チューカー
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　総高8.0　最大幅13.0
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

79 ○列品番号　K-25953
○名　　称　蓋付茶碗(蓋付マカイ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁製
○員　　数　2合
○寸 法 等　吉祥：高6.2　口径11.0　鶴鹿：高6.0　口径9.9
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

80 ○列品番号　K-25956
○名　　称　鉢(ワンブー)
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高10.5　口径23.3　底径9.5
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

81 ○列品番号　K-25957
○名　　称　肴鉢(さかなばち)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高4.5　口径26.7
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

82 ○列品番号　K-29003
○名　　称　内耳土器(ないじどき)
○時　　代
○年代世紀　14～16c

○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高7.5 長径12.0×短径11.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1.　付着物を保護しながらクリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。所に補彩する。

〈和書〉(2件)

83 ○列品番号　QA-4218
○名　　称　伊賀国図（いがのくにず）
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c 写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1舗
○寸 法 等　本紙 縦132.2　横89.5

84 ○列品番号　QA-4219
○名　　称　志摩国図(しまのくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c 写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1舗
○寸 法 等　本紙 縦74.3 横120.4
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。

〈館史資料〉(2件)

85 ○列品番号　館史資料-671
○名　　称　重要雑録　明治十五年(じゅうようざつろく　めいじじゅうごねん)
○時　　代　明治15年（1882）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1冊
○寸 法 等　縦27.3 横19.1
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。(平成26年度は2の途中まで)

86 ○列品番号　館史資料-680
○名　　称　重要雑録　明治二十七～二十九年(じゅうようざつろく　めいじにじゅうしちからにじゅうくねん)
○時　　代　明治27～29年（1894～96）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1冊
○寸 法 等　縦27.5横18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。(平成27年度は2の途中まで)

【京都国立博物館】(12件)

＜絵画＞ (3件)

1 ○名　　称　病草紙（やまいのそうし）
○指　　定　国宝
○時　　代　平安時代（12世紀）
○品　　質　紙本著色
○員　　数　10面
○寸 法 等　縦 25.9～26.0cm　横 25.3～49.3cm
○施工会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2 台紙貼り装の解体を行う。 3 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 4 浄化水にて本紙の汚れを除去する。 5 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。 6 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。 7 調査に基づいて補修紙を作成し、料紙欠失箇所に補紙を行う。 8 染薄美濃紙にて肌裏打ちを行い、表打ちの養生紙を除去する。 9 軸首を5巻分新調する。 10 美栖紙にて増裏打ちを行う。 11 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12 美栖紙にて中裏打ちを行う。 13 混合紙にて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。 14 軸首を4巻分新調し、表紙裂、見返し紙を新調する。 15 補紙の箇所に補彩を行う。 16 隔及び軸巻紙を本紙料紙に合わせて作成し、本紙同様の裏打ちを施す。 17 表紙裂及び見返しは、肌裏を打ち、合わせて表紙の形に仕立てる。 18 本紙に、隔、軸巻き紙、表紙を継ぎ、新調した軸首、中軸、紐等を取り付け巻子装に仕上げる。 19 桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を新調し、本紙を納入する。 (24年度より・4ヶ年事業)

2 ○名　　称　紙本淡彩耕作図（しほんたんさいこうさくず）
○指　　定　重要文化財
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　本紙（各）縦 151.0cm　横 347.0cm
○施工会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1 修理前の調査・写真撮影を行う。 2 金具、襲木を取り外し、本紙を下地骨から取り外す。 3 クリーニングを行う。 4 絵具の剥落止めを行う。 5 肌裏紙を含む旧裏打ち紙を除去する。 6 本紙欠失個所に補修紙を補填する。 7 肌裏打ちを行う。 8 増裏打ちを行う。 9 新たに補填した補修紙に地色補彩を施す。 10 新調した下地骨に充分な下貼りを施す。 11 本紙を屏風下地に張り付ける。 12 大縁、子縁の裂を本紙の周囲に取り付ける。 13 屏風裏面に雀型

唐紙を貼る。　14 新調した襲木を取り付け、隅金具、飾金具、散鋲を取り付ける。　15　修理後の調査・写真撮影を行う。　16　報告書を作成する。（26 年度より・3 ヶ年事業）

3　○名　　称　江邨漁隠図巻　黄均筆（こうそんぎょいんずかん　こうきんひつ）
　○時　　代　中国・清時代・19 世紀
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○員　　数　1 巻
　○寸 法 等　縦 22．1cm、長 226.8cm
　○施工会社　有限会社漢和堂
　○修理内容　1 本紙に掃かれた礬砂を除去する。　2 本紙にあてられた旧裏打ち紙を除去する。　3 本紙に発生したシミなどの汚れを洗浄する。　4 本紙天地の破損個所に本紙に合う古紙を用いて補修する。　5 本紙で洗浄した箇所に補彩をほどこす。　6 古色をつけた紙で本紙に肌裏を打つ。　7 生宣紙で増し裏を打つ。　8 折れぶせを入れる。　9 本紙の色調に合う表装裂を新調し、天然染料で表面の光沢を抑える。　10 本紙と表装裂地を別々に仮張りして乾燥させる。　11 本紙と表装裂地のつけ回しを行う。　12 生宣紙にて中裏と総裏を入れ、仮張りの状態で長期間乾燥させる。　13 中国画巻の形式に合わせた表装に仕立てる。　14 桐箱を新調し、作品を裂で包んで収納する。　15 修理過程の記録を残し、報告書を作成する。

＜金工＞（2 件）

4　○名　　称　太刀 忠光作（たち　ただみつさく）
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　鉄・鍛造
　○員　　数　1 振
　○寸 法 等　刃長 66.7cm
　○施工会社　真澄庵
　○修理内容　刀身の研磨により、作品を侵食する赤錆を除去する。これに加えて、差込研による美術刀剣に適した仕上げを行うことで、展示効果をより一層高める。刀身を保護し、保管箱の役割を果たす白鞘と気密性保持に欠かせないヽヽバキを新調することにより、今後の保存に役立てる。

5　○名　　称　短刀　無銘　附朱漆塗小さ刀拵（たんとう　むめい　つけたりしゅうるしぬりちいさがたなこしらえ）
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　鉄・鍛造
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　刃長 35.8cm
　○施工会社　真澄庵
　○修理内容　刀身の研磨により、作品を侵食する赤錆を除去する。これに加えて、差込研による美術刀剣に適した仕上げを行うことで、展示効果をより一層高める。刀身を保護し、保管箱の役割を果たす白鞘と気密性保持に欠かせないヽヽバキを新調することにより、今後の保存に役立てる。付属の朱漆塗小さ刀拵についても、柄巻の巻き替えや、各部の調整を加えることで展示効果を高める。

＜漆工＞（1 件）

6　○名　　称　花鳥蒔絵螺鈿書箪笥（かちょうまきえらでんたんす）
　○時　　代　桃山時代（16 世紀）
　○品　　質　木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
　○員　　数　1 基
　○寸 法 等　幅 60.8cm　奥行 34.7cm　高 43.3cm
　○施工会社　北村繁
　○修理内容　1 修理前の写真撮影を行う。　2 作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。　3 クリーニングを行う。　4 剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。　5 漆塗の表面を漆固めで強化する。　6 螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。　7 漆塗膜の欠失部は刻苧や漆下地で補う。　8 木地の欠失部は刻苧漆、檜材の埋め木、漆下地で補う。　9 前扉の本体側蝶番金具を、所定の位置に打ち込んで扉を固定する。　10 修理後の写真撮影を行う。（25 年度より 3 ヶ年事業）

＜染織＞（5 件）

7　○名　　称　萠黄中蔓金襴（もえぎかなづるきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・15 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 29.2cm、横 25.4cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

8　○名　　称　蜀金金襴（しょっきんきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・17 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 20.7cm、横 19.1ｃｍ
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

9　○名　　称　今春裂金襴（こんぱるきれきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・15 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 13.7cm、横 19.3ｃｍ
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている表面の糸の乱れと、裏面の金糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

10　○名　　称　富田丹地雲金襴（とみたたんじくもきんらん）
　○時　　代　中国・宋時代・13 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 15.5cm、横 23.7cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、表面の糸の乱れと裏面の金糸の乱れを整える。虫損による穴の周囲に補修裂

をあて糸で補修する。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

11 ○名　　称　蘇芳地垂花紋モール（すおうじすいかもんもーる）
○時　　代　18世紀
○品　　質　絹・金糸
○員　　数　1裂
○寸 法 等　縦41.5cm、横24.4cm
○施工会社　株式会社　染技連
○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

＜歴史資料＞（1件）
12 ○名　　称　賀茂御祖神社絵図（かもみおやじんじゃえず）
○時　　代　室町時代（15世紀）
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1枚
○寸 法 等　本紙　縦214.0ｃｍ　横193.0ｃｍ　総丈　縦225.0ｃｍ　横202.0ｃｍ
○施工会社　株式会社 光影堂
○修理内容　1 修理前の損傷状態について、調査・記録を行う。 2 脆弱化している本紙の絵具層の養生を行う。 3 表面の汚れを可能な限り除去する。 4 解装に耐えられない可能性のある絵具層にたいし、剥落止を行う。 5 表装裂地と本紙を取り外し、仮裏を打つ。 6 濾過水を噴霧し、本紙の汚れを除去する。 7 絵具層の剥落止を行う。 8 裏打紙を除去する。 9 新規に補修紙を作成し、本紙欠失箇所に補紙を補填する。 10 新たな肌裏を打つ。 11 増裏打を行う。12 折れ伏せを施し、補強を行う。 13 仮張りを行う。 14 表装裂地を新調し、肌裏を打つ。 15 仮張りされた本紙、及び表装裂地を袋表装の形に付け廻しする。 16 中裏を打つ。17 総裏を打ち、仮張りし充分な乾燥期間を置く。 18 補紙を施した箇所に補彩を行う。 19 上巻絹、発装、中軸、軸首等を新調し、掛軸装に仕立てる。 20 太巻添軸、桐屋郎箱（一重）を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。(26年度より・2ヶ年事業)

【奈良国立博物館】（11件）

＜絵画＞(4件)
1 ○名　　称　絹本著色山越阿弥陀図（けんぽんちゃくしょくやまごしあみだず）
○員　　数　1幅
○時　　代　鎌倉時代　14世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦146.9ｃｍ　横94.3ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。表装を解体し、裏打紙を取り替える本格修理を行う。過去の修理や損傷の状態について詳細な損傷図を作成し、旧補絹の除去及び再使用については修理過程で綿密に検討する。軸装を解体の上、クリーニングを施し、剥落止めを行う。表打ちをし、可能な範囲で旧肌裏紙、旧補絹を除去。新たな補絹、肌裏紙を施し、折れ伏せを行う。軸首は再使用、表装裂、太巻、印籠蓋箱、四方帙は新調。(継続3か年事業のうちの第2年目)

2 ○名　　称　紙本著色泣不動縁起（しほんちゃくしょくなきふどうえんぎ）
○員　　数　2巻
○時　　代　室町時代　16世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　（上巻）縦31.7ｃｍ　横504.3ｃｍ　（下巻）縦31.7ｃｍ　横553.0ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。料紙の折れや欠失部分、絵具の剥離・剥落に対する処置を行い、表面に付着した汚れ等はクリーニングを施す。巻子装を解体し、現在の裏打紙は適切な厚みと材質のものに全て取り替え、一般的な日本の絵巻の形式に則して一紙毎に総裏打ちまで行った後に継ぐ。表紙は新調するが、見返しは再使用とし、間に隔紙を入れて補強する。軸首は再使用し、八双・太巻添軸・軸巻紙・桐印籠箱・紐を新調する。付属品は旧箱とともに別保存とする。(継続2か年事業のうち第2年目)

3 ○名　　称　絹本著色東大寺曼荼羅（けんぽんちゃくしょくとうだいじまんだら）
○員　　数　1幅
○時　　代　室町時代　16世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦132.3ｃｍ　横72.1ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れなどの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。全面に発生した折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打ち紙をあてる。表装については、筋付きの二段仏表具に改装し、軸首・軸木・啄木を新調。また、太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙も新調する。(継続2か年事業のうち第2年目)

4 ○名　　称　絹本著色明空法師像（けんぽんちゃくしょくみょうくうほうしぞう）
○員　　数　1幅
○時　　代　鎌倉時代　13世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦168.5ｃｍ　横100.2ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。欠失箇所の周囲を中心に認められる塗布物については、合成樹脂である可能性があり、事前に十分な調査を行った上で除去方法を検討する。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めを行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打紙をあてる。表装裂は再使用して二段仏表具の形に付け廻し、軸首・鐶も再使用。上下軸・啄木は新調。径を太くした桐製太巻添軸を新調し、二重箱は再使用とする。(継続2ヶ年事業のうち第1年目)

＜書跡＞(1件)
5 ○名　　称　法華経（色紙経）（ほけきょう〔しきしきょう〕）
○指　　定　重要文化財
○員　　数　8巻
○時　　代　平安時代　12世紀
○品　　質　色紙墨書
○寸 法 等　（巻第一）縦24.8ｃｍ　長922.8ｃｍ　（巻第二）縦24.8ｃｍ　長1078.5ｃｍ　（巻第三）縦24.8ｃｍ　長1016.2ｃｍ　（巻第四）縦24.8ｃｍ　長884.9ｃｍ　（巻第五）24.8ｃｍ　長961.1ｃｍ　（巻第六）24.8ｃｍ　長935.3ｃｍ　（巻第七）24.8ｃｍ　長868.1ｃｍ　（巻第八）縦24.8ｃｍ　長764.3ｃｍ

○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。事前調査を行った後、全体を解体する。旧補紙は除去し、その糊跡についても本紙に負担のない範囲で除去する。本紙表面に付着するほこりなど汚れも除去する。水濡れによる汚れは、直接水分を与えず、染色に影響のない範囲で間接的に湿り気を与え軽減させる。暴れ・折れ・皺等にも直接水分を与えず、間接的に湿りを与えて伸ばしプレス乾燥させ、修整する。強い折れには、適宜折れ伏せを施す。紙質調査を行った上で、適切な補修紙を作成し、欠失箇所を補填する。金泥・墨書・朱の状態を確認し、必要に応じ膠水溶液で剥落止めを施す。表紙・見返しの損傷箇所も補修紙により補填し、再利用する。八双・巻緒・軸首・軸木は可能な限り再利用するが、解体後不具合があった場合は新調を検討する。軸付紙は新調し、巻子装に仕立てる。包裂は新調する。保存箱は桐桟蓋二段重ねの中箱と桐台指外箱を新調する。(継続３ヶ年事業のうち第１年目)

＜彫刻＞(3件)

6　○名　　称　木造如来立像（もくぞうにょらいりゅうぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　10～11世紀
○品　　質　木造　漆箔・彩色
○寸 法 等　像高　147.8㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　像本体の表面をクリーニングし、肉身部の漆箔の浮き上がりは樹脂で剥落止めを行う。虫蝕箇所は樹脂と砥の粉との混合物で充填し、朽損欠失の目立つ箇所には樹脂を含浸させて強化を図り、これ以上損傷が進行しない程度にまで木屎漆で補強する。白毫については一旦取り外し、再利用するかどうか検討する。右肘内側の別材部も同前。別製袖部２枚はクリーニングし、別保存する。両手首先は補わない。脱落する背板は本体背面に固定するが、目違い部の修正は行わない。背面の干割れには薄板を差し込み、充填強化する。ヒノキ材製、黒漆塗りの方座を新たに製作する。本体に関する修理箇所はすべて古色仕上げとし、修理記銘銅札を台座裏に打付する。(1ヶ年事業)

7　○名　　称　木造僧形神坐像（もくぞうそうぎょうしんざぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　10世紀
○品　　質　木造　現状素地
○寸 法 等　像高 51.5㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　表面の汚れは、可能な範囲で除去する。点在する虫孔は、ブチラール樹脂に砥の粉や木粉と顔料を混合したものを充填し、補修する。体幹部及び両脚部の底面の朽損箇所は、はじめにアクリル樹脂を含浸して強化を図る。そのうえで体幹部材については、木屎漆またはブチラール樹脂に砥の粉や木粉を混合したもので最小限の補足を行い損傷拡大を防止し、両脚部材についてはヒノキ材と木屎漆で欠損部を整形することで、体幹部との繋がりを良くし、像の安定を図る。頭体幹部と両脚部とを繋ぐ丸雇枘は、枘孔内をヒノキ材や木屎漆で整形して緩みをなくし、接合を強固にする。接合は丸枘のみとし、矧ぎ目の接着は行わない。左手先を繋いでいた丸雇枘も同様の方法で緩みをなくす。両手先の補作は行わない。(1ヶ年事業)

8　○名　　称　木造女神坐像（もくぞうじょしんざぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　11世紀
○品　　質　木造　彩色
○寸 法 等　像高 52.5㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　表面の汚れは、彩色層に影響を及ぼさない程度に除去し、いちじるしい汚れについてはレーヨン紙等による吸い取りで除去する。また、メチルセルロースを塗布することで彩色を下地から安定させる。面相部の欠損箇所については、損傷拡大のおそれがある部位のみブチラール樹脂に砥の粉や木粉を混合したもので整形し、補作は行わない。劣化した鉄釘は、抜かずに現状のままとし、鉄錆により朽損した木質にアクリル樹脂を含浸し、木質強化と鉄釘の防錆を図る。鉄釘の劣化にともない動揺する割矧ぎ部には膠を注し、さらに必要に応じて像底や像内より薄板を挿し入れ、安定を図る。干割れ等による像表面の空隙は、埋めずに現状のままとする。頭体幹部と両脚部とを繋ぐ後補の木屎漆は除去し、矧ぎ目の調査を実施して修理仕様を検討する。必要に応じて再度木屎漆で整形し、古色仕上げをほどこす。(1ヶ年事業)

＜染織＞(2件)

9　○名　　称　刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかにょらいせっぽうず）
○指　　定　国宝
○員　　数　1面
○時　　代　奈良または中国・唐時代　8世紀
○品　　質　絹製　刺繍
○寸 法 等　縦207.0㎝　横157.0㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。過去の修理や経年・構造による損傷の軽減を図るため、装丁を解体する。装丁は全て復元新調するが、床に接する下端には薄い裂縁を付ける。額装扉が刺繍面に直接当たらないように、本紙周囲に厚みを付ける。現行の縁まわしをめくり、刺繍面を全てあらわす。縁まわし裂は現行のものを復元した裂を新調する。剥落の危険がある箇所を接着し、剥落止めを施す。旧補修箇所は表から剥落止めし、オリジナル部分との高低差をなくす処置を施しつつ、現行より刺繍になじむ色となるよう調整する。裂けている部分や画面全体の安定のため裏打ち紙を打ち替える。銘文は現行に準じた箇所に貼り付ける。取り扱い及び収納用の木枠を作製し、木枠ごと収納する箱を作製する。箱は作品を立てて保管する仕様とする。(継続4 か年事業のうちの第４年目)

10　○名　　称　刺繍阿弥陀三尊来迎図（ししゅうあみださんぞんらいごうず）
○指　　定　未指定
○員　　数　1幅
○時　　代　南北朝時代　14世紀
○品　　質　絹本　絹製（毛髪を併用）刺繍
○寸 法 等　縦71.7㎝　横25.0㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。表具を解体し、裏打紙を取り替え、表具を新調する。クリーニング、剥落止めを施し、ほつれた繍い糸は調整する。地裂の欠失部分は電子線劣化絹を使用して補填する。折れの強い部分は折れ伏せを施し補強する。巻きの負担を軽減するため太巻添軸を新調し、それに伴って保存箱も新調する。なお、軸首、残存する端飾金具は再使用するが、欠失した端飾金具は復元新調する。(1ヶ年事業)

＜考古＞(1件)

11　○名　　称　眉庇付冑、鋸、刀子、ヤスリ状鉄器　（五条猫塚古墳出土）（まびさしつきかぶと、のこぎり、とうす、やすりじょうてっき〔ごじょうねこづかこふんしゅつど〕）
○員　　数　一括
○時　　代　古墳時代　5世紀
○品　　質　眉庇付冑は鉄地金銅装、鋸・刀子・ヤスリ状鉄器は鉄製、鍛造品。
○寸 法 等　眉庇付冑／現存高14.7㎝、全長28.4㎝、冑鉢長径21.0㎝　鋸／①20.1㎝、②7.4㎝、③4.0㎝（以上、残存長）刀子／①8.4㎝、②7.6㎝、③7.4㎝、④6.8㎝、⑤15.6㎝、⑥16.6㎝、⑦3.2㎝、⑧10.8㎝、⑨16.4㎝（以上、残存長）　ヤスリ状鉄器／①13.8㎝、②7.6㎝、③21.4㎝、④24.8㎝（以上、残存長）
○施工会社　(公財)元興寺文化財研究所
○修理内容　１．Ｘ線撮影による構造把握、２．錆や砂等のクリーニング、３．脱塩処理、４．接合、強化樹脂の塗布と欠失部分の樹脂補強、５．必要部分に光沢の除去、後補部分に着色。(1ヶ年事業)

【九州国立博物館】（22件）

＜絵画＞（9件）

1　○名　　称　両界曼荼羅（りょうがいまんだら）　2幅（25年度より継続・3ヶ年計画）
　○所 蔵 者　奈良国立博物館
　○時　　代　室町時代・応永4年(1397)
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　各縦 169.0 ㎝　横 134.4 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙について肌裏紙を残して除去する。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。6.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。7.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。8.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。9.表打の養生紙を除去する。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.折れ伏せを入れ、折れを直す。12.九州国立博物館支給の裂に肌裏打ち、増し裏打ちを行い、仮張りをする。13.本紙と裂を表装の形態に付け廻しを行う。14.美栖紙にて2層の中裏打を行う。15.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。16.補絹の箇所に補彩をする。17.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。18.桐太巻添軸2本、桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。27年度は9～18を施工

2　○名　　称　ヒポクラテス像　渡辺崋山筆（ひぽくらてすぞう　わたなべかざんひつ）　1幅
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・天保11年(1840)　年記：天保2年(1831)
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　縦 110.1 ㎝　横 41.4 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細を留め、修理前の調査を行なった後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行なった後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行なう。3.経年の劣化による膠着力の低下と表面の擦れにより不安定になっている絵具層に、兎膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。4.本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。5.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。6.肌裏紙除去後に本紙の周りに本紙と同じ組成で出来た電子線劣化絹にて補絹を施す。7.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9.表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。10.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。11.補修箇所に補彩を施す。12.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。13.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

3　○名　　称　釈迦如来像（しゃかにょらいぞう）　1幅（26年度より継続・2ヵ年計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　中国 元時代・14世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　本紙　縦139.0 ㎝　横60.9 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、本紙を表装より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.旧肌裏紙以外の裏打ち層の除去を最小限の湿りにて行い、仮裏打ちを行う。5.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。6.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している絵具層に対して 1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。7.料絹欠失箇所で裏彩色層が残留している箇所に対して、表面より本紙基調色に染色した電子線劣化絹を用いて補絹を施す。8.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。9.表補絹を施した箇所以外の本紙欠失箇所に対して、裏面より電子線劣化絹にて補絹を行う。10.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。11.表装裂地は、中廻し風帯の金襴と総縁の綾裂に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを施し、仮張りを行う。12.表装裂地の仮張り後、新糊と古糊の混合糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。13.本紙と裂地の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2 段目以降は宇陀紙を用いて、古糊にて総裏打ちを行う。14.補絹箇所に補彩を施す。15.軸首は再使用し、座鐶、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。16.桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。27年度は10～16を施工。

4　○名　　称　物語図　二曲屏風（ものがたりず　にきょくびょうぶ）　2曲1双
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・17世紀
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦122.5 ㎝　横271.1 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、本紙に負担がかからないように屏風装を解体し、本紙を下地より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、膠着力が低下している絵具層に対して1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。8.薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、さらに薄美濃紙を用いて2回目の裏打ちを行う。9.縁裂は、大縁と小縁の金襴に薄美濃紙にて新糊を用い、肌裏打ちを行う。裏面の唐紙を新調し、新糊を用いて肌裏打ちを行う。10.杉材を用い総納組隅止めとした下地を2枚新調する。新調した下地の両面に石州紙を用いて6種8層の下貼りを施し、よく乾燥させる。下貼りを施した下地に蝶番を取り付け、屏風装の形に組み立てる。11.補修箇所に補彩を施す。12.屏風装に組み立てられた下地に、補修の完了した本紙に新糊を用いて上貼りを行う。裏面には裏打ちされた唐紙に新糊を用いて上貼りする。上貼り後、縁裂に新糊を用いて付け廻しを行う。13.飾り金物は再使用し、襲木を新調し、屏風装に仕立てる。14.新調した包み裂に本紙を包み納める。

5　○名　　称　隠元隆琦像　喜多元規筆・隠元隆琦賛(いんげんりゅうきぞう　きたげんきひつ　いんげんりゅうきさん)　1幅（27年度より継続・18ヶ月計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦 119.3 ㎝ 横 48.8 ㎝

○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地は新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。27年度は1～7を施工。

6　○名　称　虎図　熊斐筆（とらず　ゆうひひつ）　1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　江戸時代・宝暦12年（1762）
○品　質　紙本著色
○寸法等　縦 133.0 ㎝ 横 47.6 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

7　○名　称　釈迦三尊二比丘十六羅漢図（しゃかさんぞんにびくじゅうろくらかんず）　1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　鎌倉時代・13世紀
○品　質　絹本著色
○寸法等　縦 103.5 ㎝ 横 55.4 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、本紙を表装より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、免膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.旧肌裏紙以外の裏打ち層の除去を最小限の湿りにて行い、仮裏打ちを行う。5.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。6.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している絵具層に対して1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。7.料絹欠失箇所で裏彩色層が残留している箇所に対して、表面より本紙基調色に染色した電子線劣化絹を用いて補絹を施す。8.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。9.表補絹を施した箇所以外の本紙欠失箇所に対して、裏面より電子線劣化絹にて補絹を行う。10.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。11.表装裂地は、中廻し風帯の金襴と総縁の綾裂に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを施し、仮張りを行う。12.表装裂地の仮張り後、新糊と古糊の混合糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。13.本紙と裂地の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2段目以降は宇陀紙を用いて、古糊にて総裏打ちを行う。14.補絹箇所に補彩を施す。15.軸首は再使用し、座鐶、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。16.桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。

8　○名　称　陶淵明愛菊図 伝周文筆・瑞渓周鳳賛　（とうえんめいあいきくず　でんしゅうぶんひつ・ずいけいしゅうほうさん）1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　室町時代・文明4年（1472）賛
○品　質　紙本墨画淡彩
○寸法等　縦 78.2 ㎝　横 23.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え、短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.　本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.　肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.　表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.　本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.　補修箇所に補彩を施す。10.　軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.　桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

9　○名　称　柳に柴垣図　六曲屏風（左隻）（やなぎにしばがきず　ろっきょくびょうぶ）1隻（26年度より2ヵ年計画）
○所蔵者　梅林寺（福岡）
○時　代　江戸時代・17世紀
○品　質　紙本金地著色
○寸法等　縦 150.3 ㎝　横 313.4 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.乾式による汚れの除去を行う。3.絵画部分の剥落および剥離の概念される箇所に膠水溶液を塗布し強化する。4.表装を解体し、本紙の旧肌裏紙以外の肌裏紙を除去する。5.透過水を透過させ、吸収紙に吸い取らせる方法で汚れや酸化物を除去する。6.最小限の水分量で旧肌裏紙および旧補紙を除去する。7.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。8.本紙裏面より料紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行なう。9.薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、さらに薄美濃紙を用いて2回目の裏打ちを行う。10.縁裂は、大縁と小縁の金襴に薄美濃紙にて新糊を用い、肌裏打ちを行う。裏面の唐紙を新調し、新糊を用いて肌裏打ちを行う。11.杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。新調した下地の両面に石州紙を用いて8度下貼りを施し、よく乾燥させる。下貼りを施した下地に蝶番を取り付け、屏風装の形に組み立てる。12.補修箇所に補彩を施す。13.屏風装に組み立てられた下地に、補修の完了した本紙に新糊を用いて上貼りを行う。裏面には裏打ちされた唐紙に新糊を用いて上貼りする。上貼り後、縁裂に新糊を用いて付け廻しを

行う。14.飾り金物は再使用し、襲木を新調し、屏風装に仕立てる。27年度は8～14を施工

＜書跡＞（1件）

10 ○名　　称　栄花物語（えいがものがたり）　17帖（24年度より継続・3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・13世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　（大型本）　縦 30.6 ㎝　横 24.2 ㎝　（小型本）　縦 16.3 ㎝ 横 14.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2.必要に応じて冊子を解体する。3.本紙の汚れをクリーニングする。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。6.本紙の折れ・シワを伸ばす。7.本紙をプレス乾燥する。8.本紙を元の冊子装に綴じ直す。9.箱帙を新調して本紙を納め、新調した桐印籠箱2合に納入する。 27年度は冊子番号11～17を施工

＜染織＞（6件）

11 ○名　　称　壁掛け（パランポア）　白地花樹文様更紗　（かげかけ（ぱらんぽあ）しろじかじゅもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　18-19世紀（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　200.0 ㎝　長さ　282.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.中央の縫い続きで縫いが離れている箇所は、旧線で継ぎを補足する。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

12 ○名　　称　装飾布　藍地植物文様更紗（そうしょくふ　あいじしょくぶつもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　15-16世紀
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　99.0cm 長さ　262.0cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地の状態を調査する。仕立てや旧補修などはないことから、解体は行わない。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.生地整えについては、検討した上で行う。残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。4.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。5.欠損端口の補修を想定する。6.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。7.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

13 ○名　　称　装飾布　白地人物文様更紗(人形手)（そうしょくふ　しろじじんぶつもんようさらさ(にんぎょうで)　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インドネシア　スラウェシ島トラジャ伝来）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　105 ㎝ 長さ　490 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

14 ○名　　称　サリー断片　赤地立木人物文様紋織（さりーだんぺん　あかじたちきじんぶつもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、撚金糸、絹
○寸 法 等　幅　110 ㎝ 長さ　171.5 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.補修後の生地の両端は元の針穴を辿って旧状に仕立てる。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

15 ○名　　称　サリー　白地人物ペーズリー文様紋織（さりー　しろじじんぶつぺーずりーもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、金銀糸、絹、ミラー
○寸 法 等　幅　115 ㎝ 長さ　488 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

16 ○名　　称　茜地山水松鶴文更紗（あかねじさんすいまつつるもんさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）

○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18 世紀　（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　縦 312.0 ㎝　横 224.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2. 筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3. 仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4. 生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5. 両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6. 欠損端口の補修を想定する。7. 補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8. 現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27 年度は 1～2 を施工

＜考古＞（1 件）

17 ○名　　称　弥生土器・壺（板付Ⅱａ式）（やよいどき・つぼ）　1 点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　弥生・B.C5-B.C4
○品　　質　土製
○寸 法 等　口径 12.5 ㎝ 胴径 21.0 ㎝ 高 24 ㎝
○施工会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 修理前の状況、材質、形態の記録およびカルテを作成する。2. 解体、旧修理で用いられた接着剤を有機溶剤などで溶解し解体する。3. 接着部など有機溶剤などで溶解し洗浄する。4. 表面に付着した粉塵や墨を、イオン交換水を含ませ脆弱にしてからブラシなどで除去、洗浄する。5. 土器表面など、粉状化ならび剥落箇所には強化する。6. 強化した破片面同士を溶剤形接着剤で接着する　7. 接着部の隙間には、エポキシ樹脂を補填して形状を復元する。8. 補填した箇所の補彩を行う。9. 保存箱などは不要とする。

＜歴史資料＞（3 件）

18 ○名　　称　重文 対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）　18 箱 12 巻（26 年度より 4 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 18.0-34.5 ㎝　横 45.5-56.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、巻子装を解体する。2. 筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して 1～2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与えることで肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7. 虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補絹を施す。8. 本紙に薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9. 表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10. 折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11. 表紙裂の地色を基調色とし、補絹箇所に補彩を施す。12. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、巻子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。27 年度は巻 4～6 を施工

19 ○名　　称　今川了俊書下（いまがわりょうしゅんかきくだし）　1 幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　南北朝時代・嘉慶 2 年（1388）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 27.0 ㎝　横 46.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料絹の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2. 筆や刷毛等によるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3. 経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨層に兎膠水溶液１～３%を用い剥落止めを行う。4. 最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5. 肌裏除去後に、本紙欠失箇所に本紙と同様の紙繊維でできた補修紙を用いて補修を施す。6. 天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。8. 表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏打後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を半々で混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。9. 本紙と裂地の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打を行う。その後、古糊にて総裏打を行う。10. 料紙の持っている色合いを基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いにて、欠失部に補填した補修紙上にのみ補彩を施す。11. 軸首は洗浄を行い、再使用する。座鐶、八双、軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。12. 桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。中箱は桐屋郎箱を新調し納める。

20 ○名　　称　豊臣秀吉朱印状 遠藤彦右衛門・助二郎宛 （とよとみひでよししゅいんじょう　えんどうひこえもん・すけじろうあて）　1 通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　安土桃山時代・天正 15 年（1587）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 32.1 ㎝　横 47.6 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 一紙ものであるため、特に解体は行わない。2. 筆や刷毛などによるトライクリーニングを行う。また虫糞の付着もみられるため、本紙を傷つけないよう除去する。現状の本紙材紙の風合いをの残すために水によるクリーニングは行わない。3. 経年の劣化による墨線の膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨線に兎膠水溶液１～３%を用い剥落止めを行う。4. ゴアッテックスを用いて本紙に必要最低限の湿りを入れて伸ばし、皺などの修正を行い、全体の形状を整える。5. 本紙料紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製する。また、本紙裏面より料紙欠箇所に補所に補修を行う。6. ゴアッテックスを用いて必要最低限の湿りを入れてプレス乾燥し、繊維の毛羽立ちを押さえる。7. 旧箱の糊浮き部分に糊挿しを行い固定する。8. 本紙は元通り折り畳み、包紙に包んで収納する。桐屋郎箱を新調し、包紙に包んだ本紙と旧箱を納入する。

＜民俗資料＞（2 件）

21 ○名　　称　大壺（常滑窯）（おおつぼ(とこなめよう)）　1 口
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　平安・11-12 世紀

〇品　　質　　陶器
〇寸 法 等　　高52.6 ㎝　口径35.2 ㎝　胴径60.5 ㎝　底径15.6 ㎝
〇施工会社　　株式会社芸匠
〇修理内容　　1.修理前の調査を行う。2.解体、旧修理で用いられた接着剤を有機溶剤などで溶解し、解体する。3.接着部など有機溶剤などで溶解し洗浄する。4.表面など、粉状化ならび剥落箇所には強化する。5.強化した破片面同士を溶剤形接着剤で接着して組み立てる。6.接合部の隙間には、エポキシ樹脂を補填して形状を復元補修する。7.補填した箇所の補彩を行う。8.保存箱などは不要とする。

22　〇名　　称　　朱漆脚付食籠（しゅうるしきゃくつきじきろう）1合
〇所 蔵 者　　九州国立博物館
〇時　　代　　19世紀　（ミヤンマー）
〇品　　質　　木、漆
〇寸 法 等　　高38.0 ㎝ 最大幅69.5 ㎝
〇施工会社　　合同会社大西漆芸修復スタジオ
〇修理内容　　1.修理前の損傷状況、絵絹の特徴・繊組織、作品形態および顔料観察などの調査を行なう。2.作業中の二次的な損傷を予防するため、破損部周辺の漆塗膜などが不安定な部分に薄手雁皮紙の小片を薄い澱粉糊で貼って養生を行う。3.全体のクリーニングを行う。柔らかい筆を用いて表面に溜まった埃などを注意深く取りの除いた後、精製水などで湿らせた綿棒などを用いて表面の汚れを可能な範囲で除去する。4.不安定になっている脚は釘を抜き取って本体と分離する。5.取り外した脚は接着部など整えた後、麦漆を用いて所定の位置で接着する。6.現状のままで接合部に亀裂を生じた脚は、亀裂に希釈した麦漆を注入して補強した後、漆刻苧と漆下地を適宜充填して形状を整え、周辺と調和するように仕上げる。7.蓋頭頂部の宝珠は接合位置を確認してから麦漆で所定の位置に接着する。8.麦漆が固まって宝珠が固定された後、解れている籃胎に可能な限り麦漆で本体に接着し、別保存されている漆塗膜で場所が特定できるものを所定の位置に麦漆で接着する。9.別保存されている飾り板や宝珠の部材は場所の確認を行い、所定の位置に麦漆で接着する。10.脚や宝珠の部材接合部や破損部周辺の塗膜欠失部は漆下地などで形状を整え、周囲と調和するように仕上げる。11.飾り板や胴の裏面の桟の接合部に生じた亀裂に希釈した麦漆を注入して補強し、隙間は漆下地などで形状を整えて仕上げる。12.籃胎の編目に沿って生じた漆塗膜の亀裂のうち、引っ掛かる恐れがある部分を漆刻苧と漆下地などを充填して補強する。13.保存箱などは不要とする。

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件　　平成28年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		269	90	113 (4,686)	66 (752)
絵　画		64	3	44 (1,876)	17 (251)
書　跡		38	0	25 (1,057)	13 (173)
彫　刻		48	1	27 (1,287)	20 (208)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		2	2	0 (1)	0 (4)
刀　剣		2	2	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (1)	0 (0)
漆　工		13	1	0 (39)	12 (71)
染　織		18	10	4 (176)	4 (10)
考　古		28	28	0 (13)	0 (0)
歴史資料		9	1	8 (183)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (3)	0 (2)
その他		5	0	5 (35)	0 (1)
東洋	絵　画	1	1		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	2	2		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	2	2		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		33	33		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 来館者数推移（入館料別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成28年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	92%
140件(外国語)	74件(外国語)	71件(外国語)	48件(外国語)
140件(日本語)	74件(日本語)	71件(日本語)	52件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計140件(外国語)/140件(日本語)

- 総合文化展（特集を除く）　99件（外国語）／99件（日本語）　含国宝室
- 特集陳列　31件（外国語）／31件（日本語）
- 黒田記念館　10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計74件(外国語)/ 74件(日本語)

- 名品ギャラリー（特集陳列等を除く）　58件（外国語）／58件（日本語）
- 特集陳列「葵祭の美術」「日本の仮面」　2件（外国語）／2件（日本語）
- 特別展観「仏法東漸」　1件（外国語）／1件（日本語）
- 特集陳列「刀剣を楽しむ」「獅子と狛犬」　2件（外国語）／2件（日本語）
- 特集陳列「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」　10件（外国語）／10件（日本語）
- 特集陳列「雛まつりと人形」　1件（外国語）／1件（日本語）

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計71件(外国語)/71件(日本語)

- 名品展（珠玉の仏像美術）　5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
- 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 特集展示「新たに修理された文化財」　6件（外国語）／ 6件（日本語）
- 特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）
- 仏像写真展「大和の仏たち－奈良博写真技師の眼－」　18件（外国語）／18件（日本語）
- 模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
- 模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）

【九州国立博物館】計 48 件(外国語)/52 件(日本語)

- 文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　40 件(外国語)/47 件(日本語)
- 文化交流展示　音声ガイド　3 件(外国語)/ 0 件(日本語)
- 文化交流展示　トピック展示・特別公開等

うち「新羅王子がみた大宰府」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「太宰府天満宮の地宝」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「国宝　初音の調度」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「祈りのかたち　八幡」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「田中丸コレクションの茶陶」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年）

H28.3.31現在

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	37校	38校	43校	44校	48校
京都国立博物館	30校	30校	29校	29校	29校
奈良国立博物館	28校	27校	26校	27校	27校
九州国立博物館	28校	24校	24校	24校	25校
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	112回	126回	131回	127回	146回
講演会等　参加者数	12,664人	13,193人	15,777人	14,419人	18,080人
①講演会	32回	31回	30回	30回	23回
	8,224人	6,952人	7,184人	6,735人	6,023人
アンケート結果	91%	82%	84%	92%	89%
（内訳）					
・月例講演会等	13回	12回	12回	12回	12回
	2,457人	1,791人	1,951人	1,893人	2,369人
アンケート結果	91%	82%	80%	88%	94%
・記念講演会	15回	12回	11回	13回	9回
	4,669人	3,682人	3,368人	3,651人	3,005人
アンケート結果	89%	85%	88%	85%	93%
・シンポジウム	―	―	―	―	1回
	―	―	―	―	264人
アンケート結果	―	―	―	―	89%
・テーマ別講演会	3回	4回	6回	4回	1回
	775人	1,051人	1,709人	1,096人	365人
アンケート結果	―	77%	84%	96%	86%
・その他講演会	1回	3回	1回	1回	0回
	323人	428人	156人	95人	0人
アンケート結果	―	78%	83%	98%	0
②列品解説（ギャラリートーク等）	76回	90回	98回	94回	120回
	3,963人	5,805人	8,205人	7,326人	11,669人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	380人	303人	354人	320人	352人
アンケート結果	89%	75%	95%	87%	97%
④公開講座	3回	4回	2回	2回	2回
	97人	133人	34人	38人	36人
アンケート結果	97%	94%	97%	97%	98%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	15回	19回	21回	36回	39回
講演会等　参加者数	1,450人	3,150人	2,062人	4,596人	4,845人
①土曜講座	13回	16回	10回	31回	32回
	1,199人	2,682人	1,257人	3,888人	3,721人
アンケート結果	77%	84%	87%	80%	83%
②記念講演会	―	1回	1回	1回	1回
	―	215人	190人	193人	200人
アンケート結果	―	89%	88%	―	―
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	193人	213人	219人	206人	206人
アンケート結果	78%	92%	91%	89%	80%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	58人	40人	30人	66人	91人
⑤セミナー・シンポジウム等	―	―	―	2回	4回
	―	―	―	243人	627人
⑥ギャラリートーク	―	―	8回	―	―
	―	―	366人	―	―
⑦ギャラリートーク	―	―	8回	―	―
	―	―	366人	―	―
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	28回	29回	26回	27回	28 回
講演会等　参加者数	3,006人	3,454人	3,219人	3,525人	3,974人
①特別展等講座	15回	16回	13回	14回	15回
	1,839人	2,172人	1,682人	1,986人	2,123人
アンケート結果	87%	85%	85%	86%	79%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	522人	438人	587人	561人	609人
アンケート結果	90%	95%	95%	91%	95%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	645人	844人	950人	978人	1,242人
アンケート結果	88%	85%	85%	87%	85%
④大学との合同公開講座	―	―	―	―	―
	―	―	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同開催	―	―	―	―	―
	―	―	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	89回	102回	90回	82回	87回
講演会等　参加者数	7,833人	8,354人	7,276人	4,694人	6,212人
①特別展記念講演会	7回	5回	5回	4回	3回
	1,500人	966人	1,108人	980人	710人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	39回	45回	38回	26回	38回
	4,592人	4,918人	4,450人	2,132人	4,096人
アンケート結果	―	―	―	―	―
③ミュージアムトーク	43回	52回	47回	52回	46回
	1,741人	2,470人	1,718人	1,582人	1,406人
○大学等との連携事業					
奈良国立博物館					
①放送大学の面接授業	0回	0回	0回	0回	0回
	―	―	―	―	―
②奈良女子大学との連携講座	7人	10人	9人	8人	3人
③神戸大学との連携講座	10人	7人	8人	16人	7人
九州国立博物館					
①放送大学の面接授業	1回	1回	1回	2回	2回
	50人	50人	50人	50人	44名

2-⑵-② キャンパスメンバーズ

平成28年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
48校	29校（※）	27校（※）	25校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入22校

【東京国立博物館】

①加入校数（48校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,260人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,375人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	7,957人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,739人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,588人	20年4月1日	
6	東京大学	34,323人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,674人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,302人	20年4月1日	
9	大正大学	5,277人	20年4月1日	
10	東海大学	33,232人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,742人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	805人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,200人	20年4月1日	
14	立教大学	23,654人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,993人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,896人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,954人	20年4月1日	
18	法政大学	38,945人	20年4月1日	
19	筑波大学	20,823人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,021人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,907人	20年5月1日	
22	東洋大学	31,360人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,123人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,348人	20年6月1日	
25	文教大学	9,397人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,112人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,145人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,879人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,386人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,421人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,062人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,630人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	2,993人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,702人	23年6月1日	
35	神奈川大学	20,141人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,947人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,479人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,272人	25年4月1日	
39	中央大学	31,976人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,633人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,932人	25年8月1日	
42	一橋大学	7,031人	25年11月1日	
43	共立女子大学・共立女子短期大学	5,807人	26年4月1日	
44	成城大学　文芸学部	1,915人	26年4月1日	
45	日本文化大學	866人	27年4月1日	
46	鶴見大学　文学部　文学研究科	1,369人	27年5月1日	
47	十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部	3,522人	27年6月1日	
48	早稲田大学　文化構想学部　多元文化論系	562人	27年6月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月4日（計6回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	180人
担当研究員数	6人

事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月3～7日（5日間）
開催場所	全館
参加者数	37人
担当研究員数	12人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①　加入校数（29校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	19,023人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
2	奈良教育大学	1,387人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,038人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	40,134人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	3,988人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
6	学校法人　関西大学	33,172人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	学校法人　京都産業大学	14,339人	24年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
8	帝塚山大学・附属高等学校	3,829人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
9	奈良女子大学	2,741人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	京都造形芸術大学	9,780人	18年6月1日	京博のみ	京博	
11	京都工芸繊維大学	4,117人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
12	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	827人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	京都精華大学	3,595人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
14	龍谷大学・龍谷短期大学	19,939人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都女子大学・京都女子短期大学	7,564人	18年7月1日	京博のみ	京博	
16	京都橘大学	4,389人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都教育大学・附属高等学校	2,397人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
18	成安造形大学	821人	18年8月1日	京博のみ	京博	
19	京都市立芸術大学	1,088人	20年8月1日	京博のみ	京博	
20	京都大学	23,399人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	
21	近畿大学文芸学部	2,171人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
22	花園大学	2,129人	18年11月1日	京博のみ	京博	
23	奈良先端科学技術大学院大学	1,091人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
24	大谷大学・大谷短期大学	3,523人	18年12月1日	京博のみ	京博	
25	大阪大学	24,529人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
26	京都文教大学	2,846人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
27	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,875人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
28	京都府立大学	2,164人	23年7月1日	京博のみ	京博	
29	立命館大学	36,358人	26年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,546 人	18 年 10 月 1 日	奈良博のみ	
2	奈良佐保短期大学	299人	18 年 11 月 29 日	同上	
3	天理大学	3,395人	20 年 7 月 1 日	同上	
4	奈良県立大学	655人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1,092人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,387人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学	3,829人	18 年 5 月 8 日	同上	
8	奈良女子大学	2,741人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	827人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,755人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	4,389人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,939人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,399人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学　文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,171人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	19,023人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	3,988人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,117人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,134人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,091人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,038人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,397人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学	24,522人	20年12月1日	同上	
23	京都文教大学、京都文教短期大学	2,846人	21年6月1日	同上	
24	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,875人	21年8月1日	同上	

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
25	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,172人	23年6月1日	同上	
26	立命館大学、立命館大学大学院	36,358人	26年4月1日	同上	
27	学校法人　京都産業大学（京都産業大学、京都産業大学付属高等学校）	14,339人	26年4月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①　加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	11,279人	25年4月1日	
2	九州情報大学	445人	27年4月1日	
3	九州大学	19,174人	26年4月1日	
4	久留米大学	7,460人	25年4月1日	
5	西南学院大学	8,209人	25年4月1日	
6	第一薬科大学	1,136人	27年4月1日	
7	筑紫女学園大学	2,637人	27年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	477人	26年4月1日	
9	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,685人	26年5月1日	
10	福岡教育大学	5,703人	26年4月1日	
11	福岡国際大学	445人	25年4月1日	
12	福岡女子大学	1,065人	27年4月1日	
13	福岡大学	20,790人	25年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,330人	26年4月1日	
15	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	376人	26年4月1日	
16	九州造形短期大学	244人	25年4月1日	
17	筑紫女学園大学短期大学部	286人	27年4月1日	
18	福岡女子短期大学	391人	25年4月1日	
19	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	152人	25年4月1日	
20	久留米大学附設高等学校	608人	25年4月1日	
21	西南学院高等学校	1,297人	25年4月1日	
22	筑紫女学園高等学校	1,437人	27年4月1日	
23	筑紫台高等学校	1,900人	27年4月1日	
24	福岡大学附属大濠高等学校	1,963人	25年4月1日	
25	福岡大学附属若葉高等学校	1,032人	25年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：　カフェコンサート	
内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月17日、5月29日、6月26日、7月10日、8月14日、10月2日、11月13日、12月4日、1月22日、2月12日、3月13日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成 28 年 3 月 31 日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**146回・18,080人** 講演会　23回6,023人 列品解説（ギャラリートーク等） 120回11,669人 連続講座　1回（3日）352人 公開講座　2回36人	**39回・4,845人** 土曜講座32回・3,721人 記念講演会1回・200人 夏期講座1回（3日）・206人 社会科教員のための向上講座 1回・91人 セミナー・シンポジウム等4回・627人	**28回・3,974人** 特別展等講座　15回・2,123人 （公開講座　14回・1,927人、 シンポジウム1回・196人） 夏季講座　1回(3日)・609人 サンデートーク12回・1,242人	**87回・6,212人** 特別展記念講演会　3 回・710人 講演及びシンポジウム　38回・4,096人 ミュージアムトーク　46回・1,406人
	その他展示に関連する事業 9回877人	その他展示に関連する事業 3回・55人	その他展示に関連する事業 18回・1,735人	その他展示に関連する事業 25回・272,070人

【東京国立博物館】

1)　講演会　23回　参加者数　6,023人

①月例講演会　計12回　参加者数　2,369人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月4日	「富士とサクラの絵画」 講師：山下善也（絵画・彫刻室主任研究員）	137	2	94%
5月23日	「書の楽しみ―特集『新収品』の関戸本古今和歌集を中心に」 講師：島谷弘幸（九州国立博物館長）	205	2	100%
6月27日	「呉服商『大彦』の小袖コレクションについて」 講師：小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	215	2	93%
7月25日	「大谷探検隊とシルクロード美術」 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	250	2	87%
8月29日	「子ども質問箱　教えて！エジプトのひみつ」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	108	2	89%
9月26日	「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」 講師：小野真由美(貸与特別観覧室主任研究員）	143	2	73%
10月10日	留学生の日「日本美術がおもしろくなる様々な見方」 講師：ミウォシュ・ヴォズニ（国際交流室アソシエイトフェロー）	170	2	84%
11月7日	「一遍とたどる日本の聖地と時宗の文化財」 講師：瀬谷愛（保存修復室研究員） 薄井和男（神奈川県立歴史博物館）	300	2	88%
12月5日	「後藤一乗　幕末の華やかな刀装と絵図」 講師：酒井元樹（保存修復室研究員）	131	2	93%
28年1月23日	「よろいをまとった仏たち」 講師：淺湫毅（教育講座室長）	300	2	90%
28年2月27日	「メソポタミアとインダスのあいだ　――知られざる海洋の古代文明――」 講師：後藤健（特任研究員）	220	2	85%
28年3月12日	「中国考古展今昔物語」 講師：　谷豊信（学芸研究部長）	190	2	88%

②記念講演会　計9回　参加者数3,005人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月11日	インドの仏展「インドの仏―古代初期から密教まで」 講師：小泉惠英(企画課長)	390	2	93%
5月2日	鳥獣戯画展「鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝」 講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)	350	2	97%
5月16日	鳥獣戯画展「鳥獣人物戯画の修理」 講師：岡岩太郎(岡墨光堂代表取締役) 大山昭子(岡墨光堂修復部長)	296	2	99%
7月11日	クレオパトラとエジプトの王妃展「クレオパトラとエジプトの王妃」 講師：クリスチアーヌ・ジェグレール(ルーブル美術館古代エジプト美術部門名誉部長/本展監修者)	328	2	81%
9月5日	クレオパトラとエジプトの王妃展「遺跡に見る古代エジプトの女王・王妃たち：発掘調査の現場から」 講師：近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授／本展監修者）	385	2	97%
10月31日	始皇帝と大兵馬俑展「始皇帝が夢見た『永遠』―兵馬俑と発掘品から読み解く―」 川村佳男(平常展調整室主任研究員)	382	2	94%
11月21日	始皇帝と大兵馬俑展トークイベント「びじゅチューン！ 井上涼×兵馬俑」 講師：井上涼(映像作家)×柿沼郭(ＮＨＫアナウンサー)ほか	363	2	100%
11月28日	始皇帝と大兵馬俑展「銅車馬―始皇帝の乗った車駕―」 講師：呉永琪(秦始皇帝陵博物院名誉院長)	273	2	91%
28年3月26日	黒田清輝展「黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み」 講師：山梨絵美子（東京文化財研究所企画情報部部長／本展企画・立案）	238	2	85%

③シンポジウム　計1回　参加者数284人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
12月19日	始皇帝と大兵馬俑展シンポジウム「秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―」 基調講演「秦王朝と兵馬俑の考古学」川村佳男(平常展調整室主任研究員) 報告1「秦鏡と秦人の“破鏡”習俗について」宋遠茹(陝西省考古研究院副研究員) 報告2「秦王朝を駆けた馬」菊地大樹(京都大学人文科学研究所特別研究員) 報告3「秦始皇帝陵および陪葬坑の考古学的新発見」陳洪(秦始皇帝陵博物院副研究館員)	284	2	89%

④テーマ別講演会　計1回　参加者数　365人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
28年1月16日	顔真卿と唐時代の書ものがたり 講師：鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員） 富田淳（企画課長）	365	2	86%

⑤その他講演会　計0回　参加者数0人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	"良い"の割合
―	―	―	―	

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　120回　　参加者総数　11,669人

○列品解説　54回　参加者総数　6,100人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月1日	桜からつくられた仏像 講師：淺湫毅（教育講座室長）	176	2
4月3日	鑑賞ガイド 講師：淺湫毅（教育講座室長）	67	2
4月7日	正倉院所在の法隆寺献納宝物の綾幡足を中心に 講師：沢田むつ代（客員研究員）	75	2
4月8日	今日はお釈迦様の誕生日　摩耶夫人像のお話 講師：三田覚之（教育普及室研究員）	92	2
4月10日	鑑賞ガイド 講師：神辺知加（教育講座室主任研究員）	27	2
4月14日	梁山夫婦塚の出土遺物 講師：白井克也（考古室長）	80	2
4月21日	象がやってきた！ 講師：加藤弘子（日本学術振興会特別研究員）	65	2
4月24日	中国・南北朝時代の書 講師：富田淳（列品管理課長）	90	2
4月28日	インド更紗鑑賞入門 講師：小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	98	2
5月12日	長野・光明寺の阿弥陀如来坐像について 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）	128	2
5月19日	国宝 和歌体十種の魅力 講師：恵美千鶴子（東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員）	150	2
6月2日	古代中国漆工芸の大作　夾紵大鑑 講師：谷豊信（学芸研究部長）	65	2
6月9日	日御碕神社の甲冑と模写について 講師：池田宏（上席研究員）	85	2
6月30日	京の姿、厳島の姿 講師：金井裕子（特別展室研究員）	83	2
7月7日	インドネシアのワヤン 講師：白井克也（考古室長）	78	2
7月14日	呉服商「大彦」の小袖コレクション 講師：高木結美（特別展室アソシエイトフェロー）	148	2
7月28日	キリシタン遺品にみるマリア信仰 講師：神辺知加（教育講座室主任研究員）	112	2
8月7日	国宝になった醍醐寺の虚空像菩薩立像 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）	145	2
8月18日	後水尾院と東博の十二ヶ月花鳥図巻 講師：遠藤楽子（出版企画室研究員）	142	2
8月25日	東洋の白磁 講師：三笠景子（東洋室研究員）	117	2
9月1日	後水尾院と住吉派のはじまり 講師：瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	122	2
9月4日	能面入門 講師：淺湫毅（教育講座室長）	114	2
9月29日	江戸初期の写生図とその背景 講師：小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	69	2
9月30日	インドから東南アジアへ、仏像の旅 講師：淺湫毅(教育講座室長)	120	2
10月2日	東洋の白磁　―白いうつわをもとめて 講師：三笠景子(東洋室研究員)	78	2
10月3日	文字でたどる朝鮮の歴史 講師：白井克也(考古室長)	73	2
10月6日	トーハクでシルクロード探検 講師：勝木言一郎(出版企画室長)	170	2
10月7日	茶人の執着ここにあり！名物裂の世界 講師：小山弓弦葉(工芸室長)	92	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
10月9日	筆墨の伝える世界　―東アジアのパスポート 講師：富田淳(企画課長)	83	2
10月12日	古代アジア青銅器の旅　なぜ人々は青銅に熱中したのか 講師：谷豊信(学芸研究部長)	130	2
10月20日	国宝武人埴輪と現代日本文化 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	180	2
10月27日	須恵器の展開 講師：白井克也（考古室長）	130	2
11月6日	肖像彫刻 講師：淺湫毅（教育講座室長）	110	2
11月10日	禅宗寺院の中世障壁画 講師：救仁郷秀明（列品管理課長）	89	2
11月13日	縄文土器の見方　大きさ・形・文様 講師：品川欣也(特別展室研究員)	188	2
11月17日	東アジアへと伝わった英雄ヘラクレスのイメージ 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	78	2
11月20日	板碑への誘い　中世の石製塔婆 講師：井出浩正(考古室研究員)	110	2
11月27日	埴輪の農夫 講師：河野正訓(考古室研究員)	120	2
12月1日	一遍とみる聖地と信仰 講師：瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	194	2
12月8日	顔真卿と唐時代の書 講師：富田淳（企画課長）	168	2
12月15日	兵馬俑と漢・唐時代の唐俑 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	120	2
28年1月5日	北斎の生涯と作品 講師：田沢裕賀（調査研究課長）	310	2
28年1月19日	関野貞と竹島卓一の中国史跡写真 講師：田良島哲（博物館情報課長）	67	2
28年1月26日	特集「寿ぎと絵替わりの美―扇散らし―」 講師：竹内奈美子（工芸室長）	68	2
28年2月2日	銘文刀剣と古墳時代の社会 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	131	2
28年2月9日	江戸幕府御用絵師板谷家の仕事 講師：金井裕子（特別展室研究員）	133	2
28年2月16日	高知・愛媛の考古学 講師：井出浩正（考古室研究員）	114	2
28年2月23日	石で作られた道具 講師：飯田茂雄（考古室アソシエイトフェロー）	74	2
28年3月1日	おひなさまと日本の人形 講師：三田覚之（教育普及室研究員）	115	2
28年3月8日	「修理」という視点からみた仏画 講師：沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	105	2
28年3月15日	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」 講師：高橋裕次（保存修復課長）	120	2
28年3月23日	桜ギャラリートーク「陶磁器にみる植物表現　桜を中心に」 講師:三笠景子(東洋室研究員)	75	2
28年3月30日	桜ギャラリートーク「長沢芦雪筆桜下美人図の魅力」 講師:山下善也（絵画･彫刻室主任研究員）	136	2
28年3月31日	浮世絵に満開の桜、鑑賞ガイド 講師:田沢裕賀（調査研究課長）	91	2

②特別展関連ギャラリートーク　15回　参加者総数　3,656人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
5月1日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 甲巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「信仰に捧げた若き日の熱誠―国宝 仏眼仏母像と明恵上人―」 講師：大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)	350	2
5月8日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 乙巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「故郷に残る明恵のおもかげ―仏画と仏像―」 講師：大河内智之(和歌山県立博物館主査学芸員)	300	2
5月15日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 丙巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「華厳海会善知識曼荼羅―明恵上人と華厳教学―」 講師：谷口耕生(奈良国立博物館教育室長)	300	2
5月22日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 丁巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「仏師湛慶と動物彫刻」 講師：淺湫毅(教育講座室長)	300	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「古代エジプトの動物について」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	200	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「比べてみよう！王さまのすがた」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	200	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「古代エジプトの動物について」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	200	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「クレオパトラって誰？」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	200	2
8月10日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	120	2
8月11日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	158	2
8月12日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	195	2
8月13日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	140	2
28年1月20日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	305	2
28年1月21日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	316	2
28年1月22日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	372	2

③東京芸術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク　51回　参加者総数 1913人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
12月2日、12月3日、12月9日、12月10日	4	スリリングな仏画『二河白道図』	杉原諒	115
12月11日、12月12日、12月18日、12月19日	4	アンコール時代の建築装飾	吉村苑子	122
1月5日、1月13日、1月15日、1月21日	4	『砧蒔絵硯箱』を読む	鈴木愛乃	165
1月6日、1月26日、2月4日、2月10日	4	青木繁、最後の神話画『日本武尊』	西尾真名	167
1月7日、1月30日、2月12日、2月19日	4	鈴木長吉『鷲置物』	李京林	111
1月8日、1月16日、3月1日、3月2日	4	着物からみる江戸時代のファッション	玉井あや	185
1月9日、1月22日、1月28日、1月29日	4	五感で感じる！道成寺『毘沙門天立像』	竹内佑騎	212
1月10日、1月17日、1月31日、2月11日	4	藍涛の『玉堂富貴図』	李趙雪	143
1月20日、1月24日、1月27日、2月9日	4	『厩図屏風』の表現について	武内麻美	130
1月23日、2月7日、2月18日、2月20日	4	前田青邨の目に映った中国石仏	王紫沁	161
2月2日、2月5日、2月16日、2月21日	4	『七宝饕餮文卣』にみる清工芸の精華	川村笑子	109
2月6日、2月13日、2月27日	3	清時代の玉器	巖由季子	119
2月14日、2月17日、2月28日、3月9日	4	刀装にみる鎌倉時代の飾りの意識	田淵可菜	174

3)　連続講座「考古学が熱い！」　計1回(3日)　参加者総数　352人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
9 月 11 日	第 1 講「考古学から見たアジアと日本」 講師：白井克也（考古室長） 第 2 講「弥生時代の再葬墓」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	352	2	97%
9 月 12 日	第 3 講「近年の弥生時代青銅器研究の成果―銅鐸を中心に―」 講師：難波洋三（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長） 第 4 講「古代東アジアの武装と銘文刀剣」 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）			
9 月 13 日	第 5 講「考古学からみた日本仏教」 講師：時枝務（立正大学 文学部史学科 教授） 第 6 講「関東の埴輪と関西の埴輪」 講師：高橋克壽（花園大学 文学部文化遺産学科 教授）			

4)　公開講座　計2回　参加者総数 36人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い”の割合
28 年 3 月 17 日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(1) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	19	2	95%
28 年 3 月 18 日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(2) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、土屋裕子（保存修復室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	17	2	100%

5) その他展示に関連する事業　計9回　参加者総数　877人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
4月11日	インドの仏とヨガ	東京国立博物館	19	2
4月12日	インドの仏とヨガ	東京国立博物館	18	2
5月19日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でゾウめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	32	2
10月1日	YOGA 仏像と過ごすタベ(1)	東京国立博物館	19	2
10月4日	サムルノリ	東京国立博物館	200	2
10月4日	サムルノリ	東京国立博物館	150	2
10月8日	YOGA 仏像と過ごすタベ(2)	東京国立博物館	19	2

10月11日	カヤグム(伽倻琴演奏と併唱)	東京国立博物館	250	2
10月11日	カヤグム(伽倻琴演奏と併唱)	東京国立博物館	170	2

【京都国立博物館】

1)　土曜講座32回　参加者総数　3,721人

特別展覧会関連などの講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月4日	あこがれのコスメグッズ-蒔絵の化粧道具-	主任研究員　永島明子	47
4月18日	生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い	上席研究員　山本英男	200
4月25日	新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に	同志社大学教授　狩野博幸	198
5月2日	桃山時代の異国趣味	研究員　福士雄也	196
5月9日	早熟の天才、狩野探幽登場	成安造形大学教授　小嵜善通	200
5月16日	葵祭の美術	保存修理指導室長　大原嘉豊	145
5月23日	博物館のなかで文化財をまもる-文化財と学ぶ自然科学-	アソシエイトフェロー　池田素子	74
5月30日	よろこびをまとう-日本の花嫁衣裳-	教育室長　山川曉	73
6月6日	高僧伝絵の時代	アソシエイトフェロー　井並林太郎	82
6月13日	国宝 小野毛人墓誌をめぐって	列品管理室長　宮川禎一	101
6月20日	京都周辺の古面	企画室長　浅見龍介	92
7月4日	日本で好まれた中国漆器	主任研究員　永島明子	73
7月11日	仁清と乾山　立体絵画への挑戦	副館長　伊藤嘉章	92
7月18日	新出の法華経要文和歌懐紙	主任研究員　羽田聡	60
7月25日	羅漢図像の伝播　中国から日本へ	主任研究員　呉孟晋	55
8月8日	京都大蔵会　－その意義と役割－	佛教大学教授　松永知海	107
9月5日	仏法東漸の道のり　－大蔵経の成立と変遷－	花園大学教授　中尾良信	197
10月24日	光悦の作陶―自在な発想と造形―	研究員　降矢哲男	114
10月31日	「琳派」の継承と広がり	研究員　福士雄也	109
11月7日	風神雷神図屏風の転生	大和文華館　学芸部長　中部義隆	200
11月14日	宗達の目の記憶	大阪大学大学院　文学研究科教授　奥平俊六	169
1月9日	冷泉家の年中行事	公益財団法人　冷泉家時雨亭文庫理事長冷泉為人	102
1月16日	刀剣を楽しむ　－名物刀を中心に－	研究員　末兼俊彦	200
1月23日	猿へのまなざし　－申年にちなんで－	アソシエイトフェロー　井並林太郎	95
1月30日	唐物天目　－種類と価値観－	研究員　降矢哲男	93
2月6日	行幸行列図を読む	研究員　福士雄也	95
2月13日	典雅なる装い　－京都国立博物館所蔵 宮廷装束コレクション－	教育室長　山川曉	101
2月20日	科学機器による仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	85
2月27日	京の雛飾りの特色と変遷について　－ひいな遊びからひなまつりへ－	平等院ミュージアム鳳翔館学芸員田中正流	100
3月5日	みちのくの経塚遺宝　－秋田県松岡経塚をめぐって－	列品管理室長　宮川禎一	117
3月12日	教育普及の仕事　－ものと人との橋渡し－	研究員　水谷亜希	42
3月19日	国宝　山越阿弥陀図の謎を探る	保存修理指導室長　大原嘉豊	107

2)　記念講演会　1回　200人

実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月10日	くらしを彩る琳派の美	京都美術工芸大学学長 河野元昭	200

3)　夏期講座　1回（3日）206人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月29日	第1講「宝剣　神仏に捧げられた刀」	研究員　末兼　俊彦	206
	第2講「中国北朝の石窟寺院―観想・礼拝の場と造形」	京都大学人文科学研究所准教授　稲本泰生	
	第3講「社寺に奉納された陶磁器」	研究員　降矢哲男	
7月30日	第1講「葵祭（賀茂祭）の有職」	文化庁文化財部伝統文化課文化財調査官（工芸技術部門）　猪熊兼樹	
	見学　下賀茂神社（正式名：賀茂御祖神社）		
7月31日	第1講「禅宗寺院の仏像」	企画室長　浅見龍介	
	第2講「若狭国鎮守神人絵系図（京博蔵）について」	研究員　井並　林太郎	
	第3講「シャルトル大聖堂の聖遺物とステンドグラス」	名古屋大学副総長・名古屋大学大学院文学研究科教授　木俣　元一	

4)　社会科教員のための向上講座　1回　91人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月14日	講演「「琳派―京を彩る」について」 館内実地研修　「琳派―京を彩る―」展	教育室長　山川　曉	91

5)　セミナー・シンポジウム等　4回　627人

開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
4月11日	記念座談会「日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する!!」 講師：山下裕二（明治学院大学教授・日本美術応援団団長） 井浦　新（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員3号） 山本英男（京都国立博物館学芸部上席研究員）	200
8月29日	記念シンポジウム「仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり」 基調講演　司会：鈴木昌也(仏教大学) 講師：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長) 座 談 会　司会：宮崎健司(大谷大学教授) パネリスト：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)	107

	中尾良信(花園大学文学部教授)、松永知海(佛教大学仏教学部教授)	
10月17日	京都ミュージアムズ・フォー　連携フォーラム「琳派を飾る　―展覧会から見えるもの―」 （京都国立近代美術館）学芸課主任研究員　小倉実子 （京都市立美術館）学芸課長　尾﨑眞人 （京都文化博物館）学芸課長補佐　洲鎌佐智子 （京都国立博物館）学芸部教育室長　山川　暁	120
11月3日	琳派400年記念国際シンポジウム「琳派この一作　～私の見方・楽しみ方～」 パネリスト：井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員3号） クリストフ・マルケ氏（日仏会館・日本研究センター所長） ジョン・カーペンター氏（NYメトロポリタン美術館日本美術キュレーター） 辻惟雄氏（MIHO MUSEUM館長） 山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）	200

6)　その他展示に関連する事業　3回　55人

実施日	内容	講師	参加者数(人)
7月19日、7月20日	少年少女博物館くらぶ「ドキドキ！刀にふれてみよう」	研究員　末兼俊彦	40
2月11日	大人の博物館くらぶ「古代の鏡　鋳造体験」	列品管理室長　宮川禎一	15

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　15回　　参加者総数　　2,123人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月18日	「見返絵のある久能寺経について」	名誉館員　梶谷亮治	87
4月25日	「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」	学芸部企画室長　野尻忠	85
5月9日	「久能寺経と一品経」	根津美術館理事長・学芸部長　松原茂	102
6月13日	「木内省古の正倉院模造―木画紫檀双六局模造をめぐって―」	元宮内庁正倉院事務所保存課長　木村法光	86
8月 8日	「天武・持統天皇の理想の都―藤原宮と新益京―」	東京学芸大学名誉教授　木下正史	194
8月22日	「東アジアのなかの白鳳仏」	大阪大学大学院教授　藤岡穣	194
9月 5日	「白鳳寺院を飾った工芸」	学芸部長　内藤栄	194
9月19日	「白鳳の童形仏とその周辺」	上席研究員　岩田茂樹	187
10月31日	「王朝びとの年中行事―文学と絵画をめぐって―」	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長　冷泉為人	163
11月 1日	「正倉院宝物に学ぶ北村家三代の漆工芸」	漆芸家　北村昭斎	196
	「奈良国立博物館と正倉院展の伝統」	館長　湯山賢一	
	「奈良国立博物館と正倉院展の伝統 Part.2」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	
	「森鴎外と正倉院」	東京国立博物館 博物館情報課長　田良島哲	
	パネルディスカッション	北村昭斎、湯山賢一、杉本一樹、田良島哲	
11月 3日	「正倉院の仏具とその収納箱」	学芸部工芸考古室長　清水健	110
11月 7日	「奈良時代の衣服」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室長　田中陽子	162
12月26日	「若宮の誕生とその御祭礼」	春日大社宮司　花山院弘匡	105
28年2月13日	「伊豆山権現像の成立と展開　―保存修理の知見を踏まえて―」	学芸部研究員　山口隆介	87
28年2月27日	「不退の行法　十一面悔過 ―「お水取り」がたどった棘の道―」	東大寺長老　橋本聖圓	171

2)　夏季講座　第44回「白鳳－歴史と美術－」　1回（3日間）609人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月18日	「白鳳時代論」	奈良大学教授　東野治之	609
	「白鳳時代の小金銅仏―四十八体仏を中心として―」	青山学院大学教授　浅井和春	
	「平城遷都以前の塑像と塼仏―初唐造像受容の様相」	京都大学准教授　稲本泰生	
8月19日	「白鳳の工芸―法隆寺に伝えられた金工品を中心に―」	大正大学教授　加島勝	
	「白鳳仏の源流」	情報サービス室長　岩井共二	
	「古墳が消えた時代―墓制からみた社会の変化と白鳳文化―」	列品室長　吉澤悟	
	「大寺の展開―高市大寺・大官大寺・大安寺―」	奈良市埋蔵文化財調査センター所長　森下惠介	
8月20日	「白鳳の万葉歌」	高岡市万葉歴史館長　坂本信幸	
	「白鳳―花ひらく仏教美術―　―展覧会紹介―」	学芸部長　内藤栄	

3)　サンデートーク　12回　参加者総数　　1,242人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者数(人)
4月19日	「伝記絵を見る　聖徳太子絵伝を中心に」	学芸部研究員　北澤菜月	89
5月17日	「室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師」	学芸部研究員　山口隆介	105
6月21日	「出羽の鏡像」	学芸部工芸考古室長　清水健	81
7月19日	「平安時代の密教修法」	学芸部研究員　斎木涼子	146
8月16日	「文化財を科学するⅡ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	126
9月27日	「第６回　茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部列品室長　吉澤悟	96
10月11日	「偏衫をめぐって」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	88
11月29日	「東大寺僧形八幡神坐像・再説」	上席研究員　岩田茂樹	110
12月20日	「仏伝図の世界―ブッダの生涯を旅する」	学芸部教育室長　谷口耕生	121
1月17日	「古代東アジアの屋根～中国、韓国、日本～」	学芸部主任研究員　岩戸晶子	108
2月21日	「８世紀の鏡」	学芸部研究員　田澤梓	100
3月20日	「文化財修理の現場から～考古資料を中心として～」	学芸部研究員　大江克己	72

4)　その他展示に関連するイベント　18回　参加者総数　　1,735人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
5月9日	親と子のワークショップ「消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30
7月30日	薬師寺僧侶による講話	講堂	120
8月1日	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46
8月4日	水煙チョコ鋳造体験「白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう♪」	講堂・葉風泰夢	69
8月21日	講演とコンサート「白鳳を五感で感じる」	講堂	194
8月25日	白鳳展　親子鑑賞会	講堂	44
8月27日	薬師寺僧侶による講話	講堂	197
8月29日	夏休み親子講座「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19
9月4日	薬師寺僧侶による講話	講堂	188
9月10日	薬師寺僧侶による講話	講堂	194
9月17日	薬師寺僧侶による講話	講堂	181
10月24日 ～11月9日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第67回正倉院展　親子鑑賞会	講堂・展示室	172
12月11日	奈良トライアングルミュージアムズ 東京セミナー　～冬の奈良の魅力～	奈良まほろば館	48
12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	43
1月14日	文化財保存修理所特別公開	講堂・修理所	121
2月7日	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・東大寺二月堂	42
2月14日	奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント「仏像を撮ってみよう！」	講堂・地下写場	27

【九州国立博物館】

1)　特別展記念講演会　3回　　参加者総数　710人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月25日	戦国・織豊期の九州とアジア 「戦国の九州とアジア - 大内義隆から大友宗麟へ - 」 「豊臣秀吉と九州の諸大名 - 黒田長政・立花宗茂を中心に - 」	九州大学准教授　伊藤幸司 九州大学教授　中野等	289
7月14日	大英博物館キュレーターによる記念講演会 「大英博物館展の楽しみ方」	大英博物館　本展覧会担当キュレーター ベリンダ・クレラー	201
10月24日	開館10周年記念特別展「美の国　日本展」関連記念講演会 「正倉院あぜくら通信　九州版」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	220

2)　講演及びシンポジウム等　38回　　参加者数　4,096人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
5月1日	しっとこ九博！特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」解説講座 （筑紫野市）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	59
5月2日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 記念シンポジウム　「戦国武将のデザイン」 基調講演：「九州近世大名道具にみる意匠と機能」 個別報告：「大友家」 「黒田家」 「鍋島家」 「松浦家」	立花家史料館館長　植野かおり 大分市美術館参事　長田弘通 福岡市博物館学芸員　宮野弘樹 鍋島報效会学芸員　富田紘次 松浦史料博物館学芸員　久家孝史	200
5月9日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「九州の群雄とアジアの波濤」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	90
5月13日	開館10周年記念特別展「戦国大名」関連　講演会「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」（公益財団法人　九州経済調査協会）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	25
5月14日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「総論：九州国立博物館」	前九州国立博物館館長　三輪嘉六	12
5月16日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子 展示課展示調整室研究員　一瀬　智	60
5月23日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「貿易都市の考古学」 「戦国九州の刀剣」	展示課展示調整室　岸本圭 文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60
5月28日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「文化交流展示室を散歩する」	展示課長　楠井隆志	6
5月28日	文化財保存交流セミナー「韓国の海事文化遺産について」	韓国国立海洋文化財研究所水中発掘課長　文煥晳	50
6月11日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「当館の文化財収集について」	文化財課長　冨坂賢	6

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
6月14日	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 公開シンポジウムⅠ 「地域と共に考える文化財の防災減災」 第1部　基調講演 「災害の歴史から学び、防災・減災の社会へ―東日本大震災の地で考える―」 第2部　事例報告 「東日本大震災後の民俗芸能の再開」 「阪神淡路大震災から始まった歴史資料ネットと地域への展開 　関西地域における震災・水害と文化財防災」 「市民とともに歩む文書館―尼崎市立地域研究史料館の取組―」 「和歌山における地域歴史遺産保全活動について」 「学生ボランティアの歴史遺産保存―茨城史料ネットの活動から―」 第3部パネルディスカッション 「地域と共に考える文化財の防災減災―地域歴史遺産、市民参加、大学・ミュージアム、悉皆調査、過疎化・高齢化・危機管理―」	宮城学院女子大学学長・東北大学名誉教授　平川　新 東北歴史博物館　小谷竜介・大久保春野 近大姫路大学　松下正和 尼崎市立地域研究史料館　河野未央 和歌山県立博物館　前田正明 和歌山県教育委員会　三本周作 茨城大学　添田仁 茨城大学大学院　安田千明 司会：特任研究員　　本田光子 パネリスト：東北大学災害科学国際研究所　天野真志・京都造形芸術大学　内田俊秀・神戸大学大学院　奥村弘・対馬市教育委員会　田中淳也・国立民族学博物館　日高真吾・ＮＰＯ文化財保存支援機構　三輪嘉六・豊田市美術館　村田眞宏・宮崎歴史資料ネットワーク　山内利秋	180
6月25日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「九博10年の特別展について」	特任研究員室特任研究員　臺信祐爾	7
7月9日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「文化財の科学調査と健康診断」	博物館科学課長　今津節生	6
7月17日	しっとこ九博！特別展「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 解説講座（筑紫野市）	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	58
7月19日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 「ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～」	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	200
7月23日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「国際交流、教育普及そしてボランティア」	交流課長　石橋伸二	8
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 「影絵人形ワヤンのみかた」	元当館主任研究員　池内一誠	110
8月4日	特別展「大英博物館展」関連　講演会 「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 （公益財団法人　九州経済調査協会）	企画課長兼文化交流展室長　　河野一隆 企画課研究員　西島亜木子	22
9月5日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座）「『美の国　日本』のみどころ」	展示課長　楠井隆志	69
10月18日	九州国立博物館開館10周年記念「アジア交流博物館長サミット」 第1部 テーマ① 「共同研究や保存修復活動から展示へ」 「文化財保存修理に特化した人材育成」 テーマ②「交流から展示へ」 第2部 テーマ③「教育普及・市民サービス」	コーディネーター　小泉惠英 内蒙古博物院長　タ・ラ タイ王国文化省芸術局副局長　サハプーム・プーミッティティラート 韓国伝統文化大学校校長　キム・ゼヨル ベトナム国立歴史博物館長　グェン・ヴァン・クゥン 韓国国立中央博物館企画運営団長　チョ・ヒョンレ 韓国国立広州博物館長　キム・ジョンマン 中国文物交流中心主任　ワン・ジュン 韓国国立扶餘博物館長　ク・イルフェ	80
10月23日	しっとこ九博！特別展「美の国　日本」解説講座（筑紫野市）	展示課長　楠井隆志	50
10月31日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演会 「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	館長　島谷弘幸	200
11日1日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美の国　日本」 「美の国の工芸」	展示課長　楠井隆志 文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	150
11月3日	開館10周年記念イベント「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念講演会 新羅王子がみた大宰府 講演1「新羅王子がきた時代」 講演2「大野城築城と新羅」 講演3「「西の都」大宰府と客館」	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤 大野城市教育委員会　上田龍児 太宰府市教育委員会　井上信正	194
11月15日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」 「南海の宝石　琉球王国」	企画課研究員　森實久美子 企画課特別展室長　原田あゆみ	80

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
11月28日	シンポジウム「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」 Ⅰ.講演、報告 講演「文化資源区がつなぐ列島の未来－東京文化資源区構想を手がかりに」 報告「九州国立博物館運営に伴う経済波及効果」 Ⅱ.地域の取り組み テーマ「新たなまちの賑わいの演出」 テーマ「彫刻による地域の活性化」 テーマ「企業による地域文化の創造」 Ⅲ.シンポジウム パネリスト コーディネーター	 東京大学大学院情報学環教授　吉見俊哉 公益財団法人九州経済調査協会調査研究部　松嶋慶祐 金沢21世紀美術館広報室長　落合博晃 山口県宇部市公園整備局理事ときわ公園長　佐々木俊寿 ベネッセアートサイト直島（瀬戸内海）公益財団法人福武財団　アートマネージメント部門長　笠原良二 内閣府地方創生推進室次長　麦島　健志 文化庁長官官房政策課長　佐藤安紀 東京大学大学院情報学環教授　吉見俊哉 金沢21世紀美術館広報室長　落合博晃 ベネッセアートサイト直島（公財）福武財団アートマネージメント部門長　笠原良二 野村総合研究所社会システムコンサルティング部長　神尾文彦 館長　島谷弘幸 日本経済新聞社編集局文化部編集委員　内田洋一	160
12月6日	開館10周年記念特別公開「田中丸コレクションの茶陶」講演会 田中丸善八とそのコレクション	田中丸コレクション学芸員　久保山炎	25
12月19日	平成27年度九州国立博物館10周年記念シンポジウム 「X線CT用いたを文化財の研究と活用」 「CTを核にした研究の新基盤」 「CTとは何か～原理と撮影手法～」 「CTを使った発掘調査の新技術」 「仏像の健康診断」 「木彫像の樹種推定」	 九州国立博物館学芸部博物館科学課長　今津節生 奈良国立博物館保存修理指導室長　鳥越俊行 九州歴史資料館　文化財調査室　加藤和歳・小林啓 九州国立博物館博物館科学課　楠井隆志・赤田昌倫 京都大学京都大学生存圏研究所　小林加代子・杉山淳司	150
1月9日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　講演会 「アフガニスタンに生命の水を」	医師・ペシャール会現地代表　中村哲	280
1月15日	しっとこ九博！「「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」解説講座（筑紫野市）	学芸部長　小泉惠英	44
1月16日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　講演会 「心魅するティリヤ・テペ文化」	アフガニスタン文化研究所長　前田耕作	170
1月24日	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災減災 II 第1部基調講演 「あらためて考える文化財の悉皆（しっかい）調査と市民」 第2部 事例報告 1・地域と共に「防災的観点から見た「大分県記録史料調査事業」」 「島原大変肥後迷惑」－熊本県内に残る津波碑の悉皆調査からみえてきたこと - 2・市民と共に 「阪神・淡路大震災以降の文化財保全活動」ー人、まち、時代をつなぐ旧玉置家住宅ー 「新潟県中越大震災と市民参加による資料整理」－十日町市古文書整理ボランティア10年のあゆみ 「「ボランティア」から学ぶ歴史資料保全」 - 東日本大震災の取り組みから - 第3部 パネルディスカッション［16時10分～16時55分］ 地域と共に、市民と共に考える文化財の防災減災	 NPO法人文化財保存支援機構・前九州国立博物館長 三輪嘉六 大分県立歴史博物館　村上博秋 三木市豊かなくらし部商工観光課　辻田政顕 熊本県立装飾古墳館　坂口圭太郎、熊本城調査研究センター美濃口雅朗、天草市文化課　松本博幸 三木市豊かなくらし部商工課観光課　辻田政顕 十日町市教育委員会　髙橋由美子 十日町市博物館・十日町市教育委員会　村山歩 十日町市古文書整理ボランティア写真整理チーム 山内景行 東北大学災害科学国際研究所・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク　天野真志 NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークボランティア 柴田かよ子 NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークボランティア 鳥山美智子 司会：特任研究員　本田光子 パネリスト：神戸大学大学院　京都造形芸術大学　川内淳史・伊達仁美・豊田市美術館　村田眞宏・文化庁　山口俊浩	100
1月30日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座 『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	 展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	150
1月31日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	 学芸部長　小泉惠英 特任研究員　臺信祐爾	140
2月13日	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推薦記念講演会 講演「遣隋使・遣唐使と古代日本の対外交流」 講演「正倉院宝物と古代の文化交流」 講演「沖ノ島の神宝と古代の文化交流」 まとめ「海の正倉院、沖ノ島の価値を伝えていくために」	 大正大学教授　榎本淳一 宮内庁正倉院事務所　西川明彦 企画課長・文化交流展室長　河野一隆 前九州国立博物館長　三輪嘉六	180

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
2月14日	海底に眠る元寇沈没船の謎 基調報告「鷹島海底遺跡の調査・研究と鷹島1・2号沈没船の発見」 報告1「海底堆積層形成過程からみた鷹島海底遺跡」 報告2「モンゴル襲来と鷹島海底遺跡」 報告3「モンゴルの日本侵攻と高麗の軍需調達問題」 報告4「鷹島海底遺跡における元寇遺物の保存をめぐる諸問題」 報告5「鷹島神崎遺跡の国指定史跡化と活用」	 琉球大学法文学部教授　池田栄史 山口大学教育学部講師　猪原京子 九州大学大学院人文科学研究院教授　佐伯弘次 九州大学大学院人文科学研究院准教授　森平雅彦 奈良県立橿原考古学研究所企画部資料課主任技師 柳田明進 長崎県松浦市教育委員会文化財課長　中田敦之	150
2月27日	シンポジウム「大城（大野城）の謎に迫る！－宇美町からの新たな発信－」 基調講演「大城（大野城）の謎に迫る！」 発表1「考古学から迫る！」 発表2「文献史料から迫る！」 発表3「土木技術から迫る！」 発表4「古代兵器から迫る！」 発表5「地元・宇美から迫る！」 パネルディスカッション コーディネーター パネラー	 福岡県文化財保護課長　赤司善彦 佐賀大学教授　重藤輝行 九州歴史資料館学芸員　松川博一 福岡県文化財保護課技術主査　入佐友一郎 展示課研究員　小嶋篤 宇美町教育委員会学芸員　松尾尚哉 赤司善彦 重藤輝行、入佐友一郎、松川博一、小嶋篤、松尾尚哉	305
3月5日	古代出雲文化フォーラムⅣ　古代の出雲と九州、そして東アジア 第1部　基調講演「古代における九州と出雲」 講演1「先史東アジア海域交流の一側面　－朝鮮半島・北部九州・出雲をつなぐモノ－」 講演2「鉄・玉・貝の道でつなぐ九州と出雲」 講演3「古代国家と出雲・九州　－東アジア世界のなかで－」 第2部　特別講演「大国主命は医薬の神」 座談会　「古代の出雲と九州、そして東アジア」	 前九州国立博物館長　三輪嘉六 島根大学法文学部教授　平郡達哉 企画課長・文化交流展示室長　河野一隆 島根大学法文学部教授　大日向克己 前島根大学学長、島根大学名誉教授・特任教授 小林祥泰 コーディネーター：島根大学ミュージアム准教授會下和宏 パネリスト：大日向克己、河野一隆、平郡達哉	260

3)　ミュージアムトーク　46回　参加者総数　1,406人

・担当研究員数　延べ　46人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
4月7日	柿右衛門窯製品の特徴	企画課アソシエイトフェロー　酒井田千明	50
4月14日	川原寺裏山遺跡の謎	企画課文化交流展室主任研究員　市元塁	36
4月21日	中世博多	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	25
4月28日	ＣＴを使った文化財の健康診断実施中	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫	28
5月12日	再現文化財円成寺　大日如来坐像について	展示課長　楠井隆志	40
5月19日	バンチェンの謎	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	30
5月26日	大宰府式鬼瓦って何だ！？	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	35
6月2日	展示室の環境管理	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	15
6月9日	中世刀剣の美	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60
6月16日	長崎の唐人屋敷	展示課展示調整室研究員　一瀬智	20
6月23日	天神さまの秘密	企画課特別展室研究員　森實久美子	25
6月30日	海のシルクロード　～長崎・対馬・松前～	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	30
7月7日	大宰府の信仰	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	25
7月14日	春日市は弥生時代のハイテク基地～春日市出土の銅製品と鋳型～	博物館科学課長　今津節生	30
7月22日	禅の書にみる「以心伝心」	文化財課資料登録室長　丸山猶計	30
7月28日	むしの考古学	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30
8月4日	銅鐸に描いた生きものたち	辰馬考古資料館研究員　青木政幸	49
8月11日	シルクロードのガラス	学芸部特任研究員　臺信祐爾	30
8月18日	鷹島海底遺跡の魅力と水中考古学の成果	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	30
9月1日	縄文時代の丸木舟について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	25
9月8日	埴輪の世界	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	30
9月15日	中世の手箱と硯箱	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	30
9月22日	東洋医学と西洋医学	企画課研修生　藤生京子	44
9月29日	ロシアの接近と北方調査	展示課展示調整室研究員　一瀬智	16
10月6日	色を纏ったモノ	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞	13
10月14日	田中丸コレクションの茶陶	企画課特別展室アソシエイトフェロー　酒井田千明	30
10月20日	Ｘ線で見る文化財の鋳造と鍛造	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫	30
10月27日	琉球と海上の道	企画課特別展示室長　原田あゆみ	20
11月3日	阿弥陀の浄土をのぞいてみよう	企画課特別展室研究員　森實久美子	30
11月10日	唐物と室町水墨画	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	35
11月17日	新羅王子がみた大宰府	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	60
11月24日	船について考える	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	35
12月1日	高麗・朝鮮の絵画	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	20
12月8日	正倉院宝物の修理と模造	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	15
12月15日	密教法具の世界	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	15
12月22日	長崎ゆかりの唐様の書	文化財課資料登録室長　丸山猶計	20
1月5日	太宰府天満宮の地宝	企画課文化交流展室主任研究員　市元　塁	30
1月13日	新春特別公開「国宝　初音の調度」について	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	35
1月19日	博物館における科学調査について	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	30

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
1月26日	鉄製甲冑と倭王権	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	10
2月2日	シルクロードの美術	学芸部特任研究員　臺信祐爾	30
2月9日	トピック展「祈りのかたち八幡（前期）」	企画課研究員　鷲頭　桂	50
２月16日	元寇の沈没船を守れ～沈没船の保存に向けた取り組み～	博物館科学課長　今津節生	40
2月23日	正倉院宝物について	文化財課課長　冨坂　賢	30
3月1日	トピック展「祈りのかたち八幡（後期）」	企画課研究員　鷲頭　桂	35
3月8日	長崎・聖福寺の鐘	展示課長　楠井隆志	30

4)　その他展示に関連するイベント　25回　　参加者数　　272,070人

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）
文化交流展	7月25日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 昆虫採集 博物館科学特捜部！（昆虫採集）	九州国立博物館	40
	8月8日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り（標本作り）	九州国立博物館	40
	8月8日～ 11月3日	「新羅王子がみた大宰府」関連九博・太宰府市コラボ展示 『太宰府歴史展2015』	太宰府市文化ふれあい館	―
	8月29日 8月30日	企画展「むしの考古学」関連企画　移動博物館車「ゆめはく」号がやってくる	レストラン前広場	400
	9月1日～ 9月13日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 博物館で昆虫採集と野鳥調査？―意外と知らない博物館の仕事―	エントランス	44,450
	10月25日	トピック展「新羅王子がみた大宰府」みどころ解説と太宰府市内史跡案内バスハイク	九州国立博物館および太宰府市内史跡地	41

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数(人)
特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」	4月14日～ 5月31日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」 関連香椎工業高校製作鎧兜展示	エントランス	155,690
	4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着体験	エントランス	120
	4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	九州国立博物館屋外	950
	4月29日	ウオーキングツアー　歴史学者と行く！岩屋城探訪	太宰府市内史跡地	雨天中止
	5月3日	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	エントランス	350
	5月5日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	エントランス	409
	5月10日	九州国立博物館杯　戦国大名展記念「さいふごま大会」	ミュージアムホール	69
	5月17日	開館10周年記念特別展「戦国大名」開催に伴う熊本県観光ＰＲ　くまモン・うとん行長しゃん・熊本城おもてなし武将隊ステージ	ミュージアムホール	1,500
	5月30日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	九州国立博物館	11
特別展「大英博物館展―100のモノが語る世界の歴史―」	7月14日～ 7月26日	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	九州国立博物館屋外	-
	7月18日 7月19日 8月28日	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム	九州国立博物館	246
	8月1日	アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展	ホテルニューオータニ博多	26
	8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	九州国立博物館	8
	8月19日	九州国立博物館杯　特別展「大英博物館展」記念　第2回さいふごま大会	ミュージアムホール	50
特別展「美の国 日本」	9月4日	プレイベント　開講！博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	ホテルニューオータニ博多	238
	11月23日	開館10周年記念特別展「美の国　日本記念」　九州国立博物館杯さいふごま大会	ミュージアムホール	100
特別展「黄金のアフガニスタン」	1月1日～ 1月24日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30年のあゆみ～	エントランス	67,022
	1月11日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 オリエンタル・ベリーダンスショー	ミュージアムホール	280
	2月7日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念　九州国立博物館杯さいふごま大会	エントランス	30

2-⑵-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

平成28年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	通年
開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー、本館地下教育普及スペース、東洋館6室オアシス
入場者数	181,984人　(※東洋館6室オアシスと本館19室参加者数を計上)
担当研究員数	10人
事業内容	本館19室に「みどりのライオン体験コーナー」で、伝統模様のスタンプでポストカードを作る「トーハクでデザイン」、作品の制作工程や技法がわかる「トーハクで〇〇ができるまで」、e国宝がさらに使いやすくなった「トーハクで国宝をさぐろう」、3Dの作品画像を自由に動かせる「トーハクをまわそう」の5つの体験コーナーを運営した。 各種レクチャーや体験型プログラムなどを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート4種を制作し、通年配布した。

2)「親と子のギャラリー」

「美術のくにの象めぐり」	
開催期間	4月7日 ～ 5月17日（36日間）
開催場所	本館特別2室
入場者数	111,440人　(※本館入館者数を計上)
担当研究員数	3人
事業内容	春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさを伝える教育的展示。国立科学博物館、上野動物園との連携企画であり、国際博物館の日記念イベント「動物めぐり」（2015年度で10回目）の関連企画。今回は子どもから人気が高く、多くの作品にも登場する「象」をとりあげる。日本およびアジアの各地域と国でつくられた絵画、彫刻、工芸などさまざまな色、形、大きさの象をテーマとした作品を展示した。
関連事業	・国際博物館の日記念ツアー「上野の山でゾウめぐり」　5月17日　(※詳細は　2-⑵-③　5)その他展示に関する事業を参照)
「ミイラとエジプトの神々」	
開催期間	7月22日 ～9月13日（48日間）
開催場所	東洋館3室
入場者数	64,229人　(※東洋館入館者数を計上)
担当研究員数	3人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。同時期に開催された特別展の関連展示として、館蔵の作品に他館からの借用作品を加えて展観。当館におけるエジプト考古の代表作品である「パシリエンプタハのミイラ」を中心に「１、古代エジプトでは、死んだらどうなる？」「２、古代エジプトでは、動物も神様だった！？」の２つのテーマで展示し、子どもたちに人気のあるミイラと、それにまつわるエジプトの死後の世界を中心に紹介した。
関連事業	・ファミリーワークショップ「親子でエジプト探検 in ナイト・ミュージアム」　8月22日　(※詳細は　2-⑵-④　3)②ワークショップ　を参照)

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計198,477人、

① 平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　181,984人

ハンズオン体験型展示	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	
	期　　間	4月1日～12月23日
	開催場所	東洋館6室オアシス
	参加者数	27,738人
ハンズオン体験型展示	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	
	期　　間	4月15日～12月23日
	開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー
	参加者数	154,246人

② 平常展示関連 ワークショップ及び関連事業　　回数　56回　参加者数計　16,493人

ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	
	期　　間	①4月4日　②4月5日
	開催場所	本館2階ラウンジ
	参加者数	①453人　②799人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	5月9日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①33人　②28人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「呉服商『大彦』の小袖コレクション」（本館特別1室・特別2室）関連 ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	6月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	15人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	特集「呉服商『大彦』の小袖コレクション」（本館特別1室・特別2室）関連 おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦！」（事前申込制）	

	期　　間	6月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	18人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」（本館13室）関連 ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①7月25日　②7月26日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①29人　②29人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	親と子のギャラリー「ミイラとエジプトの神々」（東洋館）関連 ファミリーワークショップ　親子でエジプト探検 in ナイト・ミュージアム（事前申込制）	
	期　　間	8月22日
	開催場所	東洋館3室、東洋館シアター
	参加者数	52人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「能面　女面の表情」（本館14室）関連 ファミリーワークショップ「能の裏側体験」（事前申込制）	
	期　　間	9月12日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	20人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「能面　女面の表情」（本館14室）関連 おとなのためのワークショップ「能の裏側体験」（事前申込制）	
	期　　間	9月12日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	20人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「着てみてポーズ！ 中国・韓国・日本の伝統衣装」	
	期　　間	9月29日～10月12日（会期中毎日・13日間）
	開催場所	東洋館１階エントランスホール
	参加者数	1,056人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「YOGA 仏像と過ごす夕べ」	
	期　　間	①10月1日　②10月8日
	開催場所	東洋館１室
	参加者数	①19人　②19人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「アジアンぬりえ」	
	期　　間	①10月3日　②10月4日　③10月10日　④10月11日
	開催場所	東洋館１階エントランスホール
	参加者数	①83人　②141人　③126人　④102人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	韓国伝統芸能「サムルノリ（太鼓演奏）」	
	期　　間	10月4日　①14時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館前
	参加者数	①200人　②150人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	各国伝統音楽「キルギスの伝統楽器コムズの調べ」	
	期　　間	10月6日　①13時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館１室
	参加者数	①150人　②120人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	各国伝統音楽「中国の伝統楽器古箏の調べ」	
	期　　間	10月9日　①13時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館８室
	参加者数	①150人　②130人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	韓国伝統芸能「カヤグム（伽倻琴演奏と併唱）」	
	期　　間	10月11日　①14時00分～　②15時30分～
	開催場所	平成館大講堂
	参加者数	①250人　②170人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月17日　②10月18日　③10月24日　④10月25日
	開催場所	平成館考古展示室
	参加者数	①24人　②24人　③21人　④25人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月17日　②10月18日　③10月24日　④10月25日
	開催場所	平成館考古展示室
	参加者数	①22人　②14人　③7人　④14人
	担当研究員数	4人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」（本館8室）関連 おとなのためのワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	12月18日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	24人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」（本館8室）関連 ファミリーワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	12月19日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	19人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「博物館に初もうで」（本館特別1・特別2室）関連「サルの楽園」	
	期　　間	28年1月2日、1月3日
	開催場所	本館2階便殿前
	参加者数	10,250人
ワークショップ及び関連事業	特集「おひなさまと日本の人形」（本館14室）関連 ファミリーワークショップ「ひいな遊び　―立雛をつくろう！―」（事前申込制）	
	期　　間	28年2月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	24人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集「おひなさまと日本の人形」（本館14室）関連 おとなのためのワークショップ「ひいな遊び　―立雛をつくろう！―」（事前申込制）	
	期　　間	28年2月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	22人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「桜の庭で屏風体験」（事前申込制）	
	期　　間	28年3月26日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①24人　②24人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ　「春らんまん　桜ぬりえ」	
	期　　間	①28年3月26日　②28年3月27日
	開催場所	本館2階ラウンジ
	参加者数	①875人　②718人
	担当研究員数	3人

4）東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校25校1,095人／中学校120校4,663人／高校60校2,472人／中高一貫2校9名 計207校8,239人 ※児童・生徒のみを計上。この他引率教員が539人 ※特別支援学校、特別支援学級も含む 盲学校のためのスクールプログラム 4校　22名
担当研究員数	5人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラム「盲学校のためのスクールプログラム」を継続実施した。

5）職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校15校46人／高校 4校14人、計19校60人
担当研究員数	2人
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6）教員を対象とした事業の実施

① 教員鑑賞会の実施

期　　間	①5月8日（特別展「鳥獣戯画展」）、②8月5日（総合文化展）、③10月30日（特別展「始皇帝と大兵馬俑」）
開催場所	平成館大講堂　および　本館地下1階みどりのライオン
参加者数	②296人、②41人、③209人、　　計546人
担当研究員数	6人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム「スクールプログラム」を中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

② 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期　　間	7月29日～31日
開催場所	本館地下教育普及スペース、展示室、本館会議室／東京芸術大学
参加者数	39人
担当研究員数	5人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第12回目として「日本の染・織・刺繍」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

【京都国立博物館】

1）少年少女博物館くらぶ　2回　40人

事業名：ドキドキ！刀にふれてみよう	
実施日	7月19日、20日
対象	小学生から中学生
参加者数	小中学生40人

2）博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　10回

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者等

3）児童・生徒の無料入場

・特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」 中学生以下の入場料を無料
・特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京を彩る」 中学生以下の入場料を無料
・平成知新館「名品ギャラリー」　高校生以下の入場料を無料

4）「平成知新館こどもガイド」作成

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者（子ども）

5）特別展観「仏法東漸―仏教の典籍と美術―」鑑賞ガイド「お経って何だろう？」作成

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者

6）特集陳列「獅子と狛犬」鑑賞ガイド「今日から君も獅子と狛犬博士」作成

・発行部数　10,000部
・配 布 先　館内観覧者

7）京博ナビゲーターによる活動

事業名：　さわって発見！ミュージアム・カート	
実施日	開館日の毎日　10:15～16:15（10月10日～11月23日と年始を除く）
場所	平成知新館　2階、3階
対象	子どもを含む来館者全員
参加者数	定員なし
事業内容	京博ナビゲーター（ボランティア）が、館内に設置された「ミュージアム・カート」で来館者と対話しながら、文化財の魅力を発信し、展示品への理解を深める手助けをした。考古・彫刻・絵画などに関するハンズオン教材を、ミュージアム・カートの教材として開発・作成し、活用した。
事業名：　ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」	
実施日	10月10日～11月23日　開館日の毎日　10:15～16:15　(39回)
場所	平成知新館　2階レファレンスコーナー・ミュージアムラボラトリー
対象	子どもを含む来館者全員
参加者数	15,841人
事業内容	京博ナビゲーター（ボランティア）が、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に合わせて、尾形光琳の下絵をもとにしたスタンプを用いてミニワークショップを行い、来館者と対話しながら琳派の作品の魅力を発信し、展示品への理解を深める手助けをした。

8）文化財ソムリエによる活動　9回　721人

事業名：　文化財に親しむ授業（文化財ソムリエによる訪問授業）	
実施概要	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館 文化財に親しむ授業講師）が担当した。
対象	京都市内の小中学校
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、ＮＰＯ法人京都文化協会、京都市教育委員会）
実施内容	6月9日　京都市立大枝中学校　2年生 159名　「八橋図屏風」尾形光琳筆 7月9日　京都市立下鳥羽小学校　6年生81名　「八橋図屏風」尾形光琳筆 9月4日　京都市立柏野小学校　6年生 23名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 10月6日　京都市立開晴中学校　1年生95名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 10月30日　京都市立衣笠中学校　1年生185名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆

	11月18日　京都市立小栗栖宮山小学校　6年生63名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 12月7日　京都市立南太秦小学校　6年生52名　「四季花鳥図屏風」雪舟筆
事業名： 琳派400年記念　風神雷神おしゃべり鑑賞会	
実施日	11月14日、15日
開催場所	堀川御池ギャラリー（ギャラリーC）
参加者数	63人
事業内容	京都市中学校総合文化祭に関連して、生徒が制作した琳派関連作品の展示会場に、俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の高精細複製を持ち込み、文化財ソムリエによる鑑賞会を実施した。

9）教員を対象とした事業の実施

①講座等の開催　2回　120人

事業名：文化財の複製を用いた授業に関する交流会	
実施日	7月22日
開催場所	元京都市立成徳中学校　大会議室
参加者数	29人
担当研究員数	2人
事業内容	京都市内の小中学校教員、文化財ソムリエ、京都国立博物館・京都文化協会職員、その他文化財の複製を用いた教育活動に関心のある人々を交えて、「文化財に親しむ授業」の活動紹介や、意見交換を行った。過去の授業例紹介は、文化財ソムリエ（学生ボランティア）や卒業生が行った。
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、ＮＰＯ法人京都文化協会、京都市教育委員会）
事業名：社会科教員のための向上講座	
実施日	10月14日
開催場所	平成知新館　講堂・名品ギャラリー
参加者数	91人
担当研究員数	2人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと特別展覧会「琳派―京を彩る―」のギャラリートークと質疑応答、観覧を実施した。小・中・高等学校、総合支援学校の社会科教員を対象とする。
主催	京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

②教員研修等への協力　5回　103人

事業名：京都府私立中学高等学校連合会　メディアと教育研究会　研修会	
実施日	5月23日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　接客室
参加者数	10人
担当研究員数	1人
事業内容	展示方法・教育普及の手法などに関する解説と、展示見学を行った
主催	京都府私立中学高等学校連合会　メディアと教育研究会
事業名：京都府　デザイン系高校教員の勉強会	
実施日	6月5日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　接客室・名品ギャラリー
参加者数	8人
担当研究員数	1人
事業内容	博物館建築・博物館の役割・文化財の修復等に関する解説と、展示見学を行った
主催	京都府　デザイン系高校教員の勉強会
事業名：（小・総）授業実践力向上講座〈図画工作①〉	
実施日	6月12日
開催場所	京都市総合教育センター
参加者数	25人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会が主催する、小学校教員向けの図画工作の研修講座にて、文化財複製を用いた授業実践のための講義を行った。
主催	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会
事業名：尼崎市造形教育研究会	
実施日	8月4日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　講堂・名品ギャラリー
参加者数	48人
担当研究員数	1人
事業内容	博物館の教育普及活動に関する解説と、展示見学を行った
主催	尼崎市造形教育研究会
事業名：教務主任学事視察・研修会	
実施日	28年2月10日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　研修室・名品ギャラリー
参加者数	12人
担当研究員数	2人
事業内容	三角縁神獣鏡をはじめとした犬山市内の古墳からの出土品に関する解説と、展示見学を行った
主催	犬山市立小中学校教務主任会

③高精細複製を用いた授業実践への協力　5件　約857人

事業概要	高精細複製を用いた授業実践を希望する学校に対して、実践例の紹介や資料の提供、当日の設営・授業の補助などを行った。
対象	京都市内の小中学校
実施内容	10月21日　朱雀中学校　2年生92人　「八橋図屏風」尾形光琳筆 11月7日　烏丸中学校　全校生徒約145人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 28年1月25日　桂中学校　年生約270人　「「風神雷神図屏風（俵屋宗達筆）」「八橋図屏風（尾形光琳筆）」ほか 28年1月27日　御池中学校　1年生約230人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 28年2月2日　洛西中学校　1年生約120人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆

10）来館学校団体等への対応　10回　約378人

内容	解説や体験プログラム等を提供する
対象	解説や体験を希望した学校団体等
実施内容	5月8日　新潟市立早通中学校（新潟県）生徒4人・引率1人、館長へのインタビュー・展示見学 5月14日　佐賀市立金泉中学校（佐賀県）生徒6人・引率1人、博物館業務に関するインタビュー・展示見学 9月12日　鴨沂高等学校（京都府）生徒17人・引率1人、ワークショップ・名品ギャラリーに関する解説・展示見学 10月18日　芦屋市立潮見中学校（兵庫県）美術部　生徒25人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 10月21日　鳥取県立倉吉西高校（鳥取県）生徒31人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 10月28日　京都府立京都すばる高校（京都府）生徒40人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 11月5日　親和中学校（兵庫県）生徒33人・引率3人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 28年1月13日　大谷高等学校（京都府）生徒約170人・引率3人、博物館の仕事・名品ギャラリーに関する解説・展示見学 28年2月10日　犬山市教務主任学事視察(愛知県)教務主任12名、犬山市内の古墳からの出土品に関する解説・展示見学 28年3月13日　京都市中学校教育研究会社会科部会（京都府）　生徒20人・引率5人　名品ギャラリーに関する解説・展示見学

11）館外でのワークショップ　2回　256人

事業名：ミニ掛軸をつくろう	
実施日	6月14日
開催場所	仙台市縄文の森広場
参加者数	217人
事業内容	「こどもひかりプロジェクト」が主催する「こども☆ひかりフェスティバルinせんだい 2015」にブース出展し、裂の代わりに紙を使って掛軸の表装を作るワークショップを行った。ブース運営にはこどもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。
事業名：ミニ掛軸をつくろう	
実施日	12月19日
開催場所	仙台市八木山動物公園
参加者数	39人
事業内容	「こどもひかりプロジェクト」が主催する「こども☆ひかりフェスティバルinせんだい 2015」にブース出展し、裂の代わりに紙を使って掛軸の表装を作るワークショップを行った。ブース運営にはこどもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。

【奈良国立博物館】

1）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間　　事前申し込み制
・場所　　展示会場・講堂等
・学校団体案内数　　8件、計390名
・担当職員数　　4人（ボランティア室）
・事業内容　　当館ボランティアによるスライド学習と展示会場での作品解説

2）世界遺産学習への対応

・期間　　4月～3月　　事前申し込み制
・対応実績　　小学校37校　　計2,440名
・担当職員数　　4人（ボランティア室）
・事業内容　　奈良市教育委員会との共同で、小学生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
当館ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第67回 正倉院展」で制作、計816台の利用があった。

4）子ども向けイベントの実施

実施日	内　　容	会　場	参加者数
5月9日	親と子のワークショップ「消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30
8月1日	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46
8月4日	水煙チョコ鋳造体験	地下回廊・講堂	69
8月25日	白鳳展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に白鳳展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：岩井　共二（奈良国立博物館学芸部情報サービス室長）	講堂	44
8月29日	夏休み親子講座「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19
10月24日 ～11月9日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第67回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：田澤　梓（奈良国立博物館学芸部アソシエイトフェロー）	講堂	172

5）職場体験の受入

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校4校9名（2年生）
担当職員数	1名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。券売業務や監視業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっぱ」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムを開発した。 新規開発キット、プログラム：「織りの世界をのぞいてみよう」「じぶんでつくるわとじずかん」「韓国の箱をつくってみよう」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成27年度は、特別展「大英博物館展」に関連し、「ワヤン＝クリをぬろう」「101番目はどんなもの」「身近なものdeアート！」「デューラーには負けないぞ」という4つの体験プログラムを提供した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	参加者のべ555名
実施	7月25日、26日
九博子どもフェスタ	
内容	“博物館っておもしろいところ”をテーマに楽しいものづくりや色々な体験ができるイベント
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	九博ボランティア150人 、九州国立博物館を愛する会60人、壱岐市立一支国博物館6人、参加者のべ2,399人
実施	28年2月20,21日
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」中学生以上
人数	「親子で茶道体験」30組程度、「はじめての茶道体験」10名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっぱ」における特集展示 ①「あじ庵」：「モンゴル」「あやつり人形」「あじっぱキッチン」「おひなさま」 ②「あじぎゃら」：「はらのむしグランプリ」「東南アジアの楽器」「ミャンマー」「はらのなかのはらっぱで」 ③ディスプレイ：「こどもが主役」「動物」「お正月・干支」「中国」 ④あじっぱ屋台展示替え：6つの屋台のうち4つを展示替
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：作品の扱い方、展示の方法を通して学芸員の仕事を紹介する。 ②なりきり考古学者体験：作品の調書の作成、拓本体験を通して考古学者の仕事を紹介する。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大6名（1日3回実施）
実施	「なりきり考古学者」4日、「なりきり学芸員」6日（計10日、のべ30回）

2）学校教育との連携事業の実施

① 職場体験の受け入れ

中学生・高校生の職場体験	
内容	中学校・高等学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進した。
人数	1校につき最大6名
実施	中学校22校から106名（のべ50日間）を受け入れ

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	高校生を対象に、学芸業務体験を通して博物館に親しむ機会を提供する。博物館の活動を高校生と学校に理解してもらうことで、今後の博学連携に向けての布石とした。体験型展示室「あじっぱ」で提供するBOXキット「あじっぱカルタ」を充実させるプログラムを実施した。
人数	10校26名
実施	12月～3月の日曜日を中心に全8回

③ 教員研修の受け入れ

社会体験研修（初任者対象）	
内容	初任者教員を対象に、社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	8校14名
実施	平成27年8月8日～30日の期間のうち3日間を3期（のべ9日間）
社会体験研修（10年経過教員対象）	
内容	経験10年経過教員を対象に、社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	3校5名
実施	平成27年8月3日～12日の期間のうち2日間を2期（のべ4日間）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

福岡県教育センターキャリアアップ講座「博物館を活用した社会科授業づくり」	
内容	教員を対象に、博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	40名
実施	8月29日
福岡県教育センターキャリアアップ講座「教材化に挑戦！ガムランによる音楽科学習指導」	
内容	アジアの民族楽器「ガムラン」について、専門家による実技指導を通してガムランのよさを実感し、学習指導要領の指導事項に沿って教材化する。
人数	28名
実施	8月4日～5日
館主催研修講座「博物館活用術！」	
内容	教員を対象に、博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	各回20名
実施	8月18日・27日に各2回

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校、社会教育団体等
実施	計75件（小学校24件、中学校14件、高等学校8件、その他1件）

⑥ 出前講座・授業実践支援事業への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。また、学校貸出キット「きゅうぱっく」を活用した授業に関して、交流課職員がチーム・ティーチングなどで活動のサポートを行う。
対象	研究員による出前講座・授業実践支援事業を希望した学校
実施	計6校 4月27日　筑紫女学園大学（博物館ガイダンス） 5月22日　春日市立須玖小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 5月27日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座のガイダンス） 7月15日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 2月15日　福岡市立西花畑小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 2月22日　那珂川町立岩戸小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援）

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	体験プログラムやバックヤード見学等を提供する。
対象	来館した学校団体のうち、体験や支援等を希望した学校
実施	計13校 4月23日　宇美町市立原田小学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 6月10日　太宰府市立太宰府中学校（個別の展示見学対応） 6月14日　福岡県立筑紫丘高等学校（郷土研究部のフィールドワークに伴うワークショップやバックヤード見学） 6月17日　太宰府市立太宰府中学校（バックヤード見学） 7月10日　佐賀県立盲学校（異文化体験） 9月29日　春日市立春日中学校ブロック特別支援学級（あじっぱプログラムを活用した体験） 9月30日　太宰府市立太宰府小学校（九州国立博物館のバリアフリー施設に関する調査活動） 10月21日　福岡県立福岡高等視覚特別支援学校（個別の展示見学対応） 10月24日　福岡県立鞍手高等学校（郷土部のフィールドワークに伴うバックヤードの見学） 10月27日　福岡県立香椎高等学校（特別展に関する講義） 11月 6日　福岡県立香椎高等学校（特別展に関する講義） 12月 9日　春日市立春日東中学校ブロック特別支援学級（あじっぱプログラムを活用した体験） 2月19日　福岡聴覚特別支援学校（「きゅうぱっく」の体験） ※展示解説を希望した学校団体への対応は含まない（別項ボランティアの欄に含む）

3）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」体験コーナー	
内容	一般的には難しいと思われる文書に親しむ体験コーナー。「戦国大名の手紙」をテーマに、楮と雁皮の原料と紙を触れる体験、手紙の包み方「切封」体験、花押制作体験の 3 ヶ所のコーナーを展示室内に設けた。
開催場所	特別展示室
実施	4月21日～5月31日
特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」ワークショップ	
内容	出品作品「金箔押桃形兜」をペーパークラフトで作るワークショップを行った。
開催場所	エントランスホール
人数	409名

実施	5月5日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」体験コーナー　①楔形文字を書いてみよう　②九博特製アストロラーベを使ってみよう	
内容	①世界最古の文字を、葦ペンを使って粘土に書く体験 ②中世ヨーロッパの天体観測機器「アストロラーベ」の北部九州版を制作し、実際に使う体験。
開催場所	特別展示室
実施	7月14日～9月6日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」イベント「夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム」	
内容	閉館後の博物館のバックヤードを案内するとともに、大英博物館展示室内では、歴史上の人物が登場し展示物を紹介するイベントを、親子向け、一般向けに計5回実施。
人数	各回25組×5回
開催場所	研修室、バックヤード、特別展示室
実施	7月18日（親子、一般）、7月19日（親子、一般）、8月28日（親子）
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」配布物「ジュニアガイド」	
内容	高校生にも展覧会に興味を持ってもらえるよう、出品される埴輪などのミニチュアを粘土で作り、コマ撮り映像を作成。
開催場所	ホームページ
実施	7月14日～9月6日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」プロモーションビデオ	
内容	博物館で働く人が出品される100点を紹介する動画を製作。
開催場所	ホームページ
実施	7月14日～9月6日
特別展「美の国 日本」　教育普及コーナー「技あり日本！」	
内容	日本独自の製作技法や、大陸から伝わり日本で発達した技法を紹介するコーナー。3Dプリンタで出力した銅鐸や銅鏡を触れるコーナーの設置、漆の技法「蒔絵」をパネルや動画、道具で紹介、葦手絵をパネルで紹介。
開催場所	特別展示室
実施	10月18日～11月29日
特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」体験コーナー　①魚を泳がせてみよう　②ティリアテペの黄金の衣装を着て写真を撮ろう	
内容	①出土した衣装の装飾と衣装を再現し、試着するコーナー。②金属に浮き彫りされた魚のヒレが動く作品を再現し、ヒレが動く様子を体験。
開催場所	①特別展室入口　②特別展示室
実施	1月1日～2月14日
特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」こどもガイド	
内容	アフガニスタンや展覧会について展示を見ながら楽しく学べるガイド。会場入口で配布したほか、事前に県内の小学生に配布。
開催場所	特別展示室
実施	1月1日～2月14日
特別展「始皇帝と大兵馬俑」体験コーナー「秦の単位で身体測定」	
内容	秦の単位で数字が表記してある身長計と体重計を設置して来館者に体験してもらい、度量衡について理解を深めてもらった。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～6月12日
特別展「始皇帝と大兵馬俑」ジュニアガイド	
内容	展覧会に興味を持ってもらうようなクイズや始皇帝の生涯を紹介する読みものを盛り込んだジュニアガイド。会場入口で配布したほか、事前に県内の小学生に配布。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～6月12日

4）高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップを開催した。（筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。） 本年度は、開館10周年記念アジア人形劇フェスティバルの一つであるワヤン＝クリ（インドネシアの影絵人形劇）公演にあわせて受講者が練習の成果を発表する形式としたため、前半は4回連続の講座とした。
実施期間	5月23日、6月21日、7月11日、8月8日、12月13日、2月28日　計６回
開催場所	1階ミュージアムホール
参加者数	毎回84人

5）館外の文化施設等における体験型ワークショップ

内容	館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした一般の方
実施	計14件（参加総数 4,460人）　実施箇所等は以下のとおり(人数は当館担当ブースの体験者数) 田村市船引公民館及び福島県立博物館（5月2日,3日）250人 熊本県立装飾古墳館（5月5日）45人 秋田市立千秋美術館（5月17日）213人 仙台縄文の森広場（6月14日）200人 壱岐市立一支国博物館（8月1日）80人 アクアマリンふくしま（8月26日）45人 JR博多シティ（9月20，21，22日）2947人 南相馬市博物館（10月12日）120人 兵庫県立人と自然の博物館（11月1日）40人 兵庫県立考古博物館（11月7日）80人 福岡県立少年自然の家「玄海の家」（11月23日）200人 九州芸文館（12月5，6日）180人 福岡県立社会教育総合センター（2月24日）30人 宇部市ときわミュージアム（3月20日）30人

2-(2)-⑤　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成28年3月31日現在

1)　大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6人
担当研究員数	4人

内　　容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
実施期間	9月4日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	22人
担当研究員数	2人

【奈良国立博物館】

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期　2人、後期　1人
担当研究員数	1人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	7人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月17日、5月29日、6月26日、7月10日、8月14日、10月2日、11月13日、12月4日、1月22日、2月12日、3月4日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）
参加者数	延べ73人

内　　容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	8月19日～31日の間、延べ9日間実施
参加者数	13人（9大学）

内　　容	放送大学の面接授業　「博物館を学ぶ」
実施期間	11月14日～15日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	44人

2)　インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月10日～28年3月31日
受入部署	学芸企画部　情報管理室、150年史編纂室、デザイン室、教育普及室、教育講座室、広報室 学芸研究部　上席研究員、保存修復課、平常展調整室
参加者数	23人（13大学）
担当研究員数	9人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月17日～8月28日　9月7日～9月18日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	2人(2大学)
担当研究員数	2人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを受け入れた。11月20日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行った。（出席者32名）

【奈良国立博物館】

受入期間	8月11日～8月13日、8月18日、8月19日
受入部門	総務課
参加者数	3人（1大学）
担当職員数	1人（総務係）
事業概要	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務（事務系）への就職を検討している学生を募集し、3名の学生を受け入れた。

【九州国立博物館】

受入期間	8月17日～21日の5日間
受入部署	博物館科学課
参加者数	7人（5大学）
担当研究員数	2人
事業内容	当館の文化財保存修復施設の機能と利点を活かし、西日本地域の大学で装潢技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施した。

3) 学生ボランティア

【東京国立博物館】

実施日	ギャラリートーク(研究発表)班 12月2日、12月3日、12月9日、12月10日、12月12日、12月13日、12月19日、12月20日、1月5日、1月6日、1月7日、1月8日、1月9日、1月10日、1月13日、1月15日、1月16日、1月17日、1月20日、1月21日、1月22日、1月23日、1月24日、1月26日、1月27日、1月28日、1月29日、1月30日、1月31日、2月2日、2月4日、2月5日、2月6日、2月7日、2月9日、2月10日、2月11日、2月12日、2月13日、2月14日、2月16日、2月17日、2月18日、2月19日、2月20日、2月21日、2月27日、2月28日、3月1日、3月2日、3月9日（計51回）
開催場所	本館特別2室・3室・5室・10室・11室・12室・18室、東洋館8室・9室・11室
参加者数	インターン13人　聴講者1,913人
担当研究員数	12人
事業内容	東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。

【京都国立博物館】

文化財ソムリエによる訪問授業等	
実施日	①文化財に親しむ授業　6月9日、7月9日、9月4日、10月6日、10月30日、11月18日、12月7日（計7回） ②琳派400年記念　風神雷神おしゃべり鑑賞会　11月14日、15日（計2回）
開催場所	①京都市内の小中学校 ②堀川御池ギャラリー
参加者数	①658人 ②63人
担当研究員数	2人
事業内容	文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校における訪問授業や、市内ギャラリーでの鑑賞会を実施した。
文化財ソムリエに向けたスクーリング	
実施日	5月20日、5月27日、6月3日、6月17日、6月24日、7月2日、7月1日、7月15日、8月26日、9月2日、9月9日、9月16日、9月30日、10月7日、10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月25日、12月2日、27年1月13日、2月17日、2月24日（計22回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	19人
担当研究員数	4人
事業内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。

4) 見学対応

【東京国立博物館】

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	12件275人（大学12件、275人／専門学校0件0人）
担当研究員数	4人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

【京都国立博物館】

期　間	年間
開催場所	平成知新館
参加者数	2件41人（国内大学1件22人／海外大学1件19人）
担当研究員数	1人
事業内容	大学生や大学院生を対象に、特別展や名品ギャラリーの解説や展示見学等を行った。

【九州国立博物館】

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	450人（大学6件430人 短期大学１件20人）
担当研究員数	2人
事業内容	大学生等を対象に、九州国立博物館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。

2-⑵-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会・パスポート等

1) 会員数

友の会　　平成28年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数 (年会費 10,300 円) ※継続：9,800 円/東京国立博物館
東京国立博物館	2,041 人
九州国立博物館	206 人

パスポート　　平成28年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	パスポート会員数	一般 (4,100 円)	一般 (3,100 円)	29 歳以下 (3,000 円)	学生 (2,500 円)	学生 (2,100 円)	家族 (6,200 円)
東京国立博物館	18,157 人	16,269 人	－	731 人	1,157 人	－	－
京都国立博物館	7,108 人	－	6,830 人			278 人	－
奈良国立博物館	3,591 人	－	3,443 人	－	－	106 人	42 人
九州国立博物館	5,571 人		3,328 人			2,243 人	

ベーシック（26年4月1日より新設）　　平成28年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	ベーシック会員数	一般 (1,500 円)	29 歳以下 (1,100 円)	学生 (900 円)
東京国立博物館	2,789 人	2,053 人	578 人	158 人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成28年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	464件	362人	6件	74件
内訳	プレミアム会員(個人)：2人 特別会員(団体)：20団体 特別会員(個人)：8人 維持会員(団体)：42団体 維持会員(個人)：392人	賛助会員：32人 特別会員：65人 普通会員：265人	団体会員：5件 個人会員：1件	特別支援会員：4団体 特別会員：4団体 一般会員(団体)：17団体 一般会員(個人)：49人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・４月７日（火）　特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」
　特別鑑賞会　参加人数33名
・７月22日（水）開館120年記念特別展「白鳳　―花ひらく仏教美術―」
　特別鑑賞会　参加人数45名
・10月26日（月）　特別展「第67回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数130名

2-(2)-⑨ 渉外活動

平成 28 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1)　会場提供　　5 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
5 月 26 日	イベント	第 4 回グローバルリサーチカウンシル年次会合晩餐会	本館、平成館	150
6 月 8 日	イベント	エルメスファッションショー 2015 年秋冬レディスコレクション	表慶館、法隆寺宝物館	500
6 月 29 日	イベント	日本遺産フォーラム（認定証交付式及びパネルディスカッション、ブース出展）	平成館ラウンジ・大講堂	350
7 月 27 日	イベント	FENDI「2015-2016 秋冬コレクション・ショー」	表慶館、法隆寺宝物館	250
11 月 10 日 ～11 月 15 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	17,663

2)　館主催・協力イベント　33 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
4 月 1 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「東博でバッハ vol.24」戸田弥生	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 2 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」	法隆寺宝物館	166	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 3 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.25」フランチェスコ・トリスターノ	平成館ラウンジ	230	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」	本館エントランス	133	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 8 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.26」安田謙一郎	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
6 月 20 日	イベント	東博寄席	平成館大講堂	285	当館主催
6 月 21 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	215	サロン・ド・ソネット共催
6 月 28 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	435（2 回計）	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
8 月 13 日	音楽会	ネパール地震復興支援コンサート	平成館大講堂	250	ネパール地震文化遺産復興支援コンサート実行委員会主催 東京藝術大学音楽学部/NPO 法人世界遺産コンサート後援 東京国立博物館協力
9 月 26 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」	平成館大講堂	143	上野の山文化ゾーン連絡協議会
10 月 2 日 10 月 3 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「銀河鉄道の夜」（1985 年、杉井ギサブロー監督）上映	本館前	6038（2 回計）	当館主催
10 月 6 日	音楽会	キルギスの伝統楽器コムズの調べ	東洋館	270（2 回計）	当館主催
10 月 9 日	音楽会	中国の伝統楽器古箏の調べ	津洋館	280（2 回計）	当館主催
10 月 17 日	音楽会	宮沢賢治コンサート	平成館ラウンジ	300	「賢治と上野の物語」コンサート実行委員会主催 東京国立博物館共催 ㈱椿協賛
10 月 18 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	189	サロン・ド・ソネット共催
10 月 31 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2015 まちなかコンサート	本館エントランス	330	東京文化会館他共催
10 月 30 日 ～11 月 2 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2015 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2015」実行委員会共催
11 月 25 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	281	東大寺共催
28 年 1 月 2 日	イベント	和太鼓（批魅鼓）	本館前	984	当館主催
28 年 1 月 2 日	イベント	曲独楽（三増紋之助）	平成館ラウンジ	1,025	当館主催
28 年 1 月 2 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,030	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	和太鼓（白梅太鼓）	本館前	1,605	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	曲独楽（三増紋之助）	平成館ラウンジ	727	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	708	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,240	当館主催
28 年 1 月 9 日	イベント	東博寄席	平成館大講堂	401	当館主催
28 年 3 月 16 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「Vive!サクソフォーン・	本館池前	101	東京・春・音楽祭実行委員会共催

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
		クヮルテット」			
28 年 3 月 18 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」	本館池前	129	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 18 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.27」三浦文彰（ヴァイオリン)、豊嶋泰嗣（ヴィオラ)、富岡廉太郎（チェロ）	平成館ラウンジ	233	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 24 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」	法隆寺宝物館エントランス	186	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 26 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.28」キム・カシュカシャン（ヴィオラ）	法隆寺宝物館エントランス	119	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 30 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「加藤えりな　無伴奏ヴァイオリン・コンサート」	本館大階段踊り場	320	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 31 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.29」戸田弥生（ヴァイオリン）	法隆寺宝物館エントランス	116	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　108 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 8 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場	2	丸子紗梨
4 月 8 日	交流会	京都ライオンズクラブ交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	80	京都ライオンズクラブ
4 月 11 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	40	（株）J-MIND
4 月 11 日	茶席	茶会	茶室	4	山本喜久子
4 月 12 日	茶席	茶会	茶室	70	山本喜久子
4 月 20 日	イベント	長唄・三味線演奏会	平成知新館グランドロビー	100	ハイアットリージェンシー京都
4 月 26 日	交流会	京都検定 1 級合格者のつどい	平成知新館講堂	40	京都商工会議所
4 月 26 日	セミナー	茶道関連作法セミナー	茶室	15	（株）Ritzy
5 月 6 日	撮影	写真撮影	茶室	6	オンディーヌ京都烏丸店
5 月 8 日	撮影	写真撮影	茶室	5	エル・ピューパ
5 月 9 日	特別鑑賞会	「そうだ　京都、行こう。」特別鑑賞会	明治古都館	80	JR 東海ツアーズ
5 月 17 日	茶席	勉強会	茶室	10	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
5 月 24 日	交流会	交流会	平成知新館講堂	32	国際ソロプチミスト日本中央ベンチャーリジョン
5 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	3	能勢琴音
5 月 26 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	42	京都文化協会
5 月 26 日	交流会	「日本人の忘れもの　知恵会議」記念交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	140	京都新聞
5 月 27 日～6 月 9 日	展示販売	カルティエ　ロワイヤル	明治古都館・平成知新館グランドロビー・茶室・庭園ほか	2000	リシュモンジャパン
6 月 14 日	上映会	VR「幻の安土城」上映および講演	平成知新館講堂	100	大阪よみうり文化センター
6 月 21 日	座談会	歴史研究座談会	茶室	10	三浦恵美子
6 月 22 日	総会	京都市内博物館施設連絡協議会総会	平成知新館講堂	100	
7 月 5 日	撮影	写真撮影	茶室	10	青山美由起
7 月 10 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	40	国宝修理装こう師連盟
7 月 11 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	旧管理棟研修室	15	国宝修理装こう師連盟
7 月 11 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場	15	こばやし事務所
7 月 11 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	42	JR 東海ツアーズ
7 月 12 日	イベント	琳派 400 年記念イベント	平成知新館講堂	200	琳派 400 年記念プロジェクションマッピング委員会
7 月 27 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	15	こばやし事務所
7 月 30 日	交流会	京都商工会議所交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	180	京都商工会議所
8 月 1 日	撮影	写真撮影	茶室	2	永吉隆
8 月 3 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・正門前広場・噴水広場	14	（有）オフィスランサック
8 月 9 日	撮影	写真撮影	茶室	9	太田智佳子
8 月 10 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場・正門前広場	2	（株）森戸アソシエイツ
8 月 20 日	撮影	写真撮影	茶室	4	（有）京都きもの町
8 月 22 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	63	
8 月 22 日～23 日	ワークショップ	「映画の復元と保存に関するワークショップ」	平成知新館講堂	150	主催：「映画の復元と保存に関するワークショップ」運営委員会ほか
8 月 23 日	撮影	写真撮影	茶室	10	中川佳苗

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8 月 29 日	交流会	学校法人立命館　四校交流会	平成知新館グランドロビー	50	ハイアットリージェンシー京都
9 月 3 日	講義	研修会	平成知新館講堂	20	ハイアットリージェンシー京都
9 月 4 日	特別鑑賞会	三菱東京 UFJ 銀行特別鑑賞会	平成知新館	96	三菱東京 UFJ 銀行
9 月 5 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	33	JR 東海ツアーズ
9 月 12 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	22	JR 東海ツアーズ
9 月 16 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	10	国宝修理装こう師連盟
9 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	4	大仲京子
9 月 28 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	16	こばやし事務所
10 月 2 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室・研修室	20	国宝修理装こう師連盟
10 月 3 日	撮影	写真撮影	茶室	2	小泉裕香
10 月 10 日～12 日	イベント	東山南部地域活性化委員会「太閤祭」	正門前広場	—	東山南部地域活性化委員会
10 月 11 日	イベント	今様合の会および記念講演会	平成知新館講堂	100	日本今様謌舞楽会
10 月 15 日	交流会	京のおもてなし交流会	平成知新館講堂	50	（株）関広
10 月 17 日～18 日	茶席	茶会	茶室	90	薮内流茶道教室　松の実会
10 月 17 日 ～11 月 23 日	展示販売	京ものエ芸品「琳派フェア」（伝統工芸品の販売）	正門前広場	—	京都府商工労働観光部染織・工芸課
10 月 18 日	映像鑑賞	展覧会鑑賞のための映像鑑賞	平成知新館講堂	48	奈良ロータリークラブ
10 月 22 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	75	（株）日経カルチャー
10 月 22 日～23 日	茶席	茶会	茶室	200	梶高明
10 月 23 日	講義	研修会	平成知新館講堂	50	京都美術商協同組合
10 月 24 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	19	京都文化協会
10 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	4	伊藤美樹
10 月 25 日	演奏	篠笛演奏	茶室	25	榊原恭子
10 月 27 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	95	ハースト婦人画報社
10 月 28 日	茶席	授業	茶室	44	京都府すばる高等学校
10 月 29 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	20	国宝修理装こう師連盟
10 月 29 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	（株）京都新聞企画事業
10 月 31 日	勉強会	勉強会	茶室	30	赤目自然農塾
11 月 1 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	東大寺学園　東菁会
11 月 3 日	茶席	茶会	茶室	175	五条坂茶わん坂ネットワーク
11 月 6 日	撮影	写真撮影	茶室	6	（株）ラリアンス
11 月 7 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	40	（株）J-MIND
11 月 8 日	茶席・講演	茶会・講演会	茶室・平成知新館講堂	130	京都漱石の會
11 月 8 日	撮影	写真撮影	茶室	6	オンディーヌ京都烏丸店
11 月 14 日	勉強会	勉強会	茶室	7	大西啓介
11 月 14 日	イベント	ブレゲ　プライベートサロン in 京都 2015	平成知新館グランドロビー	50	ハイアットリージェンシー京都
11 月 15 日	撮影	写真撮影	茶室	6	伊藤美樹
11 月 16 日	特別鑑賞会	三越伊勢丹旅行特別鑑賞会	平成知新館	200	三越伊勢丹旅行
11 月 17 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	45	大阪倶楽部美術茶話会
11 月 17 日	勉強会	勉強会	茶室	30	関西インテリアプランナー協会
11 月 21 日	勉強会	勉強会	茶室	15	村井直也
11 月 22 日	撮影	写真撮影	茶室	3	大仲京子
11 月 27 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館研修室	15	国宝修理装こう師連盟
11 月 27 日	撮影	写真撮影	茶室	18	（株）オリンパス
11 月 28 日	講習会	修理技術者資格制度	平成知新館研修室	15	国宝修理装こう師連盟
11 月 28 日	撮影	写真撮影	茶室	4	神菊梨沙
11 月 29 日	茶席	茶会	茶室	5	菊地原節子
12 月 4 日	交流会	講演および交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	10	（一社）Spirit of SHINISE 協会
12 月 5 日	イベント	21 世紀鷹峯フォーラム「つくるフォーラム公募説明会」	平成知新館講堂・グランドロビー	50	ザ・クリエイション・オブ・ジャパン
12 月 5 日	撮影	写真撮影	茶室	3	永井由佳梨
12 月 9 日	茶席	茶会	茶室	8	吉田市蔵
12 月 11 日	撮影	写真撮影	茶室	5	（株）ラリアンス
12 月 13 日	撮影	写真撮影	茶室	13	箱崎友美
12 月 13 日	イベント	将棋対局「叡王戦」	明治古都館・平成知新館接客室・技術資料参考館	80	（株）ドワンゴ、日本将棋連盟
12 月 22 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	14	こばやし事務所
12 月 25 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・明治古都館前広場	6	合同会社 TCI 研究所

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
28年1月16日	講習会	日本刀鑑賞講習会	平成知新館講堂	50	澤田康則
28年1月24日	展示会	いけばな展示会	茶室	20	嵯峨御流　紅幸会
28年1月30日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	40	JR東海ツアーズ
28年2月5日	撮影	写真撮影	茶室	4	（株）ラリアンス
28年2月7日	特別鑑賞会	「そうだ　京都、行こう。」特別鑑賞会	平成知新館	40	JR 東海　京都・奈良・近江文化情報事務局
28年2月14日	音楽コンクール	音楽コンクール最終審査会	平成知新館講堂	100	（一社）　日本イタリア協会
28年2月15日	撮影	写真撮影	正門前広場・平成知新館グランドロビー・茶室	17	（有）オフィスランサック
28年3月3日	商談会	観光関連商品・サービスに関する商談会	平成知新館講堂グランドロビー	60	（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
28年3月8日	記者発表	非公開寺院滞在型文化体験プログラム「いろはにほん」記者発表	平成知新館講堂	50	日本財団
28年3月12日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館講堂	40	JR東海ツアーズ
28年3月14日	イベント	ダンスパフォーマンス	明治古都館前広場	30	苫野美亜
28年3月17日	茶席	茶会	茶室	50	一条克美
28年3月18日	撮影	写真撮影	茶室	4	（有）スタジオコーゾ
28年3月19日	見学	施設見学	茶室	28	エムケイ観光バス株式会社
28年3月20日	演奏	篠笛演奏	茶室	40	榊原恭子
28年3月28日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・明治古都館前広場・正門前広場	20	（有）ケーズ・プリュ
28年3月28日～31日	研修	展覧会運営従事者研修	平成知新館会議室	延べ160	（株）ザ・アール

2)　館主催・協力イベント　　25件

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
5月2日	落語	京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～	平成知新館講堂	185	
5月17日	シンポジウム	国際博物館の日シンポジウム	平成知新館講堂	100	主催：ICOM 日本委員会他
8月2日	落語	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～	平成知新館講堂	141	
9月13日	イベント	2015日伊オペラ国際共同制作「道化師」	庭園	800	主催：2015 日伊オペラ国際共同制作実行委員会
9月18日	音楽会	ヴィヴァルディへのオマージュ～スペシャル・チェンバー・コンサート	平成知新館講堂	120	主催：さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
10月9日	イベント	琳派400年記念祭特別イベント「コシノジュンコ琳派の世界」（ファッションショー）	平成知新館グランドロビー	900	主催：琳派特別ファッションショー実行委員会
10月9日	茶会	特別展覧会「琳派　京を彩る」記念茶席	茶室	300	
10月30日	落語	京都・らくご博物館（秋）～紅葉寄席～	平成知新館講堂	130	
10月31日	音楽会	音燈華コンサート	平成知新館講堂	157	
11月3日	シンポジウム	琳派400年記念国際シンポジウム「琳派　この一作」	平成知新館講堂	200	主催：当館、琳派400年記念祭委員会、古典の日推進委員会
11月7日～9日	イベント	大琳派祭プロジェクションマッピング「美の継承」	庭園	8184	主催：京都府
11月18日	音楽会	Hijiya Music Club & Kyohaku Joint Concert	平成知新館講堂	160	主催：土屋医院
12月13日	講演会	文化遺産防災国際シンポジウムー文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性ー	平成知新館講堂	104	主催：国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進本部
12月15日	音楽会	クリスマス・ロマンチック・コンサート	平成知新館講堂	80	
12月15日～28年1月31日	イベント	庭園イルミネーション	噴水広場	100	
12月20日	音楽会	クリスマス・ハンドベルコンサート	平成知新館グランドロビー	230	
28年1月2日	イベント	新春・京博こと始め2016	平成知新館講堂	200	
28年1月2日	イベント	親子で餅つき大会	庭園	200	
28年1月3日	イベント	新春・京博さるづくし	平成知新館講堂	100	
28年1月3日	イベント	福引き抽選会	平成知新館グランドロビー	820	
28年1月10日・11日	イベント	芸舞妓　春の舞	平成知新館グランドロビー	合計208	
28年1月30日	落語	京都・らくご博物館（冬）～新春寄席～	平成知新館講堂	160	

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
28 年 3 月 18 日	報告会	京都国立博物館ミュージアムパートナー事業報告会	技術資料参考館	15	
28 年 3 月 26 日	音楽会	雅楽公演	平成知新館グランドロビー	111	
28 年 3 月 26 日・27 日	イベント	居合演武	平成知新館グランドロビーテラス	2 日合計 171	

【奈良国立博物館】

1）会場提供　　30 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 26 日	茶席	奈良八重桜を愛でる会	講堂・茶室、園地・西新館南ピロティ・応接室	190	奈良八重桜の会
4 月 26 日	講演会	奈良ひとまち大学	仏教美術資料研究センター	25	公益財団法人奈良市生涯学習財団
5 月 23 日	茶会	茶会と庭園講座	茶室	43	牧岡一生
7 月 15 日	コンサート	ジョイントコンサート“チェコの調べと共に”	講堂	167	奈良・人と自然の会
7 月 24 日	会議	文化財の買取会議	会議室	－	文化庁美術学芸課
8 月 8 日	コンサート	音燈華　フラリーパッド（ギター・ウクレレの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	300	寧屋舎中合同会社
8 月 9 日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	400	寧屋舎中合同会社
8 月 9 日	会議	能楽学会常任委員会	会議室	15	能楽学会
8 月 9 日	セミナー	能楽に関する研究会「世阿弥忌セミナー」	講堂	122	能楽学会
8 月 30 日	講演会	奈良ひとまち大学	講堂	43	公益財団法人奈良市生涯学習財団
10 月 10 日	茶会	茶会	茶室	44	桃李会
10 月 24 日～11 月 9 日	茶席	正倉院展「野点の茶席」	西新館南側ピロティ庭園	15,715	結の会
10 月 24 日～11 月 9 日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	－	株式会社鶴屋吉信
10 月 24 日～11 月 9 日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側敷地	－	有限会社日本クリーンシステムズ
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の販売	新館西側敷地	－	校倉な会
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の販売	新館西側敷地	－	なら和み館
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	記念切手の販売	新館西側敷地	－	郵政事業株式会社
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	記念写真の撮影・販売	新館西側敷地	－	小路谷写真株式会社
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	正倉院展　図録、グッズ等の販売	西新館 地下回廊	－	一般財団法人仏教美術協会
10 月 27 日	講義	第 6 回東アジア地方政府会合エクスカーション参観者への展示品等の説明	講堂	81	奈良県知事公室国際課
11 月 27 日～28 日	茶会	茶会	茶室	27 日 7 28 日 6	小林順子
12 月 3 日	鼎談	「正倉院宝物の保存と公開」をテーマとした鼎談	会議室	11	一般財団法人環境文化創造研究所
12 月 9 日	講演会	世界遺産学習	講堂	64	奈良市立三碓幼稚園
12 月 9 日	茶会	茶会	茶室	8	横井貴史
12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	－	春日大社
28 年 1 月 21 日	茶会	茶会	茶室	18	楽茶会
28 年 2 月 10 日	茶会	第三回珠光茶会	茶室	104	奈良市
28 年 2 月 11、13、14 日	講演会	JR 東海ツアーズ特別講演会	講堂	11 日 62 13 日 77 14 日 40	うまし奈良めぐり実行委員会
28 年 2 月 20 日	講演会	あじさい会講演会	講堂	70	あじさい会
28 年 3 月 10 日～13 日	上映会	ならシネマテーク	講堂・応接室	11 日 90 12 日 74 13 日 57	NPO 法人なら国際映画祭実行委員会

2）館主催・協力イベント　　53 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 7 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	33	
4 月 8 日～9 日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	31	
5 月 9 日	イベント	親と子のワークショップ「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30	
7 月 22 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	45	
7 月 23 日～24 日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	70	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
7月25日	イベント	白鳳フォーラム	東大寺総合文化センター金鐘ホール	262	
7月27日	鑑賞会	NHKネットクラブ鑑賞会	展示室	279	株式会社 NHK プラネット近畿総支社
7月27日	鑑賞会	休館日内覧会	講堂・展示室	131	クラブツーリズム
7月30日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	120	
8月1日	イベント	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46	
8月3日	鑑賞会	休館日内覧会	講堂・展示室	66	クラブツーリズム
8月4日	イベント	水煙チョコ鋳造体験　白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう♪	講堂・地下回廊	69	協力：薬師寺、CAFÉ 葉風泰夢
8月5日	鑑賞会	わいずクラブ特別鑑賞会	展示室・庭園・仏教美術資料研究センター	99	主催：わいず倶楽部事務局
8月5日～14日	観光イベント	「なら燈花会」ｵﾌﾞｼﾞｪ等を配置	新館周辺	―	主催：なら燈花会の会
8月8日～9日	イベント	仏像あたまを作っちゃおう！かぶっちゃおう！1枚の紙で作るカブリモノ制作・変身ワークショップ	地下回廊	8日　55 9日　47	主催：株式会社 NHK プラネット近畿総支社
8月12日	イベント	奈良国立博物館文化大使笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座	講堂	149	
8月21日	コンサート	講演とコンサート「白鳳を五感で感じる」	講堂	194	読売新聞大阪本社文化事業部
8月25日	鑑賞会	白鳳展　親子鑑賞会	講堂・展示室	44	
8月27日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	197	
8月29日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	125	JR 東海ツアーズ
8月29日	イベント	夏休み親子で学ぶ「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19	協力:奈良市消防局
9月4日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	188	
9月5日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	117	JR 東海ツアーズ
9月6日	講義	特別展鑑賞のための講義	講堂	65	読売新聞大阪本社文化事業部
9月10日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	194	
9月11日	講義	NHK 文化センター神戸教室講座「美術館散歩」	講堂	30	NHK 文化センター神戸教室
9月12日	コンサート	Daiwa Sakura Aid presents　「DEPAPEPEP 雨男 vs 野外シリーズ 2015」奈良国立博物館開館 120 年記念特別展白鳳　音燈華 DEPAPEPE Concert	仏教美術資料研究センター	450	寧屋舎中合同会社
9月17日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	181	
9月23日	コンサート	ライトアッププロムナード・なら 2015 ライトアップコンサート「言霊と音霊の夜会」	仏教美術資料研究センター	135	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
10月24日 ～11月9日	観光イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	正倉院展読売新聞ブース	―	主催：はじまりは正倉院展実行委員会
10月24日 ～11月9日	展示	正倉院展「いけばな展示」 法華寺御流のいけばな展示	西新館1階ロビー	―	
10月24日 ～11月9日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館 読売新聞社
10月24日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	98	
10月26日	観光イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」を PR	新館前広場	―	主催：奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月26日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	130	
10月26日～27日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	211	
11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	94	
11月1日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム２０１５「正倉院と奈良国立博物館　～120 年のあゆみ」	奈良県新公会堂	196	
11月3日	鑑賞会	第 67 回正倉院展　親子鑑賞会	講堂・展示室	172	
11月14日～15日	特別鑑賞	関西文化の日	青銅器館	14日：167 15日：228	
11月22日～23日	イベント	秋の庭園散策	庭園	22日 40 23日 33	
12月11日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良の魅力」	奈良まほろば館	48	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
12 月 17 日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	43	主催：裏千家　泉本宗悠
12 月 25 日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園･仏教美術資料研究センター	28	
28 年 1 月 14 日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・修理所	121	
28 年 1 月 26 日	講演会	第 17 回文化財防火ゼミナール	講堂	145	主催：奈良市消防局
28 年 1 月 27 日	イベント	施設ボランティア交流会	講堂	168	主催：京エコロジーセンター
28 年 2 月 7 日	講演･特別鑑賞	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・茶室控室・東大寺二月堂	42	
28 年 2 月 8 日～14 日	観光イベント	なら瑠璃絵　warter art projection の上映	西新館北側池前	－	主催：なら瑠璃絵実行委員会
28 年 2 月 12 日	講演会	第 7 回なら瑠璃絵特別講演会「お水取りと奈良時代の東大寺」	講堂	126	主催：なら瑠璃絵実行委員会
28 年 2 月 14 日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント「仏像を撮ってみよう！」	講堂・地下写場	27	
28 年 3 月 1 日～11 日、13 日、14 日	特別鑑賞	修二会期間中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	160	奈良交通株式会社
28 年 3 月 4 日	イベント	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室	194	主催：結の会

【九州国立博物館】

1) 会場提供　16 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 24 日～26 日	貸館	ひびのこずえワークショップ「虫をつくろう」	研修室／和室	190	主催：アートのたね
5 月 9 日	貸館	全国邪馬台国連絡協議会第 1 回九州地区大会	ミュージアムホール	155	主催：全国邪馬台国連絡協議会九州支部、福岡県文化団体連合会
5 月 12 日	貸館	九州市民大学	ミュージアムホール	100	主催：九州市民大学事務局
7 月 1 日	貸館	第 4 回太宰府検定合格祈願特別講座	研修室	70	主催：公益財団法人古都大宰府保存協会内「太宰府検定実行委員会」
9 月 12 日、13 日	貸館	第 6 回太宰府市民茶会	茶室／研修室／和室	300	主催：太宰府茶道文化連盟
11 月 19 日	貸館	九州歴史まちづくりサミット	ミュージアムホール	250	主催：九州地方整備局都市・住宅整備課長
28 年 1 月 15 日	貸館	初釜（社中の初釜会）	茶室	10	個人
28 年 1 月 27 日	貸館	初釜	茶室	30	個人
28 年 2 月 13 日	貸館	初釜	茶室	60	九州茶道文化交流協会
28 年 2 月 26 日	貸館	筑紫関税研究会	研修室	70	筑紫関税会研修委員会
28 年 3 月 5 日、6 日	貸館	観梅茶会	茶室／研修室／和室	200	表千家福岡清雅会
28 年 3 月 13 日	貸館	平成 27 年度太宰府市景観・市民遺産会議	ミュージアムホール／研修室／和室	300	主催：太宰府市民遺産を守り育てる実行委員会
28 年 3 月 21 日	貸館	第 20 回九博デーふるさと講演会「邪馬台国は福岡平野（春日市）にあった！」	研修室	90	主催：九州国立博物館を愛する会
28 年 3 月 23 日、24 日	貸館	茶道部卒業生を送る茶会	茶室	20	九州情報大学
28 年 3 月 24 日	貸館	中国新時代ツアー説明会	研修室	20	ワールド航空サービス
28 年 3 月 28 日～4 月 3 日	貸館	コミュニケーションアート展	ミュージアムホール	―	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート

2) 館主催・協力イベント　191 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 1 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展 1095 日の軌跡オープニングセレモニー	エントランス	50	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 1 日～19 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡	ミュージアムホール	5,603	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 5 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡 コロタイプ印刷ワークショップ	エントランス	67	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 14 日～5 月下旬	主催	開館 10 周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連香椎工業高校製作鎧兜展示	エントランス	155,690	主催：九州国立博物館
4 月 17 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	55	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4 月 18 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡 記念講演会	研修室	111	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 19 日	共催	よさこい踊り	屋外	―	主催：太宰府観光協会、太宰府門前真舞祭実行委員会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月25日	主催	戦国・織豊期の九州とアジア 「戦国の九州とアジア - 大内義隆から大友宗麟へ -」「豊臣秀吉と九州の諸大名 - 黒田長政・立花宗茂を中心に -」	ミュージアムホール	289	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月25日	主催	第46回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
4月26日	主催	第53回　親子で茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
4月26日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着イベント	エントランス	120	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月26日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	屋外	950	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月29日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 盲導犬チャリティーイベント&コンサート～Message～	エントランス	370	主催：九州国立博物館 協力：九州盲導犬協会
5月2日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」記念シンポジウム	ミュージアムホール	200	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月3日	主催	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	エントランス	350	主催：九州国立博物館
5月5日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	エントランス	409	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月9日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「九州の群雄とアジアの波涛」	ミュージアムホール	90	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月10日	主催	九州国立博物館杯　戦国大名展記念 さいふごま大会	ミュージアムホール	69	主催：九州国立博物館
5月12日	共催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」開催に伴う熊本県観光PR	エントランス	21,049	主催：熊本県福岡事務所
5月14日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「総論：九州国立博物館」	NHK文化センター福岡教室	12	主催：NHK文化センター福岡教室
5月16日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	ミュージアムホール	60	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月16日	主催	第47回　はじめての茶道体験	茶室	5	主催：九州国立博物館
5月17日	主催	第54回　親子で茶道体験	茶室	44	主催：九州国立博物館
5月17日	共催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」開催に伴う熊本県観光PR くまモン・うとぅ行長しゃん　熊本城おもてなし武将隊ステージ	ミュージアムホール	1,500	主催：熊本県福岡事務所
5月23日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「貿易都市の考古学」「戦国九州の刀剣」	ミュージアムホール	60	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月23日	主催	第1回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館／福岡女子短期大学
5月28日	主催	文化財保存交流セミナー　韓国の海事文化遺産について	1階研究室	50	主催：九州国立博物館
5月28日	共催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「文化交流展示室を散歩する」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
5月29日	主催	きゅーはくカフェコンサート	1階エントランスカフェ前	120	主催：九州国立博物館
5月30日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	九州国立博物館	11	主催：九州国立博物館
5月30日	主催	開館10周年記念イベント　大人の昆虫採集博物館 科学特捜部！昆虫採集と標本作り①	九州国立博物館	7	主催：九州国立博物館
6月3日～ 7月5日	主催	開館10周年記念　九博特別展歴代ポスター展示	エントランス	44,065	主催：九州国立博物館
6月6日、7日	主催	素焼き陶器　絵付けワークショップ	エントランス	90	主催：九州国立博物館
6月11日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「当館の文化財収集について」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
6月13日	主催	開館10周年記念イベント　大人の昆虫採集博物館 科学特捜部！昆虫採集と標本作り②	九州国立博物館	7	主催：九州国立博物館
6月13日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスラボ&Ｍｒ．ＢＵＮＢＵＮのジャグリングショー	エントランス	130	主催：九州国立博物館
6月13日	主催	第55回　親子で茶道体験	茶室	63	主催：九州国立博物館
6月14日	主催	第48回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
6月14日	主催	地域と共に考える文化財の防災減災	ミュージアムホール	180	主催：九州国立博物館
6月20日	共催	開館10周年記念　コンサート「大迫淳英＆関雅子」～歌は人生、旅も人生～	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
6月21日	主催	第2回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	8	主催：九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6月25日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「九博10年の特別展について」	NHK文化センター福岡教室	7	主催：NHK文化センター福岡教室
6月26日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	55	主催：九州国立博物館
7月3日～5日	共催	地方自治法施行60周年記念貨幣展	エントランス	4,039	主催：独立行政法人造幣局
7月7日	共催	第5回「ゆかたde太宰府～古都の夏～」オープニングイベント	エントランス	50	主催：太宰府ブランド創造協議会
7月9日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「文化財の科学調査と健康診断」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
7月10日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	主催：九州国立博物館
7月11日	主催	納涼イベントwithゆかたde太宰府 第49回　はじめての茶道体験 〔特別編〕夏のお茶会	茶室	11	主催：九州国立博物館
7月11日	主催	第3回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	9	主催：九州国立博物館
7月12日	主催	第56回　親子で茶道体験	茶室	53	主催：九州国立博物館
7月14日	主催	大英博物館キュレーターによる記念講演会 大英博物館展の楽しみ方	ミュージアムホール	201	主催：九州国立博物館
7月14日～26日	主催	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	九州国立博物館屋外	－	主催：九州国立博物館
7月14日～9月6日	主催	【夏休み特別企画】「九博ブックカフェ」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
7月15日～9月15日	主催	開館10周年絵画コンクール 「100年後の博物館を描こう」	NHK文化センター福岡教室	8	主催：NHK文化センター福岡教室
7月18日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート　Departure	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
7月18日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー・大人向けツアー	九州国立博物館内	96	主催：九州国立博物館
7月18日～28年3月12日(計9回)	主催	集まれ、考古女子！きゅーはく女子考古部発足！	九州国立博物館内 近郊の史跡など	123	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会　ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー・大人向けツアー	九州国立博物館内	105	主催：九州国立博物館
7月23日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「国際交流、教育普及そしてボランティア」	NHK文化センター福岡教室	8	主催：NHK文化センター福岡教室
7月24日、25日	主催	納涼イベントwithゆかたde太宰府　茶室でポーズ	九州国立博物館　茶庭、茶室	20	主催：九州国立博物館
7月25日、26日	主催	九博　子ども向け夏休みイベント いこうよ！あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	555	主催：九州国立博物館
7月25日	主催	開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り （昆虫採集）	九州国立博物館	40	主催：九州国立博物館
8月1日	共催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」アフタヌーンティーと楽しむ　大英博物館展	ホテルニューオータニ	26	主催：西日本新聞
8月2日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会　影絵人形ワヤンのみかた	ミュージアムホール	110	主催：九州国立博物館
8月2日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	九州国立博物館	8	主催：九州国立博物館
8月8日	主催	開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り （標本作り）	九州国立博物館	40	主催：九州国立博物館
8月8日	主催	第4回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	8	主催：九州国立博物館
8月8日、9日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル ワヤン・クリ公演　神々の英雄たち（インドネシア）	ミュージアムホール	1,849	主催：九州国立博物館
8月14日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	170	主催：九州国立博物館
8月15日	主催	全国高等学校考古学フォーラム2015	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
8月16日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート アイリッシュハープの調べ	1階エントランスカフェ前	240	主催：九州国立博物館
8月19日	主催	九州国立博物館杯大英博物館展記念 さいふごま大会	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
8月22日	主催	第50回記念特別編　はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
8月22日、23日	共催	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	1,164	主催：佐賀県立博物館・美術館、国営海の中道海浜公園事務所（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園
8月23日	主催	第57回　親子で茶道体験	茶室	49	主催：九州国立博物館
8月25日～27日	共催	ハノイ・ベトナムデイズ	ミュージアムホール／エントランス	－	主催：福岡県国際交流局交流第二課
8月26日、27日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「水上人形劇」（ベトナム）	ミュージアムホール	1,050	主催：九州国立博物館／ハノイ市（ベトナム）／ハノイ市訪問団受入事業実行委員会（福岡県、福岡商工会議所、九州ベトナム友好協会、（公財）福岡県国際センター）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月28日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー	九州国立博物館内	45	主催：九州国立博物館
8月29日、30日	主催	企画展「むしの考古学」関連企画　「ゆめはく」号 がやってくる	屋外	400	主催：九州国立博物館
8月29日、30日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「フン・ラコーン・レック」（タイ）	ミュージアムホール	905	主催：九州国立博物館
9月1日～5日	共催	日本遺産西の都太宰府キッズワークショップ 日本遺産「太宰府」展	ミュージアムホール	－	主催：太宰府市日本遺産活性化協議会事務局（太宰府観光経済課）
9月1日～13日	主催	開館10周年記念イベント 博物館で昆虫採集と野鳥調査？―意外と知らない 博物館の仕事―	エントランス	44,450	主催：九州国立博物館
9月4日	共催	プレイベント開講！ 博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	ホテルニューオータニ博多	238	主催：西日本新聞
9月5日	共催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座） 「『美の国　日本』のみどころ」	アクロス福岡 セミナー室	69	主催：九州国立博物館/アクロス福岡
9月5日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート English music by TomTach	エントランス	220	主催：九州国立博物館
9月6日	共催	第4回「太宰府検定」における九州国立博物館開館 10周年記念連携事業	エントランス	180	主催：「太宰府検定」実行委員会
9月8日	共催	第14回太宰府の香り・風景写真コンテスト入賞作 品展	エントランス	9,398	主催：太宰府観光協会
9月15日～27日	共催	東九州神楽人の祭展～京築・庄内・椎葉の神楽を愉 しむ～展示	エントランス／ミュージアムホール	25,843	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月19日	主催	第51回　はじめての茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
9月19日、20日	共催	東九州神楽人の祭展～京築・庄内・椎葉の神楽を愉 しむ～公演東九州神楽人の祭展 神楽体験＆ワークショップ	エントランス／ミュージアムホール	2,590	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月20日	主催	第58回　親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
9月25日	共催	東九州神楽人の祭展　高千穂夜神楽	1階エントランス	150	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月29日、30日	主催	学術文化交流協定締結事業 微笑みの国タイの古典舞踏と伝統音楽	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館／タイ文化省芸術局
10月2日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	20	主催：九州国立博物館
10月3日	主催	第59回　親子で茶道体験	茶室	42	主催：九州国立博物館
10月4日	主催	第52回　はじめての茶道体験	茶室	2	主催：九州国立博物館
10月11日	主催	開館10周年記念イベント 九博ボランティアフェスタ	エントランス／ミュージアムホール／研修室	2,038	主催：九州国立博物館
10月14日～ 11月3日	主催	開館10周年記念イベント「九州国立博物館のあゆ み」パネル展示	エントランス／アクセストンネル	131,917	主催：九州国立博物館
10月16日	主催	開館10周年記念プロジェクションマッピング	アクセストンネル	－	主催：九州国立博物館
10月18日	主催	地域交流イベント「きゅーはく市民感謝祭」	エントランス	110	主催：九州国立博物館
10月18日	主催	シンポジウム　「アジア交流博物館長サミット」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
10月19日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 「星のランタン展示とワークショップ」	エントランス／ミュージアムホール／研修室／和室	684	主催：九州国立博物館
10月20日	主催	10th Anniversary Happy 5 Dyas 「ゴスペルコンサート」	ミュージアムホール	360	主催：九州国立博物館
10月21日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days だざいふリコーダーアンサンブル「ぬくもりの笛の 音」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
10月22日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 太宰府市民遺産「万葉集つくし歌壇」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
10月23日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 「福岡農業高校ファッションショー等学校発表会」	ミュージアムホール	730	主催：九州国立博物館
10月24日	主催	開館10周年記念特別展「美の国日本展」関連講演 会「正倉院あぜくら通信　九州版」	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
10月25日	主催	きゅーはく・だざいふコラボ企画「新羅王子がみた 大宰府」見どころ解説と大宰府市内史跡案内バスハ イク	九州国立博物館および太宰府市内史跡他	41	主催：九州国立博物館
10月25日	主催	開館10周年記念イベント 九博能 - 狂言「萩大名」・能「羽衣」 -	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
10月26日～ 11月3日	共催	きゅーはく・だざいふコラボ企画「ちょ古旅♪太宰 府パネル展」と史跡・観光案内ブースの設置	エントランスホール	76,228	主催：太宰府市
10月31日	主催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演 会「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
11月1日	主催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リ レー講座「美の国　日本」「美の国の工芸」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
11月3日	主催	開館10周年記念イベント「推定客館跡」特別史跡 追加指定記念講演会　新羅王子がみた大宰府	ミュージアムホール	194	主催：九州国立博物館
11月3日	共催	きゅーはく・だざいふコラボ企画10周年記念コン サート	ミュージアムホール	300	主催：太宰府市

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
11 月 3 日	主催	第 6 回留学生イベント　留学生向け「文化交流ツアーin 九博」	第一会議室／文化交流展示室／学芸調査室	10	主催：九州国立博物館
11 月 7 日	主催	第 53 回　はじめての茶道体験	茶室	16	主催：九州国立博物館
11 月 7 日	主催	親子で作ろう！新聞紙のこいぬ	１階研修室	6	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団支援／九州国立博物館ボランティアグループ活動
11 月 8 日	主催	第 60 回　親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
11 月 13 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	75	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
11 月 14 日	共催	「浅野瑞穂　天女の舞」 ～いまここにある「日本の美」～	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
11 月 15 日	主催	開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」「南海の宝石　琉球王国」	ミュージアムホール	80	主催：西日本新聞／九州国立博物館
11 月 21 日、22 日	主催	開館 10 周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「スバエク・トム」（カンボジア）	ミュージアムホール	1,055	主催：九州国立博物館
11 月 23 日	主催	開館 10 周年記念特別展『美の国　日本』記念 九州国立博物館杯さいふごま大会	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
11 月 28 日	主催	シンポジウム「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
11 月 29 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 徳永玲子&親子ＪＡＺＺユニット・ビジョンズがおくる「絵本と音の玉手箱」せんねんまんねん	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
12 月 4 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	45	主催：九州国立博物館
12 月 5 日	主催	第 54 回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	開館 10 周年記念特別公開「田中丸コレクションの茶陶」講演会　田中丸善八とそのコレクション	研修室	25	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	第 61 回　親子で茶道体験	茶室	62	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスコラボ&コメディーマジック Rintaro	エントランス	120	主催：九州国立博物館
12 月 12 日	共催	キャンパスフェスタ 2015	エントランス、ミュージアムホール	1,150	主催：大宰府キャンパスネットワーク会議
12 月 12 日	主催	なりきり考古学者体験	1 階あじっぱ	10	主催：九州国立博物館
12 月 13 日	主催	第 5 回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
12 月 15 日	主催	絵画コンクール「100 年後の博物館を描こう」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
12 月 19 日	主催	平成 27 年度九州国立博物館 10 周年記念シンポジウム「X 線 CT 用いたを文化財の研究と活用」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 1 日～ 1 月 24 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30 年のあゆみ～	エントランス	67,022	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 9 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　講演会「アフガニスタンに生命の水を」	ミュージアムホール	280	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 9 日	主催	女子考古学部	研修室	19	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 11 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　オリエンタル・ベリーダンスショー	ミュージアムホール	280	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 16 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　講演会「心魅するティリヤ・テペ文化」	ミュージアムホール	170	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 16 日	主催	なりきり考古学者体験	あじっぱ	13	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 17 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 初音（はつおと）逆瀬川剛史アコースティックギターソロライブ	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 22 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28 年 1 月 23 日	主催	みんなでまもるミュージアム	研修室	41	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 23 日	主催	第 62 回親子で茶道体験	茶室	36	主催：九州国立博物館交流課
28 年 1 月 24 日	主催	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災減災 II	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 24 日	主催	第 55 回はじめての茶道体験	茶室	1	主催：九州国立博物館交流課
28 年 1 月 24 日	主催	バックヤードツアー 特別公開「博物館科学・文化財保存修復施設」	九州国立博物館バックヤード	39	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課
28 年 1 月 29 日	主催	みんなでまもるミュージアム	研修室	51	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 29 日	主催	平成 27 年度古文書保存基礎講座第１回 保存修理に関する講義と寒糊炊きの実習	九州国立博物館　第一会議室	24	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室
28 年 1 月 30 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	ミュージアムホール	150	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 30 日	主催	平成 27 年度古文書保存基礎講座第２回 文化財の修理理念に基づいた応急修理についての実習	筑紫野市歴史博物館研修室	24	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
28年1月31日	主催	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	ミュージアムホール	140	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28年2月2日	共催	東日本大震災５周年　報道写真パネル展～福島の記録～	エントランス	21,966	主催：九州国立博物館振興財団
28年2月6日	主催	第56回はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館交流課
28年2月6日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート「東西文化の合流点　アフガニスタンの歌と楽器」	エントランス	150	
28年2月7日	主催	第63回親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館交流課
28年2月7日	主催	九州国立博物館杯第４回さいふごま大会（開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念）	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
28年2月9日～14日	共催	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産パネル展	エントランス	8,310	主催：福岡県
28年2月11日	共催	博多にわか笑演会 in 九州国立博物館	ミュージアムホール	300	主催：博多二和加振興会
28年2月12日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28年2月13日	主催	「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺産群講演会	ミュージアムホール	180	主催：福岡県
28年2月13日	主催	女子考古部	研修室	17	主催：九州国立博物館
28年2月14日	共催	海底に眠る元寇沈没船の謎　基調報告 「鷹島海底遺跡の調査・研究と鷹島１・２号沈没船の発見」	ミュージアムホール	150	主催：国立大学法人琉球大学
28年2月16日～21日	主催	九博子どもフェスタ 筑紫地区小学校児童画展	エントランス	14,431	主催：九州国立博物館を愛する会 九州国立博物館ボランティア 九州国立博物館 （公財）九州国立博物館振興財団
28年2月20日、21日	主催	九博子どもフェスタ ～博物館ってともだちだ！～	ミュージアムホール 研修室	2,399	主催：九州国立博物館を愛する会 九州国立博物館ボランティア 九州国立博物館 （公財）九州国立博物館振興財団
28年2月27日	主催	シンポジウム 「大城（大野城）の謎に迫る！- 宇美町からの新たな発信 -」	ミュージアムホール	305	主催：宇美町、九州国立博物館
28年2月27日	主催	研究会「契丹壁画墓高精細画像の集成と公開」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
28年2月27日	主催	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	15	主催：九州国立博物館
28年2月28日	主催	第6回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	24	主催：九州国立博物館交流課
28年2月28日	主催	折り紙ワークショップ	エントランス	50	主催：九州国立博物館ボランティアイベント部会
28年3月1日～6日	共催	筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんね！まちのたから～」	エントランス	11,012	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
28年3月4日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28年3月5日	共催	古代出雲文化フォーラムⅣ 古代出雲と九州、そして東アジア	ミュージアムホール	260	主催：島根大学
28年3月6日	主催	九州国立博物館ボランティア公開研究会 「地域とともに共生する博物館のこれから～九博ボランティア活動の10年～」	ミュージアムホール	143	主催：九州国立博物館交流課
28年3月8日～13日	共催	平成27年度大宰府市景観・市民遺産会議パネル展	エントランス	160	主催：太宰府市民遺産を守り育てる実行委員会
28年3月12日	主催	きゅーはく女子考古部サミット～女子的考古学のススメ～	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
28年3月12日	主催	SUGITETSU PREZENTS チャリティー音楽実験室 for 東北	エントランスカフェ	320	主催：九州国立博物館
28年3月12日	主催	第57回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
28年3月13日	主催	第64回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
28年3月15日～27日	主催	開館10周年記念イベント　絵画コンクール「100年後の博物館を描こう」	エントランス	48,162	主催：九州国立博物館
28年3月19日	主催	博多の伝統芸能「博多芸妓の世界」	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
28年3月19日	主催	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	9	主催：九州国立博物館
28年3月21日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 特別企画　踊る博物館	ミュージアムホール	523	主催：九州国立博物館
28年3月21日	共催	第20回九博デー「小学3・4・5年生かるた大会『つくし郷土かるた』～つくしの自然と歴史を楽しく遊ぼう～」	研修室・和室	80	主催：九州国立博物館を愛する会
28年3月25日	主催	ボランティアイベント「さげもんまり作り」	研修室	15	主催：九州国立博物館
28年3月26日	共催	日本情報考古学会第36回大会	研修室	60	主催：日本情報考古学会
28年3月27日	主催	Eテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482	主催：九州国立博物館

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10 月 10 日(土) 9：30～17：00	○参加者数　887 人《1021 人》 留学生　809 人《935 人》 同伴者　78 人《 86 人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：18 人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：350 人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：269 人	・アンケート実施せず
京都国立博物館 11 月 4 日(水) 9：30～17：30	○参加者数　185 人《73 人》 留学生　185 人《73 人》 同伴者　0 人《0 人》 ・特別展覧会「琳派　京を彩る」の無料観覧 ・ポストカードプレゼント	・留学生アンケート回答者数 16 人 （回収率 9%） ・来館頻度：初めて 66%、2 回目以降 44% ・認知経路：ポスター・チラシ 35%、友人・教師 24%　他 ・出身国：中国 62.5%　他 ・特別展の満足度：87%
奈良国立博物館 11 月 1 日(日) 9：00～19:00 (正倉院展会期中のため 9：00 開館)	○来館者数　16,352 人《15,346 人》 留学生　94 人《98 人》 ・「正倉院展」(特別展)の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11 月 3 日(火・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　4,039 人《2,613 人》 留学生　16 人《　15 人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin 九博	・文化交流ツアー参加者アンケート回答 10 人（回収率 100%） ・1 年間の来館頻度：1 回 60%、3 回 40% ・認知経路：学校から 50%、友達から 30%、メール等 20% ・満足度：とても楽しかった 60%、楽しかった 40% ・スタッフの対応について：とてもよかった 70%、よかった 30%

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成 26 年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成28年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	6 ヵ所 （本体建物）
障がい者用エレベータ	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2 基 （本体建物）
スロープ	5ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1 ヵ所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	23 台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	22台 （検札4、平成知新館8、倉庫保管10）	15台	28 台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15ヵ所 ○ベビーチェア 12ヵ所 ○授乳室 1ヵ所	○ベビーカー 6台 ○ベビーシート 12ヵ所 ○ベビーチェア 11ヵ所 ○授乳室 2ヵ所	○ベビーシート 2ヵ所 ○ベビーキープ 1ヵ所 ○おむつ交換台 1ヵ所	○ベビーカー 11台 ○ベビーシート 15ヵ所 ○ベビーチェア 6 ヵ所 ○幼児用補助便座 6 ヵ所
27年度整備事項	来館者用貸出車椅子を2台増やした。		正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して１歳児から未就学児までの預かりを実施した。	

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
27年度計：223,331台	27年度計：109,167台	27年度計：49,546台	27年度計：70,955台
・特別展「みちのくの仏像」 27年度期間（27.4.1～4.5） 2,764台 （全期間 30,004台） ・特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」27年度期間（27.4.1～5.17） 12,065台 （全期間 16,714台） ・特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」 41,085台 ・特別展「クレオパトラとエジプトの王妃」 51,588台 ・特別展「始皇帝と大兵馬俑」 112,823台 ・特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」 27年度期間(28.3.23～3.31) 3,006台 （参考） 今年度ダウンロード件数 ・「トーハクなび」 Android版 3,161件 iOS版 6,141件 ・「法隆寺宝物館30分ナビ」 iOSアプリ 650件	・特別展 「桃山時代の狩野派 永徳の後継者たち」 （日本語版）20,375台 ・特別展 「琳派 京を彩る」 （日本語版）50,956台 ・名品ギャラリー （日本語版） 29,710台 （英語版） 1,892台 （中国語版） 5,507台 （韓国語版） 727台	・特別展 「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」 （日本語版・一般向け） 558台 ・開館120年記念特別展 「白鳳－花ひらく仏教美術－」 （日本語版・一般向け） 14,509台 ・特別展 「第67回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 33,406台 （英語版・一般向け） 257台 （日本語版・子供向け） 816台	・文化交流展示 8,796台 （英語版 2,382台） （中国語版 2,834台） （韓国語版 3,580台） ・開館10周年記念特別展 「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛」 7,781台 ・開館10周年記念特別展 「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史」 22,562台 ・開館10周年記念特別展 「美の国 日本」 22,208台 ・開館10周年記念特別展 「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝」 9,608台

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　484件	画像　5,966件	画像　3,875件 文字　7,462件	画像　－件 （完了済）

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		27年度新規	総数	27年度新規	総数	27年度新規	総数	27年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,479件	322,593件	0件	257,681件	5件	361,493件	0件	23,622件
デジタル撮影		11,034件	67,574件	5,294件	16,426件	4,232件	35,836件	1,090件	10,242件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	5,929冊	188,475冊	3,671冊	142,284冊	1,953冊	82,166冊	3,583冊	104,103冊
	漢書	517冊	39,669冊	71冊	21,651冊	18冊	5,155冊	0冊	0冊
	洋書	380冊	13,045冊	114冊	4,510冊	30冊	1,813冊	58冊	2,491冊
	計	6,826冊	241,189冊	3,856冊	168,445冊	2,001冊	89,134冊	3,641冊	106,594冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本 0コマ	0本 0コマ	0本 0コマ	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0本 0コマ	0本 12コマ
マイクロフィルム		3巻	3,660巻	284巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
利　用　者　数	3,385人	4,828人	5,661人	6,118人	5,936人
閉架図書（閲覧）	3,032件	3,571件	3,909件	3,800件	4,521件
マイクロフィルム(閲覧)	573件	603件	466件	562件	399件
レファレンスサービス	2,783件	6,249件	6,802件	4,401件	4,006件
コピーサービス	19,983枚	25,419枚	23,801枚	26,200枚	25,395枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成28年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	330	24	306	147	3	144	64	13	51	62	4	58	57	4	53
写真撮影	73	6	67	1	1	0	20	2	18	25	2	23	27	1	26
映画撮影	17	14	3	3	2	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0
テレビ撮影							6	6	0		2	1	2	2	0
ビデオ撮影							2	2	0				0	0	0
模写	12	1	11	4	0	4	1	0	1	1	0	1	1	0	1
模造							4	1	3				1	0	1
熟覧	228	3	225	139	0	139	30	2	28	33	0	33	26	1	25

点数

平成28年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,835	43	1,792	998	7	991	218	18	200	445	6	439	174	12	162
写真撮影	348	8	340	2	2	0	96	2	94	171	3	168	79	1	78
映画撮影	44	31	13	9	5	4	6	0	6	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							7	7	0	6	3	3	10	10	0
ビデオ撮影							6	6	0				0	0	0
模写	23	1	22	4	0	4	1	0	1	6	0	6	4	0	4
模造							6	1	5				2	0	2
熟覧	1,420	3	1,417	983	0	983	96	2	94	262	0	262	79	1	78

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成28年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,145	816	329				731	591	140	293	156	137	5	1	4
		カラー													116	68	48
	プリントでの提供	モノクロ	114	104	10				111	104	7	3	0	3			
		カラー	4	0	4				0	0	0	4	0	4			
画像再利用			181	109	72							178	106	72	3	3	0

点数

平成28年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,521	2,588	2,933				3,251	1,850	1,401	1,745	580	1,165	7	1	6
		カラー													518	157	361
	プリントでの提供	モノクロ	218	182	36				197	182	15	21	0	21			
		カラー	95	0	95				0	0	0	95	0	95			
画像再利用			313	163	150							308	158	150	5	5	0

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画

「博物館でアジアの旅」

会期：27年9月29日（火）～10月12日(月・祝)

ターゲット：一般の美術愛好家、若年層特に20～30代女性、国内外からの観光客、留学生

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項：期間内に開催した「博物館で野外シネマ」の情報をポスター・チラシに掲載。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,200件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷、の2駅、東京メトロ 上野、上野広小路、浅草、稲荷町、の5駅、都営線3駅、京王線3駅、東急線3駅)、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	東洋経済日報、陶業時報　ほか
テレビ／ラジオ	―
雑誌・ＷＥＢ掲載	毎日新聞、朝日新聞デジタル&m、SANSPO.COM、BIGLOBEニュース、映画.com、「上野が、すき。」、OZmall、こども映画プラス、J-WAVE　POP UP!、映画ナタリーほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画

「留学生の日」

会期：27年10月12日（土）

ターゲット：留学生

重点項目：学校を通じた広報

特記事項：ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約500件(大学、語学専門学校等)
交通広告	駅貼り広告(京王線新宿駅、明大前など4駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビ／ラジオ	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信

・考古展示室リニューアルオープン

27年10月14日（水）

ターゲット：考古学ファン

重点項目：当館来館者への周知に加え、当館の考古コレクションについて一般向けにも広く周知する
プレスリリースの配信(約210件)
記者懇談会での報道内覧会の実施　(平成27年10月5日、58人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	1200件（1都3県博物館・美術館・学校・ギャラリー・ホテル等）
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷、東京メトロ上野・浅草、京王線支部や・新宿)5駅15面 デジタルサイネージ（JR東京・上野、東京メトロ上野）
新聞・雑誌広告	読売（カラー突き出し）1回、朝日（半5段 1回
テレビ広告	―
新聞掲載	毎日新聞、朝日新聞、よみうりジュニアプレス、ほか
テレビ／ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌掲載	東京人、なごみ、炎芸術　ほか
博物館ニュース	2回
インターネット	ニュースサイト等43件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」

会期：27年3月17日（火）～5月17日（日）

ターゲット：一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約4,500件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	交通広告；駅貼り広告(JR上野、東京、品川、大宮、松戸など30駅、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、三越前、渋谷、銀座など２０駅、京王線 新宿、渋谷、吉祥寺、明大前など各駅)、表参道駅臨時集中貼り24面1週間、日比谷線、半蔵門線車内広告、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	日経新聞７回、朝日新聞２回
テレビ広告	―
新聞掲載	日経新聞、朝日新聞、産経新聞、東京新聞、日刊ゲンダイ、The Japan Timesほか
テレビ/ラジオ	本展特別番組「インドの仏 2500年の謎～仏教美術の源流に迫る」（BSジャパン）、「スッキリ」（日本テレビ）、「大人のOFF」（BSジャパン）、アートステージ（TOKYO MX）、Atelier Nova（J-WAVE）ほか
雑誌掲載	日経おとなのOFF（日経BP）、DRESS（gift）、男の隠れ家別冊（プラネットライツ）、別冊宝島（宝島社）、BAILA（集英社）、Tokyo Walker（KADOKAWA）ほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　95件　 雑誌　12件　テレビ・ラジオ　3件 インターネット　24件
③報道発表会　26年11月7日 インド大使館にて（67媒体、100人出席）
④報道内覧会　27年3月16日（100媒体　112人出席）

展覧会名：特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約12,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、カルチャー・センター、語学学校、ギャラリー、図書館、百貨店、ホテル、大使館、仏教団体、美術関連団体、旅行会社ほか
交通広告	JR　ニューターミナルボードＳＷ－４Ａ　30駅30面 東京メトロ Ｕボードゴールド　17駅20面 私鉄　フレコミボード　B0×2連　43駅86面 JR　京浜東北線中吊り　B3　1,200枚 東急　横浜メガセット　1面（B0×8枚分） 屋外　有楽町イトシア地下広場　1面（B0×8枚分） 京王電鉄　京王ステラボード　Ｈ705×W4,070（mm） 京王電鉄　中吊りポスター　B3　970枚 京王電鉄　駅貼りポスター　B1　100枚東京メトロ５２駅電飾看板 ポスター駅貼り・車内吊等（JR、京王、西武　多数） 東急ドア横、JR品川駅大型フラッグ、西武池袋駅フラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞 社会面下広告：20回 題字下広告：9回
テレビ広告	テレビ朝日　30秒4回 その他、渋谷109フォーラムビジョン、原宿アストロ（神宮前交差点）、有楽町マリオンビジョン（数寄屋橋交差点）の３カ所でも放映
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞（イベント朝日：4回　特集紙面：3回　お知らせ：3回　夕刊連載9回）、日経新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞　ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館(NHK)、ひるまえほっと(NHK)、ぶらぶら美術博物館（BS日テレ)、アート・ステージ(TOKYO MX)、ほか
雑誌掲載	芸術新潮（新潮社)、美術手帳（美術出版社)、和楽、Domani、サライ(小学館)、日経おとなのOFF(日経BP)、SPUR、UOMO、ウルトラジャンプ(集英社)、anan、BRUTUS、クロワッサン（マガジンハウス）ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集3回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページでの紹介 インターネットミュージアム(丹青社)、マイナビニュース（マイナビ)、日経ウーマンオンライン(日経BP)、レッツエンジョイトーキョー（株式会社ぐるなび)、ハフィントンポスト日本版ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　176件、雑誌　219件、テレビ/ラジオ 19件、インターネット　111件

展覧会名：「クレオパトラとエジプトの王妃展」

会期：27年7月11日（土）～9月23日（水・祝）
ターゲット：広く一般の考古学・歴史ファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約13,000件(1都6県博物館・美術館・学校・エジプトレストラン、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンター・語学学校等、外国政府観光局) ジュニア向けワークシート：キッズデー（7月27日）で配布、キッズデー終了後はウェブサイトからのダウンロード
交通広告	大型ボード(JR上野、東京はじめ約40駅)、東京メトロボード（銀座、大手町はじめ約20駅）、私鉄駅ボード（東急沿線ほか約40駅）、西武線京王線など中吊り、ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞約20回、読売新聞1回、日経新聞1回
テレビ広告	ＮＨＫスポット告知
新聞掲載	朝日新聞約70件、読売・日経・産経・東京ほか約70件
テレビ/ラジオ	ねまきでアート（ＮＨＫBS）、特別番組（ＮＨＫBS）、日曜美術館（ＮＨＫ）、 アートステージ（TOKYO MX）ほか
雑誌掲載	週刊朝日、婦人公論、東京ウォーカー、和樂ほか、約90件
博物館ニュース	3回
インターネット	ＷＥＢ媒体約100件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事20回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式Twitter

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　140件、雑誌　90件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　100件
③報道発表会　27年3月2日　東洋館ミュージアムシアターにて　(70人出席)
④報道内覧会　27年7月10日 (177人出席)

展覧会名：「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」
会期：27年9月8日（火） ～ 11月29日（日）
ターゲット：ジュエリーファン　ハイブランドファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約2,500件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	東京メトロ社内モニターCM
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、ジャパンタイムズほか
テレビ/ラジオ	NEWS ZERO（NTV）、白熱ビビッドライブ（TBS）、ぶらぶら美術博物館（BS日テレ）、ニュース（NHK）、めざましテレビ（ﾌｼﾞTV）ほか
雑誌掲載	ENGINE（新潮社）、日経ビジネス（日経BP社）、GOLD（世界文化社）、NUMERO TOKYO(扶桑社)、an an（マガジンハウス)、ELLE JAPON（ハースト婦人画報）、ミセス（文化出版局）ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 Fashion Snap（レオコーランド）、Fashionpress（カーリン）、Artscape（DNPアートコミュニケーションズ）、FIGARO.jp（cccメディアハウス）、Let’s Enjoy Tokyo（ぐるなび）

②パブリシティー情報掲載・放映
　テレビ　5件、新聞　10件、雑誌ほか　75件、インターネット　38件
③報道発表会　なし
④報道内覧会　71媒体110人出席

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」
会期：27年10月27日（火）～28年2月21日（日）
ターゲット：広く一般の考古学・歴史ファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約7,000件(1都6県博物館・美術館・学校、横浜中華街、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンターなど)
交通広告	大型ボード(JR上野、東京はじめ約100駅)、東京メトロボード（銀座、表参道はじめ20駅）、東急社内ビジョン、京王線ポスター駅貼り、東武線車内ポスター、ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞約30回、読売新聞1回
テレビ広告	ＮＨＫ30秒スポット
新聞掲載	朝日新聞約60件、読売・毎日・日経・東京・産経・地方紙など約230件
テレビ/ラジオ	ＮＨＫスペシャル（ＮＨＫ）、日曜美術館（ＮＨＫ）、ひるまえほっと（ＮＨＫ）、 ぶらぶら美術・博物館館（ＢＳ日テレ）、アートステージ（TOKYO MX）、ラジオ深夜便、ほか
雑誌掲載	サライ、男の隠れ家、女性セブン、日経おとなの OFF、和樂、ニュートン、ほか、約90件

博物館ニュース	4回
インターネット	ＷＥＢ媒体約85件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事13回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式Twitter、展覧会公式Instagram

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　約290件、雑誌　約90件、テレビ/ラジオ 約10件、インターネット約85件
③報道発表会　27年7月10日　平成館大講堂にて　(93人出席)
④報道内覧会　27年10月26日 (186人出席)

【京都国立博物館】

(1)平常展（名品ギャラリー）

展覧会名：特集陳列「葵祭の美術―千年の伝統―」
会　　期：27年4月21日～5月31日（37日間）
広報媒体：博物館たより、リーフレット、情報誌、ホームページ、新聞等

展覧会名：特集陳列「日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情」
会　　期：27年6月9日～7月20日（37日間）
広報媒体：博物館たより、リーフレット、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年6月8日に実施

展覧会名：新春特集陳列「さるづくし―干支を愛でる―」
会　　期：27年12月15日～28年1月24日（30日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

展覧会名：特集陳列「刀剣を楽しむ―名物刀を中心に―」
会　　期：27年12月15日～28年2月21日（54日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

展覧会名：特集陳列「獅子と狛犬」
会　　期：27年12月15日～28年3月13日（72日間）
広報媒体：博物館たより、鑑賞ガイド、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」
会　　期：27年4月7日～5月17日（37日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：26年12月5日、27年4月6日、に実施

展覧会名：特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―」
会　　期：27年7月29日～9月6日（35日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年7月28日に実施

展覧会名：特別展覧会「琳派　京を彩る」
会　　期：27年10月10日～11月23日（39日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：27年6月26日（東京）、27年7月16日（京都）、27年10月9日に実施

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」
会期：27年4月7日～5月17日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術」
会期：27年7月18日～9月23日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：「第67回正倉院展」
会期：27年10月24日～11月9日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 270 件（学校・公共施設・ホテル・旅行会社等）
交通広告	ＰＲ映像の上映（西鉄駅構内）ほか
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞（展示解説毎週掲載）、読売新聞、産経新聞、朝日新聞、北海道新聞
雑誌掲載	太宰府市広報誌（毎月）、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー（年 4 回）、九州王国（毎月） 和樂、まっぷる福岡、九州じゃらん、るるぶ九州ベストほか
テレビ	・ＣＭ放送（毎週１回放送）、ＴＮＣテレビ西日本の番組内で展示紹介（毎月） ・ＮＨＫ、ＴＶＱ、ＫＢＣ、ＦＢＳの番組内で展示室のリニューアルを紹介。
展示・イベントちらし	毎月発行 ※特別展、文化交流展、イベント情報等を掲載。
季刊情報誌「アジア―ジュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、28 年 1 月 1 日） 特別展、文化交流展示解説、トピック展示特集、博物館ニュース、イベントスケジュール等を掲載。
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介（随時）、メールマガジンでの情報配信（月 2 回）
その他	・ガイドブック「きゅーはく攻略本」を増刷し、館内で配付。 ・ＪＲ博多シティ（博多駅）とタイアップしたイベントを開催し、パンフレットなどを配布。

②報道内覧会

文化交流展示室リニューアル 10 月 16 日（7 社参加）

・トピック展示「柿右衛門－受け継がれる技と美－」

会期：27 年 3 月 3 日(火)～5 月 10 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、佐賀新聞
雑誌掲載	美術の窓、九州春ウォーカー等、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー
季刊情報誌「アジアージュ」	予告 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 8 社出席 ＪＲ駅デジタルポスター、バス停広告掲出

・特別公開　中世刀剣の美 - ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀 -

会期：27 年 5 月 19 日（火）～6 月 28 日（日）

広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、ぴあＭＯＯＫ「刀剣探訪」、刀剣春秋、九州王国等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	予告 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・開館 10 周年特別企画「むしの考古学」

会期：27 年 7 月 14 日(火)～9 月 13 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 2,500 件（太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞
雑誌掲載	九州王国
季刊情報誌「アジアージュ」	告知 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・「筑前朝倉の青銅器」

会期：27 年 7 月 28 日(火)～9 月 27 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	読売新聞
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
展示・イベントちらし	掲載 1 回

・開館 10 周年記念 「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念

トピック展示「新羅王子がみた大宰府」

会期：27 年 9 月 22 日（火）～11 月 29 日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 530 件（博物館、美術館、文化施設等）、約 1,200 件（友の会・太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞
雑誌掲載	九州王国、広報だざいふ　記事掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	告知 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・「琉球と海―アジアにおける交流」

会期：27 年 10 月 14 日(水)～11 月 23 日(月・祝)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
テレビ	ＮＨＫの番組内で紹介
ウェブサイト	メールマガジンでの情報配信
展示・イベントちらし	掲載１回

・「田中丸コレクションの茶陶」
会期：27 年 10 月 14 日(水)～12 月 20 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	朝日新聞　記事掲載、読売新聞
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
会期：28 年 1 月 1 日（金・祝）～1 月 24 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞
雑誌掲載	和の漆
テレビ	ＴＮＣの番組内で紹介
毎月１回季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・開館 10 周年記念新春展示　「太宰府天満宮の地宝」
会期：28 年 1 月 1 日(金・祝)～2 月 28 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 200 件（友の会等）
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
テレビ	ＮＨＫ、ＴＮＣ、ケーブルステーション福岡の番組内で紹介
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「祈りのかたち　八幡」
会期：28 年 2 月 2 日(火)～3 月 13 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 900 件（太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞
雑誌掲載	九州王国
交通広告	駅張り広告（ＪＲ、西鉄、福岡市営地下鉄）
テレビ	ＴＮＣの番組内で紹介
季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	報道内覧会開催予定（2 月）、太宰府イベント情報（チラシ）

・長期的な広報
　西鉄太宰府駅：広告ボードの設置　（21 年～）
　福岡空港　　：宣伝用看板（電照広告）の設置　（22 年～）
・その他　　：・スーパーハイビジョンシアター　新番組「神やどる島 宗像・沖ノ島」上映開始
　　※ＮＨＫ、ケーブルステーション福岡で紹介
　　・「開館 10 周年記念プロジェクションマッピング」で 4 階の展示物をＰＲ
　　※西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、ＮＨＫ、ＦＢＳ、ＫＢＣ、ＲＫＢ等で紹介

(2)特別展・共催展等

展覧会名：開館10周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」

会期：27年4月21日（火）～5月31日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説連載）、毎日新聞、佐賀新聞（展示解説を連載）、朝日新聞、読売新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、特集 1 回　九州春ウォーカー、和樂、美術の窓、刀剣春秋、日経インテレッセ
テレビ	ＴＶＱ九州放送にて告知ＣＭ・番組での紹介
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施

	設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会　　1 月 20 日（7 社出席）
③報道内覧会　　4 月 20 日（13 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史－」

会期：27年7月14日（火）～9月6日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	朝日新聞、毎日新聞（展示解説を連載）西日本新聞、読売新聞
雑誌掲載	美術の窓、美術の森、男の隠れ家、和樂、九州夏ウォーカー、九州王国、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　等に掲載
テレビ	ＮＨＫ、ＴＮＣ番組での紹介・ＴＮＣにて告知ＣＭ
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、YouTube で紹介動画の配信、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 福岡県広報誌への掲載

②　記者発表会　　5 月 18 日　（15 社出席）
③　報道内覧会　　7 月 13 日　（14 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「美の国 日本」

会期：27年10月18日(日)～11月29日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、大分合同新聞ほか
雑誌掲載	芸術新潮、和樂、サライ、男の隠れ家、九州秋ウォーカー、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー等で紹介
テレビ	ＴＮＣ、ＴＶＱ、ＮＨＫ、ＲＫＢ、ＦＢＳ、ＫＢＣ等の番組での紹介・ＴＮＣ、ＴＶＱにて告知ＣＭ
ラジオ	ＮＨＫ、鹿児島ＭＢＣにて展覧会紹介、ＦＭ福岡にて告知ＣＭ
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトおよび特別展公式ホームページでの紹介、メールマガジンでの情報配信、Youtube で紹介動画を配信、facebook 周知活動
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 看板等…大丸地下通路電照看板、博多駅地下ビジョン、地下鉄天神駅電照看板、大丸南側看板、西日本ビジョン 書店タイアップ 飾り山の標題を「美の国 日本」

②　記者発表会　　7 月 29 日（18 社出席）
③　報道内覧会　　10 月 17 日（22 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」

会期：28年1月1日(金)～2月14日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、産経新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞
雑誌掲載	眼の目、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー
テレビ	ＴＮＣの番組内での紹介および告知ＣＭ、ＮＨＫのニュースで紹介
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 31,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、Youtube で紹介動画を配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 ジュニアガイドを県内の小学校に配布

②　記者発表会　　10 月 29 日（8 社出席）
③　報道内覧会　　12 月 25 日（14 社出席）

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

会期：28年3月15日（火）～6月12日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞
雑誌掲載	九州王国、太宰府イベント情報
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 2,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会　　28 年 3 月 14 日（17 社出席）
③報道内覧会　　3 月 14 日（17 社出席）

（参考）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん」
会　　期：27年7月11日(土)～9月23日(水)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース・TV

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展　造酒司木簡の世界」
会　　期：27年10月17日(土)～11月29日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：ミニ展示「発掘速報展 平城2015」
会　　期：27年12月5日(土)～28年1月31日(日)〈Ⅰ期〉
　　28年2月13日(土)～28年3月31日(木)〈Ⅱ期〉
広報媒体：チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

・**速報展**
①「藤原宮大極殿院の調査（182次）」
②「藤原宮東方官衙北地区の調査（183次）」
③「檜隈寺瓦窯の調査（181-4次）」
④「飛鳥寺出土文字瓦の再調査」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期特別展「はじまりの御仏たち」
会　　期：27年4月24日(金)～6月21日(日)
広報媒体：ポスター・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：夏期企画展「第6回写真コンテスト「ひさかたの天」応募作品展」
会　　期：27年7月28日(火)～9月13日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」
会　　期：27年10月9日(金)～11月29日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学2015－飛鳥の古墳調査最前線－」
会　　期：28年1月29日(金)～3月6日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース730号～735号	隔月刊年6回　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,143件（パスポート同時申込 619件含） 寄贈　国内1,273件　海外88件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　495件（キャンパスメンバーズ　48件含） 友の会　2,018件 （28年3月31日現在）
東京国立博物館「案内と地図」	日本語　27.4　改訂　81,000部 日本語　27.9　増刷　40,000部 英語　27.4　改訂　36,000部 英語　27.9　増刷　50,000部 中国語（簡体字）27.4　改訂　10,000部 中国語（簡体字）27.9　増刷　10,000部 中国語（繁体字）27.4　改訂　10,000部 韓国語　27.4　改訂　15,000部 フランス語　27.4　改訂　4,000部 フランス語　27.7　増刷　5,000部 スペイン語　27.4　改訂　4,000部 スペイン語　27,7　増刷　5,000部 ドイツ語　27.4　改訂　4,000部 ドイツ語　27, 7 増刷　3,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内2015.4-2016.3	28.3　27年度版　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
平成知新館こどもガイド	6月,11月,28年1月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
特別展観「仏法東漸―仏教の典籍と美術－」鑑賞ガイド「お経って何だろう？」	7月	20,000部	観覧者（子ども～大人対象）
特集陳列「獅子と狛犬」鑑賞ガイド「今日から君も獅子と狛犬博士」	28年1月	10,000部	観覧者（子ども～大人対象）
博物館Dictionary No.178～187	4、5、6、10、11、12月 28年2月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
京都国立博物館だより	4、7、10、28年1月	186号（4・5・6月）　30,000部 187号（7・8・9月）　15,000部 188号（10・11・12月）　80,000部 189号（28年1・2・3月）　15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.125～128	4、7、10、28年1月	各3,000部	観覧者、京都観光案内所
平成27年度年間スケジュール	4月	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「葵祭の美術」リーフレット	4月	15,000部	観覧者
特集陳列「日本の仮面」リーフレット	5月	10,000部	観覧者
特別展観「仏法東漸」ポスター・チラシ	7月	ポスター　2,000部 チラシ　80,000部	観覧者
特別展観「仏法東漸」出品目録・展示替一覧表	7月	20,000部	観覧者
琳派国際シンポジウムチラシ	8月	25,000部	観覧者
「京博のお正月」ポスター・チラシ	10月	ポスター　2,000部 チラシ　80,000部	観覧者
新春特集陳列「さるづくし」リーフレット	28年1月	20,000部	観覧者
特集陳列「刀剣を楽しむ」リーフレット	28年1月	50,000部	観覧者
特集陳列「皇室ゆかりの名宝」ポスター・チラシ	28年1月	ポスター　200部、 チラシ　20,000部	観覧者
特集陳列「皇室ゆかりの名宝」リーフレット	28年1月	15,000部	観覧者
特集陳列「徳川将軍家と京都の社寺（仮称）」「丹後の仏教美術」「与謝蕪村」チラシ	28年3月	80,000部	観覧者
京都国立博物館庭園ガイド2016	28年3月	10,000部	庭園解放時に有料観覧者に配布、および販売(260円税込)
留学生の日チラシ	11月	チラシ　500部	観覧者(関西圏の大学、専門学校へ送付)
平成28年度年間スケジュール	28年3月	10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 31,000部 冬号 15,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等 約1,560件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版 30,000部 英語版 10,000部 フランス語版 2,000部 ドイツ語版 1,000部 中国語版 15,000部 韓国語版 5,000部 スペイン語版 1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 95,000部 中国語版 11,000部 韓国語版 11,000部 英語版 31,000部 ドイツ語版 3,000部 フランス語版 4,000部 スペイン語版 3,000部 合計 158,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版 40,000部 中国語版 6,000部 韓国語版 4,000部 英語版 5,000部 合計 55,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版 3,000部 中国語版 300部 韓国語版 300部 英語版 500部 合計 4,100部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(36)号 50,000部 夏(37)号 50,000部 秋(38)号 50,000部 冬(39)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号14,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 展示スケジュールのご案内	50,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館 わくわく通信	年5回 総数749,000枚	・近郊の小中学校に配布
九州国立博物館 きゅーはく攻略本	80,000部	・館内で来館者に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料 d

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1)調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成28年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		273	257	16	134	123	11	77	75	2	36	34	2	26	25	1
合　計		1,530	1,428	102	992	910	82	303	293	10	145	137	8	90	88	2
絵画		432	398	34	185	162	23	174	164	10	59	59	0	14	13	1
書跡		81	81	0	30	30	0	31	31	0	14	14	0	6	6	0
彫刻		313	310	3	285	283	2	13	13	0	13	13	0	2	1	1
建築		3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工		92	91	1	56	55	1	24	24	0	12	12	0	0	0	0
刀剣		22	22	0	21	21	0				1	1	0	0	0	0
陶磁		116	103	13	96	83	13	19	19	0	0	0	0	1	1	0
漆工		54	53	1	34	34	0	8	8	0	11	10	1	1	1	0
染織		48	48	0	44	44	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
考古		201	167	34	76	49	27	29	29	0	35	28	7	61	61	0
民族資料		37	37	0	37	37	0				0	0	0	0	0	0
歴史資料		20	18	2	17	15	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0
和書		18	18	0	17	17	0				0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	20	20	0	20	20	0									
	書跡	7	7	0	7	7	0									
	彫刻	6	2	4	6	2	4									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	13	11	2	13	11	2									
	漆工	2	0	2	2	0	2									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	0	0	0	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		33	27	6	33	27	6									
黒田記念館収蔵品		12	12	0	12	12	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
貸与先件数		266	311	272	274	273
合　計		1,571	1,814	2,041	1,962	1,530
絵画		376	436	461	392	432
書跡		75	91	101	92	81
彫刻		146	224	183	361	313
建築		3	5	4	3	3
金工		61	84	63	94	92
刀剣		42	13	46	10	22
陶磁		98	99	250	257	116
漆工		66	57	121	109	54
染織		152	98	47	35	48
考古		203	327	324	243	201
民族資料		12	2	0	8	37
歴史資料		24	44	68	36	20
和書		21	14	13	13	18
東洋	絵画	15	12	13	42	20
	書跡	9	6	13	13	7
	彫刻	9	27	9	5	6
	金工	1	0	0	4	0
	陶磁	9	29	37	28	13
	漆工	6	3	0	5	2
	染織	0	0	1	7	0
	考古	30	49	47	10	0
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		2	0	0	2	33
黒田記念館収蔵品		211	194	240	193	12

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成28年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	202	1,106	114	857	52	154	20	60	16	35
国・国立	32	197	12	120	14	55	4	19	2	3
地方・公立	119	723	73	614	25	51	9	28	12	30
私立団体	51	186	29	123	13	48	7	13	2	2
海外	13	92	11	82	1	3	1	7	0	0

○寄託品

平成28年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	99	322	22	53	41	139	23	77	13	53
国・国立	19	76	5	13	7	48	5	12	2	3
地方・公立	55	138	11	22	21	40	12	26	11	50
私立団体	25	108	6	18	13	51	6	39	0	0
海外	4	10	0	0	2	7	1	1	1	2

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】　海外貸与先　11件　　海外貸与文化財 82件[うち寄託品 0件]　平成28年3月31日現在

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	14年1月1日～28年12月31日	東洋彫刻2
長期貸与(ヒューストン美術館日本美術室常設展示)	ヒューストン美術館【ヒューストン美術館日本美術室（アメリカ合衆国)】	24年2月17日～28年4月12日	14件 彫刻2、陶磁10、考古2
「細密可貴－韓国美術の品格」	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	27年7月2日 ～ 9月13日	4件 東洋陶磁2、東洋漆工2
「狩野派展」	フィラデルフィア美術館【フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)】	27年2月16日～5月10日	24件 絵画22、歴史資料2
「楽－茶碗の中の宇宙」展	ロサンゼルス・カウンティ美術館[ロサンゼルス・カウンティ美術館(アメリカ合衆国)]	27年3月29日～6月7日	陶磁1
「楽－茶碗の中の宇宙」展	エルミタージュ美術館【エルミタージュ美術館（ロシア連邦)】	27年7月11日 ～ 9月6日	陶磁1
「楽－茶碗の中の宇宙」展	プーシキン美術館【プーシキン美術館（ロシア連邦)】	27年9月22日 ～ 11月15日	陶磁1
「古代仏教彫刻」展	国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国)】	27年9月24日 ～ 11月15日	9件 金工1､法隆寺献納宝物6､東洋彫刻2
特別展「韓国の新石器文化」	国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国)】	27年10月20日 ～ 28年1月31日	考古6
「SOUTATSU」展	アーサー・M・サックラー・ギャラリー【フリーア・サックラー美術館(アメリカ合衆国)】	27年10月24日 ～ 28年1月31日	絵画1
「日本の古墳文化」展	国立慶州博物館【国立慶州博物館(大韓民国)】	27年12月11日 ～ 28年2月21日	考古19

【京都国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 10件[うち寄託品 7件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
海外展『Ink and Gold:Art of the Kano「狩野派」展』	文化庁、フィラデルフィア美術館【フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)】	平成27年1月29日～5月24日	絵画9
「細密可貴」展	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	平成27年6月26日 ～ 8月19日	絵画1

【奈良国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 8件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
特別展「細密可貴」	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	27年8月3日 ～ 9月21日	工芸1
韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」	大韓民国国立慶州博物館【国立慶州博物館】	27年10月28日 ～ 平成28年3月18日	考古7

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 2件[うち寄託品 2件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
台北國立故宮博物院南部院区－アジア芸術文化博物館開幕展覧会	国立故宮博物院南部院区【国立故宮博物院南部院区】	27年12月15日～ 28年3月31日	2件 絵画1、彫刻1

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
高知県立歴史民俗資料館	27	12
愛媛県立歴史文化博物館	4	28

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
愛媛県立歴史文化博物館	2	6
和歌山県立紀伊風土記の丘	1	2

（参考）

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

区分	貸与件数（件）	貸与先件数(件)
古写真	1	1

3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

平成28年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
329件	139件	65件	58件	67件

【東京国立博物館】139件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	イラク文化省	象牙の保存について	28年2月25日	学芸企画部長　井上洋一、保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
2	エンドール考古学博物館（イスラエル）	収蔵品の属性（年代、製作地など）に関する専門的な助言	8月13日	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
3	平等院	平等院ミュージアム鳳翔館･照明施設改修にかかわる基本設計・仕様策定、業者選定、現場調整等への指導･助言	6月12日、9月18日、11月12日、28年3月18日	企画課デザイン室長　木下史青
4	那覇市立壺屋焼物博物館	那覇市立壺屋焼物博物館の施設改修(照明)にかかわる基本設計・仕様策定、業者選定、現場調整等への指導･助言	6月20日～ 23日、28年2月20日、28年2月21日	同上
5	松戸市立博物館	特別展示室の設備・照明改修等にかかわる指導・助言	7月2日	同上
6	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言	1月～12月	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子
7	国立民族学博物館	平成27年度「博物館学集中コース」見学研修講師	11月13日	企画課国際交流室長　鬼頭智美
8	国際展覧会オーガナイザー会議	運営委員会委員･アジアの博物館における展覧会運営について	4月22日、24日	同上
9	さいたま市大宮盆栽美術館	英訳業務および多言語対応について	28年2月17日	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波　妙子
10	大英博物館	列品管理とその施設について、展覧会対応について	28年2月23日	企画課国際交流室長　鬼頭智美、保存修復課環境保存室長　和田浩、列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
11	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	1月～28年3月	博物館教育課長　小林牧
12	インド　コルカタ博物館	博物館教育の理念と実践例について	5月20日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員藤田千織
13	文化庁	指定文化財　企画･展示セミナー　東京国立博物館の鑑賞ガイダンス	7月9日	博物館教育課長　小林牧
14	グランドエジプト博物館	博物館教育、特にミイラのワークシートの開発について	8月14日	同上
15	国立近代美術館	美術館・博物館における広報活動について	10月23日	同上
16	ユネスコ	アジア博物館学芸員研修　博物館教育について	12月3日	同上
17	カタール財団	博物館と大学との連携事業、ならびに人材育成について	28年3月1日	同上
18	国立科学博物館	博物館における鑑賞支援アプリのシステムについて	12月3日	博物館教育課長　小林牧、同教育普及室主任研究員　藤田千織
19	韓国国立中央博物館	「古代仏教彫刻展」における光背断片の復元図作成協力	9月24日～11月15日	博物館教育課教育普及室研究員三田覚之
20	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員として、文化財の指定、修復に関して助言をおこなった	8月1日～28年3月31日	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅
21	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として、山鉾の保存・修復に関して助言をおこなった	4月1日～28年3月31日	同上
22	京都国立博物館	ボランティア活動と運営についての助言	8月21日	博物館教育課ボランティア室長鈴木みどり
23	国立科学博物館	同上	12月5日	同上
24	九州国立博物館振興財団	同上	12月5日	同上
25	京都国立博物館	庭園の効果的利用とボランティアガイドツアーについての助言	28年2月11日	同上
26	文化庁国立近現代建築資料館の今後の在り方に関する懇談会	委員として平成24年度に開館した同資料館の今後の運営方針について、博物館の立場から意見を述べた。	6月～12月	博物館情報課長　田良島哲
27	文化庁国立のアイヌ文化博物館（仮称）展示検討委員会	委員として2020年の開館に向けて準備中の同館の展示のあり方について、博物館の立場から意見を述べた。	4月～28年3月	同上
28	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員として同館の運営について､博物館の立場から意見を述べた。	4月～28年3月	同上
29	ISO/TC46（情報とドキュメンテーション）　に関する標準化調査研究委員会	図書館、博物館、文書館などの情報管理に関する標準を策定する国際委員会の日本国内委員に日本博物館協会推薦の立場で参加、意見を述べた。	4月～28年3月	同上
30	独立行政法人国立公文書館	重要文化財「東京府・東京市行政文書」保存修理事業企画提案審査会外部委員として、修理企画提案書の検討を行った。	6月	同上
31	一般社団法人情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4　国内委員会委員	7月16日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
32	中国河南博物院	収蔵品データベースの構築にかかわる助言	7月26日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	東京国立近代美術館	「海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業2015」研修講師	11月18日	博物館情報課長　田良島哲、博物館情報課情報管理室長　村田良二、博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
34	韓国国立中央博物館	収蔵品データベースの構築にかかわる助言	12月1日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
35	広島熊野町筆の里工房	熊野町制100年記念展の内容について助言	8月21日、12月17日	百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
36	國學院高等学校	日本文化史資料館　資料DVD 「今に伝わる、よみがえる　鶴岡八幡宮の女房装束」の製作	4月～12月	上席研究員　池田宏
37	文化庁、春日大社	春日大社国宝古神宝類の復元模造製作事業	6月25日、11月4日	同上
38	沖縄県石垣市八重山博物館	「駐長崎中華民国領事感謝状」の保存対策	11月9日	特任研究員　神庭信幸
39	岐阜県加茂郡八百津町役場	杉原千畝の「命のビザ」の保存対策	28年1月8日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
40	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	作品の保存環境現地調査およびデータ蓄積準備作業	28年1月8日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
41	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館の購入にかかる鑑査委員会への出席および指導・助言	12月17日	列品管理課主任研究員　古谷毅
42	サントリー美術館	「逆境の絵師　久隅守景　親しきものへのまなざし」展企画協力	10月10日～11月19日	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人
43	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員（審査委員）	12月～28年11月	同上
44	美術史学会	『美術史』査読委員	12月	同上
45	渋谷ヒカリエ	「バケモノの子」展作品解説	7月24日	同上
46	Bunkamura ザ・ミュージアム	「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展監修	28年3月19日～6月5日	同上
47	Virginia Museum of Fine Arts	兵馬俑の展示に関する助言	10月27日	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
48	國立故宮博物院	兵馬俑の展示に関する助言	11月8日	同上
49	The Metropolitan Museum of Art	兵馬俑の展示に関する助言	28年2月28日	同上
50	九州国立博物館	特別展「始皇帝と大兵馬俑」の展示に関する援助	28年3月3日～10日	同上
51	仙台市博物館	収蔵品に関する助言	28年3月21日	同上
52	三の丸尚蔵館	修理作品企画競争審査委員会　委員	8月27日～28年3月31日	調査研究課長　田沢裕賀
53	大英博物館	世界規模の葛飾北斎作品データベース構築のための北斎ワークショップで意見・提案	9月23～24日	同上
54	福井県立美術館	購入・寄託作品審査会の審査委員	12月19日	同上
55	福井県立美術館	絵画等寄贈審査員として助言	28年3月17日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
56	釜山市立鼎冠博物館	TJ-5226鉄地金銅装冑（小倉コレクション）の形態と展示方法に関する情報提供	4月28日	調査研究課考古室長　白井克也
57	島根県立古代出雲歴史博物館	TJ-1542硯模造品の形態・構造・法量などに関する情報提供と天神関する助言	5月25日	同上
58	高知県立歴史民俗博物館	東京国立博物館からの貸与予定作品の展示に関する助言	7月6日～7月7日	同上
59	京丹後市教育委員会	京都文化博物館で開催予定の展覧会へ貸与する東博列品の展示に関する助言	10月14日	同上
60	東京大学教養学部	教養学部美術博物館で開催予定の展覧会に関する助言	11月19日	同上
61	高知県立歴史民俗資料館	同館の特別展開催にかかわる助言	7月6～7日	調査研究課考古室研究員　井出浩正
62	文化庁	水銀規制に関する検討会への助言	4月16日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
63	横浜市歴史博物館	金泥の燻蒸についての助言	7月6日	同上
64	日本大学芸術学部	銀板写真の保存についての助言	7月21日	同上
65	陸前高田市博物館	被災写真資料の保存処置についての助言	7月31日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、特任研究員　神庭信幸
66	国立台湾美術館	写真資料のコレクションマネージメントについての助言	8月11日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
67	ソウル国立近代美術館	エックス線CT撮影装置導入へむけての助言	8月25日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
68	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル２・A　講義「光学調査」講師	9月2日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
69	東京都写真美術館	銀板写真の保存についての助言	9月11日	同上
70	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9月19日	同上
71	市立函館博物館	銀板写真の保存についての助言	9月29日	同上
72	松前町郷土資料館	銀板写真の保存についての助言	9月30日	同上
73	宮内庁書陵部	写真資料の技法、コレクションマネージメントの助言	10月9日	同上
74	北海道博物館	エックス線CTの文化財撮影についての設定・助言	10月23日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
75	韓国国立中央博物館	エックス線CT撮影装置導入へむけての助言	11月5日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
76	上海博物院	エックス線CTの文化財撮影についての設定・助言	11月9日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、企画課国際交流室専門職　楊鋭、学芸研究部長　谷豊信、副館長　松本伸之
77	ユネスコ	同上	12月3日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、学芸研究部長　谷豊信、副館長　松本伸之
78	弘前大学	同上	12月18日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
79	横浜美術館	銀板写真の保存についての助言	12月22日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
80	川崎市民ミュージアム	銀板写真の保存についての助言	28年1月19日	同上
81	東京都美術館	展示ケースの空気環境について	28年3月6日	同上
82	東京芸術大学	レオナルド・ダ・ヴィンチ作「アンギアーリの戦い」の部分的に残された絵画から、構図・構成の把握と創作の秘密解明のための三次元モデルの制作及び研究に関する指導・援助	4月～5月	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
83	弘前大学	漆櫛の解析に関する助言及びCT画像･3D画像構築についての助言	12月18日	同上
84	大分県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	5月9日	保存修復課環境保存室長　和田浩
85	都城島津邸	同上	6月8日	同上
86	入間市博物館	同上	6月11日	同上
87	そごう美術館	同上	6月19日	同上
88	白河集古苑	同上	6月25日	同上
89	観峰館	同上	7月16日	同上
90	富山県水墨美術館	同上	7月23日	同上
91	新潟市美術館	同上	7月30日	同上
92	北海道博物館	同上	8月18日	同上
93	町田市立国際版画美術館	同上	8月20日	同上
94	埼玉県立近代美術館	同上	9月2日	同上
95	岡崎市美術博物館	同上	9月9日	同上
96	新居浜市美術館	同上	9月17日	同上
97	大阪高島屋	同上	10月7日	同上
98	宗像市郷土学習交流館	同上	12月2日	同上
99	日本橋高島屋	同上	11月20日	同上
100	太田記念美術館	同上	28年1月22日	同上
101	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル1・A　講義「温度・湿度」講師	8月31日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子
102	M+, Museum for Visual Culture, WKCDA Hong Kong	文化財保存修復用材料についての助言	7月13日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
103	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル1・A　講義「油彩画を安全に活用するための修理―東京国立博物館の事例」講師	9月5日	同上
104	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	作品の保存環境および修理についての助言	11月30日	同上
105	岩手県立高田高校	平成24年度修理の被災文化財（油彩画）の保存状態に関する助言および環境調査用データ蓄積準備作業	28年3月23日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中照美、防災ネットワーク研究補佐員　三浦知佳
106	もりおか歴史文化館	資料の修理方法に関する助言	5月2日～3日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
107	文化庁文化審議会文化財分科第四専門調査会	平成27年度選定保存技術の選定・認定について	7月1日	客員研究員　澤田むつ代
108	奈良国立博物館	上代裂修理方法等に関する助言	9月11日	同上
109	文化庁文化審議会文化財分科第一専門調査会	平成27年度文化庁第１調査会、国宝・重要文化財指定品の選定について	28年2月29日～3月2日	同上
110	文部科学省	文化芸術情報基盤検討会議委員	28年3月17日～31日	総務部長　栗原祐司
111	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
112	観光庁	MICE アンバサダー	26年9月2日～28年3月31日	同上
113	滋賀県	アール・ブリュットネットワーク企画委員会議委員	7月1日～29年6月30日	同上
114	徳島県教育委員会	「板東俘虜収容所関係資料」ユネスコ記憶遺産調査検討委員会委員	27年3月1日～30年2月28日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
115	田川市	世界記憶遺産活用等推進委員会委員	25年12月20日～27年12月20日	同上
116	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	26年6月1日～28年5月31日	同上
117	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議アドバイザー	28年1月8日～28年3月31日	同上
118	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議委員	4月1日～28年3月31日	同上
119	独立行政法人日本スポーツ振興センター	スポーツミュージアム連携･啓発事業実行委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
120	独立行政法人国際協力機構（JICA）	エジプト国大エジプト博物館運営等調査への参画	8月23～29日、11月14～17日、28年1月10～16日	同上
121	公益財団法人日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進委員会委員、同検討会議委員、同企画会議委員	4月1日～28年3月31日	同上
122	公益財団法人日本博物館協会	博物館の登録制度の在り方に関する調査研究に関する委員会委員	26年7月15日～28年3月31日	同上
123	公益財団法人日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
124	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
125	水平社博物館	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
126	上野「文化の杜」新構想推進会議	上野「文化の杜」新構想推進会議ワーキンググループ委員	4月1日～28年3月31日	同上
127	国宝修理装こう師連盟	国宝修理装こう師連盟評議員	5月23日	同上
128	九州国立博物館・田川市	山本作兵衛コレクション保存処置作業完了報告展記念講演会において講演	4月18日	同上
129	反差別国際運動（IMADR）日本委員会	記念講演会「『全国水平社創立宣言』をユネスコ世界記憶遺産に」において講演	6月8日	同上
130	凸版印刷	ideanote セミナーにおいて講演	6月23日	同上
131	大学博物館等協議会	大学博物館等協議会総会（金沢大学）において講演	6月25日	同上
132	文化庁	第９回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーにおいて講義	7月6日	同上
133	公益財団法人全国市町村研修財団	市町村アカデミーにおいて講演	10月8日	同上
134	公益財団法人ユネスコ･アジア文化センター	個別テーマ研修において講義	11月11日～12日	同上
135	文部科学省･社会教育実践研究センター	平成27年度博物館学芸員専門講座において講義	12月9日	同上
136	常総市	常総市水損行政文書救援連絡会議に出席	28年1月18日	同上
137	明日の京都文化遺産プラットフォーム	明日の京都文化遺産プラットフォーム幹事会に出席	28年1月27日	同上
138	公益財団法人かながわ国際交流財団	第6回21世紀ミュージアム・サミットで講演	28年2月27日～28日	同上
139	福島県教育庁	福島県被災文化財等救援本部第2回本部会議に出席	28年3月1日	同上

【京都国立博物館】65件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
2	明日の京都　文化遺産プラネットフォーム	企画・調整委員会委員として助言	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
3	可児市教育委員会	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会委員として助言	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
4	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員として助言	4月～30年1月	副館長　伊藤嘉章
5	京都大学	教育・研究指導（客員教授、客員准教授）	4月～28年3月	列品管理室長　宮川禎一 美術室長　山本英男 教育室長　山川　暁 保存修理指導室長　大原嘉豊
6	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として助言	4月～29年3月	教育室長　山川　暁
7	公益財団法人放下鉾保存会	放下鉾下水引　復元新調監修者として助言	4月～28年3月	教育室長　山川　暁
8	福島県立美術館	特別展「飛騨の円空」撤収・梱包に関する指導	4月5日～8日	企画室長　浅見龍介
9	フィラデルフィア美術館	「Ink and Gold:Art of Kano」展示会クーリエ業務	4月10日～17日	美術室研究員　福士雄也
10	岡崎市美術博物館	愛知県史文化財部会の調査に関する助言	4月14日	教育室長　山川　暁
11	九州国立博物館	九州国立博物館写場および撮影機材の整備についての指導助言	4月15日	列品管理室　岡田 愛
12	島根県教育委員会	島根県文化財の指定調査に関する助言	4月17日	教育室長　山川　暁
13	香港中文大学文物館	「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画専題講座」の講演	5月7日～11日	列品管理室研究員　呉 孟晋
14	福井県立美術館	「大永平寺展」に関する仏像調査の助言	5月10日	企画室長　浅見龍介
15	越前市教育委員会	文化財保護委員会に出席し助言	5月25日	保存修理指導室長　大原嘉豊
16	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会に出席し助言	5月27日～28日	副館長　伊藤嘉章
17	公益財団法人　大和文華館	評議員として助言	6月3日～28年6月	副館長　伊藤嘉章
18	泉佐野市教育委員会	泉佐野市民大学講座「大坂夏の陣400周年記念」講演	6月6日	工芸室研究員　降矢哲男
19	山口市教育委員会	常栄寺所蔵彫刻の現地調査の指導	6月10日	企画室長　浅見龍介
20	町田市	評価委員会に出席し助言	6月17日、7月7日	副館長　伊藤嘉章
21	伊賀市教育委員会	指定文化財候補(伊賀焼)の調査に関する指導	6月22日	副館長　伊藤嘉章
22	サムソン美術館リウム	「細密可貴展」の展示に関する指導	5月22日～25日	列品管理室研究員　呉 孟晋

	機　関	内　容	期　間	担当者
23	文化庁	文化遺産オンライン等における国指定等文化財の英文による情報発信に関する実務者会議にて助言	6 月 24 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
24	愛知県	資料調査及び撮影への助言	6 月 29 日	教育室長　山川　暁
25	公益財団法人菊池美術財団　菊池寛実記念　智美術館	第６回菊池ビエンナーレ審査員として助言	7 月～28 年 3 月	副館長　伊藤嘉章
26	智山専修学院	仏教の文化と美術講師	7 月 13 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
27	京都文化博物館	寄附申出資料(雛道具・女乗物)の評価に関する指導・助言	7 月 15 日	教育室長　山川　暁
28	文化庁	文化財の買取評価員として助言	7 月 24 日	企画室長　浅見龍介
29	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「工芸」)に出席し助言	8 月 7 日～8 日	副館長　伊藤嘉章 工芸室研究員　降矢哲男
30	(公財)元興寺文化財研究所	陶磁器の産地同定や年代判定に関する指導・助言	9 月 1 日	工芸室研究員　降矢哲男
31	文化庁	文化財の買取評価員として助言	9 月 2 日	企画室研究員　末兼俊彦
32	神奈川大学	「良友」画報研究会での講演	9 月 2 日	列品管理室主任研究員　呉 孟晋
33	静岡市	静岡市三保松原保全活用検討委員会に出席し助言	9 月 7 日	美術室研究員　福士雄也
34	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会に出席し助言	9 月 16 日、10 月 1 日～2 日、10 月 29 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
35	プーシキン美術館	楽茶碗展開会式及び講演会	9 月 20 日～24 日	副館長　伊藤嘉章
36	佐賀県	第 65 回佐賀県美術展覧会に係る指導・助言	9 月 27 日～28 日	副館長　伊藤嘉章
37	文化庁	第９回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーの講師	10 月 19 日	副館長　伊藤嘉章
38	文化庁	第９回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーの講師	10 月 21 日、10 月 23 日	列品管理室長　宮川禎一
39	島根県	島根県文化財保護審議会にて調査に関する指導	10 月 22 日	教育室長　山川　暁
40	産経新聞社	琳派展に関する講師	10 月 23 日	美術室研究員　福士雄也
41	越前市教育委員会	図説「文化財からみる越前市の歴史文化図鑑」編集に伴う現地調査に関する助言	10 月 25 日～26 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
42	日本のミュージアムのための国際発進力向上推進事業	フォーラムへ出席し助言	10 月 27 日～31 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
43	滋賀県教育委員会	高月観音の里歴史民俗資料館にて現地調査	10 月 28 日	教育室長　山川　暁
44	滋賀県教育委員会	文化財保護審議会に出席し助言	11 月 9 日	教育室長　山川　暁
45	九州国立博物館	特別展「美の国・日本」寄託品展示に関する指導	11 月 8 日～9 日 11 月 29 日～30 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
46	智山専修学院	智山専修学院にて講師	11 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
47	岐阜県教育委員会	岐阜県文化財保護審議会委員として助言	11 月 24 日～29 年 11 月	副館長　伊藤嘉章
48	愛知県	愛知県美術館所蔵作品の調査に関する助言	12 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
49	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館委員会に出席し助言	12 月 11 日	副館長　伊藤嘉章
50	文化庁	有識会議に出席し助言	12 月 16 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
51	文化庁	買取協議員として助言	12 月 18 日	企画室研究員　末兼俊彦
52	徳島県埋蔵文化財センター	「2015 発掘とくしま」講演会講師	12 月 19 日	工芸室研究員　降矢哲男
53	愛知県	資料調査及び撮影への助言	28 年 1 月 20 日	教育室長　山川　暁
54	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員として助言	28 年 1 月 20 日～30 年 1 月	教育室長　山川　暁
55	備前長船刀剣博物館	特別展「備前刀剣王国」展示作品開梱に関する指導	28 年 1 月 27 日	企画室研究員　末兼俊彦
56	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員として助言	28 年 1 月 31 日～30 年 1 月	保存修理指導室長　大原嘉豊
57	文化庁	平成 28 年度日本古美術海外展「日本仏像展」(仮称)開催業務企画選定委員会委員として助言	28 年 2 月 1 日～29 年 1 月	上席研究員　浅見龍介
58	福井市愛宕坂茶道美術館	美術品（書跡）学術調査に関する助言	28 年 2 月 6 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
59	福井市愛宕坂茶道美術館	美術品（陶磁器）学術調査に関する助言	28 年 2 月 8 日～10 日	工芸室研究員　降矢哲男
60	石橋美術館	石橋美術館ボランティア研修講師	28 年 2 月 12 日～13 日	教育室研究員　水谷亜希
61	京都市元離宮二条城事務所	元離宮二条城保存整備委員会障壁画部会に出席し助言	28 年 2 月 25 日	上席研究員　山本英男
62	日本伝統工芸近畿展実行委員会	第４５回日本伝統工芸近畿展鑑査会鑑査委員として助言	28 年 2 月 29 日	教育室長　山川　暁
63	神戸市立博物館	特別展「須磨の歴史と文化展」出品作品の展示環境に関する助言	28 年 3 月 8 日	美術室アソシエイトフェロー 井並林太郎
64	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会臨時試験準備委員会に出席し助言	28 年 3 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
65	越前市教育委員会	文化財保護委員会に出席し助言	28 年 3 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊

【奈良国立博物館】58件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	九州国立博物館	写場の整備及び機材選定に関する指導・助言	4 月 15 日、6 月 7 日	資料室員　佐々木香輔
2	京都大学生存圏研究所	彫刻作品の樹種同定に関する指導・助言	4 月 16 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	公益社団法人　日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員会に委員として出席し助言	4 月 23 日	館長　湯山賢一
4	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	理事会・評議員会に顧問として出席し助言	5 月 23 日	館長　湯山賢一
5	長谷寺	環境改善に関する指導・助言	4 月 28 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
6	東京国立博物館	「鳥獣戯画」展リレートークにて講演	5 月 15 日	教育室長　谷口耕生
7	和歌山県立歴史博物館	和歌山県立歴史博物館協議会及び博物館評価部会に委員として出席し助言	5 月 20 日	館長　湯山賢一
8	奈良市	「東アジア文化都市 2016 奈良市」準備委員会に委員として出席し助言	5 月 21 日、10 月 5 日 28 年 1 月 27 日	館長　湯山賢一
9	九州国立博物館	文化財撮影及び文化財修理に関する指導・助言	5 月 21 日	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月 研究員　伊藤久美 資料室員　佐々木香輔

	機　関	内　容	期　間	担当者
10	五條猫塚古墳研究会	五條猫塚古墳出土品調査報告書作成に関する指導・助言	5 月 24 日	列品室長　吉澤　悟 主任研究員　岩戸晶子
11	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	5 月 28 日	学芸部長　内藤　栄
12	九州国立博物館	文化財 CT 調査に関する指導・助言	6 月 1 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
13	法隆寺	所蔵品の保存状態に関する指導・助言	6 月 1 日	研究員　北澤菜月
14	公益財団法人　大和文華館	評議員会に評議員として出席し助言	6 月 3 日	学芸部長　内藤　栄
15	東大寺総合文化センター	東大寺経巻聖教原本調査に関する指導・助言	6 月 3 日、 9 月 17 日～18 日 28 年 1 月 20 日～21 日	企画室長　野尻　忠
16	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	理事会に理事として出席し助言	6 月 12 日	館長　湯山賢一
17	公益財団法人　仏教美術協会	評議員会に評議員として出席し助言	6 月 18 日	館長　湯山賢一 総務課長　中村　恵
18	ユネスコ・アジア文化センター　平成27年度文化遺産保護協力事業運営審議会	運営審議会に審議会委員として出席し助言	6 月 18 日	館長　湯山賢一
19	奈良女子大学	奈良女子大学　平成 27 年度学長選考会議に委員として出席し助言	6 月 23 日、9 月 28 日、 12 月 10 日、	館長　湯山賢一
20	文化庁	文化遺産オンライン等における国指定等文化財の英文による情報発信に関する実務者会議（第一回）に委員として出席し助言	6 月 24 日	資料室長　宮崎幹子
21	奈良女子大学	奈良女子大学経営協議会に委員として出席し助言	6 月 25 日、11 月 25 日、 28 年 3 月 18 日	館長　湯山賢一
22	大津市	「施設ボランティア入門講座」にて講演	6 月 25 日	ボランティア室員　鈴木民子
23	文化庁	文化審議会文化財分科会第四専門調査会に委員として出席し助言	7 月 1 日	館長　湯山賢一
24	株式会社　便利堂	法隆寺金堂壁画写真ガラス原版の保存・保管に関する指導・助言	7 月 9 日	資料室長　宮崎幹子 教育室長　谷口耕生
25	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座にて講演	7 月 23 日	学芸部長　内藤　栄
26	NHK 大阪放送局	「白鳳美術の魅力」にて講演	7 月 30 日	情報サービス室長　岩井共二
27	NHK 大阪放送局	「白鳳美術の魅力と謎」にて講演	7 月 31 日	情報サービス室長　岩井共二
28	愛媛県歴史文化博物館	考古資料相互活用事業に関する展示指導・助言	8 月 5 日～7 日	主任研究員　岩戸晶子
29	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座講師	8 月 7 日	学芸部長　内藤　栄
30	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座講師	8 月 7 日	列品室長　吉澤　悟
31	龍谷大学　龍谷ミュージアム	国宝玄奘三蔵絵巻（藤田美術館蔵）上映・閲覧システム設置に係る指導・助言	8 月 7 日	資料室長　宮崎幹子
32	米沢市上杉博物館	上杉博物館資料収集委員会に委員として出席し助言	8 月 11 日	館長　湯山賢一
33	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	8 月 12 日	上席研究員　岩田茂樹
34	MIHO MUSEUM	MIHO MUSEUM「かざり」展展示に関する指導・助言	8 月 22 日、12 月 11 日 28 年 2 月 10 日、2 月 27 日	工芸考古室長　清水　健
35	東大寺総合文化センター	第 4 回「子ども文化財防火教室」にて講演	9 月 2 日	ボランティア室員　鈴木民子
36	読売新聞大阪本社	正倉院フォーラム大阪にて講演	9 月 23 日	館長　湯山賢一
37	京都美術工芸大学	「第 67 回正倉院展」出前授業にて講演	10 月 1 日	工芸考古室長　清水　健
38	読売新聞大阪本社	「正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い IN 名古屋～」にて講演	10 月 3 日	工芸考古室長　清水　健
39	九州国立博物館	正倉院宝物の CT 調査に係る指導・助言	10 月 11 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
40	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展記念講演会講師	11 月 8 日	企画室長　野尻　忠
41	英語劇甲子園プレイベント実行委員会	英語劇甲子園プレイベント実行委員会に委員として出席し助言	11 月 25 日、12 月 26 日	館長　湯山賢一
42	美馬市寺町防災交流センター	資料展示に係る指導・助言	11 月 13 日～14 日	主任研究員　岩戸晶子
43	公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター　文化遺産保護協力事務所	海外招聘者に対する「文化遺産の保護に資する研修 2015」にて指導・助言	12 月 1 日	企画室長　野尻　忠
44	法隆寺	法隆寺金堂壁画　保存活用調査委員会に委員として出席し助言	12 月 5 日	館長　湯山賢一
45	橿原市	第 2 次洛陽市文化財視察訪日団の来訪に伴う指導・助言	12 月 10 日	企画室長　野尻　忠
46	奈良県東京事務所	トライアングルミュージアムズ東京セミナーにて講演	12 月 11 日	研究員　北澤菜月
47	読売新聞大阪本社	平成 27 年正倉院展短歌・作文コンクール審査会に出席し審査	12 月 17 日	館長　湯山賢一
48	春日若宮おん祭保存会	春日若宮おん祭「試し之儀」解説	12 月 17 日	列品室長　吉澤　悟
49	九州国立博物館	平成 27 年度九州国立博物館 10 周年記念シンポジウムにて講演	12 月 19 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
50	唐招提寺	収蔵環境に関する指導・助言	28 年 1 月 13 日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
51	京都国立博物館	評議員会に評議員として出席し助言	28 年 1 月 25 日	館長　湯山賢一
52	東京国立博物館	米欧ミュージアム専門家連携交換事業会議出席	28 年 1 月 29 日	副館長　清水　功 学芸部長　内藤　栄
53	あべのハルカス美術館	特別展「長谷寺の名宝と十一面観音の信仰」展示に関する指導・助言	28 年 2 月 5 日	工芸考古室長　清水　健
54	文化庁	日本仏像展開催業務企画選定委員会に委員として出席	28 年 2 月 8 日	上席研究員　岩田茂樹
55	九州国立博物館	長期貸与文化財の修理に関する指導・助言	28 年 2 月 10 日	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月
56	京都国立博物館	防災に資する収蔵品データーベースシステムに関する検討会に委員として出席し助言	28 年 2 月 12 日	資料室長　宮崎幹子
57	東京国立博物館	東博蔵「書跡」特別調査に関する指導・助言	28 年 2 月 24 日	企画室長　野尻　忠

	機　関	内　容	期　間	担当者
58	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会委員として出席し助言	28 年 2 月 29 日～3 月 2 日	館長　湯山賢一

【九州国立博物館】67件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文部科学省	教科用図書検定調査審議会総会にて運営に係る助言	4 月 6 日	館長　島谷弘幸
2	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 37 回大会における保存修理に係る助言	4 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
3	南九州市	第 3 回南九州市世界記憶遺産推進会議にて保存修理に係る助言	4 月 23 日	学芸部特任研究員 本田光子
4	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会にて調査に係る助言	5 月 21 日、22 日	学芸部特任研究員 本田光子
5	文部科学省	教科用図書検定調査審議会総会にて運営に係る助言	5 月 19 日	館長　島谷弘幸
6	南九州市	第 4 回南九州市世界記憶遺産推進会議にて保存修理に係る助言	5 月 25 日	学芸部特任研究員 本田光子
7	文化庁	水中遺跡調査検討委員会（第 8 回）にて保存修理に係る助言	5 月 29 日	博物館科学課長　今津節生
8	福岡市美術館	平成 27 年度作品収集審査会審査委員	6 月 2 日	企画課特別展室長　原田あゆみ
9	文化財保護研究助成財団	文化財保護研究助成財団評議員会にて運営に係る助言	6 月 3 日	館長　島谷弘幸
10	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会選考小委員会にて運営に係る助言	6 月 8 日	館長　島谷弘幸
11	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 37 回文化財の虫菌害・保存対策研修会における講演	6 月 11 日、12 日	前学芸部長　井上洋一
12	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 37 回文化財の虫菌害・保存対策研修会における講演	6 月 11 日、12 日	学芸部特任研究員 本田光子
13	福岡市埋蔵文化財センター	考古学講座での講演	6 月 20 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
14	文化庁	水中遺跡の現地保存に係る助言	6 月 24 日	博物館科学課長　今津節生
15	文部科学省	教科用図書検定総括部会にて運営に係る助言	6 月 22 日	館長　島谷弘幸
16	文化庁	水中遺跡の保存活用に関する助言	7 月 5 日、6 日	博物館科学課長　今津節生
17	松浦市	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会にて保存修理に係る助言	7 月 13 日	博物館科学課長　今津節生
18	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会総会にて運営に係る助言	7 月 14 日	館長　島谷弘幸
19	大分県芸術文化スポーツ振興財団	大分県立美術館開館記念展 vol.2「神々の黄昏」実行委員会にて展示・構成に係る助言	7 月 18 日	展示課長　楠井隆志
20	文部科学省	教科書用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	7 月 23 日	館長　島谷弘幸
21	神戸市立博物館	国宝桜ケ丘銅鐸の研究に係る指導助言	7 月 24 日	博物館科学課 研究補佐員　田中麻美
22	神戸市立博物館	国宝桜ケ丘銅鐸の研究に係る指導助言	7 月 24 日	文化財課アソシエイトフェロー　竹内俊貴
23	思文閣出版	陽明文庫叢書会議にて運営に係る助言	7 月 27 日	館長　島谷弘幸
24	一般財団法人環境文化創造研究所	鼎談における講演	8 月 4 日、5 日	学芸部特任研究員 本田光子
25	大分県歴史博物館協議会	27 年度大分県立歴史博物館協議会にて運営に係る助言	8 月 24 日	学芸部特任研究員 本田光子
26	現日会	東京都美術館にて講演	8 月 8 日	館長　島谷弘幸
27	日本工芸会	日本伝統工芸展第二次審査委員会にて運営に係る助言	8 月 17 日	館長　島谷弘幸
28	文部科学省	ユネスコ選考委員会にて運営に係る助言	8 月 20 日	館長　島谷弘幸
29	宇検村生涯学習センター「元気の出る館」	倉木崎海底遺跡シンポジウムでの講演	8 月 29 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
30	文部科学省	第 14 回ユネスコ記憶遺産選考委員会にて運営に係る助言	9 月 10 日	館長　島谷弘幸
31	文部科学省	第 15 回ユネスコ記憶遺産選考委員会にて運営に係る助言	9 月 24 日	館長　島谷弘幸
32	宇佐市教育委員会	第 1 回宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会にて保存修理に係る助言	9 月 18 日	博物館科学課長　今津節生
33	思文閣出版	陽明文庫叢書会議にて運営に係る助言	9 月 28 日	館長　島谷弘幸
34	文部科学省	教科用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	10 月 1 日	館長　島谷弘幸
35	北京故宮博物院（中国　北京）	北京故宮博物院館長フォーラムにて講演	10 月 14 日	館長　島谷弘幸
36	フランス国立ギメ東洋美術館	「書の世界現代日本の書」展監修者として講演	10 月 21 日	館長　島谷弘幸
37	文化庁	分科審議会文化財分科会第三専門調査会にて調査に係る助言	10 月 22 日、23 日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
38	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 38 回大会実行委員会にて保存修理に係る助言	10 月 29 日	学芸部特任研究員 本田光子
39	文化庁	27 年度公開承認施設担当者会議における講演	11 月 5 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
40	文化庁	27 年度公開承認施設担当者会議における講演	11 月 5 日	博物館科学課研究員 秋山純子
41	日之出水道機器	浦上家史編纂会議にて運営に係る助言	11 月 14 日	館長　島谷弘幸
42	松浦市	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会にて保存修理に係る助言	11 月 24 日	博物館科学課長　今津節生
43	多良間村教育委員会	水中遺跡の保存活用に関する助言	11 月 30 日、12 月 1 日	博物館科学課長　今津節生
44	一般財団法人環境文化創造研究所	鼎談における講演	12 月 3 日	学芸部特任研究員 本田光子
45	京都大学	京都大学文化財ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ「文化遺産国策協力拠点交流事業」における講演および教育指導	12 月 8 日～10 日	博物館科学課長　今津節生
46	大分県芸術文化スポーツ振興財団	大分県立美術館開館記念展 vol.2「神々の黄昏」実行委員会にて展示・構成に係る助言	12 月 7 日	展示課長　楠井隆志
47	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度 IPM ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ研修での講演	12 月 16 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
48	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 5 回文化財 IPM ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ資格取得講習会の講師	12 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
49	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑへでの講演	12 月 19 日	学芸部特任研究員 本田光子
50	文化庁記念物課	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業協力者会議での助言	12 月 21 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
51	文化庁記念物課	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業協力者会議での助言	12 月 22 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
52	北九州市立いのちのたび博物館	歴史講演会での講演	28 年 1 月 23 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
53	宇佐市教育委員会	第３回宇佐市平和ﾐｭｰｼﾞｱﾑ（仮称）建設準備委員会での助言	28 年 1 月 29 日	博物館科学課長　今津節生
54	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度　第１回文化財ＩＰＭｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ委員会での助言	28 年 2 月 2 日	学芸部特任研究員 本田光子
55	熊本博物館	27 年度第 2 回熊本博物館協議会での助言	28 年 2 月 3 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
56	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度第 2 回総合調整委員会・総合的防除対策検討委員会の合同委員会での助言	28 年 2 月 4 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
57	文部科学省	教科用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	28 年 2 月 10 日	館長　島谷弘幸
58	群馬県埋蔵文化財調査事業団	受託研究における調査に係る助言	28 年 2 月 17 日～2 月 19 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
59	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	文化財保護・芸術研究助成財団評議委員会にて運営に係る助言	28 年 2 月 22 日	館長　島谷弘幸
60	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 38 回プログラム委員会にて保存修理に係る助言	28 年 2 月 29 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
61	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会にて運営に係る助言	28 年 3 月 1 日	館長　島谷弘幸
62	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会大会における保存修理に係る助言	28 年 3 月 3 日	学芸部特任研究員 本田光子
63	南九州市	知覧特攻平和会館保存検討委員会にて保存修理に係る助言	28 年 3 月 7 日	学芸部特任研究員 本田光子
64	公益財団法人陽明文庫	公益財団法人陽明文庫第 17 回理事会・第 9 回評議会にて運営に係る助言	28 年 3 月 8 日	館長　島谷弘幸
65	熊本県博物館ネットワークセンター	平成 27 年度第 3 回県内博物館学芸員等スキルアップ研修会の講師	28 年 3 月 11 日	博物館科学課保存修復室長 木川りか
66	有明工業高等専門学校	講演会での講師	28 年 3 月 11 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
67	大谷大学真宗総合研究所	「大谷大学所蔵ﾀｲ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」公開研究会にて調査に係る助言	28 年 3 月 17 日	企画課特別展室長　原田あゆみ

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動にかかる調査・研究

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑦

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】７件

	研修・ワークショップ	実施時期	回数	適用
1	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：ワークショップ	28年1月14日～15日 28年2月14日～15日	2回	
2	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業:共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力・ワークショップ	10月2日～10日	1回	一部受託
3	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月31日～9月18日 11月4日～20日	2回	
4	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：研修・ワークショップ	6月14日～23日 6月29日～7月11日 7月28日～8月6日 11月19日～26日 11月22日～12月6日 28年1月7日～18日 28年2月14日～22日	7回	受託
5	ネパールにおける文化遺産被災状況調査：ワークショップ	11月21日～12月8日	1回	受託
6	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務： ＜現地研修（計13回）＞ 「第2回パピルス研修」 「染織品（有機物）研修」 「第3回木材研修」 「第2回保存修復材料学研修」 「第4回彩色文化財研修」 「第2回文化財の診断技術・分析法研修」 「無機物Ⅰ（金属）研修」 「無機物Ⅲ（金属）研修」 「第4回木材研修」 「無機物Ⅰ、Ⅱ（非金属）研修」 「第5回保存科学概論」 「第2回石材研修」 「第4回学術研究シンポジウム」 ＜本邦研修（計3回）＞ 「第1回石材研修」 「第4回保存修復材料としての和紙研修」 「第5回保存修復材料としての和紙研修」	 4月 5月 5～6月 5～6月 8月 8月 8月 9月 10月 11月 11月 28年1月 28年2月 5月 5～6月 6月	16回	受託
7	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修（エジプト国別研修）」：研修	6月8日～17日	１回	受託

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】

※5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧にまとめて記載

【奈良文化財研究所】 3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2015（集団研修）	9月1日～10月1日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	15人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2015（個別テーマ研修）	11月10日～12月8日	29日	ネパール、スリランカ、モルジブの専門家。	6人
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（ブータンで開催）	10月26日～31日	5日	ブータン人専門家	20人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

5-(4)-① 研究交流実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-①

5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-④

5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載）◎共通資料d

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	27年度受入件数	総件数	27年度受入件数	総件数
図　　書	7,183冊	268,401冊	8,448冊	351,688冊

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「第49回企画情報部　オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
- ・開 催 日：10月30日（金）、10月31日（土）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
- ・講　　演：「仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰」、「十世紀の画師たち」、「与謝蕪村の絵画に見る和漢」、「池大雅の山水図を考える」
- ・参加人数：247人

【奈良文化財研究所】

公開講演会　6件

○公開講演会「第116回公開講演会」
- ・開 催 日：6月20日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：200人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「押勝の金・銀・銅貨」
  「ガラスからみた東西交易：日本出土のローマ・ガラスの起源」
  「『日本後紀』を考古学で解釈する－弘仁六年正月丁丑条を中心に－」

○公開講演会「第117回公開講演会」
- ・開 催 日：11月7日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：190人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「古代の盤上ゲーム『槮蒲（かりうち）』の復元」
  「藤原宮から平城宮へ－宮の瓦づくりの移りかわり－」
  「ウマ駆ける古代日本」

○公開講演会「特別講演会(東京会場)『発掘遺構から読み解く古代建築』」
- ・開 催 日：10月24日
- ・開催場所：有楽町朝日ホール
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：345人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「なぜ建築史の研究者が発掘現場に？」
  「発掘遺構と古代建築をつなぐ」
  「古代建築の復原の手がかり　－平城宮朱雀門と第一次大極殿－」
  「東西楼は入母屋か寄棟か　－平城宮第一次大極殿院の復原にむけて－」
  「山田寺倒壊回廊が語る古代建築史」
  「出土部材をしらべ、まもり、つたえる」

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展『はじまりの御仏たち』記念講演会」
- ・開 催 日：5月9日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：88人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「塼仏学研究最前線―奉献から荘厳・三尊から群像へ―」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『キトラ古墳と天の科学』記念講演会」
- ・開 催 日：10月31日
- ・開催場所：明日香村中央公民館
- ・主　　催：奈良文化財研究所・多摩六都科学館
- ・参加人数：126人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「キトラ古墳と天の科学」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『キトラ古墳と天の科学』連動企画講演会」
- ・開 催 日：11月8日
- ・開催場所：多摩六都科学館
- ・主　　催：奈良文化財研究所・多摩六都科学館
- ・参加人数：151人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～」

現地説明会　3件

○現地説明会「飛鳥藤原第186次（藤原宮大極殿院）発掘調査」
・開 催 日：10月12日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,112人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城第559次(興福寺中室・経蔵・鐘楼)発掘調査」
・開 催 日：12月20日
・開催場所：興福寺発掘調査現場
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,200人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第552次（平城京朱雀大路跡）発掘調査」
・開 催 日：3月5日
・開催場所：平城京朱雀大路跡
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：680人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-① 来館者数推移（入館料別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-② 来館者数推移（展覧会別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

平成28年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,196件	823件	373件

【東京文化財研究所】823件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保存、展示に関する指導助言	19件
2	無形文化遺産に関する助言	11件
3	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	77件
4	文化財の虫菌害に関する調査・助言	36件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と指導・助言	660件

【奈良文化財研究所】373件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	360件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	4件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	0件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	9件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

平成28年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
16件	1件	15件

【東京文化財研究所】　1件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月13日～7月24日	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	32人	100%

【奈良文化財研究所】　16件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6 月 8 日～6 月 12 日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	8人	100%
2	災害痕跡調査課程	6月15日～6月19日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地震、津波、火山などの災害痕跡を理解するための専門的知識と調査方法を取得することを目的とした研修。	8人	100%
3	建造物保存活用基礎課程	6月22日～6月26日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財建造物の保護行政をおこなうための文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎の習得を目指す研修。	20人	100%
4	報告書作成Ⅰ（編集基礎）課程	7月6日～7月10日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財調査に必要不可欠な報告書等の出版物制作にあたって、編集に必要な基礎知識と印刷工程の基礎知識についての研修。	14人	100%
5	報告書作成Ⅱ（応用制作）課程	7月13日～7月17日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書等の出版物制作にあたり、実際の編集作業に必要な知識や技術、特にデジタル編集の実習を通じて制作のノウハウを学べる研修。	10人	100%
6	自然科学的年代測定法	7月21日～7月24日	4日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	年輪年代や放射性炭素年代など自然科学的年代測定の基礎知識を平易に解説し、文化財調査に積極的に取り入れるための留意点などの習得を目指す研修。	中止	－
7	遺跡情報記録調査課程	9月8日～9月11日	4日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、ＧＩＳやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修。	10人	100%
8	木器・木製品調査課程	9月14日～9月18日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	発掘調査において出土した木器・木製品の整理、調査、保管について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	11人	100%
9	三次元計測課程	9月28日～10月2日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	三次元計測の利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。	9人	100%
10	保存科学Ⅰ基礎(金属製遺物)課程	10月6日～10月15日	10日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	金属製遺物の材質および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、金属製遺物の材質および保存処理に関する基礎知識を習得することを目的とする研修。	6人	100%
11	保存科学Ⅱ基礎(木製遺物)課程	10月15日～10月23日	9日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	木製遺物の樹種、木取り、および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、木製遺物の劣化状態および保存処理に関する基礎知識を習得することを目的とする研修。	6 人	100%
12	文化財写真課程	12月8日～	11日	地域の中核となる地方公	文化財の記録の中核をなす記録写真撮	13人	100%

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
		12月18日		共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	影について、様々な文化財分野の写真についての基礎知識と実習による実技を習得できる研修。		
13	遺跡等環境整備課程	28年1月12日～ 1月22日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	遺跡整備に関する講義および整備計画立案の演習を通して、遺跡整備の実施にあたって必要となる基礎的な知識の習得を目指す研修。	14人	100%
14	保存科学Ⅲ（応急処置）課程	28年2月15日～ 2月19日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	発掘調査において出土した脆弱遺物の取り上げ、保存処理までの一時保管法等の遺物の取り扱いに関する応急処置について、講義と実習を通して習得することを目的とする研修。	9人	100%
15	埋蔵文化財デジタル写真研修	28年3月8日～ 3月11日	4日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	フィルム写真記録からデジタル写真環境への移行に対応するに必要な基礎的な知識、技術、設備、文化財担当部局・担当者の考え方について研修する。	16人	100%
16	三次元ワークショップ	28年1月16日 ～1月17日	2日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	SfM/MVSを用いた考古資料の三次元計測について、利用事例や利用方法の紹介を通じて、その手法の有効性の検討や利用の普及を進めていくことを目的とする。	23人	－

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1　一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

平成28年3月31日現在

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,715	1,273	652	112	117	392	442	186	256
	うち有償	739	689	434	104	33	118	50	7	43
	うち無償	976	584	218	8	84	274	392	179	213
茶室	総件数	217	217	122	43	11	41			
	うち有償	144	144	73	43	8	20			
	うち無償	73	73	49	0	3	21			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,010	587	239	36	41	271	423	186	237
	うち有償	233	197	71	28	7	91	36	7	29
	うち無償	777	390	168	8	34	180	387	179	208
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	170	151	5	22	61	63	19	0	19
	うち有償	58	44	4	22	18	0	14	0	14
	うち無償	112	107	1	0	43	63	5	0	5
撮影利用	総件数	318	318	286	11	4	17	0	0	0
	うち有償	304	304	286	11	0	7	0	0	0
	うち無償	14	14	0	0	4	10	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	130,524	125,739	62,591	61,083	1,166	899	4,785	381	4,404
茶室	6,381	6,381	5,419	650	145	167			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	8,152	7,250	4,910	1,510	120	710	902	381	521
その他（左記以外の建物、敷地）	88,923	85,040	25,744	58,395	901	0	3,883	0	3,883
撮影利用	27,068	27,068	26,518	528	0	22	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）

平成28年3月31日現在

年度				23	24	25	26	27
国立文化財機構	総来館者数			3,356,159	3,520,384	2,818,511	3,890,178	4,146,847
	平常展	計		913,409	1,109,550	1,011,274	1,372,538	1,536,565
		有料	一般	293,323	355,419	373,417	522,569	636,504
			大学生	27,778	34,218	36,886	59,208	76,590
			小・中・高生	—	—	546	537	0
			友の会	53,383	86,938	89,509	123,720	139,076
		無料	一般(黒田含む)	96,561	74,968	47,371	85,285	107,574
			小・中・高生	173,323	173,386	166,233	165,340	176,248
		招待者等		269,041	384,621	297,312	415,879	400,573
	特別展	計		2,442,750	2,410,834	1,807,237	2,517,640	2,610,282
		有料	一般	1,585,799	1,535,741	1,132,319	1,670,944	1,678,816
			高・大生	89,985	82,665	66,814	93,348	113,109
			小・中生	24,501	30,770	23,243	22,149	34,820
			友の会	40,845	47,758	44,592	58,421	66,016
		無料	小・中生・一般	95,130	88,927	99,764	102,343	122,894
		招待者等		606,490	624,973	440,505	570,435	594,627
東京国立博物館	総来館者数			1,756,590	1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508
	平常展	計		324,597	416,430	484,429	587,528	747,944
		有料	一般	143,017	201,988	250,330	269,639	383,579
			大学生	16,073	22,155	26,117	31,324	42,528
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	44,388	76,333	77,771	96,297	108,147
		無料	高校生	13,861	14,773	18,844	20,345	27,108
			小・中生	33,401	36,660	41,197	50,040	52,386
		招待者等		60,620	63,381	70,170	95,280	87,619
		黒田記念館(無料)		13,237	1,140	—	24,603	46,577
	特別展	計		1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564
		有料	一般	972,328	729,470	561,236	926,279	811,089
			高・大生	52,296	36,874	29,955	51,690	61,790
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	12,072	11,448	9,585	12,920	11,889
		無料	小・中生	31,888	20,368	14,715	31,503	51,547
		招待者等		363,409	341,104	222,368	303,723	310,249
京都国立博物館	総来館者数			239,767	234,540	148,429	539,134	653,336
	平常展	計		—	—	—	265,791	205,526
		有料	一般	—	—	—	147,106	124,229
			大学生	—	—	—	16,801	21,478
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	12,764	15,234
		無料	高校生	—	—	—	11,137	15,261
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	77,983	29,324
	庭園開放	計		—	—	—	—	1,699
		有料	一般	—	—	—	—	825
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	—	93
		無料	大学生	—	—	—	—	56
			高校生	—	—	—	—	235
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	—	490
	特別展	計		239,767	234,540	148,429	273,343	446,111
		有料	一般	140,395	124,569	76,358	190,015	306,503
			高・大生	13,912	13,570	10,734	14,231	18,021
			小・中生	2,375	5,022	3,224	1,683	—
			友の会	10,719	13,228	9,174	11,978	19,001
		無料	小・中生	3,007	386	1,471	4,571	7,803
		招待者等		69,359	77,765	47,468	50,865	94,783
奈良国立博物館	総来館者数			469,463	450,235	461,690	476,993	455,859
	平常展	計		130,839	145,914	122,075	92,147	95,208
		有料	一般	56,747	56,997	44,307	31,433	30,165
			大学生	4,578	4,754	3,967	3,519	3,204
			小・中・高生	—	—	546	537	0
			友の会	3,765	3,843	2,703	3,344	3,957
		無料	小・中・高生	40,864	48,183	39,249	20,933	18,221
		招待者等		24,885	32,137	31,303	32,381	39,661
	特別展	計		338,624	304,321	339,615	384,846	360,651
		有料	一般	243,704	227,929	258,597	273,574	267,663
			高・大生	12,508	12,304	13,756	13,403	13,852
			小・中生	9,380	8,143	7,622	9,208	9,843
			友の会	9,417	10,291	11,206	14,443	16,265
		無料	小・中生	—	—	3,067	0	0
		招待者等		63,615	45,654	45,367	74,218	53,028
九州国立博物館	総来館者数			712,594	1,107,036	727,603	804,663	884,128
	平常展	計		358,366	460,525	349,848	357,362	412,621
		有料	一般	86,974	91,786	75,827	71,014	93,457
			大学生	6,561	6,831	6,571	7,251	9,072
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	5,230	6,762	9,035	11,315	11,645
		無料	高校生	28,625	26,193	26,305	22,494	26,765
			小・中生	51,740	43,351	38,785	38,507	34,381
		招待者等		179,236	285,602	193,325	206,781	237,301
	特別展	計		354,228	646,511	377,755	447,301	471,507
		有料	一般	219,615	443,965	224,247	271,895	283,603
			高・大生	10,570	19,108	11,482	13,249	18,463
			小・中生	12,746	17,605	12,397	11,258	24,977
			友の会	8,637	12,791	14,627	19,080	18,861
		招待者等		102,660	153,042	115,002	131,819	125,603
平城宮跡資料館	総来館者数			132,295	124,515	108,896	109,188	105,334
	平常展	無料	一般	80,353	64,318	39,502	52,221	50,064
	特別展	無料	一般	51,942	60,197	69,394	56,967	55,270
藤原宮跡資料室	総来館者数			2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
	平常展	計		2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
		無料	一般	2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
飛鳥資料館	総来館者数			42,479	38,854	41,736	38,096	42,749
	平常展	計		16,283	12,853	7,551	9,028	12,570
		有料	一般	6,585	4,648	2,953	3,377	4,249
			大学生	566	478	231	313	308
		無料	小・中・高生	4,832	4,226	1,853	1,884	1,835
		招待者等		4,300	3,501	2,514	3,454	6,178
	特別展	計		26,196	26,001	34,185	29,068	30,179
		有料	一般	9,757	9,808	11,881	9,181	9,958
			大学生	699	809	887	775	983
		無料	小・中・高生	8,293	7,976	11,117	9,302	8,274
		招待者等		7,447	7,408	10,300	9,810	10,964

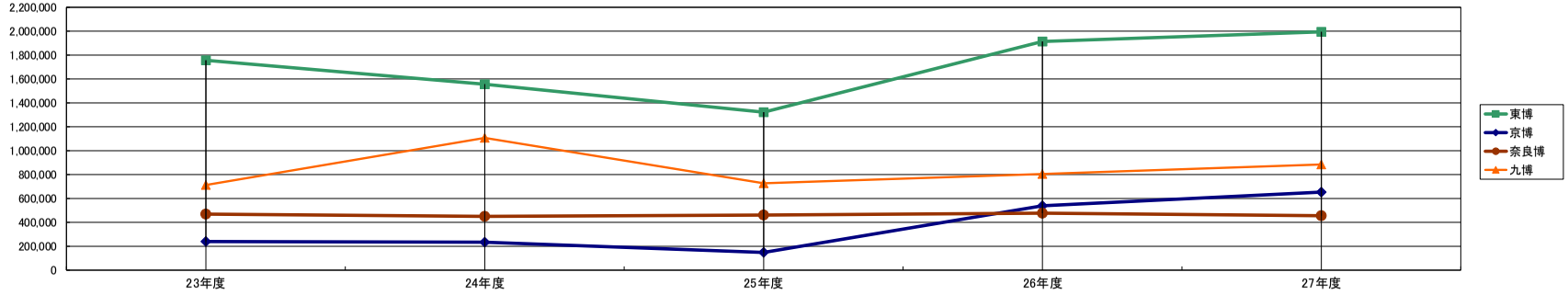
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数(23～27年度)

国立文化財機構　合計

	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
合計	総　合　計	3,356,159	総　合　計	3,520,384	総　合　計	2,818,511	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847
	平常展のみの来館者	913,409	平常展のみの来館者	1,109,550	平常展のみの来館者	1,011,274	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565
	特別(共催)展計	2,442,750	特別(共催)展計	2,410,834	特別(共催)展計	1,807,237	特別(共催)展計	2,517,640	特別(共催)展計	2,610,282

1) 国立博物館

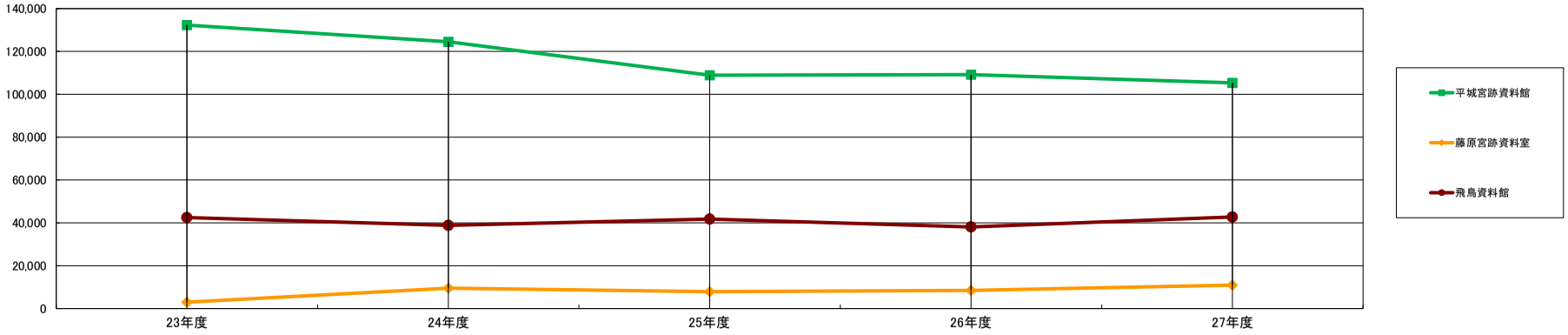


	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
計	総　　計	3,178,414	総　　計	3,347,505	総　　計	2,660,010	総　　計	3,734,433	総　　計	3,987,831
	平常展のみの来館者	813,802	平常展のみの来館者	1,022,869	平常展のみの来館者	956,352	平常展のみの来館者	1,372,828	平常展のみの来館者	1,462,998
	特別(共催)展計	2,364,612	特別(共催)展計	2,324,636	特別(共催)展計	1,703,658	特別(共催)展計	2,431,605	特別(共催)展計	2,524,833
東博	総計(黒田記念館含む)	1,756,590	総計(黒田記念館含む)	1,555,694	総計(黒田記念館含む)	1,322,288	総計(黒田記念館含む)	1,913,643	総計(黒田記念館含む)	1,994,508
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	324,597	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	416,430	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	484,429	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	587,528	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	747,944
	特別(共催)展計	1,431,993	特別(共催)展計	1,139,264	特別(共催)展計	837,859	特別(共催)展計	1,326,115	特別(共催)展計	1,246,564
	特別展「手塚治虫のブッダ展」	99,088	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	486,683	特別展「飛騨の円空」	20,544	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573
	特別展「写楽」	229,625	特別展「中国山水画の20世紀」	※1(18,415)	特別展「国宝　大神社展」	193,990	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」	72,344
	特別展「空海と密教美術」展	550,399	特別展「青山杉雨の眼と書」	51,327	特別展「和様の書」	104,577	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115
	特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」	28,780	特別展「出雲―聖地の至宝―」	137,646	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1(62,378)	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959
	特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」	212,150	特別展「中国　王朝の至宝」	141,507	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ130年にわたるイタリアの美の至宝 THE ART OF BVLGARI 130 YEARS OF ITALIAN MASTERPIECES	142,000
	特別展「北京故宮博物院200選」	258,252	特別展「飛騨の円空」	169,578	特別展「クリーブランド美術館展 ―名画でたどる日本の美」	104,865	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑展」	483,809
	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	53,699	特別展「書聖　王羲之」	152,523	特別展「人間国宝展 ―生み出された美、伝えゆくわざ-」	112,960	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764
					特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝 土偶 縄文の女神」	※2　－
					特別展「栄西と建仁寺」	22,122				
京博	総　　計	239,767	総　　計	234,540	総　　計	148,429	総　　計	539,134	総　　計	653,336
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526
									庭園のみ(全館閉館期、庭園のみ開放)	1,699
	特別(共催)展計	239,767	特別(共催)展計	234,540	特別(共催)展計	148,429	特別(共催)展計	273,343	特別(共催)展計	446,111
	特別展「法然－生涯と美術－」	84,682	特別展「王朝文化の華　－陽明文庫名宝展－」	101,006	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186
	特別展「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	35,259	特別展「大出雲展」	79,218	特別展「親び」	23,659	特別展「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大厳会記念 仏法東漸－仏教の興籍と美術－※3	34,696
	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	106,536	特別展「宸翰 天皇の書」	24,699	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929			琳派誕生 四〇〇年記念 特別展覧会「琳派　京を彩る」	327,925
	特別展「中国近代絵画と日本」	13,290	特別展「国宝 十二天像と密教法会の世界」/特別展「成立800年記念　方丈記	25,216						
			特別展「狩野山楽・山雪」	4,401						
奈良博	総　　計	469,463	総　　計	450,235	総　　計	461,690	総　　計	476,993	総　　計	455,859
	平常展のみの来館者	130,839	平常展のみの来館者	145,914	平常展のみの来館者	122,075	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208
	特別(共催)展計	338,624	特別(共催)展計	304,321	特別(共催)展計	339,615	特別(共催)展計	384,846	特別(共催)展計	360,651
	特別展「誕生！中国文明」	35,679	特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」	24,317	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	特別展「武家のみやこ　鎌倉の仏像－追真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」	10,561
	特別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」	63,364	特別展「頼朝と重源」	41,985	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901
	特別展「第63回正倉院展」	239,581	特別展「第64回正倉院展」	238,019	特別展「第65回正倉院展」	246,269	特別展「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展 第67回正倉院展	221,189
九博	総　　計	712,594	総　　計	1,107,036	総　　計	727,603	総　　計	804,663	総　　計	884,128
	平常展のみの来館者	358,366	平常展のみの来館者	460,525	平常展のみの来館者	349,848	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621
	特別(共催)展計	354,228	特別(共催)展計	646,511	特別(共催)展計	377,755	特別(共催)展計	447,301	特別(共催)展計	471,507
	特別展「黄檗－OBAKU」	46,530	特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」	110,047	特別展「大ベトナム展」	71,192	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」	77,455
	特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美」	118,528	特別展「美のワンダーランド　十五人の京絵師」	75,415	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174
	特別展「草原の王朝　契丹 － 美しき3人のプリンセス」	75,880	特別展「ペルリン国立美術館展」	224,324	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753
	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	113,290	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	236,725	特別展「国宝　大神社展」	89,561	特寸城・大野城・基肄城築造1350年記念特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」/特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」	67,641
									特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（23～27年度）

2）研究成果公開施設



	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
計	総　合　計	177,745	総　合　計	172,879	総　合　計	158,501	総　合　計	155,745	総　合　計	159,016
	平常展のみの来館者	99,607	平常展のみの来館者	86,681	平常展のみの来館者	54,922	平常展のみの来館者	69,710	平常展のみの来館者	73,567
	特別（共催）展計	78,138	特別（共催）展計	86,198	特別（共催）展計	103,579	特別（共催）展計	86,035	特別（共催）展計	85,449
平城宮跡資料館	総　計	132,295	総　計	124,515	総　計	108,896	総　計	109,188	総　計	105,334
	平常展のみの来館者	80,353	平常展のみの来館者	64,318	平常展のみの来館者	39,502	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064
	特別（共催）展計	51,942	特別（共催）展計	60,197	特別（共催）展計	69,394	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270
	企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」	24,238	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	34,687	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025	ロビー展示「震災復興調査とその支援」26.3.12より継続中	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－
	企画展「地下の正倉院展－コトバと木簡」	20,120	特別展「地下の正倉院・第一次大極殿院のすべて」	20,356	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい－奈良の都のナンバーワン－」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108
	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	7,584	春期企画展「発掘速報展　平城2012 」	5,154	秋期特別展「地下の正倉院展 －木簡学ことはじめ」/「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753	秋期特別展「地下の正倉院展―木簡を科学する―」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830
					ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」(第1期)	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003
							ミニ展示「発掘速報展　平城2014」(第2期)	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329
藤原宮跡資料室	総　計	2,971	総　計	9,510	総　計	7,869	総　計	8,461	総　計	10,933
	平常展のみの来館者	2,971	平常展のみの来館者	9,510	平常展のみの来館者	7,869	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	42,479	総　計	38,854	総　計	41,736	総　計	38,096	総　計	42,749
	平常展のみの来館者	16,283	平常展のみの来館者	12,853	平常展のみの来館者	7,551	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570
	特別（共催）展計	26,196	特別（共催）展計	26,001	特別（共催）展計	34,185	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179
	特別展「星々と日月の考古学」	10,679	特別展「比羅夫が往く-飛鳥時代の武器と武具・いくさ-」	11,425	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148	春期特別展「いにしえの匠たち－ものづくりからみた飛鳥時代－」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725
	企画展「鋳造技術の考古学」	3,047	第2回飛鳥資料館写真コンテスト展「遙かなる華の都」	5,385	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)－いにしえの飛鳥を想ふ－」	4,088
	特別展「飛鳥遺珍」	10,454	特別展「花開く都城文化」	5,743	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年 「キトラ古墳と天の科学」	12,862
	企画展「飛鳥の考古学2011」	2,016	冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１２」	1,537	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり －大地にきざまれた記憶－」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線－」	2,504
			第３回飛鳥資料館写真コンテスト展「神々の山ー大和三山のある風景ー」	1,911	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 -縄文・弥生・古墳から飛鳥へ-」	2,658		
					ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046				
					秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132				
					発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008				
					冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１３」	1,851				

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 入場料収入

（単位：円）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
国立文化財機構　計	804,337,682	814,309,524	673,986,101	1,030,664,932	1,090,121,158
東京国立博物館	428,268,290	375,602,560	315,141,843	531,481,636	554,557,574
京都国立博物館	71,429,440	67,028,455	39,724,945	152,807,735	194,709,634
奈良国立博物館	213,777,640	207,961,850	225,693,950	238,881,550	218,197,990
九州国立博物館	90,862,312	160,398,639	89,050,933	104,274,641	118,989,130
飛鳥資料館	4,058,960	3,318,020	4,374,430	3,219,370	3,666,830

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1)開館期間　4月1日～28年3月31日(307日間)　　平常展のみの開館日数　54日間

2)会　　場
①本　館　1階、2階
②東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
③表慶館　1階、2階
④法隆寺宝物館　1階、2階　(27年5月20日～28年3月14日まで休館)
⑤平成館　1階
⑥黒田記念館（28年1月18日より休館）

3)陳列品総件数　8,911件(うち国宝164件、重要文化財660件)
①本館・平成館企画展示室　4,048件(うち国宝 77件、重要文化財295件)
②東洋館　3,071件(うち国宝　0件、重要文化財 41件)
③表慶館　0件(うち国宝　0件、重要文化財　0件)
④法隆寺宝物館　194件(うち国宝 10件、重要文化財153件)
⑤平成館考古展示室　1,420件(うち国宝 77件、重要文化財166件)
⑥黒田記念館　178件(うち国宝　0件、重要文化財　5件)

4)陳列替件数　6,930件　・　陳列替回数　　延べ331回

5)入場料金
黒田記念館以外　　一般620円、大学生410円
黒田記念館　無料

6)特集　全31件

●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館 特別2室	親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり	27年4月7日 ～5月17日	40(0.0)
	＜主な作品＞象の頭をした神さまの仮面、象の形をした黒い器 、中国風の建物と子どもたちをのせた象の香炉、象、普賢菩薩を乗せた白い象（模本）		
	春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさを伝える。国立科学博物館、上野動物園との連携企画、国際博物館の日記念イベント「動物めぐり」（2015年度で10回目）の関連展示。今回は子どもから人気が高く、多くの作品にも登場する「象」をとりあげる。日本およびアジアの各地域と国でつくられた絵画、彫刻、工芸などさまざまな色、形、大きさの象をテーマとした作品を「象のパレード」と称した小テーマで見た目にも楽しく展示する。さらに「ほとけさまを乗せた白い象」、「象を洗う」、「象が日本にやってきた」という小テーマを設ける。また、象牙でできた根付の展示を補助するため、上野動物園や科学博物館から加工前の象牙を借用し展示する。		
本館 14室	日御碕神社の甲冑と模写図	27年4月7日 ～7月5日	11(2.1)
	＜主な作品＞●白糸威鎧、残欠類、出雲国日御崎宝物頼朝卿甲冑図（日御崎什物図　第1巻のうち）、甲全図（温古図譜　甲冑のうち）、◎黒韋肩裾取威腹巻		
	島根県日御碕神社の白糸威鎧は、文化2年(1805)松江藩主松平治郷の命で修理されて現状となっている。その際、取外された威糸や紐類などはすべて保管され、修理記録の文書も残されていて江戸時代の甲冑修理の模範例として著名である。　今まで展示する機会のなかった残欠類や文書と修理前の模写図、あわせて安政3年(1856)に修理された同社の黒韋肩裾取威腹巻を展示して江戸時代の甲冑修理や模写の一例を紹介する。		
本館 特別1室	鳥獣戯画と高山寺の近代 ー明治時代の宝物調査と文化財の記録ー	27年4月28日 ～6月7日	14(0.4)
	＜主な作品＞鳥獣戯画　甲巻（模本、◎壬申検査社寺宝物図集第六、◎高山寺仁王門（壬申検査関係写真のうち）、鳥獣戯画　乙巻（模本)、鳥獣戯画　丙巻（模本）、鳥獣戯画　丁巻（模本）		
	高山寺に所蔵される国宝・鳥獣戯画。平成21年（2009）から4年をかけた修理が行なわれたが、今からおよそ130年前の明治14年(1881)にも、国立博物館の前身である博物局によって「修繕」が成されている。　そのきっかけとなったのが明治5年(1872)、町田久成、蜷川式胤らによって行なわれた「壬申検査」と呼ばれる宝物調査だった。同年7月21日から23日の間、調査団は高山寺を訪れ、今なお高山寺に伝えられる文化財を眼にしているが、その中には「鳥羽僧正筆画巻物　四本」とある鳥獣戯画も含まれていた。おそらくはこの宝物調査により修理の必要性が説かれ、およそ10年後に修理がなされたのである。　修理が完成した後、この貴重な文化財の記録を残すため、二つの方法がとられた。一つが前近代を通じ連綿として培われた「模写」という方法であり、いま一つが「写真」という新たな記録の方法だった。　この特集では、近代における鳥獣戯画という文化財、そして高山寺をめぐる状況を、明治5年の壬申検査の記録や、その後に写された模本や写真資料などからたどる。あわせて、「模写」に加えて「写真」という新たな文化財の記録方法が導入されるようになった最初期の事例の一つとして、鳥獣戯画の二つの記録法を紹介する。なお本特集では、鳥獣戯画全四巻の模本のうち、甲巻の全場面を、展示期間を通じて一挙公開する。		

本館 特別 2 室	平成 26 年度新収品	27 年 5 月 19 日 ～5 月 31 日	40(0.0)
	＜主な作品＞林逋帰亭図屏風、〇融通念仏縁起絵巻断簡、古今和歌集巻第一断簡(関戸本）、円形切子碗、押出如来立像		
	平成 26 年度に新たに収蔵品に加わった作品のうち、39 件の文化財を展示する。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく。		
東洋館 8 室	清時代の書	27 年 6 月 9 日 ～8 月 2 日	24(0.0)
	＜主な作品＞隷書崔子玉座右銘横披、篆書白氏草堂記六屏、楷書嬌舞倚床図便面賦軸、篆書張茂先励志詩四屏		
	清時代も 18 世紀の末頃になると、考証学の進展をうけて金石学が盛んとなり、従来の書の流れを大きく変える碑学派の人々が活躍するようになる。平成 27 年(2015)は、碑学派の中心人物となった鄧石如の没後 210 年、包世臣の没後 160 年にあたる。この特集はこれを記念して、清時代の書に焦点をあて、清初から碑学派が勃興する 19 世紀までの書の流れを概観する。		
本館 特別 1・2 室	呉服商「大彦」の小袖コレクション	27 年 6 月 9 日 ～8 月 2 日	56(0.1)
	＜主な作品＞◎小袖 白練緯地松皮菱竹模様、小袖 白綸子地斜縞歌文字模様、小袖 鬱金綸子地染分花の丸模様、振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様、小袖 浅葱縮緬地唐山水模様		
	「大彦」は、大黒屋・野口彦兵衛(1848～1925)の手掛けるきもの意匠や染の技術によって一世を風靡し、髙島屋や三井と並ぶ服飾の名門と称された呉服商である。野口彦兵衛は、明治 8 年(1875) 日本橋橘町に「大彦」を開業、明治 20 年代から江戸時代の小袖を蒐集し始めた。そのコレクションの中には後に重要文化財となった、徳川家康ゆかりと伝える「小袖 白練緯地松皮菱竹模様」(I-3865)も含まれる。　明治期において江戸の小袖は古着以外のなにものでもなく、そこに歴史的、美術的価値を見出す向きはほとんどなかった。小袖コレクターとして著名な野村正治郎(現在コレクションは国立歴史民俗博物館蔵)や、吉川観方(現在コレクションは奈良県立美術館・京都府立総合資料館・福岡市博物館蔵)等が近世の染織品の蒐集に力を注ぎコレクションを築き上げた時期は、明治後半から大正期にかけてである。大彦のコレクションは、現在知られる小袖コレクションのなかで、もっとも早い時期に形成されたという点で特に注目に値する。　また、大彦コレクションの小袖には、野口彦兵衛が書き付けたとみられる墨書が多く付随する。墨書付箋には制作年代を示す言葉や「御殿模様」「加賀染」など模様技法が記され、大正期以降さかんとなった京都における風俗研究に先んじて、野口が独自の風俗考証を試みていたことが窺えるのである。　大彦の小袖コレクションは、震災や戦争により数を減らしたものの散逸することなく保管され、昭和 40 年代に一括して東京国立博物館の所蔵するところとなった。本特集は、同コレクション約 50 件を展観し、女性風俗史研究の先駆けともいえる野口彦兵衛の視点を併せて紹介するものである。		
東洋館 8 室	描かれた器物	27 年 6 月 30 日 ～8 月 2 日	47(0.0)
	＜主な作品＞骨董舗図（模本）、琴棋書画図、黒漆輪花椀、三彩金襴手龍濤文水注、五彩花鳥文水注、文会図		
	絵画に描かれた器物は、単なる添景描写ではなく描かれた人物の個性や役割を示す、重要な表現の一部であった。そのため画中器物の形は、実際の器物を想起させるものから、空想に近いもの、わざと倣古の形をとるものなど、実に多様な表現がなされている。当館はこのような、器物を描く絵画と描かれた器物の両方を豊富に所蔵しており、それらを対比的に展示することができる数少ない博物館の一つである。このコレクションの特性を生かし、絵画のもつ意味と器物の持つ意味の二つを同時に展示することで、分野を超えた研究の機会とするとともに、絵画と器物の作品としての魅力を再発見できる展示とする。		
本館 15 室	養生と医学	27 年 7 月 7 日 ～8 月 30 日	29(2.1)
	＜主な作品＞◎銅人形　、●医心方　巻第 9　咳嗽部		
	日本の医療は、江戸時代中期に西洋医学の導入によって飛躍的に進歩し、優れた蘭方医を多く輩出した。明治維新以後は、欧米の近代医学を取り入れ、最近にいたっては遺伝子に基礎を置いた病気の発見や再生医療などに発展しつつある。その一方で、江戸時代以来行われているさまざまな養生のあり方が、予防医学の観点から注目されている。展示では、日本最古の医学書である『医心方』や、東洋医学の基礎となった「つぼ」を示す銅人形、人々が親しんだ養生書、西洋医学の影響をうけた人体解剖模型、シーボルトの携帯用医療器具など、養生と医学との関連を考える上で重要な資料をご紹介する。		
本館 14 室	能面 女面の表情	27 年 7 月 7 日 ～10 月 4 日	32(0.0)
	＜主な作品＞能面　増髪女、◎能面　小面		
	能面には、老人、男女、鬼神の面などの種類があるなかで、今回は能面と言えば誰もが真っ先に思いつく女面を取り上げる。女面は、年齢、品格、性格などに応じ様ざまな種類があり、同種の面でも表情が異なるものもある。　「能面のよう」という言葉は無表情とい意味で使われ、女性の面は変化に乏しいが、わずかな差を見逃さないように注意すれば、能面の鑑賞が面白くなる。　今回の特集では表情の違いを示しつつ、般若や狂言面なども展示し、能楽の女性表現の多彩さをご覧いただこうとするものである。		
本館 14 室	キリシタン関係遺品にみる聖母マリア信仰	27 年 7 月 7 日 ～8 月 30 日	53(0.34)
	＜主な作品＞聖母子図（チプス・カスチタチス）、祈祷書、◎板踏絵　無原罪の聖母、◎聖母像（親指のマリア）		
	当館のキリシタン遺品について聖母マリアをテーマに展示する。カトリック教会ではマリア信仰が篤く、16 世紀半ばから日本で布教を始めたイエズス会や托鉢修道会もカトリック教宗派であったため、日本でもマリア信仰が広がった。当館にあるキリシタン遺品もロザリオ、銅牌、メダイなど、マリア信仰を示すものが多くある。なかでもメダイは浮彫された題材から製作年代がある程度特定できることがわかり、日本にもたらされた年代も推定できつつある。　またキリスト教禁教時には、白磁の観音像を聖母マリアに見立てたマリア観音像や宣教師が将来した銅牌とは異なる顔つきの無原罪のマリア像が浮彫された銅牌など、日本独特の		

	マリア信仰を見ることができる。禁教時代に宣教師シドッチが持参したとされる「親指のマリア」も展示する。		
東洋館 3 室	親と子のギャラリー　ミイラとエジプトの神々	27 年 7 月 22 日 ～9 月 13 日	34(0.0)
	＜主な作品＞イニ像浮彫、パディインヘルのミイラの包み布、パシェリエンプタハのミイラ		
	同時期に開催される特別展の関連展示として「親と子のギャラリー　ミイラとエジプトの神々」と題し、館蔵の作品に他館からの借用作品を加えて展観する。当館におけるエジプト考古の代表作品である「パシリエンプタハのミイラ」を中心に「１、古代エジプトでは、死んだらどうなる？」「２、古代エジプトでは、動物も神様だった！？」の２つのテーマで展示し、子どもたちに人気のあるミイラと、それにまつわるエジプトの死後の世界を中心に紹介する。		
本館 特別 2 室	後水尾院と江戸初期のやまと絵	27 年 8 月 11 日 ～9 月 23 日	8(1.1)
	＜主な作品＞十二ケ月歌意図巻、立花図屏風、◎古今和歌集		
	後水尾院は、安土桃山時代末から江戸時代初期にかけて天皇として在位し、徳川秀忠の娘で家光の妹、東福門院和子を中宮として迎えたことにより、江戸幕府や武家とも深い関係にあった。そして、和歌や立花など、江戸時代初期の宮廷文化を主導し、以後の江戸時代の武家文化にも大きな影響を与えた。本展示では、江戸時代文化の始まりとつながりの深い後水尾院の活動の一端を美術作品を通して紹介し、近世美術の理解に役立てることを目的とする。		
本館 特別 2 室	漢･唐時代の陶俑	27 年 9 月 1 日 ～12 月 23 日	28(0.0)
	＜主な作品＞加彩舞人・楽人、緑釉犬、加彩武人、三彩馬、三彩鎮墓獣		
	漢・唐時代の代表的な陶俑を東洋館リニューアル以降これまでにない規模で展示し、ほぼ同時期に特別展会場で展示される秦の兵馬俑との違いに触れつつ、造形の特徴と多彩な魅力を紹介する。このほか、大正から昭和初期に中国から大量に将来された漢・唐時代の陶俑を含む出土品が、安田靫彦・小林古径など当時の画壇を牽引した画家たちによっても愛蔵された歴史について触れる。とくに、絵画作品（パネル）とそこに描かれた対象に近い形状の陶俑を並置させることで、静物画の画題や歴史画の考証資料として中国の出土品が果たした重要な役割に注目する。		
東洋館 5 室	東洋の白磁―白をもとめ、白を生かす／不孤斎が愛した小さな器―茶入・振出・香合	27 年 8 月 18 日 ～12 月 23 日	61(0.2)
	＜主な作品＞◎白磁鳳首瓶、白磁刻花蓮花文鉢、白磁四耳壺		
	本特集は白磁に焦点をあてるものである。まず北斉にはじまり、元時代の景徳鎮窯まで中国白磁完成に至る展開を邢窯、定窯、景徳鎮窯など窯別、時代別に展観する。さらに白色をもとめ、白土で化粧をし、透明釉をかけた磁州窯の白釉陶や、ベトナム、日本、朝鮮でつくられた白磁・白釉陶をとりあげ、それぞれの文化的背景に基づいて独自に白い器を完成させてゆく様子を展観し、東アジアにひろがったさまざまな白磁の魅力を紹介する。　のぞきケースでは、広田不孤斎寄贈の中国陶磁のなかから、不孤斎がとくに愛玩した茶の湯の器、薄茶器や振出、香合など、小さくて愛らしい作品をまとめて紹介する。		
本館 特別 1 室	春日権現験記絵模本Ⅱ―神々の姿―	27 年 9 月 1 日 ～10 月 12 日	14(0.0)
	＜主な作品＞春日権現験記絵（模本） 巻第一、春日権現験記絵（模本） 巻第六、春日権現験記絵（模本） 巻第十、春日本地仏曼荼羅、春日鹿曼荼羅		
	春日権現験記絵模本の魅力とともに、春日信仰の諸相を様々な角度から紹介する試みの第２回目。聖地春日野の景観に着目した前回に続き、今回は「神々の姿」をテーマとする。　神は仏が仮の姿として現われたとする本地垂迹説を背景に、日本の神々は様々な姿で表わされてきた。春日権現験記絵模本でも、春日の神々は束帯、貴女、童子、仏など、様々な姿で描かれている。本特集では、験記絵模本とともに、春日本地仏曼荼羅、春日鹿曼荼羅などから、多様な春日の神々の姿を紹介する。		
東洋館 8 室	中国書画精華―日本における受容と発展―	27 年 9 月 8 日 ～11 月 29 日	41(4.11)
	＜主な作品＞◎寒江独釣図、◎猿図、●出山釈迦図、●雪景山水図、雑画冊、張氏通波阡表巻、楷書玄妙観重脩三門記巻、 ●無隠元晦あて法語		
	今年も、秋の中国美術の名品展として「中国書画精華」を開催する。わが国に古くから舶載された中国の書画は、日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に、宋元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗とともに数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。東山御物に代表される中国の書画の名品の中には、中国では伝わることがなく、今日、日本においてのみ伝世しているものも少なくない。また、明治以降、新たに中国本来の文人趣味を理想とする優れた収集家によって、中国伝世の歴代書画の精品が、少なからず日本に伝えられた。それらは、中国の書画の神髄を示すものといえる。今回は中国の名品がいつごろ日本に伝えられ、どのような影響を与えてきたか、日本における受容と発展に視座を置きながら、名品の数々を紹介する。		
本館 特別 2 室	江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉―	27 年 9 月 29 日 ～10 月 25 日	18(0.0)
	＜主な作品＞草花魚貝虫類写生図巻 巻 6、草花写生図巻 秋		
	古来、植物などを客観的態度で描く「写生」が広く行われ、そこから花鳥図や花卉図が生まれた。とくに近世の写生図は、江戸中期の博物学の興隆と共鳴しながら、多彩な花卉図へと展開していった。その先駆的な作例である狩野探幽筆「草花写生図巻」と狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」が当館に所蔵されている。探幽・常信は、伝統や古典に依拠しながらも、明や西欧の新たな知の影響をうけて、「記録」としての写生にめざめていった。そうした江戸の写生図の源泉を丁寧に解説し、豊かな江戸の花卉図の一端を紹介する。		
本館 14 室	後藤一乗　幕末の華やかな刀装と絵図	27 年 10 月 6 日 ～ 12 月 13 日	25(0.2)
	＜主な作品＞沃懸地鳳凰蒔絵小脇指 、◎吉野龍田図大小揃金具、孝明天皇御剣御絵形（秀光御剣　佩表）、紫檀地花鳥文蒔絵螺鈿太刀		

	幕末を代表する装剣金工の後藤一乗は、幕府の抱工として栄えた後藤家の京都の分家に生まれ、同家の格調高い表現を保ちつつ、家柄に捉われない自由な作風の作品を製作した。当館には、宮中から一乗へ製作が依頼された刀装が所蔵され、これらのなかには文様を狩野永岳、蒔絵を山本光利など、禁裏御用を勤めた工人と合作したものがあって貴重である。本特集では、こうした刀装やその製作で用いられたと思われる絵図、一乗の刀装具やその弟子たちの作品を展示し、気品ある華やかな世界をご覧いただく。		
平成館 企画展示室	伊能忠敬の日本図	27 年 10 月 14 日 ～12 月 23 日	12(0.9)
	＜主な作品＞◎日本沿海輿地図（中図） 北海道東部、◎礼文島・利尻島図		
	伊能忠敬は下総・佐原の商家の経営者を務めて隠退した後、天文学や地理学を学び、ほとんど独力で蝦夷地を測量して、幕府の注目するところとなった。その後幕府の命を受けて生涯を全国の測量に捧げ、その成果は日本全図である「大日本沿海輿地全図」として結実した。当館には伊能忠敬とその関係者が作成に関与した各種日本図が伝来している。本展示では代表的な伊能図と、最初の測量となった蝦夷地（北海道）に関連した歴史資料などを紹介する。また同時期にミュージアムシアターで伊能図に関する番組を上映し、相互の連携を図る。		
平成館 考古展示室	須恵器の展開	27 年 10 月 14 日 ～12 月 23 日	32(0.0)
	＜主な作品＞把手付短頸壺、樽形瑞、〇子持高坏、硯		
	古墳時代中期・5 世紀に朝鮮半島から新しい窯業技術が伝えられ、日本列島で須恵器生産が始まった。技術のみならず、その器形にも朝鮮半島の陶質土器に共通する特徴がみられ、須恵器の生産開始以後も、朝鮮半島との関係がうかがわれる須恵器がみられる。一方、日本列島での生産が各地で展開する中で、日本列島の独自の特徴も現れてくる。本特集においては、須恵器の登場から奈良時代までの須恵器を展示し、技術と交流の歴史と、造形の多様性を示す。		
本館 特別 1・2 室	一遍と歩く 一遍聖絵にみる聖地と信仰	27 年 11 月 3 日 ～12 月 13 日	23(1.6)
	＜主な作品＞◎遊行上人縁起絵、◎二河白道図、陶製外筒、◎阿弥陀如来および両脇侍立像、◎消息、◎因幡堂薬師縁起絵、 ●一遍聖絵 巻第七、◎石清水八幡曼荼羅図		
	国宝「一遍聖絵（一遍上人伝絵巻）」（A-10944）は、時宗の祖・一遍（1239～1289）の生涯をつづった伝記絵巻である。一遍は、念仏聖として、全国さまざまな社寺や先祖ゆかりの地を遊行し、踊念仏や賦算（念仏札配布）によって布教を行った。十回忌にあたる正安元年（1299）に制作された本絵巻は、その様子を壮麗な聖地の風景とともに伝えている。 本特集では、当館所蔵の巻第七と江戸時代の模本を手がかりとして、熊野、善光寺、因幡堂、当麻寺、石清水八幡宮など代表的な聖地・信仰を所縁の絵画、彫刻、考古遺物とともに紹介する。		
平成館 考古展示室	高知・愛媛の考古学	27 年 12 月 1 日 ～ 28 年 3 月 6 日	42(0.0)
	＜主な作品＞木胎漆器、広形銅矛、線刻絵画付壺、卜骨		
	平成 27 年度の考古資料相互活用事業の一環として、高知県と愛媛県からの借用作品により、縄文時代晩期から古墳時代初頭までの四国の考古学を紹介する。 縄文時代晩期は、稲作農耕の定着に先立つ新たな時代の胎動がみられる時期でもあった。東北地方の縄文土器である大洞式土器が四国や九州にまでもたらされ、祈りの道具である土偶が西日本でも独特の発展を遂げるなど、時代の転換点に特有の様相がうかがわれる。 弥生時代には、各地に個性的な弥生文化がみられるとともに、地域間の交流があった。北部九州産とみられる銅矛は、この時代の九州と四国の交流の産物である。 古墳時代初頭には、山陰地方に独特の大型甕形土器や、畿内地方の庄内式土器などがもたらされ、地域間の交流が盛んになった。畿内を中心とした大規模な交流は、新たな政治権力の出現に関わるものと考えられている。		
東洋館 8 室	顔真卿と唐時代の書	27 年 12 月 1 日 ～ 28 年 1 月 31 日	28(0.3)
	＜主な作品＞妙法蓮華経 巻第二、◎大方広仏華厳経、◎化度寺碑、九成宮醴泉銘、伊闕仏龕碑、孟法師碑、麻姑仙壇碑		
	唐時代には欧陽詢・虞世南・褚遂良ら唐の三大家の伝統を受け継ぎながら、顔真卿が顔法と称される筆法を創出した。王羲之や唐の三大家とは異なる美意識のもとにつちかわれた顔法は、王羲之の書とともに、後世にきわめて大きな影響を与えた。本展は平成 27 年が顔真卿の没後 1230 年であることにちなみ、顔真卿をはじめとする唐の名家の拓本や、敦煌出土の宮廷写経など、書が最高峰に到達した唐時代の優品を紹介する。台東区立書道博物館との連携企画第 13 弾。吉備地方は古墳時代における中心的な須恵器生産地のひとつであり、特色ある製品も生産している。馬をはじめとする動物・人物装飾を施した須恵器はその作例のひとつである。本特集陳列では、午年にちなみ、馬の刻文や馬形の装飾を持つ作品を含めた陳列を通じて、吉備地方の須恵器の実体を描出した。あわせて、当該地域の古墳時代研究において、編年上重要な一括資料等を紹介した。上記を組み合わせた通時的な展示によって、当該地域における６世紀を中心とする須恵器の変遷も紹介した。		
平成館 企画展示室	江戸幕府御用絵師板谷家の仕事	28 年 1 月 2 日 ～2 月 14 日	15(0.0)
	＜主な作品＞琴棋書画図屏風、昔噺桃太郎図、羅陵王図(模本)、図案ほか粉本貼り込み画帖、花鳥粉本貼り込み画帖		
	江戸幕府の御用絵師住吉広守（1705～77）の弟子板谷慶舟広当は、住吉家を継いだ後、天明元年（1781）家督を譲って隠居したが、翌年新たに幕府から召しだされ、御用絵師としての板谷家がはじまった。当館では、平成 21 年度に板谷家の御子孫より「板谷家伝来資料」として同家に伝わる粉本・下絵類のご寄贈をいただき、平成 23 年には、これらの資料に館蔵の板谷派作品を加えた特集陳列をおこなった。今回は、個人所蔵の作品により板谷家歴代の作品を紹介するとともに、本画制作と関わりある下絵類を展示する。		
東洋館 8 室	藍瑛とその師友－家族と工房－	28 年 1 月 2 日 ～2 月 14 日	23(0.0)
	＜主な作品＞峨眉飛雪図、剣閣飛瓊図、牡丹図、玉堂富貴図、天目喬松図、倣古山水図冊		
	藍瑛は杭州を中心に活躍した画家で、董其昌などに古典絵画や文人画の理念を学ぶ一方、地元の画風を取り入れた画風を創出し、浙派の殿将（しんがり）とも呼ばれた重要な画家である。その画蹟は江戸時代を通じて日本に多くもたらされ、画壇にも大きな影響を与えた。しかしながらその全貌は、いまだ明らかではない。この展観では藍瑛の真作を中心に、その工房と一族による作品を		

	一同に展示することで、橋本コレクションを活用するとともに、その画風の広がりを検証し、杭州地区における「藍瑛派（武林派）」の全貌に迫ろうとする、日本初の試みとなるものである。		
本館 特別１・２室	博物館に初もうで　猿の楽園	28 年 1 月 2 日 ～1 月 31 日	43(1.0)
	＜主な作品＞猿猴図、〇秋山遊猿図、●十六羅漢像（第十一尊者）、井桁釜		
	平成 28 年の干支である「猿」にちなんだ美術工芸品を展示する。猿は集団で暮らす生態をもつことから群像で絵画などの題材となることが多く、その全身を覆う柔らかな体毛は森狙仙などの絵画で知られる通り、重要な造形要素として知られている。一方、人間との関係に注目すると、猿は人間との類似性から親しみをもって描かれることが多く、親子猿などの愛らしさのある表現がみられる。さらに、猿は古くから人間の周辺にいたことで宗教、民族の諸文化のなかで登場し、ときには擬人化されてあらわされている。本特集では、猿の生態や特徴、文化史的側面から猿の表現を紹介し、その造形の面白さをご覧いただく。		
本館 15 室	中国史跡写真	28 年 1 月 2 日 ～2 月 28 日	66(0.0)
	＜主な作品＞明太祖孝陵 石獣（駱駝）側面、棲霞寺塔、明成祖長陵 大石坊		
	建築史家関野貞（1868～1935）は大正時代に中国の史跡を踏査し、写真による記録を多数残した。竹島卓一（1901～92）は昭和初期に関野を助けて中国史跡の調査に従事し、関野没後はその成果と自ら撮影した厖大な写真を今日まで伝えた。今回、近年当館に寄贈され、東京大学東洋文化研究所との共同調査によってその全貌が明らかになった関野及び竹島による中国史跡写真の一部を紹介する。		
本館 14 室	寿ぎと絵替わりの美―扇散らし―	28 年 1 月 2 日 ～2 月 28 日	27(0.2)
	＜主な作品＞◎扇散蒔絵手箱・大倉集古館、◎扇散蒔絵手箱		
	新春に因み、「末広がり」の意匠としてのめでたさや、絵替わりの楽しさに焦点をあてながら、扇散らしの図柄の意味とその展開をたどる。扇散らしの文様は、扇の変化に富んだ形や、扇面に描き込まれた画中画の面白さが好まれて、鎌倉時代以降、さまざまな工芸品に用いられてきた。この展示では、館蔵品（H-32）や大倉集古館所蔵（寄託中）の重要文化財「扇散蒔絵手箱」をはじめとする中世の蒔絵手箱の名品を集め、扇散らし文様の魅力に迫る。また化粧道具から文具、香道具、馬具にいたる近世の蒔絵作例や、絵画や金工・陶磁・染織などの作品とあわせ、扇散らしの意匠の広がりと展開をご覧いただく。		
本館 14 室	おひなさまと日本の人形	28 年 3 月 1 日 ～4 月 10 日	55(0.0)
	＜主な作品＞古今雛、官女雛、立雛、御所人形、牙首雛、紫宸殿		
	３月３日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行いたい。今回は当館の雛人形を代表する古今雛（山本米子氏寄贈）と牙首雛（三谷てい氏寄贈）、またこれらに本来付属する作品ながら、これまで展示されなかった官女雛の優品と紫震殿（御殿飾り）を中心に展示する。また天児・這子や紙雛にはじまる雛人形の発展を概観する。一方、日本の人形文化を代表するものとして御所人形の名品も一同に展示し、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えたい。		
平成館 考古展示室	経塚出土の瓦経	28 年 3 月 8 日 ～7 月 18 日	40(0.14)
	＜主な作品＞ ◎瓦経・三重県伊勢市浦口町旦過 小町塚経塚出土、瓦経・鳥取県倉吉市桜 大日寺経塚出土、◎如意輪観音像絵瓦・岡山県倉敷市浅原 安養寺経塚出土、◎阿弥陀如来坐像・兵庫県姫路市香寺町 極楽寺経塚出土、滑石経 ・伝福岡県筑後市若菜 八幡宮出土		
	瓦経は粘土板に経文が刻まれた後に焼成された経典の一種である。11 世紀後半から 12 世紀後半の約 100 年間にわたり西日本の経塚に埋納され、これまで 40 ヶ所を超える発見例がある。通常経塚には紙本経典が納められた経筒が土中に埋納されるため、発見時には経典が朽ちて失われている場合が多い。しかし、瓦経は紙本経典に比べて土中においても遺存しやすいことから、考古資料のみならず文字資料においても貴重な資料といえる。　現在、当館には最古の瓦経と考えられる鳥取県倉吉市大日寺経塚出土瓦経をはじめ、兵庫県姫路市極楽寺経塚出土瓦経、三重県伊勢市小町塚経塚出土瓦経など、代表的な資料が所蔵・寄託されている。また、今では所在不明となっている瓦経の拓本も伝来している。　今回はこれまで部分的に陳列されてきたこれらを含め関連資料を一堂に陳列し、来館者に瓦経の特徴や刻まれた経文の解説を行うとともに、造営の背景や造営に関わった集団など、瓦経研究の現状を踏まえ分かりやすく紹介する。		
東洋館 5 室	中国陶磁の技と美	28 年 3 月 15 日 ～5 月 15 日	44(0.1)
	＜主な作品＞ 加彩馬、青花人物図鉢、三彩金襴手龍濤文水注、〇青磁三足香炉		
	本特集はおよそ 6 世紀から 18 世紀にいたる中国陶磁発展の歴史をたどりながら、各時代を象徴する造形、線彫りや青花、五彩といった装飾をとりあげて、そのすぐれた技を紹介するものである。まるで金属器のような鋭い形、生命力にあふれた動物表現、巧みな筆使いによる絵付け、玉膚にも優るなめらかな釉の追求など、さまざまな視点で中国陶磁の魅力に迫る。		
本館 特別 1 室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	28 年 3 月 15 日 ～4 月 24 日	23(0.1)
	＜主な作品＞ 土偶、◎色絵花鳥文大深鉢、鳳凰文刺繍残欠、平絹・繖幡残欠、坪内老大人像、坪内老大人像画稿		
	本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料などさまざまな分野の作品を展示し、対症修理を施した作品やその工程を示す資料なども併せて紹介する。　具体的には、分野、形態、技法が異なる作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルなどを用い、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただく。　また、平成 27 年 9 月末に修理を終えた「国宝 鷹見泉石（A-9972）」が同期間に本館 2 室（国宝室）にて展示されるため、本特集では鷹見泉石の修理工程の詳細をパネルにて紹介する。		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」

・会　　期　平成27年2月16日（月）～平成27年5月10日（日）（69日間）
・会　　場　アメリカ・フィラデルフィア美術館
・主　　催　アメリカ・フィラデルフィア美術館、文化庁
・特別協力　東京国立博物館
・作品件数　119件
　担当研究員数：2人
・来館者数　77,214人
　展覧会の内容：
日本の絵画史上、最大最長の画派として室町時代から江戸時代末まで、画壇の中心に君臨し続けた狩野派の作品を紹介した。流派の始祖・正信から明治維新後に活躍した幕末期、狩野派に学び近代日本画に大きな足跡を残した狩野芳崖、橋本雅邦までの400年余に及ぶ狩野派絵師たちの作品を網羅的にとりあげ、画題内容、画面形式などに注目しながら、各時代における様々な表現の特色とその展開を概観した。

　講演会等：なし

展覧会名：特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」

・会　　期　平成27年3月17日（火）～平成27年5月17日（日）（56日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、インド政府文化省､コルカタ・インド博物館､インド大使館､日本経済新聞社、BSジャパン
・協　　賛　野崎印刷紙業、三井物産
・協　　力　エア インディア
・作品件数　91件
・来館者数　97,300人(目標60,000人・達成率162.1%)
・入場料金　一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生800円(600円／500円)、中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　80%
　担当研究員数：2人

　展覧会の内容：
インドのコルカタ（旧カルカッタ）に所在し、1814年に創立したアジア最古の総合博物館であるインド博物館が所蔵する、古代初期を代表するバールフット遺跡の出土品、仏像誕生の地であるガンダーラやマトゥラーの美術などを展示し、インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった。

講演会等：「インドの仏ー古代初期から密教まで」講師：小泉英恵(企画課長)　平成館大講堂　4月11日（土）

展覧会名　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」

・会　　期　平成27年 4月28日（火）～平成27年6月7日（日）（36日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、高山寺、朝日新聞社
・特別協賛　高島屋
・協　　賛　カネカ、三井物産、凸版印刷
・協　　力　集英社、ビックカメラ、三井住友銀行、あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　123件
・来館者数　239,115人(目標180,000人・達成率132.8%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料、＊( )内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
　担当研究員数：3人

　展覧会の内容：
日本で最も有名な絵巻の一つである国宝・鳥獣戯画は、墨線のみで動物や人物たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品で、近年修理を終えた。本展覧会では、鳥獣戯画全4巻と、いま存在が確認できる断簡5幅も展示した。また、鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺に伝わる、鎌倉時代の高僧明恵ゆかりの文化財も合わせて公開した。

講演会等：「鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝」講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)　平成館大講堂　5月2日（土）
「鳥獣人物戯画の修理」講師：岡岩太郎(岡墨光堂代表取締役)・大山昭子(岡墨光堂修復部長)　平成館大講堂　5月16日（土）

リレートーク「鳥獣人物戯画 甲巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「信仰に捧げた若き日の熱誠―国宝 仏眼仏母像と明恵上人―」講師：大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)　平成館大講堂　5月1日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 乙巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「故郷に残る明恵のおもかげ―仏画と仏像―」講師：大河内智之(和歌山県立博物館主査学芸員) 平成館大講堂　5月8日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 丙巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「華厳海会善知識曼荼羅―明恵上人と華厳教学―」講師：谷口耕生(奈良国立博物館教育室長)　平成館大講堂　5月15日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 丁巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「仏師湛慶と動物彫刻」講師：大淺湫毅(教育講座室長)　平成館大講堂　5月22日（金）

展覧会名：「クレオパトラとエジプトの王妃展」

・会　　期　平成27年 7月11日（土）　～平成27年9月23日（水）（66日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK,NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　外務省
・協　　賛　大日本印刷、トヨタ自動車
・協　　力　日本航空、KLMオランダ航空
・作品件数　181件
・来館者数　267,959人(目標180,000人・達成率148.9%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
絶世の美女として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たちの魅力を、世界各地の名だたる美術館や博物館から古代エジプトの選りすぐりの名品を集めて紹介した。

講演会等：「クレオパトラとエジプトの王妃」講師：クリスティアーヌ・ジェグレール(ルーブル美術館古代エジプト美術部門名誉部長/本展監修者)　平成館大講堂　7月11日（土）
「遺跡に見る古代エジプトの女王・王妃たち：発掘調査の現場から」講師：近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授／本展監修者）　平成館大講堂　9月5日（土）

キッズデーリレートーク　古代エジプトの謎ミニ探検「古代エジプトの動物について」講師：品川欣也（特別展室主任研究員）・「比べてみよう！王さまのすがた」講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）・「クレオパトラって誰？」講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）　平成館特別展示室　7月27日（月）

クレオパトラウィークギャラリートーク　講師：井上洋一(企画部長)　平成館ラウンジ　8月10日(月)、8月11日(火)、8月12日(水)、8月13日(木)

展覧会名：「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」

・会　　期　平成27年 9月8日（火）　～平成27年11月29日（水）（72日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、、ブルガリ、読売新聞社
・後　　援　イタリア大統領府、イタリア首相府、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、ローマ市
・作品件数　265件
・来館者数　142,000人(目標35,000人・達成率405.7%)
・入場料金　一般1400円(1200円／1100円)、大学生・高校生800円(600円／500円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　85%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
130年を越える歴史を持つ、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリの回顧展で、ローマの地に1884年に創業したブルガリの、創成期から今日に至るまでの貴重な作品の数々を展示した。

講演会等：なし

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

・展覧会名　特別展「始皇帝と大兵馬俑」
・会　　期　平成27年10月27日（火）～平成28年2月21日（日）（94日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　中国大使館
・協　　賛　野崎印刷紙業
・協　　力　全日本空輸
・作品件数　91件
・来館者数　483,809人(目標230,000人・達成率210.4%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　78%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
始皇帝の陵墓のほど近くに埋められた兵馬俑は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けている。本展では、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物を一堂に紹介し、始皇帝が空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った。

講演会等：「始皇帝が夢見た『永遠』―兵馬俑と発掘品から読み解く―」講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）　平成館大講堂　10月31日（土）
「銅車馬―始皇帝の乗った車駕―」講師：呉永琪（秦始皇帝陵博物院名誉院長）　平成館大講堂　11月28日（土）

トークイベント「びじゅチューン！ 井上涼×兵馬俑」講師：井上涼（映像作家）・柿沼郭（ＮＨＫアナウンサー）・松嶋雅人（平常展調整室長）・ 川村佳男（平常展調整室主任研究員）　平成館大講堂　11月21日（土）

国際シンポジウム「秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―」
基調講演「秦王朝と兵馬俑の考古学」講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）・報告1「秦鏡と秦人の“破鏡”習俗について」講師：宋遠茹（陝西省考古研究院副研究員）・報告2「秦王朝を駆けた馬」講師：菊地大樹（京都大学人文科学研究所特別研究員）・報告3「秦始皇帝陵および陪葬坑の考古学的新発見」講師：陳洪（秦始皇帝陵博物院副研究館員）　平成館大講堂　12月19日（土）

トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」講師：谷豊信（学芸研究部長）　平成館大講堂　1月20日（水）、1月21日（木）、1月22日（金）

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数：270日（名品ギャラリー開館日数：223日、特別展（琳派展）のみ開館日数：39日、庭園のみ開館日数：8日）
②陳列総件数：1,438件

特別展示等　全7件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集陳列	葵祭の美術―千年の伝統―	4月21日～5月31日	11件（重要文化財1件）
特集陳列	日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情	6月9日～7月20日	34件（重要文化財11件）
新春特集陳列	さるづくし―干支を楽しむ―	12月15日～28年1月24日	50件（国宝1件、重要文化財6件）
特集陳列	刀剣を楽しむ―名物刀を中心に―	12月15日～28年2月21日	19件（国宝2件、重要文化財8件、重要美術品1件）
特集陳列	獅子と狛犬	12月15日～28年3月13日	11件（重要文化財8件）
特集陳列	皇室ゆかりの名宝	28年1月26日～2月21日	28件（国宝1件、重要文化財11件、重要美術品1件）
特集陳列	雛まつりと人形	28年2月27日～3月21日	28件

③陳列替件数：1,145件

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」

・会　　期　27年4月7日～5月17日（37日間）
・会　　場　明治古都館（本館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
・協　　賛　野崎印刷紙業、大和ハウス工業、大林組
・協　　力　日本香堂
・作品件数　70件（うち国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件）
・来館者数　118,186人（目標来館者数80,000人・達成率147.8%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度94%

講演会等：5回　　参加者数合計 994人
・記念座談会
4月11日　日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する！！
山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）、井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員３号）、
山本英男（京都国立博物館学芸部上席研究員）
200名参加

・関連土曜講座
4月18日　生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い
京都国立博物館上席研究員　山本英男
200名参加
4月25日　新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に
同志社大学教授　狩野博幸氏
198名参加
5月2日　桃山時代の異国趣味
京都国立博物館研究員　福士雄也

196名参加
5月9日　早熟の天才、狩野探幽登場
成安造形大学教授　小嵜善通氏
200名参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸-仏教の典籍と美術-」
・会　　期　27年7月29日～9月6日(35日間)
・会　　場　平成知新館（１Ｆ２～６展示室）
・主　　催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
・作品件数　95件(国宝12件、重要文化財36件、重要美術品4件)
・来館者数　34,696人(目標来館者数31,000人・達成率111.9%)
・入場料金　一般520円、大学生260円

講演会等：3回　参加者数合計411人
・関連土曜講座
8月8日　京都大蔵会-その意義と役割-
佛教大学教授　松永知海氏
107名参加
9月5日　仏法東漸の道のり-大蔵経の成立と変遷-
花園大学教授　中尾良信氏
197名参加

・記念シンポジウム
8月29日　「仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり」
基調講演　司会：鈴木昌也(仏教大学)
講師：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)
座談会　司会：宮崎健司(大谷大学教授)
パネリスト：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)
中尾良信(花園大学文学部教授)、松永知海(佛教大学仏教学部教授)
107名参加

展覧会名：特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」
・会　　期　27年10月10日～11月23日（39日間）
・会　　場　平成知新館　1F彫刻展示室を除く全室
・主　　催　京都国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪、BSジャパン、京都新聞
・協　　賛　京都銀行、京都美術工芸大学、JR東海、日本写真印刷、パナソニック、ワコール
・協　　力　岩谷産業、オムロン、日本香堂
・作品件数　175件（うち国宝5件、重要文化財36件）
・来館者数　327,925人　目標来館者数120,000人・達成率273.2%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度 84%

講演会等：7回　　参加者数合計1,115人
・記念講演会
10月10日　くらしを彩る琳派の美
京都美術工芸大学学長　河野元昭氏
200名参加
・ミュージアムズ・フォー関連フォーラム
10月17日　琳派を飾る一展覧会から見えるもの一
123名参加
・国際シンポジウム
11 月 3 日　琳派 400 年記念国際シンポジウム「琳派この一作～私の見方・楽しみ方～」
井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員３号）、クリストフ・マルケ氏（日仏会館・フランス日本研究センター所長）、ジョン・カーペンター氏（メトロポリタン美術館日本美術キュレーター）、辻維雄氏（MIHO MUSEUM 館長）、山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）
200 名参加

・関連土曜講座
10月24日　「光悦の作陶一自在な発送と造形一」
京都国立博物館研究員　降矢哲男
114名参加
10月31日　「「琳派」の継承と広がり」
京都国立博物館研究員　福士雄也
109名参加
11月7日　「風神雷神図屏風の転生」
大和文華館学芸部長　中部義隆氏
200名参加
11月14日　「宗達の目の記憶」
大阪大学大学院文学研究科教授　奥平俊六氏
169名参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：207日)

②陳列件数：620件

名品展

珠玉の仏教美術(西新館)　376件

特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）　7件

中国古代青銅器(青銅器館)　237件

特別陳列等　全5件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	名匠三代－木内喜八・半古・省古の木工芸－	6月2日～6月28日	27件
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月8日～28年1月17日	51件（国宝3件、重要文化財5件）
特集展示	新たに修理された文化財	12月22日～28年1月17日	7件
特別陳列	お水取り	28年2月6日～3月14日	65件（重要文化財17件）
特別陳列	銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術	28年2月6日～3月14日	26件（重要文化財5件）

③陳列替件数：286件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展 」

・会　　期　27年4月7日(火)～5月17日(日)（36日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館第一室
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　67件（うち国宝13件、重要文化財16件）
・来館者数　10,561人(目標25,000人・達成率42.2%)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度84%
・公開講座：3回　参加者数合計　274人
　4月18日(土)「見返絵のある久能寺経について」梶谷亮治（名誉館員）/ 参加者数　87人
　4月25日(土)「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」野尻 忠（企画室長）/ 参加者数　85人
　5月 9日(土)「久能寺経と一品経」松原 茂（根津美術館理事長・学芸部長）/ 参加者数　102人
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：開館１２０年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」

・会　　期　27年7月18日（火）～9月23日（水・祝）（60日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞、ＮＨＫ奈良放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良テレビ放送
・協　　賛　関西大学、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、天理時報社、非破壊検査
・協　　力　日本香堂、仏教美術教会
・作品件数　148件（うち国宝16件、重要文化財72件）
・来館者数　128,901人(目標50,000人・達成率257.8%)
・観覧料金　一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度85%
・公開講座：4回　　参加者数合計　769人
　8月 8日(土)「天武・持統天皇の理想の都－藤原宮と新益京－」木下正史（東京学芸大学名誉教授）/ 参加者数　194人
　8月22日(土)「東アジアのなかの白鳳仏」藤岡 穣（大阪大学大学院教授）/ 参加者数　194人
　9月 5日(土)「白鳳寺院を飾った工芸」内藤 栄（学芸部長）/ 参加者数　194人
　9月19日(土)「白鳳の童形仏とその周辺」岩田 茂樹（上席研究員）/ 参加者数　187人
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：「第67回正倉院展」

・会　　期　27年10月24日(土)～11月9日(月)(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
・作品件数　63件
・来館者数　221,189人(目標180,000人・達成率122.9%)

・観覧料金　一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度69%
・公開講座：3回　　参加者数合計　435人
　10月31日(土)　「王朝びとの年中行事－文学と絵画をめぐって－」冷泉　為人（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長）/ 参加者数　163人
　11月 3日(火･祝)「正倉院の仏具とその収納箱」清水　健（工芸考古室長）/ 参加者数　110人
　11月 7日(土)　「奈良時代の衣服」田中陽子（宮内庁正倉院事務所保存課整理室長）/ 参加者数　162人
・シンポジウム：1回　参加者数　196人
　11月 1日(日)　古典の日記念　正倉院学術シンポジウム2015「正倉院と奈良国立博物館～120年のあゆみ」
　第１部　研究発表　「正倉院宝物に学ぶ北村家三代の漆工芸」北村昭斎（漆芸家）、「奈良国立博物館と正倉院展の伝統」湯山賢一（館長）、「奈良国立博物館と正倉院展の伝統 Part.2」杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）、「森鷗外と正倉院」田良島 哲（東京国立博物館博物館情報課長）
　第２部　パネルディスカッション　北村昭斎、湯山賢一、杉本一樹、田良島 哲
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

(3)海外展

展覧会名：2015年 韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」
・会　　期　27年12月22日(火)～28年2月21日(日)(52日間)
・会　　場　韓国・国立慶州博物館 特別展示館
・主　　催　韓国・国立慶州博物館
・特別協力　奈良国立博物館
・作品件数　142件
・来館者数　87,662人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：314 日(うち平常展のみ開館日数 131 日)
②陳列替件数：1,513 件
③陳列総件数：2,628 件(うち国宝 72 件　重要文化財 218 件)
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開等　全 8 件

展示名称	トピック展示　柿右衛門－受け継がれる技と美－				
開催期間	27 年 3 月 3 日(火)～ 5 月 10 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室、基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	18 件（うち重文 1 件、重美 1 件）
内容	十四代酒井田柿右衛門の功績を偲ぶとともに、歴代柿右衛門の名品の展示を通じて、柿右衛門窯が継承する伝統の技と美に注目した。				

展示名称	国宝「西光寺梵鐘」				
開催期間	27 年 5 月 12 日(火)～ 8 月 16 日(日)	開催場所	文化交流展示室 中央	陳列件数（うち指定品件数）	1 件（うち国宝 1 件）
内容	承和 6 年（839 年）に制作された狐峯山西光寺（福岡市早良区）が所蔵する梵鐘を、昨年に引き続き紹介した。				

展示名称	特別公開　中世刀剣の美　－ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀－				
開催期間	27 年 5 月 19 日(火)～ 6 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	14 件（うち国宝 8 件、重文 5 件）
内容	九州ゆかりの「左文字」のほか、刀剣の産地として最もよく知られた山城や備前の名刀や所蔵品の名刀を公開した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念・「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念トピック展示　新羅王子がみた大宰府				
開催期間	27 年 9 月 22 日(火)～ 11 月 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち指定品件数）	31 件（うち重文 1 件）
内容	天平勝宝四年に来日した新羅王子・金泰廉の足跡を、大宰府で出土した新羅と縁のある品々の展示を通じて紹介した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念特別公開　田中丸コレクションの茶陶				
開催期間	27 年 10 月 14 日(水)～ 12 月 20 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 10 室	陳列件数（うち指定品件数）	31 件（うち重文 2 件）
内容	田中丸善八氏が収集した九州陶磁コレクションのうち、茶陶の名品約 30 点を紹介した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念新春展示　太宰府天満宮の地宝				
開催期間	28 年 1 月 1 日(金・祝日)～ 2 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち指定品件数）	29 件（うち重文 1 件）
内容	九州国立博物館が築かれた地である太宰府に着目し、太宰府天満宮ゆかりの考古資料や関連資料を紹介した。				

展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」				
開催期間	28 年 1 月 1 日(金・祝日) ～ 1 月 24 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	2 件（うち国宝 2 件）
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を公開した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念トピック展示　祈りのかたち　八幡				
開催期間	28 年 2 月 2 日(火)～ 3 月 13 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室、基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	33 件（うち国宝 2 件、重文 8 件）
内容	大分・宇佐地方に生まれ育まれた八幡神に焦点をあて、その信仰の在り様を伝える歴史資料や絵画を紹介した。				

(2)特別展・共催展等

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」

・会　　期　27 年 4 月 21 日(火)～5 月 31 日(日) (37 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　122 件(うち、国宝 6 件、重要文化財 36 件、重要美術品２件)
・来館者数　77,455 人(目標来館者数 50,000 人・達成率 154%)
・入場料金　一般 1,400 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
・アンケート結果　満足度　88%
・講演会等：　7回　参加者合計　783人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月25日	特別講演会「戦国・織豊期の九州とアジア」 「戦国の九州とアジア―大内義隆から大友宗麟へ―」 「豊臣秀吉と九州の諸大名―黒田長政・立花宗茂を中心に―」	九州大学准教授　伊藤幸司 九州大学教授　中野等	289人

・記念シンポジウム

期日	講演会名	所属・講師	参加者
5月1日	しっとこ九博！「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」解説講座（筑紫野市）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	59人
5月2日	記念シンポジウム「戦国武将のデザイン」 基調講演：「九州近世大名道具にみる意匠と機能」 個別報告：「大友家」 「黒田家」 「鍋島家」 「松浦家」	立花家史料館館長　植野かおり 大分市美術館参事　長田弘通 福岡市博物館学芸員　宮野弘樹 鍋島報效会学芸員　富田純次 松浦史料博物館学芸員　久家孝史	200人

・講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
5月9日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「九州の群雄とアジアの波涛」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	90人
5月13日	開館10周年記念特別展「戦国大名」関連　講演会「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」（公益財団法人　九州経済調査協会）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	25人
5月16日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子 展示課展示調整室研究員　一瀬智	60人
5月23日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「貿易都市の考古学」 「戦国九州の刀剣」	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
4月14日～ 5月31日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」 関連香椎工業高校製作鎧兜展示	155,690人
4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着イベント	120人
4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	950人
4月29日	ウオーキングツアー　歴史学者と行く！岩屋城探訪	雨天中止
5月3日	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	350人
5月5日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	409人
5月10日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「戦国大名展」記念　「さいふごま大会」	69人
5月17日	開館10周年記念特別展「戦国大名」開催に伴う熊本県観光ＰＲ　くまモン・うとん行長しゃん・熊本城おもてなし武将隊ステージ	1,500人
5月30日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	11人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「大英博物館展―100 のモノが語る世界の歴史― A History of the World in 100 Objects」

・会　　期　27 年 7 月 14 日(火)～9 月 6 日(日)(47 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、大英博物館、朝日新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
・作品件数　101 件
・来館者数　133,174 人(目標来館者数　70,000 人、達成率 190%)
・入場料金　一般　1,600 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
・アンケート結果　満足度　81%
・講演会等：　5回　参加者 合計 591人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月14日	大英博物館キュレーターによる記念講演会 「大英博物館展の楽しみ方」	大英博物館　本展覧会担当キュレーター ベリンダ・クレラー	201人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月17日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連 しっとこ九博！「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」解説講座（筑紫野市）	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	58人
7月19日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	200人
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 影絵人形ワヤンのみかた	元当館主任研究員　池内一誠	110人
8月4日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連　講演会	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	22人

	「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 （公益財団法人　九州経済調査協会）	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	

・イベント等

期日	イベント名	参加者
7月14日～7月26日	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	－
7月18日、7月19日 8月28日	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム	246人
8月1日	アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展	26人
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	8人
8月19日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「大英博物館展」記念　「さいふごま大会」	50人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」

・会　　期　27 年 10 月 18 日(日)～11 月 29 日(日)　(40 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　95 件(うち、国宝　33 件、重要文化財　29 件)
・来館者数　160,753 人(目標来館者数 150,000 人)
・入場料金　一般　1,600 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
・アンケート結果　満足度 89%
・講演会等：　6回　参加者合計　769人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月24日	開館10周年記念特別展「美の国日本展」関連記念講演会 「正倉院あぜくら通信　九州版」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	220人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
9月5日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座）「『美の国　日本』のみどころ」	展示課長　楠井隆志	69人
10月23日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 しっとこ九博！「美の国　日本」解説講座（筑紫野市）	展示課長　楠井隆志	50人
10月31日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演会 「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	館長　島谷弘幸	200人
11日1日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美の国　日本」 「美の国の工芸」	展示課長　楠井隆志 文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	150人
11月15日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」 「南海の宝石　琉球王国」	企画課研究員　森實久美子 企画課特別展室長　原田あゆみ	80人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
9月4日	プレイベント　開講！博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	238人
11月23日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「美の国　日本展」記念　「さいふごま大会」	100人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」

・会　　期　28 年 1 月 1 日(木・祝)～2 月 14 日(日)　(42 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、TNC テレビ西日本、西日本新聞社
・特別協力　文化庁、東京文化財研究所、文化財保護・芸術研究助成財団、日本・アフガニスタン協会、太宰府天満宮
・作品件数　248 件
・来館者数　67,641 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 169%)
・入場料金　一般　1,400 円、高大生　900 円、小中生　500 円
・アンケート結果　満足度94%
・講演会等：　5回　参加者合計784人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月16日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」 特別講演会「心魅せるティリヤ・テペ」	アフガニスタン文化研究所長　前田耕作	170人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月9日	アフガニスタンに生命の水を	ペシャワール会現地代表　中村哲	280人
1月15日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」 しっとこ九博！「「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」解説講座（筑紫野市）	学芸部長　小泉惠英	44人
1月30日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座 『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 企画課長兼文化交流展室長　　河野一隆	150人
1月31日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連		140人

	リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	 学芸部長　小泉惠英 特任研究員　臺信祐爾	

・イベント等

期日	イベント名	参加者
1月1日～1月24日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30年のあゆみ～	67,022人
1月11日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 オリエンタル・ベリーダンスショー	280人
2月7日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念　九州国立博物館杯さいふごま大会	30人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

開館日数：307日（平常展のみの開館日数：119日）　陳列件数：656件　陳列替回数：1回
平常展のみの来館者数：50,064人
入場料金：無料

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：夏期企画展「平城京ごみずかん」
会　期：27年7月11日(土)～9月23日(日)　(64日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：79件（0件）
来館者数：18,108人
入場料金：無料
講演会等：ギャラリートーク 5回・参加者数合計150人
親子ワークショップ1回・参加者数合計46人

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展ー造酒司木簡の世界ー」
会　期：27年10月17日(土)～11月29日(日)　(39日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：99件（0件）
来館者数：16,830人
入場料金：無料
講演会等：ギャラリートーク3回・参加者数合計150人

展覧会名：ミニ展示「発掘速報展平城2015」
会　期：Ⅰ期　27年12月5日(土)～28年1月31日(日)　(44日間)
Ⅱ期　28年2月13日(土)～28年3月31日(木)　(41日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：28件（0件）
来館者数：20,332人
入場料金：無料

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：360日　陳列件数：32件　陳列替回数：1回
②特集陳列等　4件

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
飛鳥寺出土文字瓦	27年 6月10日～28年 3月31日	平瓦6
182次調査　奈良時代の地鎮具・平安時代の地鎮具	27年 6月10日～28年 3月31日	須恵器蓋杯1、土師器皿18・甕1
183次調査　佐波理鋺	27年 6月10日～28年 3月31日	佐波理鋺1
181-4次調査　檜隈寺瓦窯の調査	27年 6月10日～28年 1月22日	軒丸瓦1、軒平瓦1、窯壁片3
遺物の展示替え	28年 1月22日～28年 3月31日	軒丸瓦1、軒平瓦1、窯壁片2

入場料金：無料
来館者数：10,933人

【飛鳥資料館】

(1)平常展

開館日数：320日（平常展のみの開館日数：135日）　陳列件数：321件　陳列替回数：１回
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
平常展のみの来館者数：12,570人

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期特別展「はじまりの御仏たち」

会　期：27年4月24日(金)～6月21日(日)　(59日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：172件（0件）
来館者数：10,725人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　　参加者数合計　88人

期日	講演会名	講師(所属)
5月9日	「塼仏学研究最前線－奉献から荘厳・三尊から群像へ－」	大脇　潔（近畿大学元教授）

展覧会名：夏期企画展「第6回写真コンテスト「ひさかたの天」応募作品展」

会　期：27年7月28日(火)～9月13日(日)　(41日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
応募点数：181点
来館者数：4,088人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体

展覧会名：秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」

会　期：27年10月9日(金)～11月29日(日)　(52日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：108件（0件）
来館者数：12,862人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　　参加者数合計126人

期日	講演会名	講師(所属)
10月31日	「キトラ古墳と天の科学」	高柳雄一（多摩六都科学館長） 中村　士（大東文化大学研究員） 相馬　充（国立天文台助教） 眞木隆志（NHKｺｽﾞﾐｯｸﾌﾛﾝﾄ）

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学２０１５－飛鳥の古墳調査最前線－」

会　期：28年1月29日(金)～3月6日(日)　(33日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：223点（0件）
来館者数：2,504人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体

b ボランティア受入れ実績

1 受入人数

平成28年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,029人	173人	214人	157人	352人	133人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計173人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （160人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助 （通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） 【保存修復事業の補助（通年）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：19校 生徒数：60人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（24人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(11冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（隔月1回、6回実施） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用(通年) ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月10日)内プログラム ボランティアによる茶会、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、英語ガイド実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月29日～10月12日)内プログラム 樹木ツアー、たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成27年4月1日～4月12日、平成28年3月15日～3月31日内プログラム） アートスタジオ、お茶会、庭園茶室ツアー、彫刻ガイド、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、浮世絵ガイド、東洋館ツアー、英語ガイド、陶磁ガイド、近代の美術ガイド 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月5・6日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施391回14,522人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー 30回673人参加 ・浮世絵ガイド 33回1,568人 ・本館ハイライトツアー 55回3,081人 ・法隆寺宝物館ガイド 13回598人 ・考古展示室ガイド 30回1,152人 ・陶磁ガイド 24回711人 ・庭園茶室ツアー 20回316人 ・お茶会 27回473人 ・彫刻ガイド 33回1,220人 ・英語ガイド 22回843人（留学生の日の定点ガイド含む）

種別　（登録人数）	概　　要
	・こどもたちのアートスタジオ　9回242人 ・たてもの散歩ツアー　32回1,287人 ・近代美術ガイド　19回691人 ・東洋館ツアー　27回673人 ・刀剣・武士の装いツアー　13回852人 ・ボランティア活動紹介ツアー　4回142人
東京芸術大学大学院インターンシップ （13人）	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク（研究発表）班】13名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計51回、1,913人】 「スリリングな仏画『二河白道図』」4回、115人 「アンコール時代の建築装飾」4回、122人 「『砧蒔絵硯箱』を読む」4回、165人 「青木繁、最後の神話画『日本武尊』」4回、167人 「鈴木長吉『鷲置物』」4回、111人 「着物からみる江戸時代の女性のファッション」4回、185人 「五感で感じる！道成寺『毘沙門天立像』」4回、212人 「藍涛の『玉堂富貴図』」4回、143人 「『厭図屏風』の表現について」　4回、130人 「前田青邨の目に映った中国石仏」4回、161人 「『七宝饕餮文卣』にみる清工芸の精華」4回、109人 「清時代の玉器」3回、119人 「刀装にみる鎌倉時代の飾りの意識」4回、174人 【調査研究班】0名 平成27年度は実施無し。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。詳細は処理番号2231を参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計45回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・活動紹介ツアー研修　6回
- ・バリアフリー班研修　5回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　5回
- ・スクールプログラム班研修　6回
- ・保存修復班研修　1回
- ・各種自主企画グループ研修　17回
- ・防災訓練　1回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計2回
- ・特別展「クレオパトラと王妃」1回
- ・特別展「始皇帝と大兵馬俑」1回

【京都国立博物館】　計214人

種　別　（登録人数）	概　　要
京博ナビゲーター（151人）	平成26年度より活動開始した京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く開館日毎日） ・特別展覧会「琳派―京を彩る―」関連ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」（39日） ・教育普及活動の補助（夏期講座・少年少女博物館くらぶ・大人の博物館くらぶ） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（12回）、感謝会（1回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(26人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(19人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月9日（大枝中学校）、7月9日（下鳥羽小学校）、9月4日（柏野小学校）、10月6日（開晴中学校）、10月30日（立衣笠中学校）、11月18日（小栗栖宮山小学校）、12月7日（南太秦小学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア（18人）	年4回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計157人

種　別　（登録人数）	概　　要
世界遺産グループ（53人）	【世界遺産学習】 小学生の受入れ　37校　2,440名 【学校団体案内】 ・幼稚園、中学生、高校生（外国人含む）　8校　390名 【イベントの補助】 ・水煙チョコ鋳造体験「白鳳時代の笛吹き童子を作って見よう♪」受付と補助　1回 ・特別展・白鳳「親子鑑賞会」事前準備（袋詰め作業）　1回 受付と補助　1回

	・奈良市消防局共催「夏休み親子講座　守ろう！知ろう！文化財」　事前準備（資料作成等）　２回 受付と補助　1回 ・スライド作成の検討会　2回 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　2回
解説グループ(63人)	【通年の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　281日 ・地下回廊・パネル展示のデスクでの質問対応と解説　149日 ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　148日 【展示案内】 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月8日～1月17日）30日　66名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣質問対応（2月6日～3月14日）　35日　89名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣ミニ・ツアー解説（3月1日～3月14日）　14日　84名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣奈良交通関係団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）13日　42名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣上記以外の団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）　４件 【その他、予約による解説実施】　３件 【中学生職場体験　館内案内】　４件 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（41人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　13回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」受付と補助　1回 ・特別展「白鳳-花ひらく仏教美術-」関連イベント白鳳ファーラム　受付と補助　1回 ・夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」受付と補助　1回 ・奈良国立博物館文化大使｢笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座｣受付と補助　1回 ・第67回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・｢文化財保存修理所特別公開｣受付と補助　1回 ・お水取り｢講話｣と「粥」の会　受付と補助　1回 ・｢仏像を撮ってみよう！｣受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・白鳳展展覧会＆「あなたの知らない奈良博探訪」受付と案内　1回 ・奈良国立博物館プレミアム･ミュージアムビューイング　受付と案内　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・27年度ボランティア発足式　受付と補助　2回 ・夏季講座の配布資料袋詰め作業　2回 ・第67回正倉院展親子鑑賞会の資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　26回 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　　2回 【交流チームの活動】 ・社寺旧跡等の見学会の実施　4回　217名（参加） ・他施設ボランティアとの交流会　企画と受付　2回 ・第１回ボランティア親睦会　1回　135名（参加） ・他施設との交流会の打合せ会議　2回 ・信貴山見学会（4月予定）の下見　1回　10名 【庭園チームの活動】 ・庭園茶室無料開放の質問対応と案内（6月30日～７月16日）15日間　35名（活動数） ・茶室庭園ツアーの立案と実施　2日 ・ボランティアのための茶室見学会｢八窓庵をのぞいてみませんか？｣の補助　1日 ・茶室庭園と仏教美術資料研究センターの定点解説　2日 【通信誌チームの活動】

	・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　3回

【ボランティアに対する研修の実施】　計26回
・名品展研修　17回
・特別展、特別陳列、特集展示の研修　8回
・マナー研修　1回
【グループ別の勉強会の実施】計40回
・世界遺産グループ　　9回
・解説グループ　　19回
・サポートグループ　　12回
【各グループ共通の活動】
・第67回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　92回

【九州国立博物館】　計　352人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (86人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (37人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (38人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (94人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド。
環境ボランティア (33人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (6人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (25人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (24人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）や他部会のボランティアのイベント等の活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (9人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ　31人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
（上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。）
(研修)全体研修　3回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(5,029人)、館内案内(5,029人)、バックヤードツアー(2,488人)

【奈良文化財研究所】　計133人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア (133人)	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修　1回
〃　　秋期特別展の展示研修　1回
講演形式専門研修　　1回
臨地ガイド研修　　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
360 人	149 人	83 人	2 人	13 人	51 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	165 人	48 人		117 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進事業		
	40 人		6 人		

【東京国立博物館】延べ83人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Debasish Gayen	インド	コルカタ・インド博物館	特別展「インドの仏」にかかる調査研究および学術交流のため	4月5日～4月13日
2	Badal Mondal	同上	コルカタ・インド博物館	同上	4月25日～5月2日
3	楊　志剛	中国	上海博物館館長	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流および意見交換のため	5月11日～5月14日
4	周　亜	同上	上海博物館青銅部主任	同上	5月11日～5月14日
5	陸　明華	同上	上海博物館陶磁部主任	同上	5月11日～5月14日
6	包　燕麗	同上	上海博物館工芸部主任	同上	5月11日～5月14日
7	周　燕群	同上	上海博物館文化交流弁室主任	同上	5月11日～5月14日
8		アフガニスタン		2016年に日本で開催予定のアフガニスタン展（仮称）の準備に伴う会議と施設の視察のため	5月15日～5月20日
9	Sayan Bhattacharya	インド	コルカタ・インド博物館	特別展「インドの仏」の展示撤収作業および学術交流のため	5月16日～5月24日
10	Satyakam Sen	同上	コルカタ・インド博物館	同上	5月16日～5月24日
11	金　東完	韓国	大韓民国国立中央博物館学芸研究室考古歴史部学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	6月1日～6月14日
12	黄　朋	中国	上海博物館書画研究部副研究館員	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流のため	7月21日～7月31日
13	孫　丹妍	同上	上海博物館書画研究部館員	同上	7月21日～7月31日
14	李　仲謀	同上	上海博物館副館長	展覧会協力関係推進のため	9月1日～9月4日
15	李　柏華	同上	上海博物館青銅研究部副研究員	同上	9月1日～9月4日
16	師　若予	同上	上海博物館青銅研究部間館員	同上	9月1日～9月4日
17	張　莉娟	同上	上海博物館陳列設計部館員	同上	9月1日～9月4日
18	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室副研究員	同上	9月1日～9月4日
19	張　正	同上	陝西省文物交流中心項目主管	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」展示準備作業協力のため	10月14日～10月27日
20	劉　江衛	同上	秦始皇帝陵博物院副研究員	同上	10月14日～10月27日
21	閻　紅霞	同上	秦始皇帝陵博物院館員	同上	10月14日～10月27日
22	郭　思瑶	同上	西安碑林博物館	同上	10月14日～10月27日
23	周魁英	同上	陝西省文物局副局長	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」の開幕行事に参加のため	10月25日～10月29日
24	侯寧彬	同上	秦始皇帝陵博物院院長	同上	10月25日～10月29日
25	顔宗岳	同上	漢陽陵博物院副館長	同上	10月25日～10月29日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
26	范桂強	中国	陝西省考古研究院副院長	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」の開幕行事に参加のため	10月25日～10月29日
27	譚青枝	同上	陝西省考古研究院副研究員	同上	10月25日～10月29日
28	呉　永琪	同上	秦始皇帝陵博物院名誉院長	学術交流および特別展「始皇帝と大兵馬俑」にかかる講演のため（平成２７年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業）	11月24日～12月5日
29	趙　晶植	韓国	大韓民国国立中央博物館研究企画部学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	11月30日～12月13日
30	李　峰	中国	上海博物館副館長	東京国立博物館・上海博物館間の文化交流および協力関係の推進のため	12月6日～12月11日
31	夏　蓓蓓	同上	上海博物館弁公室副主任	同上	12月6日～12月11日
32	徐　立芸	同上	上海博物館文化交流弁公室館員	同上	12月6日～12月11日
33	曾　原	同上	上海市文化事業管理処副処長	同上	12月6日～12月11日
34	劉　筱莉	同上	上海市財政局教科文処主任科員	同上	12月6日～12月11日
35	金　靖之	同上	上海博物館展覧部館員	日中文人絵画の比較研究のため	12月11日～28年12月中旬
36	盛　為人	同上	中国国家博物館蔵品保管一部副主任	中国国家博物館にて開催予定の日中韓国立博物館長会議および関連共同企画特別展覧会の事前打ち合わせのため	12月14日～12月18日
37	意　如	同上	中国国家博物館蔵品保管一部館員	同上	12月14日～12月18日
38	王　蕾	同上	中国国家博物館展覧一部研究館員	同上	12月14日～12月18日
39	陳　慶慶	同上	中国国家博物館展覧一部館員	同上	12月14日～12月18日
40	鄭　燁	同上	中国国家博物館外事処館員	同上	12月14日～12月18日
41	陳　洪	同上	秦始皇帝陵博物院副研究館員	展覧会の学術交流会に参加のため	12月16日～12月20日
42	宋　遠茹	同上	陝西省考古研究院副研究員	同上	12月16日～12月20日
43	張　小麗	同上	西安市文物保護考古研究院副研究館員	同上	12月16日～12月20日
44	時　瑞宝	同上	咸陽市文物鑽探管理処副研究員	同上	12月16日～12月20日
45	呉　来明	同上	上海博物館文物保護中心主任　副研究館員	東京国立博物館・上海博物館間の調査研究および学術交流の推進のため	28年1月11日～1月20日
46	徐　文娟	同上	上海博物館文物保護中心　副研究館員	同上	28年1月11日～1月20日
47	褚　昊	同上	上海博物館文物保護中心　館員	同上	28年1月11日～1月20日
48	黄　瑛	同上	上海博物館文物保護中心　館員	同上	28年1月11日～1月20日
49	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室　副研究館員	同上	28年1月11日～1月20日
50	ジョン・カーペンター	米国	メトロポリタン美術館学芸員	国際シンポジウム参加のため	28年1月28日～2月6日
51	シネード・ヴィルバー	同上	クリーブランド美術館学芸員	同上	28年1月28日～2月5日
52	アイヌラ･ユスーポヴァ	ロシア	プーシキン美術館素描・版画部長	同上	28年1月28日～2月5日
53	ロジーナ･バックランド	英国	スコットランド博物館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月6日
54	カーン・トリン	スイス	リートベルク美術館学芸員(日本美術)	同上	28年1月28日～2月5日
55	メンノ・フィツキ	オランダ	アムステルダム国立美術館学芸員	同上	28年1月28日～2月2日
56	アルフレッド・ハフト	英国	大英博物館学芸員	同上	28年1月28日～2月2日
57	アン･ニシムラ･モース	米国	ボストン美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月1日
58	ロバート・ミンツ	同上	ウォルターズ美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月2日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
59	アン・ローズ・キタガワ	米国	オレゴン大学シュニッツラー美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月1日
60	サムエル・C.モース	同上	アーモスト大学教授	国際シンポジウム参加のため	28年1月28日～2月1日
61	モニカ・ビンチク	同上	メトロポリタン美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月28日～2月6日
62	森嶋　由紀	同上	サンフランシスコアジア美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月5日
63	ユーピン・チャン	英国	グラスゴー美術館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
64	ダン・コック	オランダ	国立民族学博物館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
65	ヴィブケ・シュラペ	ドイツ	ベルリン東洋美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月6日
66	ジョセフィーヌ･ラウト	英国	ヴィクトリア&アルバート博物館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月5日
67	サマンサ･スプリンガー	米国	ポートランド美術館コンサバター	同上	28年1月29日～2月6日
68	キラ・ヴァゾヴィキナ	ロシア	プーシキン美術館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
69	ドナテッラ･ファイーラ	イタリア	キヨッソーネ東洋美術館館長	同上	28年1月29日～2月6日
70	伏海翔	中国	西安博物院館員	特別展「始皇帝と大兵馬俑」にかかる作品撤収と展示作業のため	28年2月21日～3月15日
71	朱艶玲	同上	陝西省考古研究院補助研究員	同上	28年2月21日～3月15日
72	鄭　寧	同上	秦始皇帝陵博物院館員	同上	28年2月21日～3月15日
73	李　媛	同上	漢陽陵博物館補助館員	同上	28年2月21日～3月15日
74	晏　新志	同上	陝西歴史博物館文物保護協調領導小組副組長　研究館員	東京国立博物館・陝西歴史博物館および京都醍醐寺間の展覧会協力についての実務協議のため	28年2月22日～2月26日
75	梁　彦民	同上	陝西歴史博物館保管部主任　研究館員	同上	28年2月22日～2月26日
76	董　理	同上	陝西歴史博物館陳列部主任　研究館員	同上	28年2月22日～2月26日
77	王　妮	同上	陝西歴史博物館陳列部　副研究員	同上	28年2月22日～2月26日
78	曾　君	同上	故宮博物院書画部主任	東京国立博物館・故宮博物院間の調査研究および学術交流の推進のため	28年3月7日～3月11日
79	付　東光	同上	故宮博物院書画部研究館員	同上	28年3月7日～3月11日
80	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室副研究員	特別展「中国における醍醐寺（仮称）」にかかる作品の点検および輸送作業のため	28年3月2日～3月11日
81	李　柏華	同上	上海博物館青銅研究部副研究員	同上	28年3月2日～3月11日
82	龔　辛	同上	上海博物館展覧部館員	同上	28年3月2日～3月11日
83	ローラ・アレン	米国	サンフランシスコアジア美術館学芸員	東京国立博物館所蔵品展に向けての調査のため	28年3月20日～3月27日

【京都国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	John T.Carpenter	アメリカ	メトロポリタン美術館・日本美術キュレーター	琳派400年記念国際シンポジウムパネルトーク	11月3日
2	上島　由起子	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館	学術交流協定に向けた意見交換、視察、調査他	12月14日

【奈良国立博物館】　延べ　13人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究員	当館との協定に基づく学術交流	5月10日～5月19日
2	林　宰完	韓国	慶州博物館学芸研究士	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」にかかる出陳品輸送並びに随行のため	7月13日～7月16日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
3	李　栄勲	同上	慶州博物館館長	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」視察並びに当館職員との意見交換のため	7月16日～7月18日
4	呉　世恩	同上	慶州博物館学芸研究士	同上	7月16日～7月18日
5	古　花開	中国	河南博物院信息管理処副処長（副研究員）	当館との協定に基づく学術交流	7月21日～8月19日
6	向　禕	同上	河南博物院副研究員	同上	7月21日～8月19日
7	張　恩晶	韓国	慶州博物館学芸研究官	同上	8月26日～9月25日
8	許　亨旭	同上	慶州博物館学芸研究士	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」にかかる出陳品輸送並びに随行のため	9月23日～9月25日
9	李　栄勲	同上	慶州博物館館長	第67回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月22日～10月24日
10	金　亨俊	同上	慶州博物館行政主事補	同上	10月22日～10月24日
11	陳　傑	中国	上海博物館考古研究部主任　研究館員	両機関における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月24日～12月3日
12	王　建文	同上	上海博物館館員	同上	11月24日～12月3日
13	李　在烈	韓国	慶州博物館学芸研究官	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	28年3月3日～3月30日

【九州国立博物館】　延べ　51人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	文　煥晳	韓国	国立海洋文化財研究所	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	5月26日～30日	九博負担
2	Belinda　Crerar	英国	大英博物館学芸員	展覧会展示	7月10日～15日	他機関負担
3	Neal　Spencer	同上	大英博物館 古代エジプト・スーダン部長	同上	7月13日	他機関負担
4	Emma　Kelly	同上	大英博物館国際巡回展 部門長	同上	7月13日	他機関負担
5	Nicole Coolidge Rousmaniere	同上	大英博物館アジア部 日本セクション学芸員	同上	7月13日	他機関負担
6	パノムブート・ チャンドラチョート	タイ王国	芸術局博物館事務局長	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	9月22日～9月26日	九博負担
7	ワッチャラワディー・ ウィチェンシー	同上	芸術局文化財 登録収蔵情報課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
8	スティサック・ アルンシー	同上	芸術局展示デザイン課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
9	タナコーン・ カムサップ	同上	芸術局建築部建築保存課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
10	ウィパラット・プラディットアーチープ	同上	芸術局学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
11	カナッサモン・カムタ	同上	芸術局文化財 登録収蔵情報課学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
12	タッチャソーン・ タンティウォン	同上	バンコク国立博物館学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
13	シリオン・ オンサップ	同上	芸術局国際交流事務官	同上	9月22日～9月26日	九博負担
14	スラポン・ナラポン	同上	芸術局展示デザイン課 アカデミック芸術家	同上	9月22日～9月26日	九博負担
15	サリサー・ チンタウォン	同上	チャオサームプラヤー 国立博物館長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
16	ナルーエモン・ カオンエーン	同上	サワンアワーラナーヨック 国立博物館主任学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
17	ベンチャワン・ ポンプラスート	同上	ハリプンチャイ国立博物館 主任学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
18	タニカン・ ウォーラタンマノン	同上	チェンマイ国立博物館 学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
19	パッタマー・コートン	同上	国立美術館学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
20	ナラチャイ・セーウーン	同上	芸術局保存科学研究員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
21	趙　炫来	韓国	国立中央博物館 企画運営団長	開館10周年記念式典および館長サミット 出席	10月16日～19日	九博負担
22	金　恩珍	同上	国立中央博物館文化交流広報課　主務官	同上	10月16日～19日	九博負担
23	具　一會	同上	国立扶餘博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
24	金　善英	同上	国立扶餘博物館学芸員	同上	10月16日～19日	九博負担
25	金　鍾萬	同上	国立公州博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
26	金　容男	同上	国立公州博物館 企画運営課長	同上	10月16日～19日	九博負担
27	金　載悦	同上	韓国伝統文化大学校総長	同上	10月16日～19日	九博負担
28	姜　大一	同上	韓国伝統文化大学校 保存科学科教授	同上	10月16日～19日	九博負担
29	王　軍	中国	中国文物交流中心主任	同上	10月16日～19日	九博負担

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
30	張　威	同上	国家文物局水下文化遺産保護中心副主任	同上	10月16日～19日	九博負担
31	塔　拉	同上	内蒙古博物院長	同上	10月16日～19日	九博負担
32	呉　瑋瑛	同上	内蒙古博物院館員	同上	10月16日～19日	九博負担
33	Nguyen Van Cuong	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
34	Nguyen Quoc Binh	同上	ベトナム国立歴史博物館展示部長	同上	10月16日～19日	九博負担
35	Sahabhum Bhumtitterat	タイ王国	タイ王国文化省芸術副局長	同上	10月16日～19日	九博負担
36	Disapong Netlomwong	同上	タイ王国文化省芸術局学芸員	同上	10月16日～19日	九博負担
37	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute	基盤（A)「彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討」に係る調査	12月3日～8日	一部九博負担
38		アフガニスタン		特別展「黄金のアフガニスタン」開会式	12月19日～27日	一部九博負担
39		同上		特別展「黄金のアフガニスタン」展示に係る指導・助言	28年1月25日～26日	九博負担
40	セス・ヴァントゥヴェーン	オランダ	オランダ教育・文化・科学省文化遺産局・局長	文化庁　平成２７年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	2月15日～21日	他機関負担
41	塔　拉	中国	内蒙古博物院長	基盤研究（B）「契丹壁画墓の集成と公開」に係るシンポジウム	2月26日～29日	九博負担
42	杜暁黎	同上	内蒙古博物院研究員	同上	2月26日～29日	九博負担
43	Saneh MAHAPHOL	タイ王国	芸術局保存修復部長	科学研究費（基盤研究（B）研究代表者：原田あゆみ）	3月9日～15日	九博負担
44	Sopit Panyakhan	同上	芸術局保存修復部職員	同上	3月9日～15日	九博負担
45	SomchaiNA NAKHONPHANOM	同上	芸術局上席研究員	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	3月10日～15日	九博負担
46	Patcharin SUKPRAMOOL	同上	芸術局課長	同上	3月10日～15日	九博負担
47	Disapong　NETLOMWONG	同上	芸術局主任研究員	同上	3月10日～15日	九博負担
48	Wiparat PRADITARCHIP	同上	芸術局主任学芸員	同上	3月10日～15日	九博負担
49	Poonsri JEABKAEW	同上	芸術局学芸員	同上	3月10日～15日	九博負担
50	李　理	中国	瀋陽故宮博物院副院長	展覧会に係る協議	3月21日～25日	九博負担
51	張恩雨	同上	瀋陽故宮博物院展示部主任	同上	3月21日～25日	九博負担

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　48人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Paul Whitmore	アメリカ	イェール大学 文化遺産保存機構	保存修復技術に係る研究交流	6月4日
2	Ampol Summavuti	タイ	文化省芸術局 伝統芸術部門主任芸術研究振興担当	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
3	Phramaha Anulak Prapavadee	タイ	ラチャプラディット寺院 教育担当官、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所秘書	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
4	Phrakhrusamu Decho Samreaj	タイ	ラチャプラディット寺院 王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所職員	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
5	Phrakhruthammathon Wiwat Puangkerd	タイ	ラチャプラディット寺院 公的扶助担当官	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
6	Sookprasong Weerasri	タイ	ラチャプラディット寺院 職員	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
7	Wattana Jirasagultha	タイ	ラチャプラディット寺院 所属写真家	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
8	Suwiwan Euasookkul	タイ	TPA School AS 所属通訳	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
9	Htun Htun Win	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局バガン支局　技官	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
10	Myo Sandar Oo	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局ネピドー支局　課長補佐	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
11	Nay Yi Yi	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局インワ支局　技官	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
12	Nyo Myint Tun	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局マンダレー支局　支局長	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
13	Thein Lwin	ミャンマー	文化省考古・国立博物館　副局長	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
14	Beate Murr	オーストリア	オーストリア応用美術博物館 保存修復部副室長・紙保存修復部室長	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
15	Elisa Maria Coelho Barros	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
16	Stephanie Dianne Baily	オーストラリア	西オーストラリア州立美術館 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
17	Idelette Madelon Van Leeuwen	オランダ	アムステルダム国立美術館 紙保存修復技術室長	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
18	Natalia Seregina	ロシア	国立A.S.プーシキン造形美術館 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
19	Julia Elise Poirier	アイルランド	チェスター・ビーティ図書館 本・紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
20	Nilanthi Pushpalatha Karanachcharige	スリランカ	文化省公文書部門 文書修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
21	Ioan Paul Colta	ルーマニア	アラド県立博物館 絵画保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
22	Morgan Boyd Zinsmeister	アメリカ	アメリカ国立公文書館 主任保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
23	Marcia Valeria De Souz	ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学国立博物館 保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
24	武　發思	中国	敦煌研究員保護研究所 副研究館員	中国壁画の保護に関する日中共同研究	11月10日～11月28日
25	Le Thi Lien	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学研究所 上席研究員	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月18日
26	Hubertus Sadirin	インドネシア	ジャカルタ首都特別州知事の文化財に関する諮問専門委員会 保存技術者・技術指導官	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月18日
27	H.E. SUM Map	カンボジア	カンボジア政府アンコール地域保存整備機構 アンコール公園内遺跡保存及び予防考古学局・考古室長	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
28	Vasu Poshyanandana	タイ	文化省考古・国立博物館局 副局長	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
29	Thein Lwin	ミャンマー	文科省芸術局 建造物課主任建築家	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
30	Ly Vanna	カンボジア	APSARA機構アンコール公園内遺跡保存課・課長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
31	Harry Widianto	インドネシア	教育文化省文化遺産保護・博物館局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
32	Viengkeo Souksavatdy	ラオス	情報・文化・観光省遺産局・副局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
33	Khalid Bin Syed Ali	マレーシア	観光・文化省国家遺産局遺産執行課・課長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
34	Kyaw Oo Lwin	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
35	Miran Ted Torralba	フィリピン	フィリピンカトリック司教会議、教会文化遺産常設委員会・幹事	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
36	Wee Mei Yin Jean	シンガポール	国家遺産委員会史跡・記念物保護部・部長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
37	Vira Rojpojchanarat	タイ	文化省・大臣	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
38	Borvornvate Rungrujee	タイ	文化省芸術局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
39	Bui Chi Hoang	ベトナム	ベトナム社会科学院南部社会科学研究所・所長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
40	Shao Yong	中国	ユネスコ・アジア太平洋地域世界遺産研修研究センター（上海センター）・代表	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
41	Yu Jaeeun	韓国	国立文化財研究所・復原技術研究室長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
42		アフガニスタン		研究会「危機の中の文化遺産」講演	28年1月22日～1月28日
43	Haider Abdollwashed Oraibi Almamori	イラク	文化省　考古遺産庁 調査発掘部　部長	研究会「危機の中の文化遺産」講演	28年1月23日～1月26日
44	Rorl Hoehmann	ドイツ	産業考古学 事務所長	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	28年1月9日～1月17日
45	Bhesh Narayan Dahal	ネパール	文化・観光・航空省考古局 局長	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月9日
46	Saraswati Singh	ネパール	ハヌマンドカ・ダルバード博物館開発委員会執行ディレクター	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月8日
47	Nabha Basnyat Thapa	ネパール	UNESCOカトマンズ事務所 プロジェクトコーディネーター	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月12日
48	Ana Dalila Terrazas Santillán	メキシコ	メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関 保存修復技術者	国際研修「ラテンアメリカにおける紙文化財保存修復国際研修」の準備への協力	28年3月6日～6月29日

【奈良文化財研究所】延べ117人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	バーバラ・エッガー＝イエンツァー 他４名	スイス	ベルン州・首相	遺構展示館、第一次大極殿見学	4月17日
2	朴英根 他3名	韓国	文化財庁企画調整官・局長	文化遺産管理体系等実態調査のため	5月20日
3	張恩惠	韓国	国立慶州文化財研究所・學藝研究士	古代文化関連遺跡の共同発掘調査実施	8月3日～10月2日
4	イ・チャンハク 他2名	韓国	ソウル市文化本部長	風納土城との関連で、藤原宮跡・平城宮跡の保存・復元方法について視察	9月24日
5	黄建秋	中国	南京大学・教授	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
6	馬照武	中国	儀征博物館・副館長	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
7	張兆維	中国	揚州市文物考古研究所・副所長	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
8	Khin　Than Win 他9名	ミャンマー	ホテル観光省 観光促進・国際交流部長	JICA研修の一貫として、平城宮跡の維持保存について視察	9月30日
9	Prof.Dr.MarkMersiowsky 他1名	ドイツ	Universität Stuttgarter・教授	平城宮跡資料館・木簡の整理状況・平城宮跡等の見学	10月2日
10	キム・ジュンスン 他3名（新羅王京事業団）	韓国	大韓民国文化財庁・書記官	平城京の発掘・整備・復元・管理・活用、藤原京の発掘調査状況、整備復元事例について視察	10月13日～10月14日
11	ヘ ビョンソン 他2名	韓国	国立扶余文化財研究所・所長	百済宮城および付属施設比較研究のための現地調査	10月26日～10月29日
12	ラヌルフォ アントニオ エスコバール マカル 他2名	エル・サルバドル	観光局レクレーションセンター	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
13	エルバ アレハンドリーナ シルバ メネンデス 他3名	グアテマラ	観光局文化遺産観光部門	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
14	タニヤ デルカルメン アマヤ カストロ 他2名	ホンジュラス	観光局環境の持続可能性部門	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
15	楊文勝	中国	河南省文物考古研究院・副院長	日中共同研究	11月16日～11月20日
16	趙志文	中国	河南省文物考古研究院・研究員	日中共同研究	11月16日～11月20日
17	李一丕	中国	河南省文物考古研究院・館員	日中共同研究	11月16日～11月20日
18	郭洋	中国	河南省文物考古研究院・副科長	日中共同研究	11月16日～11月20日
19	張慧明	中国	河南省文物局・処長	日中共同研究	11月16日～11月20日
20	バデーウ　ウメア　モハメド 他1名	モルディブ	ロアマリゾートモルディブ アットマーミギリ ロアマ博物館・学芸員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
21	プラダン　ミミ 他1名	ネパール	文化観光省考古局 ネパール国立博物館・職員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
22	ウェラスリヤ　ウパルスランガ　ペレラ 他1名	スリランカ	国家遺産省考古局 博物館課・考古研究補佐員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
23	Le Xuan Phuong	ベトナム	ベトナム林業大学・准教授	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
24	Do Thi　Ngoc Bich	ベトナム	Member of Gorestry Association of VFU	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
25	Nahar　Cahayandaru Suyadi	インドネシア	Senior Conservator BOROBUDUR CONSERVATION OFFICE	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
26	Sri Nugroho Marsoem	インドネシア	Head, Laboratory of Wood Chemistry & Fiber Faculty of Forestry Gadjah Mada University	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
27	Erbprem Vatcharangkul	タイ	Director Underwater Archaeology Division Fine Arts Department, Ministry of Culture	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月19日～1月23日
28	ThongLith LuangKhoth	ラオス	Director Division of Archaeology, でDepartment of Heritage Ministry Information, Culture, and Tourism	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
29	Ros Borath	カンボジア	President, National Committee for World Herotage Deputy Director General, Monuments and Archaeology	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
30	Aung Winn	ミャンマー	Assistant Director Minister's Office Ministry of Culture	遺跡の整備と活用に関するワークショップ参加	28年2月14日～2月22日
31	Zar Zar Linn	ミャンマー	Senior Assistant Engineer Grade-2 Department of Archaeology and National Museum Ministry of Culture	遺跡の整備と活用に関するワークショップ参加	28年2月14日～2月22日
32	Bruno Bruguier	フランス	フランス極東学院・教授	情報共有研究会で発表	28年2月21日～2月27日
33	陳永豊 他5名	台湾	文化省政務次官	研究所施設および平城宮跡などの見学、文化財保存について視察	28年3月4日
34	李占楊	中国	河南省文物考古研究院・主任研究員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
35	裴韜	中国	河南省文物考古研究院・館員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
36	毛徳新	中国	許昌市文化広電新聞出版局・副調研員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
37	張　璠	中国	西安曲江大明宮遺址文物局・副局長	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
38	龔国強	中国	中国社会科学院考古研究所漢唐研究室・副主任	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
39	趙暁軍	中国	洛陽市文物考古研究院隋唐研究室・主任	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
40	繆韵	中国	洛陽市隋唐城遺址管理処・科長	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
41	趙虎龍	中国	洛陽龍門石窟国際旅行社	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
42	胡　柏	中国	遼寧省文物考古研究所・研究員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
43	斉　軍	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
44	王　宇	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
45	辛　宏偉	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
46	Teav Sreyniet	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	28年3月24日～3月31日
47	Bun Sreivy	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	28年3月24日～3月31日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ40人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したもの延べ3名を含む(用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Timothy CURTIS	タイ王国	Chief, Culture Unit, UNESCO Bangkok	第四回IRCI運営理事会 文化庁受託	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
2	Olympia Esel MOREI	パラオ共和国	Director, Belau National Museum	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
3	Yonsoo KIM	大韓民国	Director, International Cooperation Division, Heritage Promotion Bureau, Cultural Heritage Administration of Korea	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
4	Jin ZHAO	中華人民共和国	Deputy Director, Division of Mutilateral Affairs, Bureau for External Cultural Relations, Ministry of Culture, P.R. of China	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
5	Katie O' ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O' Rourke Consulting P/L	無形文化遺産保護に関する現地調査 用務先：ミャンマー、ラオス、タイ 文化庁受託	10月30日～11月11日
6	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Management Solutions (AHMS)	同上	10月31日～11月11日
7	Hanhee HAHM	大韓民国	Professor, Department of Archaeology and Cultural Anthropology, College of Liberal Arts, Chonbuk National University	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific countries” 用務先：キルギス（ビシュケク） 文化庁受託	12月7日～10日 (12月8-9日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
8	愛川紀子	日本	文化庁無形文化遺産アドバイザー	同上	12月6日～10日 (12月8日～9日開催)
9	上杉富之	日本	成城大学文芸学部文化史学科教授	同上	12月5日～11日 (12月8日～9日開催)
10	Thi Hien NGUYEN	ベトナム社会主義共和国	Vice Director, Vietnam Institute for Cultural and Art Studies	同上	12月4日～11日 (12月8-9日開催)
11	Shubha CHAUDHURI	インド	Associate Director General (Academic), American Institute of Indian Studies, Archive and Research Center for Ethnomusicology	同上	12月7日～10日 (12月8-9日開催)
12	Saymon ZAKARIA	バングラデシュ人民共和国	Assistant Director, Forklore department of Bangla Academy	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
13	Dilshod RAHIMOV	タジキスタン共和国	Head of the Department of Folklore, Rudaki Institute of Language, Literature and Oriental Studies	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
14	Gularo ABDULLOEVA	ウズベキスタン共和国	Head of branch, State Conservatory of Uzbekistan	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
15	Janet BLAKE	イラン・イスラム共和国	Assistant Professor, Department of Islamic Law, Faculty of Law Shahid Beheshti University	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
16	Elizabeth EDWARDS	フィジー共和国	Director/Producer/Editor & Coordinator, Mai TV	同上	12月5日～13日 (12月8-9日開催)
17	Gulnara AITPAEVA	キルギス共和国	Director, Aigine Cultural Research Centre	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific countries” 用務先：キルギス（ビシュケク） 先方負担	12月8-9日開催
18	Parmoun YADOLLAH	イラン・イスラム共和国	Director, Regional Research Centre for Safeguading Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
19	Mohammad AHMADISHADMEHRI	イラン・イスラム共和国	Financial Chief, Regional Rsearch Centre for Safegurading Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
20	Dinara CHOCHUNBAEVA	キルギス共和国	Director, Central Asian Crafts Support Association’s Resource Center in Kyrgyzstan	同上	12月8-9日開催
21	Kijong PARK	大韓民国	Chief, IT Management Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO	同上	12月8-9日開催
22	Alireza TAVAKOLI	イラン・イスラム共和国	Programme specialist of promotion, Regional Research Centre for Safeguarding Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
23	You Sour LIM	カンボジア王国	Deputy Director General of Administration and Finance, Directorial General Department, Ministry of Culture and Fine Arts	“IRCI 2nd Workshop on the study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 文化庁受託	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
24	Bounyadeth DAOPASITH	ラオス	Lecturer of International Law International Relations, Faculty of Laws and Political Science, National University of Laos	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
25	Nang Lao NGIN	ミャンマー	Director, National Museum (Yangon), Department of Archaeology, National Museum and Library, Ministry of Culture	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
26	Thuy Quynh QUACH	ベトナム社会主義共和国	Lecturer, Centre of Commerce and Management, RMIT University	同上	12月16日～20日 (12月17日-19日開催)
27	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O’ Rourke Consulting P/L	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
28	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Managemant Solutions (AHMS)	同上	12月15日～20日 （12月17日-19日開催）
29	Himali JINADASA	スリランカ	Director-General, Sri Lanka Export Development Board (SLEDB)	“Discussion Meeting on Endangered Traditional Handicrafts in Sri Lanka” 文部科学省補助金	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
30	Dilrukshi Sandya WETTASINGHE APPUHAMILAGE	スリランカ	Artisan, Eastern Province, Sri Lanka	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
31	Selvi SUBRAMANIAM	スリランカ	Artisan, Northern Province, Sri Lanka	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
32	Navatharshan KANDIAH	スリランカ	Assistant Director (Province), National Craft Council (NCC), Ministry of Traditional Industries & Small Enterprise Development	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
33	Godakuru Pathirannehelage Hansa Anuradha ARIYARATHNA	スリランカ	Development Assistant, National Craft Council (NCC), Ministry of Traditional Industries & Small Enterprise Development	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
34	Harriet DEACON	イギリス	Visiting Research Fellow, Ferguson Centre for African Studies, The Open University, UK	“IRCI 2nd Workshop on the study of Legal Systems Related to Intagible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 文化庁受託 “Discussion Meeting on Endangered Traditional Handicrafts in Sri Lanka” 文部科学省補助金	12月15日～21日 （12月17日-19日開催） （12月19日-20日開催）
35	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O’ Rourke Consulting P/L	無形文化遺産保護に関する現地調査 用務先：ベトナム、カンボジア 文化庁受託	28年2月15日～25日
36	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Management Solutions (AHMS)	同上	28年2月16日～25日
37	Chi Ben NGUYEN	ベトナム	Chairman of Council for Scientific Management	“The Final Discussion Meeting on Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing” 文部科学省補助金	28年2月14日-19日 （2月15日-18日開催）
38	Thi Thu Huong NGUYEN	ベトナム	Division of Scientific Management and International Cooperations Vietnam Institute of Culture and Arts Studies	同上	28年2月14日-19日 （2月15日-18日開催）
39	Dang Tam NGUYEN	ベトナム	Craftsman of Dong Ho Folk Painting Village	同上	28年2月14日-19日 （28年2月15日-18日）
40	岩本　渉	日本	国立大学法人千葉大学	CRIHAPとの打合せ	28年3月21日～23日 （28年3月22日開催）

【文化財防災ネットワーク推進事業】6人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	ピーター・ストーン	イギリス	国際 BS 委員会事務局長	「文化遺産防災国際シンポジウム－文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性－」および研究会参加のため	12月11日～14日
2	コリン・ウエグナー	アメリカ	米BS国内委員会	同上	12月12日～15日
3	スー・ハトリー	オーストラリア	豪BS国内委員会委員	同上	12月11日～15日
4	カイ・ワイズ	ネパール	ネパールICOMOS委員長	同上	12月13日～15日
5	バラト・ワラト	ネパール	ネパールICOM 委員長	同上	12月11日～15日
6	高橋暁	サモア	ユネスコ太平洋事務所企画専門官	同上	12月11日～15日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
94人	51 人	21人	9人	9人	12人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	43 人	18人		25人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】延べ　21人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大正大学	仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	加島勝	副館長　松本伸之、保存修復課環境保存室長　和田浩
2	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	岩佐光晴	企画課特別展室長　丸山士郎、保存修復課環境保存室長　和田浩
3	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	今尾 文昭	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
4	上智大学	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	月本昭男	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
5	筑波大学	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	守屋正彦	企画課出版企画室長　勝木言一郎
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡穣	博物館教育課教育講座室長　浅湫毅
7	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山洋	同上
8	京都大学人文科学研究所	中国典籍日本古写本の研究	高田時雄	博物館情報課長　田良島哲
9	東京藝術大学	文化財管理における美術品用辞典の作成	河内晋平	博物館情報課情報管理室長　村田良二
10	東京藝術大学	工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―	赤沼潔	特任研究員　神庭信幸
11	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究	水野敏典	列品管理課主任研究員　古谷毅
12	国立歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	上野祥史	同上
13	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用（法文学部山陰研究プロジェクト）	岩本崇	列品管理課主任研究員　古谷毅、調査研究課考古室研究員　河野正訓
14	京都国立博物館	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見龍介	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
15	森林総合研究所	木彫像の樹種識別技術の高度化	安部久	保存修復課環境保存室長　和田浩
16	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	松井敏也	同上
17	愛知県立芸術大学	「月次祭礼図模本」の総合復元研究	岩永てるみ	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
18	木更津市郷土博物館金のすず、国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究(繊維等の織物資料担当)	稲葉昭智、上野祥史	客員研究員　澤田むつ代

【京都国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築―語彙と理論にまたがる総合的研究	教授　山崎　剛	副館長　伊藤嘉章
2	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授　岩佐光晴	学芸部列品管理室長　浅見龍介
3	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－	学芸企画部博物館教育課教育講座室長　浅湫　毅	学芸部列品管理室長　浅見龍介
4	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡穣	学芸部列品管理室長　浅見龍介
5	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	教授　宇都宮啓吾	学芸部列品管理室主任研究員　羽田聡
6	国際日本文化研究センター	海賊史観から交易を検討する：国際法と密貿易－海賊商品流通の学術的・文明史的研究	教授　稲賀繁美	学芸部列品管理室主任研究員　呉孟晋
7	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容-１３世紀から１８世紀の対外交易品を中心として-	学芸部文化財課主任研究員　原田あゆみ	学芸部企画室研究員　末兼俊彦
8	九州国立博物館	日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合的研究	学芸部文化財課主任研究員　原田あゆみ	学芸部企画室研究員　末兼俊彦
9	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究―大航海時代を中心に―	企画情報部　室長　小林　公治	学芸部企画室研究員　末兼俊彦

【奈良国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部教育室長　谷口　耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部美術室研究員　北澤　菜月

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	教育講座室長　淺湫　毅	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
4	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	教育講座室長　淺湫　毅	学芸部列品室研究員 山口　隆介
5	大阪市立大学	東大寺史の総合的再構成－『東大寺要録』を中心に－	名誉教授　栄原永遠男	学芸部列品室研究員 山口　隆介
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
7	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部教育室長 谷口　耕生
8	アジア文化交流センター	国宝桜ケ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用　－発見５０年目を迎えるにあたって－	主任研究員　進村真之	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行
9	北海道博物館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究	学芸員　杉山智昭	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行

【九州国立博物館】延べ　12人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	鹿児島大学	Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ）） （基盤研究（Ｂ））	総合研究博物館准教授 橋本達也	博物館科学課長 今津節生 企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
2	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文物交流の実証的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	文学部准教授　杉井健	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
3	北海道博物館	アイヌ民族資料のＸ線ＣＴによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｃ））	学芸主査　杉山智昭	博物館科学課長 今津節生
4	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7－10世紀を中心に（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	国際教養学部非常勤講師 深見純生	企画課特別展室長 原田あゆみ
5	東亜大学	東アジア文化圏の形成に果たした漢代郡県都市に関する学際的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	人間科学部教授　黄 暁芬	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
6	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	国際日本学研究所客員所員 KREINER Josef	館長　島谷弘幸
7	関西大学	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～（学術研究助成基金助成金）（挑戦的萌芽研究）	文学部教授　米田文孝	企画課文化交流展室主任研究員 市元塁
8	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	調査課長　今尾文昭	博物館科学課長 今津節生
9	京都大学	木製文化財の非破壊材質評価とデジタルアーカイブ作成（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	生存圏研究所教授　杉山淳司	博物館科学課長 今津節生
10	佐賀大学	史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開（科学研究費補助金）（基盤研究（Ｂ））	学内共同利用施設等研究員　脇田久伸	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
11	東京国立博物館	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｃ））	百五十年史編纂室主任研究員 恵美千鶴子	館長　島谷弘幸
12	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	人文科学研究院教授 井手誠之輔	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀

【東京文化財研究所】延べ　18人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	片岡　修	無形文化遺産部主任研究員 石村智
2	国士舘大学	ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学	大沼　克彦	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米　正吾
3	国士舘大学	古代メソポタミア北東部における歴史考古学的研究	沼本　宏俊	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米　正吾
4	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	文化遺産国際協力センターセンター長　川野邊　渉

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	早稲田大学	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	近藤　二郎	文化遺産国際協力センター客員研究員　前川　佳文
6	京都大学	真言密教寺院の史料調査に基づく分野横断的綜合研究―新たな仏教思想史の枠組を求めて	上島　亨	企画情報部主任研究員　皿井　舞
7	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	小島　浩之	保存修復科学センター副センター長　佐野　千絵
8	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡　穣	企画情報部主任研究員　皿井　舞
9	早稲田大学	享保以降義太夫節浄瑠璃作品のデザタル・アーカイブに向けての研究	鳥越　文蔵	無形文化遺産部部長　飯島　満
10	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築――語彙と理論にまたがる総合的研究	山崎　剛	企画情報部部長　山梨　絵美子
11	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	企画情報部文化形成研究室長　小林　達朗
12	九州大学	未解読楽譜研究のための情報検索システムの構築	矢向　正人	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑　いづみ
13	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	無形文化遺産部主任研究員 石村　智
14	大谷大学	モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進	松川　節	企画情報部情報システム研究室長　二神　葉子
15	東京藝術大学	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究	越川　倫明	企画情報部部長　山梨　絵美子
16	東京大学	日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究	鴈野　佳世子	保存修復科学センター保存科学研究室長　吉田　直人
17	大阪大学	世界遺産と未来共生ー武力紛争下の文化財保護・回復政策を通じた深層の平和構築の推進	星野　俊也	文化遺産国際協力センター客員研究員　原本　知実
18	京都工芸繊維大学	蛍光寿命測定の文化財材料への応用に関する基礎研究	佐々木　良子	保存修復科学センター保存科学研究室長　吉田　直人

【奈良文化財研究所】延べ25人

○科学研究費補助金　延べ22人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
2	東京大学	正倉院文書の多元的解析支援と広領域研究資源化	准教授　山口　英男	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
3	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授　鷹取　祐司	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
4	名城大学	クメール帝國の空間構造と地方拠点都市遺跡に関する研究	教授　溝口　明則	企画調整部長 杉山　洋
5	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
6	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
7	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
8	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　小田　裕樹
9	大阪市立大学	東大寺史の再構成-『東大寺要録』を中心に-	特任教授　栄原　永遠男	文化遺産部歴史研究室長 吉川　聡
10	東北大学	年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室　研究員　星野　安治
11	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎 健
12	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
13	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　川畑　純

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
14	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人
15	大阪市立大学	密林に覆われた古代水利都市アンコール遺跡群の実像解明・保全・修復研究	准教授　原口　強	企画調整部長 杉山　洋
16	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員　植田　直見	埋蔵文化財センター長 難波　洋三
17	橿原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究－「型紙」と製作工程の分析を中心として－	総括研究員　吉村　和昭	企画調整部客員研究員 小林　謙一
18	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化－東南アジア大陸部を事例に－	研究員　柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室長 森本　晋
19	京都大学	古代・中世東西回廊－ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態－	研究員　柴山　守	企画調整部長 杉山　洋
20	京都大学	覆屋とその周辺地盤が露出展示遺構の劣化に及ぼす影響に関する検討	教授　鉾井　修一	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　脇谷　草一郎
21	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
22	京都橘大学	ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築	教授　一瀬　和夫	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人

○学術研究助成基金助成金　延べ3人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	埼玉大学	楽浪郡存続期における鉄器と玉類の流通網及び技術移転に関する包括的研究	准教授　中村　大介	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
2	東京文化財研究所	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	修復材料研究室長　朽津　信明	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　脇谷　草一郎
3	奈良女子大学	玉類の生産および流通と社会変化の因果関係に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
454人	161 人	47人	17人	20人	77人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	277 人	142人		135人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進室		
	11 人		5 人		

【東京国立博物館】延べ47人（科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を除く）

（参考：科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を含む合計人数は99人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費　44人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭　智美	米国	4月19日～4月27日	国際展覧会オーガナイザー会議に出席ほかのため	招へい共通事業費
2	小泉　惠英	タイ	6月11日～6月15日	タイ展打ち合わせ及び視察のため	海外展交流経費
3	土屋　裕子	イタリア	6月29日～7月3日	伊東マンショ作品の調査のため	同上
4	瀬谷　愛	同上	6月29日～7月3日	同上	同上
5	松本　伸之	中国	8月5日～8月7日	中国文物交流中心及び北京故宮博物院との打合せのため	同上
6	楊　鋭	同上	8月5日～8月7日	同上	同上
7	竹内　奈美子	韓国	8月20日～8月26日	韓国・国立中央博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
8	木下　史青	同上	10月4日～10月11日	韓国国際交流財団主催「2015日本博物館キュレーターワークショップ」に参加のため（2015年度学術交流）	同上
9	小林　牧	中国	10月13日～10月16日	中国北京故宮博物院創立90周年記念フォーラム出席にかかる随行のため	海外交流展経費
10	楊　鋭	同上	10月13日～10月16日	同上	同上
11	金井　裕子	ドイツ	11月4日～11月11日	土佐派絵画の調査のため（2015年度海外派遣）	招へい共通事業費
12	井上　洋一	シンガポール	11月24日～11月27日	アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会出席のため	海外交流展経費
13	鬼頭　智美	同上	11月24日～11月27日	アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会出席にかかる随行のため	同上
14	沖松　健次郎	中国	11月9日～11月18日	中国・上海博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
15	白井　克也	韓国	12月8日～12月17日	韓国・国立中央博物館と当館との2015年度学術交流のため	同上
16	岩田　侑利子	台湾	12月27日～12月29日	台湾国立故宮博物院南院開幕記念式典出席にかかる随行のため	海外交流展経費
17	富田　淳	中国	28年1月19日～1月23日	特集企画「上海博物館との競演」にかかる作品調査のため	同上
18	小山　弓弦葉	同上	28年1月19日～1月22日	同上	同上
19	楊　鋭	同上	28年1月19日～1月23日	同上	同上
20	三笠　景子	同上	28年1月19日～1月22日	同上	同上
21	川村　佳男	同上	28年1月19日～1月23日	同上	同上
22	西木　政統	インド	28年1月31日～2月7日	2018年度開催予定の特集「東アジアにおけるインド風」の事前調査のため	同上
23	井上　洋一	オランダ・イギリス	28年2月1日～2月6日	今後の特別展にむけた考古・民族資料の調査ならびにアル・タニ展にかかる調査のため	同上
24	品川　欣也	同上	28年2月1日～2月8日	同上	同上
25	小野塚 拓造	同上	28年2月1日～2月8日	同上	同上
26	井出　浩正	パプアニューギニア	28年2月6日～2月13日	平成２８年度特集「南太平洋の祈りと暮らしⅡ（仮題）」に展示する民族資料にかかる調査のため	同上
27	川村　佳男	同上	28年2月6日～2月13日	同上	同上
28	猪熊　兼樹	同上	28年2月6日～2月13日	同上	同上
29	小林　牧	中国	28年2月22日～2月27日	中国・上海博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
30	瀬谷　愛	ギリシャ	28年2月25日～3月6日	ギリシャ展の出品作品調査及び打合せのため	海外交流展経費
31	松本　伸之	中国	28年3月2日～3月4日	展覧会打合せのため	同上
32	楊　鋭	同上	28年3月2日～3月4日	展覧会打合せ随行のため	同上
33	松本　伸之	フランス・イギリ	28年3月7日～3月12日	展覧会協議等のため	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
		ス			
34	和田　浩	台湾	28年3月14日～3月16日	国立故宮博物院南院の展示施設・収蔵施設調査のため	同上
35	田沢　裕賀	同上	28年3月14日～3月17日	同上	同上
36	矢野　賀一	台湾	28年3月14日～3月16日	国立故宮博物院南院の展示施設・収蔵施設調査のため	海外交流展経費
37	金井　裕子	同上	28年3月14日～3月17日	同上	同上
38	小山　弓弦葉	中国	28年3月15日～3月19日	特集「上海博物館との競演」にかかる借用点検及び作品梱包のため	同上
39	三笠　景子	同上	28年3月15日～3月19日	同上	同上
40	富田　淳	中国	28年3月15日～3月20日	同上	同上
41	淺湫　毅	同上	28年3月15日～3月20日	同上	同上
42	川村　佳男	同上	28年3月16日～3月19日	同上	同上
43	猪熊　兼樹	同上	28年3月15日～3月23日	同上	同上
44	楊　鋭	同上	28年3月15日～3月24日	同上	同上

○職員旅費（その他）：延べ3人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	松本　伸之	中国	9月9日～12日	国際館長フォーラム出席のため	館長裁量経費
2	松本　伸之	台湾	12月27日～12月29日	台湾国立故宮博物院南院開館記念式典出席のため	同上
3	三笠　景子	韓国	28年1月10日～1月11日	作品調査のため	研究奨励費

○科学研究費補助金：延べ34人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	関　紀子	中国	6月21日～6月25日	関科研調査のため	科学研究費補助金
2	松嶋　雅人	フランス	7月7日～7月10日	松嶋科研調査のため	同上
3	和田　浩	同上	7月7日～7月10日	同上	同上
4	土屋　裕子	イギリス	7月19日～7月25日	白井科研調査のため	同上
5	白井　克也	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
6	鈴木　希帆	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
7	田良島　哲	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
8	小野塚 拓造	イスラエル	8月4日～8月23日	月本科研(基盤B)の調査のため	同上
9	小山　弓弦葉	米国	8月16日～8月28日	科学研究費による古染織品調査のため	同上
10	鬼頭　智美	同上	9月8日～9月14日	鬼頭科研調査のため	同上
11	関　紀子	中国	9月14日～9月22日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
12	富田　淳	中国	9月17日～9月22日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
13	松嶋　雅人	ドイツ	9月28日～10月2日	基盤研究(B)「中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察」に関する調査のため	同上
14	和田　浩	同上	9月28日～10月2日	基盤研究（B）木彫像の樹種識別技術の高度化に関する調査研究の現地調査のため	同上
15	三田　覚之	韓国	10月15日～10月17日	韓国国立中央博物館「古代仏教彫刻大展」の熟覧および仏舎利国際シンポジウムへの参加のため	同上
16	淺湫　毅	同上	11月1日～11月3日	金銅仏の調査のため	同上
17	関　紀子	中国	11月12日～11月19日	関科研調査のため	同上
18	富田　淳	同上	11月12日～11月16日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
19	小山　弓弦葉	イギリス	12月26日～12月31日	科学研究費による染織調査のため	同上
20	後藤　健	バーレーン	28年1月5日～2月15日	科学研究費によるバーレーン発掘調査のため	同上
21	丸山　士郎	インド	28年1月31日～2月7日	科研にかかる調査および開催予定の特集「東アジアにおけるインド風」の事前調査のため	同上
22	伊藤　信二	同上	28年1月31日～2月7日	同上	同上
23	沖松　健次郎	同上	28年1月31日～2月5日	同上	同上
24	和田　浩	ドイツ	28年2月1日～2月5日	海外における博物館リスクマネジメントに関する情報・資料収集のため	同上
25	古谷　毅	韓国	28年2月11日～2月14日	科学研究費による調査および会議・研究会への出席のため	同上
26	白井　克也	米国	28年2月15日～2月21	科学研究費による調査のため	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
			日		
27	鬼頭　智美	同上	28年2月15日～2月21日	同上	同上
28	田良島　哲	同上	28年2月15日～2月21日	科学研究費による調査のため	同上
29	川村　佳男	中国	28年2月16日～2月19日	科学研究費による「極薄青銅器の製作技術解明」の調査のため	同上
30	和田　浩	同上	28年2月16日～2月19日	同上	同上
31	矢野　賀一	オランダ・イギリス	28年2月20日～2月27日	白井科研にかかる現地調査のため	同上
32	神庭　信幸	韓国	28年3月7日～3月8日	科学研究費による調査のため	同上
33	土屋　裕子	同上	28年3月7日～3月8日	同上	同上
34	瀬谷　愛	米国	28年3月20日～3月27日	同上	同上

○その他助成金：延べ18人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	田沢　裕賀	米国	11月18日～11月22日	北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業にかかる打合せのため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金
2	ミウォシュ・ヴォズニ	同上	11月18日～11月22日	同上	同上
3	岩田　侑利子	同上	11月18日～11月22日	同上	同上
4	神庭　信幸	中国	10月9日～10月11日	１１月開催予定の研修にかかる事前協議のため	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金
5	宮田　将寛	同上	10月9日～10月11日	同上	同上
6	井上　素子	同上	10月9日～10月11日	同上	同上
7	神庭　信幸	韓国	10月26日～10月27日	１１月上海国際会議の事前協議および視察のため	同上
8	井上　素子	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
9	實井　香那子	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
10	六人部　克典	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
11	神庭　信幸	中国	11月24日～11月28日	中日韓文物防災学術検討会のため	同上
12	和田　浩	同上	11月24日～11月26日	同上	同上
13	實井　香那子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
14	井上　素子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
15	宮田　将寛	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
16	六人部　克典	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
17	岩田　侑利子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
18	井上　素子	スイス	28年3月6日～3月9日	文化財防災設備に関する調査のため	同上

【京都国立博物館】延べ17人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	福士　雅也	アメリカ	4月10日～17日	「Ink and Gold:Art of Kano」(狩野派特別展)展覧会クーリエ業務	フィラデルフィア美術館
2	呉　孟晋	韓国	5月7日～11日	「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画専題講座」の講演	香港中文大学文物館
3	佐々木　丞平	韓国	5月14日～16日	「龍山再開館１０周年記念国際学術大会」参加	韓国国立中央博物館
4	佐々木　丞平	フランス	5月30日～6月4日	ICOM本部・パリ会議に出席	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	呉　孟晋	韓国	6月22日～26日	「細密可貴展-韓国美術の品格」出陳予定作品の輸送及び展示	サムソン美術館リウム
6	呉　孟晋	韓国	8月15日～19日	「細密可貴展-韓国美術の品格」出陳作品の撤収及び輸送	サムソン美術館リウム
7	佐々木　丞平	中国	9月9日～11日	国際館長会議「文物保護与博物館建設：国際博物館高峰論壇」出席	上海博物館
8	呉　孟晋	中国	9月9日～11日	国際館長会議「文物保護与博物館建設：国際博物館高峰論壇」出席の館長随行	上海博物館
9	リンネ マリサ	ポーランド	9月15日～22日	ICOM-ICDADの国際会議参加	ICOM日本委員会
10	伊藤　嘉章	ロシア	9月20日～24日	「樂-茶碗の中の宇宙」開会式、講演会	国際交流基金
11	永島　明子	アメリカ	9月27日～10月1日	琳派展出品作品の借用	日本経済新聞社
12	呉　孟晋	中国	10月26日～30日	国際シンポジウム「呉趙風流：呉讓之、趙之謙書印学術研討会」参加・発表	マカオ芸術博物館
13	佐々木　丞平	韓国	10月28日～31日	2015年ヨンウォル国際博物館フォーラム	韓国寧越国際博物館
14	末兼　俊彦	アメリカ	11月16日～20日	科研費(基盤B)「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」にかかる調査	科学研究費補助金
15	福士　雅也	アメリカ	12月11日～16日	琳派展作品返却及び視察	日本経済新聞社
16	佐々木　丞平	フランス	28年3月12日～16日	ギメ東洋美術館との国際学術交流に関する協定書調印式	職員旅費
17	山川　暁	フランス	28年3月12日～16日	ギメ東洋美術館との国際学術交流に関する協定書調印式	職員旅費

【奈良国立博物館】延べ20人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	斎木　涼子	中国	12月9日～12月18日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	上海博物館（中国）
2	田澤　梓	同上	同上	同上	同上
3	内藤　栄	韓国	12月20日～12月27日	日本の古墳文化展開幕式出席、韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	国立慶州博物館（韓国）
4	大江　克己	同上	28年2月6日～3月2日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流及び慶州博「日本の古墳文化」展に係わる展覧会の撤去作業	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	谷口　耕生	イギリス	6月10日～6月16日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る文化財調査	イーストアングリア大学他（イギリス）
6	北澤　菜月	同上	同上	同上	同上
7	伊藤　久美	同上	同上	同上	同上
8	清水　健	韓国	8月8日～8月11日	韓国・三星博物館Leeumにおける「細密可貴」展に係る作品の輸送・展示	三星美術館Leeum（韓国）
9	清水　健	同上	9月15日～9月17日	韓国・三星博物館Leeumにおける「細密可貴」展に係る作品の撤収・輸送	三星美術館Leeum（韓国）
10	山口　隆介	中国	9月16日～9月23日	科研費「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」に係る仏教美術調査	四川博物院他（中国）
11	谷口　耕生	同上	同上	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に係る仏教美術調査	同上
12	北澤　菜月	同上	同上	同上	同上
13	岩井　共二	韓国	10月29日～10月31日	科研費「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」に係る仏教美術調査	国立中央博物館（韓国）
14	山口　隆介	同上	11月1日～11月3日	同上	同上
15	岩田　茂樹	同上	11月1日～11月3日	同上	同上
16	岩戸　晶子	同上	12月2日～12月22日	慶州博「日本の古墳文化」展に係る文化財の輸送と展示作業	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）
17	大江　克己	同上	12月3日～12月22日	同上	同上
18	岩田　茂樹	イタリア	12月3日～12月22日	科研費「多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－」に係る仏教美術調査	ヴェネツィア東洋美術館、ローマ東洋美術館（イタリア）
19	湯山　賢一	韓国	12月20日～12月22日	国立慶州博物館　特別展「日本の古墳文化」開会式、レセプションに出席	国立慶州博物館（韓国）
20	岩戸　晶子	同上	28年2月21日～3月3日	慶州博「日本の古墳文化」展に係る撤収作業と文化財の輸送	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）

【九州国立博物館】延べ77人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	市元塁	中国	4月19日～26日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-」に係る調査	科学研究費
2	臺信祐爾	同上	4月19日～26日	同上	科学研究費
3	秋山純子	同上	4月19日～26日	同上	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
4	臺信祐爾	フランス	5月8日～22日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業、国際巡回展「ラスコー3」に係る現地調査、第2回京都大学-ボルドー大学共催シンポジウムに係る発表	先方負担
5	今津節生	フランス	5月9日～13日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	先方負担
6	鷲頭桂	イギリス	5月9日～13日	特別展「新・桃山展（仮称）」に係る作品調査	職員旅費
7	市元塁	中国	6月8日～13日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に係る調査	先方負担
8	島谷弘幸	タイ	6月11日～15日	特別展「タイ」展（仮称）」に係る協議および出陳作品調査	職員旅費
9	原田あゆみ	同上	6月11日～15日	同上	職員旅費
10	今津節生	同上	6月11日～15日	同上	職員旅費
11	市元塁	中国	7月6日～9日	特別展「美の国 日本」に係る協議	職員旅費
12	島谷弘幸	同上	7月6日～9日	同上	職員旅費
13	畑靖紀	メキシコ	8月3日～8日	特別展「新・桃山展（仮称）」に係る調査・借用交渉	職員旅費
14	鷲頭桂	同上	8月3日～8日	同上	職員旅費
15	市元塁	中国	8月3日～5日	特別展「瀋陽故宮展（仮称）」に係る調査	職員旅費
16	島谷弘幸	同上	8月3日～5日	同上	職員旅費
17	佐々木蘭貞	オランダ	8月19日～24日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	先方負担
18	臺信祐爾	ミャンマー	8月23日～28日	京都大学・文化庁プロジェクト「文化遺産国際協力拠点交流事業」における講演・教育指導	先方負担
19	島谷弘幸	中国	8月24日～27日	学術文化交流協定に係る調印式への出席および今後の事業に係る協議・施設調査	職員旅費
20	進村真之	同上	8月24日～27日	同上	県費
21	原田あゆみ	インドネシア	9月11日～16日	科学研究費助成事業「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に」に係る研究会・意見交換	科学研究費
22	川畑憲子	中国	9月17日～26日	科学研究費助成事業「出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究」に係る調査	科学研究費
23	今津節生	同上	9月21日～26日	同上	科学研究費
24	臺信祐爾	同上	9月21日～25日	同上	科学研究費
25	市元塁	中国	9月21日～26日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に係る作品点検・梱包作業	先方負担
26	市元塁	中国	10月10日～13日	特別展「美の国 日本」に係る作品集荷・輸送	先方負担
27	岸本圭	韓国	10月11日～14日	特別展「美の国　日本」作品集荷	他機関負担
28	島谷弘幸	中国	10月13日～15日	北京故宮博物院館長フォーラムにおける講演	先方負担
29	島谷弘幸	フランス	10月20日～24日	「書の世界現代日本の書」展に係る講演、ユネスコ世界遺産選考委員会	先方負担
30	志賀智史	ベトナム	10月21日～24日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	職員旅費
31	金旻貞	同上	10月21日～24日	同上	職員旅費
32	小泉惠英	韓国	11月7日～8日	科学研究費助成事業「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合研究」に係る調査	科学研究費
33	望月規史	アメリカ	11月16日～23日	基盤（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合研究」に係る打合せ	科学研究費
34	酒井田千明	中国	11月17日～20日	瀋陽故宮展調査	職員旅費
35	市元塁	同上	11月17日～20日	同上	職員旅費
36	進村真之	同上	11月17日～20日	同上	県費
37	金旻貞	ベトナム	11月17日～21日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	職員旅費
38	志賀智史	同上	11月17日～21日	同上	職員旅費
39	島谷弘幸	アメリカ	11月19日～22日	第5回カルコン美術対話委員会・公開フォーラムへの出席	先方負担
40	島谷弘幸	シンガポール	11月25日～28日	第5回アジア国立博物館長会議（ANMA）定期大会への出席	職員旅費
41	小泉惠英	シンガポール	11月25日～28日	シンガポール国立博物館等調査、第5回アジア国立博物館長会議（ANMA）定期大会・送別会出席	職員旅費
42	岸本圭	韓国	12月2日～5日	特別展「美の国 日本」に係る作品輸送・返却	他機関負担

	氏名	用務先	期間	用務	備考
43	市元塁	中国	12月2日～6日	特別展「美の国 日本」に係る作品輸送・返却	先方負担
44	臺信祐爾	オーストラリア	12月5日～16日	特別展「黄金のアフガニスタン」に係る作品集荷	先方負担
45	今津節生	ミャンマー	12月7日～11日	京都大学・文化庁プロジェクト「文化遺産国際協力拠点交流事業」における講演・教育指導	先方負担
46	岸本圭	オーストラリア	12月5日～15日	特別展「黄金のアフガニスタン」に係る作品集荷	先方負担
47	島谷弘幸	韓国	12月20日～23日	特別展「美の国　日本」展示報告および学術文化交流協定に係る協議	職員旅費
48	楠井隆志	同上	12月20日～23日	同上	県費
49	進村真之	同上	12月20日～23日	同上	県費
50	小嶋篤	韓国	12月21日～24日	古代韓国出土の武器･武具の調査	科研費
51	島谷弘幸	台湾	12月27日～29日	台湾故宮南院開幕式および調査	他機関負担
52	佐々木蘭貞	アメリカ	1月7日～14日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	先方負担
53	今津節生	アメリカ	1月7日～14日	基盤（A）「木製文化財の非破壊材質評価とﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰｶｲﾌﾞ作成」に係る調査研究	科研費
54	川畑憲子	オランダ	1月14日～18日	メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金助成「史料にみる彫漆器」に関わる漆器の研究調査	他機関負担
55	松浦晃佑	中国	1月16日～21日	科研費「近世日本のｷﾘｼﾀﾝ禁制と「異国船」対策－東アジアと地域の視点から」に係る調査	科研費
56	原田あゆみ	タイ	1月17日～24日	日タイ修好 130 周年記念特別展「タイ」展（仮称）に係る協議および出陳作品調査	職員旅費
57	小泉惠英	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
58	金旻貞	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
59	赤田昌倫	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
60	今津節生	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
61	進村真之	同上	1月17日～24日	同上	他機関負担
62	小嶋篤	同上	1月17日～24日	同上	他機関負担
63	河野一隆	タイ・インドネシア	1月17日～24日	海外交流展にかかる事前調査／科研費基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	職員旅費
64	島谷弘幸	ドイツ	2月1日～6日	日本ユネスコ国内委員会、日本仏教美術館書跡遺品調査	他機関負担
65	松浦晃佑	ポルトガル	2月12日～21日	科研費『近世日本のｷﾘｼﾀﾝ禁制と「異国船」対策-東アジアと地域の視点から」に係る調査	科研費
66	河野一隆	韓国	2月20日	科研費基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	科研費
67	進村真之	ミャンマー	2月23日～27日	交流に係る協議及び調査	県費
68	一瀬智	同上	2月23日～27日	同上	県費
69	秋山純子	アメリカ	2月23日～27日	交流に係る協議及び調査	職員旅費
70	森實久美子	フランス、ドイツ	2月23日～28日	海外交流展「新桃山展」に係る作品の調査	職員旅費
71	畑靖紀	同上	2月23日～28日	同上	職員旅費
72	鷲頭桂	同上	2月23日～28日	同上	職員旅費
73	森實久美子	韓国	3月1日～4日	特別展に係る協議	職員旅費
74	金旻貞	韓国	3月2日～4日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	先方負担
75	佐々木蘭貞	同上	3月2日～4日	同上	先方負担
76	小泉惠英	同上	3月2日～4日	同上	先方負担
77	望月規史	中国	3月2日～5日	特別展「新桃山展」（海外交流展）にかかる作品調査	職員旅費

【東京文化財研究所】延べ　142人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	石村　智	ミクロネシア アメリカ	7月18日～7月23日	ヤップ州歴史保存局にて世界遺産候補「ヤップの石貨」の申請書作成支援、グアム大学にて資料調査	運営交付金
2	石村　智	ネパール	9月20日～9月28日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
3	石村　智	ナミビア	11月28日～12月5日	無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会に係る調査	運営交付金
4	石村　智	ネパール	11月21日～11月25日	コナカにおける無形文化遺産の調査	受託経費
5	石村　智	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
6	石村　智	サモア	28年1月8日～1月17日	サモアの無形文化遺産の調査	受託経費
7	石村　智	グアム	28年2月29日～3月4日	太平洋芸術祭に係る情報収集	受託経費
8	井内　千紗	韓国	28年3月29日～3月31日	韓国ユネスコ国内委員会「文化遺産国際協力ワークショップ」出席	受託経費
9	江村　知子	アメリカ	12月14日～12月18日	動産文化財保護制度の調査	運営交付金
10	江村　知子	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
11	江村　知子	イギリス	28年2月15日～2月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	運営交付金
12	岡田　健	中国	6月14日～6月21日	中国壁画の保存・展示事例調査	受託経費
13	岡田　健	中国	7月8日～7月11日	中国文化遺産研究院創立80周年記念シンポジウム出席、壁画関係資料収集	他機関負担 受託経費
14	岡田　健	中国	8月20日～8月26日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、国際シンポジウム参加	運営交付金
15	岡田　健	中国	9月2日～9月15日	中国初唐期仏教造像に関する調査研究	助成金
16	岡田　健	中国	10月19日～10月24日	第2回曲江壁画シンポジウム参加・発表、古墳壁画調査	運営交付金
17	岡田　健	台湾	11月5日～11月9日	国際シンポジウム参加・発表	他機関負担
18	岡田　健	中国	28年3月9日～3月16日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、打合せ	運営交付金
19	小田　桃子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
20	小田　桃子	台湾	10月25日～10月27日	国際研修の為の協議	基金
21	小田　桃子	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
22	小田　桃子	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
23	小田　桃子	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
24	加藤　雅人	イギリス	4月7日～4月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における成果発表	運営交付金
25	加藤　雅人	台湾	6月22日～6月24日	研修開催に関する協議	基金
26	加藤　雅人	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
27	加藤　雅人	台湾	10月25日～10月27日	国際研修の為の協議	基金
28	加藤　雅人	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
29	加藤　雅人	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
30	加藤　雅人	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
31	加藤　雅人	イタリア	28年3月12日～3月16日	合意書更新及び今後の研修内容に関する打合せ	運営交付金
32	亀井　伸雄	ドイツ	7月2日～7月14日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
33	亀井　伸雄	インドネシア	8月24日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
34	亀井　伸雄	イギリス	9月9日～9月16日	イギリス国内の産業遺産調査	運営交付金
35	亀井　伸雄	メキシコ	11月2日～11月9日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修事業の為の視察。	基金
36	亀井　伸雄	ベトナム	11月22日～11月24日	ハノイ遺産保護センタータンロンの国際シンポジウムに出席	他機関負担
37	亀井　伸雄	アメリカ	28年2月6日～2月11日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金
38	亀井　伸雄	イタリア	28年3月12日～3月16日	合意書更新及び今後の研修内容に関する打合せ	運営交付金
39	川嶋　陶子	韓国	28年2月22日～2月26日	韓国国際協力調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
40	川野邊　渉	ドイツ	6月27日～7月17日	第39回世界遺産委員会・産業遺産の調査	受託経費 運営交付金
41	川野邊　渉	イタリア	11月14日～11月23日	ICCROMの総会・理事会に出席	他機関負担
42	川野邊　渉	ミャンマー	28年1月13日～1月17日	壁画・漆工芸品の調査保存に関する協議	受託経費
43	北川　瑞季	サモア	28年1月8日～1月17日	サモアの無形文化遺産の調査	受託経費
44	橘川　英規	ドイツ チェコ	10月2日～10月7日	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業2015」招へい専門家へのヒアリング及び関連調査	他機関負担
45	楠　京子	イギリス	4月7日～4月13日	海外における日本の文化財修復材料の使用状況調査	他機関負担 運営交付金
46	楠　京子	ミャンマー	6月14日～6月23日	バガン遺跡の壁画保護に係る現地調査・および研修	受託経費 運営交付金
47	楠　京子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
48	楠　京子	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
49	楠　京子	イギリス	11月22日～12月3日	日本海外修復に関する協議及び技術協力	他機関負担
50	楠　京子	ミャンマー	28年1月7日～1月18日	壁画に関する現地調査と研修	受託経費
51	朽津　信明	イタリア	9月7日～9月11日	壁画の保存状態調査	運営交付金
52	久保田　裕道	ネパール	9月20日～9月28日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	受託経費
53	久保田　裕道	中国	10月16日～10月19日	平成27年度日本祭開催支援事業中国北京公演「岩手民俗芸能公演」における講演	他機関負担
54	久保田　裕道	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
55	久米　正吾	キルギス	6月16日～7月7日	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
56	久米　正吾	キルギス	7月27日～8月27日	発掘調査・考古学研究	科学研究費
57	久米　正吾	キルギス	9月29日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	受託経費
58	小林　公治	タイ	7月23日～7月29日	第2回国際会議"Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom"参加・発表／バンコク市内外寺院・博物館等での螺鈿漆器・工房調査および打ち合わせ	科学研究費
59	小林　公治	韓国	9月7日～9月13日	韓国内の螺鈿漆器および工房調査、研究打ち合わせ	科学研究費
60	小林　公治	中国	10月19日～10月23	美術研究翻訳論文執筆者打ち合わせ、国際会議参加発表ほか	科学研究費
61	小林　公治	韓国	28年1月27日～1月29日	国立中央博物館他における協議及び調査	科学研究費
62	後藤　里架	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
63	境野　飛鳥	ドイツ	6月27日～7月17日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
64	境野　飛鳥	イタリア	11月14日～11月23日	ICCROMの総会・理事会に出席	運営交付金
65	境野　飛鳥	アメリカ	12月14日～12月18日	動産文化財保護制度の調査	運営交付金
66	佐藤　桂	カンボジア	5月26日～6月6日	タネイ遺跡における測量作業およびプレアヴィヒア・アンコール遺跡国際調整委員会への参加	科学研究費
67	佐藤　桂	ミャンマー	6月29日～7月6日	第4回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
68	佐藤　桂	インドネシア	8月22日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
69	佐藤　桂	インドネシア	9月7日～9月12日	ジャワ遺跡調査	科学研究費
70	佐藤　桂	ミャンマー	11月21日～11月30日	第5回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
71	佐藤　桂	カンボジア	12月1日～12月5日	ICC-Angcor及びICC-PrearhVihearへの出席等	運営交付金
72	佐藤　桂	ブータン	12月20日～12月24日	伝統的版築造建造物保存事業のための協議等	運営交付金
73	佐藤　桂	カンボジア	28年2月13日～2月18日	タネイ遺跡周辺地形調査等	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
74	佐野　真規	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
75	皿井　舞	アメリカ	6月15日～6月19日	ゲッティ研究所との共同研究の為の協議	運営交付金
76	皿井　舞	中国	9月16日～9月23日	各石窟の見学	科学研究費
77	皿井　舞	韓国	11月1日～11月2日	調査および関連展覧会の見学	科学研究費
78	鴫原　由美	ドイツ	11月10日～11月28日	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	基金
79	鈴木 絢香	韓国	4月12日～4月17日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
80	鈴木 絢香	アメリカ	28年2月6日～2月14日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金
81	田中 淳	韓国	4月12日～4月15日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
82	田中 淳	アメリカ	6月15日～6月20日	ゲッティ研究所との共同研究の為の協議	運営交付金
83	田中 淳	イギリス、オランダ、フランス	28年2月16日～2月23日	セインズベリー日本藝術研究所長等との日本芸術研究の基盤形成事業の打合せ等	運営交付金
84	津田　徹英	イギリス オランダ	28年2月16日～2月21日	セインズベリー日本藝術研究所長等との日本芸術研究の基盤形成事業の打合せ等	運営交付金
85	友田　正彦	カンボジア	5月31日～6月3日	タネイ遺跡保存に関するAPSARA機構との協力	運営交付金
86	友田　正彦	ミャンマー	6月10日～6月20日	バガン遺跡の壁画保護に係る現地調査・および協議	受託経費
87	友田　正彦	ミャンマー	7月4日～7月12日	第4回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
88	友田　正彦	インドネシア	8月24日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
89	友田　正彦	ベトナム	9月3日～9月10日	科研費助成事業に係る現地調査	科学研究費
90	友田　正彦	ネパール	9月14日～9月23日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	運営交付金
91	友田　正彦	ミャンマー	9月26日～10月3日	バガン・ユネスコ事業に係る現地調査及び協議	受託経費
92	友田　正彦	ネパール	11月21日～11月27日	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」に関わる調査	受託経費
93	友田　正彦	ミャンマー	11月28日～12月8日	マンダレーにおける木造建造物調査研修実施､バガンにおけるユネスコ会議出席他	受託経費
94	友田　正彦	ブータン	12月20日～12月24日	伝統的版築造建造物保存事業のための協議等	運営交付金
95	友田　正彦	カンボジア	28年2月13日～2月16日	タネイ遺跡リスクマップ作成のための調査	運営交付金
96	友田　正彦	ベトナム	28年2月21日～2月25日	ベトナム科研に関する研究会に出席及び発表する。	科学研究費
97	友田　正彦	ネパール	28年3月16日～3月27日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に関する調査	受託経費
98	中山　俊介	ドイツ	6月27日～7月20日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
99	中山　俊介	フランス イギリス	9月1日～9月19日	フランス：BigStuff2015講演、イギリス：TICCIH2015への参加及びイギリス国内の産業遺産の現状の現地調査	運営交付金
100	橋本　広美	ミャンマー	28年1月7日～1月17日	壁画および漆工芸品の顔料調査	受託経費
101	早川　泰弘	韓国	10月1日～10月4日	国際シンポジウムへの参加および講演	他機関負担
102	早川　典子	イギリス	4月8日～4月13日	ICON(イギリス修復家学会) の2015年大会"East Asian Materials and Techniques in Western Conservation"における招待講演及び"Starch paste and Japanese adhesives for conservation"ワークショップ講師	他機関負担 運営交付金
103	早川　典子	イタリア	9月7日～9月11日	壁画の保存状態調査	受託経費
104	早川　典子	ドイツ	11月13日～11月18日	漆工品保存修復に関するワークショップの講義	基金
105	二神　葉子	ドイツ	6月27日～7月10日	第39回世界遺産委員会に係る調査を実施する為	受託経費
106	二神　葉子	ナミビア	11月28日～12月6日	無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会	運営交付金
107	二神　葉子	タイ	28年1月18日～1月25日	文化財防災に関する聞き取り調査	科学研究費
108	増渕　麻里耶	イギリス ドイツ	6月24日～7月17日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
109	増渕　麻里耶	エジプト	8月14日～9月2日	ＪＩＣＡプロジェクト診断分析研修講師	他機関負担
110	増渕　麻里耶	トルコ	10月15日～10月22日	遺跡出土鉄製品に関する調査	科学研究費
111	増渕　麻里耶	ミャンマー	28年1月7日～1月17日	壁画および漆工芸品の顔料調査	受託経費
112	森井 順之	韓国	4月12日～4月17日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
113	森井 順之	イギリス	5月19日～5月23日	イコモス石造文化財会ミーティング参加発表	運営交付金
114	森井 順之	韓国	10月21日～10月23日	ISSM2015における講演	他機関負担
115	山内　和也	中国	5月21日～5月26日	ユネスコ・シルクロード・オンラインプラットフォームによる国際ネットワークに関する第1回会議への出席	他機関負担 運営交付金
116	山内　和也	キルギス カザフスタン	6月16日～7月8日	カザフ：アク＝ベシム遺跡での発掘調査・研究打ち合わせ等、キルギス：アク＝ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
117	山内　和也	イスラエル	8月1日～8月8日	ヒシャム宮殿遺跡整備計画準備調査	他機関負担
118	山内　和也	イラン	9月8日～9月19日	イラン国内の世界遺産候補地（カナート）の視察および評価	他機関負担
119	山内　和也	キルギス カザフスタン	9月29日～10月12日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	運営交付金
120	山内　和也	キルギス	10月23日～11月6日	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
121	山内　和也	カザフスタン	11月22日～11月28日	シルクロード世界遺産登録国際調整会議への出席	受託経費
122	山内　和也	エジプト	12月12日～12月18日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了時評価調査	他機関負担
123	山内　和也	エジプト	28年2月13日～2月18日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト運営指導調査	他機関負担
124	山下　好彦	ミャンマー	8月16日～9月10日	シュエナンドー僧院の現状調査および一部修復処理	運営交付金
125	山下　好彦	ドイツ	11月10日～11月27日	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	基金
126	山下　好彦	ミャンマー	28年1月11日～1月17日	漆工芸品の調査および研修	運営交付金
127	山下　好彦	イギリス	28年2月15日～2月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	運営交付金
128	山下　好彦	オーストリア	28年3月20日～3月27日	ウィーン応用美術大学とのMoUに基づく研修の実施	運営交付金
129	山田　大樹	ネパール	9月14日～9月23日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	運営交付金
130	山田　大樹	イラン	9月28日～10月5日	中央アジア歴史都市会議への出席・講演、その他打ち合わせ	運営交付金
131	山田　大樹	キルギス	10月5日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ、資材整理他	受託経費
132	山田　大樹	ネパール	11月21日～12月8日	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」に関わる調査	受託経費
133	山田　大樹	ミャンマー	28年1月12日～1月17日	煉瓦造遺跡での現地調査	受託経費
134	山田　祐子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
135	山藤　正敏	キルギス	6月16日～7月7日	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
136	山藤　正敏	キルギス	9月29日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	受託経費
137	山藤　正敏	キルギス	10月20日～11月9日	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
138	山藤　正敏	フィジー	12月6日～12月12日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
139	山梨　絵美子	韓国	10月1日～10月3日	美術館および図書館調査	運営交付金
140	山梨　絵美子	ドイツ	10月21日～10月26日	国際シンポジウム「日本美術史研究の現在－グローバルな視点から」参加および発表	他機関負担
141	山梨　絵美子	アメリカ	28年2月6日～2月11日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金

【奈良文化財研究所】延べ135人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	田村　朋美	イタリア	4月25日～5月2日	国際会議(TECHNART 2015-Catania April 27-30, 2015)に参加、研究発表をおこなう	運営費交付金
2	佐藤　由似	カンボジア・ミャンマー	4月25日～5月22日	アンコール文化遺産保護に関する協力、ミャンマー遺物調査Ｓ	運営費交付金 科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
3	渡邉　晃宏	韓国	4月26日～4月28日	韓国木簡学会国際学術大会への参加	他機関負担
4	杉山　洋	カンボジア	4月28日～5月3日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費
5	金　宇大	韓国	5月3日～5月7日	「金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究」にかかわる資料調査	科学研究費
6	森本　晋	フランス	5月11日～5月16日	国際シポジウム「人類進化　遺伝子から文化へ」出席	運営費交付金
7	杉山　洋	カンボジア・ミャンマー	5月14日～5月22日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費
8	加藤　真二	中国	5月28日～5月31日	科研調査のための事前調査・現地調整	科学研究費
9	佐藤　由似	カンボジア	5月31日～6月14日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
10	降幡　順子	ドイツ	6月1日～6月7日	UNESCO expert workshop conservation of mural paintings への参加・報告	先方負担
11	森本　晋	カンボジア	6月2日～6月8日	アンコール地域調査国際調整委員会技術委員会出席	科学研究費
12	杉山　洋	カンボジア	6月2日～6月9日	カンボジアにおける西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金
13	小野　健吉	イタリア・フィンランド	6月13日～6月22日	イタリアにおける歴史的庭園等・フィンランドの世界遺産調査	他機関負担
14	石橋　茂登	中国	6月14日～6月19日	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査	東文研
15	降幡　順子	中国	6月14日～6月19日	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査	東文研
16	今井　晃樹	中国	6月21日～7月4日	洛陽出土資料の調査	運営費交付金
17	栗山　雅夫	中国	6月21日～7月4日	洛陽出土資料の調査	運営費交付金
18	佐藤　由似	ドイツ、イギリス、フランス	6月26日～7月13日	世界遺産委員会、ロンドン大学初期上座部仏教シンポジウム発表、ヨーロッパ東南アジア考古学会発表	運営費交付金 科学研究費
19	森本　晋	ドイツ・フランス	6月27日～7月13日	世界遺産委員会、東南アジア考古学者ヨーロッパ会議出席	運営費交付金
20	田村　朋美	フランス	7月5日～7月11日	国際会議(15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists(EurAEASAA15))に参加、研究発表をおこなう	科学研究費
21	杉山　洋	フランス	7月5日～7月13日	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築　研究成果の発表	科学研究費
22	加藤　真二	中国	7月12日～7月19日	中華人民共和国細石刃石器群の調査	科学研究費
23	諫早　直人	韓国	7月19日～7月22日	飛鳥寺塔心礎出土品および「古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費
24	杉山　洋	カンボジア	7月21日～7月24日	カンボジア・西トップ遺跡における調査修復	運営費交付金
25	森本　晋	タイ	7月23日～7月29日	バーミヤーン関係会議・ミャンマー学会参加、資料見学	科学研究費
26	高妻　洋成	オーストリア	7月29日～8月4日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷模型の材料調査	科学研究費
27	難波　洋三	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	運営費交付金
28	中島　志保	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	運営費交付金
29	佐藤　由似	カンボジア	7月31日～8月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
30	杉山　洋	カンボジア	8月1日～8月7日	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	科学研究費
31	馬場　基	中国	8月11日～8月15日	科研調査	他機関科学研究費
32	小野　健吉	チェコ・オーストリア	8月16日～8月24日	「歴史と現状から見た庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から」の庭園観光調査	科学研究費
33	佐藤　由似	カンボジア	8月19日～9月26日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
34	森本　晋	台湾	8月30日～9月5日	国際学会CIPA2015(文化遺産記録国際委員会) 出席	科学研究費
35	金田　明大	台湾	8月31日～9月4日	ＣＩＰＡ２０１５発表・参加のため	運営費交付金
36	渡邉　晃宏	中国	8月31日～9月5日	中国石刻資料調査	他機関科学研究費
37	小田　裕樹	韓国	9月3日～9月9日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、百済地域の墳墓調査	科学研究費
38	石田　由紀子	中国	9月7日～9月12日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関科学研究費
39	今井　晃樹	中国	9月7日～9月12日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関科学研究費
40	金田　明大	ポーランド	9月14日～9月21日	ＩＳＡＰ２０１５発表・参加のため	科学研究費
41	杉山　洋	カンボジア	9月18日～9月26日	アンコール遺跡群における水利環境の復元	科学研究費分担金
42	諫早　直人	韓国	9月20日～9月24日	「古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費
43	森本　晋	カンボジア	9月20日～9月26日	アンコール地域における遺跡記録の調査	科学研究費
44	神野　恵	イギリス	9月22日～9月26日	SISJAC-SOAS Research Grant 2015-2016 第１回ミーティング	先方負担
45	玉田　芳英	英国	9月22日～9月29日	京都大学大学院講義のための資料調査研究	他機関負担
46	高妻　洋成	カンボジア、ラオス	9月23日～9月30日	文化庁受託拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業国際研究会参加	文化庁受託
47	海野　聡	中国	9月25日～10月3日	中国国内における古建築調査および資料収集	科学研究費
48	森本　晋	マカオ	9月26日～9月30日	PNC(太平洋近隣有効協会)2015総会に出席・研究発表	科学研究費
49	川畑　純	韓国	10月5日～11月27日	慶州文化財研究所との発掘交流への参加	運営費交付金 先方負担
50	小野　健吉	アメリカ	10月6日～10月13日	コロンビア大学との研究交流打合せ、アメリカ独立前後の記念物調査	運営費交付金
51	杉山　洋	アメリカ	10月6日～10月13日	コロンビア大学との共同研究打ち合わせ	運営費交付金
52	佐藤　由似	アメリカ	10月7日～10月13日	コロンビア大学との共同研究打ち合わせ	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	大谷　育恵	中国	10月10日～10月19日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う研究会参加	サントリー文化財団研究費 先方負担
54	金　宇大	韓国	10月11日～10月12日	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	科学研究費
55	中島　義晴	中国	10月13日～10月17日	中国における遺跡整備に関する情報収集	運営費交付金
56	内田　和伸	中国	10月13日～10月19日	中国における遺跡整備に関する情報収集	運営費交付金
57	杉山　洋	カンボジア	10月20日～10月24日	カンボジア・西トップ遺跡における調査修復	朝日助成金
58	中村　一郎	ブータン王国	10月21日～11月2日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催　ワークショップ	他機関負担
59	森本　晋	キルギス	10月26日～10月31日	アクベシム遺跡調査に参加	運営費交付金
60	箱崎　和久	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
61	鈴木　智大	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
62	海野　聡	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
63	村山　聡子	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
64	降幡　順子	韓国	10月30日～11月2日	韓国国内出土鉛釉陶器の資料調査・情報収集	科学研究費
65	惠谷　浩子	中国	11月1日～11月4日	日中大学交流文化遺産国際会議への出席および発表	先方負担
66	影山　悦子	中国	11月7日～11月11日	「第3回アジア文化フォーラム」等への出席	文化庁 中国文化部
67	佐藤　由似	カンボジア	11月9日～11月14日	アンコール王朝末期総合的歴史学の構築	科学研究費
68	杉山　洋	カンボジア	11月9日～11月14日	カンボジアにおけるデータベース構築に関する調査	科学研究費
69	森本　晋	タイ	11月12日～11月15日	国際ワークショップ「文化研究への科学技術の応用」に出席・発表	科学研究費分担金
70	影山　悦子	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修	文化庁受託
71	森本　晋	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修	文化庁受託
72	小野　健吉	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修講師	文化庁受託
73	大河内　隆之	中国	11月18日～11月27日	年輪年代調査による資料収集作業とミニシンポジウム参加のため	科学研究費
74	鈴木　智大	中国	11月20日～11月23日	東アジア前近代建築・都市史円卓会議における研究発表	科学研究費
75	降幡　順子	イギリス	11月20日～11月28日	SOASセミナー参加・研究発表、博物館所蔵資料調査	先方負担 科学研究費
76	小池　伸彦	中国	11月23日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
77	高妻　洋成	オーストリア	11月23日～11月27日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷模型の材料調査	科学研究費
78	加藤　真二	中国	11月23日～12月4日	霊井遺跡ならびに関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
79	清野　孝之	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
80	廣瀬　覚	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
81	諫早　直人	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
82	大谷　育恵	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
83	芝　康次郎	中国	11月24日～12月4日	霊井遺跡ならびに関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
84	杉山　洋	カンボジア	11月25日～12月6日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	運営費交付金
85	佐藤　由似	カンボジア	11月25日～12月10日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
86	丹羽　崇史	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究	運営費交付金 先方負担
87	森川　実	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	運営費交付金 先方負担
88	尾野　善裕	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	運営費交付金 先方負担
89	影山　悦子	カンボジア	11月30日～12月4日	ICC-Angkor（アンコール遺跡の保存と開発のための国際調整会議）	運営費交付金
90	森本　晋	カンボジア、ラオス	11月30日～12月9日	アンコール遺跡関連資料調査	科学研究費
91	内田　和伸	韓国	12月1日～12月4日	「新羅・月城と世界遺産の調査・研究」国際学術大会	先方負担
92	今井　晃樹	中国	12月14日～12月16日	中国社会科学院考古研究所との共同研究の協議	運営費交付金
93	渡邉　晃宏	中国	12月14日～12月16日	中国社会科学院考古研究所との共同研究の協議	運営費交付金
94	佐藤　由似	カンボジア	12月15日～12月28日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
95	杉山　洋	カンボジア	12月17日～12月26日	西トップ遺跡の調査修復	朝日新聞文化財団助成金
96	田村　朋美	ロシア	12月23日～12月27日	ロシア・ウラジオストクおよび周辺地域出土ガラス製遺物の調査	他機関負担
97	松本　直也	カンボジア	1月12日～1月16日	西トップ遺跡整備事業の視察	運営費交付金
98	松本　正典	カンボジア	1月12日～1月16日	西トップ遺跡整備事業の視察	運営費交付金
99	佐藤　由似	カンボジア	1月12日～1月19日	カンボジア遠隔地拠点遺跡の調査研究	科学研究費分担金
100	杉山　洋	カンボジア	1月12日～1月19日	カンボジアにおける遠隔地遺跡調査研究	科学研究費分担金
101	諫早　直人	モンゴル	1月17日～1月23日	匈奴墓出土馬具の調査	高梨学術奨励基金
102	馬場　基	台湾	1月18日～1月20日	漢簡資料の調査および撮影	科学研究費
103	中村　一郎	台湾	1月18日～1月20日	漢簡資料の調査および撮影	科学研究費
104	森本　晋	韓国	1月25日～1月27日	情報基準資料の調査	運営費交付金
105	尾野　善裕	イギリス	1月25日～1月30日	セインズベリー日本文化研究所主催セミナーへの参加、および口頭発表	先方負担

	氏名	用務先	期間	用務	備考
106	佐藤　由似	カンボジア、ミャンマー、ラオス	1月27日～3月2日	インドシナ半島東西回廊の調査、西トップ遺跡北祠堂の調査、アンコール文化遺産の調査	科学研究費分担金 朝日文化財団運営費交付金
107	影山　悦子	ウズベキスタン	1月31日～2月6日	イスラム以前の遺物の調査	科学研究費
108	森本　晋	ミャンマー	2月1日～2月10日	コー・タ窯跡の調査による人材育成	受託
109	杉山　洋	ミャンマー、カンボジア	2月1日～2月12日	ミャンマー・カンボジアに於ける東西回廊関係遺跡の調査	科学研究費分担金
110	田村　朋美	ミャンマー	2月3日～2月10日	ミャンマーにおける東西回廊関連遺跡の現地調査	運営費交付金
111	大谷　育恵	カザフスタン、キルギスタン	2月6日～2月15日	サントリー文化財団（若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
112	馬場　基	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
113	方　国花	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
114	松村　恵司	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結	運営費交付金 先方負担
115	渡邉　晃宏	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
116	諫早　直人	中国	2月16日～2月23日	匈奴墓出土馬具および関連資料の調査	高梨学術奨励基金
117	杉山　洋	カンボジア・ラオス	2月23日～3月2日	カンボジア・ラオスに於ける博物館展示指導	運営費交付金
118	諫早　直人	韓国	2月24日～2月27日	国立歴史民俗博物館共同研究第4回研究会への参加および発表	先方負担
119	小野　健吉	ポルトガル	2月26日～3月5日	ポルトガルの世界遺産調査	他機関負担
120	石橋　茂登	韓国	3月3日～3月5日	資料調査	助成金
121	大谷　育恵	ウズベキスタン	3月4日～3月12日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
122	番　光	オランダ	3月7日～3月13日	ライデン国立民俗博物館所蔵の日本大工道具の調査	科学研究費
123	海野　聡	イギリス・フランス	3月8日～3月21日	ヨーク大における建築史講演・討議および英仏の歴史的建造物のエクスカーション・研究打ち合わせ	先方負担 科学研究費
124	渡邉　晃宏	韓国	3月10日～3月13日	日韓木簡ワークショップ参加	先方負担
125	加藤　真二	中国	3月12日～3月17日	黒龍江省における霊井関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
126	杉山　洋	カンボジア	3月13日～3月17日	カンボジアにおける青銅製品の調査	他機関負担
127	諫早　直人	イギリス	3月13日～3月20日	「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」にかかる調査	科学研究費分担金
128	佐藤　由似	カンボジア	3月13日～3月20日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
129	石橋　茂登	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
130	小沼　美結	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
131	若杉　智宏	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
132	森本　晋	ドイツ、フランス	3月15日～3月20日	情報基準資料の調査	運営費交付金
133	小田　裕樹	中国	3月15日～3月25日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、河北省周辺地域の墳墓調査	科学研究費分担金
134	大谷　育恵	ロシア	3月27日～4月4日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
135	金田　明大	ノルウェー	3月29日～4月4日	ＣＡＡ2016発表・参加のため	科学研究費

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ11人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	荒田　明夫	中華人民共和国（北京）	27年3月30日～4月2日	「中国C2センター(CRIHAP)第4回運営理事会」陪席	運営費交付金
2	荒田　明夫	中華人民共和国（貴陽）	27年7月5日～9日	“The 3rd Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage”出席	文化庁受託経費
3	児玉　茂昭	中華人民共和国（貴陽）	27年7月5日～9日	“The 3rd Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage”出席	文化庁受託経費
4	荒田　明夫	韓国（ソウル）	27年10月26日～27日	「韓国C2センター(ICHCAP)第七回運営理事会」陪席	文化庁受託経費
5	荒田　明夫	タイ(バンコク)	27年11月1日～4日	“Regional Symposium on the Development of Post Graduate Degrees Focusing on Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”出席	文化庁受託経費
6	荒田　明夫	キルギス(ビシュケク)	27年12月5日～11日	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific”への出席	文化庁受託経費
7	児玉　茂昭	キルギス(ビシュケク)	27年12月4日～12日	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific”への出席	文化庁受託経費
8	大貫　美佐子	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	ICOMOSコロキアム出席及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
9	児玉　茂昭	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	ICOMOSコロキアム出席及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
10	野嶋　洋子	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	無形文化遺産関連の資料収集及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
11	荒田　明夫	中国（北京）	28年3月21日～23日	CRIHAP第五回運営理事会陪席	文化庁受託経費

【文化財防災ネットワーク推進室】延べ5人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	栗原　祐司	アメリカ	4 月 25 日～5 月 1 日	アメリカ博物館協会年次大会にて発表等	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金
2	マリサ　リンネ	アメリカ	4 月 25 日～5 月 1 日	文化財防災活動に関する調査、アメリカ博物館協会年次大会参加	同上
3	難波　洋三	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上
4	中島　志保	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上
5	マリサ　リンネ	アメリカ	7月30日～8月16日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上

c-② 調査研究テーマ一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
190 件	132 件	66 件	17 件	18 件	31 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	57 件	25 件	32 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　計66件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
2	特別調査「法隆寺献納宝物」（第37次）	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
3	特別調査「書跡」第13回	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
4	特別調査「工芸」第7回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
5	特別調査「彫刻」第5回	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　丸山　士郎
6	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
7	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
8	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　井上洋一
9	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
10	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎
11	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室　主任研究員　恵美千鶴子
12	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	考古室長　白井克也
13	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	学芸企画部付　浅見龍介
14	14)博物館における文化財の情報資源化に関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
15	15)古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	客員研究員　澤田むつ代
16	16)法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課研究員　三田覚之
17	17)多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	学芸企画部博物館教育課教育講座室長　淺湫　毅
18	18)海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	国際交流室長　鬼頭智美
19	19)日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
20	20)絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
21	21)東京国立博物館所蔵写真資料データベース(科学研究費補助金)	学芸企画部	企画課長　富田　淳
22	22)中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷　愛
23	23)「月次祭礼図摸本」総合復元研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷　愛
24	24)工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課　神庭　信幸
25	25)武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
26	26)三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
27	27)木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
28	1)-1 特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
29	1)-2「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充
30	1)-3 特別展「始皇帝と大兵馬俑展」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長　富田　淳
31	1)-4 特別展「生誕150年　黒田清輝」（仮称）に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室研究員　横山　梓
32	1)-5 特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」に関する調査	学芸企画部	広報室長　伊藤信二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
33	1)-6 特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―（仮）」に関する調査研究	学芸企画部	
34	1)-7 特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
35	1)-8 特別展「禅―心をかたちに」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
36	1)-9春日大社展（仮称）に関する調査研究	学芸企画部	企画課長　小泉惠英
37	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
38	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室平常展調整室主任研究員　川村佳男
39	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	学芸研究部	保存修復課　神庭　信幸
40	神像表現における物語性の調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　丸山　士郎
41	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
42	東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員　酒井元樹
43	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　松嶋雅人
44	東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関　紀子
45	極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
46	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	副館長　松本　伸之
47	12)ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	特任研究員　後藤　健
48	13)清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関　紀子
49	14)古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
50	15)古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
51	16)5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課講座室長　淺湫毅
52	17)東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
53	18)東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	出版企画室長　勝木言一郎
54	19)唐・宋時代の陶磁に関する絵画資料の収集と分析（西田記念研究助成金）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　三笠景子
55	20)七仏薬師信仰とその造像に関する研究（メトロポリタン研究助成金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統
56	21)仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（代表者：大正大学　加島勝）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
57	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
58	2)被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
59	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
60	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小林　牧
61	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
62	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	学芸企画部	学芸企画部長　井上洋一
63	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課長　小林　牧
64	6)ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(学術研究助成基金助成金)	総務課	係長　関谷泰弘
65	7)藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	特別展室　主任研究員　品川欣也
66	8)「シーボルト旧蔵本」の修理およびデジタル化による公開事業	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次

【京都国立博物館】　計17件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長　伊藤嘉章
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
3	特別調査「彫刻」	学芸部	企画室長　浅見龍介
4	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
5	特別調査「漆工」	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
6	特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京を彩る」に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉
7	特別展覧会「禅-心をかたちに-」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
8	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
9	京都の幕末史料に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
10	近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
11	実作例に基づく日本の宮廷および調度の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	教育室長　山川　曉
12	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	列品管理室主任研究員　呉　孟晋
13	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
14	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
15	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長　浅見龍介
16	平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉
17	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉

【奈良国立博物館】　計18件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤　栄
2	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
3	平安時代の大般若経の総合的研究と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	企画室長　野尻　忠
4	仏教工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水　健
5	古墳・古墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
6	特別展「白鳳」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤　栄
7	特別展「第67回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水　健
8	特別展「国宝 信貴山縁起－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に関する調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
9	南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
10	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	教育室長　谷口耕生
11	伊豆山権現立像（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究	学芸部	列品室員　山口隆介
12	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸部	学芸部長　内藤　栄
13	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（学術研究助成基金助成金）	学芸部	情報サービス室員　斎木涼子
14	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
15	収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
16	収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
17	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	教育室長　谷口耕生
18	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】　計 31件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	部長　小泉惠英
2	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	博物館科学課	課長　今津節生
3	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
4	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
5	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」に関する調査研究	学芸部	特任研究員　臺信祐爾
6	特別展「京都　高山寺と明恵上人―特別公開　鳥獣戯画―」に関する調査研究	企画課	特別展室研究員　森實久美子
7	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	課長兼文化交流展室長　河野一隆

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
8	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	文化財課	資料登録室主任研究員　荒木和憲
9	契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－に関する調査研究(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)	学芸部	特任研究員　臺信祐爾
10	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究(文化庁受託事業)	博物館科学課	課長　今津節生
11	平成20年度に開催した特別展「工芸のいま 伝統と創造」の成果を基礎とした、九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究	企画課	特別展室長　原田あゆみ
12	タイにおける異文化の受容と変容―13世紀から18世紀の対外交易品を中心として―（科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金）	企画課	特別展室長　原田あゆみ
13	トピック展示「有田焼創業400年記念展　旧家の生活を彩った器－古伊万里－」に関する調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
14	酒井田家文書にみる大名家からの御注文品に関する研究（公益信託　西田記念東洋陶磁史研究助成基金）	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
15	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
16	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費補助金)	企画課	特別展室長　原田あゆみ
17	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	課長　今津節生
18	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
19	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部	特任研究員　本田光子
20	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
21	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫
22	みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	学芸部	特任研究員　本田光子
23	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
24	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　木川りか
25	ＮＨＫと共同で実施する、高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
26	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
27	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎
28	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	展示課	課長　楠井隆志
29	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
30	文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究	文化財課	課長　冨坂賢
31	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【東京文化財研究所】計25件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　小林達朗
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満
7	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（9件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	生物科学研究室　佐藤嘉則
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存科学研究室長　吉田直人
3	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	分析科学研究室長　早川泰弘
4	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
5	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
6	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長　北野信彦
7	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介
9	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　岡田　健

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員　江村知子

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
2	韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
3	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長　山内和也
5	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
6	国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉
7	在外日本古美術保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊　渉

【奈良文化財研究所】計32件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（20件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
3	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
4	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
5	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
6	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
7	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
8	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
9	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
10	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
11	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
12	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
13	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
14	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
15	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	副所長　小野健吉
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	企画調整部 都城発掘調査部　平城地区	企画調整部長　杉山　洋
17	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
18	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
19	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
20	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（3件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三
3	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（6件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
3	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登
5	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長　杉山　洋
6	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡の建築学的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	企画調整部長　杉山　洋
2	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　森本　晋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）

1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　荒田明夫

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
54 件	21 件	32 件	1 件

【東京文化財研究所】計21件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	文化遺産国際協力拠点交流事業（大洋州島しょ文化遺産保護）（受託）	無形文化遺産部
2	高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究（受託）	保存修復科学センター
3	Ｘ線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査（受託）	保存修復科学センター
4	絵金屏風の保存修理に関する調査研究(受託)	保存修復科学センター
5	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査（受託）	保存修復科学センター
6	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討(受託)	保存修復科学センター
7	文化財展示施設収蔵施設等のＡＴＰ調査における留意点の検討（受託）	保存修復科学センター
8	国宝平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務（受託）	保存修復科学センター
9	国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究（受託）	保存修復科学センター
10	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター
11	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター
12	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
13	第39回世界遺産委員会審議調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター
14	文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマー)（受託）	文化遺産国際協力センター
15	文化遺産国際協力拠点交流事業（ネパール）（受託）	文化遺産国際協力センター
16	ユネスコ日本信託基金事業「バガン建築遺産保存のための技術支援」に係る委託（受託）	文化遺産国際協力センター
17	シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究（受託）	文化遺産国際協力センター
18	ユネスコ日本文化遺産保存信託基金事業「シルクロード世界遺産登録に向けた支援」に係る委託（受託）	文化遺産国際協力センター
19	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター
20	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修（エジプト国別研修）」コースに係る委託契約（受託）	文化遺産国際協力センター
21	美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】計32件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成27年度増田地区伝統的建造物詳細調査業務委託（受託）	文化遺産部
2	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査（受託）	文化遺産部
3	北口本宮冨士浅間神社建造物総合調査（受託）	文化遺産部
4	京都市の文化的景観保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
5	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）（受託）	都城発掘調査部　平城地区
6	薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
7	興福寺防災工事に伴う発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
8	朱雀大路緑地水路部（左京三条一坊一・二・七・八坪）遺跡発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
9	興福寺中室・経蔵・鐘楼発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
10	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
11	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）	都城発掘調査部　平城地区
12	平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
13	長門鋳銭所出土木簡の保存処理を経ての総合的研究（受託）	都城発掘調査部　平城地区
14	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）試掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
15	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）本発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
16	本薬師寺跡、藤原京右京八条二・三坊（山口宅）発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
17	史跡　川原寺跡に隣接する県道「大和郡山明日香自転車道線」の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
18	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
19	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
20	国宝　薬師寺東塔　顔料等分析調査業務委託（第Ⅱ期）（受託）	埋蔵文化財センター
21	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究（受託）	埋蔵文化財センター
22	群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査（受託）	埋蔵文化財センター
23	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター
24	喜界町出土金属製遺物の保存処理（受託）	埋蔵文化財センター
25	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業（受託）	埋蔵文化財センター
26	神明遺跡出土銅鐸に関する保存科学的研究（受託）	埋蔵文化財センター
27	国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務（受託）	埋蔵文化財センター
28	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析（受託）	埋蔵文化財センター
29	保美貝塚出土動物遺体分析業務（受託）	埋蔵文化財センター
30	愛知県美術館所蔵作品のテラヘルツイメージングによる診断調査（受託）	埋蔵文化財センター
31	平成27年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託)	埋蔵文化財センター
32	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（受託）	埋蔵文化財センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成27年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
359件	203件	102件	16件	51件	34件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	153件	76件	77件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	3件				

【東京国立博物館】　102件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「文化財を守る―シリア、アフガニスタン、そして日本―」	学芸企画部長　井上洋一	9月26日	若木考古
2	同上	「文化財保護と博物館の役割について－東京国立博物館の事例を中心として－」	同上	12月26日	日本学術会議
3	同上	明清の書―帖学派の文脈	企画課長　富田淳	9月26日	大東文化大学書道芸術文化講演会
4	同上	日本所藏的三大拓本收藏　中村不折・三井高堅・高島菊次郎	同上	10月17日	香港中文大学文物館「北山汲古―碑帖銘刻拓本」公開講座
5	同上	「顔真卿と唐時代の書ものがたり」	同上	平成28年1月16日	東京国立博物館　連携講演会
6	同上	弥生時代の再葬墓	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	9月11日	東京国立博物館　連続講座「考古学が熱い！」
7	同上	指定制度の歩みと縄文時代の国宝	同上	10月24日	茅野市尖石縄文考古館　「平成27年度（2015年度）縄文ゼミナール」
8	同上	大谷探検隊とシルクロード美術	企画課出版企画室長　勝木言一郎	7月25日	東京国立博物館　月例講演会
9	同上	展示ケース内蔵型下部照明器具の開発事例と評価	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	6月21日	第34回日本展示学会
10	同上	OLEDを用いた展示照明	同上	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
11	同上	博物館展示に用いるOLED照明器具の開発	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
12	同上	時代の先端をいく寒河江の仏像	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅	10月17日	寒河江市教育委員会
13	同上	よろいをまとった仏たち	同上	平成28年1月23日	東京国立博物館　月例講演会
14	同上	春日大社第六十次式年造替記念シンポジウム「平安の正倉院　春日大社」	上席研究員　池田宏	4月19日	春日大社、読売新聞社、奈良県
15	同上	武士の表道具－江戸時代の刀剣外装－	同上	10月7日	千代田区立日比谷図書館
16	同上	意外と知らない東京国立博物館 - 考古資料の収集と活用-	列品管理課主任研究員　古谷毅	10月30日	高知県立歴史民俗資料館　「里帰り！土佐の出土品」展講演会
17	同上	下総西部地方の埴輪 - 鰭ヶ崎三本松古墳出土の埴輪と周辺の埴輪-	同上	12月19日	平成27年度 流山市立博物館・知の講座「市内最大の前方後円墳 鰭ヶ崎三本松古墳に迫る」
18	同上	美術から見た縄文土器―火焔型土器の登場―	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	6月27日	平成27年度十日町市博物館講座
19	同上	How archaeological artefacts became art: Jō mon pottery from modern to contemporary times	同上	9月10日	BAJS Annual Conference 2015
20	同上	日本美術史における縄文土器	同上	12月5日	第16回関西縄文文化研究会研究集会
21	同上	納涼図のひみつ	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	10月18日	サントリー美術館　「逆境の絵師 久隅守景　親しきものへのまなざし」展記念講演会
22	同上	鳥獣戯画甲巻、乙巻、丙巻、丁巻	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	5月1日、5月8日、5月15日、5月22日	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」リレートーク
23	同上	鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝	同上	5月2日	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」記念講演会
24	同上	国宝・鳥獣戯画と明恵上人ゆかりの至宝	同上	5月13日	聖心女子大学文化座講座

25	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	国宝・鳥獣戯画の魅力	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	11月14日	東金図書館教養講座
26	同上	華厳五十五所絵 ―東大寺と華厳の美術―	同上	11月25日	東大寺講演会
27	同上	日本美術／日本文化の新しい展示の模索―東京国立博物館本館のリニューアル構想に向けて―	同上	平成28年1月31日	国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」
28	同上	富士とサクラの絵画	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	4月4日	東京国立博物館　月例講演会（桜セミナー）
29	同上	宗達・光琳・抱一の風神雷神図屏風をめぐって	同上	11月1日	建仁寺両足院多聞会講演会
30	同上	狩野山雪筆「武家相撲絵巻」一巻について	同上	平成28年3月29日	東京文化財研究所企画情報部研究会
31	同上	Spread of Digging Tools and the Social Change in Kofun Period Japan	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　河野正訓	4月16日	SAA(Society For American Archaeology) 80th Annual Meeting
32	同上	古墳時代の農具研究	調査研究課考古室研究員　河野正訓	11月6日	2015年度明治大学大学院佐々木ゼミ特別講演会
33	同上	「大彦」コレクションについて	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉	6月27日	東京国立博物館　月例講演会
34	同上	浴衣の話	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	8月4日	東京国立博物館　みずほプレミアム
35	同上	友禅染の歴史	同上	9月11日	東京手描友禅
36	同上	Fashion in Ukiyo-e	同上	10月30日	国際交流基金シドニー日本文化センター
37	同上	能・狂言装束の歴史と美	同上	11月18日	国立能楽堂
38	同上	染織祭復元時代衣装が語り継ぐ日本の染織	同上	12月19日	神戸ファッション美術館
39	同上	The Relationships between Japanese and Indian textiles	同上	平成28年2月12日	国際交流基金、ニューデリー日本文化センター
40	同上	The Relationships between Japanese and Indian textiles	同上	平成28年2月14日	National Institute of Design (Ahmedabad)
41	同上	津波により被災した漆工芸作品の脱塩処理方法の検討	特任研究員　神庭信幸、漆芸文化財修復　松本達弥、目白漆芸文化財研究所室瀬智弥、陸前高田市立博物館副主幹　熊谷賢、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子、同　實井香那子	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
42	同上	被災文化財等救援活動における保存修理―麻布製カンバスに描かれた油彩画の脱塩の試み	特任研究員　神庭信幸、保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、絵画保存修復　土師広、絵画保存修復　中右恵理子、絵画保存修復　増田久美、保存修復課保存修復室非常勤職員　本茉莉江	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
43	同上	歴史的建造物における展示環境改善の取り組み―風除室の効果の検証―	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	6月27日	文化財保存修復学会
44	同上	東京国立博物館蔵 渡辺崋山筆《坪内老大人像画稿（１幅 紙本墨画淡彩）》の修理事例―貼紙のある掛軸装の修理後の装丁について	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー平河智恵、同　下田純平、君嶋隆幸	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
45	同上	博物館における温湿度環境の評価方法とその活用	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
46	同上	文化財の梱包および輸送の実際と安全性評価	保存修復課環境保存室長和田浩	7月2日	日本包装学会第24回年次大会
47	同上	文化財防災ネットワークの構築を目指す	同上	12月29日	文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える-東日本大震災で被災した文化財を考える」
48	同上	博物館における環境特性データの３Ｄ化を通じた文化財の被災リスク早期把握	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
49	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎	森鴎外による帝室博物館蔵書調査に関する新知見	博物館情報課長　田良島哲	6月7日	アート・ドキュメンテーション学会

	的な資料整理と調査研究				
50	同上	森鷗外と正倉院	同上	11月1日	奈良国立博物館「正倉院学術シンポジウム2015」
51	特別展等の開催に伴う調査研究	New Trends / New Markets for International Exhibitions ToursOrganizing Exhibitions in/with China	企画課国際交流室長　鬼頭智美	4月23日	国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）
52	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する調査研究	Seismic mitigation in Japan collections	特任研究員　神庭信幸	4月14日	International Symposium on Advances of Protection Devices for Museum Exhibits
53	同上	これからの文化財防災と保存科学	同上	9月20日	日本文化財科学会公開講演会シリーズ『文化遺産と科学』
54	同上	博物館資料の地震対策	同上	11月25日	中韓日連携災害地研修会
55	博物館の環境保存に関する研究	鶏卵紙に用いられている彩色材料について～旧江戸城写真帖を中心に	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、学芸研究部登録室アソシエイトフェロー関紀子、学芸研究部調査研究課長　田沢裕賀	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
56	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
57	同上	Conservation & Preservation of Color Photographs	保存修復課調査分析室長荒木臣紀	8月11日	2015 Workshop：Conservation & Preservation of Color Photography,台中市
58	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸	8月28日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
59	同上	文化財分野におけるエックス線CT利用の現状と今後	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	12月11日	現物融合型エンジニアリング専門委員会
60	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸、国立科学博物館　坂田智佐子	6月27日	文化財保存修復学会
61	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸、国立科学博物館　真鍋真、同　坂田智佐子、ツォクト・バートル	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
62	同上	東京国立博物館における保存修復活動の進化と現状について	特任研究員　神庭信幸	11月13日	全国美術館会議保存研究部会第46回会合
63	博物館環境デザインに関する調査研究	博物館の展示デザインと施工の実際 ―東京国立博物館・東洋館の展示改修を中心に	企画課デザイン室長　木下史青	6月11日	三越伊勢丹プロパティ・デザイン安全衛生協力会
64	同上	光をまとうと ―お茶つながりがおもしろい vol.6	企画課デザイン室長　木下史青、大日本茶道学会副会長　田中仙堂	8月29日	大日本茶道学会　三徳庵
65	同上	多用な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成	企画課デザイン室長　木下史青、横浜国立大学教授　小野康男、鳴門教育大学教授　山木朝彦、埼玉大学教授　小澤基弘、横浜国立大学教授　渡辺邦夫	9月20日	日本教育大学協会全国美術部門、大学美術教育学会
66	同上	<art-Link上野-谷中>1997-2014 archive 刊行記念シンポジウム	企画課デザイン室長　木下史青、たいとう歴史都市研究会　椎原晶子、東京藝術大学准教授　中村政人、デザイナー　鈴木真梧	7月5日	アートリンク事務局
67	同上	日本文化と進化する展示照明デザイン	企画課デザイン室長　木下史青	平成28年3月10日	日本経済新聞社 文化事業局 イベント事業部
68	博物館教育に関する調査研究	東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	7月5日	文化庁主催「第９回　企画・展示セミナー」
69	同上	東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	平成28年2月17日	埼玉県博物館連絡協議会南部地域第3回研修会
70	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	東京国立博物館デジタルライブラリーについて	博物館情報課情報管理室長　村田良二	11月14日	アート・ドキュメンテーション学会2015年度秋季研究発表会
71	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	始皇帝が夢見た「永遠」-兵馬俑と発掘品から読み解く-	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	10月31日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会

72	同上	基調講演　秦王朝と兵馬俑の考古学	同上	12月19日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」開催記念国際シンポジウム　秦王朝と兵馬俑　－発掘された歴史の実像－
73	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	板谷家伝来資料と住吉・板谷家の仏教絵画制作	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	9月26日	美術史学会東支部例会
74	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	院政期の美術―後白河院と絵巻を中心に―	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	7月4日	多摩美術大学連続講座「世紀を歩く―美術と文化Ⅴ：12世紀」
75	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究	聖徳太子絵伝鑑賞の場　―瑞泉寺本聖徳太子絵伝を考えるために―	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	6月7日	井波絵解きフォーラム「南砺の聖徳太子信仰と絵解き文化を探る」
76	同上	聖徳太子絵伝に描かれた東国―富士山を中心に―	列品管理課平常展調整室主任研究員 土屋貴裕	平成28年3月20日	第3回富士山世界遺産セミナー
77	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	「社寺参詣曼荼羅」としての聖絵	同上	11月15日	「国宝 一遍聖絵」展特別展開催記念シンポジウム「一遍聖絵の全貌」
78	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	古墳出土の刀剣の柄巻きと鞘巻きの繊維の種類と仕様について	客員研究員　澤田むつ代	12月6日	「古代武器研究会」
79	同上	正倉院所在の法隆寺献納宝物の綾幡足等について	同上	4月7日	東京国立博物館　ギャラリートーク
80	同上	正倉院所在の法隆寺献納宝物染織品―錦と綾を中心に―	同上	平成28年2月20日	「聖徳太子に学ぶ会」
81	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	10月16日	国際シンポジウム「古代仏塔舎利荘厳と東アジア仏教文化」（於ソウル古宮博物館）
82	極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究－	古代中国の極薄青銅器にみる製作痕分析-３次元計測、蛍光Ｘ線分析を踏まえて-	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、保存修復課環境保存室長　和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一	5月24日	日本考古学協会平成27年度大会
83	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	初期博物館と外国博物館の文化財交換事業	調査研究課考古室長　白井克也	12月9日	韓国国立中央博物館
84	同上	「館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換」	同上	平成28年3月17日	公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」
85	同上	「東京国立博物館のふたつの「羊図」について」	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	同上	同上
86	同上	「ラベルからたどる明治期の文化財の移動」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	同上	同上
87	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	西アジアに出現した大帝国の支配をさぐる：テル・レヘシュ第9次発掘調査（2015年）	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造、天理大学准教授　橋本英将、天理大学教授　桑原久男、古代オリエント博物館研究員　津本英利	平成28年3月26日	日本西アジア考古学会
88	七仏薬師信仰とその造像に関する研究	比叡山延暦寺根本中堂の薬師如来像とその模刻	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	10月31日	第635回れきはく講座（於大津市歴史博物館）
89	文化財防災に関する調査研究	Rescuing Japan’s Cultural Heritage	総務部長　栗原祐司 京都国立博物館アソシエイトフェロー　マリサ・リンネ	4月28日	AAM 2015 Annual Meeting, Atlanta
90	同上	The Involvement of Japanese University Museums in the Rescue and Conservation of Cultural Properties: Presenting Two Cases from Japan	総務部長　栗原祐司 国際基督教大学湯浅八郎記念大学博物館　福野明子	5月14日	ICOM-UMAC 2015 Annual Meeting, Manila
91	同上	文化財防災ネットワークの構築	総務部長　栗原祐司	6月10日	平成２７年度全国博物館長会議
92	同上	A Perspective on “Cultural Heritage and Disaster Resilient Communities” in Japan	同上	12月4日	ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City
93	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	スポーツ資料の保存管理の課題	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	6月7日	アート・ドキュメンテーション学会2016年大会
94	同上	The issue of preservation management of sports documentation in Japan	同上	9月7日	ICOM-ＣＩＤＯＣ 2015 Annual Meeting, Ｎｅｗ Ｄｅｌｈｉ
95	同上	上野「文化の杜」新構想	総務部長　栗原祐司	12月7日	中華民國博物館學會「博物館聚落與文化景觀國際論壇講座」
96	ミュージアム・マネージメントに関する調査研究	歌に見るミュージアム	同上	6月7日	日本ミュージアム・マネージメント学会第20回大会
97	同上	State-of-the-Art Technology in Museum Security and Current Issues in Japan	総務部長　栗原祐司 総務課アソシエイトフェロー　岩田侑利子	10月20日	ICOM-ICMS 2015 Annual Meeting, Zhengzhou

98	同上	The current issues of National Museums in Japan	総務部長　栗原祐司	10月29日	ICOM-INTERCOM 2015 Annual Conference, Washington D.C.
99	我が国の博物館の国際発信に関する調査研究	ICOM京都大会の開催について	総務部長　栗原祐司	6月26日	第18回大学博物館等協議会総会
100	同上	展示と国際化	総務部長　栗原祐司	9月11日	日本展示学会展示論講座
101	我が国の博物館法制度に関する調査研究	日本の博物館の現状と課題	総務部長　栗原祐司	7月4日	台湾博物館法研究会
102	Museum Management	Cultivating Museum Visits in Young Audiences: A case study on audience development at the Tokyo National Museum	Yasuhiro Sekiya Chief Officer Business Development	10月26日	MPR 2015 Almenia Conference

【京都国立博物館】16件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	書画の革命・革命の書画	列品管理室主任研究員 呉孟晋	4月11日	天門美術館（大阪・枚方）「于右任書法名品展」関連講座
2	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	中国近現代絵画於日本的情況	列品管理室主任研究員 呉孟晋	5月9日	香港中文大学文物館「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画」展専題講座
3	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	呉譲之花卉雑画中的交友関係:以日本収蔵作品為中心	列品管理室主任研究員 呉孟晋	10月28日	マカオ芸術博物館「呉趙風流：呉譲之、趙之謙書画印学術研討会」
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「蒔絵の魅力」	列品管理室主任研究員 永島　明子	5月10日	川西市茶道協会　2015年総会講演会
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	若冲と18世紀の上方画壇	美術室研究員　福士雄也	2月27日	徳島市立徳島城博物館
6	陶磁に関する調査研究	戦国・桃山文化の華　茶の湯	工芸室研究員　降矢　哲男	6月6日	レイクアルスタープラザカワサキ泉佐野市市民大学講座　大阪夏の陣・樫井合戦に想いをはせて
7	陶磁に関する調査研究	茶の湯と考古学	工芸室研究員　降矢　哲男	10月4日	さかい利晶の杜　企画展　「まちを掘る」　-発掘40年と茶道具逸品の数々-　講演会
8	陶磁に関する調査研究	「中世の喫茶文化―出土する茶道具の様相とその価値観―」	工芸室研究員　降矢　哲男	12月19日	レキシルとくしま　2015発掘徳島講演会
9	特別展覧会「琳派　京を彩る」に関する調査研究	「琳派を飾る　展覧会から見えるもの」	教育室長　山川　暁	9月13日	京都ミュージアムズ・フォー4館連携フォーラム
10	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に係る調査研究	琳派の流れと広がり―江戸琳派を中心に―	美術室研究員　福士雄也	6月24日	国際京都学協会研究会
11	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に係る調査研究	琳派―「継承」と「変奏」の諸相	美術室研究員　福士雄也	7月25日	ジャポニスム学会例会
12	特別展覧会「禅　心をかたちに」に関する調査研究	「南北朝時代の袈裟観」	教育室長　山川　暁	8月30日	仏教美術研究　上野記念財団　シンポジウム
13	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	「絵巻を楽しむ―『鳥獣人物戯画』を中心に―」（複製を活用した鑑賞体験）	研究員　水谷亜希	6月12日	京都市教育委員会・京都市図画工作教育研究会　授業実践力向上講座
14	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	博物館の原点回帰	研究員　水谷亜希	28年2月7日	こども光プロジェクト研究交流会 in Kyoto 2016
15	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「Textile Arts　展覧会が導く染織史研究」	教育室長　山川　暁	28年2月6日	美術史学会西支部大会
16	収蔵品の管理・展示にかかる調査研究	「平成知新館と展示環境」	列品管理室主任研究員 永島明子	28年2月3日	欧州・米国ミュージアム日本美術専門家連盟交流事業

【奈良国立博物館】　51件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の歴史	館長　湯山賢一	7月26日	第六十五回法隆寺夏季大学（講演）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	同上	和紙の料紙と変遷	同上	8月21日	浅草寺「仏教文化講座」
3	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展 -歴史と見どころ-	同上	9月23日	正倉院フォーラム2015大阪　基調講演
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	経典と料紙	同上	10月3日	四天王寺秋季大学（講演）
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良国立博物館と正倉院展の伝統	同上	11月1日	古典の日記念　正倉院学術シンポジウム２０１５「正倉院と奈良国立博物館～１２０年の歩み」
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良時代の仏教工芸の魅力―正倉院宝物を中心に	学芸部長　内藤栄	5月3日	白鶴美術館
7	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳美術の魅力と特徴	同上	7月23日	ＮＨＫ公開講演会(於:高槻市生涯学習センター)
8	同上	白鳳美術の魅力と特徴	同上	8月7日	ＮＨＫ公開講演会(於:生駒市コミュニティセンター)
9	同上	白鳳文化と薬師寺	同上	8月23日	薬師寺まほろばの集い講演(於:奈良国立博物館)
10	同上	白鳳寺院を飾った工芸	同上	9月5日	公開講座(於：奈良国立博物館)
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	せいぶ正倉院講座	同上	10月27日 10月31日	講演会（於：奈良市西部公民館）
12	同上	奈良国立博物館の歴史と展示について	同上	12月19日	奈良公園特区通訳案内士育成研修（於：奈良県商工会議所）
13	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	東大寺・僧形八幡神像の再検討	上席研究員　岩田茂樹	6月3日	奈良女子大学古代学学術研究センター月例研究会（於：奈良女子大学）
14	同上	仏像の見方とその魅力－奈良国立博物館の展示を通じて－	同上	6月27日	於．名張市桔梗が丘公民館
15	同上	白鳳の童形仏とその周辺	同上	9月19日	於．奈良国立博物館
16	同上	東大寺僧形八幡神坐像・再説	同上	11月30日	奈良国立博物館サンデートーク
17	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳仏の魅力と謎	情報サービス室長　岩井共二	7月31日	NHK公開講演会(於：芦屋ルナ・ホール)
18	同上	白鳳仏の源流	同上	8月19日	奈良国立博物館 夏季講座「白鳳―歴史と美術―」(於：奈良県文化会館)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	偏杉をめぐって	同上	10月11日	奈良国立博物館サンデートーク
20	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	出羽の鏡像	工芸考古室長　清水健	6月21日	奈良国立博物館サンデートーク
21	同上	秋田県の鏡像	同上	8月2日	平成２７年度後三年合戦沼柵公開講座「清原氏と平安のかがみ――秋田県の鏡像と後三年合戦――」（於：雄物川コミュニティセンター）
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物に親しむ―その魅力と楽しみ方	同上	10月3日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN名古屋～（於：名古屋市博物館）
23	同上	正倉院の仏具とその収納箱	同上	11月3日	第６７回　正倉院展公開講座（於：奈良国立博物）
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	垂迹する聖地―中世日本の補陀落山表象の諸様態を例として―	同上	12月23日	科学研究費　基盤研究（B）「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」第３回ワークショップ（於：京都大学人文科學研究所）
25	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X線CTによる非破壊調査～	保存修理指導室長　鳥越俊行	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
26	同上	虫害を受けたイユタニ（杵）の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	同上	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
27	同上	トゥキ（杯）とイタンキ（椀）との比較－容量に注目して－	同上	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
28	同上	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
29	同上	X線CTスキャナを用いた国宝「初音の調度」 帯箱・櫛箱の構造調査	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
30	同上	画像認識を用いた木質文化財の樹種判定システムの構築	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
31	同上	奈良国立博物館における文化財保存修理所の取り組み	同上	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良（於：奈良春日野国際フォーラム甍）
32	同上	文化財におけるＸ線の利用 ―Ｘ線ＣＴを中心に―	同上	9月25日	第177回Ｘ線材料強度部門委員会（於：奈良春日野国際フォーラム甍）
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	ＣＴとは何か ～原理と撮影手法～	同上	12月19日	九州国立博物館10周年記念シンポジウム「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」（於：九州国立博物館）
34	同上	文化財を科学するⅡ	同上	8月16日	奈良国立博物館サンデートーク
35	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の大般若経書写 ―安倍小水麻呂願経を中心に―	企画室長　野尻忠	4月25日	公開講座（於：奈良国立博物館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
36	同上	慈光寺伝来の法華経と大般若経について	同上	11月8日	特別展「慈光寺―国宝 法華経一品経を守り伝える古刹」記念講演会（於：埼玉県立歴史と民俗の博物館）
37	同上	額田寺伽藍並条里図について ～地域史再発見～	同上	11月29日	於：大和郡山市昭和地区公民館
38	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良の技師が生んだ名建築～探訪、仏教美術資料研究センター	資料室長　宮崎幹子	4月26日	奈良ひとまち大学授業（於：奈良国立博物館）
39	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	同上	6月9日 12月8日	同志社大学
40	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月5日 12月12日 12月20日	京都府立大学
41	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳の考古学―古墳の終焉を考える―	列品室長　吉澤悟	8月7日	主催：NHKプラネット近畿　於：宇治市生涯学習センター
42	同上	古墳が消えた時代―墓制からみた社会の変化と白鳳文化―	同上	8月19日	第44回夏季講座「白鳳―歴史と美術―」
43	同上	薬師寺 日光・月光菩薩を飾ったガラスの装身具―シルクロードとガラスの文化史―	同上	8月30日	第２回 “白鳳時代”を考える
44	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の密教修法	研究員　斎木涼子	7月19日	奈良国立博物館サンデートーク
45	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	東大寺僧の伊勢神宮参詣―その歴史的背景	同上	9月20日	東大寺要録研究会報告（於：金鐘会館）
46	同上	室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師	研究員　山口隆介	5月17日	奈良国立博物館サンデートーク
47	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	快慶の軌跡と造像	同上	9月26日	市民教養講座「歴史講座」（鎌倉時代の信仰と美術１）（於：姫路市民会館大ホール）
48	同上	鎌倉時代の南都再興と運慶・快慶	同上	11月28日	霊山寺塾（於：霊山寺）
49	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	海水被害を受けた被災紙資料の保存処理 ～フィリピン共和国タクロバン市の台風被害の事例から～	研究員　大江克己	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
50	同上	江戸時代に製作された柄鏡の蛍光Ｘ線分析	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
51	同上	日本国内出土馬具の力学的構造解釈- 古墳時代の鉄地金銅製鞍金具を中心として-	同上	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良（於：奈良春日野国際フォーラム甍）

【九州国立博物館】　34件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	日本近世の漆芸品に関する基礎的研究	「国宝　初音の調度の魅力」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	4月11日	徳川美術館・蓬左文庫開館80周年記念春季特別展「全点一挙公開　国宝　初音の調度―日本一の嫁入り道具」記念講演会（会場：徳川美術館）
2	壁画に関する高精細画像集成と活用に関する研究	壁画墓室内空間の高精細画像生成と展示用モデル	学芸部特任研究員　臺信祐爾	5月23日	第2回京都大-ボルドー大学共催シンポジウム　文化財化学分科会（会場：京都大学）
3	文化財の材質・構造等に関する共同研究	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X 線 CT による非破壊調査～	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、東京藝術大学　矢野健一郎、博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、展示課課長　楠井隆志	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）4
4	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X 線 CT による非破壊調査～	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、東京藝術大学　矢野健一郎、博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、展示課課長　楠井隆志	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
5	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	開口部における文化財害虫の発見とその対応	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、学芸部特任研究員　本田光子、博物館科学課課長　今津節生、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、博物館科学課　伊藤理恵、環境文化創造研究所　川越和四、 イカリ消毒（株）　櫻井伸一、環境文化創造研究所　山﨑久美子	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
6	文化財の材質・構造等に関する共同研究	トゥキ（杯）とイタンキ（椀）との比較検討 ―容量に注目して―	北海道開拓記念館小林幸雄、北海道開拓記念館　杉山智昭、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
7	文化財の材質・構造等に関する共同研究	虫害を受けたイユタニ（杵）の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	北海道開拓記念館　杉山智昭、北海道開拓記念館小林幸雄、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
8	文化財の材質・構造等に関する共同研究	複合材料で制作された絵画に発生した劣化生成物について	東京藝術大学　鈴鴨富士子、東京藝術大学　蔵品真理、東京藝術大学　金　鐘旭、博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
9	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	ベンガラ粒子の形態かたみた北関東の前期古墳出土の丹塗土器について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	7月11日、12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
10	文化財の材質・構造等に関する共同研究	3Dプリンタの博物館への応用	博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
11	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Ｘ線ＣＴスキャナを用いた国宝「初音の調度」 帯箱・櫛箱の構造調査	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、徳川美術館　吉川美穂、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	文化財用X線CTの輝度情報を用いた木材樹種調査への応用	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、京都大学　杉山淳司、京都大学　小林加代子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
13	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	文化財用X線CTの輝度情報を用いた木材樹種調査への応用	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、京都大学　杉山淳司、京都大学　小林加代子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）

14	文化財の材質・構造等に関する共同研究	X線CTを用いた鋳型の構造調査	博物館科学課課長　今津節生、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、春日市教育委員会　森井千賀子、鋳物師遠藤喜代志、九州歴史資料館　加藤和歳、福岡大学　武末純一、國學院大學　柳田康雄	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
15	文化財の材質・構造等に関する共同研究	画像認識を用いた木質文化財の樹種判定システムの構築	京都大学　小林加代子、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、京都大学　杉山淳司	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
16	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Ｘ線ＣＴスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る調査（Ⅱ）－福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物の有機質情報および埋納方法の復元に向けて－	九州歴史資料館　加藤和歳、九州歴史資料館　小林　啓、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、(株)とっぺん　村上浩明、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会　甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
17	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	Ｘ線ＣＴスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る調査（Ⅱ）－福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物の有機質情報および埋納方法の復元に向けて－	九州歴史資料館　加藤和歳、九州歴史資料館　小林　啓、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、(株)とっぺん　村上浩明、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会　甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
18	文化財の材質・構造等に関する共同研究	三元素同位体分析法から見えてきた遺跡出土朱の産地推定	近畿大学　南武志、近畿大学　河野摩耶、福井市埋蔵文化財保護センター　高橋和也、国立環境研究所　武内章記、奈良県立橿原考古学研究所　奥山誠義、奈良県立橿原考古学研究所　菅谷文則、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
19	文化財の材質・構造等に関する共同研究	出土木製品保存処理の省コスト化・省エネルギー化に向けた研究（その１）－自然エネルギーを用いたトレハロース含浸処理法の研究－	大阪文化財研究所伊藤幸司、大阪文化財研究所　藤田浩明、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
20	文化財の材質・構造等に関する共同研究	福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土資料の保存科学的調査	九州歴史資料館　小林　啓、九州歴史資料館　加藤和歳、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
21	文化財の材質・構造等に関する共同研究	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生、交流課主任研究員　進村真之、神戸市立博物館　橋詰清孝、菅本宏明、合同会社２bit　輪田　慧、福岡県立太宰府高等学校　池内一誠、奈良県立橿原考古学研究所　北井利幸	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
22	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生、交流課主任研究員　進村真之、神戸市立博物館　橋詰清孝、菅本宏明、合同会社２bit　輪田　慧、福岡県立太宰府高等学校　池内一誠、奈良県立橿原考古学研究所　北井利幸	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
23	文化財に使用された彩色材料に関する画的調査法の検討	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究３	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、企画課特別展室研究員　森實久美子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
24	壁画に関する高精細画像集成と活用に関する研究	壁画墓室内空間の高精細画像生成と展示用モデル	特任研究員　臺信祐爾	8月25日、26日	文化遺産デジタル化セミナー（会場：ミャンマー　ヤンゴン大学）
25	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究	マイクロＸ線ＣＴスキャナを用いた彩色文化財の構造調査	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良文化財研究所　高妻洋成	8月27日	2015 International Symposium on Conservation od East Asian Cultural Heritage in Nara
26	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	マイクロＸ線ＣＴスキャナを用いた彩色文化財の構造調査	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良文化財研究所　高妻洋成	8月27日	2015 International Symposium on Conservation od East Asian Cultural Heritage in Nara

27	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	世界の水中遺跡の調査・保存・活用	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	8月29日	平成27年度宇検村倉木崎海底遺跡シンポジウムKURAKIZAKI2015　－倉木崎海底遺跡の魅力をさぐる
28	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	事例報告１　九州国立博物館における ＩＰＭ研修について	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	11月5日	公開承認施設担当者会議
29	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	オランダ商船ファン・ボッセ号の考古学的検証	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	11月30日	沖縄県宮古郡多良間村　平成27年度調査報告会
30	日本近世の漆芸品に関する基礎的研究	「江戸時代の輸出漆器」	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	12月5日	西南学院大学博物館特別展「南蛮～昇華した芸術～」 関連記念講演会（会場：西南学院大学博物館）
31	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	室町・戦国期の対馬と壱岐―海域の秩序をめぐる政治史	国立歴史民族博物館研究部准教授（前当館資料登録室主任研究員）荒木和憲	12月13日	九州史学会大会日本史部会 （会場：九州大学）
32	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	Ｘ線ＣＴを核にした文化財研究の新基盤	博物館科学課課長 今津節生	12月19日	九州国立博物館10周年シンポジウム 「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」
33	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	Discovery and Future of the Lost Fleet of the Mongol Empire	琉球大学法文学部教授 池田栄史 博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	1月8日	Society for Historical Archaeology （Washington D.C.）
34	タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－	大谷大学博物館所蔵貝葉経包裂と日タイ交流について	企画課特別展室長 原田あゆみ	3月17日	公開研究会「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」

【東京文化財研究所】計76件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（22件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	文化財情報における専門的アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み	副所長　田中淳、企画情報部主任研究員　皿井舞	6月9日	2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会
2	文化財の資料学的研究	黒田清輝宛岡田三郎助書簡　翻刻と解題	福岡県立美術館学芸課学芸員　高山百合	8月30日	東京文化財研究所企画情報部研究会
3	同上	岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像	佐賀県立博物館・佐賀県立美術館副館長　松本誠一	同上	同上
4	同上	「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合	企画情報部長　山梨絵美子、主任研究員　皿井舞	6月9日	東京文化財研究所公開対談
5	近現代美術に関する交流史的研究	住友春翠と近代美術　黒田清輝の支援者	副所長　田中淳	11月21日	新居浜市美術館講演会
6	同上	近代日本美術の基層をめぐって―岸田劉生を中心に	同上	28年3月1日	東京文化財研究所総合研究会
7	同上	美術商林忠正―欧米と日本の異なる「美術」概念のはざまで	企画情報部長　山梨絵美子	10月24日	ハイデルベルク大学東アジア美術研究所国際シンポジウム
8	同上	ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点	同上	28年1月13日	東京文化財研究所企画情報部研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」
9	同上	黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み	同上	28年3月26日	東京国立博物館講演会
10	同上	近代歴史画の魅力	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純	5月16日	井原市立田中美術館講演会
11	同上	近代日本画を支えた人たち	同上	28年3月21日	川越市立美術館講演会
12	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	絹生産における在来技術について	志村明・秋本賀子	9月29日	第5回企画情報部研究会
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	地拍子の古態―早歌からの継承―	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	6月21日	能楽学会
14	同上	楽劇研究と絵画資料	同上	6月28日	楽劇学会
15	同上	能の復元的上演の可能性―「能」を現代に蘇らせる手法―	同上	10月25日	日本演劇学会
16	同上	明治以前の謡とアクセント	同上	12月18日	第10回無形文化遺産部公開学術講座
17	同上	楽器行脚20年	同上	28年1月12日	東京文化財研究所総合研究会
18	同上	染織技術の伝承　その現状と課題―熊谷と京都を事例として―	無形文化遺産部研究員　菊池理予	11月11日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ
19	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽	無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	10月24日	鷺宮咲前神社太々神楽奉納二百年記念式典
20	同上	生きた文化財を継承する―無形文化遺産と被災・復興	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	10月25日	東北大学東北アジア研究センター
21	同上	小正月を彩るツクリモノの世界	同上	12月13日	第6回 儀礼文化講座
22	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる近年の動向	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	28年2月18日	東京文化財研究所研究会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（0件）

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（31件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、主任研究員　犬塚将英、主任研究員　森井順之、矢島國雄、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか	6月27、28日	文化財保存修復学会第37回大会
2	同上	低酸素濃度殺虫法―25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討―	保存修復科学センター研究補佐員　小野寺裕子、小峰幸夫、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか	同上	同上
3	文化財の保存環境の研究	Changing Gas Concentration in a Display Case using Low Emission Materials	客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民、保存修復科学センター副センター長　佐野千絵	28年3月3、4日	12th International Conference - Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
4	同上	美術館博物館展示ケースの空気環境に関する研究　その2：実験用展示ケースの温湿度推移と分布	客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民、林良典、須賀政晴、保存修復科学センター副センター長　佐野千絵	9月4、5、6日	日本建築学会大会[関東]
5	同上	展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価	保存修復科学センター副センター長　佐野千絵、客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
6	同上	キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間（16年～25年）の微生物相と考察	九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか、喜友名朝彦、立里臨、保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、副センター長　佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹	7月11、12日	日本文化財科学会第32回大会
7	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	永青文庫所蔵　洋人奏楽図屏風の彩色材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治、三宅秀和	同上	同上
8	同上	国宝平等院鳳凰堂内　西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元	神居文彰、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、荒木恵信	6月27、28日	文化財保存修復学会第37回大会
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査	保存科学修復センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　森井順之、主任研究員　犬塚将英、研究員　佐藤嘉則、日高翠、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか、センター長　岡田健、	6月27日	同上
10	同上	砂岩製文化財の表面風化形態について	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、保存修復科学センター主任研究員　森井順之、西山賢一	9月24、25日	日本応用地質学会平成27年度研究発表会
11	同上	磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	8月26日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム専門家会議
12	同上	Reconstruction of the shelter for Buddhist image carved on tuff cliff	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、山路しのぶ、伊藤広宣、山村健生、豊田徹士	5月20日	23rd ISCS Meeting, Edhinburgh
13	文化財の防災計画に関する研究	仏像の耐震対策に関する研究　EDEM を用いた実物大実験の解析	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、中川貴文、花里利一	9月4日	2015年度日本建築学会大会学術講演会
14	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
15	同上	日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、主任研究員　犬塚将英、客員研究員　本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年	6月28日	同上
16	文化財修復材料の適用に関する調査研究	Scientific Approaches for Adhesives in the Conservation ofJapanese Paintings	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	4月9日	The Institute of Conservation,University of London

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響 - 温度・種・水の硬度-	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、大村卓也、原由宇稀、アソシエイトフェロー　楠京子、日本学術振興会特別研究員　貴田啓子、客員研究員　本多貴之	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
18	同上	ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響	客員研究員　酒井清文、アソシエイトフェロー　楠京子、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、山本勇人、文化遺産国際協力センター長　川野邊渉	同上	同上
19	同上	麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用	保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩、文化遺産国際協力センター任期付研究員　山下好彦、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	7月11、12日	日本文化財科学会第32回大会
20	同上	Effect of malachite corrosion on the moleculer weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk	日本学術振興会特別研究員貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、	7月2日	10th International Symposium on Weatherability
21	同上	銅錯体触媒による高乾燥性漆材料の開発とその耐久性評価	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター任期付研究員　山下好彦、保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩	7月4日	マテリアルライフ学会第26回研究発表会
22	同上	紙に付着した粘着テープの劣化	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、研究補佐員　内田優花	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
23	同上	水の硬度がフノリの固化や溶解性に与える影響の検討	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、原由宇稀、客員研究員　本多貴之	6月28日	同上
24	同上	脱脂大豆糊の湿潤加熱処理による物性変化―糊塗布紙のヤング率と変色挙動―	大橋有佳、稲葉政満、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	同上	同上
25	同上	東京大学史料編纂所所蔵「落合左平次道次背旗」の保存修理報告	山口悟史、高島昌彦、金子拓、市宮景子、宇都宮正紀、保存科学修復センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　早川典子、企画情報部専門職員　城野誠治	6月27日	同上
26	同上	緑青を使用した絹本会がにおける裏打紙の劣化	日本学術振興会特別研究員貴田啓子、岡泰央、稲葉政光、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	同上	同上
27	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	近代文化遺産の保存理念と修復理念	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	28年1月15日	近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会
28	同上	近代文化遺産の保存と修復について	同上	7月28日	シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義」
29	同上	近代文化遺産の保存と修復- 産業遺産を中心に	同上	11月6日	全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会 2015愛知研修大会
30	同上	道具の保存と活用	同上	11月11日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）
31	同上	韮山反射炉本体の修復に向けて	同上	28年3月5日	第5回伊豆の国市世界遺産シンポジウム

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究発信	世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	4月21日	東京文化財研究所企画情報部研究会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（22件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響	三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、保存修復科学センター長　岡田　健、蘇伯民	6月27日	平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会
2	同上	敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法	保存修復科学センター長　岡田健、客員研究員　渡辺真樹子客員研究員　高林弘実、蘇伯民、崔強	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	同上	敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究	三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、保存修復科学センター長　岡田健、蘇伯民	7月12日	日本文化財科学会第32回大会
4	同上	敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係	同上	9月6日	日本建築学会大会（関東）学術講演会
5	同上	Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang	同上	6月15日	6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, (Turin, Italy)
6	同上	知識科学としての敦煌データベース	保存修復科学センター長　岡田健、同志社大学准教授・客員研究員　津村宏臣	8月25日	2015 Dunhuang Forum:International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment、敦煌研究院（敦煌）
7	同上	石窟壁画研究ノート―失われた壁画の記憶	保存修復科学センター長　岡田健	10月23日	第2回曲江壁画論壇―壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として、曲江芸術博物館（西安）
8	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	3D Documentation at Ta Nei temple	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　佐藤桂	6月4日	アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第24回技術会
9	同上	ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究　その5　版築職人への聞き取り調査	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　佐藤桂、保存計画研究室長　友田正彦、江面嗣人、青木孝義、冨永善啓、宮本慎宏	9月4日	日本建築学会大会学術講演会
10	同上	インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8	マハラジャンアキララル、脇田祥尚、竹内泰、文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　友田正彦、アソシエイトフェロー　佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀、中尾謙太	9月5日	同上
11	同上	インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9	竹内泰、脇田祥尚、文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　友田正彦、アソシエイトフェロー　佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀	同上	同上
12	同上	気候変動と文化遺産	無形文化遺産部主任研究員　石村智	28年3月18、19日	第33回日本オセアニア学会研究大会・総会
13	同上	Review of the results of the UNESCO/Japanese FIT project “Support of documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage serial and transnational nomination in Central Asia”, 2011-2014	文化遺産国際協力センター　地域環境研究室長 山内和也	11月	Fourth Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads
14	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産の破壊、そして復興：日本の文化遺産国際協力	同上	28年1月24日	東京文化財研究所シンポジウム
15	同上	キルギス共和国における博物館をめぐる課題	同上	7月13日	第21回東アジア・中央アジア分科会
16	同上	イランの建築と文化	文化遺産国際協力センター　地域環境研究室長 山内和也、アソシエイトフェロー　山田大樹	6月4日	平成27年度トルコ文化研究センター研究会
17	同上	Preservation as the Sustainable Historic District	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　山田大樹	9月30日	中央アジア歴史都市会議
18	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復―壁画断片群のマウント処置と展示―	小川絢子、客員研究員　藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子、文化遺産国際協力センター地域環境研究室長 山内和也	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
19	在外日本古美術品保存修復協力事業	Karibari: The Japanese Drying Tecnique	文化遺産国際協力センター　国際情報研究室長　加藤雅人	4月9、10日	Adapt &Evolve ICON Conference 2015,University of London
20	同上	キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　楠京子、アソシエイトフェロー　山田祐子、国際情報研究室長　加藤雅人	6月27、28日	文化財保存修復学会37回大会
21	同上	シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』修復事例報告	同上	同上	同上
22	同上	絹本、紙本の修復に使用される補彩絵具の変色	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　山田祐子、国際情報研究室長	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			加藤雅人、アソシエイトフェロー　楠京子		

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0件）

【奈良文化財研究所】計77件

〇文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（56件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	『黒草紙』からみた古代中世の薬師寺	歴史研究室長　吉川聡	11月29日	東京大学史料編纂所 共同利用・共同研究拠点 特定共同研究「薬師寺中世史料の研究」公開研究会
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月1日	文化庁伝統的建造物群保存地区関係者集会
3	同上	発掘遺構と古代建築を繋ぐ	都城発掘調査部主任研究員 西山和宏	10月26日	奈良文化財研究所東京講演会
4	同上	山田寺倒壊回廊が語る古代建築史	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	10 月 26 日	奈良文化財研究所東京講演会
5	同上	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月1日	文化庁伝統的建造物群保存地区関係者集会
6	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	平城宮跡の保存と活用	遺跡整備研究室長　内田和伸	12月2日	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ『新羅月城と世界遺産の調査・研究』
7	同上	近年の隣国古都での遺跡整備	遺跡整備研究室長　内田和伸	28年1月28日	奈良文化財研究所総合研究会
8	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	妙蓮寺玉蓮院庭園と唐招提寺東室庭園 － 昭和期における庭園遺構の移転 －	客員研究員　エマニュエル・マレス	11月8日	日本庭園学会関西大会
9	同上	縁側から庭へ	客員研究員　エマニュエル・マレス	11月11日	京都教育大学『不思議の国の庭園 － 日本の庭再発見』第2回
10	平城宮・京出土遺物と検出遺構の調査研究等	宮都周辺域の冶金関連生産	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	9月5日	日本古代宮都周辺域における手工業生産の分野横断的比較研究(高橋照彦科研Ｂ)　研究会
11	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表	研究員　清野陽一	10月9日	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表
12	同上	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会	研究員　清野陽一	10月12日	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	古代鉛釉陶器・施釉瓦の科学分析からみた特徴	主任研究員　降幡順子ほか4名	7月11日	日本文化財科学会第32回大会
14	同上	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の科学的特徴	主任研究員　降幡順子ほか2名	8月26日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良
15	同上	Analytical studies for ancient lead-glaze ceramics excavated in Japan	主任研究員　降幡順子	11月26日	IN-PACE seminar at SOAS, University of London
16	同上	『日本後紀』を考古学で解釈する－弘仁六年正月丁丑条を中心に－	考古第二研究室長　尾野善裕	6月20日	第１１６回公開講演会
17	同上	発掘遺構と古代建築をつなぐ	主任研究員　西山和宏	10月24日	第7回東京講演会「発掘遺構から読み解く古代建築」
18	同上	ウマ駆ける古代日本	研究員　諫早直人	10月24日	第7回東京講演会「発掘遺構から読み解く古代建築」
19	同上	史跡指定と整備の現状	都城発掘調査部長　玉田芳英	12月4日	平成27年度兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会
20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	日本の文化的景観の保全に関する現状と施策	研究員　惠谷浩子	11月3日	日中大学交流文化遺産国際会議：過去から未来へ－アジア・太平洋地域における建築・遺跡・景観保存の道筋
21	同上	未来へとつなぐ、ふるさとの風景	研究員　惠谷浩子	12月17日	宮島集落景観保全協議会講演会
22	同上	景観資源を生かした地域づくり ―子供たちや孫，そして自分たちのために―	研究員　惠谷浩子	28年2月26日	中川自治振興協議会勉強会
23	同上	文化的景観を活かした地域づくり	研究員　惠谷浩子	28年3月12日	シンポジウム「八女茶が育んできた奥八女の風景～文化的景観から見る農山村景観～」
24	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	日本のガラス40年-考古学・化学的な視点から-	主任研究員　降幡順子	5月30日	日本ガラス工芸学会
25	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	6月27日	日本建築学会近畿支部
26	同上	弥生時代後期におけるガラス玉の地域性に関する考古科学的研究	客員研究員　大賀克彦 研究員　田村朋美	7月10日	日本文化財科学会
27	同上	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の自然科学的研究	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	7月10日	日本文化財科学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
28	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
29	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
30	同上	海洋環境における鉄製遺物の腐食過程　－埋蔵深度が鉄の腐食状態に及ぼす影響－	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他２名	7月10日	日本文化財科学会
31	同上	出土木製遺物の水中保管環境における溶存酸素を低減する方策の検討	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	7月10日	日本文化財科学会
32	同上	古代鉛釉陶器・施釉瓦の化学分析からみた特徴	主任研究員　降幡順子 室長　石橋茂登、部長　玉田芳英　他2名	7月12日	日本文化財科学会
33	同上	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の化学的特徴	主任研究員　降幡順子 部長　玉田芳英　他1名	8月27日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
34	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	9月6日	日本建築学会
35	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他３名	9月6日	日本建築学会
36	同上	Analytical studies for ancient lead-glazed ceramics excavated in Japan	主任研究員　降幡順子	11月26日	IN-PACE seminar at SOAS
37	同上	出土木製遺物の水中保管時の劣化と溶存酸素量の関係（その１）－屋外水槽の異なる水深で木材を保管した場合－	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	28年3月27日	日本木材学会
38	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	6月27日	日本建築学会近畿支部
39	同上	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	6月27日	日本建築学会近畿支部
40	同上	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
41	同上	平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
42	同上	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	9月6日	日本建築学会
43	同上	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	9月6日	日本建築学会
44	同上	Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	11月	Trans Tech Publication
45	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	遼寧省で出土した貴石象嵌指輪とその位置づけ	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー 大谷育恵	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
46	同上	三燕の金工品と倭の金工品	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
47	同上	北票大板営子墓地の造営過程と親族構造についての予察	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬 覚	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
48	同上	遼寧省北票市金嶺寺遺跡出土瓦の調査	都城発掘調査部考古第３研究室長　清野孝之	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
49	同上	北魏洛陽城太極殿等の調査成果	中国社会科学院考古研究所 研究員　銭国祥	28年1月14日	奈良文化財研究所研究会
50	同上	遼寧省で出土した貴石象嵌指輪とその位置づけ	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー 大谷育恵	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
51	同上	三燕の金工品と倭の金工品	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
52	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	‘A Case Study of the Early Theravada Buddhist Temple in Angkor　-Based on the research of the Western Prasat Top- ‘	研究補佐員　佐藤由似	7月3日	The Emergence of Theravada Buddhism in Cambodia: Southeast Asian Perspectives Symposium, SOAS
53	アンコール王朝末期総合的歴史学の構築	Excavation of the Veal Svay Kiln No1: new research of the Khmer brown glazed stoneware	企画調整部長　杉山洋、研究補佐員　佐藤由似	7月7日	15th International European Association of Southeast Asian Archaeologists Conference in Paris
54	同上	‘Consumption and Distribution of Ceramics after Angkor’	研究補佐員　佐藤由似	7月10日	15th International European Association of Southeast Asian Archaeologists Conference in Paris

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
55	同上	カンボジアの鏡雑感	企画調整部長　杉山洋	12月31日	東南アジア考古学会
56	同上	カンボジア、ヴィール・スヴァイ窯の発掘調査	企画調整部長　杉山洋、研究補佐員　佐藤由似	28年3月29日	東南アジア考古学会例会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（12件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	虫糞や虫粉を用いた放射性炭素年代測定に関する新たな試み	主任研究員　大河内隆之	7月11日	日本文化財科学会
2	同上	年輪年代学の視点から見た鈴木政吉工場製ヴァイオリンの年代測定と産地推定	主任研究員　大河内隆之、安江恒	7月11日	日本文化財科学会
3	同上	X線CTを用いた東北地方民家所蔵漆器の非破壊年輪計測と産地推定	鈴木伸哉、大山幹成、研究員　星野安治	7月11日	日本文化財科学会
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	東海地方における縄文・弥生移行期の動物資源利用	研究員　山崎健	4月25日	近江貝塚研究会第258回例会
5	同上	動物遺体から見た文化誌	研究員　山崎健	6月27日	生き物文化誌学会第13回学術大会
6	同上	宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体	研究員　山崎健、アソシエイトフェロー　松崎哲也	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
7	同上	縄文時代前半期の東北地方におけるマグロ漁とその利用	アソシエイトフェロー　松崎哲也、研究員　山崎健	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
8	同上	3D骨格図譜データベースの構築	客員研究員　菊地大樹、客員研究員　松井章	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
9	同上	奈良文化財研究所における災害痕跡への取り組み	研究員　山崎健	8月8日	トニー・ブラウン博士講演会　災害考古学の現状と展望
10	同上	3D骨格図譜データベースの公開と活用	客員研究員　菊地大樹ほか	10月11日	日本人類学会第69回大会
11	文化財に関するデータベースの充実	地理情報標準に準拠した時間属性定義の拡張	文化財情報研究室長　森本晋ほか	10月10日	日本地理情報システム学会
12	文化財に関するデータベースの充実	Creating Archaeo-Ontology based on the Archaeological Inventory	文化財情報研究室長　森本晋ほか	11月13日	文化研究への科学技術の応用に関する国際研究会

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（0件）

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（9件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査及び研究の推進	Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan	主任研究員　降幡順子	6月3日	UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings
2	同上	古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ	主任研究員　石橋茂登ほか1名	10月18日	古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ
3	同上	プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～	主任研究員　石橋茂登、再雇用職員　井上直夫	11月8日	プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体	研究員　山崎健ほか1名	7月5日	日本動物考古学会第3回大会
5	災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画	土が報せるさまざまな出来事 ～減災に向けて考古学の新たな挑戦～	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年1月30日	奈良文化財研究所総合研究会（第25回）
6	同上	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山噴火に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月2日 －3日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測計画」平成26年度成果報告シンポジウム、 ポスター発表
7	同上	考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月28日	人文科学における災害情報の共有化に関する研究会 （大学共同利用機関法人人間文化研究機構・研究資源共有化事業委員会）
8	同上	文化財から読み解く災害の歴史	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年12月6日	京都国立博物館「文化財防災ネットワーク推進事業」講演会
9	同上	考古資料および文献資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	28年3月16日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成27年度成果報告シンポジウム

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計3件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（3件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	紛争後の無形文化遺産の調査:スリランカを中心に	副所長　大貫美佐子	27年10月28日	ICOMOS ICICH部会Round Table

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	無形文化遺産保護研究のマッピング事業を通じたアジア太平洋地域の無形文化遺産保護研究の分析と課題	アソシエイトフェロー 児玉茂昭	28年2月29日	文化遺産国際協力コンソーシアム第49回企画分科会
3	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	スリランカ及び東ティモールを事例とする紛争・内紛後の「復興の基軸」としての無形文化遺産の再活性化	副所長　大貫美佐子	28年3月4日	ICOMOS Collquium “Post-Trauma Reconstruction”

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
13件	11 件	1件	2件	1件	7件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1 件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進室			
	0 件	1 件			

【東京国立博物館】

○特別展「始皇帝と兵馬俑」シンポジウム　『秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―』
- 開 催 日　12月19日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　284人
- 事業内容　始皇帝陵および秦朝研究において最前線の研究者を招き、始皇帝が表現しようとした世界の意味を読み解くためのシンポジウムを開催。

【京都国立博物館】

○記念シンポジウム『仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり』
- 開 催 日　8月29日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
- 参加人数　107人
- 事業内容　特別展観『第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―』にあわせて開催し、４名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○琳派400年記念国際シンポジウム「琳派この一作　～私の見方・楽しみ方～」
- 開 催 日　11月3日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　琳派400年記念祭委員会、京都国立博物館、古典の日推進委員会
- 参加人数　200人
- 事業内容　5名の講師によるパネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】

○古典の日記念 正倉院学術シンポジウム2015「正倉院と奈良国立博物館～120年のあゆみ」
- 開 催 日　11月1日
- 開催場所　奈良県春日野国際フォーラム 甍～I・RA・KA～ レセプションホール１
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　196名
- 事業内容　当館が開館して１２０年の節目を迎えるにあたり、上記のテーマを掲げ、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、４名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションを行った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」記念シンポジウム　「戦国武将のデザイン」
- 開 催 日　5月2日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館・公益財団法人立花財団（九州大名家資料研究会）
- 参加者数　200人
- 事業内容　基調講演「九州近世大名道具にみる意匠と機能」、個別報告「大友家」・「黒田家」・「鍋島家」・「松浦家」を行った。

○公開シンポジウム　独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災Ｉ」
- 開 催 日　6月14日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　180人
- 事業内容　基調講演「災害の歴史から学び、防災・減災の社会へ―東日本大震災の地で考える―」、その他各地域からの事例報告およびパネルディスカッションを行った。

○国際シンポジウム　九州国立博物館開館10周年記念「アジア交流博物館長サミット」
- 開 催 日　10月18日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　80人
- 事業内容　九州国立博物館と学術文化交流協定を締結しているなどの機関の代表者（4ヵ国8機関）を招聘し、これまでの交流の成果と今後の交流について意見を交わした。

○公開シンポジウム　「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」
- 開 催 日　11月28日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館、福岡県、西日本新聞社、日本経済新聞社
- 参加者数　160人
- 事業内容　講演「文化資源がつなぐ列島の未来－東京文化資源区構想を手がかりに」、報告「九州国立博物館運営に伴う経済波及効果」をはじめ、全地域における取り組みの紹介、そして幅広い分野の有識者を招いたシンポジウムを開催した。

○公開シンポジウム　九州国立博物館10周年記念シンポジウム X線CTを用いた文化財の研究と活用
- 開 催 日　12月19日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　150人
- 事業内容　「CTを核にした研究の新基盤」など口頭発表５件と、34件のポスターセッション発表が行われた

○公開シンポジウム　国立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災 II」

開 催 日　　28年1月24日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
参加者数　　100人
事業内容　　基調講演「あらためて考える文化財の悉皆（しっかい）調査と市民」、その他各地域からの事例報告およびパネルディスカッションを行った。

○公開シンポジウム　「大城（大野城）の謎に迫る！－宇美町からの新たな発信－」
開 催 日　　28年2月27日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、宇美町
参加者数　　305人
事業内容　　基調講演「大城（大野城）の謎に迫る！」、その他発表5件およびパネルディスカッションを行った。

【東京文化財研究所】

○「紛争と文化遺産－紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興－」
開 催 日　　28年1月24日
開催場所　　東京文化財研究所セミナー室
主　　催　　東京文化財研究所
参加者数　　103人
事業内容　　アフガニスタン及びイラクから専門家２名を招聘し、紛争下および紛争後の地域における日本国の文化遺産協力の枠組みを熟考した。

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

該当なし

【文化財防災ネットワーク推進室】

○「文化遺産防災国際シンポジウム－文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性－」
開 催 日　　12月12日
開催場所　　京都国立博物館
主　　催　　独立行政法人国立文化財機構
共　　催　　「明日の京都」文化遺産プラットフォーム、ICOM（国際博物館会議）日本委員会、日本ICOMOS（国際記念物遺跡会議）国内委員会
参加人数　　104名
事業概要　　諸外国のブルーシールドに関する取り組みや活動実態等について海外の専門家から報告をいただくとともに、国内の有識者東文研ともにその可能性と国内における課題、展望についてディスカッションを行った。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 28 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
372 件	197 件	116 件	34 件	27 件	20 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	174 件	34 件	140 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】116件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸企画部長　井上洋一	「国立博物館の展示―東京国立博物館と九州国立博物館―」	『新訂　博物館展示論』	放送大学教育振興会	平成28年3月20日	無
2	同上	企画課長　富田淳	「明末清初の書」	観峰館新館オープン記念特別企画展「華麗なる清朝後期の書画－ラストエンペラーの時代－」	公益財団法人日本習字教育財団　観峰館	10 月 1 日	無
3	同上	同上	「唐時代の書」	「顔真卿と唐時代の書」	公益財団法人台東区芸術文化財団	12 月 1 日	無
4	同上	同上	「李宗瀚のまなざし」	「顔真卿と唐時代の書」	公益財団法人台東区芸術文化財団	12 月 1 日	無
5	同上	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	作品解説「人形装飾付異形壺形土器」「大形土偶頭部」「土製仮面」「土偶」など、計 22 件	原田昌幸編『日本美術創世記(日本美術全集第1巻　縄文・弥生・古墳時代)』	小学館	12 月 28 日	無
6	同上	企画課出版企画室長　勝木言一郎	大谷探検隊とパーキスターン北部の仏教遺跡について	『インド考古研究』36 号	インド考古研究会	28 年 3 月 31 日	有
7	同上	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	東京国立博物館所蔵土佐光起筆十二ヶ月花鳥図巻の制作背景について―後水尾院との関係を中心に―」	『MUSEUM』 657 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
8	同上	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	展示ケース内蔵型下部照明器具の開発事例と評価	第34回日本展示学会研究大会東京大会　研究発表梗概集	日本展示学会	6 月 21 日	無
9	同上	同上	OLED を用いた展示照明	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
10	同上	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	博物館展示に用いる OLED 照明器具の開発	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	東アジア文化遺産保存シンポジウム実行委員会	8 月 27 日	無
11	同上	企画課国際交流室専門職　楊鋭	地域資源の保存	観光資源としての博物館	芙蓉出版社	28 年 3 月 15 日	無
12	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	おひなさまと日本の人形	東京国立博物館セレクション　おひなさまと日本の人形	東京国立博物館	28 年 2 月 20 日	無
13	同上	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅	大倉集古館蔵「伝法蓮房坐像」の像主について	『MUSEUM』659 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
14	同上	列品管理課主任研究員古谷毅、奈良県立橿原考古学研究所　水野敏典、奥山誠義、北井利幸、柳田明進	「三次元計測からみた上牧久渡 3 号墳出土の画文帯神獣鏡」	『日本文化財科学会第３２回大会　研究発表要旨集』	日本文化財科学会	7 月 11 日	無
15	同上	列品管理課主任研究員古谷毅	「古墳時代の文字資料:銘文刀剣」他、14 項目	『日韓国交正常化50周年記念特別展 日本の古墳文化』図録	国立慶州博物館	12 月 22 日	無
16	同上	同上	「三輪山･山ノ神祭祀遺跡と古墳時代の神マツリ」	『大三輪』第 130 号	大神神社	28 年 1 月 1 日	無
17	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	ABSTRACTS:How archaeological artefacts became art: Jōmon pottery from modern to contemporary times	BRITISH ASSOCIATION FOR JAPANESE STUDIES Annual Conference 2015 at SOAS, University of London Programme	SOAS Print Team	9 月	有
18	同上	同上	日本美術史における縄文土器	第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集	関西縄文文化研究会	12 月 5 日	無

19	同上	同上	岡本太郎の縄文土器論―発見の場としての博物館―	武蔵野美術大学研究紀要第46号	武蔵野美術大学	28年3月1日	有
20	同上	同上	特別寄稿　美術から見た縄文土器―火焔型土器の登場―	十日町市博物館年報　第2号	十日町市博物館	28年3月31日	無
21	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	篆隷の再興と狂草の展開	『顔真卿と唐時代の書』	公益財団法人台東区芸術文化財団	12月1日	無
22	同上	同上	書体について	『文字の力・書のチカラ―Ⅲ　書の流儀』	公益財団法人出光美術館	28年1月9日	無
23	同上	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野探幽筆草花写生図巻―所収写生図の年代順の動向と被写体の提供者について―	『MUSEUM』657号	東京国立博物館	8月15日	有
24	同上	同上	江戸の写生図―記録すること、再現すること―	『特集　江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉―』	東京国立博物館	9月29日	無
25	同上	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	鳥獣戯画がマンガを生んだのか？	『鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―』展図録	東京国立博物館	4月28日	無
26	同上	同上	回顧と展望 日本　近世（美術）	『史学雑誌』124編第5号	史学会	5月20日	無
27	同上	同上	日本の名画と比べてみました	『SWITCH』Vol.33 No.7	スイッチ・パブリッシング	6月20日	無
28	同上	同上		編著『図説　日蓮聖人と法華の至宝　第5巻　絵画』	同朋舎新社(合同会社ＤＯＨＯＰ)	8月18日	無
29	同上	同上	納涼図のひみつ―守景のまなざしの真実	『逆境の絵師　久隅守景　親しきものへのまなざし』展図録	サントリー美術館	10月10日	無
30	同上	同上	奇想の系譜の先へ	『美術手帖』2016年1月号	美術出版社	12月17日	無
31	同上	同上	呉春筆　青天七十二芙蓉図屏風	『國華』1443号	國華社	28年1月20日	無
32	同上	同上	山本梅逸筆　群舞図	『國華』1443号	國華社	28年1月20日	無
33	同上	同上	今様浮世絵鑑賞（ノーウキヨエ・ノーライフ）	『ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞』展図録	日本テレビ放送網	28年3月19日	無
34	同上	同上	幕末の歌川一門の2トップ　国芳と国貞	『ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞』展図録	日本テレビ放送網	28年3月19日	無
35	同上	同上	黒田清輝《湖畔》が秘めるドラマ―江戸・パリ・箱根をめぐる団扇	『芸術新潮』2016年4月号	新潮社	28年3月25日	無
36	同上	同上	特集「出版戦国時代のモンスターべらんめえ国芳」 一、カッコよくなきゃ男がすたらぁ　二、ヤンキー姐さん、ちょいと描かせておくんなさい　三、役者じゃねぇんだ、わっちが描きたいのは　四、腕が鳴るねぇ、三枚続のワイドヴュー　七、やり過ぎたって、かまやしねぇ	『芸術新潮』2016年4月号	新潮社	28年3月25日	無
37	同上	同上		東京国立博物館図版目録　近代日本画《巻子・画帖》篇	東京国立博物館	28年3月31日	無
38	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課東洋室研究員　三笠景子	漢・唐時代の陶俑	漢・唐時代の陶俑	東京国立博物館	9月1日	無
39	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	中国三峡地区的塩竈型明器	『東方考古』第12集（電子版）	中国山東大学東方考古研究中心	28年3月	無
40	同上	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	高山寺の至宝―鳥獣戯画と明恵上人ゆかりの美術―	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」展図録	東京国立博物館、朝日新聞社	4月28日	無
41	同上	同上	石水院の梱尾開帳―高山寺と春日信仰―	同上	同上	同上	無
42	同上	同上	二つの石をめぐる物語―明恵上人と紀州、天竺―	同上	同上	同上	無
43	同上	同上	鳥獣戯画「平成の修理」から得られること	同上	同上	同上	無
44	同上	同上	作品解説「紫式部日記絵巻」「小野雪見行幸絵巻」「華厳宗祖師絵伝」「法然上人行状絵図」他計7件	加須屋誠編『中世絵巻と肖像画（日本美術全集第8巻　鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』	小学館	6月30日	無
45	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	作品解説「頬焼阿弥陀縁起絵巻」「春日権現験記絵巻」「石山寺縁起絵巻」「法然上人像（鏡御影）」他計7件	泉武夫編『信仰と美術（日本美術全集第11巻　テーマ巻②）』	小学館	10月28日	無
46	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	「狩野派の絵画　激動の時代、永徳から山楽そして探幽へ」	五味文彦監修『歴史文化遺産　戦国大名の遺宝』	山川出版社	10月25日	無
47	同上	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也、島根大学法文学部准教授　及川穣、株式会社ラング代表取締役　横山真、、同常務取締役　千葉史、岩宿博物館館長　小菅将夫、岩手大学工学部教授　今野晃市、岩手大学工学部准教授　松山克胤	「3D計測技術を用いた考古資料の接合研究－旧石器時代研究における新しい資料の認識にむけてー」	「一般社団法人日本考古学協会第81回（2015年度）研究発表要旨」	日本考古学協会	5月23日	有

48	同上	調査研究課考古室研究員河野正訓、茨木市立文化財資料館 学芸員　清水邦彦	茨木市安威０号墳から出土した鉄製品（１）	『茨木市立文化財資料館館報』第１号	茨木市立文化財資料館	28 年 3 月 31 日	無
49	同上	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、同　下田純平、君嶋隆幸	東京国立博物館蔵 渡辺崋山筆《坪内老大人像画稿（１幅 紙本墨画淡彩)》の修理事例―貼紙のある掛軸装の修理後の装丁について	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
50	同上	特任研究員　神庭信幸、漆芸文化財修復　松本達弥、目白漆芸文化財研究所 室瀬智弥、陸前高田市立博物館副主幹　熊谷賢、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子、同　實井香那子	津波により被災した漆工芸作品の脱塩処理方法の検討	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
51	同上	特任研究員　神庭信幸、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、絵画保存修復　土師広、絵画保存修復　中右恵理子、絵画保存修復　増田久美、保存修復課保存修復室非常勤職員　本茉莉江	被災文化財等救援活動における保存修理―麻布製カンバスに描かれた油彩画の脱塩の試み	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
52	同上	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	歴史的建造物における展示環境改善の取り組み―風除室の効果の検証―	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
53	同上	同上	博物館における温湿度環境の評価方法とその活用	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良	8 月 27 日	無
54	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財輸送環境の解析と評価	『東京国立博物館紀要』51 号	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
55	同上	同上	文化財の保存環境分析<温湿度の把握・評価・改善>	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　連携研究「人間文化資源」の総合的研究	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	7 月 21 日	無
56	同上	同上	文化財の梱包および輸送の実際と安全性評価	日本包装学会第 24 回年次大会研究発表予稿集	日本包装学会	7 月 2 日	無
57	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩、森林総合研究所 安部久、同　渡辺憲、同 石川敦子、同　能城修一、同　藤井智之、成城大学 岩佐光晴、興福寺　金子啓明	近赤外分光法を用いた木彫像用材の非破壊的な樹種識別　-木材標本を用いた分析-	『木材保存』41(4)	日本木材保存学会	7 月 1 日	有
58	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財防災ネットワークの構築を目指す	公開シンポジウム　文化財を伝える-東日本大震災で被災した文化財を考える 要旨集	文化財保存修復学会	12 月 19 日	無
59	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	博物館における環境特性データの３Ｄ化を通じた文化財の被災リスク早期把握	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	東アジア文化遺産保存学会	8 月 27 日	無
60	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	作品解説「長谷寺縁起絵」「松崎天神縁起絵巻」「因幡堂縁起絵巻」他計 6 件	泉武夫編『信仰と美術』日本美術全集第 11 巻	小学館	10 月 28 日	無
61	同上	同上	修理解説「渡辺崋山にかかる 4 幅の修理」他計 4 件	『渡辺崋山筆　国宝・鷹見泉石像　坪内老大人像の修理』	東京国立博物館	28 年 3 月 15 日	無
62	博物館の環境保存に関する研究	特任研究員　神庭信幸	ミュージアムのリスク・マネジメント	ミュージアム・マネジメント事典	学文社	6 月 7 日	無
63	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課デザイン室長　木下史青	展示・照明と環境・情報のデザインについて	黒田記念館修理報告書	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
64	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課長小林牧、教育普及室主任研究員 藤田千織、同研究員　三田覚之、同アソシエイトフェロー川岸瀬里	トーハクのミイラ	トーハクのミイラ	東京国立博物館	7 月 22 日	無
65	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長　村田良二	東京国立博物館デジタルライブラリーについて	アート・ドキュメンテーション学会 2015 年度秋季研究発表会予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	11 月 14 日	有
66	「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	「4 人の王妃-その姿と実像」	特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」図録	東京国立博物館、国立国際美術館、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	7 月 11 日	無

67	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造	後宮の陰謀	同上	同上	同上	無
68	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	学芸研究部長　谷豊信、列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課考古室研究員　井出浩正	始皇帝と大兵馬俑	特別展『始皇帝と大兵馬俑』図録	東京国立博物館、九州国立博物館、国立国際美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社	10 月 27 日	無
69	同上	学芸研究部長　谷豊信	陶製水道管、瓦、磚と兵馬俑	同上	同上	同上	無
70	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	永遠無窮―出土品と兵馬俑が語る始皇帝の夢	同上	同上	同上	無
71	同上	調査研究課考古室研究員　井出浩正	作品解説「朱書甕」「篦描広口壺」「当て具」「円形陶鈴」「魚形陶鈴」など、計 14 件	同上	同上	同上	無
72	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課東洋室研究員　三笠景子	東京国立博物館における陶俑の蒐集と展示の歴史 －特別展「始皇帝と大兵馬俑」、特集「漢・唐時代の陶俑」の開催に寄せて	『陶説』751	日本陶磁協会	10 月 1 日	無
73	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	秦王朝と兵馬俑の考古学	『秦王朝と兵馬俑　一発掘された歴史の実像一』	東京国立博物館	12 月 19 日	無
74	特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	黒田清輝の夢みたもの―≪智・感・情≫と日本絵画の行方	特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」図録	美術出版社	28 年 3 月 23 日	無
75	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	企画課特別展室研究員　金井裕子	板谷家のやまと絵について	『板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究　平成23～27年度科学研究費補助金研究成果報告書』	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
76	同上	上席研究員　池田　宏	狩野晴川院『公用日記』にみえる板谷氏の相続	同上	同上	同上	無
77	同上	調査研究課長　田沢裕賀	板谷家伝来資料と研究実績概要	同上	同上	同上	無
78	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	善光寺大本願の岡本善悦筆「春夏花鳥図屏風」について	同上	同上	同上	無
79	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	板谷家の画祖と仏教絵画	同上	同上	同上	無
80	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	高山寺伝来文化財の研究―寺宝の伝来と修理、及び「高山寺」朱文長方印をめぐる諸問題―	『東京国立博物館紀要』51 号	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
81	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する調査研究	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野探幽筆『四季花鳥図』について	『傘松』863 号	永平寺傘松会	8 月	無
82	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	ふたつの第七巻	「国宝　一遍聖絵」展図録	遊行寺宝物館	10 月 9 日	無
83	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	藤原行成の尊重　直筆の記録『敦康親王初覲関係文書』	『BIO CITY』62 号	ブックエンド	4 月 10 日	無
84	同上	同上	藤原行成の尊重　唯一伝わった『書状』	『BIO CITY』63 号	同上	7 月 10 日	無
85	同上	同上	近代数寄者と書　広田不孤斎、松永耳庵と『湯』	『BIO CITY』64 号	同上	10 月 10 日	無
86	同上	同上	近代数寄者と書　高橋箒庵と『寸松庵色紙』	『BIO CITY』65 号	同上	28 年 1 月 7 日	無
87	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	客員研究員　澤田むつ代	「古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例」	『文化財と技術』第７号	工芸文化研究所	27 年 12 月	無
88	同上	同上	「一二〇〇年以上守り伝えられた上代裂の魅力―色鮮やかな染織品の数々―」	月刊『目の眼』第 472 号	目の眼	27 年 12 月	無
89	同上	同上	「法隆寺伝来・上代裂―平成二十三年度修理の成果―」	『MUSEUM』658 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有
90	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	法隆寺伝来・上代裂　綾幡足と錦残欠等―平成 22 年度修理の成果―	『MUSEUM』第 655 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
91	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺伝来　描絵綾天蓋垂飾	『MUSEUM』第 656 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
92	同上	同上	百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品―法隆寺献納宝物の脚付鋺と法隆寺五重塔の舎利瓶を中心に―	『MUSEUM』第 658 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有
93	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	多武峯伝来　十一面観音菩薩立像について	『MUSEUM』第 660 号	東京国立博物館	28 年 2 月 15 日	有

94	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究	博物館教育課教育講座室長　淺湫　毅	定智本図像に基づく十二神将像―神奈川・宝城坊像と個人蔵の浮彫像―	科学研究費補助金基盤研究B 調査報告書　多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究―図像的典拠と分担製作の視点から―	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
95	極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究－	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、保存修復課環境保存室長和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一	古代中国の極薄青銅器にみる製作痕分析-３次元計測、蛍光Ｘ線分析を踏まえて-	『日本考古学協会平成 27 年度大会発表要旨集』	日本考古学協会	5 月 24 日	有
96	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	「東京国立博物館のふたつの「羊図」について」	平成二十七年度成果報告公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
97	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	「ラベルからたどる明治期の文化財の移動」	同上	同上	同上	無
98	同上	調査研究課考古室長　白井克也	「館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換」	同上	同上	同上	無
99	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	企画課出版企画室長　勝木言一郎	敦煌における父母恩重経変相の図像に関する一考察―「孝」の受容と展開―	『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究論文集』	科学研究費基盤（A）東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究(研究代表者　筑波大学大学院教授　守屋正彦)	28 年 3 月 31 日	無
100	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造	油滴る地	上智大学キリスト教文化研究所『聖書の世界を発掘する―聖書考古学の現在』	リトン	10 月	無
101	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造、天理大学准教授　橋本英将、天理大学教授　桑原久男、古代オリエント博物館研究員　津本英利	西アジアに出現した大帝国の支配をさぐる：テル・レヘシュ第 9 次発掘調査（2015 年）	『平成 27 年度考古学が語る古代オリエント　第 19 回西アジア発掘調査報告会報告集』	日本西アジア考古学会	28 年 3 月	無
102	七仏薬師信仰とその造像に関する研究	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	平安時代前期の薬師造像に関する研究	『鹿島美術研究』年報 32 号別冊	鹿島美術財団	11 月 15 日	無
103	同上	同上	岩手・黒石寺薬師如来坐像と像内銘記	『MUSEUM』659 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
104	文化財防災に関する調査研究	総務部長　栗原祐司	第３回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合について	『博物館研究』平成 27 年 6 月号	公益財団法人日本博物館協会	6 月	有
105	同上	同上	文化財防災ネットワーク推進事業について	『博物館研究』平成 27 年 7 月号	同上	7 月	有
106	同上	同上	A Perspective on “Cultural Heritage and Disaster Resilient Communities” in Japan	Preprints of the ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City	ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City	12 月 4 日	有
107	同上	総務部長　栗原祐司 国際基督教大学湯浅八郎記念大学博物館　福野明子	The Involvement of Japanese University Museums in the Rescue and Conservation of Cultural Properties: Presenting Two Cases from Japan	Preprints of the ＩCOM－UMAC 2015 Annual Meeting, Manila	ICOM-UMAC	5 月 14 日	有
108	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	スポーツ・ミュージアム・ネットワーク構想	全日本博物館学会第 41 回研究大会発表予稿集	全日本博物館学会	6 月 27 日	有
109	同上	総務部長　栗原祐司	上野「文化の杜」新構想	中華民國博物館學會「博物館聚落與文化景觀國際論壇講座」予稿集	中華民國博物館學會	12 月 7 日	有
110	同上	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	The issue of preservation management of sports documentation in Japan	Preprints of the ICOM-CＩDOC 2015 Annual Meeting, Ｎew Ｄelhi	ICOM-CIDOC	9 月 7 日	有
111	同上	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	スポーツミュージアム連携・啓発事業について	スポーツ史学会会報「ひすぽ」No.93	スポーツ史学会	28 年 2 月 29 日	無
112	我が国の博物館の国際発信に関する調査研究	総務部長　栗原祐司	第 109 回アメリカ博物館協会（ＡＡＭ）年次大会に参加して	『博物館研究』平成 27 年 8 月号	公益財団法人日本博物館協会	8 月	有
113	ミュージアム・マネージメントに関する調査研究	同上	State-of-the-Art Technology in Museum Security and Current Issues in Japan	Preprints of the ICOM-ICMS 2015 Annual Meeting, Zhengzhou	ICOM-ICMS	10 月 20 日	有
114	同上	同上	The current issues of National Museums in Japan	Preprints of the ICOM-INTERCOM 2015 Annual Conference	ICOM-INTERCOM	10 月 29 日	有
115	ミュージアム・マネジメント	総務課渉外開発担当係長・関谷　泰弘	東京国立博物館における若者向けミュージアム・イベント「博物館で野外シネマ」を事例とした鑑賞者開発の研究	文化経済学、第 12 巻、第 2 号、2015 年、62-75 ページ	文化経済学会	9 月	有

116	ミュージアム･マネジメント	総務課渉外開発担当係長・関谷　泰弘	Challenge to Change: A Case Study of Branding of the Tokyo National Museum	Museum Branding Redefining Museums for the 21st Century, Selected Papers from the ICOM MPR 2014 Conference	ICOM MPR	11 月	有

【京都国立博物館】34件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	新出の探幽縮図―伝李公麟「猛虎図」（正伝寺）に関する一資料―	『國華』第 1434 号	國華社	4月20日	有
2	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	曾我蕭白筆　富士山図	『國華』第 1435 号	國華社	5月20日	有
3	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑 2015』	中国研究所	5月	無
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原　嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　明恵上人像』	勉誠出版	6月	無
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　華厳宗祖師絵伝　元暁絵三巻』	勉誠出版	6月	無
6	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　華厳宗祖師絵伝　義湘絵四巻』	勉誠出版	6月	無
7	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　鳥獣人物戯画　全四巻』	勉誠出版	6月	無
8	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　元暁像』	勉誠出版	6月	無
9	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　義湘像』	勉誠出版	6月	無
10	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『図説　日蓮上人と法華の至宝』第五巻	同朋舎新社	8月	無
11	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	列品管理室 主任研究員　永島明子	作品解説	『図説　日蓮上人と法華の至宝』第六巻	同朋舎新社	12月	無
12	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	山川　暁	(作品解説)「刺繍九条袈裟貼屏風」	板倉聖哲責任編集『日本美術全集：東アジアの中の日本美術』	小学館	28年2月	無
13	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	山川　暁	「中近世染織品の基礎的研究」	『中近世染織品の基礎的研究』	中央公論美術出版	28年2月	無
14	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	「京都国立博物館蔵《餓鬼草紙》の位置づけについて―藤末鎌初における南宋文化受容の観点から―」	『美術史』180 号	美術史学会	28年3月	有
15	近世絵画に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	作品解説	『富士山―信仰と芸術―』（展覧会図録）	静岡県立美術館・山梨県立博物館	9月5日	無
16	禅宗彫刻の調査研究	企画室長　浅見龍介	永平寺所蔵彫刻8件作品解説	『大永平寺展』図録	福井県立美術館	10月23日	無
17	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	木造聖観音菩薩坐像　岐阜・永保寺	國華 1438 号	國華社	8月	無
18	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	木造聖観音菩薩坐像　岐阜・明鏡寺	國華 1438 号	國華社	8月	無
19	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	神護寺愛染明王坐像解説	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記篇』一二	中央公論美術出版	28年2月	無
20	陶磁に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章	「和物茶碗のこと」	『淡交』851 号～862 号	淡交社	1月1日～12月1日	無
21	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	茶の湯と朝鮮陶磁	高麗美術館館報　第 101 号	高麗美術館	5月1日	無
22	陶磁に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章	「桃山の茶陶」	『樂－茶碗の中の宇宙』展覧会図録	エルミタージュ美術館・プーシキン美術館・国際交流基金	7月11日	無
23	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	新たな発想と創造－桃山陶－	目の眼 8 月号（通巻 467 号）	目の眼	8月1日	無
24	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	最近出土の陶磁トピックス（平成 27 年）(5) 近畿地方	東洋陶磁学会会報　第 84 号	東洋陶磁学会	11月30日	無
25	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	発掘とくしま　埋蔵文化財速報展から　「中世の喫茶文化」	徳島新聞	徳島新聞社	12月17日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
26	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	高野山奥之院出土の納骨器	季刊考古学　第 134 号	雄山閣	28年2月1日	無
27	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に係る調査研究	美術室長 山本英男	「桃山画壇を生きる―狩野派絵師の攻防―」、中扉解説	『桃山時代の狩野派』（展覧会図録）	毎日新聞社	4月7日	無
28	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に係る調査研究	美術室長　山本英男、美術室研究員　福士雄也	作品解説	『桃山時代の狩野派』（展覧会図録）	毎日新聞社	4月7日	無
29	特別展観「仏法東漸」に係る調査研究	美術室長　山本英男、保存修理指導室長　大原嘉豊、教育室長　山川暁、列品管理室主任研究員　永島明子、保存修理指導室主任研究員　羽田聡、列品管理室主任研究員　呉孟晋、企画室研究員　末兼俊彦、美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『仏法東漸』（展覧会図録）	京都国立博物館 京都仏教各宗学校連合会	7月	無
30	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に関する調査研究	山川　暁	「琳派という芸術」	『美しいキモノ』	ハースト婦人画報社	8月	無
31	特別展覧会「琳派　京を彩る」に係る調査研究	美術室研究員 福士雄也	「琳派」になりたがった画家たち―画風の継承とその意味	『琳派　京を彩る』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	10月9日	無
32	特別展覧会「琳派　京を彩る」に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章、企画室長　浅見龍介、教育室長　山川暁、列品管理室主任研究員　永島明子、保存修理指導室主任研究員　羽田聡、美術室研究員　福士雄也、工芸室研究員　降矢哲男、企画室研究員　末兼俊彦	コラム及び作品解説	『琳派　京を彩る』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	10月9日	無
33	特別展覧会「禅　心をかたちに」展に関する調査研究	山川　暁	「南北朝時代の袈裟観」	『研究発表会と座談会報告書』42	仏教美術研究上野記念財団	28年3月	無
34	特別展覧会「禅　心をかたちに」に係る調査研究	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	作品解説	『季刊　禅文化』235	禅文化研究所	28年1月	無

【奈良国立博物館】27件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	湯山賢一（館長）	『摂関家旧記目録』の筆者は藤原忠実か―摂関家再興の象徴	『近衛家名宝からたどる宮廷文化史　陽明文庫が伝える千年のみやび』	笠間書院	28 年 3 月	無
2	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	学芸部長　内藤栄	木内喜八・半古・省古と正倉院宝物	特別陳列「名匠三代　木内喜八・半古・省古の木工芸」展図録総論	奈良国立博物館	6 月	無
3	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	総論　白鳳の美術	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録総論	奈良国立博物館	7 月	無
4	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	「白鳳―花ひらく仏教美術―」展によせて	『薬師寺』第一八四号	薬師寺	6 月	無
5	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員　岩田茂樹	木造菩薩（伝如意輪観音）遊戯坐像	『国華』一四三五号	朝日新聞出版	5 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	法隆寺夢違観音像・深大寺釈迦如来像の頭部仕上げについて	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録	奈良国立博物館	7月	無
7	同上	同上	東大寺・僧形八幡神坐像の再検討	『仏教芸術』三四三	佛教藝術學會	11月	有
8	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　岩井共二	各論　中国彫刻と白鳳仏	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録総論	奈良国立博物館	7月	無
9	同上	同上	玄奘三蔵が訪れた健駄羅	玄奘三蔵と薬師寺	薬師寺	8月	無
10	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室長　清水健	神仏と人の織りなす造形	『日本美術全集１１　テーマ巻②信仰と美術』	小学館	10月	無
11	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	近年のコレクション［工芸］	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
12	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院展―七〇年目を迎える展覧会の歩み―	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
13	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長　鳥越俊行	奈良国立博物館の修理事業	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
14	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	企画室長　野尻忠	概論　まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展	『まぼろしの久能寺経に出会う平安古経展』展図録	奈良国立博物館	4月	無
15	同上	同上	古代律令法と七世紀の展開	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録	奈良国立博物館	7月	無
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	玄奘訳経典の日本における拡がりと定着	玄奘三蔵と薬師寺	薬師寺	8月	無
17	同上	同上	国宝「日本書紀 巻第十（残巻）」（奈良国立博物館蔵）解説	奈良国立博物館編『国宝 日本書紀 巻第十残巻　紙背 性霊集』	一般社団法人勉誠	12月	無
18	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	資料室長　宮崎幹子	日本における美術書誌をめぐる課題―文献への道しるべと美術図書館の役割―	『アート・ドキュメンテーション通信』No.一〇四	アート・ドキュメンテーション学会	4月	無
19	同上	同上	なら仏像館―一二〇年の歴史と景観―	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
20	同上	同上	仏教美術資料研究センター―仏教美術のアーカイブズをめざして	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	列品室長　吉澤悟	古墳の終焉と火葬のはざま	『白鳳―花ひらく仏教美術―』特別展図録	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	同上	古墳から出土するガラス器について	『日本の古墳文化』特別展図録	国立慶州博物館	12月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
23	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　斎木涼子	摂関・院政期の宗教儀礼と天皇	『岩波講座　日本歴史』古代5	岩波書店	5月	無
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　山口隆介	箱根・阿弥陀寺文殊菩薩立像について	『国華』一四四一号	朝日新聞出版	11月	無
25	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　伊藤久美	「華厳宗祖師絵伝」義湘絵における祖師像制作について	鹿島美術財団年報第三十二号別冊	鹿島美術財団	11月	無
26	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　大江克己	珠城山古墳群	『日本の古墳文化』特別展図録	国立慶州博物館	12月	無
27	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員　田澤梓	海と山の鏡に関する一考察	『第六十七回正倉院展』特別展図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10月	無

【九州国立博物館】20件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	装飾古墳　赤い石室	大地の赤　ベンガラ異空間	LIXIL出版	4月25日	無
2	文化財に関する調査及び研究の推進　文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課長 今津節生	Automated recognition of wood used in traditional Japanese sculptures by texture analysis of their low-resolution computed tomography data	Journal of Wood Sciense	Japan Wood Research Society	6月3日	有
3	文化財に関する調査及び研究の推進　文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課長 今津節生	Development and application of replicas made from ceramics using 3D measurement technology (X ray CT, 3D digitizer, and 3D printer),	015 International Symposium on Conservation Cultural Heritage in Nara”	The Society for Conserbation Heritage in East Asia,	8月26日	無
4	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	兵馬俑の設計規格とその理念	『特別展　始皇帝と大兵馬俑』図録	NHK、NHKプロモーション、 朝日新聞社	10月27日	無
5	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	コラム　兵士や軍馬ではない兵馬俑	『特別展　始皇帝と大兵馬俑』図録	NHK、NHKプロモーション、 朝日新聞社	10月27日	無
6	太宰府天満宮関連考古資料の調査	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	青銅器はなぜ神社に伝わるのか	太宰府天満宮の地宝	忘羊社	28年1月1日	無
7	太宰府天満宮関連考古資料の調査	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	九博百年―誘致運動から浦ノ田遺跡の発掘まで	太宰府天満宮の地宝	忘羊社	28年1月1日	無
8	中世やまと絵屏風の調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	桐竹鳳凰孔雀図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
9	中世やまと絵屏風の調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	厩図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
10	室町水墨画の調査研究	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀	雪村周継筆龍虎図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
11	室町水墨画の調査研究	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀	相阿弥筆山水図	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
12	トピック展示「祈りのかたち　八幡」に関する調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	総論「祈りのかたち　八幡」	トピック展示図録「祈りのかたち八幡」	九州国立博物館	28年2月2日	無
13	当館所蔵・寄託絵画の基礎的研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	曾我蕭白筆　真山水図	國華 第1444号	國華社	28年2月20日	無
14	当館所蔵・寄託絵画の基礎的研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	所蔵品紹介「殉教三聖人図」	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第11号	九州国立博物館	28年3月31日	無
15	教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	歴史系博物館と科学系博物館の連携プロジェクト―「大英博物館展」教育普及事業における	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第11号	九州国立博物館	28年3月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		企画課研究補佐員 山下久美子 企画課研究補佐員 鮫島由佳	北部九州版アストロラーベの製作及び活用への取り組み―				
16	教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子 企画課研究補佐員 山下久美子 企画課研究補佐員 鮫島由佳	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活用について―「きゅーはく女子考古部」の活動を通して―	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第 11 号	九州国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
17	タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－	企画課特別展室長 原田あゆみ	「タイの弥勒菩薩像－仏教説話にあらわされた弥勒の福徳－」	報告書『タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－』	九州国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
18	受託研究(H25-H26 水分遺跡出土赤色顔料の微視的・科学的調査ならびに調査結果の考古学的な検討)	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	水分遺跡第５・７次調査出土の赤色顔料について	久留米市文化財調査報告書第 364 集　水分遺跡	久留米市教育委員会	28 年 3 月 31 日	無
19	受託研究（H27 鏡迫古墳群出土赤色顔料の微視的・科学的調査ならびに調査結果の考古学的な検討）	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	鏡迫古墳群出土の赤色顔料について	鏡迫古墳群	福岡県教育委員会	28 年 3 月 31 日	無
20	日本中世における漆芸品の基礎的研究	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	重要文化財「小倉山蒔絵硯箱」の木地構造について	サントリー美術館　研究紀要	サントリー美術館	28 年 3 月 31 日	無

【東京文化財研究所】34件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（17件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の資料学的研究	児島薫	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（2）	『美術研究』416 号	東京文化財研究所	8 月 10 日	無
2	同上	同上	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（3）	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
3	同上	同上	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（4）	『美術研究』418 号	同上	28 年 3 月	無
4	近現代美術に関する交流史的研究	副所長　田中淳	展覧会評　歴史をつくる学芸員の眼	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
5	同上	企画情報部長　山梨絵美子	黒田清輝の画業と遺産	東京国立博物館『生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠』展図録	東京国立博物館	28 年 3 月	無
6	同上	客員研究員　河合大介	研究ノート 赤瀬川源平と《山手線事件》―〈匿名性〉を手がかりとして―	『美術研究』418 号	東京文化財研究所	同上	無
7	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部文化形成研究室長　小林達朗	東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」	『美術研究』416 号	同上	8 月 10 日	無
8	同上	企画情報部広領域研究室長　小林公治	南蛮漆器書見台編年試論	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
9	同上	同上	15-17 世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討	『鹿島美術研究年報』第 32 号別冊	鹿島美術財団	11 月 15 日	無
10	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部研究員 菊池理予	復刻銘仙の製作と技術の伝承―分業のこれから―	『きものモダニズム』	須坂クラシック美術館	9 月 26 日	無
11	同上	同上	道具と技術の関わり―熊谷地域の染色工房を調査して―	『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』	東京文化財研究所	9 月 30 日	無
12	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	室町時代のアクセントと謡のフシ	〃『無形文化遺産部研究報告』第 10 号〃	同上	28 年 3 月 30 日	無
13	同上	無形文化遺産部長　飯島満	七代目豊沢広助　義太夫節の種類と解説	同上	同上	同上	無
14	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽他	『鷺宮咲前神社と太々神楽二百年記念誌』	鷺宮咲前神社太々神楽奉納 200 年記念事業実行委員会	10 月 24 日	無
15	同上	同上	3.11 以降の東北民俗芸能の状況と再評価	『岩手県民俗芸能北京公演プログラム』	国際交流基金	10 月 17 日	無
16	同上	同上	無形文化遺産としての儀礼文化	『儀礼文化学会紀要』第２号	儀礼文化学会	28 年 3 月 31 日	無

17	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 10 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	『無形文化遺産研究報告』第 10 号	東京文化財研究所	28 年 3 月 30 日	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（0件）

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（15件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	三重県立博物館学芸員・客員研究員　間渕創、保存修復科学センター研究員佐藤嘉則	博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の活用について	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有
2	文化財の保存環境の研究	客員研究員　呂俊民、客員研究員　古田嶋智子、林良典、須賀政晴、保存修復科学センター副センター長佐野千絵	試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測	同上	同上	同上	有
3	同上	保存修復科学センター副センター長　佐野千絵、客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民	展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与	同上	同上	同上	有
4	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	武田裕子、保存修復科学センター分析科学研究室長早川泰弘	国宝「阿弥陀聖衆来迎図」の彩色材料に関する調査	同上	同上	同上	有
5	同上	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	Ｘ線透過撮影による伊豆長八の作品の調査	同上	同上	同上	有
6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、渡邉尚恵、保存修復科学センター研究補佐員　佐多麻美、保存修復科学センター主任研究員　森井順之	屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究	同上	同上	同上	有
7	同上	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、久住有生、絵画修復家・客員研究員　前川佳文、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察	同上	同上	同上	有
8	同上	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	Monitoring system for preservation of the Usuki stone Buddha by volunteer and scientific supports　ISSM2015	National Science Museum,Korea	National Science Museum,Korea	10 月	無
9	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一	石灯籠の地震対策に関する評価	『日韓共同研究報告書 2015』	東京文化財研究所、大韓民国国立文化財研究所	6 月	無
10	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巣籠鶴」の科学調査	大日光 85	日光東照宮	8 月 31 日	無
11	同上	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	当世具足の塗装技術に関する科学調査	甲冑武具研究 191	日本甲冑武具研究保存会	同上	無
12	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	テトラクロロ銅(二)酸カリウム 2 水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有
13	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	洋紙の保存と修復	洋紙の保存と修復	同上	28 年 3 月	無
14	同上	同上	近代文化遺産としての道具の保存	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書	同上	9 月	無
15	同上	同上	道具の保存と活用	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）報告書	同上	28 年 3 月	無

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（0件）

○文化財保護に関する国際協力の推進（２件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター長岡田健、絵画修復家・客員研究員　渡辺真樹子、京都市立芸術大学講師・客員研究員高林弘実、蘇伯民、崔	敦煌莫高窟第 285 窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		強					
2	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	無形文化遺産部長　飯島満	「気候変動と文化遺産」	日本オセアニア学会ニューズレターNo. 112	日本オセアニア学会	同上	無

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0件）

【奈良文化財研究所】140件

〇文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（102件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長　吉川聡	廃仏毀釈　発見された奈良･興福寺僧の日記	月刊住職	興山舎	28年1月1日	無
2	同上	歴史研究室長　吉川聡	石鎚山の縁起からみた蔵王権現信仰	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
3	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部研究員　海野聡	古代建築のイメージの限界-描かれた古代建築の特質—	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
4	同上	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	江戸時代中期における北口本宮冨士浅間神社の中興とその意匠	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
5	同上	都城発掘調査部研究員　海野聡	古代日本における建物の維持修理に対する公的概念の邦画と修理体制	日本建築学会計画系論文集	日本建築学会	7月30日	無
6	同上	都城発掘調査部主任研究員　西山和宏	発掘遺構と古代建築を繋ぐ	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
7	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	山田寺倒壊回廊が語る古代建築史	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
8	同上	文化遺産部研究員 番　光	出土部材をしらべ、まもり、つたえる	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
9	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	遺跡整備研究室長 内田和伸	平城宮跡の保存および活用	慶州月城と世界文化遺産の調査と研究	韓国国立慶州文化財研究所	11月30日	無
10	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	史跡名勝天然記念物の保護の仕組み	全史協50年のあゆみ	全国史跡整備市町村協議会	10月31日	無
11	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	平城宮東院庭園での活用プログラム「庭の宴」	遺跡学研究第12号	日本遺跡学会	11月10日	無
12	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	大明宮・洛陽宮跡の遺跡整備現況調査	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	12月	無
13	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	史跡等の整備・活用の長期的な展開	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月30日	無
14	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	総括 史跡等の整備・活用の長期的な展開について	平成26年度遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	12月10日	無
15	同上	研究員　高橋知奈津	遺跡におけるデジタルコンテンツの活用	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	28年3月	無
16	我が国の記念物に関する調査･研究（庭園）	研究員　高橋知奈津	戦国時代の城館の庭園	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
17	同上	副所長　小野健吉	中世庭園史の概観と研究の現状	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
18	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	庭園における境致の導入	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
19	同上	研究員　高橋知奈津	初期書院造庭園に関する一考察	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
20	平城宮・京跡出土遺物と検出遺構の調査研究等	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦	興福寺西室出土冶金関連遺構・遺物の再検討	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
21	藤原宮跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　清野陽一	藤原宮大極殿院の調査（ｈ第186次）	奈文研ニュースNo. 59	奈良文化財研究所	12月	無
22	同上	考古第二研究室長 尾野善裕、主任研究員 西山和宏、廣瀬覚、森川実、研究員　諫早直人、大澤正吾、川畑純、清野陽一、前川歩、技術職員　栗山雅夫	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表資料	—	奈良文化財研究所	10月9日	無
23	同上	考古第二研究室長 尾野善裕、主任研究員 西山和宏、廣瀬覚、森川実、研究員　諫早直	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会資料	—	奈良文化財研究所	10月12日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		人、大澤正吾、川畑純、清野陽一、前川歩、技術職員　栗山雅夫					
24	同上	考古第三研究室長 清野孝之、主任研究員 森川実、研究員　若杉智宏、山崎健、星野安治、アソシエイトフェロー　大谷育恵	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第182次調査）	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
25	同上	研究員　森先一貴、諫早直人、アソシエイトフェロー　金宇大	藤原宮東方官衙北地区の調査－第183次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
26	飛鳥地域発掘調査	研究員　森先一貴、大澤正吾、諫早直人	檜隈寺周辺の調査-飛鳥藤原第180次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
27	同上	研究員　前川歩	檜隈寺周辺の調査－飛鳥藤原第184次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
28	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	主任研究員　西山和宏、研究員　前川歩、大林潤、アソシエイトフェロー　福嶋啓人	坂田寺出土建築部材調査報告書	－	奈良文化財研究所	28年3月30日	無
29	同上	主任研究員　降幡順子、研究員　諫早直人	藤原宮・京出土の佐波理鋺	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
30	同上	研究員　若杉智宏	和田廃寺SD145出土古式土師器について	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
31	同上	主任研究員　山本崇、客員研究員　藤井裕之	藤原宮木簡の樹種2	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
32	同上	考古第三研究室長 清野孝之、主任研究員 山本崇	飛鳥寺出土文字瓦の再調査	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
33	同上	主任研究員　降幡順子、研究員　森先一貴	藤原宮・京出土瓦の胎土分析（２）	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
34	同上	主任研究員　降幡順子ほか2名	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の科学的特徴	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム発表要旨集	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良組織委員会	8月26日	無
35	同上	主任研究員　降幡順子ほか4名	古代鉛釉陶器・施釉瓦の科学分析からみた特徴	日本文化財科学会第32回大会	日本文化財科学会	7月11日	無
36	同上	主任研究員　山本崇	その後の藤原京―藤原宮京の退顛過程	都城制研究(9) 都城の廃絶とその後	奈良女子大学古代学学術研究センター	28年3月	無
37	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究	学芸室長　石橋茂登、研 究員　田村朋美	鳥寺跡出土遺物の研究　ガラス玉類の考古科学的研究	飛鳥資料館研究図録第19冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	28年3月	無
38	同上	学芸室長　石橋茂登、主 任研究員　降幡順子	向原寺所蔵金銅観音菩薩立像の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
39	同上	学芸室長　石橋茂登、主任研究員　降幡順子、研究員　丹羽崇史、ほか２名	於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
40	同上	研究員　諫早直人	飛鳥寺塔心礎出土馬具	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
41	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	研究員　恵谷浩子	文化的景観学の可能性－「文化的景観学」検討会公開ワークショップの議論から－	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
42	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	世界遺産登録された棚田景観の価値と保護-フィリピンとインドネシアの比較-	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
43	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	地域産業の大変革を経験した遺跡	遺跡学研究第12号	日本遺跡学会	11月10日	無
44	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	Matsuri in Japan's Historic Districts: Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities	Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
45	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	研究員　田村朋美 客員研究員　大賀克彦	A scientific and archaeological investigation on Roman glass artifacts unearthed in Japan	TECHNART2015 BOOK OF ABSTRACTS	TECHNART2015	4月27日	有
46	同上	室長　高妻洋成	木質文化財の保存と修復の科学の展望	木材学会誌	日本木材学会	5月	有
47	同上	主任研究員　降幡順子 研究員　庄田慎也	In Pursuit of Evidence for local Production of Bohai Tricolored Earthenware: Chemical Analyses pf	Asian Archaeology vol.3	Science Press Beijing	6月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		他４名	Lead Glaze Ceramics Excavated from Kraskino and Gorbatoka in the Russian Maritime Province				
48	同上	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の材質・構造調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
49	同上	研究員諫早直人、 主任研究員降幡順子	藤原宮・京出土の佐波理鋺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
50	同上	学芸室長石橋茂登、 主任研究員降幡順子	向原寺所蔵金堂観音菩薩立像の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
51	同上	研究員森先一貴、 主任研究員降幡順子	藤原宮・京出土瓦の胎土分析（２）	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
52	同上	研究員中川あや、 主任研究員降幡順子	三徳山三佛寺所蔵鸚鵡文銅鏡の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
53	同上	主任研究員降幡順子、 学芸室長石橋茂登、研究員丹羽崇史、他２名	於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
54	同上	研究員　脇谷草一郎 研究員　田村朋美 室長　高妻洋成	福岡県潤地頭給遺跡出土船材の保存処理	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
55	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－石室内環境が金属製遺物の腐食におよぼす影響について－	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
56	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響－	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6月27日	無
57	同上	客員研究員　大賀克彦 研究員　田村朋美	弥生時代後期におけるガラス玉の地域性に関する考古科学的研究	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
58	同上	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の自然科学的研究	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
59	同上	主任研究員　降幡順子 室長　石橋茂登、部長玉田芳英　他２名	古代鉛釉陶器・施釉瓦の化学分析からみた特徴	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月12日	無
60	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
61	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
62	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他２名	海洋環境における鉄製遺物の腐食過程　－埋蔵深度が鉄の腐食状態に及ぼす影響－	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
63	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	出土木製遺物の水中保管環境における溶存酸素を低減する方策の検討	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
64	同上	主任研究員　降幡順子 部長　玉田芳英　他１名	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の化学的特徴	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム要旨集	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	8月27日	無
65	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
66	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
67	同上	室長　高妻洋成	木簡など木製遺物の保存環境	木簡研究	木簡学会	11月	有
68	同上	研究員　田村朋美 客員研究員　大賀克彦	Archaeometrical investigation of natron glass excavated in Japan	Microchemical Journal 126	Academic Press	28年1月	有
69	同上	主任研究員　降幡順子	銅造伊豆山権現立像の事前調査と保存修理	伊豆山神社の歴史と美術	奈良国立博物館	28年2月	無
70	同上	客員研究員　大賀克彦 研究員、田村朋美	日本列島出土カリガラスの考古科学的研究	古代学　第8号	奈良女子大学古代学学術研究センター	28年3月	有
71	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	出土木製遺物の水中保管時の劣化と溶存酸素量の関係（その１）－屋外水槽の異なる水深で木材を保管した場	日本木材学会大会発表梗概集	日本木材学会	28年3月27日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
			合ー				
72	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　ー覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討ー	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6月27日	無
73	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6月27日	無
74	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
75	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
76	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　ー覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討ー	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
77	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
78	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site	Advanced Materials Research	Trans Tech Publication	11月	有
79	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 浦蓉子他	左京二条二坊十一坪の調査ー平城第563次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
80	興福寺防災工事に伴う発掘調査	都城発掘調査部研究員　桑田訓也他	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査ー平城第553次・第559次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
81	薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査	都城発掘調査部主任研究員　青木敬他	薬師寺東塔の調査―第554次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
82	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部研究員　小田裕樹他	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査　平城第546次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
83	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査	都城発掘調査部研究員　芝康次郎他	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査　平城第551次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
84	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　山本祥隆他	東大寺東塔院跡の発掘調査　平城第550次（東大寺第164次）	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
85	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　森川実	土師器のうつわ、須恵器のうつわー奈良時代の食器構成に関する一考察ー	第18回古代官衙･集落研究会報告書　官衙・集落と土器１	奈良文化財研究所	12月	有
86	同上	都城発掘調査部研究員　小田裕樹	趣旨説明	第18回古代官衙･集落研究会報告書　官衙・集落と土器１	奈良文化財研究所	12月	有
87	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査	桑田訓也	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査（平城第559次）	奈文研ニュースNo.60	奈良文化財研究所	28年3月	無
88	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）	都城発掘調査部主任研究員　青木敬他	薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報	薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報	奈良文化財研究所	28年3月	無
89	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部研究員　石田由紀子	平城宮の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ　ー 東大寺式軒瓦の展開ー』第16回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28年2月	無
90	同上	都城発掘調査部研究員　清野陽一	頭塔の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ　ー 東大寺式軒瓦の展開ー』第17回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28年2月	無
91	同上	都城発掘調査部主任研究員　今井晃樹	西大寺・西隆寺・興福寺の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ　ー 東大寺式軒瓦の展開ー』第18回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28年2月	無
92	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	主任研究員　青木敬	日韓王陵級古墳における墳丘の特質と評価	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28年3月31日	無
93	同上	主任研究員　廣瀬覚	日韓の王陵および壁画古墳の比較研究序説ー飛鳥時代と高麗・朝鮮時代を中心にー	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28年3月31日	無
94	同上	研究員　諫早直人	新羅における初期金工品の生産と流通	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28年3月31日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
95	同上	研究員　小田裕樹	古代日韓における有蓋台付椀の製作と展開－百済泗沘期の資料を中心に－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
96	同上	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登	日韓古代木製品についての覚書－タタリ状製品について－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
97	同上	研究員　庄田慎矢	日韓古代木製食器の比較研究－器種と樹種を中心に－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
98	同上	都城発掘調査部副部長渡辺晃宏	城山山城出土木簡管見	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
99	同上	遺構研究室長　箱崎和久・研究員　鈴木智大・研究員　海野聡	日本からみた韓半島の古代寺院金堂	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
100	同上	アソシエイトフェロー藤井裕之	日韓交渉史研究と年輪年代学－日本における課題－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
101	同上	遺構研究室長　箱崎和久	日本における7世紀の寺院金堂跡とその諸問題	東アジア古代寺址比較研究（Ⅱ）-金堂址編-	奈良文化財研究所、国立扶余文化財研究所	12 月 25 日	無
102	同上	主任研究員　降幡順子・神野恵	奈良三彩技術与化学特征的研究 - 平城宮陶器Ⅱ之奈良 -	『華夏考古』2015 年第 4 期	河南省文物研究所	12 月	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（11 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	年輪年代学研究	主任研究員　大河内隆之	年輪年代学的視点から見た黎明期国産ヴァイオリンの木材利用について－鈴木政吉工場製作品を中心に－	奈良文化財研究所紀要	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
2	同上	研究員　星野安治	木の年輪で作った年代を測るものさし－年輪年代学の成果－	遺跡の年代を測るものさしと奈文研	クバプロ	7 月 11 日	無
3	同上	研究員　星野安治、客員研究員　児島大輔、客員研究員　光谷拓実	木造二天王立像（国〈文化庁保管〉）の年輪年代調査	MUSEUM 東京国立博物館研究誌	東京国立博物館	8 月 15 日	有
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	研究員　山崎健	埋蔵文化財における動植物標本の現状と課題	学術の動向 20-5	日本学術協力財団	5 月 1 日	無
5	同上	研究員　山崎健	農耕開始期における漁撈活動の変化―伊勢湾奥部を事例として―	日本考古学 39	日本考古学協会	5 月 20 日	有
6	同上	研究員　山崎健	古代における鷲羽の利用	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
7	同上	研究員　山崎健	平城宮東方官衙地区 SK19189 出土の動物遺存体	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
8	同上	客員研究員　丸山真史	和歌山城跡から出土した動物遺存体	和歌山城跡第 18 次調査発掘調査報告書	和歌山市文化スポーツ振興財団	9 月	無
9	同上	客員研究員　松井章、客員研究員　丸山真史	東名遺跡群の漁労環境	東名遺跡群Ⅳ	佐賀市教育委員会	28 年 3 月	無
10	同上	アソシエイトフェロー松崎哲也、研究員　山崎健	貝類標本リスト	埋蔵文化財ニュース	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無
11	同上	研究員　山崎健ほか	藤原宮跡出土馬の研究	研究報告	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（2 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験、及び装置の改良等	室長　高妻洋成 アソシエイトフェロー杉岡奈穂子	重要文化財諸戸家住宅広間障壁画の色材と構造	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	有
2	同上	室長　高妻洋成 主任研究員　降幡順子 アソシエイトフェロー杉岡奈穂子 アソシエイトフェロー中島志保	国宝薬師寺東塔初層の天井裏板・支輪裏板に用いられた彩色材料調査	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	有

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（22 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財に関する調査及び研究の推進	主任研究員　廣瀬覚	高松塚古墳の墳丘調査の意義－今後の調査・整備にむけて－	第 26 回考古学研究会東海例会資料集	考古学研究会東海例会	28年2月6日	無
2	同上	保存科学研究室長　高妻洋成ほか 3 名	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造	文化財保存修復学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7 月 11 日	無
3	同上	主任研究員　降幡順子	Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan	UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings	UNESCO	6 月 3 日	無
4	同上	主任研究員　石橋茂登、山本崇、研究員　若杉智宏ほか 5 名	キトラ古墳と天の科学	－	奈良文化財研究所	10 月 9 日	無
5	同上	主任研究員　石橋茂登、研究員　若杉智宏、再雇用職員　井上直夫	キトラ古墳天文図星座写真資料	－	奈良文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
6	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	研究員　森先一貴	檜隈寺瓦窯の調査－第 181-4 次	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
7	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	主任研究員　黒坂貴裕、アソシエイトフェロー　南部裕樹	本薬師寺旧境内の調査-第 178-11 次	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
8	同上	考古第三研究室長　清野孝之、研究員　大林潤	本薬師寺旧境内の調査-第 181-1 次	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
9	同上	研究員　桑田訓也、アソシエイトフェロー　南部裕樹	豊浦寺の調査-第 181-8 次	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
10	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	主任研究員　青木敬	迅速化のための技術　奈良文化財研究所による支援	東日本大震災の復興と埋蔵文化財支援（中間報告）	文化庁文化財部記念物課	28 年 3 月	無
11	災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画	アソシエイトフェロー　村田泰輔	平城第 530 次調査で発見された巨大地震の痕跡	奈文研ニュース No.55	奈良文化財研究所	11 月	無
12	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化	人間文化研究情報資源共有化研究会報告集６	人間文化研究機構	28 年 3 月	無
13	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	考古資料および文献史料からみた過去の地震･火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開事業について	学術会議叢書 22	日本学術協力財団	28 年 2 月	無
14	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	薬師寺東塔掘込地業における版築構造観察	薬師寺東塔基壇	橿原考古学研究所･奈良文化財研究所（仮）	28 年 3 月	無
15	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	河川堆積と地震痕跡	大桷遺跡 14	鳥取県教育文化財団	28 年 3 月 25 日	無
16	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	地震の痕跡について	都塚古墳発掘調査報告書	明日香村教育委員会	28 年 3 月	無
17	同上	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦(共著)	考古学における地殻災害研究の今後	『学術会議叢書』22	日本学術協力財団	28 年 1 月 31 日	無
18	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　中川二美	鬼瓦の分布からみた平城宮の造営…―第一次大極殿院の復原研究 20―	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
19	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　村山聡子	古代建築の柱間装置の仕様…―第一次大極殿院の復原研究 21―	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
20	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　村山聡子他	第一次大極殿院復原検討会記録 13	（内部資料）	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無
21	平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査（平城宮第一次大極殿院西面回廊、平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路・三条条間北小路の発掘調査）	都城発掘調査部主任研究員　林正憲他	第一次大極殿院西面回廊の調査－平城第 561 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
22	同上	都城発掘調査部研究員　丹羽崇史他	平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路･三条条間北小路の調査－平城第 552 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無

○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館における調査・研究成果（3 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	飛鳥資料館における展示公開	研究員　丹羽崇史、ほか３名	はじまりの御仏たち	飛鳥資料館研究図録第 62 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	4 月 24 日	無
2	同上	学芸室長　石橋茂登、主任研究員　山本崇、研究員　若杉智宏、ほか５名	キトラ古墳と天の科学	飛鳥資料館図録第 63 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	10 月 9 日	無
3	同上	研究員　若杉智宏、ほか 12 名	飛鳥の考古学 2015	飛鳥資料館カタログ第 33 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	28 年 1 月 29 日	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（　0件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0 件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査･研究の推進	副所長　大貫美佐子	Introduction & Outcomes of the Project: Purposes of the Project, Outcomes and Analysis of the Case Studies	『Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)』	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	28 年 3 月	無

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成28年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」６５５～６６０号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
「東京国立博物館紀要」５１号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
「東京国立博物館文化財修理報告」ＸＶＩ	700	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸＶＩ　古今目録抄２	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等　 95件
「東京国立博物館図版目録　近代日本画篇（巻子・画帖）」	800	美術館・博物館・大学・研究所等　163件

○展覧会図録等

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展 特集図録	『鳥獣戯画　京都 高山寺の至宝』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『クレオパトラとエジプトの王妃展』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『始皇帝と大兵馬俑』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『生誕150年特別展　黒田清輝　日本近代絵画の巨匠』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『トーハクのミイラ』	2,000	
	『漢・唐時代の陶俑』	4,000	
特集印刷物	「養生と医学」	5,000	
	「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
	「国宝　鷹見泉石像」	10,000	
その他	『東京国立博物館セレクション　北斎』	4,000	美術館・博物館・大学・研究所等　498件
	『東京国立博物館セレクション　おひなさまと日本の人形』	4,000	美術館・博物館・大学・研究所等　498件
	『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』	1,000	美術館・博物館・大学等　111件
	『東京国立博物館ハンドブック』（日本語改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館ハンドブック』（英語改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館ハンドブック』（中国語改訂版）	3,000	
	『東京国立博物館日本美術50選』（日本語改訂版）	―	
	『東京国立博物館日本美術50選』（英語改訂版）	―	
	『法隆寺宝物館』（改訂版）	2,000	
	『上海博物館　中国絵画の至宝』増刷	2,000	
	『能面 創作と写し』増刷	2,000	
	『水滴　動物や野菜をかたどった水いれ』（改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館　横河民輔コレクション　中国磁器名品選』増刷	2,000	
	『天翔ける龍』増刷	2,000	
	『東京国立博物館図版目録　インド・インドネシア染織篇』増刷	500	
	『東京国立博物館図版目録　中世古文書篇』増刷	500	

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第37号	850	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書13	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
社寺調査報告書27　知恩寺	500	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会『桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち』	―	美術館・博物館・大学等
特別展観『第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―』	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会『琳派　京を彩る』	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○展覧会図録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	特別展『まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展』	6,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	開館120年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術』	18,570	美術館・博物館・大学・研究機関等
	『第67回正倉院展』	4,450	美術館・博物館・大学・研究機関等
	『 The 67th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列	特別陳列『名匠三代―木内喜八・半古・省古の木工芸―』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』	1,850	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『お水取り』	5,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
その他	開館120年記念　『写真でたどる　奈良国立博物館のあゆみ』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館紀要『東風西声』　第11号	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
平成27年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
平成27年度文化芸術振興費補助金「文化財防災ネットワーク推進事業」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
九州国立博物館開館10周年記念シンポジウム「Ｘ線を用いた文化財の研究と活用」報告書	400	シンポジウム参加者

○展覧会図録等

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」	1,440	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史－」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「美の国 日本」	2,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「始皇帝と大兵馬俑」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示等	「新羅王子がみた大宰府」	1,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「祈りのかたち　八幡」	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「琉球と海」	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「太宰府天満宮の地宝」	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
文化交流展印刷物（リーフレット）	「九州国立博物館開館10周年記念特別公開　田中丸コレクションの茶陶」	13,000	展示室内等で配布（非売品）
その他	開館十周年記念収蔵品図録　九州国立博物館名品五十選	日英版：4,000 日中版：1,500 日韓版：1,000 合計　：6,500	・10周年記念式典参加者等へ配布 ・関係機関へ送付 ・館内ミュージアムショップにて販売
	九州国立博物館10年のあゆみ（開館10周年記念写真集）	4,500	・10周年記念式典参加者等へ配布 ・関係機関へ送付
	九州国立博物館史（開館10周年記念誌）	2,100	・関係機関へ送付

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配布先
『東京文化財研究所年報』2014年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東京文化財研究所概要』2015年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東文研ニュース』58、59、60号	58号 2,500 59,60号 1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平成26年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『美術研究』416、417、418号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産研究報告』第10号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
『第10回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
『保存科学』55号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平安密教彫刻論』	450	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』	500	文化庁・関係機関
『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」報告書』	100	文化庁・関係機関
『臭化メチル全廃から10年：文化財のＩＰＭの現在』	400	文化庁・関係機関
『文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究』	150	文化庁・関係機関
『文化財の保存環境の研究』平成23～27年度研究成果報告書	150	文化庁・関係機関
『四季花鳥図屏風　光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平等院鳳凰堂内　光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2015年度』	100	文化庁・関係機関
『洋紙の保存と修復』	500	文化庁・関係機関
『Conservation and restoration of modern textile』	500	文化庁・関係機関
『各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ』	300	文化庁・関係機関
『世界遺産用語集』	500	文化庁・関係機関
『選定保存技術に関する報告書Ⅰ』	500	文化庁・関係機関
『敦煌莫高窟第285窟研究―壁画材料劣化メカニズムの解明』日文中文各1冊	中文100、日文50	中国側機関・大学・研究機関等

『2015年度日韓共同研究報告書』	20	韓国側機関・大学・研究機関等
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成27年度成果報告書』	50	文化庁・関係機関
『東南アジアの文化遺産保護をめぐる技術的課題と展望　研究会報告書』	150	文化庁・関係機関
『Riset Integritas Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat』	50	インドネシア側機関・大学・研究機関等
『Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat』	120	インドネシア側機関・大学・研究機関等
『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013:11th mission』	250	文化庁・関係機関
『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡―2011～2014年度―』	250	文化庁・関係機関
シンポジウム報告書『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』	150	文化庁・関係機関
『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』	10	文化庁・関係機関
『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』	20	文化庁・関係機関
『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』	20	文化庁・関係機関
『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』	200	文化庁・関係機関
報告書『第17回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 危機の中の文化遺産 報告書』	300	コンソーシアム会員・研究会協力機関
報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム平成27年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』	300	コンソーシアム会員・研究会協力機関
パンフレット『アセアン+３文化遺産フォーラム２０１５ 東南アジア諸国と共に歩む－多様な文化遺産の継承と活用－実施報告』	200	コンソーシアム会員・研究会協力機関
パンフレット『文化遺産国際協力コンソーシアム』	2,000	コンソーシアム会員・研究会協力機関
小冊子『文化遺産の国際協力』	2,000	コンソーシアム会員・研究会協力機関
報告書『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』	400	文化庁・関係機関

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所概要2015	2,700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所紀要2015	3,000	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.57～60	各3,000	大学、研究機関等
埋蔵文化財ニュースNo.162～165	162：2,500 163：2,500 164：2,500 165：2,200	教育委員会、図書館、博物館等
奈良文化財研究所特別講演（東京会場）『遺跡の年代を測るものさしと奈文研』講演録	260	関係機関、協力機関等
『はじまりの御仏たち』飛鳥資料館図録第 62 冊	2,000	研究機関、協力機関等
『キトラ古墳と天の科学』飛鳥資料館図録第 63 冊	3,000	研究機関、協力機関等
『飛鳥寺跡出土遺物の研究　ガラス玉類の考古科学的研究』飛鳥資料館研究図録第 19 冊	600	研究機関、協力機関等
『飛鳥の考古学 2015』飛鳥資料館カタログ第 33 冊	2,000	研究機関、協力機関等
第6回写真コンテスト展うちわ「ひさかたの天－いにしえの飛鳥を想ふ－」	3,000	館内観覧者
東アジア古代寺址比較研究（Ⅱ）－金堂址編－	700	関係機関、協力機関等
『平城京"ごみ"ずかん-ごみは宝-』リーフレット	5,000	館内観覧者
『地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－』リーフレット	7,000	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2015　Ⅰ期』リーフレット	1,700	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2015　Ⅱ期』リーフレット	1,700	館内観覧者
ミニ展示『すごろく土器がみつかった！』リーフレット	1,000	館内観覧者
『日韓文化財論集Ⅲ』奈良文化財研究所学報第 95 冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『中世庭園の研究―鎌倉・室町時代―』奈良文化財研究所学報第 96 冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『キトラ古墳天文図　星座写真資料』奈良文化財研究所研究報告第16冊	800	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『藤原宮跡出土馬の研究』奈良文化財研究所研究報告第17冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『史跡等の整備・活用の長期的な展開―経年によるソフト・ハードの変化と再生―』平成26年度遺跡整備・活用研究集会報告書	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『地域のみかた－文化的景観学のすすめ』文化的景観スタディーズ第1冊	1,000	大学、研究機関、図書館・協力機関等
『Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015』奈良文化財研究所とコロンビア大学との研究交流事業における研究発表論文集 2011-2015	500	大学、研究機関、図書館等
『平城宮跡整備報告書』	600	関係機関・協力機関等
『坂田寺出土建築部材調査報告書』	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
文化的景観資料集成第2集　文化的景観保存計画の概要（Ⅱ）	1,000	関係機関・協力機関等
文化的景観資料集成第3集　文化的景観保存計画の概要（Ⅲ）	1,000	関係機関・協力機関等
『８世紀の瓦づくりⅤ　－ 東大寺式軒瓦の展開－』第16回シンポジウム発表要旨集	350	関係者・協力者等
『第18回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』	600	関係者・協力者等
『第一次大極殿院復原検討会記録』13（内部資料）	200	関係機関・協力機関等
西トップ遺跡調査修復報告中間報告3　南祠堂再構築編 Annual Report on the Research and Restoration Work of the Western Prasat Top Mantling Process of the Southern Sanctuary	（和）500 （英）300	関係機関・協力機関等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
『「スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト」報告書』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
『Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成28年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	114	42	26	3	3	10	72	26	46	0
科学研究費補助金のみ	31	12	7	1	1	3	19	10	9	0
学術研究助成基金助成金のみ	59	18	9	2	2	5	41	12	29	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	24	12	10	0	0	2	12	4	8	0

※平成 22 年度までの科学研究費補助金事業は、平成 23 年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢　裕賀	学芸研究部調査研究課長	基盤研究（A）	6,120
2	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究（A）	5,970
3	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋　裕次	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（A）	5,330
4	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究（A）	9,360
5	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究	関　紀子	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	基盤研究（B）（海外学術調査）	2,210
6	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	若手研究（A）	4,810
7	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸企画部企画課長	研究成果公開促進費（データベース）	1,900

2）学術研究助成基金助成金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	神像表現における物語性の研究	丸山　士郎	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究（C）	780	4,810〈平成25～28年度〉
2	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸企画部東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550〈平成25～27年度〉
3	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	780	4,290〈平成25～27年度〉
4	聴力障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築	川岸　瀬里	学芸企画部博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,820	4,160〈平成25～27年度〉
5	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	澤田　むつ代	客員研究員	基盤研究（C）	1,950	4,680〈平成26～28年度〉
6	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,680〈平成27～29年度〉
7	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田　覚之	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究（B）	1,040	3,380〈平成26～28年度〉
8	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析	関谷　泰弘	総務部総務課渉外開発担当係長	若手研究（B）	650	3,900〈平成26～28年度〉
9	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	若手研究（B）	1,560	4,030〈平成27～29年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察	酒井　元樹	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究（Ａ）	130	1,430	6,500〈平成24～27年度〉
2	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	浅湫　毅	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究（Ｂ）	1,040	780	6,500〈平成24～27年度〉
3	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察	松嶋　雅人	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究（Ｂ）	780	0	6,500〈平成25～27年度〉
4	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸企画部広報室長	基盤研究（Ｂ）	3,770	780	6,500〈平成25～28年度〉
5	極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究－	川村　佳男	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,170	6,500〈平成25～27年度〉
6	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	白井　克也	学芸研究部調査研究課考古室長	基盤研究（Ｂ）	4,680	1,560	6,500〈平成25～27年度〉
7	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究	鬼頭　智美	学芸企画部企画課国際交流室長	基盤研究（Ｂ）	2,340	1,820	6,500〈平成26～28年度〉
8	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本　伸之	副館長	基盤研究（Ｂ）	1,820	650	6,500〈平成26～29年度〉
9	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見　龍介	学芸研究部付研究員	基盤研究（Ｂ）	2,860	1,040	6,500〈平成26～28年度〉
10	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	特任研究員	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	2,340	1,300	6,500〈平成26～30年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎家コレクション	永島　明子	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（Ａ）	9,100

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	実作例に基づく日本の宮廷装束および調度の基礎的研究	山川　暁	学芸部教育室長	基盤研究（C）	4,030
2	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（B）	3,900

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	湯山　賢一	館長	基盤研究（Ａ）	13,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）

						〈研究期間〉
1	平安時代の「大般若波羅蜜多経」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻　忠	学芸部企画室長	基盤研究（C）	2,080	5,070 〈平成25～27年度〉
2	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部情報サービス室員	若手研究（B）	910	1,560 〈平成27～28年度〉

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	博物館科学課 環境保全室長	基盤研究（A）	15,210
2	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	原田　あゆみ	企画課 特別展室長	基盤研究（B）	6,890
3	近世日本のキリシタン禁制と「異国船」対策－東アジアと地域の視点から	松浦　晃佑	企画課特別展室　研究員	特別研究員奨励費	1,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	博物館科学課保存修復室 主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成25～28年度〉
2	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	荒木　和憲	文化財課資料登録室 主任研究員	若手研究（B）	650	2,730 〈平成25～27年度〉
3	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究	赤田　昌倫	博物館科学課環境保全室 アソシエイトフェロー	若手研究（B）	780	2,600 〈平成26～27年度〉
4	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	文化財課資料登録室 主任研究員	基盤研究（C）	2,080	4,810 〈平成27～29年度〉
5	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	博物館科学課環境保全室 研究員	基盤研究（C）	910	4,680 〈平成27～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－	原田　あゆみ	学芸部企画課 特別展室長	基盤研究（B）	0	1,200	6,500 〈平成24～26年度〉 ※期間延長により助成金のみ継続受給
2	契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-	臺信　祐爾	学芸部　特任研究員	基盤研究（B）	4,160	2,470	6,500 〈平成25～27年度〉

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	山内　和也	文化遺産国際協力センター 地域環境研究室長	基盤研究（B） 海外	5,980
2	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	保存修復科学センター 生物科学研究室長	基盤研究（A）	15,210
3	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	小林　公治	企画情報部 広領域研究室長	基盤研究（B）	3,640
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部 研究員	若手研究（A）	4,680
5	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田　啓子	保存修復科学センター 特別研究員	特別研究員奨励費	1,024
6	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高　健太郎	保存修復科学センター 特別研究員	特別研究員奨励費	1,560
7	毘沙門天像の成立と展開-唐・宋・元から平安・鎌倉へ-	佐藤　有希子	企画情報部 特別研究員	特別研究員奨励費	1,430

8	平安密教彫刻論	津田　徹英	企画情報部 文化財アーカイブズ研究室長	学術図書	2,200
9	SAT大藏經テキストデータベース圖像編	津田　徹英	企画情報部 文化財アーカイブズ研究室長	データベース	4,500
10	江戸時代における初期文人画の基礎的研究―中国絵画学習とその地域性について―	安永　拓世	企画情報部 研究員	研究活動スタート支援	1,430

2）学術研究助成基金助成金のみ　12件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神　葉子	企画情報部 情報システム研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,170	4,030 （平成26～28年度）
2	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林　達朗	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,080	4,940 （平成26～28年度）
3	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井　舞	企画情報部 主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,950	4,680 （平成26～28年度）
4	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津　信明	保存修復科学センター 修復材料研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,340	4,680 （平成27～29年度）
5	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野　千絵	保存修復科学センター 副センター長	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,550 （平成27～29年度）
6	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,820	4,680 （平成27～29年度）
7	文化財の材質調査のための２次元イメージング検出器の開発	犬塚　将英	保存修復科学センター 主任研究員	挑戦的萌芽	910	2,990 （平成26～27年度）
8	実演用能装束の保存継承に関する研究-能楽の包括的継承の一指針として-	菊池　理予	無形文化遺産部 研究員	挑戦的萌芽	1,040	2,990 （平成26～28年度）
9	塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発	森井　順之	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,300	3,640 （平成26～27年度）
10	パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター 客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,340	3,900 （平成26～27年度）
11	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕　創	保存修復科学センター 客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,080	3,900 （平成27～29年度）
12	放射光を用いた中東アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕　麻里耶	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,040	3,120 （平成27～29年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田　正彦	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長	基盤研究（Ｂ） 海外	2,340	1,820	6,800 （平成25～27年度）
2	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発-旧修理材料や微生物痕の除去-	早川　典子	保存修復科学センター 主任研究員	基盤研究（Ｂ）	2,210	260	8,840 （平成26～30年度）
3	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究（Ｂ）	2,860	520	6,500 （平成26～30年度）
4	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 -伝統的製法の再現-	宇高　健太郎	保存修復科学センター 特別研究員	若手研究（Ａ）	5,200	390	22,040 （平成26～29年度）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	都城発掘調査部副部長	基盤研究（S）	33,410
2	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（A）	8,710
3	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	企画調整部国際遺跡研究室長	基盤研究（A）	13,390
4	中国新石器時代における家畜・家禽の起源と、東アジアへの拡散の動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（A）	9,230
5	歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（A）	7,020
6	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（A）	9,360
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	4,810
8	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（B）	5,460
9	奈良時代建築の造営体制と維持管理	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	研究成果公開促進費 ＜学術図書＞	1,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　29件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	古代東アジアにおける土木技術系譜の復元的研究	青木　敬	都城発掘調査部考古第二研究室主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成24～27年度〉
2	中世日本と東アジアの木造建築における架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	基盤研究（C）	1,170	5,460 〈平成24～27年度〉
3	甲冑編年の再構築に基づくモノの履歴と扱いの研究	川畑　純	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	650	2,600 〈平成24～27年度〉
4	東アジアにおける鉛釉陶器の原料とその時間的・地域的特徴に関する研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,030 〈平成25～27年度〉
5	平安時代出土文字資料の動態的歴史分析-＜荷札の終焉＞にみえる木簡の機能	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,160 〈平成25～27年度〉
6	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	520	3,120 〈平成25～27年度〉
7	装飾古墳を安定に保存するための環境制御法の開発に関する研究	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	520	2,210 〈平成25～27年度〉
8	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	780	3,640 〈平成25～28年度〉
9	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	3,380 〈平成25～28年度〉
10	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番　光	文化遺産部建造物研究室研究員	若手研究（B）	910	3,380 〈平成25～27年度〉
11	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（B）	780	3,770 〈平成25～28年度〉
12	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（B）	910	3,120 〈平成25～28年度〉
13	中国由来の木彫像の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,690	4,680 〈平成26～28年度〉
14	「復元学」構築のための基礎的研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,170	3,900 〈平成26～28年度〉
15	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早　直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	910	3,640 〈平成26～29年度〉
16	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉　智宏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	780	2,730 〈平成26～29年度〉
17	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究―中九州石器群の再検討	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（B）	1,040	3,770 〈平成26～29年度〉
18	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	780	3,640 〈平成26～29年度〉
19	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	－	2,600 〈平成26～30年度〉
20	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古研究室研究員	若手研究（B）	1,040	3,900 〈平成26～29年度〉
21	中近世における標準年輪曲線の広域ネットワーク整備による木材産地推定	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	若手研究（B）	910	3,900 〈平成26～29年度〉
22	法隆寺・東大寺宝物に見られる「イラン文化」：エフタルとソグドの影響について	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,040	2,990 〈平成26～28年度〉
23	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	910	4,420 〈平成27～31年度〉
24	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,810 〈平成27～29年度〉
25	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	1,170	4,810 〈平成27～31年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
26	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	石橋　茂登	飛鳥資料館学芸室長	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,810 〈平成27～31年度〉
27	考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	挑戦的萌芽研究	2,080	3,510 〈平成27～31年度〉
28	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	稲田　宇大 （金　宇大）	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	910	2,860 〈平成27～31年度〉
29	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発（国際共同研究強化）	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	－	13,910 〈平成27～28年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	650	6,500 〈平成25～29年度〉
2	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター長	基盤研究（Ｂ）	2,600	1,170	6,500 〈平成25～29年度〉
3	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	1,820	6,500 〈平成25～27年度〉
4	歴史と現状からみた庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から	小野　健吉	副所長	基盤研究（Ｂ）	1,950	1,300	6,500 〈平成26～29年度〉
5	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	1,820	1,170	6,500 〈平成26～30年度〉
6	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	企画調整部長	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,430	6,500 〈平成26～29年度〉
7	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ａ）	130	1,430	6,500 〈平成25～28年度〉
8	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	1,560	1,690	6,500 〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
125人	38 人	27人	5人	6人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	87 人	46人		41人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　27人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（練馬区立石神井公園ふるさと文化館館長）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	松田　清	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上　嘉代子（公益財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇　　潔	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下　佐江子（公益財団法人古代オリエント博物館学芸部長）	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山　清志（城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手）	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
15	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野　博（美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
18	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
19	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
20	望月　幹夫（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
21	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	当館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
22	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	考古出土遺物に関する保存科学的研究
23	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
24	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
25	クライナー・ヨゼフ	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信
26	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫上席研究員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
27	高浜　秀	当館所蔵の中央ユーラシア青銅器に関する研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上一稔（同志社大学文学部教授）	南山城の彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	近世絵画に関する調査研究
4	狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学人文学部准教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】　46人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	近代美術資料群の調査研究
2	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
3	河合大介	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
4	丸川雄三（国立民族学博物館准教授）	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
5	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
6	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授）	東京文化財研究所アーカイブズ構築に関する調査研究
7	吉崎真弓（国立情報学研究所特任研究員）	文化財情報の発信に関する調査研究
8	片山まび（東京藝術大学美術学部准教授）	美術品売立目録の保存と活用に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
9	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠等の明治期文書資料に基づく調査研究
10	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
11	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
12	齋藤裕嗣（国学院大学大学院兼任講師）	無形民俗文化財の調査研究
13	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財工芸技術（金工分野）の調査研究
14	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財工芸技術（陶芸分野）の調査研究
15	山崎　剛（金沢美術工芸大学准教授）	無形文化財工芸技術（漆工分野）の調査研究
16	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の調査研究
17	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
18	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護活動の調査研究
20	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	「地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化事業」等の調査研究
21	鎌田紗弓（日本学術振興会特別研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	三浦定俊（公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長）	Ｘ線透過画像調査データ等に関する整理およびアーカイブ業務等
23	藤井義久（京都大学農学部教授）	文化財の生物劣化対策の研究
24	呂　俊民	文化財の保存環境の研究
25	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	環境制御および環境解析に関する研究
26	古田嶋　智子	文化財の保存環境に関する調査研究
27	間渕　創（三重県立総合博物館学芸員）	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
28	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
29	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
30	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
31	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する調査研究
32	高林弘実（京都市立芸術大学美術部講師）	中国壁画の保護に関する調査研究
33	渡邉真樹子（絵画修復家）	中国壁画の保護に関する調査研究
34	酒井清文	伝統的修復材料に関する調査研究
35	堤　一郎（茨城大学教育学部特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
36	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	材料の基本物性の計測に関する調査研究
37	谷口陽子（筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類準教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
38	松田泰典(国際交流機構大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト・チーフ・アドバイザー)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業
39	大河原典子（鎌倉女子大学専任講師）	古墳壁画の修復に関する調査研究
40	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業に関する修復手法の調査研究等
41	古川尚彬（首都大学東京都市環境学部特任助教）	建築・都市計画に関する知識を活かした調査研究
42	石井美恵（女子美術大学大学院非常勤講師）	在外日本文化財保存修復協力事業に関する調査研究
43	前川佳文（青山学院大学非常勤講師）	古墳壁画の修復に関する調査研究
44	間舎裕生（慶応大学文学部非常勤講師）	キルギス等文化遺産国際協力拠点交流に係る調査研究
45	原本　知実（大阪大学大学院国際公共政策研究科招へい研究員）	文化財保護に関する調査研究及び世界遺産委員会における資産調査
46	藤澤　明（帝京大学文化財研究所講師）	アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する調査研究

【奈良文化財研究所】　41人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小原　嘉記（中京大学国際教養学部准教授）	日本古代・中世の地方支配制度及び中世寺院の研究
2	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	考古学、文化人類学の研究
4	山下慎吾（魚と山の空間生態研究所代表）	文化的景観と生態系との関係に関する研究
5	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所と行う共同研究
6	眞貝　理香	動物遺存体の分析研究
7	水野　裕史（熊本大学教育学部講師）	平城宮跡フィールドミュージアムの研究開発
9	登谷　伸宏（京都橘大学文学部助教）	日本建築・都市史の研究
10	李　　暉（奈良県教育委員会文化財保存事務所調査補助員）	建築史に関する研究
11	MARES　Emmanuel Bernard（総合地球環境学研究所事務補佐員）	森蘊資料の業績に関する研究
12	中村　亜紀子（英国ヨーク大学考古学部Research Associate）	中国を中心とする東アジアの陶製建築部材に関する研究
13	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院復原のための調査・研究
14	谷本　啓（奈良大学通信教育部非常勤講師）	日本古代史の研究
15	深澤　芳樹（元奈良文化財研究所副所長）	歴史考古学の研究
16	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	日本古代史の研究
17	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	出土木器の研究
18	肥塚　隆保（元奈良文化財研究所副所長）	文化財科学、保存修復科学の研究
19	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学名誉教授）	縄文文化財の調査研究
20	北田　正弘	金属材料工学、文化財科学の研究
21	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	保存修復科学、精密工学の研究
22	澤田　正昭(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長)	考古遺物及び遺跡の保存科学の研究
23	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存展示環境の研究
24	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通についての研究
25	福永　　香（独立行政法人人情報通信研究機構電磁波計測研究所研究マネージャー）	文化財の非破壊診断調査研究
26	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	動物考古学の研究
27	茂原　信生（京都大学名誉教授）	自然人類学、動物考古学の研究
28	渡辺　伸行（神戸市立上野児童館長）	日本考古学（弥生時代～古代）及び自然災害と考古学の研究
29	大江　文雄	古生物学（魚類系統進化）の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
30	菊地　大樹（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学、動物考古学の研究
31	上中　央子	花粉分析、文化財科学、環境考古学、古環境の研究
32	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の研究
33	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学の研究
34	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学の研究
35	藤井　裕之	年輪年代学の研究
36	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学の研究
37	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
38	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の研究
39	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査の研究
40	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所研究部長）	遺跡及びその調査技術の研究
41	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術の研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成28年3月31日現在

	H23	H24	H25	H26	H27
国立博物館計	6,480,930	7,743,323	6,564,190	10,236,963	13,226,289
東京国立博物館	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460
京都国立博物館	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
奈良国立博物館	722,249	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057
九州国立博物館	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391
文化財研究所計	1,771,695	1,655,762	1,857,638	2,128,972	2,546,715
東京文化財研究所	1,314,541	(*1)1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504
奈良文化財研究所	457,154	425,044	447,563	525,886	605,211
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	1,838 (H23.12.16サイト開設)	5,289	5,454	6,200	7,504
機構本部	208,982	260,558	283,412	325,132	292,721
e国宝	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265
文化財防災ネットワーク	―	―	―	―	102,574

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
※1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。
※文化財防災ネットワークは平成27年3月よりサイトを開設、
同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。

e 平成 27 年度平常展・特別展アンケート結果

＜平常展＞
東京国立博物館総合文化展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243
京都国立博物館名品ギャラリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
奈良国立博物館名品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
九州国立博物館文化交流展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246

＜特別展＞
東京国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」
特別展「鳥獣戯画　―京都 高山寺の至宝―」
「クレオパトラとエジプトの王妃展」
「アート オブ ブルガリ　１３０年にわたるイタリアの美の至宝」
特別展「始皇帝と大兵馬俑」

京都国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
特別展覧会「桃山時代の狩野派」
特別展覧会「琳派　京を彩る」

奈良国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展　」
開館 120 年記念特別展「白鳳　花ひらく仏教美術　」
第 67 回正倉院展

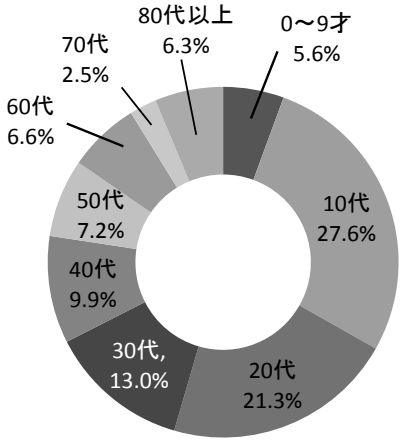
九州国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」
特別展「大英博物館展―100 のモノが語る世界の歴史―A History of the World in 100 Objects」
特別展「美の国　日本」
特別展「黄金のアフガニスタン」

東京国立博物館

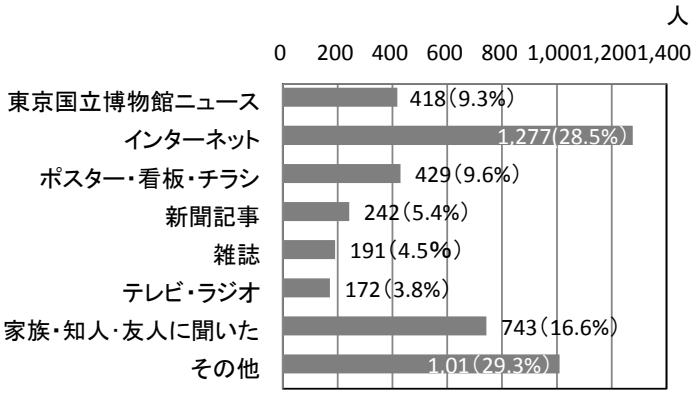
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日（水）～平成28年3月31日（木）開館日数：307日間
回答者数：4,517人（うちタッチパネルアンケート回答者数：3,012人＜66.7%＞）
来館者数：747,944人
アンケート回収率：0.64%

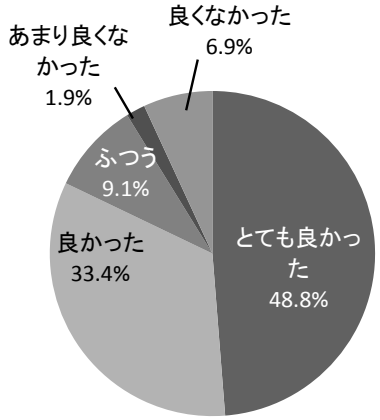
①アンケート回答年齢層



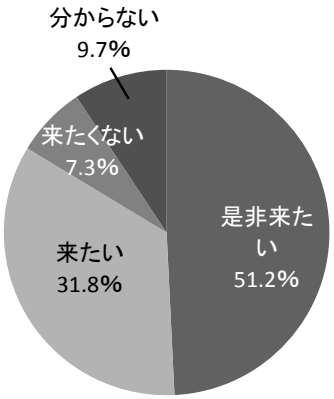
②認知経路　（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館希望率



⑤主な意見・感想

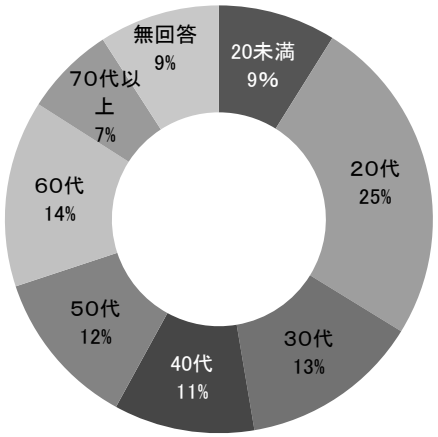
・良かった、楽しかった、面白かった、素晴らしかった。
・～の展示が良かった（三日月宗近、松林図屏風、富嶽三十六景等多岐にわたる）。
・ひんぱんに展示替えがあるので楽しい。飽きない。
・考古展示室がリニューアルされて面白くなった。
・ガラスケースの汚れが気になる。
・外国語の説明や案内が少ない。
・作品を写真撮影できるのがとてもいい。
・トーハクなびのダウンロード時間が長すぎる。
・～の展示を見たい（下村観山、平安時代の絵巻物や和歌集、鳴孤等）
・子どもと一緒に参加できるイベントをもっと増やしてほしい。

京都国立博物館

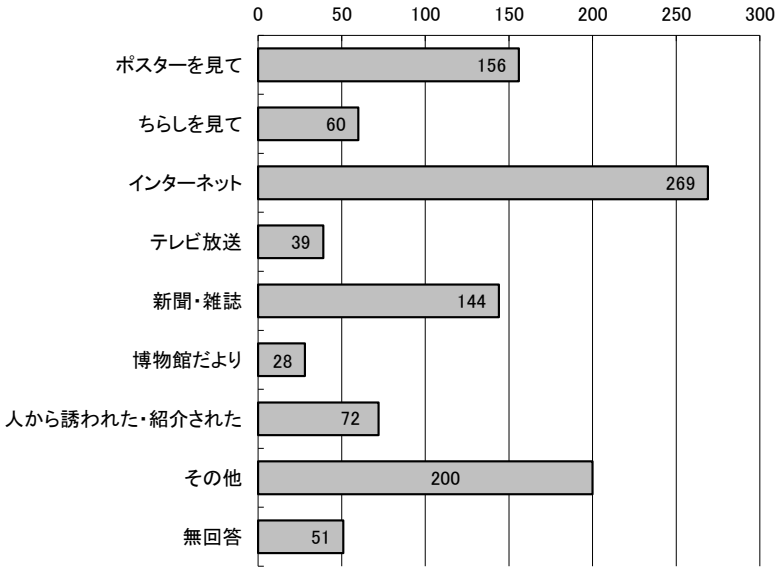
平常展（ 名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間: 平成27年4月1日(水)～平成28年3月21日(月祝)　開館日数:223日間
回答者数: 927人
来館者数:205,526人
アンケート回収率: 0.45%

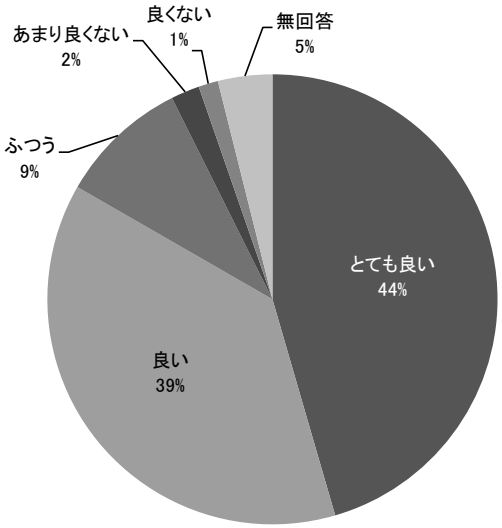
①アンケート回答年齢層



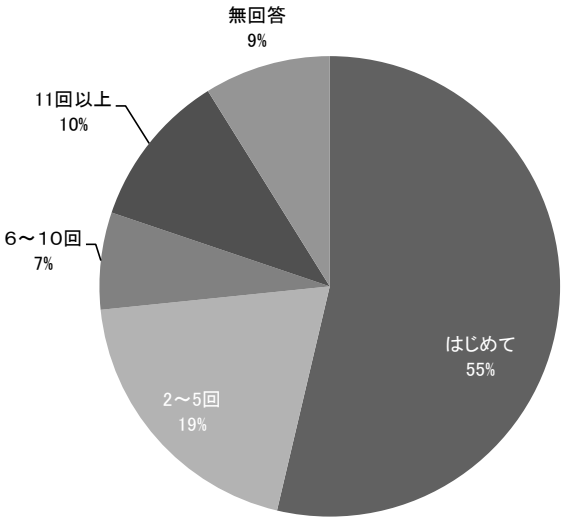
②認知経路 (複数回答)



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

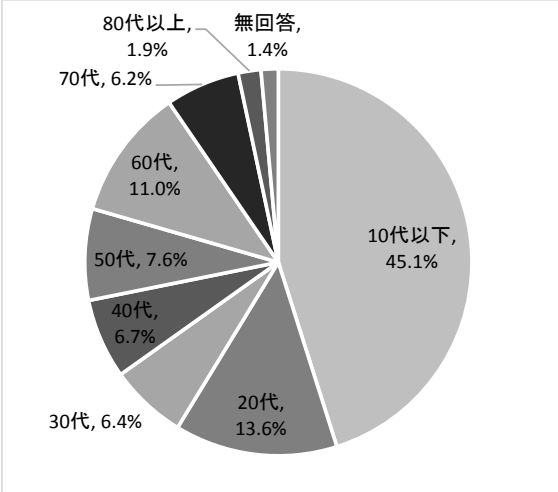
・良かった、素晴らしかった、面白かった、楽しかった
・展示品の質が高い　展示が素晴らしい
・展示替えが多く、何度来ても楽しめる
・建物が新しく洗練されている　景観も素晴らしい
・展示品の解説文が小さくて読みづらい　展示室が暗い　英語の解説が少ない
・順路やトイレなどの場所がわかりづらい

奈良国立博物館

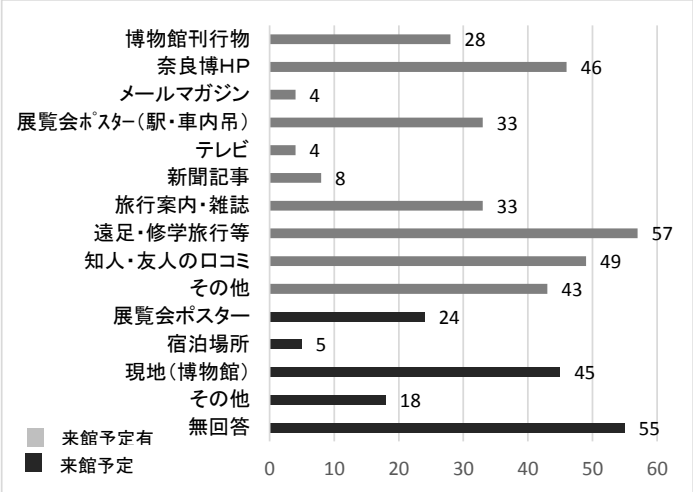
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日(水)～平成28年3月31日(木)　開館日数：320日間
（ただしなら仏像館休館のため6月30日～10月22日、11月10日～12月6日、3月15日～3月31日は青銅器館のみ開館）
回答者数：421人（来館者数：95,208人　アンケート回収率：0.44%）

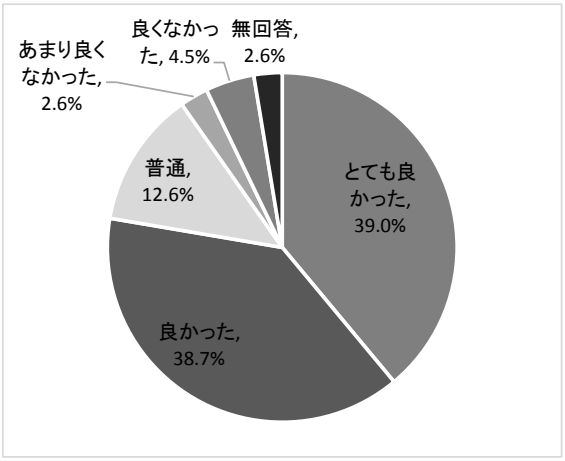
①年齢層



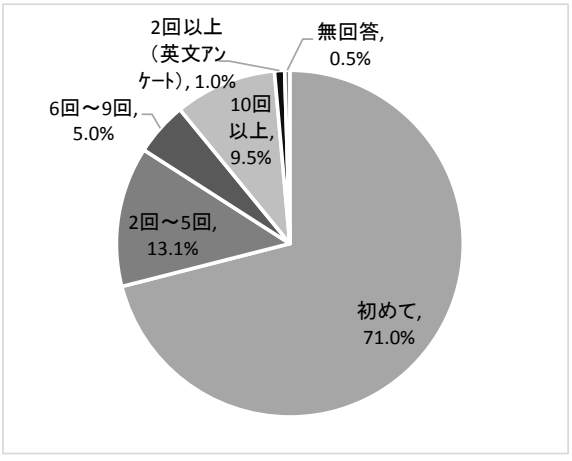
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

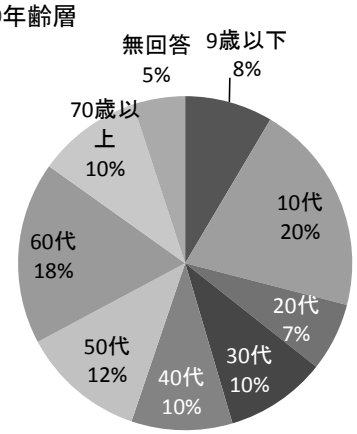
・見たことないものがたくさんで、わかりやすくせつめいがあった。楽しかったのでまたきたい。
・学校で勉強したものがたくさん見られてよかった。
・一つ一つ丁寧な説明があり、わかりやすかった。歴史についてもっと知りたいと思った。
・博物館の醍醐味は常設展にあります。静かに作品と向きあえる常設こそ充実させてください。
・少し見づらいものもあったので、鏡を置くか、斜めに展示していただければありがたかったです。
・落ち着いて見ることができたが、仏像館が休館中で残念。

九州国立博物館

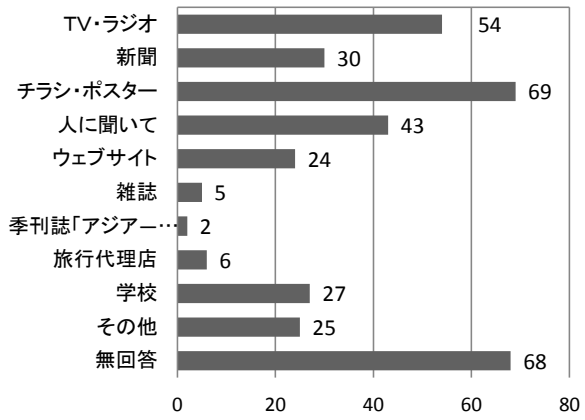
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日(水)～28年3月31日(木)　　開館日数:314日間
回答者数：316人　来館者数：412,621人　アンケート回収率：0.08%
H28.3.31現在

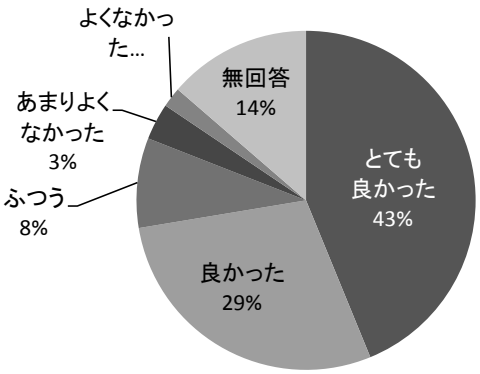
①年齢層



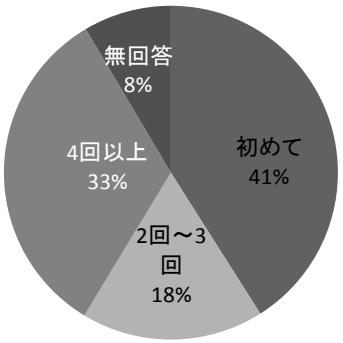
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



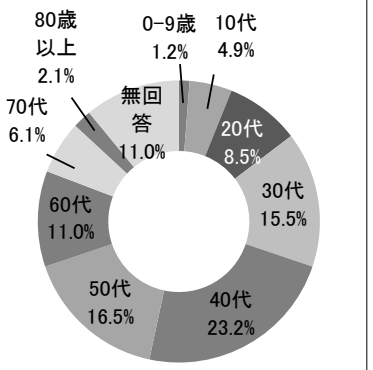
⑤主な意見・感想
・刀剣展示が楽しかった。古美術品も一点一点が興味深かった。
・展示品がどこから見てもいいようになっているのが良かった。
・日本史の教科書でしか見たことのない歴史的に重要なものを多く見ることができて良かった。
・(展示品に)触れられるスペースがあり、とてもよかったので、もっと増やしてほしい。
・くずし字を楷書でわかり易く表記してほしい。
・床に靴音がしない工夫をしてほしい。
・展示室内が暗くて見づらい。

東京国立博物館

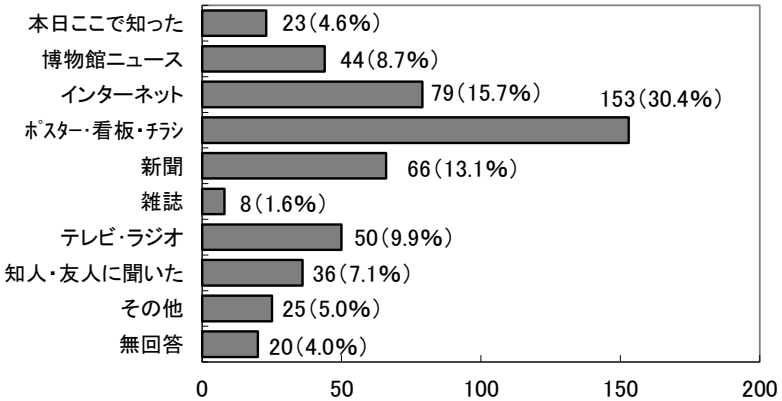
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」 アンケート集計結果

開催期間：平成27年3月17日（火）～ 5月17日（日）（56日間）
回答者数：328人（総入館者数：97,300人　アンケート回収率：0.34%）

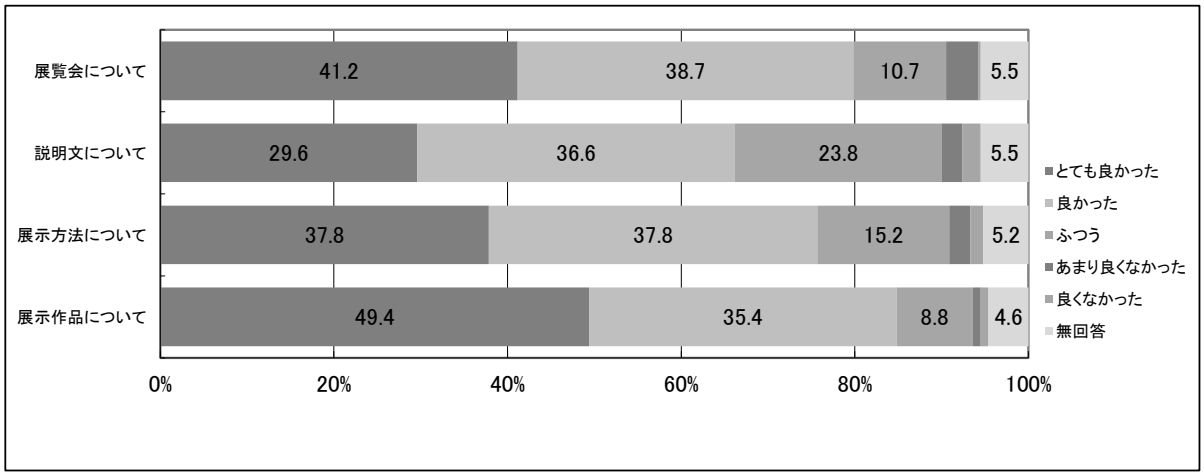
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・インドではじまった仏教を勉強する機会となり、大変有意義だった。
・「摩利支天立像」「バールフット遺跡の浮彫彫刻」「ヴェッサンタラ本生の銀鉢」「ガンダーラ仏像」がよかった。
・展示の仕方が良かった。仏像の裏側が見られるなどの工夫があった。
・会場の表慶館が展示イメージにあっていて良い。
・みうらじゅん＆いとうせいこう氏のスペシャル音声ガイドが面白かった。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	3.7	0.3
説明文	2.4	2.1
展示方法	2.4	1.5
展示作品	0.9	0.9

（%）

1814年に開館したコルカタ（旧カルカッタ）・インド博物館は、ブッダに関するあらゆる作品や仏教美術のコレクションが秀逸なアジア最古の総合博物館です。今回は世界的に有名なバールフット遺跡の浮彫彫刻をはじめ、ギリシャ・ローマの影響を色濃く映し出す流麗なガンダーラの仏像、インド文化の黄金時代グプタ朝の仏立像など、インド仏教の美術の至宝約90件が出品されました。インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった本展には、10万人近い方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場内の階段が大変だった」「説明が足りない。もっと詳しい説明がほしい」などのご意見も寄せられました。

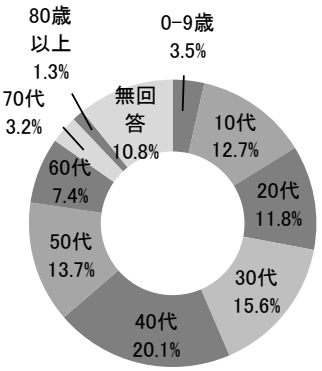
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

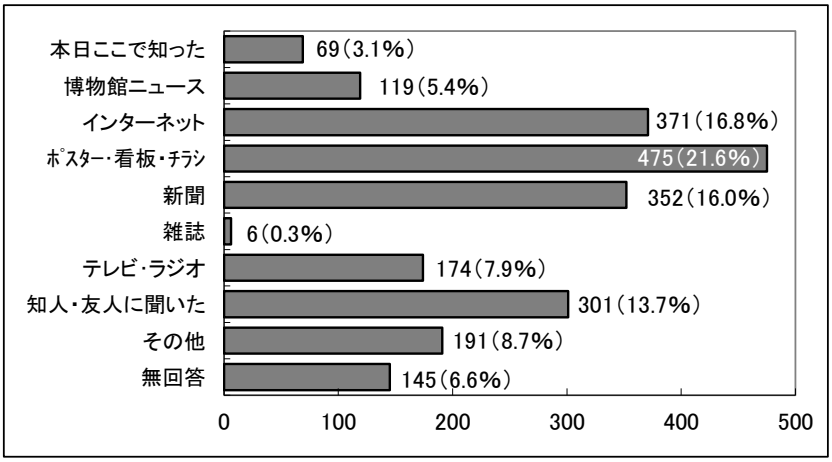
特別展「 鳥獣戯画 –京都　高山寺の至宝–」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月28日（火）～ 6月7日（日）（36日間）
回答者数：1,777人（総入館者数：239,115人　アンケート回収率：0.74%）

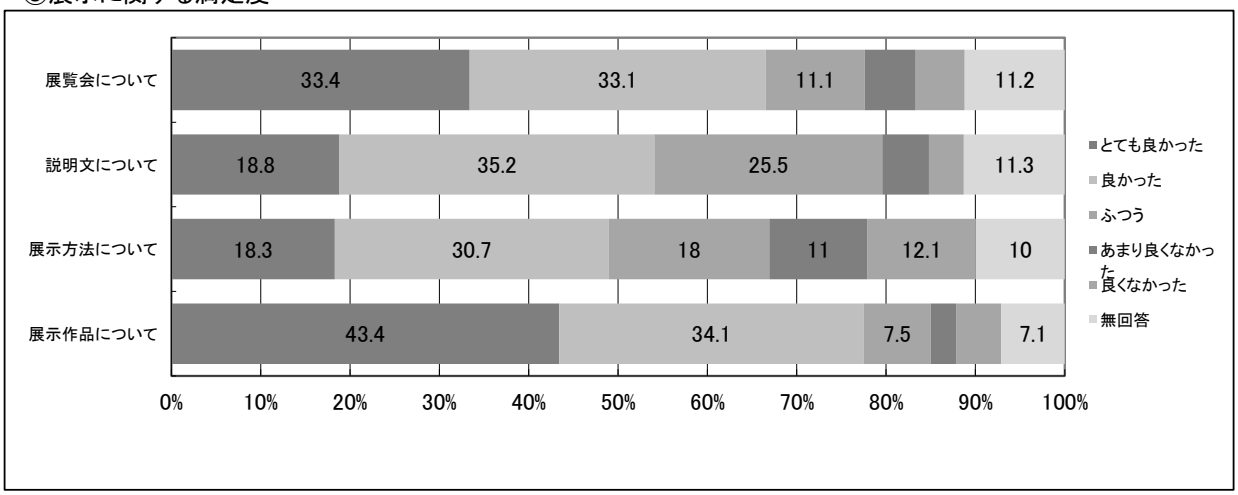
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・親しみのある国宝「鳥獣戯画」を間近で見られて感動した。
・高山寺伝来の宝物から明恵上人の人物像が理解でき、大変勉強になった。
・「明恵上人像(樹上坐禅像)」「華厳宗祖師絵伝」「神鹿」「子犬」がよかった。
・待ち列対応（誘導・待ち時間表示・日傘・給水・テント等）が良く、
　スムーズに並べた。
・甲巻の待ち時間が長かった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	5.7	5.5
説明文	5.2	3.9
展示作品	2.9	5.0

（%）

多くの人が一度は目にしたことのある、日本で最も有名な絵巻、国宝・鳥獣戯画。墨線のみで動物や人間たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品です。国宝の甲・乙・丙・丁4巻とともに、この4巻から分かれ、国内外に所蔵される断簡5幅も集結し、また鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺より、明恵上人の信仰と深く関わる美術作品もあわせてお目見えしました。高山寺ゆかりの至宝と、全巻の修理を終え、現存する全ての鳥獣戯画をご紹介する機会となった本展には、24万人近い方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約67%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「長時間並んで大変だったので整理券があればよかった」「鳥獣戯画の展示は、会期を分けず全て本物を展示してほしかった」などのご意見も寄せられました。

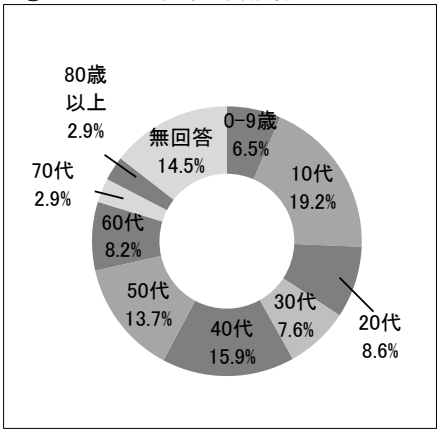
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

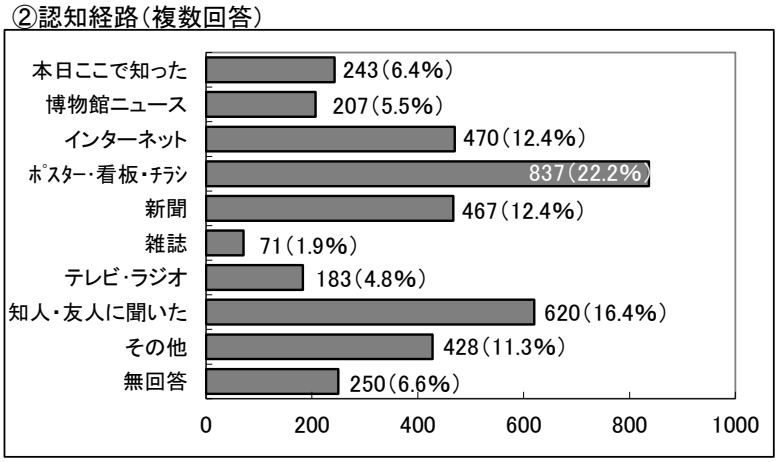
「クレオパトラとエジプトの王妃展」アンケート集計結果

開催期間：平成27年7月11日（土）～ 9月23日（水・祝）（66日間）
回答者数：3,175人（総入館者数：267,959人　アンケート回収率：1.18%）

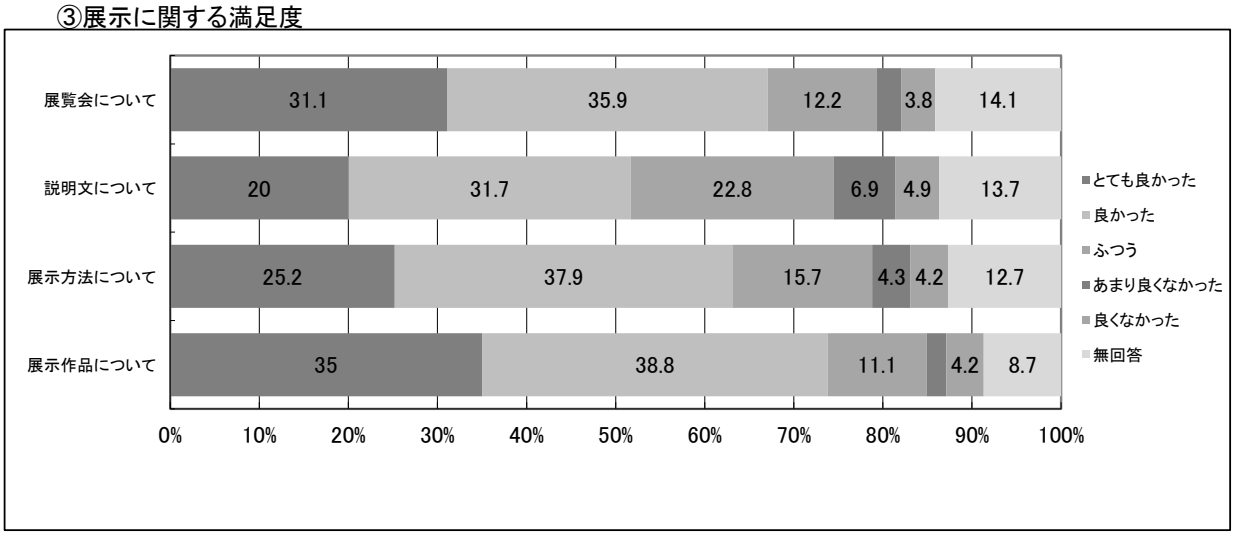
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・古代エジプトの貴重な品がたくさん見られて感動した。
・クレオパトラだけではなく、各王妃や王宮について学べて興味深かった。
・「クレオパトラ彫像」「アメンヘテプ3世の王妃ティイのレリーフ」「青色彩文土器」「王妃のマスク」「装身具、宝飾品」がよかった。
・キッズデー、平日イブニング券の試みがよかった。今後も取り入れてほしい。
・展示会場最後の「クレオパトラを見送った星々」が素敵だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった
展覧会	2.8
展示作品	2.2

（%）

ピラミッド、ミイラ、死者の書…約3,000年もの間、独自の文化を築いた古代エジプト。ファラオと呼ばれる王を頂点に繁栄する傍らには、いつもファラオや国を支える女性たちがいました。今なお「絶世の美女」として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たち。クレオパトラに代表される古代エジプトの王妃や女王たちをテーマに、ルーヴル美術館、大英博物館、ベルリン・エジプト博物館、ウィーン美術史美術館など世界の名だたる美術館・博物館の所蔵品を中心に、14カ国から貴重な名品約180件が一堂に会しました。古代エジプトの粋を集めた本展には、約27万人の方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して67%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「説明文には材質の表記もしてほしい」「会場内が寒く、ゆっくり鑑賞できなかった」などのご意見も寄せられました。

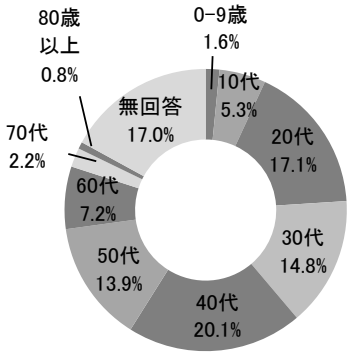
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

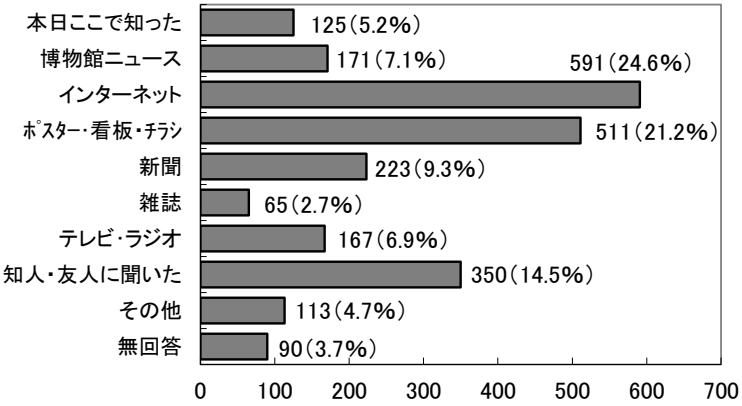
「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」アンケート集計結果

開催期間：平成27年9月8日（火）～ 11月29日（日）（72日間）
回答者数：1,914人（総入館者数：142,000人　アンケート回収率：1.35%）

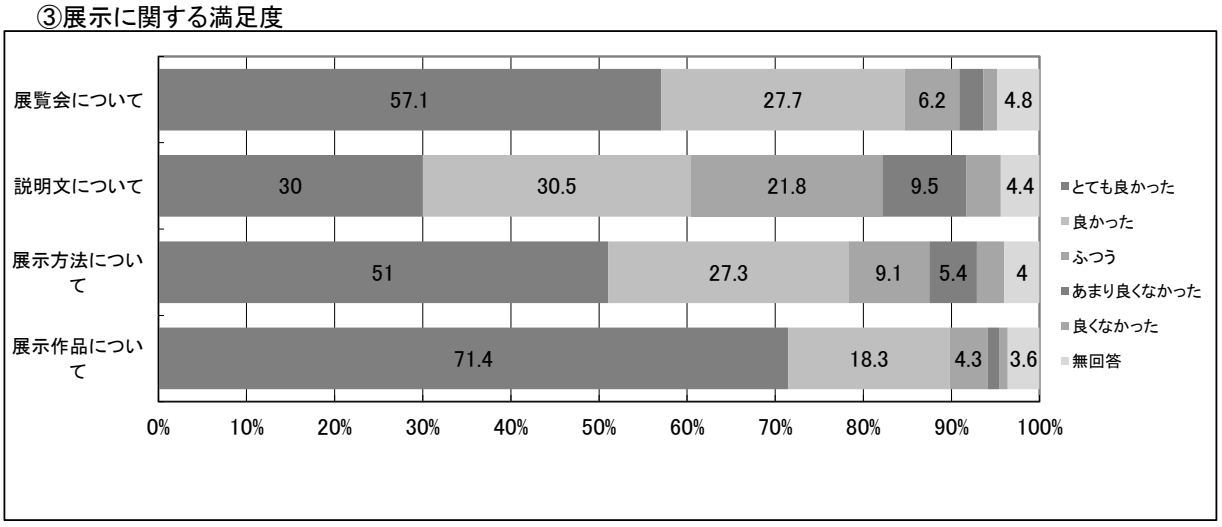
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・洗練された美しいジュエリーの輝きを存分に堪能できた。
・プロジェクション・マッピングを多用した展示演出が斬新でよかった。
・ソートワールのサファイアの色、存在感が素晴らしかった。
・エリザベス･テイラールームが豪華で素晴らしい。ブルガリが使用された映画やリズが実際に着用した衣裳も見られてよかった。
・会場となった表慶館がブルガリの世界観に非常にマッチしていた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.7	1.6
説明文	9.5	3.9
展示方法	5.4	3.1
展示作品	1.3	1.0

（%）

130年を越える歴史を持ち、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリ。1世紀以上にわたり、イタリア派ジュエリーデザインを代表する美意識の高い作品の数々は、時代を彩る名女優たちからアンディ・ウォーホルまで多くの著名人を魅了し、他の追随を許さず比類なきスタイルを確立しました。今回はブルガリ・ローマ本社の協力のもと、壮大なコレクションの中から『エリザベス･テイラーコレクション』、誕生40周年を迎える『「ブルガリ・ブルガリ」ウォッチ　ヘリテージコレクション』、または日本文化からインスパイアされた作品など、ブルガリの創業から今日に至るまでの最も重要な作品約250ピースが展示されました。日本開催のなかでは過去最大規模の回顧展となった本展には、14万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「図録完売が残念だった。再販してほしい」「会場内が暗く、足元が見えにくくて危なかった」などのご意見も寄せられました。

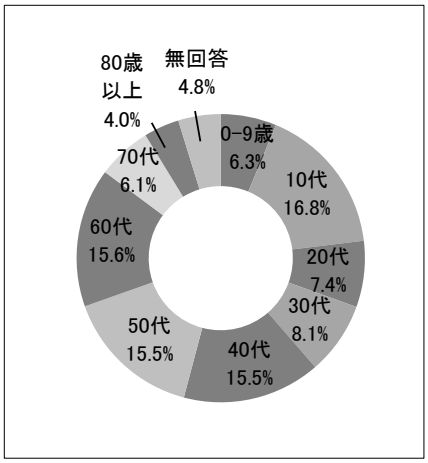
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

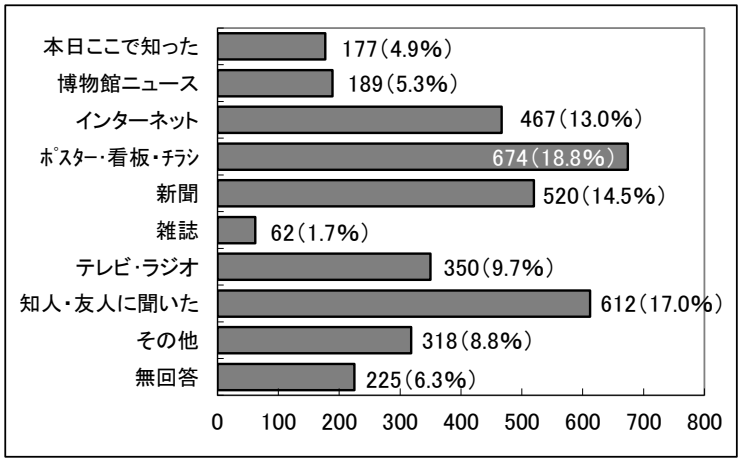
特別展「始皇帝と大兵馬俑」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月27日（火）～ 平成28年2月21日（日）（94日間）
回答者数：2,814人（総入館者数：483,809人　アンケート回収率：0.58%）

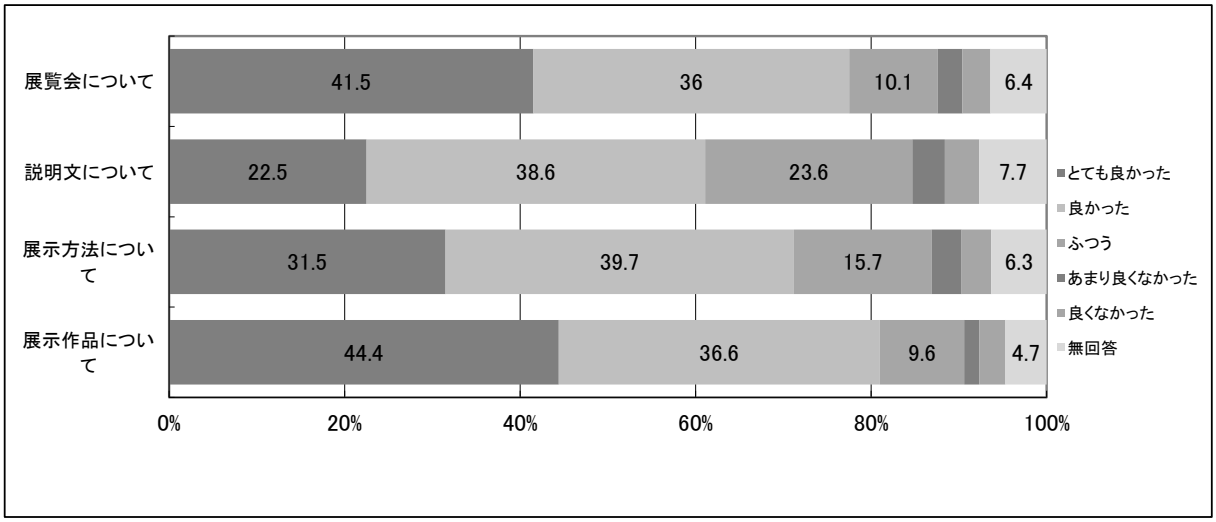
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・「兵馬俑」「銅車馬」のほか、中国の工芸品が堪能できてよかった。
・兵馬俑坑が再現された回廊展示は非常に迫力があり見ごたえがあった。
・説明文がよかった。文字が大きくて読みやすく、理解の助けとなった。
・「びじゅチューン！」コラボグッズやガチャガチャなど魅力的な商品が多くあった。
・会場内に兵馬俑との写真撮影コーナーが設けられており、楽しめた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.8	3.2
説明文	3.7	3.9
展示方法	3.4	3.4
展示作品	1.7	3.0

（%）

今から約2200年前に「最初の皇帝」を名乗り、中国大陸に統一王朝を打ち立てた秦の始皇帝。その陵墓のほど近くに埋められた「兵馬俑」は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、1974年の出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けています。今回、最新の発掘成果を採り入れながら、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物をご紹介する機会となりました。絶対権力者だからこそ実現できた作品の圧倒的な迫力を示し、始皇帝が地下を含む陵墓一帯に空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った本展には、48万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約78%の方々から好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「レプリカの兵馬俑の顔が皆同じでがっかりした」「兵馬俑の台座に足を取られて危なかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

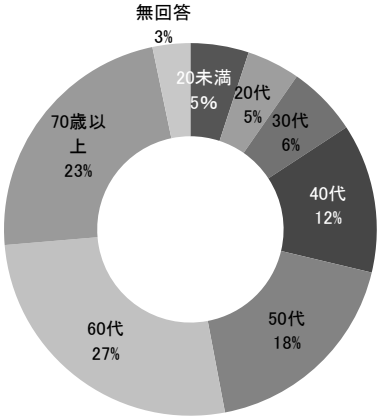
京都国立博物館

特別展覧会「桃山時代の狩野派」

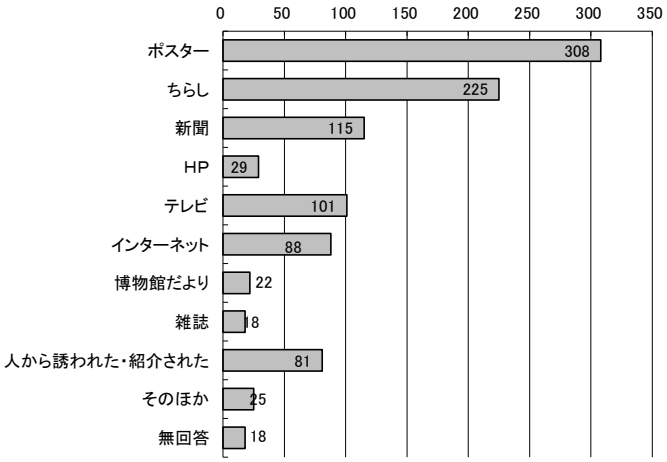
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月7日（火）～ 5月17日（日）（37日間）
回答者数：672人（総来館者数　118,186人　アンケート回収率0.6%）

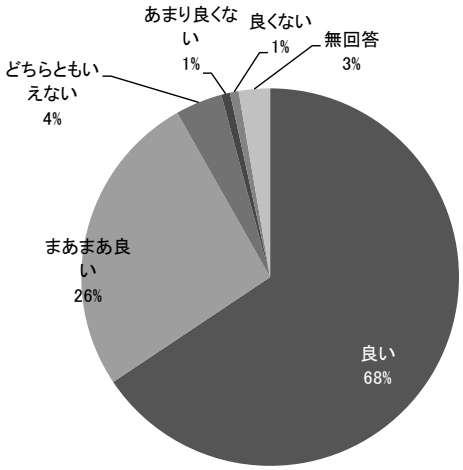
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、素晴らしかった、感動した
・狩野派の流れがよくわかった
・見ごたえがあった、充実した内容だった
・狩野永徳の作品も見たかった

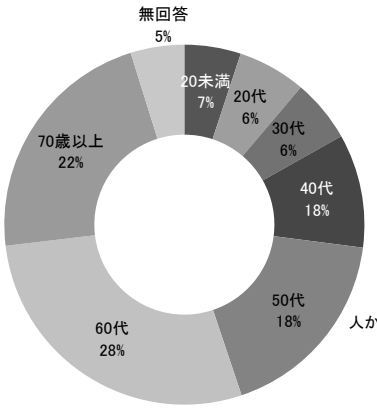
京都国立博物館

特別展覧会「琳派　京を彩る」

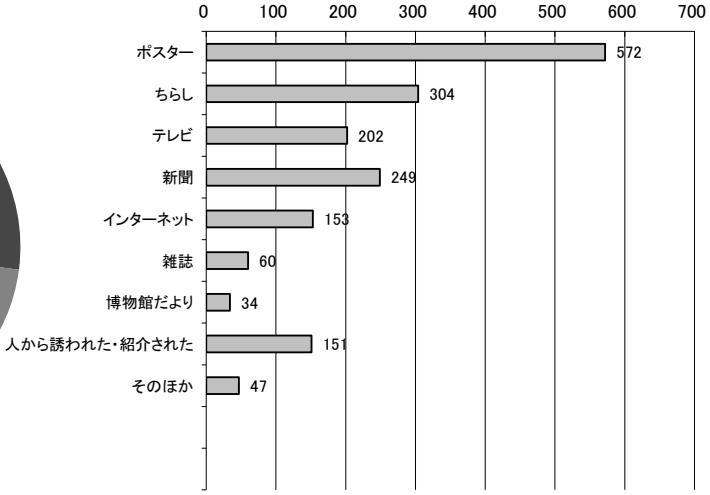
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月10日（土）～ 11月23日（月・祝）（39日間）
回答者数：1,224人（総来館者数 327,925人　アンケート回収率 0.4%）

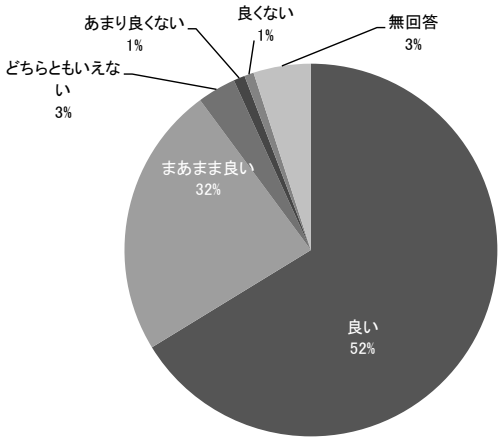
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、感動した
・見ごたえがあった、充実した内容・構成だった
・風神雷神図屏風が見比べられて、よかった
・待ち時間が長い、人が多すぎて、よく見えなかった

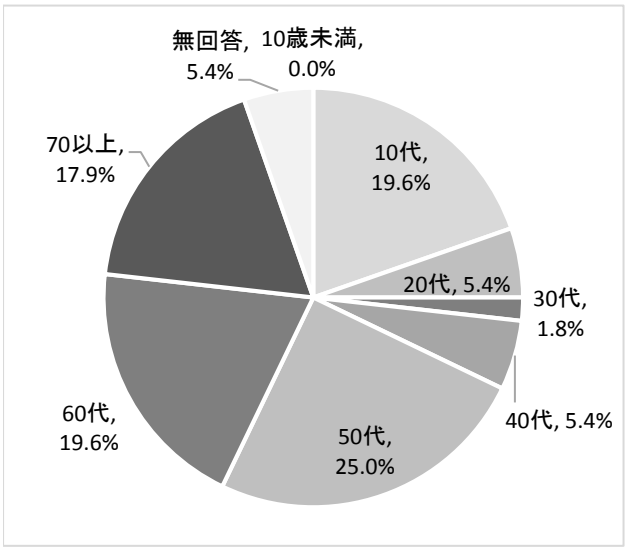
奈良国立博物館

特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展　」

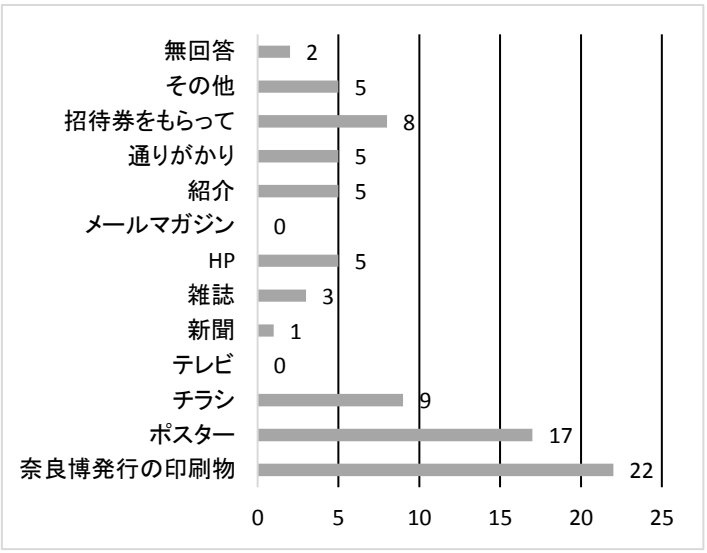
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月7日～5月17日(36日間)
回答者数：56人　入場者数：10,561人　回収率：0.53%

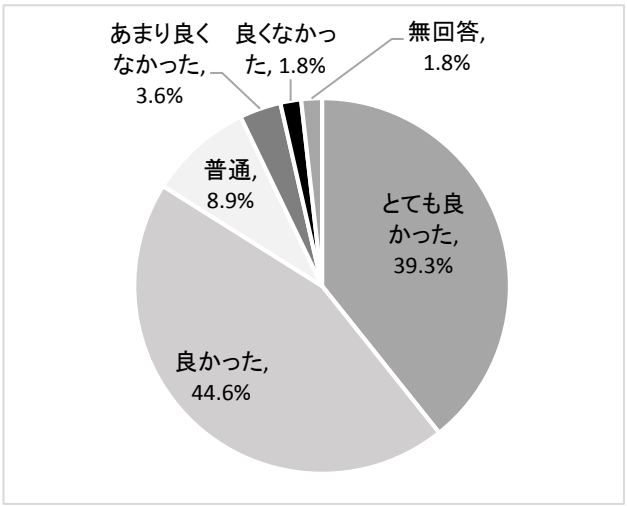
①年齢層



②認知経路(複数回答あり)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・古経というと地味な感じを受けたが、展示品の数の多さと、華やかさに感銘を受けた。
・書体を比較するだけでも楽しかった
・紺紙金地のものにとても感動しました。紺色は現代まで美しく残るものなんですね。
・館内が静かで雰囲気がとてもよかった
・写経の内容を解説していただけたら、もっと楽しめたのに・・・。と思いました。

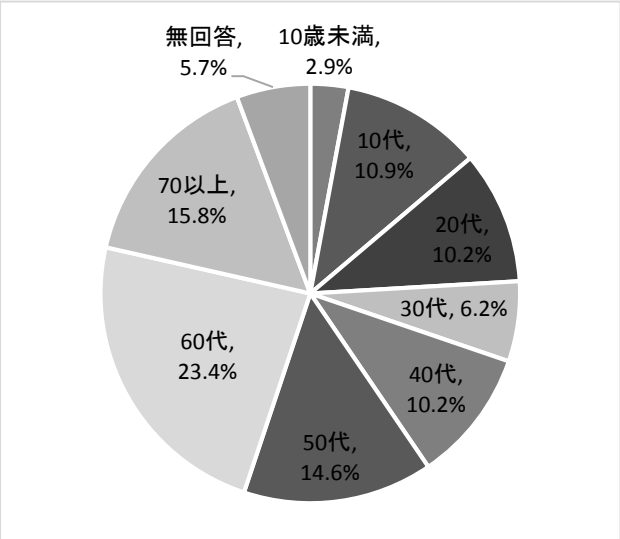
奈良国立博物館

開館120年記念特別展「白鳳　花ひらく仏教美術　」

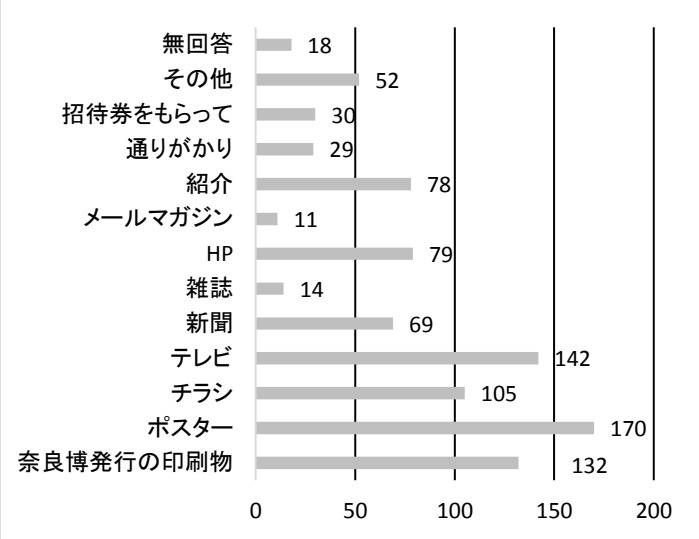
アンケート集計結果

開催期間：平成27年7月18日～9月23日(60日間)
回答者数：615人　入場者数：128,901人　回収率：0.48%

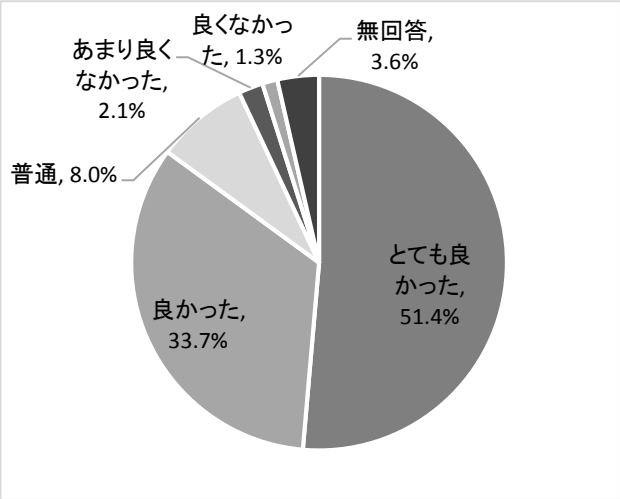
①年齢層



②認知経路(複数回答あり)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・白鳳時代の仏像をここまで集められたのはすごいと思いました。
・開催主旨が明確であったから、展示内容が充実していた。まさに開館120年記念展にふさわしかった。
・普段見ることのできない仏像の後ろ姿など360度しっかり鑑賞できました。本当に感動しました。
・照明によって展示物の魅力がより伝わっていると感じました。影で見せるのは迫力がありました。
・鑑賞する人達のマナーがもうひとつ。熱心なのはわかるが、もう少し他者への心づかいが大切。
・入場者が多すぎた。展示物の前からなかなか動かない人が多すぎる。
・展示室に椅子がなくてすごく疲れた。

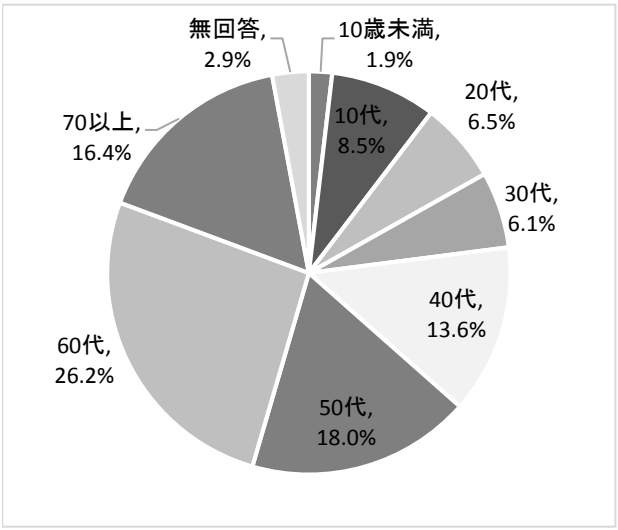
奈良国立博物館

第67回正倉院展

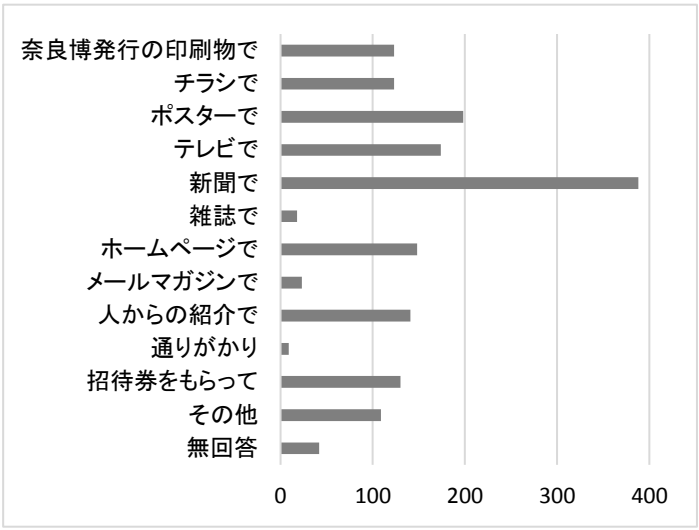
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月24日～11月9日(17日間)
回答者数：1,128人　入場者数：221,189人　回収率：　0.51%

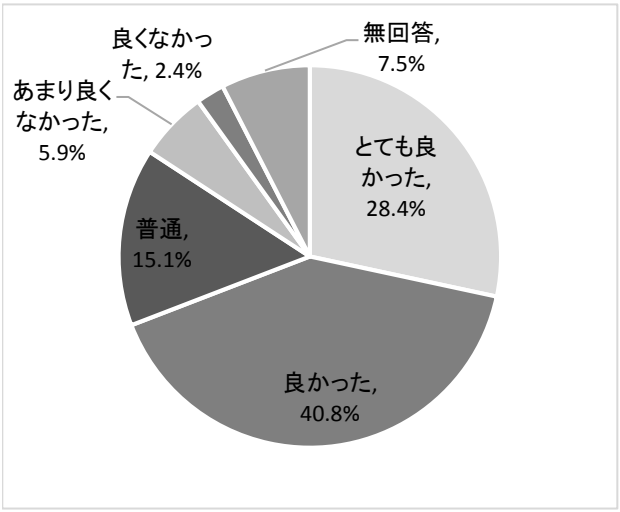
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



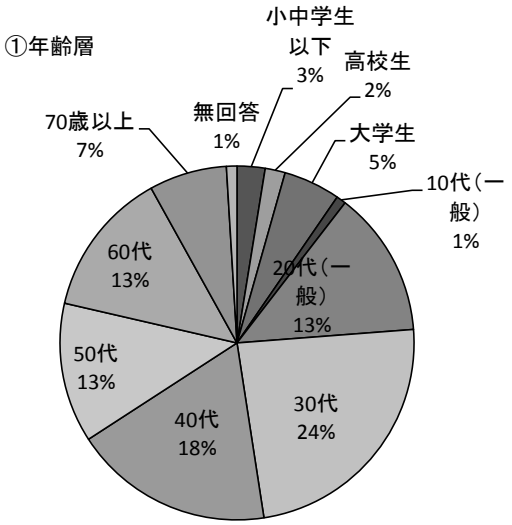
④主な意見・感想
・聖武天皇が愛した品を2015年を生きる私達が目にすることができて、とても感激した。
・テーマごとに並べられていて、例年に比べて出陳品がとても見やすかったです。
・展示品はもちろんですが、展示の工夫が素晴らしいです。照明や空間、説明文の位置や拡大写真等、展示を助ける努力が伝わりました。
・混雑しすぎ。もっと静かにじっくり観覧したかった。
・人が多いのでもう少し誘導をしっかりしてほしい。
・マナーを守らない観覧者が増えている。注意喚起をお願いします。

九州国立博物館

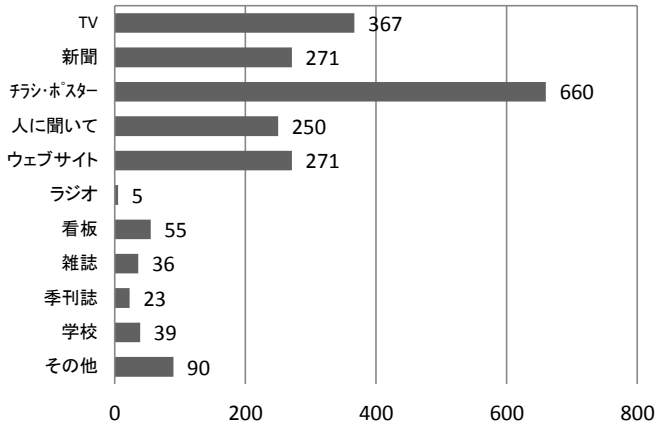
特別展「戦国大名ー九州の群雄とアジアの波涛ー」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月21日(火)～5月31日(日)（37日間）
総回答者数：1,432人（総来館者数：77,455人　アンケート回収率：1.85%）

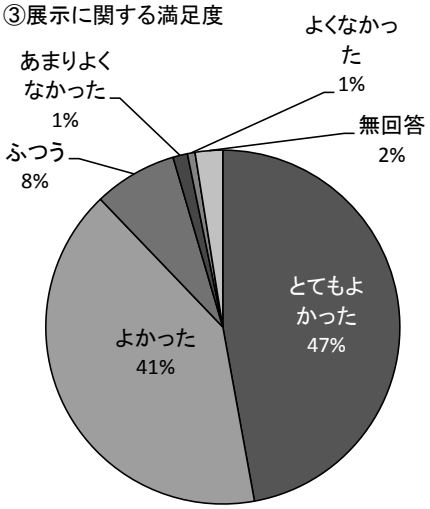
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・九州らしい内容で充実していた。新田肩衝と雷切丸の実物が見れて素晴らしい。企画担当者に感謝。
・刀や鎧を中心に展示してあると思っていたが、大名達の書簡や陶磁器など幅広く楽しめた。
・九州国立博物館の特別展はいつも個性的で、海に面した九州という立地が生かされており非常に楽しめる。
・通路が広くとってあったので前方にお年寄りの方がいた場合でも、後方から十分楽しめた。
・「戦国大名の手紙」という体験コーナーも意外だったが、情報伝達自体が今よりはるかに困難だった時代状況を思えて楽しかった。
・展示してある太刀の裏にある銘文が見えないようになっていたので、鏡を使うなどで工夫して欲しい。

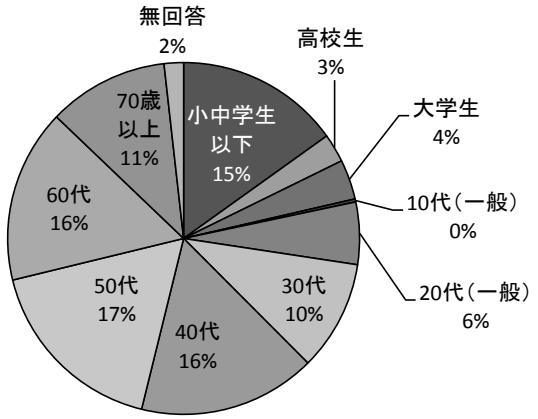
九州国立博物館

特別展「大英博物館展ー100のモノが語る世界の歴史ーA History of the World in 100 Objects」 アンケート集計結果

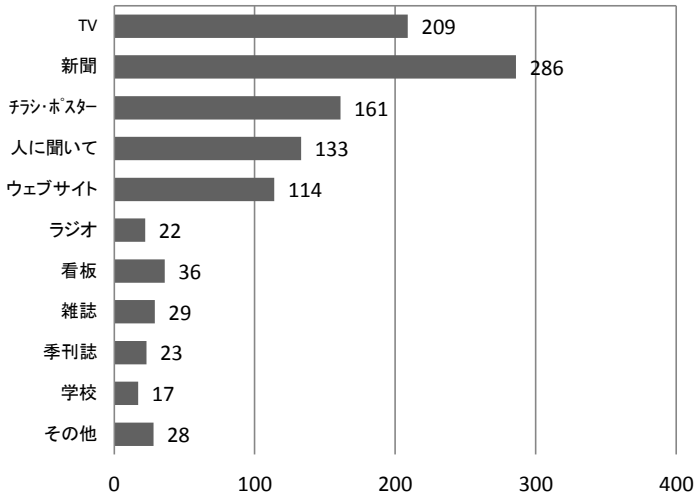
開催期間：平成27年7月14日(火)～9月6日(日) (47日間)

総回答者数：1,066人（総来館者数：133,174人　アンケート回収率：0.8%）

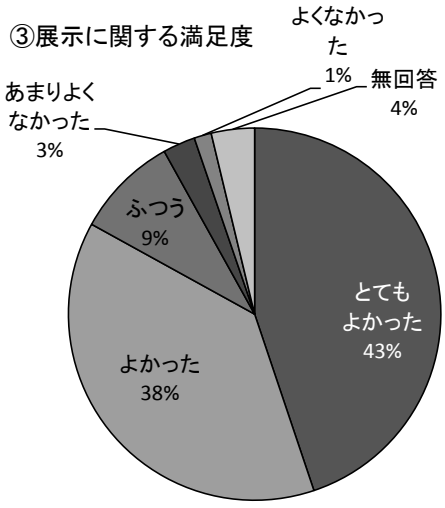
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

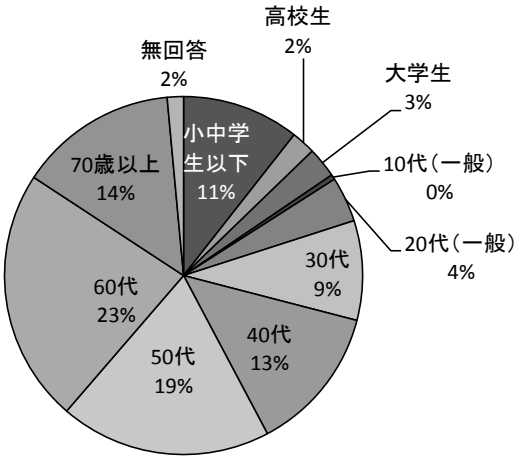
・ケースのない展示物がすごく良かった。こういった展示を増やしてほしい。
・過去に各所で開催された大英博物館展は古代エジプトのみといった1つの時代に絞ったものが多かったが、
　今回は様々な国や時代の展示物があり、飽きを感じさせない内容だった。
・切り口が面白かった。古いものだけでなく現代のもの、また貴重なものだけでなく陶器の破片などでその時代を表すなど、
　身近なもので感じることができた。
・エリアを問わず、歴史の流れと世界を螺旋階段を上るように展示されていて、大変おもしろかった。
・拝見しながらどのような結末だろうかと考えて進んだ。最後の運び方、嬉しく思った。親子で折り鶴を折っている姿も嬉しかった。
・楔型文字の体験は楽しく、また当時の人々の技巧を身を持って知ることができ良かった。
・葦ペンで自分の名前が書けたり、折り紙で鶴を折って平和に参加できたりと、記憶に残る展覧会だった。
・101番目の折り鶴を外国の方と一緒に折ることができ、とても感動的で美しい企画だった。
　来館者が参加できる企画のある展覧会は素晴らしい。
・展示物の説明が日本語のみで楽しめなかった人もいるのでは。展示品の添書きになくとも、パンフレット等で対応できないか。

九州国立博物館

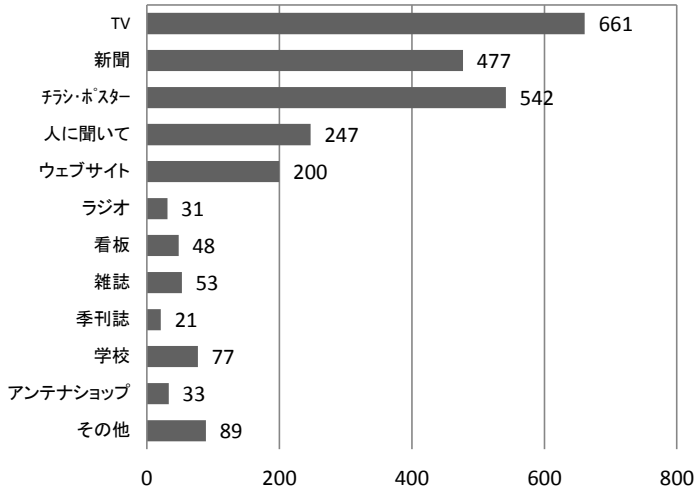
特別展「美の国　日本」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月18日(日)～11月29日(日)（40日間）
総回答者数：1,567人（総来館者数：160,753人　アンケート回収率：0.9%）

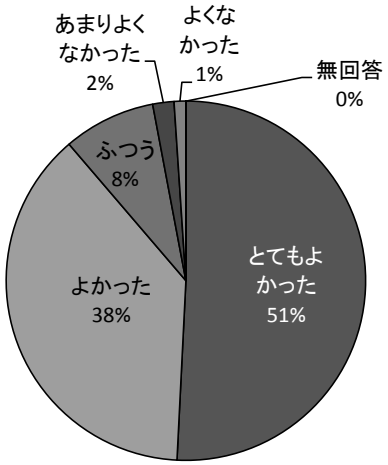
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



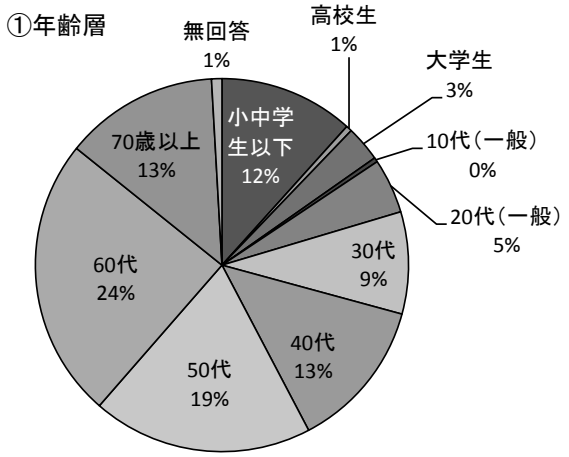
④主な意見・感想
・作品と作品の間のスペースが広くとってあったので見やすかった
・3Dプリンターで銅鐸のうすさを体感できた。すごくうすくてびっくりした。
・「技あり日本！」で展示だけでは分からなかったことも知れてよかった。展示の文字が大きく見やすくなっていてよかった。
・琵琶の展示は前方、後方で見る事が選べてとても満足した。
・小さな展示物を大きく写して後ろの壁に展示してあり、人の多い時はこれがとても見やすかった。
　実物と拡大写真の展示がとても良かった。
・国宝、重文の数々が1600円で見ることができて、とても良かった。実際に見終わって、とてもコスパの高い展示と感じた。
・今まで10年間、多数観させていただいたが、一点も見逃せないと思いながら最後まで見たのは初めてだった。
・白内障で暗がりで字が読みにくいので、音声ガイドは全ての作品で聞けるとうれしいです。

九州国立博物館

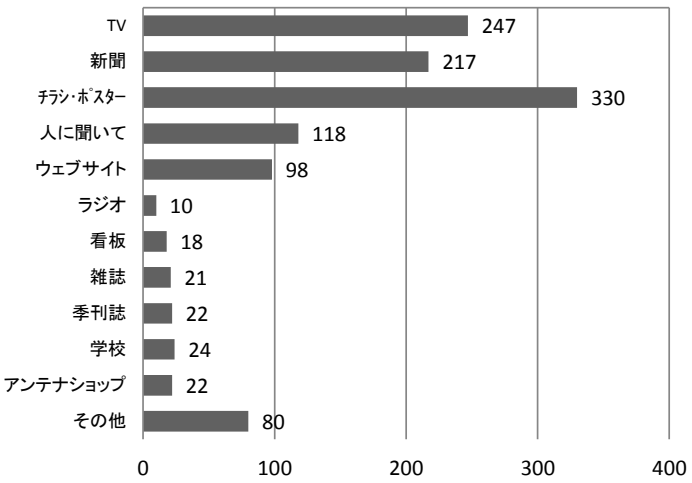
特別展「黄金のアフガニスタン」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年1月1日(金)～2月14日(日)（42日間）
総回答者数：780人（総来館者数：67,641人　アンケート回収率：1,15%）

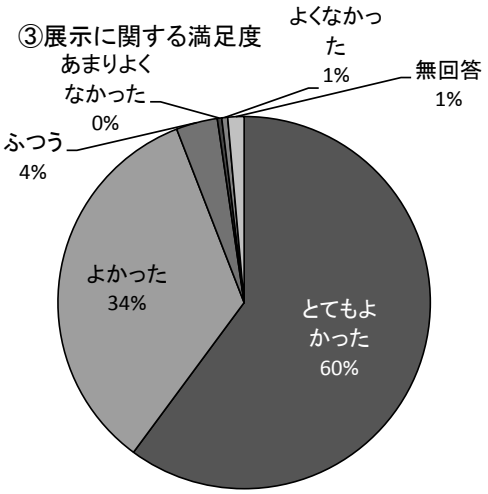
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・地図や埋葬の位置が丁寧に書かれていて、わかり易かった。
・展示品の数は少なかったが、展示品のすごさに圧倒された。
・体験コーナーは大人も興味深く体験でき、みな嬉しそうに展示を見直していた。
・今回の魚群水盤のレプリカ等、触れることができるレプリカは大変有意義である。
・入口にあった展示品に関係する衣装を着ての撮影はとても印象に残った。女性用だけでなく、男性用もあればよかった。
・時代を中国、インド、ヨーロッパなどと併記して記載してあるとわかりやすかった。
・順路がないので見にくく、また、音声ガイドがある箇所で人が溜まってしまうのが不快だった。
・高齢者には全体的に暗くて見にくい。せめて文字パネルだけは明るくしてほしい。
・展示カードに記入されている番号を大きく表示してほしい。復元図に示された番号が探せない。